

*The Complete Works
of
Joseph Henry Newman*

東主之原方也本村
培壅

事
白
白

牛
山
中
樹
丁

人
樹
木

池
山
石
上
西
入
往
造

子此
芳書
多入

無
山
似
乃
今
方

富
山
美
方

何
也
字
法
十
月
十
日
子
牙
老

安
山
三
河
金
石
海
即
山
井
上
市
重
石
內
二
四
道
書
一

新島襄全集

9

来簡編

〈下〉

新島襄全集編集委員会 編



同朋舎出版

新島襄全集 9 ■ 来簡編 ■ 目次

一、新島襄先生に宛てた手紙（一八六〇年）

二、新島襄先生に宛てた手紙（一八六一年）

三、新島襄先生に宛てた手紙（一八六二年）

四、新島襄先生に宛てた手紙（一八六三年）

五、新島襄先生に宛てた手紙（一八六四年）

六、新島襄先生に宛てた手紙（一八六五年）

七、新島襄先生に宛てた手紙（一八六六年）

八、新島襄先生に宛てた手紙（一八六七年）

九、新島襄先生に宛てた手紙（一八六八年）

十、新島襄先生に宛てた手紙（一八六九年）

十一、新島襄先生に宛てた手紙（一八七〇年）

十二、新島襄先生に宛てた手紙（一八七一年）

十三、新島襄先生に宛てた手紙（一八七二年）

十四、新島襄先生に宛てた手紙（一八七三年）

十五、新島襄先生に宛てた手紙（一八七四年）

十六、新島襄先生に宛てた手紙（一八七五年）

十七、新島襄先生に宛てた手紙（一八七六年）

十八、新島襄先生に宛てた手紙（一八七七年）

十九、新島襄先生に宛てた手紙（一八七八年）

二十、新島襄先生に宛てた手紙（一八七九年）

一、新島襄先生に宛てた手紙（一八八〇年）

二、新島襄先生に宛てた手紙（一八八一年）

三、新島襄先生に宛てた手紙（一八八二年）

四、新島襄先生に宛てた手紙（一八八三年）

五、新島襄先生に宛てた手紙（一八八四年）

六、新島襄先生に宛てた手紙（一八八五年）

七、新島襄先生に宛てた手紙（一八八六年）

八、新島襄先生に宛てた手紙（一八八七年）

九、新島襄先生に宛てた手紙（一八八八年）

十、新島襄先生に宛てた手紙（一八八九年）

十一、新島襄先生に宛てた手紙（一八九〇年）

十二、新島襄先生に宛てた手紙（一八九一年）

十三、新島襄先生に宛てた手紙（一八九二年）

十四、新島襄先生に宛てた手紙（一八九三年）

十五、新島襄先生に宛てた手紙（一八九四年）

十六、新島襄先生に宛てた手紙（一八九五年）

十七、新島襄先生に宛てた手紙（一八九六年）

十八、新島襄先生に宛てた手紙（一八九七年）

十九、新島襄先生に宛てた手紙（一八九八年）

二十、新島襄先生に宛てた手紙（一八九九年）

目次	1
----	---

来簡(上卷) 一八六七—一八八八年

慶応三(一八六七)年

1	六月十七日	飯田 保	3
2	六月十八日	新島双六	5

3	六月十八日	新島民治	6
---	-------	------	---

慶応四(一八六八)年

4	二月七日	新島美代	9
5	二月七日	新島民治	11

6	十二月十四日	新島美代	16
7	〔十二月十四日〕	新島登美	18

明治二(一八六九)年

8	二月九日	新島民治	20
9	四月十二日	新島民治	41

10	七月二十六日	新島双六	45
11	十月十五日	栗津銈次郎	47

明治四（一八七一）年

12	〔二月初旬〕 新島民治……………	50
13	五月一日 川田夔江……………	56
14	五月二十七日 新島民治……………	57

明治七（一八七四）年

18	四月十日 田中不二磨……………	62
19	五月四日 田中不二磨……………	63

明治八（一八七五）年

22	一月十二日 千木良昌庵……………	66
23	一月十二日 植栗義達……………	67
24	二月四日 木戸孝允……………	68
25	二月十五日 内海忠勝……………	69
26	二月二十一日 木戸孝允……………	70

15	六月二十日 新島民治……………	59
16	八月十二日 R・コ……………	60
17	八月二十二日 森 有礼……………	61

20	十二月二十日 田中不二磨……………	64
21	十二月二十二日 川田 剛……………	64

27	二月二十二日 田中不二磨……………	71
28	七月九日 田中不二磨……………	72
29	八月九日 田中不二磨……………	73
30	十月十二日 福士成豊……………	74
31	十月二十九日 木戸孝允……………	76

明治九（一八七六）年

32 一月十七日 田中不二磨……………77

明治十（一八七七）年

34 三月二十八日 田中不二磨……………81

明治十一（一八七八）年

35 五月九日 柳島 誠……………83

36 六月十日 柳島 誠……………85

37 七月九日 津田 仙……………86

明治十二（一八七九）年

40 二月十日 中川横太郎……………91

41 五月二日 田中不二磨……………92

33 六月九日 福士成豊……………78

38 八月十二日 津田 仙……………87

39 九月二十八日 岡部長職……………88

42 九月二十五日 津田 仙……………92

明治十三（一八八〇）年

43	三月十一日	西 毅一	95
44	八月二日	瀬川 浅	96

明治十四（一八八一）年

46	二月十日	津田 仙	99
47	二月十四日	中村正直	100
48	二月十五日	中村正直	102
49	二月十六日	長松 幹	103
50	二月二十七日	長松 幹	105

明治十五（一八八二）年

56	二月二十五日	浜岡光哲	111
----	--------	------	-----

明治十六（一八八三）年

58	三月十四日	尾越蕃輔	114
59	三月二十三日	小崎弘道	115

45	九月十五日	瀬川 浅	98
----	-------	------	----

51	二月二十七日	長松 幹	106
52	三月二十一日	長松 幹	107
53	四月二日	長松 幹	108
54	七月三十日	新保虎之助	109
55	十月二十九日	大西 祝	110

57	三月七日	海老名喜三郎	112
----	------	--------	-----

60	五月二十六日	富田鉄之助	115
61	六月一日	湯浅治郎	116

62	七月二十七日	外山脩造	117
----	--------	------	-----

明治十七（一八八四）年

64	二月十日	伊藤博文	119
65	二月二十四日	陸奥宗光	120
66	三月十日	古沢 滋	121
67	三月二十二日	田中源太郎	122

明治十八（一八八五）年

72	一月七日	同志社英学普通科三年
----	------	------------

	生海老名一郎外三十名	船本
	梅二郎・井上清二郎・加賀山	
	益三郎・葛岡龍吉・河辺文次	
	郎・兼頭和策・増田時二郎・	
	松浦政泰・松本亦太郎・三谷	
	種吉・望月興三郎・村田栄二	
	郎・村上能定・縄田清太郎・	
	中村録三郎・岡本彦八郎・佐	
	藤源平・佐藤忠順・志垣要	

63	十月二日	田中源太郎	118
----	------	-------	-----

68	五月八日	市原盛宏	123
69	六月二十五日	池袋清風	124
70	七月三十日	原 権四郎	128
71	十二月二十九日	小野英二郎	129

73	一月十日	森田久万人	134
74	一月十二日	市原盛宏	137
75	一月十九日	末吉保造	139
76	二月八日	桜田静馬	141
77	二月十三日	伊勢時雄	142

	三・白木正蔵・鈴木左馬二	
	郎・多賀 平・豊田通憲・津	
	田治郎次・矢口信太郎・山路	
	一三・安田勘次・依光方成・	
	湯浅一郎・芳松勝三郎	131

106	二月十日	小崎弘道	215
105	二月六日	富田鉄之助	214
104※	十二月二十四日	大倉組書簡	213
104	一月二十五日	下村孝太郎	212
98	十二月二十七日	富田鉄之助	203
97	十二月十七日	半田宇平次	203
96	九月中旬	藏原蘇嶽(惟郭)	201
95	八月十六日	内村鑑三	199
94	七月二十日	松山高吉	194
93	七月十八日	小崎弘道	191
92	七月十五日	大儀見元一郎	190
91	七月十四日	山崎新太郎	188
90	七月十三日	杉浦義一	186
89	七月十三日	下村孝太郎	183
88	六月	大儀見元一郎	182
87	六月二十九日	山本覚馬	181

125	124	123	122	121 ※	121	120	119	118	117	116	115	114	113	112	111	110	109	108	107
四月三日	四月三日	三月二十六日	三月二十六日	三月二十三日	三月二十五日	三月二十三日	三月二十三日	三月十七日	三月十五日	三月十五日	三月十日	三月十日	三月七日	三月七日	三月三日	三月二日	二月二十七日	二月十七日	二月十日
富田鉄之助	富田鉄之助	富田鉄之助	松山高吉	富田鉄之助宛	富田鉄之助	山崎新太郎	富田鉄之助	小崎弘道	山崎新太郎	蔵原惟元	小崎弘道	小崎弘道	富田鉄之助	同志社生徒某	富田鉄之助	山崎新太郎	山崎新太郎	富田鉄之助	山崎新太郎
243	242	240	237	236	236	234	232	231	230	229	228	227	226	223	222	221	219	218	216

146	145	144	143	142	141	140	139	138	137	136	135	134	133	132	131	130	129	128	127	126
九月二十六日	九月十二日	九月九日	九月四日	八月二十一日	八月二十日	八月十四日	八月六日	七月二十六日	七月二十二日	七月十二日	七月八日	六月二十七日	六月二十三日	六月十五日	六月十一日	四月十二日	四月十二日	四月七日	四月六日	四月五日
富田鉄之助	山崎新太郎	富田鉄之助	富田鉄之助	松倉 恂	富田鉄之助	富田鉄之助	北垣国道	山崎新太郎	堀 貞一	富田鉄之助	山崎新太郎	富田鉄之助	木場貞長	富田鉄之助	富田鉄之助	山崎新太郎	富田鉄之助	松山高吉	中村栄助	松山高吉
274	272	271	270	269	268	266	266	263	261	259	258	257	256	255	254	250	249	248	247	245

明治二十(一八八七)年

147	九月二十八日	山崎新太郎	275
148	九月三十日	牧野伸顕	277
149	十月四日	尺振八	278
150	十月八日	富田鉄之助	279
151	十月九日	辻密太郎	280
152	十月十二日	牧野伸顕	281
153	十月二十九日	堀貞一	282
154	十一月十三日	富田鉄之助	283
155	十二月四日	市原盛宏	284
156	十二月二十日	岡部 広	286
157	一月二十七日	岡部 広	288
158	三月十五日	岡部 広	290
159	四月五日	岡部 広	292
160	四月十二日	大久保真二郎	293
161	五月十二日	市原盛宏	298
162	五月十四日	富田鉄之助	300
163	五月十九日	大久保真二郎	301
163※	五月十九日	大久保音羽	307
164	五月二十一日	福士成豊	308
165	五月二十三日	大久保真二郎	309
166	五月二十五日	坂田文平	312
167	五月二十九日	松平正直	313
168	十一月三日	徳富猪一郎	314
168※	十一月二日	陸奥宗光書簡 徳	
169	十一月十九日	徳富猪一郎	315
170	十一月二十四日	伊勢時雄	316
171	十二月十四日	杉田定一	318
172	〔十二月十七日〕	徳富健次郎	319
173	十二月二十二日	岡部 広	320
174	十二月二十八日	市原盛宏	321

明治二十一年（一八八八）年

193	192	191	190	189	188	187	186	185	184	183	182	181	180	179	178	177	176	175
一月二十一日	一月十九日	一月十九日	一月十九日	一月十七日	一月十六日	一月十六日	一月十六日	一月十六日	一月十六日	一月十六日	一月十四日	一月十三日	一月九日	一月八日	一月六日	一月三日	一月三日	一月二日
新島公義	山岡邦三郎	松本勘十郎	不破唯次郎	小崎弘道	橘 仁	杉田 潮	大沢善助	岡部 広	伊勢時雄	不破唯次郎	小崎弘道	野尻岩次郎	不破唯次郎	富士成豊	中島末治	成瀬仁蔵	松本勘十郎	内藤兼備
344	343	342	341	340	339	338	337	335	334	333	333	332	331	330	328	327	326	324

211	210	209	208	207	206	205	204	203	202	201	200	199	198	197	196	195	194
三月一日	二月二十九日	二月二十九日	二月二十九日	二月二十七日	二月二十三日	二月二十一日	二月十二日	二月十一日	二月七日	二月六日	二月六日	二月三日	二月二日	二月一日	一月二十八日	一月二十四日	一月二十四日
井尻亀太郎	望月興三郎・兼子	松平容大	原田 助	伊勢時雄	星野光多	新島公義	富士成豊	市原盛宏	新井 毫	川上八三郎	不破唯次郎	中村缸造	沢 茂吉	西郷保吉	杉浦義一	上野松治郎	岡部 広
367	366	365	364	362	361	360	358	357	355	354	353	352	351	350	348	346	345

232	231	230	229	228	227	226	225	224	223	222	221	220	219	218	217	216	215	214	213	212
四月二日	四月二日	三月二十四日	三月二十四日	三月二十二日	三月二十二日	三月二十二日	三月二十一日	三月二十一日	三月二十日	三月十七日	三月十七日	三月十七日	三月十一日	三月九日	三月八日	三月七日	三月六日	三月四日	三月三日	三月一日
德富猪一郎	伊東熊夫	德富猪一郎	不破唯次郎	德富猪一郎	宮川経輝	金森通倫	長田時行	福土成豊	松村四朗	湯浅治郎	富田鉄之助	金森通倫	金森通倫	金森通倫	德富猪一郎	原 六郎	新島公義	三木正起	金森通倫	岩田徳義
393	392	391	391	389	389	388	387	386	383	382	381	379	377	376	375	374	372	371	369	368

251	250	249	248	247	246	245	244	243※	243	242	241	240	239	238	237	236	235	234	233
六月二十一日	六月二十一日	六月十四日	六月六日	五月二十八日	五月二十八日	五月二十六日	五月十九日	五月十四日	五月十四日	五月九日	五月六日	五月二日	五月二日	四月三十日	四月十日	四月九日	四月七日	四月五日	四月四日
三好退蔵	青木周蔵	原 六郎	湯浅吉郎	上原権太郎	高田義助	三木正起	陸奥宗光	大隈重信書簡 徳	德富猪一郎	德富猪一郎	三好退蔵	渋沢栄一	原 六郎	原 六郎	望月興三郎	新井 毫	新島公義	石黒 務	德富猪一郎
415	414	413	411	410	409	408	407	407	406	405	404	403	402	401	400	397	396	395	394

265	264	263	262	261	260	259	258	257	256		255					254	253	252
九月十日	九月七日	八月二十八日	八月二十七日	八月十九日	八月六日	七月二十五日	七月二十三日	七月十七日	七月三日		六月					六月三十日	六月二十八日	六月二十七日
須田明忠……………	岩崎弥之助……………	岩崎弥之助……………	増野悦興……………	勝 安芳……………	北垣国道……………	矢野文雄……………	陸奥宗光……………	松浦政泰……………	三好退藏……………		同志社予備校生徒					同志社別科神学第四年生	洪沢栄一……………	洪沢栄一……………
429	428	427	426	425	424	423	422	421	420		篠田熊					塩見孝次	417	416
											次郎・下 辰六・黒木米吉・森					郎・藤田国松・留岡幸助・片		
											良雄・堤 門喜・福岡文太郎……………					桐鱗太郎・富田之資・中山光		
																五郎・高橋 優・阪田忠五		
																郎・江浪亀四郎……………		

286	285	284	283	282	281	280	279	278	277	276	275	274	273	272	271	270	269	268	267	266
十月二十六日	十月二十五日	十月二十五日	十月二十五日	十月二十三日	十月二十三日	十月十八日	十月十七日	十月十一日	十月十一日	十月十一日	十月九日	十月八日	十月六日	十月六日	十月五日	九月二十八日	九月二十七日	九月二十六日	九月二十日	九月十八日
徳富猪一郎……………	洪沢栄一……………	竹越與三郎……………	川本泰年……………	人見一太郎……………	小崎弘道……………	宮川経輝……………	松本勘十郎……………	洪沢栄一……………	永井 元……………	人見一太郎……………	人見一太郎……………	岩崎弥之助……………	奈須義質……………	人見一太郎……………	三好退藏……………	井上 馨……………	金森通倫……………	岩崎弥之助……………	井上 馨……………	金森通倫……………
461	460	459	458	457	456	455	454	453	448	443	441	440	439	438	438	437	435	434	434	431

305	304	303	302	301	300	299	298	297	296	295	294	293	292	291	290	289	288	287
十一月九日	十一月〔九〕日	十一月七日	十一月六日	十一月六日	十一月四日	十一月三日	十一月二日	十一月二日	十一月一日	十一月一日	十一月一日	十一月一日	十月三十一日	十月三十一日	十月二十九日	十月二十九日	十月二十八日	十月二十七日
堀 貞一	古莊三郎	大迫真之	井深梶之助	人見一太郎	藤原直信	古莊三郎	鶴田三郎	古莊三郎	中島末治	古莊三郎	同志社予備学部生徒	阿部政恒	阿部政恒	徳富猪一郎	大迫真之	阿部政恒・長田時	川本泰年	望月興三郎
490	488	486	485	484	482	481	480	477	475	474	473	472	470	469	468	467	466	463
324	323	322	321	320	319	318	317	316	315	314	313	312	311	310	309	308	307	306
十一月二十一日	十一月二十一日	十一月二十日	十一月十九日	十一月十九日	十一月十八日	十一月十七日	十一月十七日	十一月〔十六〕日	十一月十五日	十一月十五日	十一月十三日	十一月十四日	十一月十四日	十一月十三日	十一月十二日	十一月十一日	十一月十一日	十一月九日
馬場種太郎	安部磯雄	田中賢道	丸山福治	加藤勝弥	原田 助	徳富猪一郎	金森通倫	竹越與三郎	小崎弘道	原 六郎	岩本善治・木村祐吉宛	堀 貞一	古莊三郎	人見一太郎	藤原直信	竹越與三郎	池本吉治	井深梶之助
519	518	517	514	513	511	510	509	507	506	505	503	502	501	500	496	495	494	491

345	344	343	342	341	340	339	338	337	336	335	334	333	332	331	330	329	328	327	326	325
十一月二十七日	十一月二十七日	十一月二十七日	十一月二十六日	十一月二十六日	十一月二十六日	十一月二十六日	十一月二十五日	十一月二十五日	十一月二十五日	十一月二十五日	十一月二十五日	十一月二十四日	十一月二十三日	十一月二十三日	十一月二十三日	十一月二十三日	十一月(二十三)日	十一月二十二日	十一月二十二日	十一月二十二日
徳富猪一郎	川本泰年	本城安太郎	波沢栄一	山中百	大久保真二郎	松尾音治郎	柴原宗介	大久保真二郎	大久保真二郎	池本吉治	海老名弾正	杉山重義	須田明忠	大久保真二郎	新島公義	新島公義	古賀鶴次郎	大島正健	大久保真二郎	三好退蔵
548	547	546	545	544	542	542	541	538	535	534	533	531	530	528	526	526	525	524	522	521

366	365	364	363	362	361	360	359	358	357	356	355	354	353	352	351	350	349	348	347	346
十二月十三日	十二月十二日	十二月十二日	〔十二月十二日〕	十二月十一日	十二月十日	十二月十日	〔十二月十日〕	十二月八日	十二月八日	十二月七日	十二月六日	十二月五日	十二月五日	十二月四日	十二月三日	十二月三日	十二月二日	十二月二日	十一月二十九日	十一月二十九日
市原盛宏	徳富猪一郎	杉田潮	不破唯次郎	伊勢時雄	日下義雄	小崎弘道・池本吉治	後藤象二郎	渡辺洪基	無名居士	有吉渉	吉富簡一	長田時行	村上俊吉	安部磯雄	本城安太郎	阿部政恒	富永冬樹	徳富猪一郎	金森通倫	阿部政恒
581	580	579	579	576	575	575	574	573	560	559	558	557	557	556	555	555	554	553	551	550

来簡(下巻) 一八八九—一八九〇年

明治二十二(一八八九)年

388	一月一日	加藤勝弥	612
387	一月一日	兼子常五郎・黒田	610
386	一月一日	広津友吉	607
	一月一日	耕・中村衡平	
377	十二月二十一日	児玉仲児	595
376	十二月二十一日	加藤勝弥	594
375	十二月十九日	岩崎弥之助	593
374	十二月十九日	本城安太郎	592
373	十二月十九日	花昌健起	591
372	十二月十九日	安部磯雄	590
371	十二月十八日	金谷 充	589
370	十二月十七日	下村 房	588
369	十二月十七日	奈須義質	587
368	十二月十六日	徳富猪一郎	586
367	十二月十六日	新井 毫	585

392	一月四日	鈴木彦馬	618
391	一月四日	加藤勝弥	618
390	一月二日	奈須義質	616
389	一月一日	杉山重義	614
385	〔明治二十一年〕	杉山重義	606
384	〔明治二十一年〕	杉山重義	604
383	〔明治二十一年〕	新島公義	603
382	十二月二十九日	中村栄助	601
381	十二月二十七日	加藤勇次郎	600
380	十二月二十五日	金森通倫	599
379	十二月二十一日	植木枝盛	598
378	十二月二十一日	伊勢時雄宛	596
378	十二月二十一日	宮川経輝	596

413	412	411	410	409	408	407	406	405	404	403	402	401	400	399	398	397	396	395	394	393
一月十二日	一月十一日	一月十一日	一月十日	一月十日	一月十日	一月十日	一月十日	一月十日	一月九日	一月九日	一月九日	一月九日	一月八日	一月八日	一月七日	一月七日	一月六日	一月六日	一月六日	一月五日
鈴木彦馬	伊勢時雄	加藤勝弥	柴原宗介	大久保七熊	中山光五郎	松尾音二郎	金森通倫	本城安太郎	安永 稔	徳富猪一郎	金森通倫	不破唯次郎	富田鉄之助	伊勢時雄	大沢善助	大久保真二郎	和田彦次郎	中山甚之助	金森通倫	菊池侃二
645	643	642	641	640	639	638	637	635	633	632	631	630	629	628	627	623	622	621	621	620

432	431	430	429	428	427	426	425	424	423	422	421	420	419	418	417	416	415	414
一月二十六日	一月二十五日	一月二十四日	一月二十四日	一月二十四日	一月二十三日	一月二十三日	一月二十二日	一月二十二日	一月二十日	一月二十日	一月十八日	一月十八日	一月十七日	一月十七日	一月十六日	一月十五日	一月十三日	一月十三日
本城安太郎	大沢善助	小崎弘道	加藤勇次郎	金森通倫	金森通倫	金森通倫	三嶋弥太郎	新井 毫	斎藤知行	金森通倫	金森通倫	金森通倫	浮田和民	新島公義	徳富猪一郎	津田元親	押川方義	中島信行
670	669	668	667	666	665	664	663	662	660	660	658	657	654	651	649	648	647	646

451	二月七日	松平容保	696
450	二月六日	金森通倫	695
449	二月五日	木全正脩	694
448 ※	一月三十一日	J・D・デイヴ イス書簡 金森通倫宛	693
448	二月五日	金森通倫	692
447	二月四日	吉田清太郎	690
446	二月四日	金森通倫	689
445	二月四日	伊勢時雄	688
444	二月三日	森田久万人	687
443	二月三日	藤原直信	685
442	二月二日	山中 百	684
441	二月一日	岡田松生	683
440	〔一月〕	高野重三	681
439	一月	浮田和民	680
438	一月	益田 孝	679
437	一月	奈須義質	678
436	一月三十日	金森通倫	676
435	一月三十日	金森小壽	674
434	一月二十九日	金森通倫	673
433	一月二十七日	河波荒次郎	672

466	二月十四日	加藤 壽	715
465 ※	二月十三日	大沢善助書簡 金 森通倫宛	714
465	二月十四日	金森通倫	713
464	二月十二日	安永 稔	713
463	二月十二日	兼子常五郎	712
462	二月十二日	伊庭貞剛	711
461	二月十一日	奈須義質	710
460	二月十一日	金森通倫	708
459	二月十日	伊勢時雄	707
458	二月九日	中山光五郎	705
457	二月九日	片桐清治	704
456 ※	二月八日	大沢善助書簡 金森 通倫宛	703
456	二月九日	金森通倫	703
455 ※	二月二十八日	原 六郎書簡 渋沢栄一宛	702
455	二月八日	渋沢栄一	700
454	二月八日	金森通倫	699
453	二月七日	湯浅治郎	698
452	二月七日	茂木平三郎	697

487	二月十四日	森 為国	716
486	二月十五日	新島公義	717
485	二月十五日	下村 房	719
484	二月十六日	永岡喜八	720
483	二月十六日	柴原宗介	721
482	二月十六日	吉田恒久	723
481	二月十七日	金森通倫	724
480	二月十八日	古賀鶴次郎	729
479	二月十八日	加藤 壽	732
478	二月十八日	山中 百	733
477	二月十九日	財部 荒	734
476	二月二十日	丹羽清次郎	735
475	二月二十日	北垣国道	736
474	二月二十一日	永岡喜八	737
473	二月二十一日	杉山重義	738
472	二月二十三日	中山甚之助	740
471	二月二十三日	山中 百	741
470	二月二十四日	金森通倫	742
469	二月二十四日	湯淺治郎	743
468	二月二十五日	岡田松生	744
467	二月二十五日	白石村治	745

508	二月二十五日	山路一三	746
507	二月二十六日	不破唯次郎	747
506	二月二十七日	金森通倫	749
505	二月二十七日	金谷 充	750
504	二月二十八日	本城安太郎	751
503	二月二十八日	金森通倫	753
502	二月二十八日	金森通倫	754
501	二月二十八日	中村栄助	758
500	二月二十八日	杉山重義	759
499	三月一日	森田久万人	762
498	三月一日	大和 博	764
497	三月二日	伊勢時雄	765
496	三月二日	徳富猪一郎	766
495	三月二日	山中 百	767
494	三月四日	広津友信	768
493	三月四日	金森通倫	769
492	三月五日	金谷 充	769
491	三月五日	森田武左衛門	770
490	三月六日	森田武左衛門	771
489	三月六日	中村栄助	772
488	三月六日	柴原宗介	773

527	三月十七日	半谷高晴	796
526	三月十五日	新嶋公義	795
525	三月十五日	中村缸造	794
524	三月十五日	目加田護法	793
523	三月十五日	児嶋惟謙	792
522	三月十四日	鶴飼吉治	790
521	三月十二日	山路一三	789
520	三月十二日	三峯逸人(新島公義)	789
519	三月十二日	金森通倫	788
518	三月十二日	本城安太郎	787
517	三月十二日	広津友信	786
516	三月十一日	金森通倫	785
515	三月八日	通倫宛	784
515	三月八日	児嶋惟謙書簡 金森	783
514	三月九日	上野栄三郎	782
513	三月九日	金森通倫	781
512	三月八日	中山光五郎	780
511	三月七日	茂木平三郎	778
510	三月七日	広津友信	777
509	三月七日	不破唯次郎	776

542	三月二十八日	鈴木伝五郎・平	813
542	三月二十八日	森田武左衛門	812
541	三月二十八日	綱島佳吉	811
540	三月二十七日	山中百	810
539	三月二十七日	金森通倫	809
538	三月二十五日	海老名弾正	808
537	三月二十四日	洪沢栄一	806
536	三月二十三日	三郎・島田錫吉	805
535	三月二十二日	鶴田三郎・隅谷己	805
534	三月二十二日	鈴木清	804
533	三月二十一日	児嶋惟謙	804
532	三月二十日	白石村治	802
531	三月二十日	杉山重義	801
530	三月十九日	河波荒次郎	800
529	三月十九日	金森通倫	798
528	三月十八日	不破唯次郎	797
528	三月十八日	鶴飼吉治	797

野種二・牛窪求馬・土屋兼
雄・久保財三郎・近藤熊
孺・安東貞・森田武左衛
門・大饗英九郎・三木

始・小川正治・渡辺克哲・

須古織之助・宮本園丸・

561	560	559	558	557	556	555	554	553	552	551	550	549	548	547	546	545	544	543
四月十一日	四月十日	四月十日	四月九日	四月八日	四月七日	四月六日	四月六日	四月六日	四月五日	四月四日	四月三日	四月二日	四月一日	四月一日	三月三十一日	三月三十一日	三月三十日	三月三十日
不破唯次郎	斎藤知行	金森通倫	金森通倫	網嶋佳吉	吉田清太郎	白石村治	石黒 務	花島健起	金森通倫	不破唯次郎	川西光三郎	長屋忠明	田尻東一郎	北垣国道	宇野保太郎	森田武左衛門	三枝光太郎	金森通倫
841	840	838	837	836	834	832	831	829	826	824	823	821	820	819	819	817	816	814

581	580	579	578	577	576	575	574	573	572	571	570	569	568	567	566	565	564	563	562
四月二十三日	四月二十一日	四月二十日	四月十九日	四月十八日	四月十八日	四月十七日	四月十七日	四月十七日	四月十六日	四月十五日	四月十四日	四月十四日	四月十三日	四月十三日	四月十二日	四月十二日	四月十二日	四月十一日	四月十一日
松本誠直・岡崎高	新島八重	原田正之助	井上 馨	古木寅三郎	金森通倫	勢	佐々城豊寿・潮田千	不破唯次郎	菊池純二郎	柴原宗介	大久保真二郎	金森通倫	長田時行	伊勢時雄	大塚 磨	永岡喜八	川崎正蔵	金森通倫	金森通倫
868	866	865	864	863	862		861	860	858	857	852	850	849	847	847	846	845	844	843

厚

600	599	598	597	596	595	594	593	592	591	590	589	588	587	586	585	584	583	582	厚
五月五日	五月一日	五月一日	五月一日	〔四月〕	四月三十日	四月三十日	四月三十日	四月二十九日	四月二十九日	四月二十七日	四月二十七日	四月二十七日	四月二十六日	之助	四月二十五日	四月二十四日	四月二十四日	四月二十四日	四月二十四日
峯彦郎	佐々城豊寿	小崎弘道	井深梶之助	原忠美	鈴木清	茂木平三郎	広瀬幸平	元良勇次郎	新井毫	杉山重義	中村缸造	児玉仲児	村上定		海老名弾正	中山光五郎	中島幸三郎	金谷充	
888	887	886	885	883	882	881	880	880	879	878	876	875	874	873	872	871	870	869	868

619	618	617	616	615	614	613	612	611	610	609	608	607	606	605	604	603	602	602	601
五月二十九日	五月二十七日	五月二十五日	五月二十四日	五月二十三日	五月二十日	五月十六日	五月十四日	五月十四日	五月十四日	五月十三日	五月十三日	五月十日	五月九日	五月八日	五月八日	五月七日	四月二十九日	五月六日	五月五日
加藤勇次郎	岡部広	広津友信	海老名弾正	花島健起	花島健起	徳富猪一郎	大和博	鈴木清	北垣国道	大野侗吉	不破唯次郎	川上八三郎	川本泰年	鈴木清	本城安太郎	市原盛宏	川本政之助宛	川本政之助	中村栄助
916	915	914	912	911	910	910	909	908	907	906	905	904	903	902	900	899	896	890	889

639	638	637	636	635	634	633	632	631	630	629	628	627	626	625	624	623	622	621	620
六月二十八日	六月二十七日	六月二十五日	六月二十五日	六月二十四日	六月二十四日	六月二十二日	六月二十日	六月十七日	六月十六日	六月十四日	六月十四日	六月十三日	六月十三日	六月七日	六月六日	六月五日	六月四日	五月三十一日	五月三十日
菊池侃二	目加田護法	田中賢道	新井左壽計	鈴木 清	杉山重義	目加田護法	中山光五郎	鈴木 清	財部 節	三輪振次郎	同志社予備校生徒委員	松村介石	小崎弘道	宮口二郎	小崎弘道	下村 房	綱島佳吉	宮川経輝	北垣国道
946	944	942	940	939	937	936	932	931	930	929	928	926	924	923	920	919	918	917	917

657	656	655	654	653	652	651	650	649	648	647	646	645	644	644	643	642	641	640
七月二十二日	七月二十二日	七月二十日	七月二十日	七月十九日	七月十八日	七月十八日	七月十八日	七月十七日	七月十六日	七月十四日	七月十三日	七月五日	七月	七月三日	七月二日	七月二日	七月一日	六月二十九日
不破唯次郎	安住百太郎	志垣要三	後藤源久郎・関 農	不破唯次郎	徳富 久	徳富一敬	伴 直之助	不破唯次郎	志垣要三	伊勢時雄	山中 百	磯貝由太郎	教会	鶴田三郎	杉山重義	不破唯次郎	不破唯次郎	中山光五郎
971	970	968	967	966	965	964	963	961	959	958	957	956	952	951	950	948	947	946

675	674	673	672	671	670	670	669	668	667	666	665	664	663	662	661	660	659	658
八月五日	八月五日	八月三日	七月三十一日	七月三十日	七月二十九日	七月三十日	七月三十日	七月三十日	七月二十八日	七月二十七日	七月二十七日	七月二十六日	七月二十六日	七月二十五日	七月二十五日	七月二十四日	七月二十二日	七月二十二日
柴原宗介	不破唯次郎	大三輪長兵衛	旗之進	志垣要三	大久保音羽	大久保真二郎	市原盛宏	広津友信	山路一三	徳富猪一郎	不破唯次郎	富田鉄之助	矢野万助・増田尚平	柳瀬春二郎・矢野	大久保真二郎	藤田伝三郎	大久保真二郎	小坂橋信二郎
1001	999	999	997	996	995	992	991	988	987	985	984	983	981	980	979	977	974	973

695	694	693	692	691	690	689	688	687	686	685	684	683	682	681	680	679	678	677	676
八月二十二日	八月二十日	八月二十日	八月十九日	八月十八日	八月十六日	八月十五日	八月十五日	八月十四日	八月十三日	八月十三日	八月十二日	八月十一日	八月十日	八月十日	八月十日	八月八日	八月六日	八月六日	八月五日
馬場種太郎	山路一三	本城安太郎	松尾音次郎	吉田清太郎	後藤源久郎・深沢利	大久保真二郎	安住百太郎	新島公義	杉山重義	児島惟謙	沢沢栄一	新島公義	鈴木清	大村務	広瀬源三郎	木村鎮太	志垣要三	松山高吉	鈴木梅
1031	1026	1025	1024	1022	1021	1018	1016	1015	1013	1013	1012	1011	1009	1008	1007	1006	1004	1003	1002

716	715	714	713	712	711	710	709	708	707	706	705	704	703	702	701	700	699	698	697	696
九月十二日	九月十二日	九月九日	九月六日	九月六日	九月五日	九月五日	九月四日	九月四日	九月三日	九月一日	九月一日	八月三十日	八月三十日	八月二十八日	八月二十五日	八月二十三日	八月二十三日	八月二十三日	八月二十二日	八月二十二日
木村鎮太	梶原保人	大久保真二郎	田中賢道	松尾音次郎	大久保真二郎	不破唯次郎	松原藤兵衛・瀬尾武雄	不破唯次郎	小崎弘道	吉田清太郎	塩井健太郎	中村栄助	松村介石	新井左壽計	金森通倫	新島公義	永岡喜八	木村鎮太	広瀬源三郎	不破唯次郎
1066	1064	1063	1061	1059	1056	1055	1052	1050	1048	1045	1043	1042	1041	1039	1038	1037	1036	1035	1034	1032

737	736	735	734	733	732	731	730	729	728	727	726	725	724	723	722	721	720	719	718	717
十月八日	十月七日	十月七日	十月七日	十月四日	十月三日	十月二日	十月一日	九月	九月三十日	九月二十八日	九月二十三日	九月二十三日	九月二十一日	九月二十一日	九月十九日	九月十七日	九月十七日	九月十六日	九月十六日	九月十六日
三宅荒穀	山中百	宮川経輝	星野光多	加藤勝弥・松村介石	不破唯次郎	徳富猪一郎	黒木文平	西村栄治	松本勘十郎	植村保雄	茂木平三郎	松波仁一郎	大久保真二郎	不破唯次郎	木村鎮太	徳富猪一郎	不破唯次郎	上田周太郎	清水泰次郎	大久保真二郎
1088	1087	1087	1086	1085	1084	1083	1082	1081	1080	1079	1078	1077	1075	1074	1073	1072	1070	1069	1068	1067

758	757	756	755	754	753	752	751	750	749	748	747	746	745	744	743	742	741	740	739	738
十一月一日	十月三十日	十月二十九日	十月二十九日	十月二十八日	十月二十七日	十月二十七日	十月二十六日	十月二十四日	十月二十一日	十月二十一日	十月二十一日	十月十九日	十月十九日	十月十九日	十月十七日	十月十六日	十月十一日	十月十日	十月九日	十月八日
五十田勇治郎	大久保真二郎	篠田昌武	伴直之助	松村介石	古賀鶴次郎	広津友信	不破唯次郎	広津友信	横田安止	田中賢道	鈴木清	綱嶋佳吉	伊勢時雄	広瀬源三郎	富田鉄之助	齋藤壬生雄	坂本十三也	大江頼之助	大塚磨	辻孝次郎
1117	1113	1111	1110	1109	1108	1106	1105	1104	1101	1100	1099	1098	1097	1095	1095	1094	1093	1092	1091	1089

779	778	777	776	775	774	773	772	771	770	769	768	767	766	765	764	763	762	761	760	759
十一月二十三日	十一月二十二日	十一月二十二日	十一月二十一日	十一月二十一日	十一月十七日	十一月十六日	十一月十五日	十一月十一日	十一月十一日	十一月十一日	十一月九日	十一月八日	十一月七日	十一月七日	十一月六日	十一月四日	十一月四日	十一月三日	十一月二日	十一月二日
横田安止	奈須義質	金森通倫	新島八重	金森通倫	横田安止	徳富猪一郎	広津友信	矢崎鎮四郎	宮川経輝	広津友信	志方之善	金森通倫	小野英二郎	広津友信	不破唯次郎	時岡恵吉	新井毫	金森通倫	新島公義	金森通倫
1148	1146	1144	1144	1143	1141	1140	1137	1135	1134	1133	1131	1130	1129	1127	1126	1123	1122	1121	1119	1118

799 ※	799	798	797	796	795	794	793	792	791	790	789	788	787	786	785	784	783	782	781	780
十二月五日	十二月九日	十二月九日	十二月九日	十二月九日	十二月五日	十二月四日	十二月四日	〔十二月〕三日	十二月三日	十二月一日	十一月三十日	十一月二十九日	十一月二十八日	十一月二十八日	十一月二十八日	十一月二十八日	十一月二十七日	十一月二十七日	十一月二十六日	十一月二十六日
小崎弘道書簡	時岡恵吉	小野英二郎	広津友信	広津友信	伊勢時雄	杉山重義	広瀬源三郎	徳富猪一郎	松本勘十郎	徳富猪一郎	中山光五郎	金森通倫	徳富猪一郎	時岡恵吉	仁友吉左衛門	新井 毫	徳富猪一郎	時岡恵吉	時岡恵吉	大久保真二郎
時	1177	1174	1174	1173	1172	1171	1169	1169	1168	1167	1165	1165	1163	1162	1162	1161	1160	1158	1156	1150

819	818	817	816	815	814	813	812	811	810	809	808	807	806	805	804	803	802	801	800	
十二月三十一日	十二月三十日	十二月二十八日	十二月二十七日	十二月二十七日	十二月二十六日	十二月二十六日	十二月二十六日	十二月二十五日	十二月二十三日	十二月二十三日	十二月二十三日	十二月二十日	十二月二十日	十二月十八日	十二月十六日	〔十二月〕十五日	十二月十二日	十二月十一日	十二月十一日	
不破唯次郎	広津友信	新島公義	新島八重	不破唯次郎	白石村治	広津友信	不破唯次郎	不破唯次郎	時岡恵吉	篠田昌武	広津友信	松尾音次郎	金森通倫	新島公義	時岡恵吉	徳富猪一郎	中山光五郎	大久保真二郎	宮川経輝	岡恵吉宛
1213	1212	1210	1210	1208	1206	1204	1203	1202	1199	1197	1193	1192	1191	1189	1186	1185	1184	1180	1179	1178

明治二十三年（一八九〇）年

838	837	836	835	834	833	832	831	830	829	828	827	826	825	824	823	822
一月七日	一月七日	一月七日	一月六日	一月六日	一月五日	一月五日	一月四日	一月三日	一月三日	一月三日	一月三日	一月二日	一月二日	一月二日	一月一日	一月一日
小野英二郎	半田平次郎	遠藤能定	新野 稔	小北寅之助	徳富猪一郎	福士成豊	新島公義	新島公義	森 信夫	松尾音次郎	増田尚平	時岡恵吉	大久保真次郎	東 正義	杉山重義	原 忠美
1238	1237	1235	1234	1233	1232	1231	1229	1227	1226	1225	1224	1223	1222	1220	1219	1217

820
月日未詳
浜岡光哲
1215

855	854	853	852	851	850	849	848	847	846	845	844	843	842	841	840	839
一月十四日	一月十四日	一月十三日	一月十二日	一月十二日	一月十二日	一月十一日	一月十一日	一月十日	一月十日	一月十日	一月九日	一月九日	一月八日	一月八日	一月七日	一月七日
篠田昌武	小崎弘道	浮田和民	松田順平	原 忠美	不破 雄	小崎弘道	不破唯次郎	宮川経輝	松尾音治郎	原 胤昭	松田順平	青柳新米	大久保真二郎	松本勘十郎	横田安止	田中源太郎
1264	1263	1262	1260	1258	1257	1256	1255	1254	1253	1252	1250	1249	1247	1246	1240	1239

821
月日未詳
柴原宗介
1216

855 ※

日未詳 中尾庄太郎・篠田昌武

書簡 海老名弾正・O.H. Gulick

宛…………… 1264

856

一月十五日 大久保真次郎…………… 1268

857

一月十七日 不破唯次郎…………… 1270

858

一月十七日 不破唯次郎・杉田

潮・杉山重義…………… 1271

859

一月十七日 河波荒次郎…………… 1275

860

一月十七日 大久保真次郎…………… 1276

〔年次未詳〕

869

一月十二日 河井 淡…………… 1284

870

一月十八日 柴原宗介…………… 1285

871

一月二十五日 森田久万人…………… 1286

872

一月二十七日 金森通倫…………… 1287

873

一月二十八日 富田鉄之助…………… 1287

874

一月三十一日 金森通倫…………… 1288

875

二月三日 金森通倫…………… 1289

876

二月三日 中村栄助…………… 1290

877

二月二十一日 伏見 通…………… 1290

861

一月十八日 新島八重…………… 1278

862

一月二十二日 平岩愼保…………… 1278

863

一月二十二日 長浜教会執事…………… 1279

864

一月二十二日 大久保真次郎…………… 1279

865

一月二十三日 原 忠美…………… 1280

866

一月二十三日 北里義正…………… 1281

867

一月二十四日 五十田勇治郎…………… 1281

868

一月二十四日 松尾音次郎…………… 1283

878

三月二日 青山長祐…………… 1291

879

三月五日 清水瀧次郎…………… 1293

880

三月三十日 徳富猪一郎…………… 1294

881

四月九日 田中不二麿…………… 1294

882

四月十日 亀山 昇…………… 1295

883

四月十六日 西 毅一…………… 1296

884

六月一日 徳田利彦…………… 1297

885

七月二十七日 浜岡光哲…………… 1298

886

九月四日 板垣退助…………… 1298

887	九月二十三日	金谷 充	1299
888	十月四日	池袋清風	1301
889	十月七日	下村 房	1302
890	十月三十日	木村熊二	1303

891	十一月一日	徳富猪一郎	1304
892	十一月五日	金谷 充	1304
893	十二月二十三日	川本泰年	1305

〔年月未詳〕

894	三日	柴原宗介	1307
-----	----	------	------

〔年月日未詳〕

895	年月日未詳	青木周蔵	1309
896	年月日未詳	今村謙吉	1309

897	年月日未詳	金森通倫	1311
-----	-------	------	------

解題	1313
----	------

〔巻末〕索引	x
--------	---

前後の見返しは辱知姓名簿

装幀・小島友幸

来簡（下巻） 一八八九—一八九〇年

明治二十二（一八八九）年

386

一月一日 広津友吉

④墨 ⑥端書、新島朱筆「二月七日来ル」

拜啓、新年之御慶目出度申納候、陳者拜別後先生之御起居如何ヲ伝承スルノミニテ御無音申上候段平ニ御海恕奉願候
其後小子ハ毎日曜日柳川一致教会ニ於而説教ヲナシ教会ノ為メニ働クノミニテ其他ハ書見之寸暇モナク全力ヲ病人之
介抱ニ尽シ来り候処、幸ニ日ニ増シ快方ニ赴キ未タ全快トハ申サレズ候へ共、殆ンド全復ニ至ラントスルノ喜ヲ迎へ
申候、小子之カ為メ去十二月上旬ニハ帰校致候テモ宜敷有之候処、聊カ禁スル能ハサルノ所感有之候ニ付、断然勉強
ヲ止メ同志社大学創立費捐金募集ノ為メニ涓埃之力ヲ尽シ今日ニ至リ申候、恰モ福岡県々会開中ニ有之候ヘバ議員風
斗実、森軍治氏及森信夫氏等ハ議員連中ニ此事業ニ賛助ヲ仰キ、且ツ一同之帰郷後ハ卒先シテ郡内ニ勸メ募集ノ為メ
尽力アラン事ヲ求メラレ多数之モノハ奮テ之ヲ諾シ候、且又小子ハ森風斗氏方ノ周旋ニ依リ議員全体之前ニ於テ演説
致度企テ候へ共、遂ニ宜敷機會ヲ得ズ遺憾是事候イシナリ

其中バニ風斗実、森信夫氏ノ実父永眠致候テ小子共一同大ナル愁傷ニ陥リ申候、過ル数日間ハ小子三池郡地方ニ遊ヒ
県會議員有志家青年輩ヲ訪ヒ募集之事ヲ相談致候、誰モ大学設立旨意書及同志社設立始末ヲ読ムモノニシテ感動賛成
ヲ表セサルモノハ無之候、為メニ小子ノ同地方ニ漫遊致候事モ無益ニ無之、小子存外之喜悅ヲ以テ帰宅致候次第御坐
候、小子尚ホ暫時古郷ニ留リ上妻、三瀧、久留米、佐賀地方ニ遊ヒ募集之為メ尽力致度積リニ御座候、地方ニテハ義
捐金取纏ムル者無之候テハ人々郵送之手数ヲ厭ヒ候へば先達小子ハ森風斗氏ノ手ヲ經テ福岡日々新聞紙上ニ広告致ス様取定メ、小子ノ手許ニ
柳川地方ノ義捐金ハ小子ノ手許ニ取纏メ篤志者之姓名金高等ハ福岡日々新聞紙上ニ広告致ス様取定メ、小子ノ手許ニ
今少々ツ、義捐金集リ申候

一体九州地方ハ金少ク義捐金額モ多額ニハ無之候へ共、先生ヲ知り其事業ヲ翼賛スルノ丹心ハ十分深ク厚ク候テ決シ
テ義捐金ノ小額ナルヲ以テ彼是評セラレズ候条、此儀御諒察可被下候

過日は同志社大学設立旨意書及同志社設立始末書御惠送ニ預リ真ニ有難奉存候、若シ相叶候へば今若干冊（沢山ナレ
ハ幸甚）御惠送被成下間敷候哉

三池郡ノ県會議員ナル野田卯太郎氏ニ相談シ左記之人々ニ義捐之事ヲ勸メラル、様依頼致置候条、同氏ヲ紹介人トシ
テ左ノ人名へ至急先生ヨリ旨意書及御手紙ヲ御差出シ被下度伏而奉願候

筑後国三池郡上内村 立花弘樹

〃 歴木村 小野隆基

三池郡礦山局 ○小林秀知

〃 団 琢磨

々

小山

集治監

神原富文

右立花小野ハ屈指ノ金満家ニシテ門閥ナリ、小林ハ局長ニシテ井上伯ノ幕下ナル由、団ハ数月之後小林ニ代リテ局長トナラントス、小山ハ副長今其名称ヲ存セズ直ニ御知ラセ可申上候間、其時御手紙差出被下度奉希候、神原ハ監長ノ由ニ御坐候

同志社大学ニハ婦女子モ入学出来候哉、度々人ヨリ尋問ヲ受ケ候ニ付、御意見承リ置度、此他大学之事ニ付、必要之件ハ御知ラセ被下度奉願候、今度幾何ノ募集ノ御積リニ候哉、且ツ幾何アレバ創立ノ手始メ出来候哉

小子募集ノ為メ尽力致候始メヨリ、能ク人々ニ小子ノ私用アリテ帰省シ一己人ノ資格ヲ以テ此事ノ為メ周旋スル由明カシ置候ヘ共、間ニハ小子ヲ同志社ヨリ派遣サレタルモノ、如クニ誤解スルモノモ有之、加之小子ノ挙動ヲ見テ同志社教育ノ如何ヲ評シ候勢ヒニ有之、実ニ赧然戰慄ノ至御座候

小子ハ今何時上京致候テモ宜敷都合ニ相成候ヘ共、若し尚ホ暫時九州ニ奔走シテ少シニテモ益スル所共有之候ハ、小子素ヨリ同志社ノ名称ノ下ニ働クニ適セザルモノナルハ万々自覚スル処ニ候ヘ共、小子ノ出来ル丈ノ力ヲ尽シ再ヒ得難キ此好機會ニ於テ周旋致度存居候間、先生ノ御思召次第尚ホ熊本其他ノ地方ニ赴キ有志家ニ説キ募集ノ事ヲ相談致候テモ宜敷候、如何ノ御思召ニ有之候哉、御伺申上候也
至急御返書及旨意書奉待入候、先ハ御伺旁要件迄、早々不整

明治廿二年一月一日

広津友吉

〔朱筆〕
「筑後柳川南長柄町森信夫方」

新島襄先生
閣下

二伸、乍末筆御令聞様へ宜敷御鶴声奉希候也

森信夫、風斗実氏ヨリ先生ニ宜敷申上呉レ候様申サレ候、何レモ先生ノ御清福ヲ祈リ居候条、此段御承諒可被下候

387

一月一日

兼子常五郎・黒田耕・中村衡平

①播州加古郡新野辺村

②神戸諏訪山

親展

④墨

謹賀新年

昨年中ハ御懇篤ナル御訓導ヲ蒙リ難有奉謝候、今年一層御教導ニ預リ度奉希候

扱又御病体如何ニ御座候哉定メシ御慈愛ノ父ノ御保護ニヨリ漸々御回復ノ事ト奉欣賀候、次ニ小生等事天父ノ御慈愛ニ由リ無難ニ新年ヲ迎ルノミナラズ新キ賜ヲ得大ニ覚悟スル処アリテ喜悦罷在候間乍憚御放念可被下候、依之小生等ノ賜ヲ左ニ申上候

兼子常五郎

詩第八篇

一、我等ノ主エホバヨ汝ノ名ハ地ニアメネクシテ尊カナ其ノ榮光ヲ天ニオキ賜ヘリ
二、汝ハ嬰兒乳子ノ口ニヨリ力ノ基ヲオキテ敵ニソナヘタマヘリ蓋ハ仇人怨ヲ報ユル者トヲ鎮靜シメンガ為ナリ
同第九十四篇

九、耳ヲ植ルモノ聴ク事ヲ得ザランヤ目ヲ造ルモノ見ル事ヲ得ザランヤ

十、諸ノ国ヲ教ルモノタバス事ヲセザランヤ人ニ智識ヲ与ルモノ知ル事ナカランヤ

十一、エホバハ人ノ思念ノ空シキヲ知リ賜フ

黒田 耕

馬太第十八章

三、曰ケルハ我誠ニ爾曹ニ告ケン若シ改マリテ嬰兒ノ若クナラスバ天国ニ入ルコトヲ得シ

四、然バ凡ソコノ嬰兒ノ若ク自カラ謙ル者ハコレ天国ニ於テ大ナル者ナリ

五、又我名ノ為ニ此ノ如キ一人ノ嬰兒ヲ接ル者ハ我ヲ接ルナリ

中村 衡平

詩第七十八篇

九、エフライムノ子等ハ武器ト、ノヘ弓ヲ携サヘシニ戦ヒノ日ニウシロヲソムケタリ

十、彼等ハ神ノ使ヲマモラズ其ノオキテヲ履ム事ヲイナミ

十一、エホバノナシタマヘルコト、カレラニ示シタマヘル奇シキ事跡トヲワスレタリ

同第百三篇

四、汝ノ生命ヲ亡ビヨリ蹟ヒイダシ仁慈ト憐憫トラ汝ニカウブラセ

五、汝ノ口ヲ嘉物ニテアカシメ給フステナンジハ壮ギテ驚ノゴトク新ニナルナリ

紀元千八百八十九年一月一日

兼子常五郎

黒田 耕

中村 衡平

新島 襄様

同 八重様

388

一月一日

加藤勝弥

④墨

拝啓、益々御清務ノ事ト奉察候、扱北越学館ノ儀、色々入込甚タ困却罷在候処、漸ク昨日ヲ以テ結局ヲ見ニ至リ申候、尚此末神ノ御助ケヲ受、亦先生等ノ御厚慮ヲ得テ有益ノ学校ニ進申度候間、何卒万事御隠慮ナク御教示被成下候、学館改革ノ議論ノ生シタルハ始メノ程ハ内外国教師ノ間ニ関シタルモノナリシガ客月中旬内村氏ヨリ辞表ヲ差

(魔脱カ)

(還)

出サレ候処、創立委員中多数ハ辞表ヲ受ケズ、何トカシテ内外教師協同尽力セラレン事ヲ謀リ居〔候カ〕、其協同略整ヘ候様相運ヒ候際政党上ノ競争ヲ学館ノ創立者中ニ来シ為メニ辞任セシ創立者等も有之、近頃ニ至リ候テハ内村氏ノ議論ハ捨置キ創立者中ニテ分離シ学校ヲ更ニ開設可致候場合ニ至リ候得共、終ニ今日ノ好都合ニ運ヒ候事ハ皆神ノ御手中ニアル事ト奉謝候、仍テ内村氏ノ辞職ハ承諾致シ昨日電信ト書状ヲ相発シ候、其辞職ハ氏ノ望ニ任セ候也、今后ノ教頭ハ先生ノ御撰挙ニ任セ可申事ニ決議仕候間、則電信ヲ以テ御依頼ニ及候次第ニ御座候、何卒先生当館ノ前途思召ニ御止メ置キ被下度候、就テハ当分ノ所ハ余程ノ人物ヲ得不申候テハ管理六ヶ敷事ト奉存候間、何卒同志社中ニ適當ノ人物有之候ハ、直チニ御撰挙被下度、若シ左も無之候ハ、東京小崎氏等ト御打合ノ上至急此取計被成下候〔度腦カ〕、當時森本氏ハ在東京ノ由此人ハ如何御座候哉、何分本月八日ノ開業前ニ其人ヲ得度候得共、若シ間ニ合不申候トキハ仮ニ開業可致手配ニ御座候、中島末治氏ハ過日教育事業ヲ不適当トシ美術ノ業ニ改メ可申トノ決心ニテ上京セリ、旁良教頭ヲ得度奉存候、月俸ノ儀ハ何分充分ニハ差上可申事ニ至リ兼候、内村氏ニハ五十円ツ、支給セリ、右御含ノ上御取計可被下候、前述ノ如ク一時ハ政事上ノ争ヲ学館ニ及フシ甚タ困却罷在候ヘ共、取早今日ニ至リ候テハ互ニ悟ル処アルヲ以テ平和ニ帰着シ内外教師等モ皆喜悅シテ相働キ可申事ニ相成候

一兼テ御企ノ大学御設立ノ件ニ付過日県會議員ニ當御遣ノ尊書幸開會中故一同ニ廻読為致候、多少ノ不抱義捐可致ト奉存候得共、多分ノ事ハ迎も見込無之候間、此事予メ御含ミ被下度候、殊ニ議員ハ近來政海ノ波濤ニ浮沈シテ殆ント他事ヲ顧サル様ニ相見ヘ申候

右申上度乱筆御推読被成下度奉願上候、早々頓首

廿二年一月一日

加藤勝弥

新島襄様

二白、生儀学校町二番丁第卅一番戸（師範学校前）ニ移転仕候、内村氏ハ十二月廿三日帰京セリ

389

一月一日

杉山重義

④墨

恭賀新禧

旧臘中ハ誠に申訳も無之程御疎遠に打過申候怠情之罪不浅平に御海宥被下度奉願上候、時下寒威日に甚く候へども神戸へ御転住後は追々御快き方と奉存候、何卒此際充分に御加養被下一日も早く旧時之御身体に御復し被成候様斯之道之為め且つ国家之為め日夜祈居申候、私も田舎の生涯之身に適せしものにや、上州地方之峻厳なる寒氣にも係はらず頗る壮健に御坐候間乍憚御休憩被下度奉願上候（時々風を引き咽喉を害する外）、同志社大学校之義捐金ハ関西地方に於ては定而拂り候事と奉存候へども当方にては歳末と云ひ種々出金等多かりしに付非常なる好結果も見え難からんと存じ、先づ歳末には言ひ出す事を見合し年を改めて後發言することに致し置候に付最早此際夫々相談致し至急に取運び可申様可致考に御坐候○両教会合併之儀に關しても、此間之基督教新聞紙上、原田氏之通信に依ればアメリカ

ンボードに於ては随分議論あることの様相見え申候、大阪之會議を延期せしめたるは杉山重義の罪の様世上にては考
る人もありしなるべけれど（基督教新聞紙上を讀みて）、今と相成りてはアナガチ左様にも無之様相成候、斯く事實
の明白なりし上ハ各教会に於て充分探究穿鑿致して後、進退去就を決する様致し度事に御坐候、（又々年始之書状に
議論を致し掛ては不都合に付此に閣筆致し候）、是ハ年始ニ御祝詞迄申上度積の書状に候ヘバ後便に譲り後ニ可申上
候、敬白

〔調〕

〔新島朱筆〕

〔群馬県碓氷郡原市村

杉山〕重義

拝

一月一日

新島先生

梧下

乍末筆御奥様へ宜く御鳳声被下度奉願上候、家内よりも宜く申上候様申出候に付此又申上候

奉^{〔恭〕}恐賀新年候、廿二年の陽春ハ更ニ絶大ノ希望と新鮮壯快ノ空氣ヲ以テ充溢致シタルモノ、如ク実ニ不堪御同慶候、愚生碌々馬齡ヲ加ヘ只々皇天ノ寛容ハ却テ頭上ノ鉄槌ト相成候事ニ驚愕仕候、今年コソハ胆ヲ込メテ奮勉可仕候覚悟致候

○新年早々ヨリ愚生ガ平生ノ「感慨」ト「難題」トヲバ公正大度ノ閣下ニ申告シ、併セテ忠愛懇篤なる閣下の御高論ヲ蒙リ度存候

「感慨ノ部」^{〔朱〕}(1)伝道者ノ不活潑、不熱心、不勉強、無主義、無頓着、無氣力、無志望、小生ハ現ニ実視シ熟知シテ自ラヲ省ミ他ヲ察シ実ニ感憤忼慨ノ外無之候、此ノ萎靡不振ノ兵ヲ以テ新日本創成ノ大業ニ当ル殆ント難矣(故ニ之ヲ改良スルハ甚ダ急ナリト雖トモ寧ロ神学校ヲ改良整理スルノ最急ニ如カズ)、^{〔朱〕}(2)伝道事業ニ就テ外国ノ補助ヲ受クルハ現今ニ於テハ到底避ケ難ク、又或ハ必要ナラン、サレハトモ小生等ノ胸中ニハ常ニ独立自治ノ精神ヲ以テ充滿シ將來必ズ此ノ精神ヲ貫徹シ併セテ従来ノ厚意ヲ空フセザル可キ事切要ナリ、而シテ此ノ注意甚タ薄シ(小生ハ必ズ畢生事業ノ精神ヲ此ノ点ニ注グ可シ)、他略ス

「難題ノ部」^{〔朱〕}(1)小生ガ迷心ナク一刀兩断確乎不動ノ精神ヲ以テ身ヲ宗教界ニ一任シ主一ニ基督ノ忠僕タラン事、内ハ迷惑ノ雲ヲ払ヒ、外ハ強盛ナル誘惑ニ敵スル事困難ト云ヘハ実ニ困難ニ候、^{〔朱〕}(2)徳富、神山君等ノ考ヘハ小生ニ向テ政

治、宗教ノ両世界ニ兼働セヨト云フニアリ、サレトモ小生ハ主客ノ位地ヲ確定シテ働ク事ノ必要ヲ主張セリ、今日ハ何デモナシ天下多忙時機急迫ノ際ニハ幾分カ困難来ラン、(3)徳富、神山君ハ九州ニ降レト促セリ、小生ハ目下ノ実用ハ小ナリ、如カズ将来ノ大計ヲ図ランニハ今日実力ヲ養フニアリ、故ニ須ク神学校ニ入り自ラ養ヒ、併セテ他ヲ改良シ、則チ自己修学ノ傍神学校ノ改良進歩ニ尽力スルノ百益タルヲ主張セリ

略陳する通りニ候処、「感慨ノ部」ノ如キモ決シテ自ラノ地位品行ヲ局外ニ置キタルモノニ無之、小生自ラ如斯卑賤拙劣ナルヲ感慨致シタルモノニ候、「難題の部」の如き小と申せば一身の小事ニ候ハンモ、小生ガ一生ヲ貫徹ス可キ主義事業ノ根底トシテハ実ニ重大ナルモノニ有之候、愚考ニヨリテハ今迄実験仕リタル件々モ有之、猶一層可成ンバ二三年ノ間神学校ニ於テ螢雪学修、深思熟慮、然る後出て、再戦センニハ糧食稍足りテ交戦スルノ有様ナレバ意の向ふ所幾分か手之レニ從ヒ得可ク何分当今ノ処ニテハ空然として徒然トシテ切齒扼腕スルノミニテ実ニ如此苦痛ナル残念ナル事ハ無之候、此等ハ決シテ聖聴ヲ煩ハス可キ事柄ニ無之ト存候ヘトモ、只閣下の公正大度ナルト経験の父、智識の母たるガ故に主ニアリテ不憚閣下の忠愛懇篤ナル御高諭を尋ネ叩き求め申候、罪人のキリストニ帰する主ガ能ク罪人の心情ヲ察すればなり、土の相投する意氣ノ相合する故に候、閣下小生ノ微賤を以て棄ることなく幸ニ前陳小生ガ目下の問題たる九州下降神学入校の兩点に付き前後小生の微衷を御賢察急ぎ御高諭を垂れ給ハ、小生の幸福不過此候、恐惶頓首

廿二年一月二日

新島襄殿

閣下

〔朱 異筆〕

〔上州富岡町基督會堂〕

奈須義質⑩

二伸、御病氣と御事業の為にハ不怠祈禱罷在候間、乍此上御自重奉祈候、再尾

391

一月四日

加藤勝弥

①ニイカタ カクコウワハンチヨウ ②スワヤマ ワラクイン ⑥電報、発
信午後五時十五分

ウチムラヤメタ(ドウゾ)ウキタタノム

392

一月四日

鈴木彦馬

①京都寺町通新島邸内 ②神戸諏訪山和楽園 ④墨

恭賀新正

明治廿二年

一月四日

鈴木彦馬

再行^(ママ)

拝白、陳ハ別封板垣氏よりの御書翰御手許まで御送付申上候、該書翰ハ郵便局にて一度開封にても致せしものか其痕跡も頗ふる判然いたし居る様ニ被考候、兎ニ角其まゝ差上申候間、御落手の程奉願候

○御夫人様御飯神ニ相成候以後到着せし端書卅八枚、書面にて数通、名刺ニテハ今日ニ至るまで総て百余名ニ御坐候

又名刺を持たずに年賀ニ御出ニ相成候方も間々有之候様ニ覚候

○学校の事情も差したる變動も御坐なく依然平和ニ安穩ニ一同新年を迎へ居申候

何時もなから乱筆御免の程奉願上候、勿々拝具

四日のよ認^(夜)

新島先生

彦馬
再拝

同令夫人様

几下

393

一月五日

菊池侃二

④ 墨

謹賀新年

早々御書狀ニ接シ難有拝読致候、陳又旧臘御委囑之一件既ニ着手致候得共、郡部之方思フ如ク不相運、尚ホ東尾、溝端ノ兩人ヘ相託シタル事狀ニ有之、区部之伺モ未タ決答セサル者多ク甚タ不行届之情実ニ恥入候得共、今少シ賛成人員御決答申上兼候、何レ近日拝顔之上子細の事情可申上候、勿々拝具

廿二年一月五日

菊池侃二

新嶋 襄様

金森通倫様

394

一月六日

金森通倫

①西京 ②神戸山手通和楽園 ④墨

只今九鬼隆一君より書面来り明八日当地旅館迄来り呉候様申来申候、又九鬼家へ八十分ニ相談申置候も一応御面談申置方都合よくと存候、新島先生へハ未タ返書を出さずとの事
右ニ付小生明朝面悟之上委細申上へく候も一寸右之次第申入置候也

一月六日

新島先生

通倫

395

一月六日

中山甚之助

④墨

謹而奉賀新年候、^{〔松平〕}扱而容大事親対面として去月廿三日帰京致候処、未タ全快とも至兼候ニ付直ニ入院橋本医師之療治ヲ受け速ニ全快致、此五日横浜発正午之船ニ而立戻候、右は彼は厚く御配慮御細書も被成下候上より右之運びニも相

至り万々難有仕合奉多謝候、不相替御教示之程一重ニ奉願上候、右新年之御慶旁御頼迄早々如此ニ御坐候、頓首

一月六日

中山甚之助[㊦]

新島先生様

同お八重様
閣下

396

一月六日

和田彦次郎

①東京京橋区木挽町

②神戸諏訪山温泉場東

和楽園

親展

④墨

新年之賀目出度申納候、先以

先生ニハ愈御清祥ニテ和氣靄然タル御吉齒を被為迎候御義奉恭賀候、昨年ハ色々御厚庇を蒙り難有奉感佩候、依旧不

相変御眷顧ヲ祈上候、陳ハ旧^{〔體〕}猶ハ大学設立之主意書御投送被下正ニ拝受仕候、乍不及応分の賛意表し可申覚悟ニ御坐

候、劣生も無事送光仕居候間、御降意可被成下、近日帰郷之途路叩門御安否を奉伺度と存居申候、東京現今の模様ハ

自治党の挙動同様静穏ニシテ傍觀者より使評候へは恰モ大晦日ノ多忙ニ疲れ屠蘇を過ゴし醉眠を催し候有様トモ可申

体裁ニ御坐候、于時目下降雪の氣候ニ御坐候へは尊軀御自重專一ニ奉神祈候、迂余ハ不日期拝芝候、勿々謹言

一月六日

彦次郎

拜

新島先生

同 夫人

閣下

二伸、荊妻よりも御年詞の御礼加筆申出候、再拜

397

一月七日

大久保真二郎

④墨

明治廿二年一月、神学生大久保真二郎恐惧謹テ書ヲ襄新寫先生閣下ニ奉ル御掬益御機嫌能御超歳遊ハサレ恐悦奉リ候、回顧スレハ已ニ十年前則明治十二年中無礼ヲ極メテ閣下ニ背キテヨリ一昨廿年一月再ヒキリストヲ信スルニ至ル迄凡ソハケ年間ハ恐ルヘキ境遇ニ墮落シ今ヨリ追想スルモ戦慄ニ堪ヘサルナリ、当時ハ唯權謀術数ヲ以テ幸福ヲ得ルノ手段トシ放埒懶惰ヲ以テ幸福トセリ、殊ニ廿年一月ニハ天ヲ蔑ミシ人ヲ無ミシタルノ極百般ノ計画悉ク破レ四囲弥迫リ境遇弥窮シ天地広シト雖モ身ヲ容ル、所ナク生民多シト雖モ憐ムモノナク血肉ノ父母ト雖モ尚且ツ愛相ヲ尽カスニ至レリ、妻ハ病床ニアリ児ハ飢ニ泣キ債鬼外ニ迫リ、良心内ニ責ム、蓋シ一生ノ苦辱此時ニ群集シタリ、天ヲ怨ミントスレハ天ハ能ク我レヲ寛容シタリ、人ヲ怨ミントスレハ人ハ能ク我レニ欺カレタリ、我レヨリ怨ムヘキ様迎アル事ナ

ク唯怨ムヘキモノハ実ニ我心ノミナリキ、彼ノイスカリオテノユダハイエスヲ売タシテヨリ良心ニ責メラレ遂ニ悶ヒテ縊レタリト、然リト雖真末タ所謂煩悶ナル感情ヲ知ラサリシニ今ヤ実ニ之ヲ実験セサルヘカラサルノ時トハナレリ、苟クモ越シ方往末ヲ考フレハ起臥ニモ堪ユル能ワス寐食ニモ堪ユル能ワス、或ハ柱ヲ嚙ミ壁ニ頭突キ或ハ机卓ヲ転覆シ書籍ヲ飛ハシ人若シ之ヲ傍觀セハ畜ニユダノミニアラサルヘシ畜ニ狂犬ノミニアラサルヘシ、強ヒテ心ヲ静メテ月ニ対スレハ月ハ語ラスシテ我ヲ恨ムカ如ク四山ハ言ワスシテ我レヲ責ムルニ似タリ、愁人慚悔心腸將ニ寸断セントスルモ既往ハ追フヘカラス実ニ如何トモスル能ワサリシナリ

一日奮然トシテ断言シテ曰ク斯バカリノ前非何ソ深ク意トスルニ足ラン却テ之ヲ利用シ大名ヲ搏スルノ資トセンノミト、無残ナリト雖モ妻子ヲ手刃シ熟ク法網ヲ脱シ二三十年独逸国ニ潜伏シ業成ルノ后帰朝セン、妻子憐ムヘシト雖モ志業ニハ替エ難キナリ、父母曾テ我レヲ以テ自負シタルカ故ニ近隣ノ指笑ヲ得タリ、今尚ホ此醜聞ヲ耳ニセハ必ス慚死スヘシ、然ルトキハ我レハ父母ヲモ手刃スルナリ、嗚呼人ノ子トシテ父母ヲ弑シ人ノ父トシテ子ヲ殺シ人ノ夫トシテ妻ヲ殺ス、自ラ裁スル所以ヲ知ラサルナリ、然リト雖大丈夫豈ニ斯バカリノ些事ノ為ニ畢生ノ志業ヲ挫折セン、唯此上ハ志業ヲ以テ父母妻子ノ讐敵ナリトシテ攻撃センノミト、意全ク決ス是ニ於テ心初メテ安キヲ得タリ

偶マ思ヘラク、キリスト教ノ益々世ニ弘通スル事実ハ不思議ナリ、聖書ニ記載スル所謂奇跡ナルモノハ無論妄想妄信ニ相違ナシト雖モ唯此事実ノミハ奇跡ナリ不思議ナリ、或ハキリスト教ナルモノハ真理ニシテ世ハ果シテ生ケルモノ、支配スルニハアラサルヤトノ問題、今ヤ此問題ハ最モ激烈ニ脳髓ニ浮ヒ来レリ、尤モ此問題ハ墮落中ノ八ケ年間モ未タ曾テ真ノ脳髓ヨリ程遠クハ去ラサリシ、八ケ年ノ旅程ハ一日モ安心ナル事ナク常ニ一命ヲ賭ケテ決行セサルヘカラサル程ノ險ワシキ旅程ニテアリタレハ此問題ハ時々力強ク我脳髓ヲ刺戟シタリ、然リト雖モ當時ハ斯ナル刺戟ヲ

受クル毎ニ又モヤ憶病神我レヲ敢テ攻撃スルヤト唯一刀ノ下ニ兩断シ去リタリシニ唯此度ノ攻撃ノミハ甚タ激烈ニシテ遂ニ庄倒スル能ワスシテサリシ、而テ却テ思ヘラク妻子ヲ殺スハ手裡ニ在リ、何時之ヲ実行スルモ自由ナリ、自由ノ中ニ在ル最后ノ手段ヲ急カンヨリ寧ロ此世ノ思ヒ出ニ今一回彼ノ生ケル神アルヤ否ヤヲ精確ニ研究シ、然ル後最后ノ手段ヲ行フモ未タ晩カラスト、而シテ之ヲ研究スルハ無神の書籍ニ就ヒテ研究センヨリ寧ロ有神の書籍則聖書ニ就ヒテ研究セント、是ニ於テ窃カニ妻ノ聖書ヲ携ヘ三階ニ上リ悉ク來訪ヲ謝絶セシメ奴婢ノ昇降ヲ禁シ、故ラニ昼食ヲ喫一心不乱ニ聖書ヲ読ム、其第一日ニ太、九〇三六ニ牧者ナキ羊ノ如ク衆人ナヤミ又流離ニナリシ故ニイエス之ヲ見テ憫ミ玉フト言フニ至リ已ニ赫トシテ真ノ心燃エ立テリ、思ヘラクイエスハ実ニ慈悲憐愛ヲ以テ心トシ世ノ為ニ粉骨碎身セリ、吾レハ貪戾殺伐ヲ以テ心トシ肉慾ヲ貪ラン為ニ人ヲ苦メリ、吾レハ吾レノ所為ヲ以テ英雄ノ所為トセリ、彼レハ必ス彼レノ所為ヲ以テ英雄ノ所為トセン、而シテ真誠ノ英雄ノ所為ハ二者ノ内果シテ孰レナルヤ嗚呼吾レ誤テリミミミミミ、大丈夫豈ニ何ソスタル不潔卑屈ノ内ニ一生ヲ埋没セン、イエスヨ吾レ今ヨリ爾ヲ友トス吾レ豈爾ノ如ク清淨高潔ナル能ワサランヤト覺ヘス一声号叫シタリ、是レ真ノ実ニ最大幸福ノ大道ヲ諦觀シタルノ發端ナリ、爾后聖靈ハ日々真ノ頑心ヲ開キ世ハ生ケル神アリテ支配シ玉ヘリ、イエスハ其証ノ為ニ遣ワサレ玉ヒシ救主ナル事ヲ悟ラシメタリ、是ニ於テ主ノ前ニ跪キ合掌シ拝シテ曰ク畜ニ罪深キモノヲ刑シ玉ハサルノミナラス却テ罪ヲ贖ヒ救ヒ玉フ、主ヨ願クハ吾身ヲ爾ノ榮ノ為ニ寸断シ清キ生ケル供物トシテ受ケ玉ヘヨ吾性慄慄動モスレハ功名ノ野ニ飛揚跋扈セントス、願クハ吾レヲ縛メ唯爾ノ榮ノ為ニ用ヒ玉ヘヨト、是レ真ノ明カニイエスニ從フタル所以ナリ、狂熱ノ極トハ言ヒナカラスタル企テサエモ容易ク成就スヘシト迄思ヒ込ミシハ当地時ノ煩悶ノ程思ヒ遣ラレ今更追想スルモ戰慄スルナリ、若シ之ヲ敢テセシモノナラハ今ヤ真ハ實ニ地上ノ人ニアラサルヘシ、嗚呼当地時真ノ前途ハ八方皆墜

塞シ何レノ道ヲ撰フモ皆鬼トナルノ外カ道アラサリシナリ、唯キリストハ閣下ニ住ミ玉ヒ至慈至仁真ヲ招キ真ヲ救ヒ
遂ニ今日アラシメタリ、真タトヒ輕薄ナリト雖モ如何ンソ此厚恩ヲ忘却セン、真タトヒ薄恩ナリト雖モ如何ンソ事毎
ニ感謝ノ念溢レサラシ然リト雖其感謝ノ方法ハ唯キリストノ愛ヲ顯ワシ憐ヲ証シ天下ノ兄弟姉妹ヲシテ最大幸福ヲ得
セシムルニアル事ヲ信ス、而シテ今ヤ真ノ心術唯此点ニ凝集シテ安心ト希望ト快樂トハ常ニ真ヲ誘導ヒテ手ノ舞ヒ足
ノ踏ミヲ弁セサラシム、嗚呼斯ク迄卑劣不潔ナルモノ如何ニシテ是ク清淨高潔ナル身トナリタルヤ、斯ク迄困辱煩悶
セシモノ如何ニシテ是ク安心快樂ノ身トナリタルヤ斯ク迄途方ニ暮レタルモノ如何ニシテ是ク多福多望ノ身トナリタ
ルヤ、之ヲ思ヘハ恍トシテ絵ニ在ルカ如ク又惚トシテ夢ニ入ルカ如ク、実ニ感謝セントスルモ其詞ヲ知ラサルナリ、
若シ此ノ感情ヲハ実ニ分甘シ得ル事ナラハ、タトヒ身ヲ寸断スルモタトヒ指尖ヨリ焼キ尽クスモ殆ト將ニ厭ワサラシ
トス、嗚呼未タ神ヲ知ラス、キリストヲ知ラサルヨリシテ無慘ナル世ヲ啣チ無情ナル人ヲ託ヒテ心細ク便リナクアタ
ラ此世ヲ味気ナク送ル兄弟姉妹ハアラサルヤ、或ハ真ノ旧状ニ類シタル苦辱煩悶ノ中ニアル兄弟姉妹ハアラサルヤ、
何卒シテ此兄弟姉妹ニ此幸福ノ音信ト此快樂ノ感情ヲ分甘セント思フノ余リハ真ノ久シク曾テ疑ヒヲ凝ラシタル点ニ
於テ端ナク一篇ノ文字トハナレリ、書ハ固ニ意ヲ尽クス能ワス、況ヤ真ノ不文淺劣オヤ、然リト雖モ幸ニ閣下垂覽毫
厘モ神ヲ証シ、キリストヲ証スルニ於テ補ヒアリトセハ真ノ感謝ノ情ニ於テ一日ノ責メヲ防クニ足ル敢テ電覽ヲ煩ワ
ス事爾リ、恐懼々々謹言

千八百八十九年

明治廿二年一月七日

神学生

大久保真二郎

拝具

裏新嶋先生閣下
侍史函丈

398

一月七日

大沢善助

①京都

②神戸諏訪山和楽園

貴酬

④朱

恭賀新年

天父御恩下ニ御機嫌克御超歳被遊御病氣モ追々御快方之由万々目出度奉存候、小弟モ家族ト共ニ無異越年仕候間乍憚御安意被下度候

陳者御照会相成候原殿令嬢ノ件は過日金森氏より御尋合ニ付左ノ返答申上候、本校は第一期ノ試験ニ二科落第セシモノ五名退校ヲ命ジタリ（是ハ女学校ニハ未曾有ノ処分ニテ少シ不似合ナル様被存候得共他ノ生徒ヲ奨励シ実力ヲ得サスニ必用ト認メタレバナリ）亦一科落第ノモノ六名有之当期ノ始メ再試験ヲ行フ積ナリ、右様ノ訳故算術分教英学リータ一（ウキルソン ナシヨナル）新撰中等小学読本等ノ力充分アルニアラサレバ入学六ツケ敷夫故可成九月ニシタラバ宜敷カラント、併シ学力ソコ／＼有之候ハ、入学ハ何時ニテモ差支無之候間左様御承知被成下度先は右御回答迄、敬具

一月七日

大沢善助

新島先生

閣下

399

一月八日

伊勢時雄

①東京本郷東片町一三四 ②神戸^{〔原〕}取訪山和楽園 ④墨

宣教師の方ニも何カ尽力し呉候へはあまり之ヲ輕んずるも不本意ニ候へは又合併ノ事ニ付二月初旬ニは委員會有之可申候へは彼是ニて二月中旬過迄出立延引可申ト相考居申候、尤も其中電報ニて金貨一万ドル送り呉可申旨ボールド申参候ハ、洋行ヲ見合せ可申候、小生洋行ヲ見合せシムル為メ或ハ右ハ行ハれ可申ヤも知レ不申

先日は参上仕御厚情ヲ蒙万謝之至ニ奉存候、又御年賀之御状ヲ戴き御丁寧之至奉感謝候、私よりも実ニ法外之御不沙汰申上候、実ハ帰京後直ニ一書差上申筈ニ御座候処小崎古庄江相談ノ上ト存押^移申候、尚相談漸く相開候事ヲ得候へはデホレスト氏来られ宣教師会議あるべき由申され委數同氏江小弟の考を申述置申候、其前後ニ西京より電信書翰等盛ニ参り小弟江同志社牧師たるべき事ヲ勸メラレ申候、乍然私の召シハ東京ニありト堅信仕且一万ドルヲ得べき事神の旨ならんと信し申候間断然同志社ノ方ハ謝絶仕候、去安息日ニ十七人の会仕、昨一ケ年中ニ五十五人程増加仕候、大学ナドニも追々道ヲ求ムルモノ増加仕候、一大会堂ヲ建ルヲ得バ決して失敗ハ仕間敷ト神ヲ信申候、何卒御尽力ノ義此上奉願候、宣教師之相談如何ニ相成候や何れ一兩日中デホレスト氏参られ可申候ニ付其都合如何ニ付処置可仕奉存候

一月八日

新嶋先生

伊勢時雄

尚々弊家一同無事ニ御座候、乍末令夫人ニ宜敷御申上可被下候

400

一月八日

富田鉄之助

①東京麻布区市兵衛町二丁目八拾八番地 ②神戸諏訪山和楽園 ④墨

新禧慶賀御莊栄御加年重疊不斜奉賀候、小家無異加年仕候御安易奉願候、旧冬中より意外御疎意御申訳無御座候、伝聞候得ハ賢台ニモ追々御快氣之御容子大慶不過之乍去御油断無之様此上ニモ御加養相成度切望仕候、東京は兩三日寒氣強ク相成候処雪ハ至而輕ク雨も亦不足ニ有之候、東華学校も至極都合宜敷様子ニ御座候、当年ハ是非〳〵資本増加相計リ度多分屯万円位ハ可出来哉と腹按丈致居候得共御承知之通り之地方故手ニ握リ不申内ハ明言難致候、扱市原氏去就之義ニ付過日商議委任之一人参リ候間篤と内談致置候所東華学校ノ信認を得ルと得ザルトを此兩三年間ニ有之尤大切之時節ニ候得ハ市原君之去ラル、ハ尤不賛成之旨申居候何レニモ帰仙之上一同江相談之上同氏より直ニ返事致し候筈ニ候、多分不同意と申方ニ可有之候、尤兩三年経過之後ハ同氏所望之通り留主中家族生計引受不苦と申居候、其後之模様不承候得共大略之模様此の如クニ候、此中御令閨様江宜敷お縫よりも宜敷申上候様申出候、草々頓首

一月八日

鉄之助

401

一月九日

不破唯次郎

①前橋本町三丁目 ②神戸山本通り四丁目 英和女学校届キ 要々 ④墨

荊妻病中ニ付新年之慶賀、先生御病氣御伺も届兼候、現時御病躰如何ニ被為在候哉御全癒神祈罷在候、妻病氣ニ付而ハ種々殊の外御配慮に与リ本人ニ於テモ欣喜罷在万々拝謝仕候、然ルニ元日頃聊快色相見候処一昨日来病重リ呼吸切迫苦痛罷在候末、今午前五時就眠致し候義ハ今朝電報仕候通りニ候、茲ニ御礼ヲ兼御報仕候、頓首敬白

一月九日

唯次郎

拝

襄先生

閣下

二伸、御令聞へも本文之趣旨御伝へ可被下候御郵送之恩賜ハ正ニ拝受仕候

402

一月九日

金森通倫

①大坂土佐堀二丁目三十六番地 国本方 ②神戸山手和楽園 ④墨 ⑥日付
は消印による

拝呈、陳は小生儀昨日当地にまひり早速偕行社の方へ出かけ候処、大層なる来客にて凡そ千二百人もありしと存

候、近府県下の知事書記官等を始め軍人は素より裁判所府県会其他豪商紳士の大集会にて随分立派なる見物にて人物

〔陸軍始め〕

学には至極適當なる場所と思ひ眼を張りて人々の様子を觀察致し申候、昨日は汽車にて富永、松浦、西村、古川等と

一所に相成申候、昨日の来客中に重なる所は兼てより相知る人々なれば別に紹介に及ばず其他は目に余る大衆にて誰

レが何所に居るやら一切分らず高嶺中將は主人ノ事故甚だいそがしくて仲々紹介などをゆるく致す暇もなく私も別

に是ぞと云ふて紹介を受け度人も無之候故出来る丈けの人々に面会致しをき申候、昨夜は宮川氏か宅に一泊致し今朝

より表記の処に投宿致し候間以後は此処へあて御通信被成下度候、九鬼図書頭殿へは一昨日面会致候処同氏は先日三

〔隠義〕

田公に面会致され十分に大学の事を話し込まれたる由、然し同君の云はるゝに今は丁度折悪しき時にて三田公には昨

年中非常なる借財をなされたる故寄付金を申込むには随分困難なる時の由、又同公の信仰が全く地に落ち徳義など云

ふ事は少も頓着せぬ風の時ゆゑ是亦甚だ不都合の一個条なりと、然し既に賛成したる上は応分の寄付金を投するとの

事ゆゑ少くとも六七百円出さるならんと、右は図書頭の話に候、私は能々同君の御労りを御礼申して引取りツグ／＼

相考へ候に図書頭の勧メグライにて是れ迄運びたる程なれば此上先生ガ御出に相成り京坂神の有志家の寄付のモヨウ

是三田公の寄付の如何に大關係を有する事とて御話し下さらば、^{〔吃〕}乞度同公の心を動すと被存候、又其上鈴木氏ガ内部にありて尽力せらるゝならば事は十分にゆく行くと被存候、三田公の寄付が二千より下に出ては甚だ困却に候はば何卒此度はどふかして二三千にのぼる様に御配慮願上候、同公の寄付が弥きまりたる上、小寺を始め其他の有志者にも迫り大挙して寄付を募るの好機会がまひるべしと存候間、可成此事を早く甘くやり度き者なり、私は此二三日当地に留り藤田を始め其他紳商等に面会仕り度存候故、表記の処へ暫時投宿致候、然し何時にても御用有之候ハゞ、郵便なり電報なりを以て御呼よせ下され候ハゞ、早速罷出申すべく候、先生が三田公に御話之上は直きに鈴木氏に其模様を御通知ありて何とか同人がよくやりてくれる様に御依頼なし下され度候、若し又先生の御話之上私が神戸に来る事の必要あらば直ぐに御申越し被下度候

〔後欠〕

403

一月九日

徳富猪一郎

⑤ 森中章光写（孔版）

新島先生

徳富生

新年以来甚だ御無音申上候、是れとても所謂□事匆忙ノ致ス所幸ニ御高恕ヲ乞ふ○同志社集金モ追々と出て来り候模

様にて今一層尽力セハ随分出来ル事と存申上候、但シ東京ニ於て専務尽力スル人無之困リ入申候○上州地方ハ別して
出金高モ多カル可く、尚本年ヨリハ段々各地方トモ賛成ノモノアルヤニ見受け申シ候、別紙ハ朝野新聞より受取りタ
ルモノにして御手元ニ差出し申候、其ノ篤志可感也、本年四月頃ハ是非共今一度御上京可仰心算ニ御座候、先生御上
京ニ相成居候ハ、御高臥被成居候ても随分事ハ緒ニ付き可申、必ラス其ノ節ニハ今再応ノ募集ニ着手仕度何卒先生
ニモ充分それ迄保養ノ上御出京奉待候、本回ノ国民之友ニハ高等中学廃止ノ議論致し置候以来追々我党と文部と教育
上ノ主義ノ異同ヲ弁論致度積リニ御座候○海老名氏ハ頃日伊セ氏ニ説破セラレ再タヒ合併論ニ変説したる由熊本より
通知有之候

以上彼是取り雑奉得貴意候、寒氣峭料幸ニ天下ノ為め同志社のため御加養千祈万禱申上候、頓首再拜

一月初九

404
一月九日 安永 稔

①京都烏丸通同志社予備校 叩願拝
御直披 ④墨 ②兵庫県下神戸諏訪山和楽園 乍恐煩

尺素拝呈仕候、陳ハ新禧之御慶万里同風芽出度申納候、先以テ御全堂御揃御機嫌能御超歳可被遊欣喜雀躍之至ニ奉存

候、二ニ迂生ニモ 真神之御恵ニ拠テ無事加年仕候間乍憚御休神被降度候、先八年甫之御祝詞迄、早々敬白

一月九日

安永 稔

拝

新寫裏先生
侍史

別伸

近来ハ先生御病勢如何ニ被為在候哉、先般神戸教会奉堂式之節山中百氏ト共ニ高門ヲ叩候得共生憎先生ニモ御令閨様ニモ御他行中ニテ遂ニ不得拝顔実ニ遺憾此事ニ御座候、定テ漸々御快方ニ被趣候事ト奉万悦候、却說ニ西宮ニ五十田勇次郎ト申迂生之知己人有之、当人之長男ハ栄次郎ト申候テ即今普通科老年生ニ候処予備校在学中不得止方ヨリ特別之依頼ヲ受ケ今ニ至ル迄万事幹旋致居候ニ付、当休暇中他ニ用事モ御座候間同方ヘ罷越乍序大学義捐金該地方募集方依頼候得共、曾テ先生カ世ニ広告セラレタル主意書ヲ拝誦シテ爾来先生カ目下御病氣ヲモ不被為厭生命オモ擲テ我邦家教育上ノ為ニ御尽力被成降候ヲ熟慮候得は実ニ感謝ニ堪ヘサルヲ以テ学ナク智ナク且未信基督教モ微力之及限リハ兼テヨリ義捐金募集ノタメ奔走スル覚悟ニテ罷在候トテ承諾仕申候、元来此人ニ於テハ格別財産家ト申者ニ無之候得共金穀貸付仲次商ヲ以テ營業トナシ居候得ハ地方之金満家ハ皆挙テ該氏ト大関係ヲ有スル故ニ同氏ニシテ充分之世話サヘ致呉候ハ、同地方ハ随分好都合ニ相運可申ト奉存候、将又此人ニハ如何ナル断捐片紙ニテモ宜敷候間先生之御筆跡相願候様兼テ渴望仕居候ニ付此際ニ乗シ若シ御直筆ヲ以テ一言之御奨励ヲ辱候ハ、尚更其御恩ニ感奮仕候テ一層莘々トシテ俛焉奔走ヲモ可致ト奉存候、就テハ御病氣中近頃奉恐入候得共万一被為出来儀ニ御座候ハ、先生ヨリ当人ニ對シ義捐金募集方世話可致様御自筆ヲ以テ一言之御奨励迂生ヨリ只管奉願候、時下寒氣尚嚴敷御座候間邦家且后進

青年之タメ折角御保護奉万禱候、恐惶謹言

405 一月十日 本城安太郎

⑤『DOSHISHA 文学会雑誌』第十九号（明治二十二年一月三十日）

謹賀、主ノ御愛憐ニヨリ寸著^{〔稿〕}ノ実効ヲ奏シ申候嬉サノ余り左ニ申上候

旧臘炭坑舎ニ於テハ大坂神戸ヨリ坑夫四百余人新募集致サレ候中百六十人程兇慢暴戾彼等団結シテ就業ヲ拒ムノミナ
ラズ遂ニ一日夜集衆シテ警察署ヲ破毀シ巡查ト血闘シ鬨声ヲ揚ケ殆ド炭坑舎ヲ襲撃セントスルノ猖獗ナリ、將ニ百間
崎（人家稠密各納屋御座候）モ灰燼ナラントスルノ禍機眼前ニ現出シ慄慄暴戾炭坑舎大ニ防衛ノ策ヲ立テ警察嚴密人
々雜沓戸々締閉殆ド制ス可ラザルノ勢ニ際シ決然袂ヲ振フテ立チ手ニ一卷ノ聖書ヲ握リ満腔ノ誠忠ヲ以テ真神ニ祈リ
单身独行奮テ血闘ノ中心ニ単立シ巡查ヲ制シ兇徒ヲ叱シ是ノ兇氣ヲ退ケ直チニ彼ノ百六十人ノ惡漢ノ納屋ニ到リ論ス
ニ順逆ト是非ヲ以テス、暴戾兇漢頗ル喧嘩ノ中ニ呼応シテ私ノ説ク所ヲ耳ニセザルモノ、如シ、炉火燿々將ニ家棟ニ
燃炷セントス、遙ニ南窓ノ下ヲ熟視スレバ一漢半面朱ニ染ミ鮮血淋漓大息苦痛ニ堪エザルモノ、如シ、樹立シタル人
肩ヲ押シ分ケ静カニ其ノ許ニ到リ其名ヲ問ヘバ大坂松島ノ無賴ニテ神戸無宿喧嘩屋吉兵衛ト（本名粟田鹿次郎）ト
答フ、慙懃之レヲ立タシメ徐ニ私ノ右手ヲ其右肩ニ廻シ舌ヲ以テ其半面ノ鮮血ヲ嘗メ左額ノ刀疵ヲ舌ト唇トヲ以テ之

レヲ吸療シ左眼中ニ（コマリ）（着ノ烹凝ヲ云フ）ノ如ク凝血シタル汚血ヲ吸出シ治療ノ状ヲ兇徒等之レヲ熟視シ満場ノ悪声雜沓^{〔音〕}忽然トシテ止ミ満室恰モ人ナキカ如シ、私ノ口側鮮血淋漓タルニ唾キヲモ吐カズ直チニ説クニ順逆ト是非ト時勢ト境遇トヲ以テ福音ノ妙境ニ到リ遂ニ彼ノ兇徒百六十人ノ感佩ヲ惹キ起シ殺氣將ニ天ヲ突カントスルノ禍機ヲ退ケ焰々將ニ百間崎ヲ灰燼ナラシメントスルノ兇勢ヲ攘ヒ洵々囂々將ニ輿論ノ問題ニ入ラントスル魔鬼ヲ譚伏^{〔機〕}シ局外ニ中立シテ警察ト炭坑舍トノ間ニ奔走シ五人ノ負傷者ヲ安撫シ巨魁四名ヲ論シテ主ノ信者トナシ残忍ナル納屋頭等ヲ感泣セシメ、先ツ々々今日ノ無事ヲ保チ神私ヲ撰ミ玉フ、寸著^{〔緒〕}ノ実効爰ニ感謝ノ余リ偶成ノ一絶御叱評ヲ願上候、先ツハ要用迄、主ノ為メ御自愛願上候也、アーメン

獬々群狼皆決死 福音響潤一垂耳

慈々上帝愍斯民 知是吾儂一歷史

一月十日

在高島

本城安太

九拜

主ニ在ル

新島襄先生

台下

406

一月十日

金森通倫

①大坂土佐堀二丁目三拾六番地 国本方 ②神戸山手和楽園 ④墨

本日発之御書只今到着致難有拝見仕候、先日圖書頭殿へ面会後は私も三田公の事は如何なるらんと心配致し居り申候、若し同公の寄付にして二千より下に出る時は其エイキヨウする所甚だ悪しく兵庫県全体の不都合と相成候間何にかしてよくやり度者と存居り候処、本日之御書により弥困難なりと思れ候、然し鈴木氏によく／＼依頼しあれば尙幾分か望みある事と被存候、当地に於ても本日藤田氏に面接致し候処一個人の賛成は十分に致すなれども自ら其為に十分周旋尽力する事は随分困難なる様に申され候、今日は知事も児島も留守、高島は娘の大病にて取りまぎれ何れも面会する事を得ざりしなれども明日は知事に面会して純友の広瀬土肥田中玉手寺村松本等の豪商連へ紹介してもらふ心組に候が如何相成るや是れ亦随分困難なりと被存候、大坂は関西に於ては最も大切な場所なれば十分注意してかゝり度存居り申候、サア是より弥大坂を動すべしと思ふてかゝりて見ますれば恰も大バンジャクに当り左様で其難き事はシミ／＼骨にテツします、市田氏には最早御面会下され候や、あの男はよくすると役に立つ人間に候間何にとかしてよく御交際下され度候

右は本日の様子御報迄、早々

一月十日

通倫

新島先生

407

一月十日

松尾音二郎

①京都同志社 ②神戸諏訪山 御親展 ④墨

拝啓仕候、大久保氏〔七熊〕ハ昨日再試験及第致候、先生よりの御主意懇談致候処同氏一層勉強致様申居候

広津氏ハ本月中頃にハ帰校致様申居候間程なく帰校可致と奉存候、同級生広瀬氏〔孝次郎〕ハ直接伝道に従事致度決心を持ち居

候間若し先生の御手元へ適當の地方より伝道者依頼致者御座候へハ右広瀬氏の事御考へ被下度奉願候

序ながら申上候

をかしい様で先生に申上くるも如何と奉存候へ共敢へて御高意を伺ひ申度事ハ段々外界の友人中よりもワイフをエン
ゲージすべしと勧むるものもあり其必要を感じる点も有之やに覚へられ候へ共充分生涯の大事と奉存候間輕々しく着
手難致此くハ先生の御意を得たく存する次第に御座候、尤も唯是れ思想に止まる事にて未だ実物を是れと云ふて持ち
をる小生には無御座候

先生御多忙之際あまり浮きたる話の様に笑止千万と奉存候へ共若し御閑暇も有之候へハ一寸御高意御漏し被下度奉
願候、笑止く頓首

一月十日

松尾音二郎

新島先生

玉机下

一月十日 中山光五郎

①野州佐野町白金内 ②兵庫県神戸和楽園 乞御親展

恭賀新年

尊堂御揃神恩之下に御超歳被遊奉賀上候、次に小生義も主之御高恩を仰無恙加年罷在候間御休神可被下候、陳は旧年中ハ当地伝道之義に付御高慮を煩はせし事一方ならず万々奉謝候、尚不相變当地之生靈カ神恩に沐浴するの時を近〔付〕かしめん給はんことを御祈被下度候、当地之景況を申さハ町内にて木日兩曜日の夜説教すれども聴衆甚少なく夫も秋期に於てハ二十人内外表に立て聞く者ありしか冬期に及てハ七八名殊によりてハ老名もなき事有之候、有志家ハ何分宗教を研究するの心を起さず中以下に位する人民ハ唯旧弊に蔽はれて之を脱せんとするの心も無之有様ニ御坐候、諸官衙并諸会社の如きハ新年の祝意を表すれども一般人民は悉く旧曆を祝せんとして待居る様子に御坐候、多田氏ハ他の人々に教の事を勧める様子ハ有之候得共未た自ら求めるの心なしと相見へ申候、同細君にハ時々面会して話し候処感し入りし体に御坐候得共未た進て求めるの心に乏しく御坐候、同家に居る書生にて藤井氏ハ能く聖書を研究し且其友人にも勧め居る様子に御坐候得共未た説教所に来る事を得ず、又当町の南五六丁にして植野村あり此にて毎月曜日に説教仕候処十五六名の聴衆有之候其中老人ハよく道を求め居候、又当町機業事務所の書記堀越氏ハ頗る熱心に聖書を研究致し居候又是より後月に若四位高橋優君の故郷下都賀郡大久保村に伝道仕候、此地ハ佐野より五里^{〔内〕}氣車にて往く時ハ栃木迄五里栃木より歩行二里半に御坐候、高橋兄の甥にて文哉と申人ハ頗る熱心に教を求め居候、其他

に伝道致度所ハ二三ヶ所有之着手仕度心掛居候得共未其手順に運はず候、先当分之番にて望なき処に御坐候得共耐忍
て働かハ後にハ好果を得へしと奉存候間小生をして長く此地に働かしめ給はゞ小生ハ喜て耐忍する決心に御坐候、何
卒小生の為否当地之為に御祈被下度奉願上候、先ハ新年之祝詞旁当地之景況申上候、頓首謹言

一月十日

中山光五郎

新島先生

玉机下

409

一月十日

大久保七熊

①京都同志社

②兵庫県神戸諏訪山和楽園

平信

④墨

拝呈仕候

善き御春御迎ひ被成候と察上候、又先生之御病氣は益々御全快におもむかれ候由大慶之至に奉存候、次に小生も無事

消光罷在候間乍憚御安神被下度候、扨迂生事此度之試験に落第致し何之面目も無之候、折から先生よりは川本氏へ之

御書状又金子氏へ之御伝言重々之御忠告之程誠に雀躍之至に奉存候為めに精神を勵し候、就ては直ニ「〔C.M. Catch〕ゲーティ」先

生より再試験を相受け候処幸に及第仕り候間御安心被下度候、之偏に先生之御忠告之依て然らしむる所と存じ平に鳴

謝仕候、因て御段御礼旁御報知申上候、謹言

一月十日

大久保七熊

二仲、追々烈寒に相成候故益々御身体之御保養專一に被成る様偏に祈上候
乍憚奥様へ宜敷御伝へ被下度候

新嶋先生

410

一月十日

柴原宗介

①京都 ②神戸諏訪山和楽園 執事坐右 ④インク

謹 奉新諱之祝詞

閣下愈御履祥御越年敬賀ニ不堪候、降而不肖全家無異加馬齡候乍憚御放念可被下候、偕爾来は絶テ安否伺ヒ申ざす
御無礼仕候御病体如何ニ御起居被遊候哉定めて漸次御快方と奉恐察候、乍略筆御見舞申上候、敬白

明治廿二年一月十日

柴原宗介

拝

新島先生

閣下

同 夫人

再白、廿二年ハ国会開設之前一年ニ迫リ国家漸ク多事ナラントス我等も亦心中何となく多事ナルノ感益々強く相成申候、付テハ到ル所團結トヤラ俱樂部トヤラ申シテ私交ヲ強め公誼^{〔文〕}を敦くして政治上同志組織準備ニ汲々たり憲法ノ発布之近きにあるとやら、何レにしても明年の国家ハ頗ル海面激波^{〔逆〕}反卷ク時ナレハ航海者須ク勤慎^{〔謹〕}ヲ加ヘ輕躁ニ流レヌ急激ニ渉ラス温和着実ニ真理ニ従ヒ真理ニヨリテ自由ノ運動ヲナス事大切ト被存候、只今日之国家ニ対シテハ清教徒ノ盛ニ起リ我国ヲシテ健全ノ基礎ニ安キヲ得サセン事ヲ希望ニ不堪候

411

一月十一日

加藤勝弥

①ニイカタ カツカウ丁 ②カミ ドウシシヤ（金森通倫と連名宛） ⑥電
報（送達紙 午前十一時三十分発）、封筒裏書 新島朱筆「電信五六通」

トウゴ ウキタタノム

一月十一日

伊勢時雄

①東京本郷東片町百三十四番地 ②神戸^{〔歌〕}職防山和楽園 ④墨

一書奉拝啓候、益御清適可被成御休養奉大賀候、陳者新潟ノ事ニ付てハ愚考仕候処ニよレハ森本氏ハトテモ参リ申間敷目下何カ著書ニ従事仕居候由、而して今度事業ニ従事セバ生涯之働と見込ミて従事スル筈にて当分ハ隠遁して熟考可仕旨申居候、新潟之危急之状態ハ傍觀ニ不忍ト奉存候へ共森本も是迄種々ノ事業ニ従事仕何れも一年ヤ一年半ニして廃し候後ノ事ナレハ同人ノ信用上より考候ても一年間新潟へ参ると申事ハ些ト気毒ニ存申候、左レハ永く同校^{〔ニ〕}働テハ如何ト申候ニ同氏ノ学問性質より申候ても学校長ニハ些ト不適当カト存申候、乍然尚小崎トも相談仕可及丈思慮可仕候

小生米国行ニ付一兩日前デホレスト氏西京より帰来一寸面会仕候処、ミスシヨニテ添書を与候由ニテ御座候、尤もコードン及ヒデホレスト両氏の考ノ通ミスシヨニより書状ヲ以テ特別^{〔ママ〕}附寄金ヲ東京伝道ノ為メボールトニ促す事ハ不同意者ありて廃止せられ候由、蓋其理由^{〔反対者〕}トセン処ハ多分ボールドにて不承知ヲ唱可申、左候へハ小生ニ失望ヲ与フルノ責任ヲミスシヨニ不可不受との事ニ有之候由、今度ノ決議ハ素より小生之所望ニ有之申候間最早此上ハ早速出立仕度存申候、只宮川等之異論ハ如何可仕や、尤も小崎等ノ手ヲ経テ兼合置申、金森ハ宮川松山ニ相談致呉候や否、扱本月ノ便船ニもと存申候へ共中途ニテ宣教之方ゴタ／＼致居中、腰折申候間用意も出来兼廿四日迄ハ最早十余日外無之候ニ付止ラ得ズ来月ノカナダ便にて出立可仕候、多分十五日前後ト奉存候、何卒御添書ハ十日迄私手元ニ届申候様

御都合可被成下候、最早乗出したる船にて一心不乱ニ信し進むより外ニ道なくト奉存候、留守中ノ事ハ多分村井知至ニ当分依頼可仕候、当地講義所も追々都合よろしく目下六ヶ月引はづし候ハ多少之損害ニ御座候、乍然前途ノ中ヲ望めハ宏雄^{ソウ}壯ナル会堂なくしてハとても望無之、ふみ切りて出立可仕候、教會員ハ皆同意ニ御座候、尚私出立ニ付てハ何カニ付テ御氣付ノ件へ無御服蔵御忠告可被下候

先日之御書状ニ曾テ大阪ニ御送ニ相成候御玉翰ニ付御申越之趣御丁寧之段奉恐縮候、すでニ過去リ候事ニテ今更別ニ申上候事も無之、双方ニ於て少々ハ誤解有之候事ト奉存候、実ハ先生之御病状ヲ思ヒ御相談ヲ差扣候事不少候、乍然今日と相成御相談不申上候へは先生ハ却て御心配被成候間今後ハ委員より十分ニ御相談可申上先生も亦十分ニ無御遠慮委員に御意見御開陳可被成下候、先生之御意見委員之説ト附合仕候へは無此上次第二御座候、万一ニも相叶ハざる処有之申候ハ、五月會議之時御持出被成下度奉願候、何卒組合教会の中ニ分離之種子の相生せざる様仕度奉存候、且自由とハ申スト雖も不法ニ相成ざる様仕度事ニ奉存候、若し委員之挙動にしてその分ニ適ハざる処ト御思召サル、事有之申候ハ、何卒直ニ御忠告被下候様乍此上奉願候、又御氣ニ滿ざる処有之候へはその旨無御遠慮御示し可被成下候、右御願用迄得貴意度、早々頓首拝

一月十一日

新島先生

伊勢時雄

413

一月十二日

鈴木彦馬

①京都上京区同志社学院 ②神戸諏訪山和楽園 御直披 ④墨

舌代

突然意外の珍事の襲来しより遂に先生の御尊慮を煩はすことニ相成候は^{〔畢〕}畢竟するに小子等不肖のいたす所誠に慚愧至極の次第ニ御坐候、然れとも別紙申述候如く事実既ニ無稽のことに御坐候間此等の汚辱を雪くの日もまた決して無きにあらざるへしと確信いたし居申候

右の事柄御答申上候ニ際し併せて種々御配慮被成下候こと御厚意の段深く奉鳴謝候、勿々不悉

一月十二日の昼過ぎ認

在京都

会津学生一同

再拝

兼子常五郎申上候ハ

先生の御伝言を大久保七熊、森田久万人の兩人へ伝言仕候處、幸に大久保氏は再試験にて及第被致候、森田氏は以来彼の件御注意被致候様ニ御坐候間、此段御休神被成下度候也

ドクトルベレー氏は四五日前にてありしか御苑内にて落馬めされ為めに「アバラ」の骨を折り挫キ其場に氣絶致居らるゝを皇宮警手に見付つられ其報知に依て家内の人ニもカケ付られ然も随分ナル大傷に入ラセラレ候よし、近頃ハ如何致サレシカ聞キ不申候ヘトモ右ハ確カナル事実のよしニ候ヘハ茲ニ御報申上置候

彦馬

一月十三日

中島信行

①横浜西大田松山 ⑤写真 ⑥月は消印による

芳書拝読仕候、先新年御清福御重蔵大賀此事ニ奉存候、近時は大学校設立ニ御尽力誠ニ邦家之一美事と存候、就ては
 小生ニ於而も応分之御助力申上度ハ不待言候得共、御承知之通微力之身且近来交接致候徒は多くハ貧生之者にて金満
 連ハ自然隔絶罷在候形情にて実以金円募集之一事心底ニ難任場合不少、加フルニ当地も昨今書籍館設立とか、其他金
 円募集すへき事のみ有之て困却之次第ニ御座候、乍去何れ熟考之上可申上と存候得共、先は不取敢御回答迄、玉体御
 病痼深く被案申上、昨今は如何被為入候哉、深寒之節一層御高養早く御快方ニ可為向祈候、先は右申入度、草々頓首
 (被脱カ)

十三日

中島信行

新島襄様

415

一月十三日

押川方義

④墨

急ギ辞理滅裂宜しく御推読奉願候

極寒之候に候得共目下先生の御容体は如何に被為在候哉、道の為邦家の為何分にも御療養專一の御儀と奉存候、陳は旧臘は芳書を辱ふせられ奉万謝候、早速御回答可仕筈に候処今般私家族東京へ移転仕候筈にて當時是が為非常に多忙に取紛れ居不本意ながら御返書遷延仕候段御海容被成下度候、偕一致論の事は我が国家に対しても頗る一大事件たれば御互に千々に配慮仕居候次第も御坐候事ニ付、私に於而も兼而より何卒先生には一応の御面会を得親しく御高説をも承り且愚見をも吐露仕度懇望仕居候次第に御坐候、然るに先般御惠書を玉はり誠に欣喜仕候、就きては私渡航前何様にも繰合せをなし数日の暇を造り是非出京参堂の上貴書に対しても意見を上陳し且他に御高説をも承り申度奉存候、当週中か若しくは来週初めには出京の為出発仕度候間御大病中恐縮千万に奉存候得共一日数時の御会話を御許容被成下度伏而奉願上候、何れ詳細の儀は不日御面会の節可申述候間此度は唯御返事而已申上度、草々如此御坐候也

一月十三日

押川方義

新嶋襄先生

小生も一昨晩着京表書の場所に住居相定め申候、落付申候間不取敢前条申上候也、頓首

一月十五日

津田元親

② Rev. Mr. J. H. Neshima ④ インク ⑥ 「托中村栄助君」

任幸便一書拝呈仕候、其後は御無音ニ打絶候段不悪御海恕被下度候、毎々舍弟次郎より御様子承り近来は御病氣も快方ニ趣かれ候様慶賀此事ニ存候、降而小子儀日夜 天父御恩寵之下ニ無異消日罷在候間乍憚御休意被下度候、渡米以來当地之人情風俗にも不通日々の事務上にも困難不少候へ共、昨今は漸く手慣れ万事都合宜敷相成候へは是又御安意被下度候

一、兼而次郎よりの報知と中村君の談話とにて同志社近況承知仕益々御盛大ニ被趣、大学之計画も粗々出来候由御本懷之至と存候、殊ニ皇国之為慶賀する所ニ御坐候、猶後便には愈々御設置之吉報同度相稟申候

一、中村君よりも御聞被遊候はんが、当新紐在留日本人中には宗教はさて置通常人間たるべき品行を保ち候ものとは殆んど稀ニ見受候人数中幸ニ小子のテンフーションを免かれ候は先生の御教訓に依りたれば今更同志社の余徳と感銘仕候、当時一貧生之身ニ候へ共貴校之為には充分尽力仕度覚^{〔悟〕}己ニ御坐候

先は任幸便御起居伺迄如斯ニ御坐候、書外は中村氏より御聞被下度候、恐惶敬白

千八百八十九年

一月十五日

在米新紐府

津田元親

新寫襄先生

閣下

二白、乍筆末御令聞並ニ公義様へも小生より宜敷申候様御鳳声被下度奉願上候、以上

417 一月十六日 徳富猪一郎

⑤ 森中章光写（孔版）

御令聞様ニも宜敷御伝声奉仰候

肅啓、只今尊翰相達シ拝読仕候、昨年より御不勝の模様定めて御困却と奉拝察候、何卒為天下為我党御加養專一ニ奉祈上候、却説此処ニ一事の御高見ヲ伺度事有之候、頃日熊本より奈須義質氏ヲ奥亀太郎の代リニ（同氏ハ福岡ニ在）招聘シ海老名氏の下ニありて教会及び伝道の為めに働きもらひ度旨接々小生迄依頼し来り候、同氏ハ甘楽郡ニて随分有用の人物ニハ相違無之候得共、熊本の伝道も随分緊要ノ事と奉存候

（第一）自今伝道上ノ好機ナル事

頃日改進黨ノ総代上京仕候、新聞新設ノ事ニ付、小生ニ依頼致シ候間、小生奔走の上其の首尾相ひ届き申候、其上小生より熊本改進黨ノ是迄基督教ニ対する政略の曖昧冷淡不親切輕薄ナル事ヲ痛論シ将来ノ事ヲ懇談致候処、彼等帰郷ノ上向後改進黨の末々ニ到ル迄決して基督教ニ邪魔セサル可シ、必ラス友愛ヲ以テ接ス可しと議決候旨申し来り候、

実ニ唯今ハ伝道上ノ好機ニて来年ニナレハ政治上ノ擾々ニて多少蹙^{〔蹙〕}き可申と存候

(第二) 非合併の勢力ヲ強メル事

尤モ九州ニハ大迫氏モ参リ居候間、大丈夫ト存候得共、既ニ海老名氏カ変節したる上ハ九州モ随分危ク候間、奈須氏ニても熊本教会ニ入れ置き候事甚た必要と奉存候

(第三) 学校生徒ノ為め都合宜敷事

学校生徒ヲ鼓舞激励スルニハ最も同人の長所歟と奉存候

(第四) 此ノ好機ニ投して伝道の領地ヲ広くる事ハ奈須氏尤も長所と存候、同氏ハ少年ナレトモ熊本県下ニハ多少名モ知れ知己交際甚た広きを以てなり

若し先生ニ於て自今熊本の伝道ヲ緊要なりと御思召あらは奈須氏ヲハ熊本教会の乞ふ所ニ応して派遣スル事得策歟と奉存上候、右謹んで貴慮の程奉伺上候

右ノ事ニ付テハ同氏ハ尤モハマリ居候、又た小生等友人の在熊者流ハ皆な歓迎仕居候趣きニ御座候
時下寒威料峭幸ニ御自愛を祈る、勿々頓首

一月十六日

トク富生

新島先生

玉案下

憲法ハ愈二月十一日ニ発布の由ニ御座候

418

一月十七日

新島公義

①和州奈良

②神戸諏訪山和楽園

④墨

拝呈仕候、扱新年ノ語モハヤ十日ノ菊トナリ今更彼は申上候モ厭ハシキ様奉存候へども過日私より一書進呈ニ付金森君より御返書及ビ尊下御書面拝読十回仕候、依テ左ニ愚見申陳度候

金森君ノ御意見ハ四箇条ト存候

第一彼ノ新年状ハ毫モ不都合ナシ普通一般ノモノナリ、曰ク首メニ年賀、次ニ陳謝、次ニ依頼、是レ商賈一般ノ例ナリト

若シ如此年賀陳謝依頼ト云フシンプルナル年賀状ナレバ何人モ申シ分ハ有之間敷ト奉存候、然ルニ惜ヒ哉、彼ノ新年状ハ其意ヲ貫クニ至ラズ誤解ヲ生シ易キ文意カト被存候、何トナレハ

首メニ成程、新年ノ語アリ、而シテ大学事件モ逐々運ビ来リ云々ト書キ来リ、且ツ謝シ、且ツ促ス如クアルハ、恰モ時下嚴寒ノ候……扱私共此度計画ノ事件モ云々……ト云フ如ク、彼ノ年首状ハ年礼ハ冒頭ノ伺ヒノ如ク、扱大学事件ノ用事ガ陳ベタク、又タ余程促ス所ロアル如クニ受取ラレ申候也、是ニ於テカ年賀ノ辞ニ加ヘテ或ヒハ大学ノ事ヲ促スガ如ク思ハシム、是レ豈得策ナランヤ（如斯輩ハ吾人ノ心事ヲ知ラズトバカリ放棄スベキカ）、彼ノ年礼文モ強テ全ク不都合ナシトハ申サレ間敷カト小生ハ奉存候

第二新島、金森連名ヲ公義ガ妙ニ変ニ思フタカノ御疑ヒ御書面ニ認メラレタリ

是コソ変ナ妙ナ御疑念ニシテ小生ハ全ク斯ル事ニハ無頓着ニ御坐候也

第三未ダ誰レモ咎メテ来ラズ云々、勿論小生ノ如キ身柄ニシテ且ツ大学及ビ尊下方ニ対シテハ小僕ヲ以テ自任スルモノナルガ故ニ、憚リナク将来ノ御注意迄ニ申上タル精神ナリ、強テ他人ヨリ咎メナシト云テ御油断ハナラヌ事カト奉存候

第四小數ノ者ガ彼レ是レ非難スルハ意トスルニ足ズ云々、且ツ公義ノ懇意ニスルハ森ヤ河井ノ輩ニシテ知事ヤ書記官

其他之モノナケレバ僅カニ森ヤ河井ノ小言ナラン

右ハ余リ感服出来不申候、小生トテモ知己トスルモノ豈河井森輩ノミナランヤ、書記官ヲ始メ警官税官県官判官等ニモ随分御坐候

森氏河井氏ハ吾々ト局内ニ立ツモノニシテ吾々ニ代リ局外者ニ弁明相働クモノニ御坐候、願クハ議ル事ナカレ全体此小言ハ局外ナル県官ノ話シト聞ケリ、若シ單純ニ

恭賀新年

昨年ハ大学事件ニ付何カト蒙御高配奉謝候、尚ホ本年モ宜布一層ノ御尽力ヲ奉仰候

位ニ御認メナラバ一人タリトモ誤解スルモノナカリシヲ余リ「油ラコク」御認メニ付人々之中或ハ変ニ感ジ、年礼ナルカ年礼ト併セテ促スノカト一寸厭ハシク思ハシメ、県官連中一人ノ話シカ二人トモナルナリ、又小生モ彼レ年首状ニテハ而カ思フナリ、由テ平生ノ御鍊手ニ御不似合ナル事と存ジ小事ナレトモ、新年ノ首メノ御失策カト存ジ直チニ筆ヲ把リ文字ニモ注意不仕御注意アラマホシト思ヒ先便申上候次第ニ御坐候、去リトテ一人茲ニ立服シテ大学事件ニ不都合ナリト申ス訳ニハ無御坐候、寄付金ヲ頼ムニ人々ノ感情ヲ快ロヨク有タシト思ヒ参ラスル故ニ申上タル事ニ御

坐候也

右ハ金森様ノ御書面ヲ拝見仕リ野生ノ愚考敬具仕候也

伯父様ノ御意見ニ就テ

第一人ヲ馬鹿ニスルト云ヒタル人名ヲ報知セヨ

何分以上ニ拝陳スル如ク年賀ニ加ヘテ草々ニ促シ来リタルカト思ハム馬鹿ニシタル事ナリト思フモ六理ナラズ、^{〔無〕} 県官中ニソシナ語氣モアリシト聞キ先便ニ申上タル事ニ御坐候

第二文字ガ過激ナリ汝ノ如キモノガ金森君上流ニ対シテ失敬ナリ

斯ク被思召候テハ先ヅ文字ノ粗忽失敬ナリシヲ茲ニ慎デ陳謝スルノ外ナキ事ニ御坐候、忠言耳ニ逆ラヒ微誠発シテ先便郵呈仕候次第ニ御坐候、唯タノ野生ニ於テハ寄付者ノ姓名モ日々多ク新紙上ニ上リ天下ノ人々が喜ンデ翼賛義捐セラル、ニ至ラン事ヲ窃カニ偏ヘニ奉祈候、想フニ此書面モ定メテ文字ニ不都合ナル処アラン寛大ニ御酌量ノ程奉願上候也、誠惶頓首拝復

一月十七日

公義

伯父様

尊下

九拜

二白、御病氣ハ如何ニ御坐候や奉伺候御大切ニ御保養奉願上候、乍憚伯母様へも宣布御伝声奉願上候也、新年何ノ御沙汰モ無之ニ付御伺申上候也

一月十七日

浮田和民

①印刷「京都府上京区第十二組堀井町第十一番戸」

②神戸港諏訪山和楽園

④墨

玉翰拝誦御無事之段偏に上帝之御厚恩と奉存候、愈々御養生被成候様奉懇願候、玆御申越之件々逐一奉承知候然ルニ大沢氏事件ニ就而の御申越ハ或ハ一方よりの Representation によりて先生の御耳ニ達せし者にハあらざるかと疑申候、固より今日の場合大沢の処置ニ出候事多く御坐候へども右ハ止を得ざる次第に有之、先づ去る九月以来小生の觀察監督致候処にてハ大沢氏ハ実に同志社女学校の為にハ非常の勲功ある者と相考居申候次第に御坐候、金森よりも同様の忠告を受候へども元来右ハ内情を知らざる忠告ニ有之小生大沢ニ代りて主権を取候様の事ハ到底行はれ不申今日の処にてハ学校内の処置ハ万端区分致候

一塾舎塾内の事ハ (Florence White) (和久山さん) ホワイト氏并ニ和久山処理致候

二庶務財政ハ大沢氏并じ

三全体の規則及処置ハ凡て女学校の教員會議にて議決致し小生モ必ず出席意見を吐露

仕候間万事大沢氏の越権或ハ専権といふ事ハ非常に事実反し居候事ニ奉存候、昨年迄ハ兎も角今日にてハ決して左る事無之、現に今日 ホワイト、ミス・デウキス及ウエインライト氏に問合せ候処彼輩ハ未だ曾て一度も同氏越権の処置ありしなどの感覚を懐きし事無之と非常に大沢氏の功勞を称賛致候事ニ御坐候、故ニ大沢にして越権の処置といふ

事ハ今日出来不申殊に諸生及落等の事ハ一ニ教員會議にて議決致居候事ニ御坐候

但し今日女学校の困難ハ女教師〔外國脱力〕と日本教師との情実往々通じ不申ル事と去年の頃神戸卒業の教員に対する大沢氏の処

置とのみが困難或ハ誤解の生ずる本かと存申候、右ハ大沢氏の意見にて和久山に人望なかりし故別に引留る心無之且ツ平素少し当地女学校卒業の教員に偏頗なる様の感覚を与へ候事ありしかと存申候へども右ハ既に過去の事ニ有之今日ハ外国女教師并ニ小生始め和久山氏ハ最も適任と存申候間大沢氏に於て何等の越権有之候筈御坐なく右ハ漸々折合候様相成可申奉存候、且つ日本女教員との交際に於て注意すべき事ハ小生よりも大沢ニ兼て忠告致居候処ニ御坐候

右の都合に御坐候間社員より女学校の事ニ限り御干渉被成候事ハ得策にあらずと存申候、成るべく万事教員會議に御附しありて大体の維持及方向を社員會にて十分御討議被成候様奉願候、殊に金森をして今突然女学校の教員會議に代理臨席等の御実行あり候はゞ夫こそ外国女教師等に於て甚だ不愉快ニ感じ可申奉存候、先生に候はゞ何等の差さわり無之候へども金森ハ不幸にして未だ非常に外国人中信用乏しく有之、今にても先生御逝去なり校長代理相撰び候様の場合ニても有之候はゞ同志社の教員會議ハ信用を金森ニ置かずして矢張前回通り森田ニ歸し可申奉存候、右の事情有之候間なるべく金森に於て今日少しにても越権の失策出来候而ハ非常に不利益と存じ小生ハ常に忠告致居候際ニ御坐候間今日先生よりも余程御注意なし被下候様奉願候、実に金森にして伊勢丈外国人の信用有之候はゞ此上もなき幸福と奉存候、実に今日小生同級生にして同志社にある者の中真に力量あるハ金森ニ相違御坐なく候処、右の仕合せニ有之候事実に遺憾千万に奉存候、実ハ同志社大学の拳ハ先ツ今日にても往々宣教師中不平を申候者も有之候間金森の運動ハ非常に〔謹〕謹慎を加へ不申而ハ其実大学の事にも波及致し可申奉存候、実ハ彼は掛念不少何分森田加藤及小生而已にてハ甚だ日本教師の勢力薄弱ニ有之、幸牧師必用の事起り候故是非とも伊勢を引よせ申す覚悟にて小生動議を起し候

へども伊勢ハ来る心無之候よし実に残念至極ニ存申候、相成るべくハ同級生の中にて実力もあり且つ外国人に信用あること市原或ハ伊勢の如きものあらば此上もなき幸と奉存候

外国人の事情に疎きハ甚しき事ニ有之候へども又人を見るの力ハ随分鋭どく有之、小生去年の挙動ハ大に金森の爲に実を与候様ニ相成り金森ニ対し気の毒ニ存居候事ニ御坐候、併し今日金森の従事致し居候事ハ先づ先夜金森の報告ありし以来ハ余程此事ニ就而ハ金森の信用を相加たるやに奉存候、実ハ先日来学校の事に就而ハ深く憂慮致す事有之、東京の社員ニ意見を送り置候事ニ御坐候へども今に返答御坐なく大に失望致居候、右等の事ハ先生にハ御病氣に有之、成るべく他に相談致居候処御書面により止を得ず一言吐露致候段御容赦被下度奉願候

一月十七日

和民

新嵐先生

〔別紙〕

尚々女学校将来の事に就而ハ種々苦慮致候へども何分資力乏しきと真の主監となるべき人物無之大に困却ニ御坐候是非程度も引上げ且つ永く大沢のみにてハ甚だ掛念致申候間是非とも本学年よりハ都合致度と存申候、実ハ中嵐氏ニ病氣なくして教務を主監し大沢財政を主監致し候事なりしならば今日ハ非常の好都合なりしならんと想像仕候

420

一月十八日

金森通倫

①大坂土佐堀二丁目三拾六番地 国本方 ②神戸山手和樂園 ④墨 ⑥日付
は消印による

西京へは十五日に参ひり昨十七日之一番汽車にて帰坂仕候故知事には面会致さず、然し富永には面会致し大坂之事をも能打合せ置き申候、何れ近日中に同人は大坂に参り児島控訴院長等打合之上大坂之運動を助けくるゝ積りに候○神戸信者に向て之演説は宮川と相談致し、弥来る月曜日ノ夕に致す事に相定め候間乍御面倒一応阿部氏へ御かけ合ひ被下度願上候、若し御地に於て差支有之候ハゞ宮川と相談之上又如何様とも可仕候間早速御知せ被下度候○申込書は当地にて先づ千枚程相調へ可申候間左様御承知被下度候○此度之演説は新聞杯にも広告せず安息日に於て只信者之みに広告致し度候(業より未だ受託ナキ人ニテモ信仰シテル人ハ此限ニアラズ)○独り組合教会に限らずメソヂスト○カントク○バプテストノ諸教会へも招待状を出しては如何、場所は神戸教会堂○時ハ六時半位では如何

新島先生

通倫

拝

一月十八日

金森通倫

①大坂土佐二丁目三拾六番地 国本方 ②神戸山手和楽園 親展

今朝再び児島控訴院長之宅へ到り種々相談仕候処同氏には知事等とは大違にて今度之事には余程心を入れて周旋致さるゝ様に見受けられ申候、実は富永氏が当地に来て助力致す（と脱カ）申も児島氏之考案に出たる事にて、先日同氏に大坂之事を相談致候節自分乍不及応分之寄付金を出す積りなるが、早く当府内之高等官連へも迫て其寄付高を定めさせ新聞紙などにて世間に公けにする時は大に人氣を引立るの利益有る故先地方長官より始め陸軍司法造幣局等之高等官に及す如何と之事故、其は最好む所なれども只恐るゝ処は小生が参りても建野知事杯が容易に応す（ヤヤ）まず又良し応しても甚だ不結果ならんと申せし処、然らば其事を富永に依頼しては如何、彼は知事とも懇意之間柄特に弁舌交際再ながら之達人なれば必適任ならんと之事故十五日之嫗々会之節右之事を依頼致候処、早速承諾致近日中來坂して一臂之力を副るとの事に相成申候、今朝は富永之返答之趣をも報し且つ將來之事をも計らん為に参り候毎も建野に逢へば失望して帰り、児島に相談すれば多少望を懷ひて帰る様に相成居申候、水をかけて冷す人あれば又火を温める人も出来誠に世之中は様々なりと存候、当府之造幣局長遠藤謹助始審裁判所長大島貞敏之両氏へも紹介書を与へられ候間不日面会致す積りに致居候、検事長大塚盛巍氏へ昨夜面会仕候処同氏は素より賛成して応分之力を尽すとの事に候、是にも児島氏より已に話込在りし由、今朝又住友家之伊庭氏（貞剛）に面会致し大坂豪商連中之取纏方を相談致候処是迄広瀬氏之（住友家総理大臣）主義とする処は決して寄付杯を他人に勧むる事を為す若し出金すべき必要あれば先他人なみに出し置くと

申す事故此度も多分他人を誘導する事は諾すまじ、然し此度之事は通常一般之寄付とは同日之論に非〔れ〕ば此度に限り平日之例外に出て先大坂にては住友家より寄付金之高を定めて他人に手本を示すべし、然る時は鴻池藤田其他之豪家も是に習ふて応分之寄付金を出すならん、已に是等之諸大家之金額定りたる上は其他之連中へは小生より直に迫りて寄付を促す方得策ならんと被申候、其他色々なる奨励之話忝ありて小生は甚だ満足して帰り申候、不遠中に広瀬氏之上坂次第特と打合之上小生まで報道すると之事に候、小生は只其金額之大ならん事を希望致居り申候、右之次第に候へば先生御氣分宜き時、（無理に雨天風日ナドニ御外出は御無用ト存候）広瀬氏へ御面会被成置下度願上候、鴻池之土肥氏には両度参り候へ共両度なから留守故明朝参る約束に致置候、然し同氏へは児島氏の方より已に話込有之候故少しは安心之様子なれば実に住友家よりも鴻池の方が遙かに難らんと心配仕居り候、何れ此二十日乃至一ヶ月之中には大坂之事は略定るならんと存居申候、来周月曜日夕演説之儀は先生之書翰を以て阿部氏長田氏が周旋致す様御取計ひ被下候ては如何

右は今日之様子御報道まで、早々不具

一月十八日

通倫

新島先生

玉机下

422

一月二十日

金森通倫

①神戸 市田方 ④墨

拝呈、小生義昨夜来神、本日ハ御宅にて安息日相守り候わんと思考罷在候所、大西方より老母死去の趣き電報到着仕
り候ニ付き急ニ陸にて岡山へ罷越候間左様御承知可被下候、以上

一月廿日午前十時三十分

通倫

拝

新島先生

玉案下

423

一月二十日

斎藤知行

①仙台東華学校 ②兵庫県神戸 神戸英和女学校 坐下 ④墨

謹而奉賀新年

廿二年一月

仙台東華学校 斎藤知行

新嶋先生
坐す

再啓、頃日先生之御病状如何ニ被為有候哉、唯日増ニ御快方ニ可被為成様祈る所ニ御座候

当校も内外より甚しき障礙も無之昨年を通し日増ニ隆盛に赴き世間より之受もよろしき方ニ御座候、惜むらくハ将来

当校が一箇独立之私立校ニあらずして遂ニハ第貳高等中学之予備校様のものニハ相成間じくやと掛念至し居る仁も有〔致〕

之候、拙者ハ唯将来然らざらんを望む所ニ候

又当地組合教会ニては御存之如く米利堅より帰朝せる三宅荒毅を牧師ニ依頼仕り聊か伝道之端緒を得候有様ニ御座候
尚仙台一体之教会之状況ハ申上も如何之次第ニて昨秋以来嚴冬之酷寒と均しく実ニ冷ニして不振之有様ニ候、殊ニ一
致教会之如きハ教師なる押川氏米国行を思立ちしより適當せる才能ある力ある教師なく困却之様子ニ候、日頃宗教社
会ニ囂々仕り遂ニ五月まで猶予ニ相成りし合併事件ニ付組合教会ニてハ談話会など開き意見を吐き合併を是非するも
のゝ決を取りしことも有之候ひしが以来ハ当教会ニ何の談合も無之候

拙者ハ当地ニ在る已ニ三年余無益ニ貴重之日月を經過至來り実ニ朝夕その一事を成す事なきを想ふ毎ニ感慨之至リニ〔致〕

堪へず候、故ニ出来候丈早く今年中ニ東京ニ出てゝ勉強ニ従事至度切望仕居候、右ハ鎖事縷々申上候へハ御宿痾御保〔頃〕

養之砌をも不顧候段平ニ御海容奉願上候、早々頓首

一月二十二日 新井 毫

①西京古門前三好町 梶原幸也方 ②神戸諏訪山和楽園 平信 ④墨

新年之祝賀芽出度申納候、次ニ小生モ無事越年致候間、幸ヒニ御放念可給候、却説客冬御分袂後直ニ大滝ニ至リ該処ニテ迎新致シ、去ル十七日迄滞在漸ク昨今当地ニ出馬仕候、当地モ田中派伊東派互ニ分離軋轢之形情ヲ示シ居リ候故、是非共調和可致見込相立、已ニ知事ニモ相談相試候処、幸ヒニ同感之趣ニ候故今ヨリ着々其奔走ニ取掛リ可申候、記念文庫之件ハ来月中旬迄ニ結局相付可申候、已ニ関東ハ募集済ニ相成リ候、京坂間モ案外ニ好結果ニ可有之乎ト存候、知事モ多少ノ賛成致候約諾ヲ得申候、御談話申上度積如山ニ候得は何レ今月中ニハ出神拝容百事貴意ヲ得可申候、先は新年之祝詞旁朝夕御起臥之御様子相伺度如此ニ御座候、早々頓首

一月廿二日

新井 毫

新嶋先生
侍史

乍末筆御令閨様ニ宜敷御鶴声奉願候、サラダハ十皿程御準備ニ預リ度は亦今ヨリ御吹聴成置被下度奉念候、

呵々

425

一月二十二日

三嶋弥太郎

④墨

⑥封筒表書「スウキフト氏に托す

御親展」、裏書は Mr. J. Neishima

Through the kindness of Mr. Swift

雲翰難有拝読仕候、陳れば此度「ウキツシヤード」氏御地へ参られ候ニ付ては私へも同道いたすべき旨御申越被下御
深切之段厚く御礼申上候、私も是非同伴いたし役には立たずとも何か出来る丈け之事をいたし度と考候へども愚父死
去後未だ日浅く種々之用向有候て意に任せず残念ながら参上いたし兼申候

当地にては「スウキフト」氏之尽力にて大学高等中学商業学校とに青年会を創立され日本連合青年会之基礎立ち候故
爾後隆盛に趣くべきは日を期して待つべき事と考申候、尚實際之模様は同氏より悉敷可申上と考申候

御校生徒諸君へは宜敷御風声被下度聖教伝播を祈り居る旨御伝言被下度御願申上候

閣下には御大切之御からだ故国家之為精々御療養速かに御快服有らん事を偏に御願申上候

先は右御返事迄鄙書捧呈仕候、不悉謹言

一月廿二日

三嶋弥太郎

拝

新嵐襄様

玉机下

一月二十三日

金森通倫

①大坂土佐堀二丁目三拾六番地 国本方 ②神戸山手和菜園 要用 ④墨

去る土曜日之夕には御地へ罷出候により翼朝早速御伺ひ申上へき筈之處、大西老人永眠之電報に接し直に出発、陸路を経て其夜一時半過に着岡仕候、老人之臨終は誠に美はしき者にて真誠之クリスチャンたる榮譽を残して昇天致され候、葬式は月曜日午後二時にて小生説教仕り候、夫より同家之所分等^(処)に付き彼是れ手間取り漸く今朝八時に帰坂仕候、大沢氏之書面到来致居候間、不取敢要向丈申上置候、扱て到着後直に児島氏之宅へ富永氏之事を尋させ候處、未だ来坂無之と之事故、直に書面を以て富永氏に来坂を促しをき申候、今朝は一寸神戸に立寄り御目に掛り度存居り候へ共、何分大坂之事が氣にかゝり其上神戸ニ着したるは夜中之事に有之候間御無礼仕候、先日來御話し信者諸君へ對する之演説は弥来る月曜日に相運ひ候也、阿部長田諸氏之協議相調ひ候也、何卒都合よく御運ひをき被下度願上候、寄付金申込書は已に千枚相調置申候、先日來数夜眠を失ひ今日は頗る疲労を覚へ申候間、今夕は能く休息仕り明日より又々奔走可仕候、右は要用迄申上候

一月廿三日

通倫

新島先生
坐す

427

一月二十三日

金森通倫

①大坂土佐堀二丁目三十六番地 国本方 ②神戸山手と楽園 大火急要用
④墨 ⑥消印は一月二十三日、封筒表書 新島朱筆「一月廿三日来ル」、別
紙（大沢善助書簡金森宛一月廿二日付）

別紙之通申来候間若シ御同意ニ候半、早速至急買入るゝ様本日電報にて大沢氏へ御通知被下度候、又金子は一時一寸
第一銀行ヨリ先生ノ御名義カ又同志社之名義にて借入候ては如何、是亦先生ノ御見込通ヲ書面ニテ大沢氏へ御申遣し
被下度候、若シ今速ニ決セズバ必ズ人ニ先ゼラル、事ト存候、此儀は私が先日帰京之節大沢氏へ早ク何レヨリナリト
モ手ヲ廻ハシテ買入方ニ着手スル様話シヲキ候、其レハ其時ニ早ク手ヲツケザレバ他人ニ先ゼラル、ノ恐アリし故ナ
リ、既ニ此ノ事は先生トモ兼て御相談申上置キ候事柄ニテ今ハ其買方ノミニ心配致居リ候事故素より私が一己ノ見込
ニテナシタルニアラズ先生モ已ニ御承知之上只其買方ヲ大沢氏ニ私が一己ニテ^⑥托シタル儀ニ候、此ノ同氏ニ^⑥托スル事
モ一応先生ニ御相談之上トハ存候エ共何分其時は至急ヲ要シ候故断行仕候、其上ニハ先生ニハ直ニ御面会申上ゲ御話
申ス心組ニテ去ル土曜日ニ御地ニ来リ候処大西家ノ不幸ニ付キ直ニ出立致候故今日迄相遅レ申候、右之次第ニ候故私
は敢て越権之所置トハ存シ不申シテ致候間不惡御聞取ヲキ被下度候、已ニ大沢氏之申越サレシ通り早他人ニ先ゼラレ
ントスルノ危キニゾミヨリ候故、此事ハ何分一時モ速カニ決行仕り度候、私ハ船ニテ直チニ帰坂、只今八時ニ着仕
候

〔144〕
一月廿四日

拝呈、陳は過日御咄しニ相成候地所件取調候処意外都合克己ニ外方ヨリ買人有之此間金千四百卅円ニテ売買之約定相調候処其買人ニ何カ不都合出来未タ取引スル場合ニ至ラズ有之候ニ付今之所ニテハ其金額ヲ以テ買入ル事出来候間左様御承知被下度候、就テハ随分至急ヲ要シ候間成丈ケ早ク相運度候、就テハ此件は重大之件ニ付（学校ノ位置ノ関スル）貴兄ノ見込ニテ買入れ候事ハ少々越權ノ様ニ見ヘル故大至急新島君ヘ一応御相談被成度、其返事次第ニテ買入レル事ニナルナレバ金子ヲ何レヨリ廻スカ夫ヲ承り度出来候ハ、早ク金ヲ御送付被成度候、尤此坪数は六千三百坪ニシテ老坪廿三錢程ニ当ルナリ、然ルニ此近辺ニハ外之地面モ有之、買入ル、事モ出来可申ニ付、可成秘密ニシテ置ヲ善トス、故ニ全ク無関係人ノ名義ニテ買入レ置ヲ得策ト存候間、是モ共ニ御相談被成下度候、先は右御相談迄、早々頓首

一月廿二日

大沢善助

金森御氏

428

一月二十四日

金森通倫

- ①大坂トサボリニ
クニモト方
②スワ山ワラクエン
⑥電報（送達紙）
午
前八時十五分

ミヤガワドウイ

一月二十四日

加藤勇次郎

①京都室町上立売南

②神戸諏訪山和楽園

親展

④墨

拜啓、寒氣甚敷候処愈天父之洪惠之下ニ御起居被遊候半恭賀仕候、陳ハ先日御仰越ニ相成候山口俊次郎氏事病氣之為め二期始之試験ニ出席無之且又本学年中（此已後）ハ第一年生及第二年生へ臨時入学謝絶いたす様決議相成候ニ付止を得ず宮川経輝兄ニ頼ミ大阪泰西学館ニ入学第二年級へ加入出来申、同人実地之模様見聞之為メ小生下阪いたし宮川氏へ面会之上相はなし置申候

園田氏之令息ハ再試不首尾ニより金森之細君ニ頼むつもりにて彼是周旋いたし居候処、前週安永稔氏大津伝道之序園田へ参り種々談話之末当分之处同地高等小学へ通学為致勉強心發り候後改めて同志社へ頼度旨同人ヲ以伝言いたし来申候

北垣之令息ハ再試出来申たる都合にて此回ハ山路一三氏が唾手して〔兼〕熏陶するの覚悟ニ御坐候

米国青年会々長ウキシヨル氏近々来校之由、就而ハ我輩一同へ有益之談も可有之一同日夜神前ニ祈りて同氏之来るを待居申候

郷君一月一二三日間之鳥獵之事ハ御報申たるつもりにて居候処よく相考候へハ夫ハ十二月末之合戦之報のミニて一月のハまだ果不申候、諸此度の合戦之分捕ハ一日、五位鷺一及小鳥鳩 二日、雁一羽（末光と共に射撃す）及小鳥鳩三日、雁二羽（是も末光と同時に放つ）小鳥都合雁三羽ニ鳩各八羽五位鷺一鷹一小鳥数羽、大分なる愉快ニ御座候

四山雪も見へ始め候へバ同窓勇猛之壯年諸子と打連レ洛北之山野溪谷之間ニわけ入り猪鹿將軍を生捕ニするの目算中ニ御座候

右合戦之御報旁要用まで、早々頓首

一月廿四日

新島先生

加藤 勇
拝

時下予算外ニ襲撃し来るの病摩降伏之為め日夜御自愛之程奉希望候、筆末ながら御令聞さまへ宜敷

430

一月二十四日

小崎弘道

①東京麴町上二番町二十二番地

②神戸諏訪山和楽園

④墨

先般御申越之ギユリキ氏之義迂生より書状差出し掛合ひ申候処早速返事来り先生より教会へ御廻はし之文と略同様之趣意にて御座候

新潟北越学館教頭之義実因却仕候、御申越之趣森本氏へも相談仕候得共何分同氏も動き不申候、就てハ福島之綱島君を依頼しては如何、尤も福島も折角都合よく運び居候際なれば誰ぞ然るへき後任を得されば逆ても談判六ヶ敷事と

存候、若し目下大坂にて休業中なる増野氏を其後任へ得候事出来きば或ハ此義も行はるべきかと存候、加藤氏も其相談之為め近々上京する趣何とか其人を得るやう都合致し度候、小矢野氏へは已に御掛合ひに相成候や、若し同氏が愈其招に応するとあらば同氏帰朝迄ハ教頭なしに致し置きても左程の差支無之事と存候、新潟之事ハ今日か実に興廃存亡之分るゝ所と存候故、幾重にも御尽力奉願者也、早々

一月廿四日

小崎弘道

新島襄先生

二白、時下御病氣如何、御保養專一ニ奉祈候

431

一月二十五日

大沢善助

①京都 ②神戸諏訪山和楽園 至急 ④墨 ⑥土地見取図略

拝呈、貴命ニ從ヒ昨日地所買得之事件ニ取掛本日ニ至リ漸ク都合出来凡六千三百坪代金千三百八十円ニテ買得仕、不取敢小生ヨリ金百円手附トシテ相渡シ置候、就テ昨日第一銀行三木氏ニ面会貴翰相示シ候処、岩崎氏ヨリ何等ノ沙汰モ無之故支店ニテハ此金ヲ御渡し申訳ニハ参リ兼候得共地所御買入ニ要スル金は低利ニテ暫時貸渡トノ事ニ付此手続

キヲ以テ此度之所ハ取扱可申候付此段御承知被下度候、地代金之処ハ意外ニ都合克ク相運千四百三十円ヨリ五十円ヲ引下ケタル杯ハ殆ント奇妙ト存候、此件ニ付他人ヲ以テ尽力サセタルニ付相当ノ謝義ヲ要スヘク候間証書登記ノ料ト共ニ金貳十円計リト御見込置被下度候、裏面ニ略図ヲ相認メ候間御一覽ノ上金森氏へ御廻送奉願候不取敢御報迄、現金取引ハ来廿八日ニ可仕候、取引済ノ上ハ委しく可申述候、頓首

一月廿五日

大沢善助

新島君

432

一月二十六日

本城安太郎

①長崎高島炭坑 ②兵庫鼎神戸諏訪山味楽園 御親展 ④墨 ⑥日付は消印
による

謹啓、十四日御染墨之芳紙辱ク拝読仕候、陳は先般御報道申上候手続キハ全ク大略之事柄ニ御坐候、彼ノ暴徒百六拾人之者ニ対シ候テハ炭坑舎上員之依頼ヲ受候間「素ヨリ」^(朱補)炭坑舎ハ相立候様又ハ暴徒モ相立候様又私モ相立候様、殊ニ一月一日ヨリ岩崎家ニ怪禍^{ケテ}ノ附カサル様万事 主ナル基督之御旨ト思ヒ説諭之終局ハ彼ノ兇暴者百六拾人ニ向ヒ吾モ汝等ト寝食^(寝)住居衣服労働ヲ共ニシ所謂苦勞快樂モ同フスヘシト迄申論シ候へ共彼等素ヨリ惡漢特ニ前晚刀疵ヲ蒙リ

巡查ニ酩酊ヲ罵リ憤慨措ク能ハス「^{〔朱〕}サル敷」為ニ半ハ之ヲ耳ニセサルモノアリテ悉ク其感情ヲ得ル能ハス、折節旧坑夫之憤怒ト相成不得止之事情有之候テ終ニ三日之鎮西新聞「^{〔朱〕}日報」ニ記載之事柄ト変シ申候得共結局私之奔走尽力即チ天父之御恵ニ倚リ平和之今日ヲ保チ申候、此義ニ付テ炭坑舍上員之人ニ大悦ヒ内外ヲシテ平和ナラシメタルハ全ク私之働キト迄御實言ニ預リ実ニ示後之待遇方は一入特待ヲ蒙リ何ニモ愛先生台下御教誡之如ク万事万端益々謙遜仕候、私モ嬉シサノ余リニ候ヘ共海舟老公并ニ岩崎殿及ヒ其際面接仕候三菱社会之一番々頭ト歟莊田平五郎殿愛先生台下ト共ニ本月十日付ヲ以テ四通之報道書郵呈仕候、其外は懇意ナル友人之許ニタニモ報知不仕、実ハ炭坑舍ニテハ極秘密ニ付シ置カレ居候間之ヲ知り玉フハ唯タ

天父ト知己并ニ炭坑舍員ノミナラント、虚名ヲ新聞紙上ニ喋々博スルヨリモ却テ頼母敷存居申候、先は拝復迄大略如斯ニ御座候、元旦之御玉評ハ辱ク奉感謝候、道之為御自愛奉願上候也、草々拝復

在高島

主ニ在ル小弟

本城安太郎

百拝

主ニ在

新島愛先生

台下

「^{〔朱〕}来月ハ拝肩旁タ上神仕度候ト思居申候」

奥様ヘ宜敷御鳳声奉願候也

一月二十七日

河波荒次郎

①上州富岡製糸場前　キリスト教会　②神戸　托奈須兄　④墨

謹啓寒氣殊ニ烈敷之候

閣下愈主ノ御恩下ニ御消光被遊奉欣賀候、却説当甘楽教会も昨年夏頃ヨリ奈須君来牧ナシ呉レ以前トハ一大面目ヲ異ニシ大ニ進歩ノ徵候ヲ顕ハシ来リ候処今般熊本地方ノ伝道余程切迫ニ相成リタル由ニテ同氏も同地ニ向ツテ発足ナス事ニ相成誠ニ致方モナキ次第ニ御座候、然ルニ奈須氏ノ後任ヲ探索スル事ニ相成、不肖ナル小弟ニ向ツテ是非甘楽教会ニ伝道ナシ呉ル、様教会ヨリノ請求且ツ私も感スル処有之候得ハ全クキリストノ御導キト天父ノ御命令ト奉存愈伝道仕ル事ニ決定仕候、御承知ノ通り私ハ神学上ノ事ハ勿論少シノ経験モ無之候ニ付傍觀者ハ何ソ胆大ナル哉ト巨眼ヲ張ツテ驚クヘシト存候、併シナカラ今日ノ事情ニ於テ難止且ツ右等ノ事ヲ介意ナシ居ルヘキ時節ニ無之候間、好シ追々ハ神学ヲ脩メ十分ノ銳氣ト学力トヲ以テ伝道ヲナストスルモ目今ノ処何分其等ノ運ヒニ相成不申候得ハ世人ノ驚愕ハ驚愕トシテ神ノ御助ケト自身ノ信仰トニ依リ成シ得ル丈ケハ慟ク覚悟ニ御座候、委細ノ事ハ奈須君ヨリ御聞取り被成下度、先ハ匆卒之際如右ニ御座候、頓首百拝

一月廿七日

河波荒次郎

新島先生

拝

一月二十九日

金森通倫

①大坂土佐堀二丁目 国本方 ②神戸諏訪山和楽園 至急

不信者輩にも今此之温りのさめざる中に一運動試みては如何とも存候、是れは一寸思付を申上候

拝呈仕候、陳者富永氏は眼病不快に付き医師より入院を命たる位にて今暫時之間は来坂六ヶ敷由、然時は建野知事も最早二三日中には東上之事なれば迎も其前に例之事を片付る訳には参り不申候、今朝又児島院長へ参り候処是れ亦昨日より大津地方へ参られ候由、明後日ならでは帰宅なしと右之次第に候間今之処では高等官連中へ着手する事は一寸見合せねばならぬ有様に立至り申候、付ては一日も早く住友家之方を定め度候間御都合宜き時早く広瀬氏に御面会被下、小生と伊庭氏と之話合之趣をも御通知被下候半と事之運も早らんかと存候、是さへ早く定れば豪商連中へは直に乘込事を得るならんと存候

又高等官連中へ之事は若し今行れずば富永氏之上京する時東京に於て直に建野知事に相談致しけれ候様依頼仕候は如何と存居り申候

又昨夜演説会之取纏方に付ては種々と相考へ候が不信者連中之方は先つ暫時其儘に致しをき信者連中之分を直に取纏めに取かゝりては如何、其れに付ては直きに牧師方^{〔托〕}に控して各教会にて取纏める様に致すべきか、或は次ぎ之日曜日には小生が今一度神戸に参り教会々々に於て説教之後にでも寄付之議を精く話して依頼致すべきか先生之御意見相同ひ度候、此儀に付き一寸宮川とも相談仕候処、彼之説は迎ても牧師方に依頼致しても十分之結果^{〔果〕}は得られまじ是非小

生に今一度行ひて親しく教會員に依頼する方上策ならんと之事に御座候、小生も右に同意に候、其教会之牧師方に依頼しをくよりも小生が出張して直きに依頼する方聞く人之感には大相違あるべしと存候、又教會員のみに申すには今少く獎勵之致方も有之候間是非も一度罷出度候也、次之日曜日なら午後には神戸教会にて話し、夕は説教前に多聞で説教、後に兵庫で話すとか致し候半々一日三教会に話す事を得るならんと存候、又他派之教会には午前なり午後なり其間に参り候半々随分一日にて神戸之信徒中に行きわたる事が出来ると存候、信者連中之寄付も今一度之勧め様によりて大分影響を受けるならんと思れ候故可成は小生罷出度候

右之次第に候間至急に阿部長田之両氏に御かけ合ひ被下度願上候、先は要用まで申上候

一月廿九日

通倫

新島先生

玉机下

435

一月三十日

金森小壽

④墨 ⑥別書(安佐百太郎書簡小壽宛)略

寒気厳しく御座候得共先生にハ次第に御快方之御模様になり喜居申候、奥様にも御勇ましく被在候よし、過日ハ一寸御帰京も被在候に御伺も不申上、誠に失礼いたし申候、扱とや別書今日到着いたし申候故、一先先生之御目に掛け御

厭不被在候様ならハ先生より一書を御送被下候時ハ先方之喜悅如何計かと存候、依て今其人物に付き一寸申入度候、
〔安住百太郎〕
 同先生ハ彼江藤新平之謀徒にて随分用ひられ居申人ニ有之候、其后処分ニあい同謀者数名と岡山獄署〔署〕ニ入獄相成居申
 候時ニ、私事僅か十一年未滿ニ候ゐしも、幸ひ隣村之豪家之一男兒〔私よりハ一才弱〕と共に同先生を罪人日雇之名
 義にて毎日私共之両家ニ交るゝ来られ教授を受ける事ニ相成、同先生ニハ実ニ鉄窓之幽鬱中他ニ此を慰むる之道無之
 際ニ候得ハ、日々私共を教授セラルニをいて最上の幸福となし、私共を視る恰もわか愛子之如く撫育せられ、僅か一
 ケ年間ニ候ゐしも、始めハ漸く日本外史の素読位之また何にも解せざるものを其間にハ略ホ四書五経左伝位之講義ハ
 一通り聞かしめ、他ニ文章とか詩作とか法律書など何くれとなく未タ十二才之何之心もなき童児に教諭せられ申
 候、素より先生之御配意ハ此く迄ニ候ゐしも、自ら不才不肖にして其万分も学不得、今日之浅学ニハ候得共、実ニ田
 舎之一農家ニ生れ何事も見聞仕らざる私共の心ニハ又止まる処有之候て、終ニ学ばざる可らずとの志をおこし申候、
 右之如くいたして学ひ候も一ケ年にして明治九年之春放免となり帰国之途に付かれ申候、其以来ハ全く望を青雲に絶
 ち、一之漢学舎を發ぎ青年を教授するを以て自ら楽しみ居られ申候、此度大学之件ニ付、書面之序申送り且趣旨書等
 も遙送仕候処、別書之如き書面到来いたし申候、尚二三周前略ホ同意之書面来り、若し自分にて差支無之ハ当地に
 て尽力すへき様之文ニて有之候、依て先生にハ私より御聞取被下候ニ付、万事依頼するとの御一書を御送被下候時ハ
 先方之喜、又私之面目に存候

右要用のみ申入候、何分書面其意を尽しかね申候、余ハ御推察被下度候、草々不一

一月卅日

小壽

新島先生様

通倫義御蔭にて肉体上意外ニ丈夫にて奔走仕候事ハ誠ニ喜居申、然し御存事之如く万事に熱心過ぎる方にて熱心我を食ふと申す質ニ候得ハ蔭ながら心配いたし申候〔以下欠〕

436

一月三十日

金森通倫

①大坂土佐堀二丁目 国本方 ②神戸諏訪山和楽園 親展 ④墨

貴翰拝読仕候、陳者広瀬氏と御面会之節御打明之御談判は誠に至極之御事と奉存候、実は小生も其事に付ては其心配仕居申候、若万一にも住友家之寄付ニして意外に僅少なる時は他之寄付金にも大に影響を及し申候間何とかして此方望を先方に通し度者と考へ色々思案仕候へ共別ニ好案も出申さず候故今夕已に一書を認め一寸心付として是迄寄付者中千円以上之者丈之姓名^{〔姓〕}を記して広瀬氏と協議之節之参考之為とて伊庭氏之許へ送置申候、わざ／＼是ガ為のみに面会せるも如何と存候故右之手段を用ひ候、然に先生よりは早直接に御談有之候事誠に此上もなき事存候、只此上は先方之申込を待つのに御座候、又富永氏之来坂なきは甚遺憾に候へ共是亦無致方乍然同氏も近日上京之事なれば何れ東京にて建野知事其他之高等官連中へも面会可被致は同氏ガ滞京中に此事を談しくれられ候様依頼しては如何と存居候、然し此事に付ては児島院長も彼是心配致し被居候へは明日は同院長に面会して今一応相談仕り其上にて如何様

にも取きめ可申候、計事は只一にては無之候へば一策破るれば又別に好案を見出可申候、最早当地之撰挙さわざも相済候間此好機会を不失十分に働き可申候、然し何分にも住友之寄付金額定らざれば甚不都合に御座候○来る日曜日に御地へ罷出候事は先生にも御同意に候ハ、必ず左様可仕候是は其方が得策と存候○ゴルドン氏之事は先日帰京之節其話有之候故先生さへ御承諾あれば別ニ差支有之間敷と申置候が只今之時に候間若し同氏が一期間にて全力を同志社内之伝道に尽くられ候へば此上もなき事と存候、乍然氏は余程他人伝道致度積に見受申候故、小生よりは強て留をき不申候、若し先生より同志社今日之事情を述て同氏に今一応御勧被下候半々至極好都合ならんと存候、同氏も又先生よりの御勧あれば幾分か思慮する処あるならんと存候、然し小生へ別段御相談ありし事は御話無之方可然かと存候

広瀬氏等か先生を信用して出金すると申すは、当然之事にて独同氏のみならず此度大学に出金する者は皆同様之事に候、素よりは先生之^時情り玉ふと云わけには無之も実際然る事に御座候、是即神か先生に恵み玉ふたる徳と存候、夫故先生には可成此上ながら御身体を大切に被遊度奉願上候、今之時に於て先生之身体ををろそかなさるは神に對して不忠と存候、願は神之為國家之為御自愛被下度候
神之為には万事働きて益をなすと存候

一月卅日夜

通倫

新島先生

④鉛筆 ⑥封筒表書「新島尊兄 閣下」、裏書「奈須拜」

偶感 (日本伝道ノ現況ニ就テ)

第壹、

責任ヲ重ンジ主義ヲ有スルノ人物タラシメヨ、

第貳、

眼ヲ全局ニ注ガセ、事ヲ図ルニ鄭重ナラシムベシ、

(1)組合ノ制ハ自治ナリ故ニ一局部ニ傾重シ過グルノ結果ハ一箇ニ於テハ刺撃ノ力ヲ薄クシテ小成ニ安ンジ全局ニ於テハ貴重ナル「ユニチー」ノ運動ヲ毀損スベシ、

(2)常ニ将来ノ大計ニ付テ思考スル事トナシ決シテ一時ノ苟息ヲ用キシム可カラズ、

(3)伝道ノ要地ヲ撰定シ人物ノ採用ヲ誤ル可カラズ、

第参、

伝道会社ノ事務悠々トシテ遅緩ナルハ是レ即チ日本伝道ノ銳氣ヲ消耗スル非常ノ大患タル事、

(1)事務員ヲシテ其人ヲ得セシメヨ、

(2)事務的、社会的ノ智識才能ニ敏銳ナルノ人ナラザル可カラズ、

右大要ヲ述ブルモノ也、

廿二年一月

438 一月 益田 孝

④ 墨

謹啓□□□早速□□□如貴命改陽之御慶万里同風日出度□□□
段奉南山候、先は新年之御祝詞まで、艸筆如此御座候、匆々不備
□□□兩御尊台にも愈々御多福御鶴齡被相重候

廿二年一月

益田 孝

新嶋 襄殿

金森通倫殿

尚ほ々々為邦家御自愛御專一奉祈候

御病氣如何ニ御座候哉、随分御養生なし被下候様奉願候

然レバ先頃申上候処の窃盜犯人龍野豊太郎ハ退校を命じ候事ニ相決し、既ニ其言渡を森田より致候事ニ御坐候
將た長崎よりの書生三浦氏儀ハ入校を謝絶スル事ニ決議相成申候間、此段御届申上候、草々不具

一月

浮田

新島先生

①Victoria Univ. Cobourg, Ont., Canada ②大日本京都同志社英学校
 Rev. J. Neeshima President Doshisha College, Kyoto, Japan ④墨 ⑥
 日付は Cobourg 消印一月に於る。なおサンフランシスコ消印一月十五日、
 横浜消印二月八日、京都消印二月十日、新島筆「三月十一日返書出ス」

遙ニ一書を新島先生之足下ニ敬呈す、爾来非常之御無沙汰然処先生如何御起臥被遊候や奉伺候、嘸そかし近来ハ同志社大学設立之為種々御心勞之事奉存候、尚ほ最愛なる国家朋友之為永年御所抱御主義拡張之為精神のみならず御尊体迄も御壮強之程奉祈候、過日本国より到着の時事新報内御立案同志社大学設立趣旨書有之、再三再四熟読御精神の盛なる御主義高尚深遠なる、齊山感激之外無之不思感涙を流し申候、御趣旨の始より終に至る迄一言一句感服之外無之殊ニ教育之大趣旨基督教は国民教育之基礎、国家文明の根本なるの御意見賛成符合仕候、実ニ天下之歴史ハ此天下を組織する之人民の歴史、此人民歴史の源ハ各人の精神氣象にあり、此精神氣象は善ならん乎其歴史も善なる可く、惡ならんか其結果惡なるべきハ自然之理にして、外部之教育を後にして内部の發達を前ニし、物質的の主義を二にして精神的之思想を採り社会改良之基ハ一個人の改良にある可く、一国の文明ハ先づ其人民を教育するにありとは蓋し退く可からざるの卓見なる可し、而して生が御校在学中右之主義を了解せず只ニ二三人士の意見を信し此主義此精神を目して「耶穌教拡張の手段なり伝道師養成の目的なり」と邪推せしハ実ニ慚愧之外なきなり、今や先生の御志を悟

り得たり、生ハ御精神の盛にして此大事業の一日も速ニ生就^{〔成〕}せん事を希願して止まざるなり、たとひ火事場ニ走りて一時の高名を博せざるも退ひて警鐘を鳴らして出火の何れにあるを告げ、直接ニ天下を動かさるも他日天下を動かし得るの人物の精神を感動せしむるの御志高く且深しと云ふ可きなり

生や万里天涯の孤客となり日々に交るハ故郷之人にあらずして異志之他国人たり、日々に見るハ旧友の事業ニあらずして御互ニ最愛之生国の文明ニ遠し、而して夢常ニ去て生が^{〔歴〕}んぜなく多年を送りし同志社の壁内ニ起りし事を回顧せり、今日迄生が送りし日月ハ大ニ其感化の結果を見たり、今より送らんとする残余の生涯も亦大ニ其感化の力を見るならん、生ハ生が同志社にて受けし信切と其教育ハ忘すれざるべし、他の生が如く同志社にて教育を受けし者も同感を抱くなるへし、生ハ生の帰朝後生の力あらん限りハ生ガアルマートルたる同志社の隆盛と efficiency の為めに助力するをいとはざるべし、生日々に英文ニて応復し、日本文ニて書面を認むるは事稀なるか故ニ、今生ガ心中ニ浮ひし感慨を intelligibly 書送り得^{〔た〕}さをうらむのみ、先生の朋友親族の外先生の志を悟り先生の精神を賛助せんと欲する者万里の外にもあるを報し以而先生勇氣コ舞の一助ともならんと欲するにあるのみ

先ハ今ニ当ヴキクトリア大学にて *Dept's of Arts* の一書生にして其外ニ哲学の専門科を兼修せり、(之れにてハ今第^{〔カ〕}等名譽生たり) 今耄年余にして無滯卒業の目算に候、其後ハ米國ニ渡リボルチモール府のジョンズホプキンス大学に耄年程滞在、米國の文物ども視察、それより欧州ニ向け出發彼地の大学にて尚一応勉学之心組ニ候、真神幸ニ生の宿志^{〔志〕}をを嘉して之れを達せしむるや否や、生の身上ニ就きてハ書送致す程之事も無之、只日々に學問の界広く生の愈々無学なるを悟るのみ

当地書送致す程の奇事なし、又此理由ニ依リ御校諸先生方ニも御無沙汰せり、然し諸先生方の事ハ常ニ心中ニあり市

原森田金森の諸君ハ勿論、殊別ニラールネツド先生御夫婦ニ宜敷御伝声之程奉願候、同志社生徒の数、建築物の数等増加の一表驚愕の外なきなり、学業の進歩人物養成の成跡も隨而著しき事は遠察致居申候
先ハ大学趣旨書に接し所見を陳する右之如し、真神の看護常ニ正義の事業ニあらん事希願之至ニ候也

高野重三
拜

Victoria Univ, Cobourg, Ont, Canada.

日本西京

新島襄先生

足下

御令閨ハ素より尊堂皆々様へ宜敷御伝色之程奉願候也

447

二月一日

岡田松生

①東京赤坂仲町十番地

②神戸港諏訪山和楽園 親展

④墨

其後ハ絶而御無音に打過失礼仕候処、近来之御容体如何、漸々御快方之趣伝承仕り乍蔭喜ひ居申候、陳ハ青木、沢、益田諸氏とは昨年来毎月二三回宛出会仕居候処、折々先生并に同志社之事抔囀仕候、然るに昨年御滞京中御尽力被成候紳士別寄付金之儀、未だ全く纏り兼、洪沢氏も頗る配慮被致候得共、何分相互之間柄にて嚴重なる催促も出来

兼、随而今に完結に至り兼候趣、付而は今一応「寄付金纏方に付而は不相変御配慮被成下候儀〔カ〕とは奉察候得共、今に完結之御報知無之如何相運居候哉、乍此上何卒速に相纏り候様御尽力奉願候」との文意にて、先生より渋沢氏迄御書面被下候ハ、同氏も催促之都合を得、可成速に取纏度との事にて、此儀小生より先生迄申上呉候様先日出会之節同氏より依頼被致候に付、左様御承知被下候而、速に御手数被成候様小生より奉希望候、且又小生より御取次申上べき御用向も有之候ハ、無御遠慮御下命被下度奉願候、乍末毫時下御保養専一奉祈候、勿々敬具

二月一日

岡田松生

新嶋先生

442 二月二日 山中 百

①京都同志社学院 ②神戸諏訪山下和楽園 親展 ④墨

伊与波止浜の有志家八木亀三郎氏に義捐金之儀申遣し置候処、貳十五円余いたし呉申候、金額は少なれど中々熱心に大学の為奔走いたし呉れ申したり

拜啓、陳者兼而小生より今治地方有志家に向つて大学義捐金寄付之儀懇請いたし置候処、旧臘金融逼迫〔通〕之際にて何の沙汰も先方よりいたし来らず、当惑能在申候折柄、頃日漸く一報を得申候、其請求によれば大学設立之件につき該地

倶楽部にて演説いたし呉候様依頼いたし来り申候故、もし金森君大坂之方多少御寸隙も御坐候半は御出張被成下度候、同君御出張出来不申候節は小生先生之名義を以て出張し申候而御差支無之候哉、御指図相仰度候、日課勉学中可成的他出相好不申候得共、目下旧正月にて先方に説くは好機会之趣なれば、其機空しく相失するも残念に奉存候、無論田舎之事なれば多分の金円は六ヶ敷歟ト愚察罷在申候得共、幾分なりとも募金仕度候、先は得貴意度、早々不一

二月二日

山中 百

新島襄先生

玉机下

尚以、御令妻江よろしくウイシャルト、スイフト両氏の働により改悔者数十名起り、校長何トナク信仰振起之勢御坐候、上級生戮力同心して種々奔走罷在申候

443

二月三日

藤原直信

①同志社

②神戸諏訪山和楽園

④墨

謹而呈上仕候、近来ハ大分寒氣烈敷相成申候処尊体ハ如何にて候哉、何卒御養生之程專一ニ奉祈候、私儀本校へ入候以前ニ、一度決心して宗教に身を任せ本国を脱シ昨年迄ハ一途ニ其方ニ向て参り申候処、咽喉病の為メニ兎手も伝導

事業ハ出来間敷と考へ彼是れ思煩ひ候内、大久保氏の如きハ親き信友なれば能も私の氣質を知り商法ニ従事する様進められ、成程私の性質より考ふれば充分ニ性質を發達し思儘に働かすへき場処^{〔ママ〕}ハ外国貿易ならんかと存し候、又他の信友よりハ政治海ニ踏込て、明治の伊井氏^{〔井伊〕}となりて国家の爲メニ尽せと進むのミならず、平常祈り呉る者も有之、私儀も幾分か其方に志なきニ非ザル故大ニ心を引かれ居候処、如何にも決心せんとすれハ何か心に快からず今日迄送り来り候内、ウイシャルド氏来校ニヨリ又々最初の決心せし時の心起り来り、手を鋤に付て後を顧る勿れと勵す如き感覺ヲ生し、且つ日本^{〔カ〕}の現時の急務ハ商法よりも政治ヨリも国家の基礎を堅むるにありと存せられ、基督信者ハ自らの弱き、自らの少の病氣の爲メニ^{〔障〕}礙へらるへき時代ニ非すと信し候間、断然自らを顧ミずして伝導^{〔道〕}の爲メニ身を犠牲に致す心得にて候、何卒希くハ私の爲メニ一遍の祈を捧げ被下て私の弱き心之強くなり、以後益々神の力の加りて此大任に堪ゆる様御願ひ被下度奉願上候、先達紙面を以て御問合せ申候意も、目的を定むる事ニ就て御意見ヲ伺ひ申度心組にて候処、今度決心せし上ハ其目的を達する事に就テ御意見を伺ひ充分の御告諭を仰き度存し候間左様御承知被下度奉願上候、都合によりてハ当期の終に御当地方へ遠行仕度心組にて用意致居候間、其節ハ必ず御尋申上べく候、今度ウイシャルド氏の来校ハ実に同志社ニ取テ大なる幸にて、十日ニ足らぬ内に本校、予備校及び女学校中ニ殆ント七十余名の求道者起り、且ツ信者中今迄無頓着にて眠れる如き有様なりし者も目ヲ醒し随分全校ニ活氣ヲ生し全校動き出したる模様にて候、尤モ今度ノ事ハウイシャルド氏ノ熱心と氏の級々ニ^{〔Personal work〕}（Personal work）ヲ非常に勸メラレシ事と、時機ヲ得タルモノと考へられ候

先ハ右御安心の爲ニ御報知申上候、何卒此の肉体に於モ靈ニ於テも弱き者の為ニ一遍の祈を捧げ被下、神の仕事に堪る者となる様に御願被下度、又同志社全体の爲ニ御感謝被下へき為メ、早々敬白

二月三日

新島襄先生

直信

444

二月三日

森田久万人

④墨

⑥封筒表書「梧下 杞要」、別紙略

阪田先生漢学科ノ事、先日御談申上置候件ハ何トカ御尊答アリタル事と奉推察候、然ルニ今日小生宛トシテ、別紙被送候事ヲ以テ見れば随分作文添削ニハ難渋之由被見受候、「語中七八百文云々」ハ小生ニハ十分了解参リ不申、臨時入学生作文試験ニハ毎月十名内外乎ト被考候、其外七八百文ニ上ル程ノ作文アルヤ否、直接ノ解釈ヲ願ヒ度存候、如何ニ様マ漢学作文ハ随分手間取ものならん歟ト奉推察候、別紙御一覽ノ上如何様トモ御改革奉待候、而テ阪田氏ハドウカ引止メ置キ度、至当ノ勤勞ヲ求ムル事ハ今日之急務ナラン、愚考マテ開陳申上候、以上

二月三日

森田久万人

新島襄様

二月四日

伊勢時雄

①東京本郷東片町百三十四番地

②神戸〔諏訪〕
耶防山和楽園

④朱

寒氣中如何被成御坐候や、御壯武之程奉祈上候、扱久栄事学校思敷無之候由にて一昨日参り申候、私も今度米国行仕候ニ付、留守中ノ事頗る案し申候処ニ付幸ノ事にて相談仕候処、同人之願ハ神戸ニ参り度事ニ御座候、一度東京ノ地方ニ参り実況目撃仕候後ナレハ今後ハ神戸ニ断然勉強可仕候、且近頃ハ少しハ信仰之趣も宜敷ト存申候、若し帰り候事ナレハ幸便ニより出立仕候様取計可申、貴意如何ニ候や、急ニ御報可被成下候、本月十二日迄ニ横浜ニ報知可仕都合有之候間、至急御返答可被下候、山本江は別ニ相談ニ及間敷や、若し相談可仕と御考ニ相成候ハ、先生より御相談之上、電信にて御返事可被成下候

二月四日

伊勢時雄

新嶋先生

尚々、米国行ニ付、諸宣教師より追々懇切ナル添書参り申候

二月四日

金森通倫

①大坂土佐堀二丁目三十六番地 国本方 ②神戸諏訪山和楽園 親展 ④墨

東上之儀は何分ニも心相進不申、彼是れ思慮仕候上、先見合之方可然かと存、今朝之通電信差上申上候、何れ又々其中ニは善工夫も有之候間、東京之事は在京諸子之意見ニ任置候方得策ならんと存申候、昨日は余り取急き、御相談可仕一兩件通（頓）と失念仕候間、只今書面を以て御伺申上候、現今同志社付属之地所は其地券面之同志社之名義ある者甚少く、多くは他之人々之名義なる由、其中ニは大沢〔善助〕、伏見〔通〕、中村〔栄助〕、竹内等之名義も有て頗る錯雜なりと承申候、今差当り不都合之廉も有之間敷候へ共、最早同志社も一個之法人として社会ニ立べき時機ニ遭遇致候故、是等之地券を悉く同志社之名義ニ切替候而は如何、其ニは先日一寸費用之点を為見積置候処、先百五拾円位は要する由、差より此費用之出所も無之ニより地券之高ニ從て各校ニ割付負担せしめては如何、若し先生ニ於て御異存無之候半、来る木曜日ニ帰京致、教授議會え持出し諸子之意見を伺度候間、至急御勘考之上御廻答願上候、今一事件と申すは、即下村氏之事にて、同氏へは既ニ先生より公然たる招書御送有之候や、若し万一未其運ニ至居不申は速ニ御送被下候而は如何

扱て又此ニ一大切迫之要件と申すは別儀ニ非ず、彼之弘法も人なり、吾も人なり、同し五本之指さへあればなでふ彼之人ニ劣るべきと拔山之勇氣を鼓舞して書出したる此書翰も矢張りみづ之曲リニ異ならず、此ニ至て小生之失望落胆殆其機度ニ達し申候間、昨日御懇請申上置候御手本之儀至急御恵与被下度願上候、素より三十（七十二非ず）之手

習、迺も名家となる之望は更無之候へ共、先つ一通り世間普通之文字さへ出来候へば夫にて満足可仕候間、何卒御憐察被下度候、右は要用且御依頼迄、早々不一

二月四日

通倫

襄先生

玉机下

447

二月四日

吉田清太郎

②神戸諏訪山和楽園 ④墨

拝呈、先生御起居如何ニ候や相伺申度候、小生事、去冬期休業中偶然帰県可致事ニ出合候間、一寸滞郷仕居候処、大學設立賛成者中ニ大野洞吉なる者有之候、氏は松山人にて多少財産を有し且つ一見識を有てるものにて、前年ハ東洋の漫遊を企て、単歩朝鮮支那地方ニ至り候へ共、未だ十分の看察をなす能わさりしを以て再び漫遊を希ひ、凡て東洋の海岸ニ沿ひ印度地方まで至る心組ニ聞及ひ候、依て氏の書面及び直接の談話ニ拠れハ、今度先生の挙を賛成し〔朱丸〕一百円を寄付申旨先生まで御通知申上候由にて、且つ三四月の交には是非先生ニ御面会を得たき由にて、上京致趣ニ有之候間、其節には何卒御病氣中にハ候へ共御対面被成下度候、若し先生に御転地有之候節ハ其津度〔郡〕先方へ通知致約束ニ有之候間、何時頃神戸を転せられ何処ニ向わるゝ御心組ニ有之候や預め承申度候

学校ハ大学設立の機ニ際し幾分か人数の増加すると共ニ浮薄の分子も持込み居候て、京都人中にも機微^{〔敬〕}なるものゝ眼中にハ既ニ其顕象を認め「此節ハ同志社道德の元氣ハ幾分か衰へハせざるか」など直接生徒ニ向ひて尋申もの有之由、又た漢学教員坂田氏ハ生徒の増加共道義の薄くハ抑も数の免^{〔カ〕}かれざる所なるや將た之を救の道あるや、などの文題を出し、生徒ハ互ニ振起せんとするも次第ノニ下行する心地し、慷慨扼腕しなから押流さるゝ有様ニ有之候処、万国青年會書記ウイシヤル氏ハ疾風の如く飛來りて東京ニ着するや否や祈れの一語を電報し、前々周間学校ニ馳來る、其時より神学生五年生四年生を始として三年二年一年と次第ニ或ハ説或ハ勧め或ハ祈り或ハ禱らしめ遂ニ預備校ニ至りて、神の実と救と精密ニ明白ニ丁寧ニ熱心ニ嚴重之説明し、勧告し、各個人の意識ニ訴へ勇氣なる判断をなさしめ全校を危急の中ニ救出せり、氏の運動の余波ハ女学校まで波及し、十人計の決心者を起し、本校予備校を合せハ百人以上ニ及ひなると被存候へ共、何様昨夜などの有様を見ると、一周間内ニ決心せしものと既決心せんとするもの新會堂の半分計の席ニ充溢れ候間其数ハトテモ定め難く候

氏と共ニ青年會員スイフト氏も來られ、一方ならぬ尽力ニ有之候、両氏共ニ個々のウイルニ訴へて嚴重なる決心をなさしむる事ニ有之候へハ、斯く變動なるにも拘わらず、決して泣かず叫はず嚴肅なる決断をなす事ニ有之候ハ、最も静なる運動ニ有之、金森の細君とハ昨日小生等の参上致せし時ハ少しも御存知無之程ニ有之候

今ハ余類を斃すと善後の処、処々幾分か心を向けんとする勢之有之候へハ猶尚御祈禱の加を添へ玉わらん事を希ひ奉候、勿々頓首

二月四日

吉田清太郎

拝

448

二月五日

金森通倫

①大坂土佐堀二丁目 国本方 ②神戸諏訪山和楽園 要用 ④墨

別紙之通森田氏より申来り、下村氏之事は先月之教授議會ニ於ては已ニ相決申候由、又社員会ニ於ても此事は已ニ決議致したりと存申候、此上は只先生之公然たる御招書を要するのみと存居申候間、前翰之如き御尋申上候、此儀は先生より直ニ書面御出被下て可然かと存候、又是まで先生と同氏と之間之御通信ニては同氏弥来る九月帰国之上、直ニ同志社ニ働かるゝ御見込ニ候ヤ、其辺之処御回答被下度候、然る上は来る木曜日之教授議會ニ出席致し先生之御見込を申述べ候、又重見氏之事ニ付ては先生之御意見如何ニヤ、若し下村氏之帰校ニ於て確かならで重見氏を招く事は如何と存候、如何すれば同氏と下村氏之 Branch ハ略相似たる処あればなり、生理ニはペレー氏あり、化学ニは下村あれば別ニ重見氏は不要ニてはなきかと存申候、今より先生之招書ガ米国ニ達し其返書を待チ重見之進退をきめるは余り遅しと存申候、只今日は下村ニ付て先生之御見込如何を以て重見之事を決すべしと存申候、何分別紙御熟読之上可成至急ニ御廻答被下度候、余置、直ニ承知明日五時カ七時之汽車ニて帰宅之心組ニ候間此着次第可成至急ニ御廻答願上候、広瀬氏は昨日来坂されたるヤ、今カ今カと待居申候、右は要用まで、草々不一

二月五日

通倫

襄先生

玉机下

[別紙・ディヴィス書簡 金森通倫宛]

拝啓、陳者先日デビス氏宛ニテ在米国重見周吉エール大学卒業シタル旨ニテ、当時招載次第何レノ処ニモ雇ワレ度旨申来リ、

〔威・以下同〕

今日デビス氏其旨教授議會ニ提出相成候処、教授会ニテハ都合ニヨリテハ招載致スモ難計、然ルニ本人ハ Sheffield Scientific School undergraduate course ニテ Physiology, Biology & Chemistry 等ヲ研究シタル由、附テハ若シ同志社ニテ Physiological Biology and Chemistry 杯の教師ヲ要セハ何時ニテモ雇レ度ク、此ニ付キ雇入ル、ヤ否、且又月給ノ処至急報知致し呉トノ依頼、右議會ニテ討議ノ末、来ル九月後ノ事ニ論及シ下村孝太郎君帰朝ノ時限今日に至ルまで公然何月ニ帰ルヤ、愈九月より直ニ働キ呉ルヤ、未タ分明ナラズ、此ニ付テハ先達テ決議ノ赴キハ直ニ米国ニ通知ニ相成候シヤ否ヤ、一言ニテ申サハ彼人ノ帰国ハ何年何月ト云フ確固タル返答ヲ承知致シ置キ、其レニ応し重見ノ事ヲ決議致答ニ御座候、因テ右下村氏ヘノ通知至急御相談有之度（若し今日マテモ米国ニ通信ナケレバ）此ハデビス氏より貴兄まで御談ノ赴キモアリタレバ多分其事ハ篇斗御承知ト存し候、然ルニ今日までも公然ノ掛合無之トキハ下村モ重見モ失ヒ可申哉、大ニ来ル九月ノ事業ニ相関し候間、何卒社員会御催し被下候而右重見、下村ニ対スル事件御相談被下〔度〕候、当時九月後授業ノ相談最中ナレハ可成早ク何等ノ御返答奉待候、下村之事ハ貴兄御承知ナレハ其米国トノ通信如何相成居候哉、此要点御尋申上候、此ハ確然タル下村ノ帰国定約の事ナリ、唯ニ風聞ニ托しては覺束ナク有之候、右教授会ニ代り御尋申上候

一月三十一日

主監 デビス
代筆者

森田久万人

社長代理
金森通倫様

二白、為念申上候、下村之事ハ社員ニテ已ニ着手ノ事ナレハ今日教授会ニテハ新教員ニ対スル様ニ致シ兼候間、今日會計都合云々ニ不係、下村ノ事丈ハ何卒至急御雇入ニ相成候而可然右通信之事伺入候

449

二月五日 木全正脩

①東京府麴町区中六番丁廿七番地 ②神戸諏訪山和樂園 要信答 ④墨

玉簡相達拝誦仕候、陳者過日大西老人永眠之旨御承知被成如仰地上より幸ヲ得最早天国之人民ト相成リ安楽之世界ニ立至リ可申ト信シ申候、乍然何ト無ク家族ニ於テハ少々淋シキ心持ハ可有之察申候

一去月廿五日夜当地大学校寄宿舎ニ於テ失火大變之義、三男祝義危難ナレトモ神之御守護之中ニ罷在一命ヲ助リ誠に喜悅罷在候、乍去腰ヲ打一旦ハ歩ミ事難相成候得共療養ニ依テ追々快方安心仕候、御同慶被下度候、実ニ以テ危キ場ヲ遁候事感謝ニ不堪也、就右為御見舞御丁寧之貴書被為投難有御深切之段奉厚謝候、(具)繰々も前条之通ニ候間、御安意被下度奉希上候、祝義未タ病院ニ罷在候間、早急御尋問之旨可申伝奉存候、右ハ貴復迄如此御座候、敬白

二月五日

木全正脩

再白、御令佳様より之御加文難有是亦早速相伝可申、尚宜御伝被下度奉希候、且端筆ニ相成候得共、愛兄御病氣之処如何被為在候哉、次第ニ御快方と奉察候、尚御厚養專要ニ奉存候、百拝

450

二月六日

金森通倫

①大坂土佐堀二丁目三十二番地

国本方

②神戸諏訪山和楽園

親展

④墨

今日電報仕候通り住友家は已ニ三千円と相定申候併広瀬、伊庭之両氏は彼等自身ニは何程出くれられ候や、此等之諸子ニも応分之出金は願度者也、今日是より直ニ藤田之宅へ参り面会致し、住友家之事を述べて依頼致し候処、是は案外之返答にて少しく失望仕候、彼申すニ、自身は迎も住友家なぞと相併ぶ事六ヶ敷、今キメロと云へは自分相応之事を致すべきも、其額之少ななるを怪み玉ふなど、小生は其れでは困るタトへ住友家之上ニ出るも其下ニ出られては後之者ニ非常な悪き影響を及す故、是非此度は十分奮発してもらひたしと暫く之間彼れ是れと話合候末、何れ其中ニ定めて申出べしと之事ニ候、併ながら案外ニ同氏は不親切なる有様にて小生は困却仕候、却て其兄弟之久原氏の方が能く親切之世話致しけれられ候、藤田ガ住友よりも下ニ出る事がありては其影響さる処甚だ悪しく、何とか致方はあるまひかと心配仕居申候、併し兄之久原氏ニ面会して又能く藤田之事を頼みをき申候、先生は未だ御知己はなひから先生より之御手紙と云ふ訳にもまひるまひし、児島、高島之留守なるは頗る不都合を感じ申候、只今より一寸帰宅致し、

同志社之用事を片付け、明後日ノ一番汽車ニて帰坂之積リニ候

二月六日午後七時

通倫

新島先生

451

二月七日

松平容保

⑤写真

一書申進候、嚴寒之節先以御清米奉賀候、陳者容大事厚御世話ニ相成、段々御教育ヲ蒙候段深謝入候、然ル処今般徴兵令之次第切迫、学習院江入塾之事ニ相成、中山迎ニ差遣候、委細之事情ハ同人より御聴取可被下候、先ハ此段早々申入候、不宣

二月七日

容保

襄殿

452 二月七日 茂木平三郎

①群馬県上野国緑野郡藤岡町 ②兵庫県神戸諏訪山和楽園 乞親展 ④墨

花墨拝誦、其後ハ甚タ御疎遠ニ打過多罪、御玉体如何御坐候哉、追々御快方ニ趣キ候様子ニ承リ申候、偕大宮伝道之義ニ付纏述申度相考居候処、却テ御配慮被下誠ニ難有奉存候、同処伝道是迄遅延致候理由聊陳述仕度候、昨年中ニ着手ニ至ラサル訳ハ同地ノ有志者二人不在（一人ハ県會議員ニテ會議ニ付補和へ出張一人ハ東京ニ要用之レアリ同地ニ滞在）乍併松本ト申婦人、演舌会之日限取極メ報知スルトノ事故相待チ居候処未タ報知無之候、定メテ布教ノ事ハ冷淡ニ相成申候ト愚考致候、勿論夫等ニテ打捨申居訳ニハ無之候、此ノ程東京伝道委員古庄氏来岡ニ付大宮伝道ノ事ヲ談セシ処、伝道会社ニ於テハ新地ハ一切着手セヌ由被申候、夫ニ付先生ヘ一応申上候テ何レノ策カ相立伝道致度相考ヘ申候処、不図玉章ヲ賜リ大イニ勢力ヲ得タル心地致候、幸ヒ来ル十二日西群馬郡玉村駅ニ上毛伝道師会有之候ニ付、其節十分ニ御書翰之趣ト小生之愚考トヲ陳述シ、何レニ致候テモ早ク着手致ス様仕度候

一御病中殊ニ種々御多忙之中ヘ御尊慮ヲ相惱セ候モ不本意千万ノ事ニ候得共小生困難之義有之候、夫ハ余之義ニハ無之、少々之負債之事ニ御座候、十八年ヨリ藤岡ニ伝道致候処、新地開墾ナレバ月々ノ手当ニテ引足ラス、遂ニ四拾円ハカリ之負債相生シ、只今拾五円ノ手当ナレド、去ル二十年一ケ年ハ東北伝道拡張ニ付拾二円ニ減額サレ、其後又拾五円ニ相成候、（然レトモ聖書註解類ヲ求ムル事能ワス、過日先生ヨリノ御惠贈ニヨリ非常之助ケトナリ、殊ニ腦力ニモ関係アリ其書ヲ閱スル毎ニ相喜居候）又家族之事ハ只今東京ニ二人桜井女学校ニアリ、学校ヨリ救助モ有之候

得共手元ヨリ毎月二人へ六円ツ、相送り申候、家ハ三人ニテ九円ナレハ食事雜費ニ充ツル事ナレバ衣類ノ分モ無之、月々不足相生シ其上四拾円ハ返却之時来リ嚴モ信徒ヨリ
惜リ受ケ当惑仕候、此義ハ一度前橋不破氏ヲ以テ伝道会社委員迄纏述候

へ共好策無之候、熟考スルニ小弟ノ地位ニヨレバ会社ヨリノ増給ハ遂モ致方ナク、又売却スヘキ所有物モナク如何共策無之、依テ申上ルモ甚タ忌ム可キ事、甚拙劣ナル事ニ御坐候へ共、若シモ先生ニ於テ好キ御工夫ハ無御坐候哉ト、鳥渡心付ニ候儘、余リ我儘勝手ナル義候へ共尊耳ヲ煩へ申候間、一応御勘考被下候様相願度、此段申上候也

二月七日

茂木平三郎

新嶋先生

拜

453

二月七日

湯淺治郎

①東京民友社

②神戸諏訪山和樂園

乞披

④墨

別紙之通り申来リ、右ハ井上伯ガ御取次ニ相成候ヨリノ誤聞ニテ（井上伯ハ義捐金ヲ定ムル際ニモ十二月ニ非レハ出来サル由被申候位ナレバ）多分大隈伯ヨリ御出金ニ相成タル事ナランカ、併シ令夫人ガ御受取ノ際如何ニ御承知相成候哉、貴酬ハ誰トノ分ト御認メアリシカ、委細御急報被下度候、此段申上候也

二月七日

湯淺治郎

454

二月八日

金森通倫

①大坂 ②神戸諏訪山和楽園 ④墨 ⑥日付は消印による

昨日は教授議會ニ於て湯淺氏之事を持出候處、彼れ是と議論あり充分之決議ニ至^レらず、何れ其中何とか相定候上社員會へ提出さるゝ事と存候、重見氏之事は新潟ステーションへ紹介之事ニ相決申候

地券書替之義は可成速ニ着手致すべしとノ事故早速其運ニ致置申候、地所は大沢氏ニ同行ニテ見聞致置候、彼之地面より余^{〔バヤ〕}不陋^{〔バヤ〕}處ニ二三千坪宛有之、今買置候は必ず後來之為と存申候、何れ精き事は御面會之節申述べ候

富永氏ニは面會致候處此度は余程難シヨウ之由、迎も上京六ヶ敷故不參之電報を司法大臣へ送ラレ居申候、大坂之景況など話をき申候

青木子より送ラレタル少年之儀ニ付き昨日突然御依頼有之候へ共、御承知之通小生宅ニは今ハ妻一人にて下女之儀未ダ相分り不申ニより、只荊妻一人にて甚不手廻^候り下女之事相片付き候までは誠ニ困難致居^候リ申候、迎ても御預り申す訳ニ參らず候間、早速永岡ニ依頼して加藤氏ニ相談願^候處、同氏は受付ラレズ、小生モ一寸教授議會之後ニ加藤氏ニ話候へ共仲々受ラル、気色無之候、去リトテ今小生ノ宅ニ預リ申ス事は實際ニ出来難ク、実は甚だ迷ワク仕リ候、其

上小生ハ只昨日一日ノヒマヲ盗ミ一寸上京致シ、今朝一番汽車ニて帰坂仕候位ニて、其ガ為ニ奔走仕ル訳ニもマイラズ誠ニ困難仕候、今朝小生ガ出立まで何ともキマラズ、ドウカ森田氏ニデモ願フタラト云フ位ニテ小生出立仕ル間如何相成候ヤ、其後之事は存不申候、カク突然とブチツケニ東京より送ラル、ニは閉口致候、若し幼年故デモアルカ、又誰カ其等ノ小供を預ル事之用意アル者デモアレバ幸ニ候ヘ共、今之分ニテは実ニ困リ申候、小生モ大坂ニ参リテヨリ始終氣ニカ、リ如何ト案シヲリ申候、何れ御奥様も御滞京之事ニテ候ヘは何とカヨキ御工夫モツキタラント存申候〔抹消〕「当地之事は頗る困難ニテ御座候」併し充分ヤリテ見る積リニ候間、御心配下サルマジク候、殆寝食モ不十分なる位ニ候右は今日ノ御報道まで、誠ニ乱筆ニ候ヘ共、最早時間ニ迫リ候間、真平御海容願上候

通倫

新島先生

455

二月八日

渋沢栄一

④インク

⑥東京第一国立銀行便牋

一月廿九日付及二月四日付兩度之尊書拝見仕候、爾来引続き神戸ニ御養痾相成候処追々御快方之由奉拝賀候、然者昨年東京ニて同志社学校へ寄付金相成候中、岩崎氏之分ニて金三千円ハ地所買入ニ御使用被成度、依而其段岩崎氏へ

御照会相成候処、異見無之旨確答有之候ニ付而ハ金三千円を当銀行より引出し、西京へ為替ニ取組、御代理金森通倫氏へ御渡可申旨拝承、昨日其通ニ取計西京弊支店へ申遣候間、金森氏へ受取方相成候事と存候、就而右金額銀行より引出し候ニハ同志社より之受取証書を要し候ニ付、其辺之事ハ支店へ申遣し金森氏へ御引合申上候筈ニ候、昨年寄付金引受候連中ニて別紙之人名ハ今以払込無之、昨年中も一回催促いたし候得共延引之儘ニ相成候ニ付、昨今丁寧ニ書状相認、再応之催促いたし候、併原六郎氏ニハ最初より少々不同意之様子ニ申居候、旁小生丈ケ之催促ニて払込可申哉判然仕兼候間、何卒賢台より本人へ篤と御照会相成候様仕度候、益田、大倉、田中之三人ハ詰り払込永引候とも別ニ異変ハ無之と存候

学事御拡張之^{〔計〕}経画も追々^{〔力〕}相運候由、来示之如く何程美善之政治法制相立候とも、其施行之妙ハ其人ニ存し候義ニ付、向後一層人才之涵養必要之時期と存候、何卒御企望之如く才徳兼備之人物漸次輩出候様御尽力可被下候、右再度之尊書拝答旁如此御坐候、勿々不一

新島襄様

洪沢栄一^①

別紙払込無之人名抜書

一千円	此分井上伯か又ハ大隈伯か貴方御聞合中ニ御坐候	一百五十円	青木周蔵
一六千円	原 六郎	一貳千円	益田 孝
一貳千円	大倉喜八郎	一貳千円	田中平八

右之外ハ十一月ニ約束之金高悉皆払込相成候事

追啓、寄付金払込未済之分及為替之件等金森通倫氏へ御通し可申件ハ、幸ひ貴地之浜岡光哲氏上京中ニ有之候間、委細同氏ニ托し御伝言申上候、同氏も本日出發帰府之よしニ御座候間、定めて御聞取と存候

〔関連書簡写、東京第一国立銀行便蔵〕
二月二十八日 原 六郎書簡

洪沢栄一宛

〔欄外〕
「明治廿二年二月廿八日」

拝啓、京都同志社大学創立寄付金之義ニ付、再応御書翰之趣承知仕候、然ル処右ニ付而は貴下へモ嘗テ御面話申上置候通、右寄付金ハ御手元ヲ経ス、小生ヨリ直ニ新島氏へ払込可申旨過般同氏方へ申遣し有之候得は、今更貴下ニ対し問合忤致スヘキ道理無之筈ニ存候、殊ニ該金タルヤ大学創立費ニ充ツルノ目的ナル事ハ今更申迄モナキ次第ニ有之候、然ルニ未タ創立確定ニ至ラザル今日ニ於テ、急ニ出金ヲ要スル事ハ無御座筈ニ被存、御督促ノ趣意了解難致候、小生ニ於テハ一旦約定ノ上ハ敢テ出金之遅速ヲ如何と申訳ニハ無御座候得共、元ヨリ大学ノ創立ヲ賛成セシ義ニ有之候得は、出金サヘスレハ主眼タル大学創立ハ如何成行候トモ構ハサルノ如キ不親切ノ精神ニ出シニハ無御座候、又新島氏ニ於テモ事ノ成否ニ関セス金員ヲ徴集スルノ精神ニ無之候ハ万々確信シテ疑ヲ容サレトモ、未タ嚴重ニ請求スルノ場合ニ立至ラサル様存候、就而は其創立経費金額ニ充ツヘキ寄付予約金確定ノ上ハ何時タリトモ出金可致候、新島氏ハ右等ノ報知モ不致、且ツ小生ヨリ申遣候書翰ニ対シ回答モナクシテ度々貴下ヲ煩候義ハ甚ヒテ不得其意次第ニ御座候、此義小生ヨリモ申遣ヘク候得共、右御了知之上可然先方へ御回答被成下度、此段御答マテ如此ニ御坐候、早々不宣

洪沢栄一様

原 六郎

456

二月九日

金森通倫

①大坂土佐堀二丁目 國本方 ②神戸諏訪山和楽園 親展 ④墨

大沢氏より別紙之通申来候処如何仕候ヤ、其地面と申すは小生も先日一見致置候

右之図面〔省略〕ニよりて略御分りニ相成候と存候が、少し大学之本地面よりは隔絶なる様なれとも、弥大学を起す時はあ之近処之地面は必ず必要と存候、丁度現今同志社之教師館之屋敷之如き、随分同志社之本地面より離れ居ども格別不都合なきが如く、将来ニ於ては甚大学近方之地所は皆必要と存候間、小生は二百円位なれば今買置くも宜しからんと相考へ候が、先生之御考如何ニ候ヤ、若し先生ニ於て御不同意無之候半バ、直ちニ大沢氏ノ買取る様御報知下されては如何

大坂は随分困難ニて候、然し其道之開くを待居申候

二月九日

通倫

新島先生

〔別紙、朱〕

直々

拝呈、一昨日御咄し申置候茶園壹千貳百五十坪有之、代金貳百円ナリ（壹坪 十六銭）、右ニテ宜敷候ハ、何時ニテモ購入仕候間此段御

伺申上候、最直段ハ安キモノト被存候、御勘考之上至急御返事被下度候也

二月八日

大沢

金森君

457

二月九日 片桐清治

①仙台東華学校内

②神戸諏訪山和楽園

台展

④墨

拝啓、陳者私事ハ久々御無音申上候、実ハ先生長々之御病氣ニ而御心痛之事多く有之候へバ、手面等を以て奉煩らん事を恐るゝ之余、終ニ遷延御無音申上候ハ今更御申訳なき次第ニ御座候、偕私事昨年六月来仙之節、市原兄之御勧めも有之、且私事も兼而仙台ニ働き度素志も有之候ニ付、水沢地方之伝道を辞し、同年七月以来当校ニ働き居申候、私來仙以来水沢地方ニハ働く人も無之候ニ付、速ニ後任者を遣はされん事を伝道会社ニ請求致候へしが、幸ニして近々之中ニ上原権太郎氏（曾て同志社邦語神学部ニ居りし人ニ御座候）を送らるゝ事ニ相成申候、併伝道会社會計之都合ニ而暫時延着之事ニ御座候、右ニ付而ハ該地之兄弟等も大ニ喜び居候由申来候、序ニ該地之兄弟等同志社大学へ応分之寄付をなさんとして相談致居候由ニ御座候、明後日ハ憲法発布之祝賀として各処ニ宴会も有之候由、諸新聞ニも相見候へしが、当学校ニ而も教員生徒之懇親会を此日ニ催ふ事之相談仕候、目下教員ハ内外十二名ニして、生徒現員百五十余名有之、殊ニ市原兄之

御人力行届き、世間ニ当校之評判宜敷御座候、過日ハ当校へ之寄付者恩人等ニ賞牌授与式之執行も有之候、私事先生之御厚恩并ニ同志社之恩恵ハ長く相忘不申、毎日一回必ず此事を記念仕候、願くハ先生益々主之恩寵ニ沐浴し、疾病全癒し心身強健ニして此国之為めニ御尽し下さらん事を、情ありて言足らず、御諒察被成下度候、頓首

二月九日

片桐清治

新島先生

二伸、水沢阿部清之助昨年上京之際拜顔を得御懇話被成候御礼、私より申述呉候様之依頼有之候ニ付、茲ニ申上候、以上

458

二月九日

中山光五郎

①栃木県下野国安蘇郡佐野町七百四番地 白金方 ②神戸諏訪山和楽園 貴
酬 ④墨

別課神学三年生佐竹篤氏、当度休暇中当地伝道に來り度旨先日一寸御申越も有之候間、都合によりてハ当度栃木の方へ御周旋被下度兼て申置候

御芳書拝誦仕候処、伝道上之御意見巨細御教示を仰奉感銘候、栃木伝道之義も近々之中に着手致度決心に御坐候、當時佐野地方伝道之景況ハ去月申上候時と格別変りし事も無之、目下当町内にて道を求め居者耆人も無之候、只近村之者にて四五名ハ信者にならんと思ふ者有之、又去月末より当町を距る三里之处、葛生町に講義所を設け候処、該地にても格別之聴衆ハ無之候得共、用掛を務め居る片柳堅三郎氏ハ幾分道を研究被致候、同氏之兄弟中にハ信者三人あり、耆人ハ大学医学部に居、耆人ハ伝道士之由に御坐候、故に同氏ハ余程基督教を賛成致居候、大学義捐金之義も同氏か葛生町にて幾分周旋致し呉れ候様承諸相成候、小生ハ微力ながら適當の後任ある迄ハ当地之為に尽力仕候決心に御坐候間御休神被下度候、又本月十二日玉村にて上毛伝道士之集会有之候ニ付、杉山杉田不破之諸兄にも栃木伝道着手に付てハ御相談可仕候、又鹿沼に講義所を設立する事ハ容易なるへしと奉存候へ共、栃木にハ^{〔浸〕}侵礼教会も有之に付てハ少しく六ヶ敷からんと奉存候得共、主之御聖意に適ハ、必ずなるへしと信し精々尽力仕候間御祈被下度候、栃木伝道費用之為金拾円御送金被下正に拝受仕候、余寒之候益御撰生奉希上候、余は後便を期して可申述候、勿々拝復

二月九日

中山光五郎

新島先生

閣下

459

二月十日

伊勢時雄

①東京本郷東片町百三十四番地

②兵庫縣神戸〔取訪〕
職防山和楽園

④墨

尚々、乍御手数同志社募集金ノ総高御知可被下候、又向後ノプロスペクトヲモ御知可被下候、十万円集候ハ、大学ノ一二科デモ御始ノ御積ナリヤ

御念書被成下難有奉存候、伝道会社西部委員よりハ宮川より先生に言上せし事ニ似タル返答参り候趣伝聞仕候、乍然東部委員ニ於てハ是非小生在米中の留守に支給するの意見ニ有之申候、目下ノ処ニテハ如何とも片付不申候、乍然、右ハ如何片付申候とも小生ハ米行可仕決心仕居候、若し会社ニテ兵糧^{セメ}迫切候とも落城ハ仕申間敷と存候、尤も若し本社より支給せざる時は留守中の用丈柳瀬義富ノ手元より借用仕候様約束相整ひ居申候、実ハ小弟目下所持ノ金僅カニ二百三十円ト相減し居申候、出立ノ用意ニ七八十円ヲ要し可申候、ニューヨーク迄旅費百七十五円、外ニ二十五円遣ひ錢(汽車中食糧等)、而して先方着ノ上金貨百ドル(百三十円)ヲ所持仕候様計画仕居申候、其故旅用^{トシテ}四百円ノ中、不足高百七十円柳瀬より借用仕候、又伝道会社都合ニよりて更ニ留守中ノ費用をも借用仕候事ニ御座候、若し先方〔ニ〕参り都合よく募金出来仕候ハ、百七十円丈ハ日本ニテ募集金ノ中より(出金者の承諾ヲ得て)返却仕度奉存候、其余ハ小生より此回の企図ノ為メニ献け申候筈ニ御座候、^{小生ノ負債トシテノコシ置可申}先方着即下僅々百ドル位持所仕候ノ^{〔ママ〕}ミニテハ定めて不都合なるべくと存候へ共、目下何分工夫相付兼申候ニ付、右ニテ飄然出懸申候筈ニ御座候御添書ノ義何分可然奉願度候、一書生の身を以て大業ヲ企図スル、頗る力を計らざるニ似タリ、乍然一片の志、一粒

の信仰ハ小弟を馳せて身の不敏を忘却せしむ、又事の困難をも恐れざらしむ、御憐察可被成下候

近頃大学生中ニて道ヲ求メ候もの続々相起り、すでに去月（一月）一人受洗、本月出立前ニ二三人受洗可仕候、その外ニも今度ハ六七人受洗可仕、一人ハ高等師範学校ノ女生徒ニ御座候、目下会堂常ニ充満致し、暫時ニても離るゝを遺憾ト奉存候、令夫人ニ宜敷奉願候、小兒共写真ヲ取申候間近日ニ差出可申上候、草々

二月十日

伊勢時雄

新島襄先生

460

二月十一日

金森通倫

①大坂土佐堀二丁目三十六番地

②神戸諏訪山和楽園

親展

④墨

〔大〕
特ニよれば、明日は少し手スキニ相成候間一寸御伺ひ可申上候

〔果〕

貴書只今到着致申候、如來諭兎角日本之事は間接之功多く、直接は却て好結果を得ガたき恐も有之候間、先鴻池之事は児島院長之帰府まで其儘ニ致置申べく候、又藤田氏へは其後兩度も面会致候、是は幾分宜き都合なれとも、是もあと廻しニ致す積りニ候、然時は其次之連中、即田中市兵衛、松本重太郎之諸子ニ候間、是へは藤田氏より夫々申込被呉候様依頼致置候処、昨日田中氏より之書面ニ同氏一分丈は已ニ藤田氏まで申込置たりと之事、金額何程と申す事記

載無之ニより其辺之処は相分り不申候間、何れ書面を以て藤田氏ニ相尋可申候、今朝藤田等ニ次く金満家阿部彦太郎氏ニ面会仕候処、同氏も藤田氏と打合之上一分之力を添るとの事ニ御座候、此人は丁度八度目ニ漸く面会相叶ひ申候、其他五六度余りてもまだ面会之出来ざる人も御座候、何卒是にて事情御推察被下度候、先日藤田氏ニ面会之節同氏之云ハるゝニ、自分之考にては此度之一等株は先千円と致し、二等を五百円として充分ならんと之事にて、彼之田中、松本之諸子は即五百円株ニ入れ置かれ申候、併れはどふかし〔て〕藤田ニは是非とも三千円は出させ度者と種〔々〕配慮仕居り申候、今日之毎日新聞ニ慶応義塾之大学計画之事を記載致候が果して実事ならば随分手強き競争者と存申候、当地之事は児島、高嶺之留守ニは充分之運ニ至りて不申候間、諸子之帰府相待ち居り申候、先日或者より同志社之経済ニ付き面白きソグゼシヨンを受け候間、何れ不日一寸御面会仕り御相談申上べく候
謹而奉祝憲法発布

二月十一日

金森通倫

新島先生

玉机下

二月十一日

奈須義質

- ①熊本県熊本区草場町 熊本基督教会 ②神戸港諏訪山和楽園 親展平信
④墨

海陸無事去ル五日午後第四時着熊仕候、神戸拝参の節ハ一方ならざる御厚待を蒙り感佩の至リニ不堪候○当地一体の形勢ハ機、実ニ到れりと雖トモ、運動上の掛引ハ又実ニ困難の甚敷モノ少ナカラズ、幸ヒ海老名との意見合せ、兄モ大ニ奮振の体ニ相見ヘ候ヘバ百福の事ニ御坐候

△小生モ功を目下ニ奏スルノ拙ニシテ破レ易キノ恐レアルヲ知り、着々歩ヲ占ムルノ胸算ニテ大隈伯の所謂強硬策ヲ執用罷在候、只今ヨリ用意下造リニ着手仕リタランニハ今夏以後ニ到らずんば到底収獲^{〔獲〕}の理ヲ得可からざる事と存候、何卒少シく御安慰被下度候○英学校ハ基礎未ダ甚ダ弱シ、十二三四の勢力トモ申サレズ、シドニー、ギユリキ氏を急ぎ送らるゝ事必要なり、彼ハ有主義[○]的人物と察スレバなり、要ズルニ学生ノ欠点トスル所ハ「高尚なる儀容、活潑ナル精氣、宏大ナル希望」の三徳を失耗せるモノ、如シ○熊本有志社会ノ宗教ニ対スルノ感情ハ我（宗教）弱ケレバ之ヲ利用シ、我（宗教）強ケレバ漸やく屈服の兆あり、されども未ダ頑硬冷淡の風、瞭然として明晰なり、実に残念の次第、悲歌慷慨ニ不堪、、、

○政治の風波動揺シ来らバ、彼の無頓着、無邪氣勝なる伝導師方ニハ或ハ狼狽逡巡の場合もあらん、尊公幸に之を警守せられよ、右要略書余後便に申述度、拝頓不一

二月十一日夜

新島襄殿

閣下

奈須義質

二伸、尊令閨様ニ宜敷申上候

○御病氣の平癒〔癒〕ヲ祈ル○御事業の完成ヲ祈ル

○同志社寄付金ニ附テハ当地有志者の感覺甚ダ宜敷、九州大会ノ任ヲ以テ非常ノ尽力ヲ致シ、精神と骨折丈ケニテモ寄付シタシトノ事ノ由ニ候

462

二月十二日

伊庭貞剛

①大坂塩町壱丁目

②神戸諏訪山和楽園

平安

④墨

御懇書拝誦、寒氣未消候処御容体如何御座候哉、乍蔭御案じ申上候、小生も貴台之英名ハ予々拝聞、一度御面晤申上度存慮之処、塵事鞅掌未其好機ニ会せず、遺憾之至ニ御座候、過日ハ金森氏を以西京大学御発起之事縷々拝承、教育之国家ニ急要なるハ御同感之義ニ付、住友ニ於ても一分之御助力を致候処、叮嚀之御書面ニ預リ奉謝候、過日も一寸諏訪山広瀬方迄参り御尋も申上度と存候へとも、貴台近頃御病氣之趣ニ付、態と差扣へ申候、其内春暖御輕快ニも候

ハ、御伺可申、残寒之時御身御養生專一ニ奉祈候、右御返詞迄、書余万々付拝鳳之時、謹言

二月十二日 霄

伊庭貞剛

新島襄様

侍史御中

463

二月十二日

兼子常五郎

- ①京都同志社学院 ②神戸諏訪山和楽園 ③はがき ④墨

自由万歳君ノ幸福ヲ祝ス

十一日ノ憲法発布式祝会ハ非常ノ盛大ニ有之候、依之小生ハ路加伝二十三章三十四節及ヒ同伝二十一章三十三節天父ヨリ賜リタリ、御熟覧可被下候

天下之大赦ヲ行ハレ国事ニ関スル諸氏出獄シタリ

廿二年二月十日

欣喜雀躍ニ堪ズ、乞フ愛兄天父ニ感謝アラシ事ヲ

京都同志社学院 兼子常五郎

464

二月十二日

安永 稔

②神戸諏訪山和楽園 ④墨 ⑥裏書「托五十田君」

尺素拝呈仕候、陳者御病氣之際度々罷出大之御妨相働真平御海容奉希候、却説ニ鳥渡御噂申上候通、本日五十田君〔勇次郎〕公致候間、募集方法等之儀ハ先生之御良案モ可有之候得ハ宜敷御示諭奉願候、時下尚寒氣凜然、為國家御保護專一ニ奉祈候、不罄

二月十二日

安永 稔

拝

新島襄先生
侍史

465

二月十四日

金森通倫

①大坂土佐堀二丁目 国本方 ②神戸諏訪山和楽園 親展

別紙之通大沢氏より申来候間東京之方は先生より宜く御取計ひ置被下度候、又先日一寸御話申上置候高島、児島之帰路神戸ニ於て先生御面会之儀は何卒是非御実行被成下度候、若し右之両氏と建野、遠藤之両氏も共同して連名を以て

大坂府下数十名之紳商を招き十分之奨励をなしくれ候半々、事必ず成就致すと存候、素より奔走尽力又宴会之用意招待状之事などは小生自ら可仕候間、彼之人々ニは決して其勞をかけぬ積リニ候、只彼等之名を以て是を集めて宴会之席ニ於て充分ニ奨め、丁度大隈伯ガ自宅ニ東京ノ紳商諸子を招ひて馳走之上寄付ノ高まできめさせた位ニ致しくれられ候半々此上もなき事と存候、是等之^{detail}ニ至ては小生直ニ諸子ニ面会して打合せ可仕候へ共、先生よりは東京ニ於て大隈氏ガなされたる事ニ例を引ひて、高嶋、児島之両氏ニ御依頼なしをき被下度願上候、可成手広く奔走は致す攪括ニ候へ共、弥確定と云ふニは是非頭之大なる連中之声か懸らぬと結果は^(小)少さくなると存候、右之次第ニ候間、両氏之帰路を御心がけをき被下度候、併ながら若し其時御病氣之様子悪く御座候半々、決して御無理をなし下さらざる様願上候、タトヒ御面会なきも宜く候間、決して御推し下さる間敷候、右之好機会も御病氣ニは替へかたく候間、何卒御用心被成下度願上候、右は用事まで、草々不一

二月十四日

〔別紙〕

拝啓、本日第一銀行三木氏ヨリ書面参り東京ヨリ金三千円着仕候ニ付、金森氏ヨリ受取証御差出し被下度、左候ハ、当座へ預リニ付替可申候ト有之候間此段御通知申上候、就テハ貴兄ヨリ第一銀行へノ受取証は小生御妻君ニ申上、早速差出し可申候間左様御承知有之度、新島君へ此事貴兄ヨリ申上、東京へは先生ヨリ礼状ヲ発スル方可然存候、先は右申上度、頓首

二月十三日

金森君

大沢善助

二月十四日

加藤 壽

①京都上京区第拾組御所八幡町

同志社学院予備校

②神戸諏訪山和楽園

④墨

謹啓仕候、爾来御病状如何之御様子ニ御坐候哉、切ニ御伺書可差出筈之处、意外之御無音のミ仕候段御有恕被成下度候、陳者当校は今日まで 主の御冥助に依り万事好都合に運轉致し来居候、殊に過日は万国青年會書記ウイシャルド、スウィフト兩氏来校相成候而、当予備校におひても屢々御勸告被下候結果として、全校二百四名の中殆んど四名ハ目下洗礼志願申出居候、其他一般に教義及聖書研究等ニ従事罷在候類きあれば、校内一体の空氣も何となく清淨に相成候心地致し候、且又先般都合に依り安永氏に作文專任教師を依頼し、更に丹羽清次郎、高木正則兩氏に寮長を依頼致し候而一層寮内の取締を嚴重に致し候、傍らに積極的の伝道にも尽力被致居候次第ゆへ、寄塾生に対してハ必らず良果可有之義ト思考罷在候、されど過日も安永氏に御伝書被下候通、最も懸念罷在候ハ通學生にして、學業上并徳義上より考るも外宿の生活ハ本人に取て甚だ不利益なることを感し候ゆへ、如何にもして今一寮増築の義心願罷在候、されど到底当校の自力にてハ急に其目的を達するを能ハざることと存し候、何となれば当校毎月残余金の予算ハ凡そ七十円余に候得共、本學年ハ此内より創立費に百円余を補充し、且又当校近傍（コルドン氏旧宅の北地、統々）の建物并地所を買入候約定致し居候ゆへ、之にも六七十円の臨時費を要し、且ツ本學年よりハ南（龍天（雲々））志垣の兩氏を英學教師に聘し候ゆへ、自然教師給に非常の増額を加へ候処より予算よりハ残余金減少致し候を以て、此残余金のミにてハ到底本年

中にハ塾舎を建築すること能ハざることとそんじ候得共、必然早晚成工之義日夜確信祈願罷在候間、何卒右ニ付御高案を賜り且ツ当校の為め常に御祈り被下度奉願候、先は当校目下の景況御報知旁御病氣御見舞まで呈一書候也、草々
不一

廿二年二月十四日

加藤 壽

拝

新嶋先生
閣下

尚々、乍末筆御良偶様へもよろしく御伝声奉願候

467

二月十四日 森 為国

①東京中六番町十九番地 ②神戸 乞親展 ④墨

其後御伺モ不仕候段深く奉恐入候、然は先般より転地御療養之趣、実ニ御地ハ季候温順ニ有之候へは定メテ御相応追々御快方ニ被為向候事ト相信シ申候、何卒折角御療養被為在度伏テ奉祈候、玆洋行中ナル三好退蔵義、今般大学校御設立費ノ内へ甚輕少ニ候へ共、金三百円寄付仕度ニ付、其旨尊公へ申上置候様申遣、尤該金送付方ノ義ハ小崎弘道へ委細申談シ置候ニ付、可然御聞取被下度右御伺旁呈一書候也

二月十四日

新嶋公
尊下

東京中六番町十番地 森 為国

468

二月十五日

新島公義

①大和奈良

②神戸諏訪山和楽園

平信

④墨

春寒尚ホ未ダ嚴敷覺江候処、近日之御容体如何被為在候や奉伺候、扱小生モ凡ソ二週間計勢州、伊州地方ヲ経歴シテ
帰寓仕候、勢州ニテハ上出氏方ニ滞在、今日伝道ノ実況ハ意外ナル事ニ御坐候、何オカ意外ト云フ、「津ノ伝道ハ先
年小生在留ノ時ト敢テ大差ナキナリ、現今信者トシテ存スル者ハ多クハ皆小生力種播キシタル人々ナリ、誠ニ不思議
ナリ、其他三四人ハ他派ノ信者が寄り来リタルノミ、小生勢州ヲ去リシ以来殆ド三年、此間伝道会社ハ焼トナリテ、
入り替り立替り尽力スレトモ今ニ於テ別段進歩ナシ、依然タリ、否ナ社会上ニ勇進シタリシハ却テ小生在滞ノ節ノ方
が大ヒナリシナリ、衆会ノ人々モ今ハ余リ多カラズ、小生ハ勢州ニ入テ頗ル懐旧ノ情ニ堪ヘズ」

津、久居ノ信者ハ小生ニ対シテ皆此度ノ面会ハ誠ニ面目ナシト懺悔ノ語ヲ吐カレ氣ノ毒ニ御坐候、小生今ニ於テ伝道
会社委員ニ少シク申スベキ事アレトモ、上天ノ明識アレバ暫ク止ムベシ、小生津ニ於テハ信者ニ奨励ノ勸メ数言ヲ陳
ベテ立去リ申候、又伊勢新聞社ニ大学ノ事ヲ委細委托致申候

却説 彼ノ小生ノ信友上出氏ハ誠ニ能ク小生ノ志ヲ襲ギ呉レ、善ク純正之信仰ヲ奉守シ、外ニ向テハ、来ル原田、来ル本間、来ル宮川及ビ伝道会社委員ニ、新島去リシ後伝道不振ノ情体ヲ弁白シ(トモニ)（小生ハ更ニ頼マニ）会社ガ伝道方針ノ拙キヲ説教シ（文字モナキ者ナレトモ）内ニ向テハ、小生去リシ後、津ノ關係ヲ断テ自村近傍ノ村民ニ伝道シ、今ハ三十五名ノ男女信者ヲ作り、酒井貞躬ト云フ老人ヲ伝道者トナシ、波瀬ト申ス一郷（凡ソ六百戸）ニ於テ基督教徒之別乾坤ヲ生出セントス、小生ニ於テ豈抃舞ノ情ナカラン乎哉、右ノ信者達ハ労働者多シ、而シテ粗末ナガラ一ノ会堂ヲ新築セリ、是ニ奇ムベキ話シアリ、或時（去年三月）右ノ信者衆金シテ一ノ家屋ヲ購フ、其代金廿円ナリ、偶売主暫ク其家ニ商売ヲ始ム、繁栄日ニ甚シ、於是カ已ニ売リタル自家ヲ彼レ復自ラ買ハン事ヲ求メ来レリ、而シテ自ラ四十円ニテ購ハン事ヲ需ム、此秋幸ヒト信者ハ議シテ、潔ク二十円ニテ買ヒタルモノヲ六ヶ月以後ニ倍金四十円ニテ売リタリ、信者思ヘラク、会堂建築ノ為ニ金儲ケヲナシタリ、是レ主ノ恩寵ナリ、今ヨリ此金ヲ基本トシテ新築スベシト即坐ニ決シ、少々、金ヲ集メ、或ハ材木ヲ献ジ、或ハ勞力ヲ献ジ、独立独行未信者より一文モ寄附金ヲ受ケズ、奥行四間半、間口三間、別ニ一間附ノ現今ノ信者相応ノ会堂ヲ落成セシメタリ、嗚呼小生先年勢州ノ働キ空シカラズ、歛天喜地感謝ノ外ナキナリ

小生一日安息日ニ拙キ説教ス、彼等非常ノ歡喜、翌日ハ三名洗礼志願ヲ申出来レリ、思フ二年内ニハ六十人ニモ達スベシ、以上ハ外形ノ事、其内ナル信仰ハ唯々純樸ナリ、潔白ナリ、又タ相応ニ精神モアルナリ

此度ハ小生無上ノ喜ビヲ得タル次第ニ御坐候、是ニ反シテ面白カラザリシハ伊賀上野ノ事ニテゾアル、同地ノ有志者ハ新井氏より添書モ得テ持参シ、且ツ大学ノ事ヲ語リタレトモ冷淡ナル風勢、後日ヲ待テ回答スルトノ事、由テハ伝道ノ事モ今充分望ミヲ屬シ難ク御坐候、名ニシ負フ伊賀越ハ道路惡敷且ツ雪積ミテ、寒風ニ叩カレナガラ草鞋ヲハ

キ歩行往復道程七十里、先ヅ／＼右ノ事ニ御坐候也、一寸一筆御左右伺旁相認メ申候、草々以上

二月十五日

公義

伯父様

虎皮下

憲法発布、信教自由祝賀々々

祖母上様モ養老典ニ預ル事ト奉存候、伯母様へ宣布奉願上候〔後欠〕

469

二月十五日

下村 房

④墨

一筆申上奉候、先々御機嫌よくわか葉の春ニ移らせられ数々御目出度存上候、春ニ相成候へども未タ寒さ相かわり不申候間、先生へハ如何あらせられ候やらと夫のみ存上候処、先もじ熊本よりギウレキ奥様神戸へ御出ニ相成候節、

先生へ御目もじニ相成候よしにて御尊承り候処、只今ハ少々御よろしく御座被成候御よふす、どふぞ／＼早々御快氣のほとかげながら祈上奉候、然処其節ハ御しんもじとして金子十円私ニ御送り被下候事有がたく拝領致申候へども、去冬十二月ニも金子御送り被下候事ニあまり恐入奉候、御蔭にて何一ツふじゆふなる事なく孝太郎帰りまで暮申

候間、乍憚佐様御安心被下候よふ願上候、実にく絶ず御心ニ懸させられ御恵み被下候事、何と御礼申上よふも御座なくよふ奉存候、かなはぬ筆にてあらく御礼まで申残候、御目出度かしく

二月十五日

新嶋先生

下村
母村

470

二月十六日

永岡喜八

①京都寺町丸太丁上ル

②神戸諏訪山和楽園

④墨

余寒難退候処御容体日々御甘快ニ被為趣奉恭賀候、容大様首尾能御途上被遊一同恐悦罷在候、陳者公債証書換之事御高論ヲ蒙リ深ク奉大謝候、過日来再応掛合之末、本日先方より通牒有之候ニ付罷出候処、実ハ丙号公債当載之為メ日本銀行代理店ニ於テ番号取調等之為メ、近来非常之混雜之趣ニテ、夫故自然手順相後レ候由安藤氏話サレ、漸ク本日差廻候趣ニ有之、正ニ落掌致候間御安神之程奉願上候、過日主意書及始末書各四百部、通運ニテ御通送申上候処御落手被成下候哉、昨日端書ニテ御下命之分ハ明後日汽車便ニテ御送致申上候間左様御了知被下候様奉祈候、乍末筆御老母様ハ至極御壮健ニ御坐候、三飯共粥御用被成候ニハ頗ル御困リ之御模様ニ御坐候、猶先生御容体等御話申上候処、大層御満悦被遊候、奥様ニ申上候櫛昨日中山氏へ依頼致差上可申答之処、使之者相後レ御出立之時間ニアヘ兼候ニ付

テハ、次便ニ奉差上候間怠慢之罪ハ偏ニ御容赦被成下度、古代地図中山氏より御請取被下候哉是又奉伺候、時下不順之候折角御厭被遊候様專一ニ奉存候、不具

十六日

永岡喜八

新島先生

梧下

二白、もしや竹越^{〔カ〕}之事委細奉拝承候

471

二月十六日

柴原宗介

①京都寺町丸太町下ル

撫子花書院

②神戸港和楽園

親展

④黒インク

自来御無沙汰仕候、春寒料峭之節 先生御病体如何ニ御起居被遊候や御伺申上候、小生ハ昼夜御病氣の御為めニ 神恩を祈り候、定めて寒氣之為め寒察^{〔カ〕}御外出も難被遊御不自由察上候、尚此上も国家之為め御自愛專要ニと存候 諸去ル十一日わ嘗而待受被申居候憲法御発布ニ相成国家之万歳奉祝候、小生も取敢ず憲法之全条一扁拝読仕候処、稍遺憾ヲ覚エ候ケ条も往々相見ヘ候ヘ共、何分今日之国体上欽定之憲法ゆヘに国法学杯ニ照し彼是批難も難出来場合も有之、謹而拝受スルノ外今日ニわ術も無之様覚エ申候、此上ハ国民文化之度ニ応じ、元首之公平無私、清潔ナル心ヲ

以テ能ク国民ノ希望ヲ採納シ、漸次改正之盛事ヲ見ルノ日を相待チ申居候

思ヒ見レハ、我国今日之有様ハ天地之創造之日の如ク万事混沌トシテ弁ズル能ワス、為めに出来事も亦タ咄々怪事百

出仕候、近クハ仏徒死灰再燃之勢を顕し、倒レントスル茅屋ニ柱ノ根接キヲセント欲したる乎、将タ金儲の為めナル

乎、米国産ノ印度製ナル半俗半僧、彼ノ^(Henry S. Ocho)ラルゴルト氏来レリ、彼等柱ノ接木ニセントスルノ用意ナレハ或ハ怒ス可キ

モ無見ノ評判ノ金儲ケノ為とし、聞ケハ真ニ可憐亦タ気の毒ニ被存候(平井金三等其ノ人ニ隠謀して、金儲集ヲ企テタルニアル由)、政治海ニハ武蔵坊弁

慶之再来トモ云フ可キ鳥尾得庵老頭レ出テ、保守新論テヲ機関雜誌ヲ発兌セリ、彼レ同志社大学ニ迄無用ノ弁ヲ費

し、(一、二号、明治二十二年一月廿日・二月十五日)無礼至極ノ攻撃ヲ試シタリ、私共鳥尾氏其人ヲ知ラサルモ今更ニ断言ス、彼レノ野鄙ナル、彼レノ小人ナル、心

ノ狭溢ナル、真ニ賤ム可キ輩ニ御坐候、次キ尊皇奉仏大同団顯レテ、木ニ竹ヲ接ント試シタル有様ハ恰モ小兒ノ戯レ

心頭ニカクル程ノ物ニ無御坐候へ共、只憐ム我国文学士連ノ腐敗政治ノ犬ノ多き、国家ノ為め一滴袖ヲ濡スニ到リ申

候、斯ク百鬼夜行ニ非ス、青天白日之公明赫々タル天地ノ間ニ百鬼横行仕候事ハ国家ノ一大事ニ御坐候、彼レ惡魔ノ

城樓ヲ倒シ我國ヲシテ真正ノ文明ニ進ムルハ只タ我党ノ人士此上ノ尽力ニアルナリト被存候○先生ノ御大学校ト呼

ブ、其声四境ニ限ナク反響セリ、為めニ私立大学設立ノ計画ヲナス輩其数今哉二三ニ及フ、福沢翁モ亦タ此計画ヲナ

シ居ル由、何ニシテモ国家ノ為め慶事ニ御坐候、併セテ同志社大学校ノ勢力益々強大ヲ致スノ吉兆ト我等神エ感謝シ

且ツ速ニ祝福ノ来ラン事ヲ祈入候○曩ノ文部大臣横死ノ一事ハ驚入申候、森氏ノ不幸ナル、千歳之一時ニ列スルコト

ヲ得ス、却テ其慶事ノ日ニ死スルトハ、前世ノ因果トデモ云フテ発明スルノ外無之、且ツ国家ノ為め可惜事ニ御坐

候、先は右御見舞迄、謹而閣筆

二月十六日

宗介

再拝

再白、政海波高ク一葉ノ小艇ヲ激浪ノ間ニ浮ベントシ、政海ニ航セントシ、船大工之多忙察入候、為めに此船ニ乗レ、彼ノ船ニ乗ランカ、賄モヨシ船モ新造リ、破船ノ虞ナシト客引有志ノ門ニ湊フノ今日、我等ノ如き名モナキ小商人迄客引ニ左右之手ヲ取ラル、有様ニ而迷惑至極ニ御坐候、何分迂濶ニ船ニ乗ルモ、海賊盜難ノ恐レヨリ、破船ノ難尤モ恐ル可キ次第ニ御坐候へば、先ツ他日堅牢之造船出来スルノ日を待チ、盜難ノ虞ナキ信用ヲナスノ価アル船ニ乗ラント欲し只謝絶罷在候、寸陰ノ閑暇アラハ準備ヲ勤メテ自家ノ立脚ヲ全フスルコトニ注意罷在候、御安心可被下候

472

二月十六日

吉田恒久

①兵庫仮留監官舎 ②神戸諏訪山和樂園 親展 ④墨

花翰拝誦、時下倍御清勝奉賀候、陳ハ過日は御令閨様遠方態々御来車被下種々御懇話ニ預、尚御約書之趣拝承被入御念候義忝奉謝候、然ルニ此度京都より御越之趣ハ薄々承知致居候様子ニ御坐候得共、相替リ候挙動モ無之故、御同然全ク一時之戯レニ書状之往復等致候義与被存候間、御安意被下度、併シ御身柄ヲモ不顧失敬之段甚恐縮之至御座候、

右は貴酬旁御礼申上度、草々敬具

二月十六日

吉田恒久

新島襄殿

追而、乍憚御令聞様へも宜御伝声相願候、以上

473

二月十七日

金森通倫

①西京新町今出川

②神戸諏訪山和楽園

親展

④墨

昨夕一寸端書を以て御報道申上置候通最終列車にて帰京仕候、此度は二三日位は滞在之見込ニ御座候、大坂の方にては及丈可成広く手を付申候へ共、何分高島、児島之諸子之不在なるを以てカンジンなる纏方ニ至て頗る困難を感申候、何れ両氏之帰坂を待て一会を催すニ非されば十分之好結果^{〔果〕}は如何ヤと存候、若し両氏帰坂之上此方之望ニ応ぜられざる時は最早致方なし、小生之及ぶ丈之事を致して各戸ニ付て相纏可申候、先日新聞にて承候へば、高島中将ニは廿日頃ならでは帰坂無之由、児島院長ニは何日頃之積なるヤ未相分不申候、附ては昨夕も御願申上置候通り、同氏等之着神御承知次第、早速小生宅まで御一報願上度候、此度滞京中ニ先日御相談申上候同志社教育講之義も少し考置

き、又他之人とも相談致積リニ候○大西祝より書面来り、同人も早退院致したる程之事にて、最早そろ／＼歩行も相叶ひ申候由、此度は同人より彼之洋行之儀ニ付き小生まで相尋申候、弥本年卒業後ニ洋行之事ニ決候半々其用意等も可有之候間、其辺ニ付き確答を致しくれと申来候、如何可仕や、昨年東京ニて在東京丈之社員会之節は同人を弥哲学修業之為洋行致さする事ニ相決申候や、小生もたしかニ記憶不仕候、若し先生之御見込相立申候半々、御見込を以て小生より社員一同へ書面を以て意見を尋候も差支無之候間、如何様とも御指図被下度願上候、右要用まで、草々不一
二月十七日

通倫

新島先生

大坂府内同志社大学賛成者

△ハ訪問シテ面会ヲ
得ザル時ノ印

○面会ヲ得タル時ノ印

○○○○△△△高島鞆之助

△△△○○○児島惟謙

△△○○○建野郷三

△△○遠藤謹助

○犬塚盛魏

△△△○大島貞敏

○今井良一

検事長

始審長

書記長

鴻池善右衛門

住友吉左衛門

△△○○○○ 藤田伝三郎

伝三郎ノ兄、土木会社ノ副社長

△○○○ 久原莊三郎

伝三郎ノ兄

△△△○ 藤田鹿太郎

○ 広瀬宰平

住友鴻池ニツグ豪商

△△△△△△ 阿部彦太郎

商法会議所頭取

△△△△△△△△△△ 田中市兵衛

坂界鉄道会社社長、銀行頭取

△○○○ 松本重太郎

△△△△○ 土居通夫

米商頭取

○○○ 玉手弘通

銀行頭取、金満家

○ 岡橋治助

名望家

△○○ 寺村富栄

〔朱筆〕
「天満紡績会社

○○○△ 伊庭貞剛

野田市兵衛ヲ御訪ヒ可被成旨或ル人被申候」

阿部彦太郎ト併ブ豪商

△○ 芝川又右衛門

△△△○ 大三輪長兵衛

毎日新聞社

△△△○○○ 兼松房次郎

△△△△○○○ 菊池侃二

○○○ 大塚 磨

○○○ 五代龍蔵

○○○ 織田純一郎

実力アル財産家
△△△△△△△△△△△△△△△△ 難波二郎三郎

大坂商船会社社長
○ 河原信可

豪商
△△△△△△△△ 浮田桂造

同
△△△△△△△△ 小林八郎兵衛

代言
○ 砂川碓峻

代言
△○ 北村左吉

前川 楨造

土木会社重役
○○○ 桑原深造

中村惣十郎事
○ 藤井重兵衛

医者
○ 緒方惟準

同
△△△△△ 緒方拙斎

同
○ 神戸文哉

同

△△○ 好本

府立病院院長

△△○ 吉田顯三

医者

△△○ 有沢基次

同

△△ 津田 融

豪商

△○ 戸田弥七

同、府會議員

△○ 藪 清右衛門

軍医長

○ 堀内利国

豪商

△△△○ 宗像直次郎

齒医者

△ 西村輔助

郵船会社支配人

○ 春田源之丞

大家

○ 阿部元次郎

自由亭支配人

△○ 星丘安信

商人

○ 渋谷庄三郎

時計屋

△○△△ 安田源三郎

綿会社長

○ 秋馬新三郎

豪商

○△△ 辻 忠右衛門

第一銀行支配人

○ 熊谷辰太郎

百四十八銀支配人

小学校長

豪農

○△△△ 西田栄助

滝山 瑄

秋岡義一

右之外ニ今数名有之候へ共未た賛成之返答無之候、右之△ト○ハ余リ度々行ひて面会之出来ざる事ありし故、楽ミニ此印を附シヲキ候間、一寸御笑之為ニ御覽ニ入れ申候、△ト○トニハ前後は無之候、只面会、不面会トノ度数ヲ記シタルマデニ候

474

二月十八日

古賀鶴次郎

①京都同志社 ②神戸諏訪山和楽園ニ至 侍史 ④墨 ⑥封筒裏書「明治廿二年二月十八日」、別紙なし

奥様ニモ宜敷御伝言奉仰候

拝啓、天父之御雅護^{〔辨〕}ニヨリ日ヲ重子月ヲ越へテ先生ノ御不快モ必然御全快相成事ト奉確信候、願ハ現今青年改良ノタメ、国家運命長久ノタメ、寧ロ斯道伝播ノタメ折角御自重被降候様幾重ニモ奉析候、是迄時々寸楮ヲ呈シテ先生御憂

慮ノ万一ヲモ慰スヘキ微意ハ有之候得共、拙事ニ驅レテ終ニ今日ニ打過ス〔衍字〕キ申候、頃日二三ノ以テ先生ノ開眉ヲ促スヘキモノ有之候得ハ左ニ略述仕候

同志社ノ生命ハ固ヨリ一冊不磨ノ聖經ニ有之候事ハ生等書生ノ承知仕義ニ有之候得共、活動已ム事ナキ青年ヲ誘導シ其思想感情ヲ高メンニハ必スヤ又時々活人ノ刺激モ実ニ欠ク間敷事カト懸察仕候、然トモ其刺激者タル又容易ノ事ニアラス、平生青年ノ尊敬ト畏愛トヲ価ヒスヘキ人物ナラデハ中々当リ難キ様事実ノ証スル所ニ有之候、近日久シク先生及ヒ金森牧師ノ御不在ニテ全校ノ大氣何トナク面白カラヌ傾行哉〔向〕ト心窃カニ婆心ヲ費ヤシ居候所主ノ御愛顧ハ浅カラス、恰モ好シ此時ニ当リテ信仰ノ岩ニ立チ愛ノ熱涙ト共ニ真ニ身ヲ捨テ、主ニ仕フルウキシャルト氏ノ如キ活人物ヲ以テ十二分ノ勸メヲ受ケ、是マテ冷熱制シ難キ全校ノ信仰上ニ尤モ著明ナル大運動ヲ与ヘ、挙テ信仰回復ノ活氣ヲ引起シ申居候、今度受洗ノ志願者ハ殆百ニ達セントス、今ヤ先生ト金森牧師トノ不在中ナル事ヲ考ヘ付ケ、此考ヘト共ニ来ルモノハ自治自主ノ元氣ニ候エハ、現今同志社ノ状ハ決シテ御配慮ニ及ハヌ事ト存シ候、同氏ノ此回ノ御尽力ハ心ニ銘シテ永久ニ鳴謝ノ念ヲ生シ申候、氏ノ御勸メニテ生ノ同級中ニテモ将来ノ目的スラ決然直接ノ布教ニ従事スヘキモノスラ出テタル義ニ有之候（去トモ生ハ其中ノ者ニアラス別ニ思フ義有之候）

千載一時トハ是マテ無形のニ文人的ニ唱ヘ居候所ナリシカ、現実千載ノ一時ナル憲法發布ノ聖時ニ生キテ、遭遇セシ事ハ祖先ト子孫ト二者ニ対シテ尤モ誇ルヘキ好時節ト快々ノ意ニ堪ヘ不申候、全校ノ此愉快忻賀ノ精神ハ溢レテ過日ノ盛宴ト相成リ、青年〔初〕鬱悒ノ活火ト憂国忠君ノ元氣トハ新礼拝堂ニ聚結シテ詩ト文ト演説ト其他和歌戲談ノ材料ト相成リ、謹嚴ト快味ヲ兼ネテ堂々蕭々其式ヲ終リシハ外国諸教師ニ対シテモ、同志社平素ノ主義ニ取リテモ、寸毫モ恥シカラヌモノト存シ申候、集者殆ト八百有余、五百余ノ灯火ヲ点シテ国旗ノ飄々タルト相得テ其宜キヲ得シハ実ニ壯

大敵然ノ風ヲ添ヘ申候

組合一致ノ義ニ付キ、ギリキ氏ノ四日打過キ同人ノ意見ヲ述ヘラレ、且ツ合併問題ニ付テノ意見モ出来キ、ラーネツト氏ノ意見ヲモ出版ニ相成リタレハ、旁以テ右問題ヲ判断スヘキ材料ヲ得タル事ナレハ合併上ノ可否論モ必ス一着ヲ進メ申ス事ト存候、右頃日同志社中ノ現象ナリ、御一覽可被下候、徳富氏ノ言ノ如ク先生ノ御身ノ如キハ実ニ歴史ノ關係ヲ有セラル、事ト益々信シ申候、彼ノ局^(譯)變ノ徒ハ蚍蜉ノ大樹ヲ撼スノミ、彼ノ鯉鯢ノ輩ハ蚊虻ノ巨象ヲ煩ハスノミトハ、取リテ先生ノ御身今日ヲ評スヘシ、古昔孔子桓^(楚)黨ニ困メラル、トキ悠々閑々、子曰ク天徳ヲ我ニナセリ、桓^(楚)黨其レ我ヲ如何セント、信スル所アリテ任スル事深キ者ハ古今皆如此モノアラン、基督教ハ不朽ノ天経ナリ、乍先生ノ存亡ニ関セサル可シ、然トモ衆星ヲシテ之ニ向ハシムルニハ必スヤ其ノ北斗者トナリ、木鐸者トナリテ、一世ニ傑出シテ頭角ヲ顯ハスモノナカルヘカラス、先生即チ其人ナリト頃日愈信セラレ申候、何卒天大海容ノ胸宇ヲ打開キテ重疊御撰養被下度候、生今日ノ豆眼ヲ以テ敢言此ニ至リ、或ハ先生ニ呈スルノ言ニ非サルヤヲ畏ル、然トモ是只生カ先生ヲ師父視スル赤心誠意ニ有之候得ハ不惡御笑詭奉願上候、草々頓首

第二月十七日

鶴次郎

蕭拜

新島先生

坐下

二伸、別紙ハ生憲法発布ヲ賀スルタメニ無理ニ並ヘタル拙作ナリ、敢テ呈シテ先生ノ御一笑ヲ買フ

475

二月十八日

加藤 壽

① 京都上京区第拾組御所八幡町 同志社学院予備校
呈直披 ④ 墨 ② 神戸諏訪山和楽園

拝答仕候、当予備校残余金ハ客年九月より本年一月までにて参百六拾四円を錢八厘ニ御坐候処、此内創立費へ補充として百貳円六十二錢七厘払込み候間、現金貳百六拾貳円零九錢^{〔ママ〕}を厘有之候、尤も此内塾舎建築の爲めとして積立候金ハ委員會の決議に依れハ殘金の三分の一を使用致し候筈ニ付、之に因て算出する時ハ目下建築費に當ツベキ金ハ八拾七円余ニ相成候、此他過日も申上候通、地所買入之見込みも御坐候得共、未定ニ付此内にハ算入致シ居不申候、先は急キ右御回答まで、草々不一

廿二年二月十八日

加藤 壽

新嶋先生
閣下

476

二月十八日 山中 百

①伊与今治 柳瀬春次郎方 ②神戸諏訪の山下 和楽園 ③はがき ④墨
⑥日付は消印による

香川、愛媛両県会開会中なり、松山の方には紹介人もあれば罷越し度、只今御指図を仰く様電報を發したる次第に御坐候

拝啓、去る十二日之夜吉野川丸に投し十三日午後無事着今仕申候、十四日当地之有志家を訪、十五日の晩郡長を初、外十名計田舎紳士の小集会を開き共に夕餐を喫して熟議を遂げ、十六日の夕俱樂部大会開場に相成申候条、都合能郡長幹事の紹介にて大学の必用及旨趣を演説仕申候処、會員一同感伏之体にて即座に委員十名を撰ひ會員各自の自金をも投しせしめ、且つ此地方寄付者を募而幹旋をなすとの決議承諾仕申候也、教会は昨日曜日に大学演説いたし、これも委員撰定仕申候也

二月十九日

財部 羌

④墨

肅白、^{〔カ〕}祖鳥ハ推參御痾中御嫌情をも顧みず長坐失礼致候、御寛恕奉祈候、^{〔扱〕}叉手ハ其際御話申上候演説云々之事ハ全く
 一時の訛伝ニ出たるものにして、実ハ浮田和民子が^{〔尊皇奉仏大同団を駁す〕}尊皇奉仏大同団てふ題ニて吾邦の時勢云々より説創め、而して東
 京ニ大内青巒氏等の設立せる尊皇奉仏大同団を非難シ、尚吾邦往時尼子曾我馬子及織田信長等が仏教ニ関する当時の
 運動を例証し、他種々歴史上ニ就而引例播説し、終局真理ニ適せざる宗教ハ信するニ足らず、却而害あり云々なりし
 が、其歴史引証上の語ニ付而、聞誤り為めニ先日御話申上たる如き訛伝を惹起したる事判明いたし候、聊か不敬云々
 等の事実ハ無根之事ニ候間、右御承了奉希候、先ハ要事而已、艸々如斯ニ御座候、尚折角御愛顧專一ニ奉祈候、卒略
 敬具

二月十九日

財部 羌

新嶋襄殿

硯北

478 二月二十日 丹羽清次郎

①同志社学院予備校 ②神戸諏訪山和楽園 ④墨

拜啓仕候、過日ハ御面晤ノ上種々御懇待ニ預リ奉欣謝候、却説小弟義帰途大坂ニ於テ親戚中ニ大混難アルニ際シテ大ニ帰校ノ日ヲ延べ、遂ニ本日午後ニ至リテ校門ニ入ルヲ得候、早速加藤氏ニ面会シ予備校ノ資金ノ事ニ付校長ノ御配慮ヲ通シ候処、已ニ校長ヨリノ御書面アリテ詳細御返辭セシ旨答ヘラレ候、次ニ演説会ノ件ニ付詳細尋ネ合セ候処、浮田氏尊王奉仏大団結ノ演説中歴史上ノ実事ヲ引証シテ来リテ到底奉仏ハ尊王皇室ニ反シタルモノニシテ、彼此決シテ両立スベカラズ、故ニ奉仏尊王ノ大団結ハ即チ仏法ノ終焉ヲ自ラ招クナリ云々ト述ベラレタルニ依リテ、彼レ僧侶ノ激怒ヲ来シ為メニ如斯ノ讒言ヲ吐キタルモノト信セラレ候、且聞ク処ニ依レバ警官ハ始終一人或ハ二名場中ヲ監視致居候由（警官ノ席ノ設ケアルモ夫レニハ座ゼス）、故ニ万一如斯ノ不敬ノ言アレバ直ニ之ヲ咎メタルベシ、加之ナラズ、当日ハ聴衆ハ非常ニ激シテ敵味方共ニ大声叱呼、殆ント演者ヲシテ其説ヲ述ブル能ハザル程ナリ、万一起場合ニ於テ如斯ノ暴言ヲ吐露スルノ人アレバ僧侶輩ハ決シテ之ヲ許サズ直ニ其人ヲ告訴シタルナルベシ、然ルニ後日至于テ其如斯不敬ノ言アリトテ校長閣下ニ申シ来ルハ實ニ明カニ欺言タルヲ知ルヲ得ト存候、右不取敢御報迄、如斯御坐候也

新嶋校長

閣下

丹羽清次郎

二月廿日

〔欄外追書〕

「御身体ノ御健壯ト御宿志ノ大事業ノ為メニハ生等日夜祈リ不止候、明後日夜当地ヲ発シ、土曜日ニハ姫路ニ至リ、彼地ノ有志者ニ勸メ大学校ノ事ニ付金森君ヲ聘セラル、様周旋仕度、且御令閨ニハ日日御出姫相成ル事ト存候」

「過般ウイシャルド氏来校以來殆ント二週日余、日夜集会或ハ通弁ノ任ニ当リテ非常ニ疲労致居候上、過ル日曜日ニハウイシャルド氏ニ誘ハレ女学校ニ於テ通弁シ、神戸教会ニ至リタル頃ハ実ニ非常ニ疲労致シ殆ントカ〔危〕
茫然タル感ナリシヲ以テ、同会ニテハ通弁ハ大ニ拙ニシテ、或ハ略シ、或ハ忘レ候処アリ、為メニ慚愧ニ不堪候」

479

二月二十一日

北垣国道

②神戸スワ山 親展 ④墨

〔西村亮吉〕

拝啓、余寒干今難去候処益御清適奉賀候、然ハ大分県知事此度帰任之際、令息入校之義ニ付面会之趣ニ付、委細御聞取被下度候、且大学校之義ニ付先日御申越ニ付、各府県知事江夫レ御依頼申置候、是レハ御心セキナク御計画之

程冀望之至ニ候、何分大事業ニ付急速ニは参リ兼候事ト存し候、併シ日ニ増し人知之發達ニ随ヒ是レ等ノ美挙ハ賛成
之力相進ミ候事故結果ハ無疑義ト存し込ミ候、田中源太郎モ不相替尽力致し居候、湯淺氏ニモ枢密院議長之宴会席ニ
テ面会談示合致し候、各不撓配神之事故余リ無御心配御養生專一ニ祈上候、右得貴意度、艸々不宣

二月廿一日

国道

新島先生

480

二月二十一日

永岡喜八

④墨

拝呈、昨日御差出相成候紙包及御朶雲二通共正ニ落手仕候、陳者花畑、古河両氏へ宛之御書翰ハ本日御渡可申上存候
処、御来示ニ付小生慥ニ御預申上候、御老母様養老金御下賜云々之事ハ既ニ御通知申上候義と相心得居候処、右ハ全
ク何カ思ヒ違ヒラ致居候次第、平ニ御容赦被成下度、去ル十一日憲法發布之大典ト共ニ思召ヲ以テ 陛下ヨリ金五拾
錢御下賜(山本御祖母
様も同贈)相成候間右御承知置被成下度、昨日御送之品物ハ本日先方へ相渡可申候間奥様へ宜敷御致声之程
奉祈候、早々頓首

廿一日

永岡喜八

新島先生

二白、本日ハ故森文部大臣之追悼ヲ洛東靈山ニテ執行之為メ府下各学校ハ一般ニ休業ニ有之、同志社よりもデ
ビス、森田之両氏及生徒中より三名之物代ヲ撰ミ派出センセラレタル趣ニ承知致候

481

二月二十一日

杉山重義

①群馬県碓氷郡原市村 ②兵庫縣神戸諏訪山和楽園 ④墨

万事に後れがちなる上州地方さへ已に春意之南枝に動き初め候へば、定而御地は最早蕩駘なる春光に近き御快きこと
と奉存候、其後ハ久敷不伺御起居候へども、右様之氣候と共に近日御快方之事ならんと奉賀候、過般中より屢々御厚
諭を辱しながら暫く御返事をも得不致居候しハ他に非ず、此間中より齒痛にて久敷床上を顛転致居たる始末にて、其
故不本意ながら御無音に打過申たる訳に御坐候

〔扱〕

又手御来論之趣、杉田氏と相談致し、小生より東京古荘氏に書面を送り周旋為致候事と致し候、且又た上州地方も議
論区々として定まらず、中にハ随分ラジカルなる一致反対者なども有之候て殆んど一定の輿論を見ることも頗る難き
に付、近日之中に杉田、不破等諸氏と相会し充分に相談可致考に御坐候○此間藤岡へ出張致し古荘氏と面会之節、同

氏之話にては在佐野中山氏ハ近來頗る失望之姿に付、他之人と交替為致す^{「ママ」}に方可然との事と承り居たれども、去る十一日上州玉村にて開きたる両毛伝道師会へ同氏が出張せられての話にては、左まで失望にも沈み不^レ居様子（小生ハ病氣にて出張せず、杉田氏より之話）ゆへ充分他より救助奨励致せば氏も大に奮発せらるゝならんと奉存候、依而次回之伝道師会ハ来る四月佐野にて開くことと致し候、先生よりも何卒時々同氏を御奨励被下度奉願上候○緑野郡新町へも今度藤岡より伝道することと致し候、右は若し組合会にて伝道せずばバプチストより手を出すとの話に付、不取敢藤岡より伝道することと致せしなり、右に付てハ今度杉田、不破等と相談之上順番にて助力することに評決せざる可らざる儀と考居候○甘棠に奈須を失ひしハ大に上州之為め不幸なりしも、同処にて英学を教授し居たる河波氏之夫が為め奮然伝道に従事することに相成しハ、却て大局面之上に取りて大幸と存候○上原権太郎氏が今回松井田之伝道を担当致すことに相成申候○大宮之事も今度杉田、不破氏等に相談致す心得に御坐候へども、何分伝道会社が新事業を起すことを肯ぜざるには閉口之至ニ御坐候○同志社大学校寄付金は湯浅氏を始め皆な尽力致し居候、当地にても前安息日之集会後に出席員丈け之金額を取調べたるに大略四百円程相纏り申候、尤も其内半田平治郎氏三百円を出し候、定而関西地方ハ大好結果有之候事と存候へども何分関東地方ハ民智一概に進まず、虚栄に狂奔して真実之国民福を思ふ人少きは誠に慨嘆之至ニ御坐候、乍然又一方より觀察すれば幾許か是迄とても平民主義之發達したる上州地方之事ならバ尽力之致方によりてハ他日々本之ニユースランドとなりて今日之大結果なき働もメイフロア、ファイザースがブリマウス、プランチングと一般なるやも知る可らず、是れ窃に生等之期望する所なる而已、余り理窟ボイことを申上候ては折角御快方なる御病氣の為に悪かるべし、ツイ／＼心付かず長談議を致し候、幸に御海恕被下度奉願上候、時下幸に御自愛幾重にも御加養あらんことを希ふ、謹言

二月廿一日

新島先生

重義

百拝

乍末筆奥様へも宜く御鳳声被下度奉願上候、久よりも宜く申上呉候様申居候に付此又申上候、度々ヤ、の事御尋被下難有奉存候、段々丈夫に相成又たワンパクも日々相増し申候

482

二月二十三日

中山甚之助

④墨

本月九日付之御細書難有拝見仕候、其折端書を以御請は申上候存意之処、益御機嫌能被成御座奉大賀候、然は落合出京之節、(松平容保)隠居より之伝言且聊之土産差上候とて御厚礼痛入奉存候、容大事も出京以来悉皆御世話蒙り、一同難有万謝ニ不堪候、何分宜御指揮被成下度候、将又勉励向等親敷被仰聞候ニ付、幸ひ東五一義登京今般帰住ニ付、同人にも相詫し仰ニ随ひ何となく励ミ一書隠居よりも遣申候、此先何分宜敷奉願候、委細之義は当家委員共より精き義ハ申上候筈ニ付私ハ差扣申候、且又御立替金不足之分并ニ三四五三ヶ月分と見込三拾五円十七銭五リ為替切符奉差上候間乍御手数宜様御取計被下度御頼迄如此ニ御座候、謹言

二月廿三日

新嶋大先生様

閣下

中山甚之助[㊦]

483

二月二十三日

山中 百

①伊与三ツケハマ 久保田方 ②神戸諏訪山下和楽園 ③はがき ④鉛筆

本日迄にて松山引上げ帰途に上り居申候、明日曜今治にて相守り、明後月曜上船、帰神仕筈に御座候、今治、松山共随分好都合に御座候、愛媛県会休憩所に議員諸士を集め一演説仕申候、其取纏メ方法及ひ結果等は御面謁之上縷述可仕候、香川県会も開会中につき金森君なり誰なり御派出被成下度候、同し四国中に付一方に説き一方に説かざるも不都合に御坐候、御注意之為

二月二十四日

金森通倫

①大坂土佐堀二丁目三十六番地 国本方 ②神戸諏訪山和楽園 親展 ④墨

明日上京致せば明後日は一番汽車にて帰坂

只今大塚氏ニ参り例之三千之事を依頼致置き申候、実は直接ニ同氏へあて銀行為替御送り下さるよりも一応小生ガ銀行より受取り、同氏之宅へ持参致す方好都合と存候間、明日京都へ帰る序ニ実印を持参致し、小生先受取て然る後同氏へ将来之事等も確く約定致度候間、銀行為替は小生へ宛て御送り下され度願上候、今日は同氏も会程繁忙〔余〕にて充分之話出来兼候間、何れ今度現金持参之節精く話致すべく候、右は要用迄

二月廿四日

金森通倫

新島先生

二月二十四日

湯浅治郎

④赤インク(毛筆)

拝啓、此間渋沢栄一氏ニ面会之時、同氏曰ク同志社寄付金横浜ノ原六郎氏ヨリハ愈々大学校建設の場合ナレハ出金スレトモ、何時ト未定ノ処ニハ応シカタキ旨度々往復ノ後申来リタリ、故ニ同氏ヘハ去レハ新島先生ト直接之御談示合被成度旨を相答ヘ、此義新島先生ヘモ其旨書状ヲ差出シタルニ、同先生ヨリハ井上伯ヨリノ談示ニ依リ此六月トカ出金相成様御通知有之候得共、之レハ多分右書状ト行違ヒニ発シタルモノナランガ、種々往復シタル事情モアレハ愈々六月先方ヨリ回金ニナレバ受取ラヌト申訳ニハ無之候、兎ニ角自分ヨリ先方ヘ催促ハ致兼候ニ付、新島先生ヨリ直接ニ御掛合ノ上御取極メ置度候間右ノ次第ヲ申送ラレタシ云々トノ事ニ有之、迂生ノ推察ニハ渋沢氏ハ未タ井上伯ノ話シ合ヲ充分信セサルヨリ入念シテ先生ヨリ直接ニ御掛合相成、渋沢氏ヨリハ此上何ントモ云ハズシテ原氏ヨリ払込ム様致シ度トノ意ニ存シ候、右延引ナカラ幸便ヲ以申上候、或ハ右渋沢氏ノ書状ニ対、御返報相成タル事カトモ存シ候得共同氏之御談示ニ依リ如此申上候也

二月廿四日

湯浅治郎

二白、愚弟吉郎、尚一ヶ年エール学校ニ在留スル事ニ決定仕候、乍序申上候也

二月二十五日

岡田松生

①東京赤坂仲町十番地 ②神戸諏訪山和楽園 親展

拝啓、陳ハ突然之儀ニ候得共、不破兄後妻一条ニ付而は当地諸兄と彼是配慮仕居候得共、何分適當之人物無之困り居申候内、神戸女学校ニ当時教員たる塚本おふじ（松山氏細君之妹）と申人ハ如何哉と或方より勧め来申候処、本人に於ては当今結婚之心なりや果して有之候ハ、不破兄之如き人（如きとハ牧師にして三人の子供ありとの意）より結婚を求めば承諾被致候哉等之処、問合申度候得共、可然知友も無之、幸先生御地御滞在中にて殊に不破兄之事情御熟知之事に候得は、御病中恐入候得共、可然手寄を以て本人之心中内々御問合被下候儀ハ相叶間敷哉奉伺候、本人ハ曾て前橋ニ滞留被致候事も有之候由に候得は、其人物ハ不破兄も大略承知相成居ならんと承り申候、右ハ可相成速に承り度候間、其御心組にて宜敷奉願候、勿々敬具

二月廿五日

岡田

新嶋先生

二月二十五日

白石村治

④墨 ⑥末尾、朱異筆 「越後長岡久七村」

寸楮謹呈仕候、私事先生之御門下を辞し候てより最早六七年にも相成申候得は、先生には御忘れに為遊候御事とは存候得共、私事は先生之深き御恩愛を深く銘骨罷在候得ば日夜に敬慕之念に迫まれ申候、昨年、先生之御病氣を伝聞仕り誠に非常なる驚愕と悲哀之情にうたれ申候、此頃は如何に御坐候也同度存候、爾来為國家先生の御病氣御全快を祈願罷在候、先生為天下御摂養專一と奉存候、私事は不幸にも今猶山川の距つる処となり、先生に拝肩するの榮を得る能はざるを以て、御病氣中且御多忙の砌甚恐縮万々とは存候得共、左の事共を認め候て先生之御高見を伺上度伏て奉懇願候、そは余の事にハ無之候、私事不肖の身を以て一昨年来伝道を此地に試み居候ニ付、種々と考を此地の事に運らし申候得共、トモ自らにて決心致兼候事訖に有之候、先生も御承知之通り此北越殊に当長岡は守旧の風最盛なる土地に候間、此地に十分伝道致し候者は是非出来る程永く働申候て、土地の信用を集めざれば自由なる運動を為す不能様考へられ申候が如何なるものに御坐候也、此様なる処には伝道者たるもの其一生涯の働きを全注致すへき方然るべく候也、^{〔破欠〕}□は又何年とかぎり申候方宜敷候と致さば、何年位を以て適當と致可申候也、右孰れなり心に定め置候ハ、色々其心組も有之可申と存申候、次に此東北伝道に付ての方法心得及最も大切な地、其他我儕の心掛くべき要めなる事共等に付き、先生之御高見細大となく御教示被下候ハ、実に千金の賜に御坐候、必ず坐右に掲けて生涯の働きの契と仰き可申候、実は来三月には北越中の伝道者を相開候都合に相成居申候間、もし其節迄に先生之御高見

を手にするの栄を給へらは実に我儕一同又北越の幸也と確信仕候、勿々謹言

二月廿五日

越后長岡にて

白石村治

新嶋襄先生

侍史

尚々、先日は同志社大学の旨趣書十数葉御惠送被下誠に難有奉存候、猶此事には出来得るだけ尽力仕度、頓首

488

二月二十五日

山路一三

①西京上京区今出川通新町東入堀出町 伊季方
②神戸諏訪山和楽園 親展
④墨

百拝頓首、先づ先生ノ御玉体ハ如何候也、昼夜案居候、陳者不肖辱愛顧以來日夜勉強罷在候得共、人間万事不如意実呼天泣地而已ニテ御座候、乍併寸進尺歩漸々発達仕候間、御安意被下度候

扱先達来御依頼被成候〔北垣〕確君ノ義ニ付而は、不肖色々苦心仕候得共、実面白カラザル都合ニテ候、依テ察スルニ京都ハ境偶モ悪シク、朋友モ宜敷カラズ、彼是不都合ノ点モ多ク有之様存候処、愚案ニモ氏ヲ熊本学校梅老名氏江御依頼申上而は如何ト存候、先生ノ御考案は如何候也、一寸御詞申候、早々不宣

二月廿五日

新島襄先生

閣下

山路一三

489

二月二十六日

不破唯次郎

①「転居」上州前橋神明町三番地

②兵庫県神戸区諏訪山和楽園

④封筒、

本文とも赤インク

御令室様へヨロシク

本月十二日御認メ之御書状、今日小生之手元ニ参り奉万謝候、扱小生ハ十八日より東京ニ参り、御申越之「デウイス」^{〔イタ〕}ラルネラド^{〔イタ〕}両氏之意見書ハ拝見仕候、又ギユリキ氏ノ書状も見タリ、古庄氏^{〔庄〕}ハ脩正シテ一致スルハ宜敷ト申サレ、小生ニ於てハ失望仕候、又廿日築地^{〔G.W. Knox〕}ナツクス氏宅ニ開タル委员会之様子承知セリ、一致教会ハ引込主義デ、二三ノ actor 等ハ大ニ力ヲ尽シ居レリ、右之一件ニ付キ両三日中ニ磯部温泉ニ集リ杉山、杉田兄等ト相談之心組ニ御坐候、来月四日より武州秩父郡大宮地方伝道着手ノ為茂木氏ニ出発ノ積ニ御坐候、大間^{〔タ〕}伝道ハヨキ方ニテ関東ノ七教会ニテ四部ヲ持チ、大間^{〔タ〕}有志者ヨリ（一月ヨリ）二回程毎月出金スル事ニ相成候、武州伝道之事ハ来月前橋ニ開ク関東部会ニ相談ノ心組ニ候得共、何レ伝道会社依頼スル事ニ相成ベク存候、然シ同会社ハ広張主義ノデ無之候間、

何レ上毛教会ニテデも尽力スル方宜敷奉存候、きよ死去後十日比ヨリ小兒大病ニ罹リ、三十五日程ノ後全快シ、又小生も少々ツカレ「且スロート」悪ク相成リ、昨日初て説教ヲ「ツライ」セリ、種々合一之事ナリ伝道ノ事ナリ、御相談仕度存候、是非先生ニ御面会之為一寸上神仕度存候得共、入費ニハ困却仕候、昨十二月ヨリ非常ニ入費多困却仕候処、先生ニハ御心配被下毎度御送金被下大ニ助カリ奉万謝候、小生ハ明日ヨリ一寸原町（吾妻）二三日滞留之積ニテ参ルベシ、此地中学校ニハ先日來「ハイチヨルチ、マン」米人來リ、伝道ヲ始メタリ、新町ニも伝道スル事ニ相成リ、藤岡ヨリ一周ニ一度、又上毛ノ伝道師ハ時ニ加勢ニ参ルベシ、高崎教会面白カラズ、元來生等不行届ナルベシ、速ニ松尾兄來高ヲ待ナリ

My health is quite poor, I need rest, but I can hardly do forth sake of money as need as that of work.

実ニ残念之至ニ奉存候、右ハ御返事迄、乱筆御免被下度奉願候、失礼

三月廿六日夜認メ

不破唯次郎

新島先生

I met Mr. and Mrs. Noyes at Tskizi and I think they are fine people. I asked them to make trip to Joshuu. How do you think to invite to come and live somewhere in Joshuu?

490

二月二十七日

金森通倫

①大坂土佐堀二丁目三拾六番地 国本方 ②神戸諏訪山和菜園 ④墨

御送付之壹千円は昨日第一銀行より受取り、昨夜大塚氏ニ渡し株券買入を依託^{〔カ〕}致しをき申候間、精しくは後より申上べく候、社員会は一昨日山本先生之宅ニ於て午後三時より開き、同く九時ニ閉会仕候、其間ニ数十ヶ条を議決仕候、随分面倒なりしも都合宜く相すみ申候、是れも精しき様子は後より直ニ御報道申上べく候、児島、高島之両氏ニ面会致し、段々運をつけ候へ共まだ充分ニ纏らず、何れ今明日之中ニはどふとか片付可申と存候、九州新聞之事は早速宮川と相談可仕候、只今高島之宅より帰候間、一寸是より昼飯致し社員会之議決等を書き集めて、直ニ御報道可申上候、右は一寸御答まで

二月廿七日

通倫

新島先生

①京都同志社 ②神戸諏訪山和楽園 至急用親展 ④墨

拝啓益御清適奉賀候、陳ハ憲法発布式賀表之義ニ付テハ過日社員会ニ於テ時日余リ延引シタル故見合ス方可然ト評議ノ折柄、先生ヨリモ同様御心付ノ御書来着、旁以テ見合ス事ニ通報有之候ニ付、直ニ生徒総代ニ通知候処、総代ニ於テハ仮令時日遷延スルモ、一旦思立タル以上ハ是非拜呈致度、社員教員ニ於テ飽マデ不同意ナレバ生徒而已差出申度トテ、右取扱方小生ヘ依頼有之候ニ付、小生ハ如此申候、若シ諸君ノ言ル、如クスルトキハ、同志社中老部ノ人ハ賀表ヲ奉リ、一部ノ人ハ之ヲ奉ラサルガ如キ奇怪千万ノ結果ヲ生ジ、只々祝賀ノ精神ニ悖ルノミナラズ、同志社ノ体面ニモ関係スル事ト愚考ス、依テ諸君ニ於テ飽マデ奉呈セント欲セバ、今一応校長初メ社員ヘ協議相成候コソ至当ト相考候旨相答置候、就テハ総代ヨリ何分ノ義先生ヘ伺出ト存候間、其節ハ機会ヲ失シ今日ニ至テ賀表ヲ奉レハ宜シカラザル次第懇篤ナル御諭書御送付被下度、然ル時ハ必スヤ皆々満足、思ヒ止マル事ト確信仕候、本件ニ関スル小生ノ愚考序ヲ以テ御参考迄拝陳仕候、擬右賀表ノ如キハ何日迄差出スベシトノ制限杯ハ素ヨリ無之候得共、一般ノ慣例ニ依レバ其当日ニ可差出モノニシテ、仮令後ル、トモ二三日内ニハ奉呈スベキ筈ノ者ト相心得候、又祝賀ノ精神ヨリ考フルモ、其日ヲ去ル殆ント二十日ニ垂ントスル今日ニ及ンデ、事新シク奉呈スルハ却テ祝賀ノ精神ニ悖ル事ハ無之哉、此等ノ事ハ新聞上賀表ノ振合ヲ見テモ相分可申ト存候、依テ小生ハ何レノ点ヨリ考フルモ、今日ニ至リ賀表ヲ奉ル事ハ甚タ不同意ニ御坐候、以上

二月廿七日

新島先生
貴下

金谷 充

乍失敬御夫人様へ可然御致声奉願上候

〔欄外〕

「再伸、一昨日御投函之貴翰拝見、午後尅時頃西村父子御来校相成候ニ付貴諭之如ク森田、加藤、小生ニ於テ案内等夫々鄭重ニ取扱、凡ソ二時間程学校ヲ巡覽有之候、為念申上置候」

492

二月二十八日

本城安太郎

①長崎高島 ②神戸諏訪山和楽園 御親展 ④墨

謹啓、弥御寵遇之御下ニテ御宿痾モ追々御快方之赴奉万欣候、二ニ御蔭ヲ以テ会堂之義モ当地第一等構造之家屋ヲ申受候、就テ私ハ素ヨリ無教育之者ニテ、牧師トハ思ヒモ寄り不申候間、追々完全之教育ヲ受ラレ候神学生御送り被成下度候、功成り身退クトハ至極宜敷候事ト奉存居候、乍去愛先生之御承知ナル八木和一ガ如キ者ニハ決シテ無御坐候、私ハ生涯之 基督信者ニ御坐候テ、必ス牧師之教下ニ在候テ事ヲ執リ可申候、新約全書数部御送被下忝奉拝謝

候、坑夫暴動以後、社員ヨリモ殊之外愛遇ヲ蒙リ居候間御高教之如ク益々謙遜仕居候、乍此上御教誡奉願候

却説、先回帰省仕候処、老母ヨリ妻縁之義頻リニ勸メラレ候得共未タ鉄窓之辱メモ雪カス、特ニ東洋風之「気節」ヲ慕申候間、一家不仕合之境遇ハ左程感シ不申候、然ルニ今回は不得止場合御座候間、愛先生へ御相談可申上候、私無教育之者ニ御坐候ニ付、完全ナル教育ヲ受ケラレ候女学校卒業生デ、基督信者ナル淑女ニシテ、私之前途之志ノ大ナルヲ枯ケ呉レラレ候女丈夫ニテ、婉然タル柔順之美婦人モ御坐候ハ、道之為ニ御媒^{〔介〕}紉奉願上候、未タ私ハ妻縁モ仕候事モ無之、^{〔西書〕}丁丑之役ニ幽囚今日ニ到申候、右は郷里ニモ女兒は沢山御坐候得共、愛先生台下へ御知遇ヲ蒙リ居候間、敢テ御相談申上候、以上ハ、主ナル基督之御摂理ナルナラン、先は要用迄如斯ニ御坐候、草々敬具謹言

二月廿八日

主ニ在ル小弟 本城安太郎

拝

主ニ在ル新島愛先生

台下

二伸、奥様へ宜敷御鳳声奉希候ナリ

三白、長崎深堀之峰彦郎ト申ス私之友人同志社へ入学之為上京仕候、右は駝鳥之児之如キ者ニテ、ボツトシテ無頓着至極ニ宜敷候処御坐候歟ト奉存候間、御愛待之程奉願上候、以上

493

二月二十八日

金森通倫

①大坂土佐堀二丁目三十六番地 国本方 ②神戸諏訪山和楽園 ④墨 ⑥別
紙略

只今宮川参り、例之熊本新聞之事は其儘ニ捨置く方宜らんと申候が小生も左様相考へ候、カ、ル事ニ手ヲ出スハ却テ迷惑と存候、死人は死人ニマカセテ可ナリト存候、我等は可成 Positive 之運動をなす方得策と存候、今夕も別紙之通り児島院長より申来候得^位ニて、同院長は余程ヨク世話致シクレラレ候、然れば今夕土曜出帆之汽船ニテ該地へ罷越し運動之端緒を相開き申スベシ、可成先生ニハ御身体ヲ大切ニ願上候、而テ是非之大切なる会ニは御上坂ヲ願上候間、御保養之程偏ニ奉願上候

二月廿八日

通倫

裏先生

二月二十八日

金森通倫

①大坂土佐堀二丁目三十六番地 国本方 ②神戸諏訪山和楽園 至急要用

④墨

別紙東京社員諸子へ先日之常議員会之決議を報道致し、彼地之意見をも承り度存し、精く記載致しをき候間、御一覽之上、至急ニ東京々橋区日吉町之民友社内之湯浅、徳富之両氏へ宛て御郵送下され度願上候、此外ニ同志社之牧師ニ原田氏を招く事を常議員会にて相談致し候処、一人も不同意なく皆々至極と申候、然し此儀は同氏がまだ神戸教会と関係ある事なれば暫時黙して誰れニ告げず、只常議員会のみニ留め置く事ニ相決申候、教授議會は素より東京之社員ニもまだ告ぬ事ニ決申候、教育講之事は中村、大沢之両氏と小生が委員ニ撰れ申候、先日之會議ニは宣教師は招き不申候、是ニ付ては松山會議前松山氏と相談致し、此度之會議ニは教授議會より提出されたる事柄ニ付き相談致す事なれば宣教師之御出席は少し不都合と存じ、ワザト招き不申候、又社員会ニは宣教師之立合を要するも、常議員会ニは其立合を要せずと云ふ事は先月之常議員会之節社員諸子之御説にて候故、招ざるも差支なしと存、右之如く取計ひ申候、一昨日午後二時半帰坂、早速第一銀行ニ参り壱千円を受取り、大塚氏ニ渡し株券買込みを依頼しをき候、千円之預り証書は印紙附き之分は受取りをき申候、何れ不日株券買入之事相すみ候半々、其株券預之証書を受取りをく事ニ致し可申候、其迄は小生受取書を御預りをき可申候、受取書は凡て小生之名前ニ致置候

同日午後三時過ぎニ兒島院長之宅ニ参り例之話を致候処、同氏は已ニ高鷲氏ニ面会致され候由にて、然しまだま

リニ行ず、高島氏も充分ニはまり居られず、名前を出して人を聚むる事はイヤナ様ニ児島氏ニ申されし由、児島氏も困リ居ラレ候、其れより小生は直きニ久原（藤田之兄）之処ニ行き、右之事などを相談致し、同人と同道にて又児島氏之宅ニ引かへし色々相談致し候処、児島氏は少しも差支なし、然し是非建野を引出さねばならぬ故、然し是を出すニは高島ニ非されば他人能はず、夫故小生ニ直きと高島氏ニ面会して此事を迫れとありしなり、小生も一人丈で行くのは少く心細く思ひ候故、久原ニ同道して君も口を添へてクレ玉へと頼みし処、児島氏も夫れは至極ならんとし、勸メニて久原も承知致し、昨日九時ニ高島氏ニ行く事ニ相成申候、其話しすみしより、児島氏之宅ニ其夕は岡山之始審裁判所長之上席検事、和歌山之所長来て晩飯を一処ニタベテ交りを結んでをけと之事ゆゑ、其意ニ任せて其夕は児島氏之宅にて晩飯をヨバレ、右之三人ニ面会して大学之為ニ彼之地方之事を依頼致しをき申候、児島氏も如何ニも熱心

ニ三人ニ勸めラレ候故、誠ニ好都合を得申候
此日電報打つてスグ
 来リクレル様申送りヨキ候

昨日は九時ニ久原之処ニ行ひて其日より同道にて高島氏之宅へ行き、兩人ニて凡そ昼頃まで話致候、高島氏は其れならラレガ今日午後ニ建野ニ逢て是非とも引出すと之事ゆゑ、夫ニて兩人とも引取申候、昨日午後二時半ニ富永氏来坂ニ相成候間、小生ステーションまで向ひニ参リ、夫れより宿ニともなひ三時過^{（カ）}より児島之宅ニ同道致し、暫時相談致して富永氏は建野之宅ニ行き、小生は尚児島氏之宅ニ待居申候処、富永氏と引違ひにて高島氏入り来り、只今まで建野と話し、とふとふヤリツケて来た三人之名義にて人をアツメル事を建野も諾した、然し茶屋などニ呼ぶ事は余り面白からぬから矢張り建野之宅ニ招くがよひと申して来た、併し自分は明日より一寸神戸ニ四五日滞留するから、先づ一周間位先きニ致して宜しからふと之又建野之氣付で遠藤も呼ぶがよひと、右之次第にて誠ニ好都合故、児島氏も大悦びニて暫時三人にてじよふだんなと答候、高島氏は帰られ、私は尚富永氏之帰りを待ち居り申候、昨夕も児島氏之

宅にて御馳走ニ成り、富永氏を待ち居候処、食事之半ばニ富永氏帰り来り、どふもしゆぶとひやつた、仲々承知せぬと云ふ話にて、色々話され候が、先きニ高島氏ニ云ふたのと富永氏ニ云ふ所は大違ひにて、一時は児島氏も小生もあきたる位、然し何分ニも明朝（即今日）小生ニは建野ニ行き、富永氏は高島ニ行ひて右之話を致すがよひと云ふ事ニ成り、昨夜其れにて別れ申候、小生は今朝早く起き建野氏出勤せぬ前と思ひ朝飯も食はずニ参り候処、まだネテヲルト之事にて、スグニ引返し朝飯後直ニ参り候処、まだ起ぬと取次が申すニより暫時扣へ居り候処、ヤガテ取次を以て委細昨日高島氏ニ話をきし故、今日朝は先約あるから面会は断りたしと申されたり、小生も兼而然るならんと存居候間、イヤ一寸三分カ五分にて宜し、長くは御手間取り不申候間、御面会を願ひたひと申たる処、夫れでも面会を断ると之事ゆえ、夫れならば致方なしとて引取り、早速其事を富永ニ申したる処、左様だろふ、アイツシユブイヤツダテ、夫より富永氏と相談致し同氏は直きニ高島氏ニ行ひて右之事情を述ぶる事ニ致し、早速行れ申候（富永氏は昨夜小生之宿ニ泊れ候）暫時ニして帰り来り、ヤリツケタ、デケタと云ふ事にて、精く承れは高島氏ニ行ひて右之事情を述べたる処、ソウかアイツワルイヤツダ、ヨシ夫れならラレガ是非ヤラセル、三四日之内ニ手紙をヤリテ是非ヤラセルカラ金森ニ心配セヌ様ニ申セト云ふ事ニ相成り申候、富永氏は十一時之汽車にて帰京致され、明日は神戸ニ来り、明後日之船にて東上すると之事ニ候

先づ右にて此三四日之戦争は一先づ局を結び申候、高島氏が右之如く引受け候上は、最早大丈夫ニ御座候、一昨日までは同氏之ハマリ込がなひから児島氏も甚だ心配致され居り候処、同氏がカクハマラレタル上ハ事必ず成ると存候、児島氏は素より高島氏も建野氏も其名義を出して人を集むる事は承諾之事なり、只建野氏が自宅ニヨブ事をイヤガリヲリ申候、児島氏は高島氏もドフデモイケネは自分之宅にててもヤル積りなれば事九分までは相成申候、此上は高島氏

が建野氏をヤリツケルヲ待て弥局を結ぶ積り候、右之次第ニ候へは、今度高島氏が滞神中ニ一寸御面会ありて同氏之
 勞りを御謝し下さらば至極好都合と存候、又児島氏へは礼状を御出下されて至極と存候、右之次第ニ候へは是非其宴
 会之時は先生之御来坂必要と存候間、只今より御用心被遊、其時ニは昼之中あたゝかなる時上等汽車（何せなれば上等ニはマスキメあれば也）
 ニて御出あり、其夜は自由亭（何せなれば日本風ノ宿ニてサムクシテ風をメスト存候）ニ御宿りあり、翼日之あたゝかなる時ニ御帰神あれば少しも差支
 なしと存候、建野之宅より自由亭までワヅカバカリニテ候

扱て、小生は是より五六日間は一寸大坂ニ手すぎニ相成候間、此ヒマニ和歌山ニ行き度存候、昨日其事を児島氏ニ話
 したる処、至極であらふ、又和歌山ノ知事が居ラネバ不都合ダカラ自分ガ其在否ヲ電信で問ふてヤロウと申され候、
 已ニ一昨日同県之始審裁判所長ニは心安くなりなき候間、今ガ好時期と一寸参り可申、然る時は今夕之船ニ乗り度
 候、右ニ付き姫路之丹羽清太郎君ニ小生は一寸四五日留守ニなる事を御報知ヲ下サレ度願上候、先つ要用まで、早々

二月廿八日

通倫

新島先生

東京へ之別紙は教授議會より之意見書は可成至急ニ御郵送願上候

二月二十八日

中村栄助

②兵庫県神戸諏訪山和菜館 ④墨

拝啓、陳者過日神戸港へ罷り越、是非御窺ヒ可申心得ニテ罷り有候処、彼是取紛レ候内大沢君ヨリ電信到着、集合時剋ニ相迫リ乍失敬直チニ帰京仕候、此段御有免被成下度、集合之決議ハ金森氏ヨリ定メテ御報告相成候義と奉存候、附テハ金谷氏今朝被参、過日ノ賀表ヲ生徒中ヨリ是非差出度被申出候由ニ付、早速ニ山本先生へ御相談ノ上矢張過日決議致シ候通最早時機相遅レ且ツ又文意中ニモ山本先生ニ少シ御意見モ有之候ニ付、生徒諸君へ相示シ候事ニ相成申候、別段申上候義モ無之、近内推参御窺ひ申度、先ハ右之段申入度候也

二月廿八日

中村栄助

新島先生

二月二十八日

杉山重義

①群馬県上州碓氷郡原市村

②兵庫縣神戸諏訪山和楽園

④墨

屢々御教諭を賜はり難有奉拜謝候、時下不順之氣節ニ候へ共、御地ハ名にし負ふ山水明媚之地、氣候温和定而御養生之為めには此上なき場処と奉存候、先生にハ益々御快方、奥様にハ益御壯健大賀、何事か之に過ん、下而当地に於ても一家皆無事罷在候間乍憚御休慮被下度奉願上候、陳ハ御来諭之如く、是非今度委員之手元へ修正三ヶ条を充分被申送度予て研究に従事致し居候へども、已に昨年之會議を延期するの必要を感じし程にて、田舎之教会にては到底逐条に申送る迄之手順にも及兼候に付、(尤も強て一々に意見を付すれバ付すること能はずと云ふにハ非ざれとも未だ成熟せざる意見を呈してハ後に悔むこともあらんかと思ひ)大体之肝要なる処丈け別紙之通委員へ呈出致し置候、尤も杉田とも談判し、安中よりも大概右と大同小異之意見を送りし筈に御坐候○彼之ギユリキ氏之修正意見ハ早速其事を古荘に申送候へども、未だ手に入りしや否やを知らず、然し手に入り次第諸教会之参考に供すべくと存候○大宮伝道之事も今日藤岡茂木氏より書状あり、来る四日より三四日同地へ滞在して伝道する筈にて杉田と兩人之内に出張致し呉候様申来候ニ付多分私出張之積に御坐候○過般御送り被下たるパンフィクの社説并にホルブルーク博士之論説ハ直に一読いたし杉田にも見せ申候、是等ハ唯だカリフォルニア、コングレゲーション教会之議論のみに非ず、必ず米国ゴングレゲーション派の人々の中には同様之議論之者沢山あり候事と存居候○米国伝道会社の近頃之意見ハ如何なるや、若し御聞込有之候時にハ御漏被下度奉願上候○歯痛まだ全く癒へず閉口致居候、然し最早働く事には差支なき迄

アメリカン
ボード

John Chubbuck

に相成候間、幸にして再発せずは堪へ難きと申迄には無之候○時下折角御自愛御加養專一と奉存候、常に神前に祈求致し居候、余ハ後報に譲り候、勿々謹言

二月廿八日

重義

新島先生

玉案下

〔別紙〕

今回憲法修正案御編成相成候ニ付、御参考ノ為メ当教会ヨリモ充分ニ其意見ヲ開陳致スベキ筈之處、何分御承知之通リ幼稚未熟ナル信徒等目下専ラ其研究ニ勉強致シ居候得共、未ダ中々其条ヲ逐ヒテ一々修正ヲ加フルノ手續ニハ至リ兼候間、唯ダ其大体ニ付最モ肝要ナル処ヲ左ニ申上候ニ付、宜シク御推読被下度候

申上候迄モ之ナキ事ナガラ、元来此一致合同ノ議論ヲ生セシ源因ト申スハ、幸ニ今日我國ニ於テハ未ダ欧米諸國ノ如ク人々ニ教派心ノ盛ナラザルニ先ダチ諸派ヲ合一シテ純然タル一ノ基督教会ヲ作り以テ宗派競争ノ弊害ヲ未然ニ防カントノ精神ヨリ起リタルモノニシテ、固ヨリ教派ヲ消滅シテ單純ナル基督教会ヲ建ルト云フ事ト二個ノ教会ガ合併スルト云フ事トノ間ニハ自ラ大ナル區別アル事ニシテ之ヲ混合ス可カラズ、去レバ仮令今日ニ於テハ先ツ組合、一致ノ二教会ガ他ノ諸派ニ卒先シテ合同ノ端緒ヲ開クモノナリト雖トモ、是レ其終局ノ目的ニアラズシテ唯ダ其道路ノ第一着歩ノミ、然ルニ若シ唯ダ此道路ノ第一着歩ナル二教会ノ合同ヲ以テ却テ其終局ノ目的ナル諸派ノ帰一、單純ナル一ノ基督教会ノ建設ヲ忘ル、ガ如キ事アラバ、啻ニ其輕重本末ヲ誤ルノミナラズ実ニ我國将来ノ基督教ニ取リテ此上モナキ不幸ナリト云ハザル可カラズ

曩キニ配布セラレタル憲法草案ヲ見ルニ、或ハ單一一致、組合ニ教会ガ合併ノ事ノミヨリ觀察スレバ便利ナル可キカハ知ラサレトモ、種々ノ差異アル諸教派ヲ一ニ帰シテ單純ナル基督ノ教会ヲ作ラント欲スルノ点ニ於テハ甚ダ不都合ナル点ノミ多ク、或ハ其輕重本来ヲ誤リ其道路ヲ以テ却テ其目的トナシタルガ如キ事ナキヤノ憾ナキ能ハス、夫レ種々ノ差異アル諸教派ヲ合一シテ此目的ヲ達セント欲スルニハ可成的其合同ノ基礎トスヘキ憲法ヲ單簡ニシ、其ヶ条ヲ省略シテ苟モ其合同ノ為メニ止ムヲ得サルノ事ノ外ハ一切無用ノ事ヲ置ク可カラズ、何トナレバ人心ノ同シカラサル、一人ノ是トスル処ハ却テ他ノ人ノ非トスル処ニシテ、矧ンヤ種々ノ差異アルガ為メニ是迄分離セル諸教派ヲ合同セントスルニ於テハ苟モ压制ノ手段ヲ用フルニ非サルヨリハ細末ノ事迄モ一々画一ノ繩墨ヲ以テ合同セシメント欲セハ到底之ヲ合同スルヲ得可カラズ却テ忽チ四分五裂スルニ至ラン、今回委員諸君ガ修正案ヲ編成セラル、ニ於テハ終始此ノ点ヲ眼目トシテ記憶セラレ度希望致候

第一 右ノ主旨ニ依リ憲法ハ可成的之ヲ單簡ニシテ其個条ヲ省略シ諸派合同ノ為メ止ムヲ得ザル事ノ外ハ一切之ヲ除去セラレン事

第二 信仰個条ハ福音同盟会九ヶ条(諸派ノ人ノ皆共ニ承認スル所ナレバ)ニテ充分ナリト思料ス、殊ニ一致、組合ニ教会ニノミ關係アルウエストミンステル問答、ハイデルベルグ問答、プレマス告文等ノ効能ヲノミ掲グルハ諸派合同ノ精神ニ相戾候様覚候ニ付、勿論之ヲ除去セラレン事

第三 部会聯合總會等ハ皆相談会ノ性質トシ其決議ハ勸告ト致シ度事(諸教会ハ固ヨリ德義上其勸告ヲ納ルベキ筈ナルモ其權力ヲ以テ強テ之ニ服從セシメラル、事ナシ是レ教会政治ノ精神ナリ)

第四 裁判ラシキ制度ハ教会ニハ不適当ト存候ニ付勿論一切除去セラレン事

第五 附録ニ甲乙二種ノ教会ノ標準ヲ示シアレトモ右ハ他日教会ニ分離ヲ生ジ党派ヲ起スノ器械トナリテ大害コソアレノ寸益アル事ヲ見出シ不申候ニ付之ヲ全廢致シ度候事

明治二十二年二月廿七日

497
三月一日 森田久万人

- ①京都室町通り上立売下ル十三番戸 ②神戸諏訪山下和楽園 要用 ④墨
⑥封筒裏書の日付は三月二日

三白、御養生中困難事ヲ御聞申上甚タ恐縮之至ニ御坐候得共、何トモ大事中故、敢テ進呈仕候間不惡御推察被下候

謹而拝啓仕候、陳者漢文学教師阪田丈平君ハ全ク一身上ノ都合ニヨリ来ル六月ヲ限り一先本校ヲ辞職シ、暫時「未見

ノ山川ヲ跋涉シタキ」積リノ由、柴原君ヲ以テマタ自下ニ私迄申出ラレ候、因テ柴原君ニモ阪田君ニモ種々談合或ハ

(宗介)

(信)

本校ニ対スル不平ハナキヤ、吾人ノ取扱上不満足ナル処ナキ否ヤ、又他ニ原因ナキヤ否ヤ精々聞糺シ候得共、柴原君ヘ対ヘラル、処モ小生ヘ云ワル、処モ少モ異ナル事ナク、全ク右ノ理由ニテ直接本校ニ関係スル理由ニハ無之事顯然相分リ申、私モ数々熟考ヲ乞ヒタレトモ、一度決心被致候上ハ六月ヲ限り一先帰郷致度旨申出ラレ候、先日柴原君ニ

内場ノ処聞糺シ候処、此思立ハ先月同郷ノ人上京ノ上国会議員ノ一人ニ委托シタル処、先生ノ答ニ「自分ハ好ミテ一員トハナラサレトモ若シ撰挙スルモノアラハ敢テ辞スル処ニアラズ」ト云フ事ヲ以テセラレタル事アレハ若シヤ其大望ノ為カト心配スル由申サル、御承知ノ通り、先生ハ曾テ岡山県会ノ議長ヲモ被致且ツ高梁地方ニテハ最大ノ名望家ナル由（此ハ同先生ノ門弟モアルカラ）是モ亦柴原より承り候、先生ノ語ニ対照シ彼は熟考仕候処、此度ノ決心ハ全ク一身上ノ事哉ト存し候、若シ本校ニ対セラル、処アラハ教法ノ一点ニ付キ未タ信仰出来サル事ニ心配被致候事歟モ不相知候、鳥渡先日阪田氏カ序ニ此談モアリタレハ、宗教ハ一身上ニ係ル事教育ハ公衆ニ関ル事ナレトモ本校ノ教師ノ一身上ノ信教ハ全ク自由ナル旨序ニ談シ置候、且教授上ニハ生徒中耆人モ不平ナク又教授時間ノ割合ハ当時奥田氏助手被致十分不都合ハ無之由、為念阪田奥田ノ両氏へも柴原君へも重々聞糺シ候得共少シモ此道ニハ懸念無キ由、先生ニハ私より十分吾輩将来ノ計画又現今生徒ノ心服上より願入候得共、何分只今ノ処ハ先生ヲ動ス力無之様相感じ、浮田氏も談シタル由ナレトモ是も同様無効、先生ノ「山川跋涉」ト云ヒ、又同郷人ノ奨励ト云ヒ、彼是對合致候得は此上ハ殆ト致方ナキ様被思候、何卒先生より阪田氏へ御一通御認メ被下候トモ、又ハ金森ヲ御代理ニテ直接尚最後ノ談合被下候トモ、尊意ニ任セ申、金森へハ別状差上置候間、御依托アラハ帰京之節尊意通達致可申候、甚タ残念、若シ此師ヲ失セハ向後漢文学科ノ為大損害ヲ来ス事ハ照々タリ、然シ右ノ次第私丈ノカラ充分尽シタル歟ト愚考仕候、何卒金森氏ノ上京ヲ乞ヒ併セテ尊状御一通先生まで御認メ被下候様奉願上候也

三月一日

森田久万人

新島先生

玉几下

二白、今明日中金谷充参殿可致申、尊状ハ彼人へ御托シ被下候様奉願候也

498

三月一日 大和 博

①筑后国三池集治監官舎 ②西京寺町通丸太町上ル ④墨 ⑥托佐藤氏

鄙章拝呈仕候、時下寒冷難去御坐候得共高堂被為揃、大能之御深恵中ニ御壮剛御消光被遊奉恭賀候、小生モ神之御寵愛之下ニ消輝罷在候間乍憚様御休慮是祈候、陳ハ一昨々年垂水海水浴場ニ先生之御避暑ヲ当今在校仕居候桜井、成瀬等ト御訪問仕リ候已来数多之月ヲ閲シ候得共、平素ハ打絶エ御安否ヲモ伺ヒ不奉多罪奉拝謝候、扱而小生ハ辞校以来不幸ニモ家政之都合ヲ以テ当今ハ佐藤氏ノ課中ニ勤務罷在候、常ニ佐藤氏ト談ズル毎ニ同氏男女之童兒ヲ基督教主義ノ校舎ニ於テ薰陶セラレン事ヲ勧告仕リ殊ニ令嬢之如キ西京女学校ニ御差送方可然予而申居候、然ルニ氏ガ知己在阪地大武某ヨリ屢々錦地留学ヲ促シ、尚ホ閣下ノ懇篤ナル花信ヲ以テ忽チ氏ガ今回ノ英断ヲ見ルニ至リタルモノニ有之候、幸ヒ小生モ貴校ニ於テ御教授ヲ厚フセシ事有之候得バ此際右御依頼可申上様申出ラレ候ニ付不顧鄙墨一札拝呈仕候、願クハ可然御高示奉仰候、尤モお雪嬢ハ小学校科程ハ略ボ相踏ミ候様承リ申候、先ハ右御願旁御起居相同道、勿々謹言

三月一日

大和 博 拝

新島校長
貴下

二伸、氣候御自愛貴体御撰養專一奉祈候、当今ハ御宿痾ハ如何被為致候哉、一入御加護奉願上候、乍末筆御惣様方ヘ宜敷御鳳声是祈候、当地ハ幸ニ熊本ニ接近致シ居レバ小生赴任以來奥、〔龜太郎〕〔彈正〕海老名兩兄ニ談じ、当地伝道ノ着手アラン事ヲ望ミ申候処時々奥兄モ来ラレ、先ツ当地ノ大牟田村ト申ス処〔當地ノ倫敦〕伝道地ト定メ、已ニ一昨々日日曜日ヨリ從來熊本ニ伝道セシ高石兄ヲ聘シ専ラ働キニ従事アラン事ヲ托シ申候、殊ニ当地ノ如キ〔僻〕避陋ノ地モ神ハ捨テ玉ハズ伝道ノ端緒ヲ開キ玉ヘリ、願クハ御祈リノ節ハ当地伝播上好結果アラン事ヲ御祈リ被下度候、委細ハ何レ後便申上度候、不一

499

三月二日

伊勢時雄

④赤インク（毛筆）

今度好キ都合ニテ欧州ニモ漫遊仕候様ニ相成申、帰朝ハ何れ十、十一月頃ト相成可申候、米洲より欧ヲ經て帰路ノ費ハ凡て一千円丈、青木子より周旋スルノ約束ニ有之申候、若し一万円ドルヲ米州ニ於て得、若し欧州ヲ周遊して識見ヲ拡ふし、而して若し健全ニテ帰朝スルヲ得候ハ、大幸不過之奉存候、何卒卑弱之一小身の為メ御祈奉願候、先生益

御甘快之程奉祈候、御静養のミ奉冀候、令夫人様ニ宜敷奉願候、小生帰朝ノ時ハ敢て劣らざる肥満ノ身と相成御見ニ
カ、リ可申旨窃カニ期し居申候段も御申上可被下候、先右迄、出立ニ際し御暇乞迄、早々

三月二日

新嶋先生

時雄
拝

500

三月二日

徳富猪一郎

⑤森中章光写（孔版）

肅啓、其後ハ多忙ニ取り紛れ意外ニ御無音申上候、府下も森子刺殺以來何となく保守的反動の大勢ヲ激成し、伊勢大
廟とか何とか頻リニ色々の事ヲ喋々致居候、而して人民の輕佻浮薄ナル実ニ可驚可嘆、唯た一片の感情ニ揺かされ、
右ニ動き左ニ変し滔々として止マル所ナシ、実ニ頼ミ甲斐少き心地仕候、只此上ハ致方ナシ、愈々遠慮なく堂々と此
方の主義ヲ拡張スルヨリ外ニ良策モ無之歟、却説、来ル四月ニモ相成候ハ、何卒今一度御出京相成度奉希望候、勿論
先生高臥相成候とも若し御出京相成候ハ、多少の事業出来可申と奉存候、伊藤熊夫氏とも追々懇談仕候、同氏の新聞
ニモ可成的尽力仕居候、合併の風潮も聊か掛念ナキニアラス、何卒御注意ノ程奉願上候、青木子ハ大憤発ナリ、追々
種々先生と御面談若しくハ書状にて御相談可致と申し居ラレ候、小生の愚考ニハ基督教主義にて今一ツ旧来ノ「東京」

毎週新報ノ如キモノヲ出来ス必要アリト愚考仕候、既ニ此ノ儀ニ付てハ小崎氏とも談合仕置候間、先生よりも可然御面会の節ニハ御話しヲ乞ふ、同志社ノ事ニ付ても少しく愚考アレトモ他日ニ譲ル、勿々不悉

徳富生

襄先生
玉案下

501
三月二日 山中 百

①京都同志社学院 ②神戸諏訪山和楽園 親展 ④墨

拜啓、帰途大坂に立寄り増野悦興に香川県会より手続無之哉ト相尋申候処、同兄の話によれば非職議員即ち以前の議員にして老人信者御坐候由、其仁の談に松本貫四郎氏に一寸御謀り申候処、随分紹介之勞を取而も不苦トノ事なりし由なれば、先般其仁上坂の際金森氏の来高を促かしたることありしも、折ふし同氏繁忙何之返事もなかりしにより、近々来高之筈なる山岡邦三郎氏に依頼し、県会にて大学演説を仰きたらば然るべしなど申居たりと、一応右御熟考之上可然ト御一決に相成申候半は至急山岡氏に県会閉鎖不仕前に参高可致旨御依頼相成度候、もし山岡氏遅々に相成候半は本学院中より事務熟練の士を撰定し御派遣相成而も可然候、先は御参考之為、早々如是御座候、頓首

三月二日

山中 百
拝

新島先生

玉机下

尚以香川県会にて都合能相運び申候へば、愛媛県会にも好影響を及ほし申候間是非何人か御派遣相仰度候也

502

三月四日

広津友信

①京都同志社

②神戸諏訪山和楽園

③はがき

④墨

拝呈仕候、陳ハ山中百君ヨリ御伝言承領致候、就而ハ御令閨様北垣氏へ御出相成候前ニ一寸拝眉ヲ得候ハ、真ニ仕合
申候条、何日何時頃御邸ニ参リ候而宜敷御座候哉、甚タ御面働〔側〕トハ存候へ共当日一寸御報道被成下候ハ、至極幸甚ノ
事御座候、早々不整

三月四日午後投函

503

三月四日

金森通倫

①大坂 ②神戸諏訪山和楽園 ③はがき ④青鉛筆

三月四日

只今和カ山より帰坂仕候、今夕より直きニ帰京、夫れて例之一致、組合之合併憲法之會議ガ今日より京都にて開會之事故也

504

三月五日

金谷 充

①京都上京相国寺門前町同志社 ②神戸諏訪山和楽園 ④墨

益御清適奉拝賀候、過日ハ突然参堂御病中をも不顧大ニ長坐、殊ニ御馳走様ニ相成彼是奉多謝候、其節御寄托之品物夫々御届申置候間御承知置被下度、別封田中君より差上具候様申来候間御送申上候、福井県知事、島根県知事之御両名来校相成哉も難計旨過日御申遣有之候処遂ニ御来校無之、新聞紙ニテ見受レバ石黒^(務)福井県知事ハ今度非職被命候、此事ハ御承知トハ存候得共尚為念申上置候、草々頓首

三月五日

金谷 充

新嶋先生

貴下

乍筆末御夫人様へ可然御致声奉願上候

505

三月五日

森田武左衛門

①高松丸亀町

②神戸諏訪山和楽園

④墨

御手紙拝見仕候、時下春寒稍凌能相成候所、追々御快氣ニ被為向候趣奉拝賀候、実ニ追々御快氣之御状を審ニし奉拝喜候、何卒此上猶一層御保養御全快奉神祈候、是非とも一度ハ高松ニ御奉来奉願上候、御不快之御中をも御厭ひなく御細書被遣実ニ忝奉存候、御申越之大学御設立之事ハ実ニ奉賛成候、本日明細ニ活判書を製し、県会議員ハ不及申有志豪家ニ配布仕置候、早晚幾干之結果も可在之ト大ニ相楽居候、県会之閉場ハ凡本月中ニ而相済み可申ト被存候間此段拝答仕候、金森様ニ而も何れ様ニ而も高松に御光来被遊候ハ、何卒私方に直ニ御光来奉願候ハ、御宿を仕候ハ勿論必死尽力可奉致候、恐々頓首

三月五日

森田武左衛門

新島先生
侍史御中

506 三月六日 森田武左衛門

①高松丸亀町 ②神戸諏訪山和樂園 ④墨

追々和暖も相増し勝大ニ凌能く相成御同慶に被存候、昨日来活判を製し県下之諸氏ニ配布ニ從事仕居候、何卒多少讃岐之精神を奉表度大ニ相樂居候、昨年ハ西京ニ而丁度品川弥二郎子ト諸処遊行も仕り、御盛大之御学校ハ落なく金森君之御誘ひニ而拝見仕候、^(未)末御病臥之由ニ伺ひ拝察御見舞申上候儀ニ御座候シニ御丁寧之御書ニ接痛入候何卒御身体御大切ニ御保養被為遊他日東亜無比之大学之光輝国土を照映し、御精忠より御熱心之誠情国人ニ貫き、他日国父トカ恩恵之母トカ奉仰候時を御望こそ奉專祈候

神戸ハ天下ニ比なく氣候も宜しき由、何卒御充分ニ御保養偏ニ奉神祈候、恐々頓首

三月六日

森田武左衛門

新島先生
坐下

507

三月六日

中村栄助

②兵庫県神戸諏訪山和楽園 ④墨 ⑥発信地は京都（封筒消印）

拝啓、陳者其后別段申上候事件無之、同志社モ無事平隠ナル由ニ金谷氏ヨリ承知仕候、何卒此義御安慮有之度、昨日ハ看病婦学校例会ニテ種々協義有之、漸次ニ拡張スル方法相立申し、且ツ迂生関係シタル貿易会社一件モ都合克相繼リ、株主一行大意ニ満足ニテ将来ノ計画モ速ニ協議相整、則チ本日ハ総会ヲ開キ規則改正スル都合ニ御坐候、御安慮被成下度候

鳥渡御伺申上候、昨年頃先生より補助被遊候鵜飼氏ハ如何ナル人ニテ、如何之御手続キ有之候テ補助被候訳ニ御坐候哉、承知致シ度義有之候間甚タ恐縮之至御序之刻御洩レニ預リ度此如奉願上候、先ハ右之段申入度如此御座候也

三月六日

中村栄助

新島先生

尚々御令闡江宜敷御伝声奉希上候

閣下之御病氣稍々御快方之趣何より之慶事ニ御坐候、先般者御懇書を頂き早速御答可致之処国元より左之要件之相談ニ預リ、為めニ今日迄手間取申候段御勘弁可被下候

○今回私共郷里近辺ハ岡山県第五選挙区ト相成候ニ付テハ、此際国会議員候補者ヲ撰定し度、夫レニ付テハ先づ地方之団体ヲ造ルガ必用故其組織方法等ノ意見書ヲ造り五日迄ニ差出呉度トの事、私も被選挙権ノアル身分故此重大之事件傍観も難仕、既ニ意見書を送り置申候

諸彼ノ合併一条憲法之義ニ付会衆政治之書物〔警醒社『会衆派教会政治摘要』〕事ハ委曲了承致し可成売捌申度之考ニ御坐候、此義ハ昨年内論ヲ蒙りし時直ニ池本吉治氏ヘ文通セシ処、其後末タ出来セストノミ答書アリシ限り返信も無之、

思フニ同氏ハ私之事ヲ不案内之人物、或ハ何カ疑念デモアリテ打捨ラル、ニハアラザルカト未タ心痛罷在候、若御採可ニ相成ル事ナラハ、京都ハ小店ヘ一手ニ売捌セヨト先生ヨリ池本氏ヘ御文通願上度候、私ヨリも依頼し遣し可申候、而シテ此度之売捌ハ私も決而売人ノ資格ヲ保タス、畢竟我等之主義ヲ拡張スルノ目的ヲ以、老文錢之益金ヲ得ずして売弘め可申覚悟ニ御坐候、御懇考願上候

○昨日商用にてラーネット教師の処エ参リ候処、テーブル之上ニ憲法数冊アリ、椅子数脚アリ小生其時思フニ、憲法修正案之会議ナラント認定シ窃ニ憲法ヲ開キ見レハ、ケ条毎ニ数氏ノ意見ヲ書加ヘ有之候、一見之事故確言を難仕候

へ共、概して今回ノ修正案も虎と猫ノ間違位ニ止リ到底肉食獸類ニ御坐候、詰り我等ノ尊崇スル主義ニ反対ノモノト見受申し候、然ラハ修正ハ無益にして今更此合併論ヲ中止スルハ得策中ノ尤も得策ト益々確信仕居候、若誣ヒテ之レヲ合併し此憲法ヲ以テ政治ヲナスニ於テハ、他日防ク可カラザルノ瓦解病流行し、到ル所物論起リ、終ニ有為ノ信徒ハ教会ヲ離レ、独立独行之信徒所謂草莽之臣高山彦九郎ト出掛ルノ外無之有様ニ立到リ可申候、既ニ本日岡山教会ニテ錚々タル丸毛真応氏来京シ、小生ト只今迄合併憲法之事ヲ談じタル末、詰り丸毛氏杯ニ於テモ、此合併行ハレ此憲法ニ制セラル、事アルノ日ハ予ハ草莽之臣トナル覚悟ニ申居りし、嗚呼前途如何ナル慘状ヲ呈スルヤト考フレハ只後來恐ル可シト申ノ外無御坐候、実ハ操^{（操）}リ返シテモ致方ハ無之候へ共、我國信徒ノ幼稚ナルト、真面目ナラザルト、利ヲ重ンジ主義ヲ忘ル、ニヨル病根ト申の外無之候、同志社ノ如きも兎角熱氣其度到而低クシテ言語左右シ強弱緩急ノ差アリ、宣教師杯ノ一言ハ余程勢力アルヨヲニ存じ候、我等如何ニ筆ヲ走ラシロヲ叩クモ其身ニ地位ナク価貴カラズ貴族の習慣ノ離脱セサル日本人テハ逆も筆も力モ及フモノニ非ス、然レハトテ傍觀スル時ニ非スト存じ、憎レナガラ偏ニ利害ノ弁明ニ尽力致參候、何レ五月之大集会前必ス一運動無之テハ又再ヒ法王ニ主義ヲ奪ハレ或ハ売ルノ輩沢山ナル事ト奉存感慨難忍候、先ハ右乍延引拝答迄如此ニ御坐候、敬具

三月六日

新島先生

坐下

柴原宗介

拝

二白、ラーネット氏ノ宅ニテ修正案を一見シタル事ハ閣下迄御聞置可被下候

〔別紙〕

追白、曩推挙致置候警軒坂田翁、今回断乎辞職之義被申出候ニ付テハ、定めて森田氏より御文通も有之御承知と被存候、当然困リタル辞職ニ御坐候、生徒中ノ人望モアリ漢学教師ニハ至極適當ニテ殊ニ同志社ニ適スル人物ニ御坐候、可惜此事ノ起ルトハ安外致候、同氏ノ辞職之趣旨第一条ニ小生赴任スル時ノ決心ハ基督教ヲ信スル事ヲ得ルナラハ同志社ト俱ニ死シ俱ニ生キル覚悟ニテアリキ、然ルニ未タ信仰ニ進マス常々本心不満足ヲ覚ユル故無止辞退スルト申事、小弟ハ此断リ之趣旨ハ坂田氏ニ不似合ナル一言ナリ、此カ孔子教ノ理ヲ知ルニ到ルヤ、数十年ノ星霜苦学シテ漸ク晩年の今日、其味ヒヲ知ル、基督教ハ孔子教ヨリ今一層深妙ニシテ其理真天地と供ニ存ス、然ルニ一年間ノ時日ニ而殊ニ道届サルまゝに、聖典ヲ開きて理ニ通セサルヲ怨モ学者ニ不似合ナル答弁否申訳ナレハ決テ是レハ辞退ノ本旨ニ非スシテ他ニ故アラント察シ、種々手段ヲ廻ラシ探偵ノ処、弥々国会議員ニ被選セラレン事ヲ望ミテ退校セラル、ノ事實確ニ其証ヲ得タリ、思フニ十九世紀ノ議會殊ニ国会「不カ」ニ老腐滿学者出テ、頑固ノ主義ニ依リ十九世紀我思想殊ニ学問アル青年ト戦ハントセラル、ハ氏ノ為めニ望マズ、否ナ日本帝國議會ノ為めニ望マサル所ナリ、願クハ閣下氏ガ名誉ニ競奔シ自身ノ生涯ニ返ラヌ不名誉ヲ買ハントスル危殆ヲ救ヒ玉へ、仮令一年ノ奉職ナルモ同志社ノ教師ナリ、宣布御親愛願上候、小弟ハ氏ニ対シテ忠告スルモ氏ノ前ニハ価ナキ身分御推察可被下候

509

三月七日

不破唯次郎

①上州前橋神明町三番地

明練社裏

②神戸港諏訪山和楽園

④毛筆(赤イ

ンク)

以後大宮伝道費御廻之節ハ小生ニても宜敷御坐候

本月一日御認之貴翰四日ニ相達シ奉万謝候、杉山、茂木両氏ニハ四日ヨリ秩父大宮へ参ラレ、小生ハ都合ニヨリ五日ニ同地ニ着シ、本日帰宅仕候、委細同地ノ有様ハ茂木兄ヨリ御通知申ベク奉存候得共、先生へ前以て御相談仕度事、則以後同地ニ定住伝道師ナク、同地ハ頼母敷地ト存候、然ルニ目今之所ハ上毛ノ牧師伝道師共尽力仕度存候得共、甚タ残念ニ老フル事ハ茂木兄ヲ主任者トスル一事ハ困却ト奉存候、又同地ハ物価高敷已ナラズ路費も他所トハ多ク用スル事故是亦困却と存候、速ニ同地ニハヨキ「フワオンデーション」置ザレバ「メソヂスト」ハ来ルベシ、同地ト関係ヲ有スル八幡(本庄ヨリ二里)「メソヂスト」ハ藤岡信者一人アルも伝道ヲ始メタリ、昨夜同地ニ於て説教仕候、大宮ハ是非五月ノ伝道会社集会前迄ニハ十分ニ着手シ、一ツ議題トナシ度存候、先生ニハ W. M. Taylor's Lecture on preaching ハ上毛牧師伝道師之為御注文被下候や、御尋申上候、私共ノ為ニ洋本ヲ求メル事ニ付先生ニハ目今御助力ハ出来ザルや、甚タ失礼之程御免被下度偏ニ奉願候、同志社教会ノ目論見一件ハ至極御同意ニ御坐候、是元来私共ニ大ニ望ム所ニ御坐候、右ハ取敢御報且願ヒ用迄、早々失礼、再拜

三月七日

不破唯次郎

二白、先生ニハ目今御不快ハ如何御尋申上候、御令室様ヘヨロシク御伝被下度奉願候、先生ニハ常ニ小生ノ如キ者御慰被下奉万謝候、今日之所ニテハ一家不都合十分働も出来ズ、他所ニ出ル事も出来兼困却仕候得共、此度ノ不幸ニヨリ神ハ非常ナル恵ヲ与ヘ玉シ故万々奉謝候、本月中ニハ当地ニテ部会ヲ開ク心組ニ御坐候

510

三月七日

広津友信

①京都同志社 ②神戸諏訪山和楽園 ④墨

拝呈仕候、陳ハ先生御病氣モ追々御快方ニテ本月末頃ニハ御帰京被遊候御予定之由、真ニ欣喜手舞足蹈モ啻ナラサル次第御座候、又明後日ハ御令閨様一寸御帰邸被遊候御報知ヲ得、山路君ト共ニ喜デ佇立待入申矣、(奥)扱亡友中川虎一郎君ハ九州納方ニ暫時働キ居候ヘ共、肺疾ニテ事業ニ耐ヘ兼候条、昨年来故山ニ在リテ(奥)(伊予北宇和郡元結掛五十二番地)罷在申候処藥石効ナク遂ニ冥界ノ人ト相成愁傷之至御座候、数日前ヨリ日本基督教会憲法修正ノ為メ組合教会ヨリノ委員方当府ニ集リテ日々御骨折ニ相成、小子共一同ハ其結果如何ヲ一日モ早ク承リ度渴望致居候処、今日全ク修正案出来上リ候由ニテ小子ハ特ニ草稿之一覽ヲ求メ一瞥致候、信仰条目ヲ新ニ作ルノ説ハ実ニ賛成希望スル所ニ有之

候、而シテ今度憲法ヲ余程簡明ニ致サレ候点モ大ニ喜ブ所ニ有之候へ共、未タ小子共ノ希望達セラレズシテ稍々不足ニ感スル点モ有之尚ホ深ク考究致度存居申候、今夕六時ヨリ海老名、小崎御両君ハ学校生徒一同ノ為メ有益ナル御勸ヲ致サレ大ナル利益ヲ得申候、来ル廿四日ニ聖晚餐及授洗式執行ノ予定ニ有之申候条、若シ其頃ニ御帰京被遊候様ナレバ大ニ仕合申候

三月七日

友信

九拝

新島先生

閣下

511

三月七日 茂木平三郎

①群馬県緑野郡藤岡町五百廿番地 墨
②摂津国神戸諏訪山和楽園 親展
④

其後ハ誠ニ御疎遠ニ打過申候、陳者段々御配慮被為在候秩父大宮伝道之義、郵便葉書ヲ以テ同地ヨリ申上候通り、原市杉山氏同道四日ニ彼地ニ着致候処、準備行キ届キ劇場ニテ演舌仕候、是ニハ奇事有之候
得共ゴ、ニ略ス馬車ニテ疲労致候得共聴衆三百人モ集リ故ニ頗ル愉快ニ演舌致候、不破氏ハ養母之少シク病氣ニヨリ、四日ニハ代人前橋教
員出向致シ候、五日之夜不破氏来ラレ都合四人ニテ演舌ス、聴衆前夜ヨリ多ク、少シク「ノウ」ハ有之候へ共、大概拍手喝采ニテ誠ニ愉快ナル

集リニ有之候、有志家ハ大森市三郎ノ外ニ六七人モアリ好青年ナリ、猶後会ヲ頻リニ求メ、且常住伝道者ヲ相望ミ申候、依テ本月中ニ又一会相開ク事ニ決シ、六日出立児玉町

本庄ヲ距ル二里藤岡教会ノ信徒一人アリ、乍併メソデストヨリ時々伝道シ例ノ侵略主義ヲ以テ列入ヲナサントス

ニ於テ演舌会ヲ

相開キシニ此地ハ久シク伝道致候ヘ共頑固輩多ク随分困難ニテ収獲無之、乍併序ヲ以テ一会相開キ候、一人ノ信徒ノ周旋ニテ俄ナカラ僅カノ聴衆ヲ得テ道ヲ相伝ヘ申候、先ハ大宮伝道ノ概略如此ニ御坐候也

一、今回ノ演舌会費用ノ総計金拾二円ハカリ、過日御送り被下候八円ハ此度不残遣ヒ払、不足金ハ不敷杉山両氏ニテ寄付スル事ニ相成申候、本庄ヨリ馬車有之候ヘ共道路少シク危嶮ナル処アル故ニ人力車等ニテ通行シ、夫等及ヒ彼地ノ劇場席料ヲ相払申候、意外ニ費用相掛リ申候

一、本月末ニ一会相開ク可キ費用ハ如何致候テ宜敷ヤ、先生ニ於テモ種々御多端ニハ候得共猶又御支出相願度、今度ハ杉田氏ト兩人位ニテ出張致度候、夫ニテモ凡六七円ハ相掛リ可申候、其都合ニテ四五日ハ滞在致シ度相考申候

一、常住伝道者ノ必用ハ、本庄、熊谷、浦和ノ三ヶ所ニメソデスト教会アリ是ヨリ着手セントスル模様アリ、又一致教会ヨリモ或ハ着手セントスル様子モ有之候、乍併組合ヨリ先鞭ヲ当テ候而是ヨリ時々伝道致候得バ宜敷カラント相考申候、然シ常住伝道者アリテ全ク其基礎ヲ堅固ニ致度、左モ無之トキハ矢張ソソジスト等ニテハ其透ヲ伺ヒ居リ申候、御勘考ノ被下願クハ常住者ヲ以テ開拓仕度候

一、四月コルドン教師上毛巡回ノ節、大宮ヘモ出張ヲ願フ義有志者ニ相告ケ候処、誠ニ熱望致候間先生ヨリコルドン教師ヘ大宮行キノ事鳥渡御依頼之有様相願度候

三月七日

茂木平三郎

拝

新島先生

三月八日 中山光五郎

①野州佐野町 白金方 ②神戸諏訪山和楽園 急用 ④墨

拜啓、去月中小崎兄より当地之都合不良に付てハ若松の方へ転任可致様御相談有之候間、格別好都合にハ無之候得共、伝道之門戸も日に開け往き候へハ向來好結果あるへきを信じ候、且又築き始めて何の理由もなく此地を去るハ不本意なり、若し後任あつての事なれハ喜て転任仕候得共、然らざるに於てハ飽迄当地之為に伝道致度、且先前先生之御教訓も有之候通申送りしか、其後何之相談もなく今日只今伝道会社より若松へ転任旅費として送金有之候、左すれハ伝道会社にてハ小生之相談を遂げさるも当地之伝道ハ廃する積なるや、甚た以て其意を得ざる事と奉存候、小生も更に見込なき事なれハ疾々足の塵を払ふへきも更に見込なきハあらず、已に四五人位ハ遅くとも信者になるへき者も有之候、且來十日の日曜よりハ犬伏と申処にて日曜学校も相開く手順も整ひ候事なれハ向來ハ好果を得へき事明に御坐候、速に伝道の結果なけれハ失望し易きハ伝道者、牧者の持前なり、故に伝道会社に従事する者ハ伝道者を励まして結果を得るまで伝道なさしむこそ其任と奉存候、然るに却て其挙に出てすして小生の方にて承諾も無之中に転任を命せらるゝ以ての外の事と奉存候、(尤も後任あるに於てハ不都合無之御坐候得共)、小生ハ目今己の名誉も何も一切打棄てゝ只主之命を奉し当地之人民を救ひ得んと決心して居り候間、何卒当地之人民を幾分救ひ得る迄、又後任ある迄、小生をして当地に伝道せしむる様に御相談被下度幾重にも奉願上候、当時小崎兄ハ上京之由、定めて御面会之事と奉存候、転任之事先生に御談事有之ての事なるか否奉伺候、頓首

二十二年三月八日午前十一時半

中山光五郎

新島先生

513

三月九日

金森通倫

④墨

⑥端書「新島先生

金森」

高島氏ハ建野之方ニても宜しと申されました、私ハ是れより井上伯之処ニ行き、十二時か二時之汽車で大坂ニ行ます

昨日夜ハ上坂を思止り九時三十分迄井上伯を待申候処、幸ニして待受け直ニ河崎邸ニ参り候へ共、何分多人数之事ニて一切話も何ニも出来不申、又今日、先生ニも一寸御面会致度御話有之候由申伝候処、伯之云ハるゝニ今日ハ甚多用、来人も定めて多るべき故先生ニハ今度九州より帰神之節ゆるゝ御目ニかゝるべしと申上くれと之事ニ御座候、建野知事も昨夜伯と同道ニて来神、河崎邸^{〔川〕}ニて面会致候処、同氏之云ハるゝニ、大坂之事ハ児島と相談致し先三人之名義ニて児島之宅ニ府下之重なる者をあつむる事ニ致たりと、然しまだ高島とハ相談致さぬと之事ニて候、高島氏ハ只今当地ニ滞在中なり、今朝参り候へ共まだ起ずと之事故是より又参り可申心組ニ候、右之次第ニ候故大坂へハ多分十二時か二時之汽車ニて参る都合ニ可相成と存居申候、何れ高島中将ニ面会之後再び御伺ひ申度候間御用ならば其節

承度候

三月九日

514

三月九日

上野栄三郎

①婦や丁儀や ②神戸諏訪山和楽園 ⑥封筒裏書、新島朱筆「Keep here」
ル氏ノ書状在中」E. J. W. Baker 書簡（一九八八年十一月十日付、上野宛）は
省略

其後ハ御無沙汰御海恕被下度候、扱中村氏へ御托しの御尊書拝見仕候、御依頼の絹ハ小生カナダへ廻り候故二重税ヲ
避ル為荷物ト一緒ニ積出し申候、併し潮水浸入等之事有之候ハ、開箱之節心付候筈ナリ、且荷作りハ余程御堅固ト相
覚へ申候ニ付、途中ニ而外より變化を与へ候義ハ無之ト存候、昨夜右御尊書拝読罷在候処へ織物会社支配人来り合せ
候ニ付問試ミ候処、品質ニより斯ル憂なしトハ難保よし申候、尤も右絹の小切ハ同会社ニ残り居候よしニ而取調可申
ト申居候、小弟より御届致候品ハ先方より別封之通御通信有之候処、最多忙中ニ而ツイノ此事申入候義打忘れ恐縮
之至ニ御坐候、右書面封入成行申入候、織物会社の口氣ト荷作り多端より推考スレハ染の不完全ト存候、尚織物会社
へ御引合相成度奉存候、右御申上度如此御坐候、勿々已上

三月九日

新島襄先生

玉案下

上の栄三郎

拝

近而小弟明後日ニハ貴地へ出張いたし候ニ付、拝顔尚悉く可申述候也

515

三月十日

金森通倫

①京都新町今出川下ル拾番戸 ②神戸諏訪山和楽園 至急要用 ④墨 ⑥封
筒表書、新島朱筆「三月十一日来ル」

児島氏より別紙差出候間御覽被下度候

海老名氏ニ高松行ヲ依頼致候処同氏ハ不承諾、宮川氏も同様、然シ県会ハ当月中之由ニ候ヘハ、何れ小生之帰京之上如何様とも取計ラヒ可申候

渋沢氏之手紙ニ付てハ全く小生ノ不行届ニて只今まで先生ノ御目ニかけず甚だ失礼仕候、扱て別紙之如き次第なれば小生ハ別ニ異存無之候、最モ資本金之所分^{〔処〕}ニ付いては小々意見モ有之候ヘ共、只今之処ニテハ何トモ申兼候間先ツ渋沢氏之申さるゝ通りニ致置の方至極と存候、誠ニ返事延引致し同氏ニ対シテ申訳無之候ヘ共、小生留守中之事ニて如

何とも難致候間、其段宜く先生より御断り置き被下度候、最早御協議ニ及ビ不申候間先生より直ニ御返書御送り被下度願上候○昨日ハ高島中将と同道ニテ京都ニ来リ、北垣、中井両知事ニも面会致し大坂之都合などを話置申候、又留守ニ児島院長より書面来り居り、大坂ノ集会ハ来る廿日後ニ相成由申来候、小生ハ明日名古屋ニ向ケ出立之心組ニ候、東京之湯浅氏よりは先日ノ常議員会之決議ニ対し大分不同意ヲ唱へ来り申候、何れ明日松山氏ニ面会之上如何様とも取計ラヒ可申候、右ハ要用まで、早々頓首

三月十日

通倫

襄先生

玉机下

〔同封〕

児嶋惟謙書簡 (明治二十二年) 三月八日付、金森通倫宛

再伸、本文集会当日ニハ過日粗申上置候通、大学計画ノ主意ト宗教学校ト區別アル事ノ御説明緊要ナリ、右日限ハ凡廿日後ニ可相成見込ニ御坐候

拝啓、御清適奉欣賀候、陳者当地紳商連募集一条、其後建野ニて事故も有之、墓々敷相纏不申、終ニ別紙之通ニて募集スル事ニ協議相整申候、尤人名之義ハ建野より取調差出ス筈ニ有之候、此方相分り次第日限取極案内差出候御通知可致候、其節ハ貴兄ハ素より新島氏ニも必ス出席有之様致度右御含迄、勿々頓首

三月八日

児嶋惟謙

金森通倫様

516

三月十一日

金森通倫

①京都 ②神戸諏訪山和楽園 親展 ④墨 ⑥封筒表書、新島朱筆「三月十二日来ル」

別紙之如く、大西氏より申来候か先生之御意見如何ニ御座候や、至急御聞せ被下度候、小生儀今夜名古屋へ向け出立之心組ニ候間御返事ハ該地「名古屋富沢町 志那忠ニテ」宛て御送り被下度願上候、湯浅兄より先日之常議員会之決議ニ対して之意見書ハ松山氏ニ御渡し申置候間御一覽被下度候、右ハ要用まで

三月十一日

通倫

新島先生

二伸、渋沢氏之書翰と大西氏之分ハ小々入用ニ候間御面倒ながら御返し被下度願上候

三月十二日

広津友信

①京都同志社 ②神戸諏訪山和楽園 ④墨

拝呈仕候、一昨日ハ御令閨様御帰宅被遊候而真ニ満悦ヲ得申候、確君熊本遊学之件ニ付而ハ御令閨様より北垣氏へ御勸置被下候由ニテ、昨夕執事参ラレ候テ熊本之事情御尋相成候故、小子、山路君ト共ニ知事公及御令閨様ニ面晤、委細申述候処、愈々予備校ヲ退校サセ熊本へ遊学之事ニ決定致サレ候、就而ハ小子ヨリ海老名弾正氏へ一応事情ヲ通し且御世話被成下候件ヲモ依頼致し、其返答次第ニテ直接知事公ヨリ御依頼モアリ、又先生ヨリモ御依托被成下候ハ、実ニ都合宜敷事ト存し、此儀知事公ニモ申上御依頼ヲモ受ケ候条已ニ熊本ニハ一書ヲ今日差出し候、知事公御懇切ニモ国事ニ付縷々御話被成下、小子、山路君ト共ニ大ニ喜ビテ又益スル所アリテ帰校致候、小子卒業後ノ働ニ付海老名氏ノ勸モ有之、又新潟教会ヨリスカツダー氏及別科神学生ニテ新潟人ナル数人ノ手ヲ経テ御相談相成、且又某女学校教頭タル可キ事ノ御相談モ受ケ候へ共何分疲馬重荷ヲ負フニタヘサル恐有之、且ツ少シク我国前途ノ事ヲ思慮シテ企図スル所モナキニ非ズ、就テハ是非平素ノ希望ヲ達し度、而シテ此事ヲ断行スル方利益カト存シラレ候条、先生御推襟被成下度奉願候也

明治廿二年三月十二日

広津友信

新島襄先生

閣下

二伸、御令閨様ニ宜敷御鶴声奉希候也

518

三月十二日

本城安太郎

①長崎高島炭坑

②神戸諏訪山和楽園

御親展

④墨

拝復、本月七日之御染墨忝ク薰読仕候、生前之一大恩人ナル海舟勝老先生閣下之御紹^{〔介〕}介ヲ辱^レフシ、奇遇ニシテ愛先生
台下之芝眉ヲ拝シ申候テ以後、御知恩ハ親之如ク思ヒ、屢ハ無理ナル御難題ヲ申上、一月一日炭坑場ニテ聊カ寸功ヲ
奏シ申候モ主之御恵ト奉存、炭坑舎ニテ秘密ニ付シ呉候様懇々ナル依頼ニ御坐候得共、此義タル海舟老先生并ニ愛先
生台下、岩崎弥之助殿及ヒ莊田平五郎氏之四人之御方ニハ略概書面ニテ可申上ト相談仕候テ右申上候、一月十四日愛
先生台下ヨリ御返翰ニハ、実ニ二親ガ愛子ヲ思フニ勝リタル御筆意ニシテ、御誠情一読感泣忽チ 天父ニ謹テ奉感謝
候、丁丑之役ニテハ政府狼狽致候テ大山県令ニ電信ヲ以テ宣告致、私素ヨリ臥仰天地ニ愧シ不申候得共、尚ホ未タ鉄
窓之辱シメヲ雪キ、不日亡友長連豪等之過激ナル冤ヲ伸フル能ハス 主ナル基督ハ私之罪ヲ容レ賜フテ信仰ト勇氣ヲ
賜フタリ、愛先生 天父之御手私之上ニ上リ、私之目的達セシメ賜ハン事ヲ祈禱賜リ候ト御懇篤ナル御華翰之文意
旁タ以テ老母之勸メモ御坐候間、御相談申上候、私ハ素ヨリ天保当百之価モ無御坐、無教育ニシテ宗教社会ヘ呈スヘ
キ之技倆モ無御坐、唯タ 主ナル基督之御精神ヲ信仰仕候耳ニ御坐候、嗟呼京坂神之女学校中之淑女ハ何ソ信仰之御

力弱キヤ、斯之如ク候ハ、森之妻之如ク、大山之妻之如ク女学校卒業、其億兆之見ル所之如ク濟々タル淑徳婦人多出スルナラン、是モ御摂理ニ御坐候歟、謹而奉伺候也、頓首拝復

三月十二日

主ニ在ル小弟

本城安太郎

九拝

主ニ在ル

新島愛先生

台下

御教戒謹而奉願上候也

519

三月十二日

金森通倫

①京都今出川 ②神戸諏訪山和楽園 ④墨

拝呈仕候、陳者通倫儀昨夜八時ニ出立仕候、已ニ今朝ハ着名仕在候事と存居申候也、其節別書を先生へさし出し御意見を同様申付申候、此朱書之所ハ坂田先生之御加筆ニ有之候、何卒御一覽之上御意見御附し被下又御点作被成下候様願上申候、何卒直ニステーションノ箱ニ御投し被下、名古屋ニ当て御送被下度候、御答之都合ニテハ直ニ先方ニテ使用仕心得ニ御座候、右至急御取調之程奉願候

十二日

金森

留守

520

三月十二日

三峯逸人（新島公義）

①奈良 ②神戸諏訪山和楽園 ③はがき ④墨

新井氏は非ニ面会ヲ要シ来リ、前回ノ上坂、今回ノ上坂ニモ面会セズ、氏モ遙々の所望故御祖母様御拝顔旁一寸十三日より帰京可致候、勢州行ニテ日曜モカキ且当時会堂ハ地面買入レノ議ナド、奈良ノ安息日モ大切ナレバ這回ハ神戸迄多分罷出難カラント奉存候間不惡御承知被下度、尤モ貴意ノ如ク、新井ノ話シニ中々乗ラズ候間御安神被下度候

521

三月十二日

山路一三

①西京同志社学院 ②神戸諏訪山和楽園 親展 ④墨

拝呈仕候、然バ先達来御詞申上候事件御同感ノ様子、小生共誠ニ満悦之至リニ存候、扱而昨夜其事ニ付北垣氏御宅江

罷越、右之事情御談申候処、国道殿至極御同意之様子にて早速其義ニ決行仕度とのことにて御座候間宜敷左様御承知被下度候、又先生より宜敷海老名氏之方江御依頼被成下間敷候はずやと私共切望仕居候、先ハ御報知まで、早々不一

三月十二日

山路一三

新島襄殿

二白、先達ハ罷出色々難有、宜敷御家内様江御礼申上候

三白、先生ハ本月下旬ニ御帰郷被成候由、私共非常ニ悦び奉待候

522

三月十四日

鵜飼吉治

①京都木屋町三条上ル京都基督青年会中 ②神戸中常盤様ニ至ル ④墨

小生カ尤モ敬愛スル新島襄先生足下ニ呈ス、小生ハ客年徳富猪一郎兄ヨリノ紹介書ヲ得テ出都以来、足下ノ恩寵ヲ蒙リ感銘シテ忘レサル事ニ有之候、其后恩恵ニ抱リ一ノ私学舎ヘ教授ノ勞ヲ執リ以テ栄光ヲ轟シ其日ヲ平和ニ打過ス事ニ候処、種々ノ艱難ニ遭逢シ迫害ヲ招キ以故聖意ニ依リ潜心之レニ打勝ツノ堅固ナル勇氣ナル信仰ヲ練磨スルニ方リ足下ニハ肉躰ノ御悩ミアリ再三四五門下ニ伺候スルモ其意ヲ不得、終ニ御厚恩ヲ蒙リタルノ誼義ニ報スル事ナク在再

廿二年ノ本日ヲ迎フルニ於テ精靈^{〔カマ〕}ノ恩寵ニ浴シ一身ヲ犠牲ニ供スト雖モ邦家ノ為メ榮光ヲ願ハサスニハアルヘカラス
 トノ恵ミノ力ヲ以テ伝道ニ從事セントスルノ志勃乎トシテ止マス、此頃足下ノ門ヲ訪フ、足下出神御養生ノ趣承リ且
 ツハ二豎モ父ノ恵ト国手ノ藥力其功ヲ奏シ逐々御快氣ノ由喜ヒニ堪ヘス候、微力ニシテ足下ノ高誼ニ報スルノ力乏シ
 トスルモ小生ハ常ニ神ト共ニアルヲ忘レス、足下ノ全快ヲ祈ルト共ニ小生ノ道ノ為ニ働カントスルノ聖意ニ合ハン事
 ヲ求メ候、然ルニ父ハ小生力万事ノ情欲ニ打勝ツヘキノ愛ノ鞭ヲ加ヘ給フニヤ、曾テ出京ノ趣貯フル処ノ悩^{〔カマ〕}漿一変シ
 如何ニモシテ未タ神ヲ信セサル者ニ對シテ道ヲ伝ヘサルハ小子ノ罪ナルヲ悟リ確乎トシテ動カスト雖モ肉体薄弱ナル
 ヲ以テ或ハ法律、經濟科ヲ脩メントノ心ヲ起シ、或ハ商工繁多ナルサタン多キ大阪ニ在遊セントシ、或ハ情欲力為メ
 奴隸ニ陥ラントスルノ試ミアリテ信仰殆ト冷カトナリ、恵ミノ手ヲ離レントスル数々ナリト雖モ此^{〔カマ〕}經磨已ニ去リテ今
 ハ大ナル悔ヒ改メヲ為シ父ノ恵ミヲ蒙リテ神学科ニ入学シ伝道ノ目的ヲ達セスンハアルベカラトノ^{〔カマ〕}觀念益々加ハリ独
 立ノ信仰力ヲ保有スルニ方リテ、其局終ニ非常ナル目下ノ慘状ヲ形造リ肉体ノ不幸ナル事一身ヲ安全ニスル処ナク
 実ニ枕スル。処ナキ有様ト相成候得共、小生ハ却ツテ甘受シテ人ニ依ラスシテ道ニ依リ、一心ニ神ニ求メテ止マサル次第
 ニ有之候、吁矣信シテ祈ラハ願フ。処悉ク得ヘシ、小生ノ目下ノ艱難ハコレ信仰ヲ堅固ニシテ精神ヲ修練スルノ好機ト
 喜ヒ居候、抑モ我故郷ハ鹿児島未タ求メス叩サルヲ以テ与ヘラル、ナリ再カル、事ナキ德義腐敗シテ青年ノ志氣没セ
 ントスル哀レナル現在ヲ浩嘆スルノ精神ヲ有スル決シテ偶然ニアサルナリ、サレハ来ル九月ニハ必ス邦語神学科ニ
 入ラントスルモ目下ノ生活苦海ニ沈ム折ナルヲ以テ、聞ク処ニ依レハ京都日報ニ梶原某ナル記者曾テ足下ノ御紹介ノ
 由、仄カニ聞キ伝ヘ候間御病氣中尊意ヲ慮シ恐レ入リ候得共小生力目下ノ艱難ヲ救済スルノ恵ミヲ以テ京都日報社ヘ
 雇入レノ添書御送附相願度、尚謝シ且ツ書セントスル処アリト雖モ限リナキ言語ヲ有限ノ筆紙ニ尽シ難ク、依リテ前

後禿筆ヲ不顧願上候、泣拝

神ノ恵ミ常ニ先生ノ上ニ垂レ給ハン事ヲ　ア－メン

新島襄殿

足下

鵜飼吉治

523

三月十五日

児嶋惟謙

⑤ 写真　⑥ 新島朱筆「三月十六日来ル」

拝啓、陳者過刻高島、建野より来ル廿一日不計差支出来候ニ付、廿五日ニ致呉候様懇談有之、事情止ヲ得ざる義ニ付
其意ニ任セ、別紙之通延期状相發候間左様御了承可^{〔被説カ〕}下候○昨日之御紙面藤田伝三郎相渡云々、御不審御尤ニ存候、右
者近来病氣平臥致居候のミならず同人ハ其席へ班セさるも素より^{〔異〕}呉義アル筈無之、建野ノ意見ニて相省キ置候事を望
候、尤同人ノ代兼久原庄三郎始藤田方ノ両三名相加置候事ニ付、同人之处ハ御懸念被成間布候、右不取敢御通知旁、
勿々頓首

三月十五日夜

新島襄殿

児嶋惟謙

524

三月十五日

目加田護法

①神戸相生橋北

②区諏訪山和楽園

京都同志社々長

親展

④墨

拝啓、先般ハ久々にて拝顔を得申候処生憎御不快の際にて充分の商量も得不申残情此事に御座候、然し該時の御申聞には不日金森通倫氏を以て弊屋へ向け御意見御洩し被下候由承り候ニ付、爾後鶴首相待居候得共尚未憤臨を忝せず、去ながら其後金森氏には屢御来神も有之候て彼処此処の有志者に面し頻に御勸化等も致し被居候やに聞及候得共予て相待居候拙宅へは御来訪無之は如何の思召に候哉大に訝り申候、尤も尊氏と拙者との談合より金森氏を御差向け云々に相成候様の事情に相渉候事故、敢て金森氏の来臨と否とを同氏に対し相責め可申ハ不本意の事なれとも、畢竟する所ハ尊氏の御失念乎若くは御違約乎の二点に縁由候より斯く閑等に相流れ候事と存候間、愈前約の通り茲兩三日の中午前第十二時迄に金森氏を以て弊屋へ御差向け御意見御洩し被下候歟、又ハ拙者より尊寓へ向け罷出候て商量に可及候歟、何れとも貴意を仰度候間至急何分の御回答相待申上候、早々頓首

神戸港相生橋北明道館

目加田護法印

明治二十二年三月十五日

新嶋襄殿

三月十五日

中村軀造

①岩代若松七日町 ②兵庫縣神戸諏訪山和樂園ニ於テ ④墨

前文御赦面被下度候、御高師御病状如何に候歟、小弟殊に御高師の幸福を只々祈り居り候、然れハ幣地伝道上ニ依り殊に御心慮を頂き誠に難有存じ申上候、扱て御承引の通り山岡兄ハ〔邦三郎〕本月五日当地発足任地高松ニ迎へ〔向じ〕御出行ニ相成られ候、然るに其先き小弟上京仕候為め小崎兄に付後任の牧師を請へ、則ち幸いに東正義兄を当地に願、本月九日当地へ東兄も着仕候、為メ当地信徒の風殊に冷かなる様にも係ハらず一度ハ新なる信仰を起し候様ニ付先ハ御安意被下度候、御高師香業の大学設立の御事、小弟等高師の御趣意を拝読仕り候度々汗顔涙袖に仕り候ニ付、兼て御承引を願置き候当地中学設立も既に見入丈ケハ来月を期し候処、其れノミ其期を果すあたハさる次第に切し、種々右の大学設立ニ関する募金上ニ付安瀬氏等と図り切廻以て尽力ハ仕り候へ共何文前〔分〕の中学校設立も好果を未タ奏セさる事に付、充分ニ相成間敷ハ候半カ、幾分カハ相成ヘク候、且ツ福島在の綱島兄此度大学の義捐金の為メニ県下漫遊せられ候様ニ付、該氏ニも計り当地ニ着次第演説上ニ於テ一層の働きを以て募金の幸いを祈り候、先ハ御承引相祈居り候、次きに御申越しの山本氏の墓碑建立ハ御意に依り石工ニ計り候処、右ハ雪中ニ付確たる見込も立兼候様の都合ニ付甚た遺憾ニ存し候、併し普通拾円内外なれハ相当の物出来候様の都合ニ候間消雪後ハ御意の通りニ確たる見込御通知申上候間左様御承引被下度候、乱筆再拝敬具

三月十五日

新嶋公義

①京都寺町通丸太丁上ル

②神戸諏訪山和楽園

平信

④墨壘

[illegible]

這回ハ下神拝顔不致シテハ相濟ヌ様存候ヘ共、中村栄助君ノ伝言ヲ信ズルニ余程御快氣ノ由、奈良ノ安息日勝手^{ケン}がましき事モ候間、下神致スマジト存候間御寛仁被下度候、同志社大学ノ事ニ付私見モアレトモ追テ奈良より可申上と存候、右あらく頓首

三月十五日夜

伯父様

貴下

公義

拝

近來世上、自治、改進、新保守、及ビ團結主義ナド云フ各種ノ主義発呈セリ

或ハ又タ新島宗主義、或ヒハ大和主義ナド云モアリ、伯母様ハ公義へ音信不通主義トデモ云フ新主義御設立ニヤ、一向御沙汰モ無之、併シ御多用トハ推察仕候宜布奉願上候、奈良へ四月桜花ノ候御発向奉希望候

〔永〕
○長岡君曰ク

着物ハ明十六日ノ午後氣車便ニ出スト

527

三月十七日

半谷高晴

①京都上京十一組寺町今出川上ル二丁目北横町 植岡駒吉氏方 ②神戸諏訪

山和楽園 ④墨

拝啓、昨日ハ罷出御馳走様ニ相成難有奉存候、今日ニ番汽車ニテ神戸出發十一時半頃着京仕候、直ニ同志社金子君之處ニ参リ御書面ヲ差出申候處、御親切ニ御世話被下同志社神学生植岡駒吉氏之宅ニ下宿仕候事ト相成、御影ニテ誠に

都合宜敷千万御礼申上候、御奥様ニモ宜敷申上被下度候
先ハ御礼迄、草々頓首

三月十七日

新島先生

閣下

半谷高晴

拝

528

三月十八日

鵜飼吉治

①京都基督青年会々館内

②神戸スワ山和楽園

④墨

拝呈、御病氣中御意ヲ煩ワシ候ニモ拘ハラス早速御惠送被下成難有奉万謝候、陳者本日梶原兄ニ御面会申上候処先生
ヨリモ同君ニ向ケ御手紙御送被下候由旁々以テ御厚意之段謝スルニ余リアル事ニ有之候、日報社之方ハ未タ御採用ア
ルカ否ヤハ相明カリ不申候得共多分御採用之事ト奉存候、就テハ長岡君ヨリ之報聞ニヨレハ小谷ナル人先生ニ鵜飼蝦
難ニ付キ云々ノ御希願アリシ由、実ニ小子ハ聞テ冷汗且ツ驚き転々忿怒ニ堪ヘサル訳ニテ聊カ左様ナル事御希願申上
シ覺ヘ無之候、此人小谷ト云フ人ハ昨年前ヨリ京都ニ於テ交際シタレドモ左様ニ親密ト云フ程ニハ無之候処、此節或
ル関係ヨリ輒ヤ親密トナリ、小子モ最初之間ハ余程将来望ミアル人物ナラント誤信シ信義ヲ尽クシテ交際スルノ際、
小子ヲ非常ナル姦計ニ陥イレシノミナラス種々ノ籠絡手段ヲ用ヒ基督教ヲ欺信シテ信者社会ヲ籠絡シ、実ニ言語ニ尽

サレザルノ人物ニ有之候、委細ハ長岡兄ヨリ御談シニ可相成候

小谷君ノ件ハ福田、大沢ノ諸兄能ク知り玉フ也

小子ハ尚ホ小谷カ真正ノ悔誤^{〔ママ〕}ヲナサレン事ヲ祈リ居リ候

先ハ御感謝迄頓首

新島先生

足下

鵜飼吉治

529

三月十九日

不破唯次郎

①上州前橋神明町三番地

②兵庫縣神戸諏訪山和樂園

④墨

二白、跡月ヨリ My poor salary was cut down & I don't know what to do with my expenses. 此ノ都
合ニテハ大ニ困却仕候、元來教会ニハ種々之理由有之候

過日ハ御尊書被下奉万謝候、種々御報道被下御礼申上候、例之合^{〔同〕}一件ニ付キ一己之資格ヲ以て杉田、杉山、小生共
三人集り相談仕候處、相成ベクハ上州丈ナリトも同説ヲ以て五月之集会ニハ出度存候、生等ハ只一致統合ニ、一己^方ニ
力ヲ尽スハ万々不同意にて、各「セクト」之大運動ニ力ヲ尽度希望ニ御坐候、四月一日前橋ニ於て開ク部会ニテも何

レ合一ノ事ニ付てハ相談有之ベク奉存候、大宮伝道ニハ此度杉田、河波兩兄ニ依頼スル心組ニ御坐候、先日ハ吾妻原町ニ参り候処沢田氏大ニ尽力中ナリ、須川ニも一寸参り高橋氏ニ面会仕候、沼田もヨキ都合ナリ、近々杉山、杉田兄等ハ沼田、須川地方ニ参り度存候、昨夜大間々之高橋氏(同輩)来前サレ、聞ク所ニヨレバ同地も先ツヨキ方ニ御坐候、来月十日以内ニハ伊勢崎ニ於て上毛信徒大会ヲ開ク都合ニテ、又本月廿九日ニハ原市ニ於テ上毛婦人ノ大祈会アリ、各地も彼是多忙ニ見受申候、大胡地方ノ伝道ハ田中兄之尽力ト神之恵ニヨリ非常之ヨキ都合ニ御坐候、松尾音次郎兄ニハ生等ノ意見ヲ書状ニテ送り、五月會議之節ハ上毛丈ハ同主義ニテ出席仕度志願ニ御坐候、松本勘十郎兄ノ所ニハ時々加勢ニ参ルベシ、古庄氏之事ハ氣ノ毒ニ存候、先生之御不快ハ此程如何御尋申上候、前橋教会ハ余リ面白カラザル有様ニ候得共、婦人方ハ余程働キオレリ、只々小生ハ(コンシリー「エイ」シヨン)不足ヲ残念ニ思ヒ、日夜神ニ求メ申候、先生も小生之為ニ御祈被下度偏ニ奉願候、右ハ乱筆ヲ以て、一書奉呈上候、早々失礼、再拝

三月十九日夜認

不破唯次郎

新嶋先生

三月十九日

金森通倫

①名古屋志那忠ニテ ②神戸諏訪山和楽園 親展 ④墨

昨日之集会之結^{〔果〕}葉ハ充分とハ申兼候、然知事、院長其他之貴顕方ハ皆出席有之候、甚だ残念なる事ハ資産家之出席少りし事なり、夫故或る商人之發起ニて今一廻催す之事知「事」之を賛成し、自ら差支なければ出席すると申されたり、然し今此際ニ引続きてとハ余り屢なれハ、うとんぜらるゝ之嫌ひなき不能所なれハ、何れ来月今一廻開くと申すと云ふ事ニ相決し申候○明日ハ当地之三新聞社を小生之宿所ニ会し、三社連合ニて東京、大坂之如くニ同志社之為ニ尽力致す協議之事ニ相運び申候、是れハ新聞社之方より之發起ニ候、小生ハ二十二日ニハ当地発足之積リニ致居申候、何卒大坂の方ハ間之ぬけぬ様ニ児島、高嶋などを御しげきなし置き被下度候、仲々實際之纏方ハ六ヶ敷候

三月十九日

通倫

襄先生

玉机下

三月十九日

河波荒次郎

①東京牛込区旧高田馬場第四百三番地 托金森君 ④墨

謹啓、愈春暖之候ニ相成候処閣下益御安康奉欣賀候、次ニ不肖義も幸ニ真神之御恩寵ヲ蒙リ居申候間乍憚御放神被成下度候、却説、当校ニ於テ不肖等信徒ノ者共組織シ居リタル青年会も閣下御臨校之節迄ハ実ニ微々タル者ニシテ有レトモ無キカ如キ有様ニテ候ヒシモ、真神ノ恵ミ給フ処洪且ツ大ニシテ、近頃ハ愈盛大ノ勢ニ立至リ該会々員ニシテ受洗セシ者又来月中受洗ノ決心アル者数名も有之候得ハ、從テ学校全体ヨリ該会ニ対スル待遇等も全ク前日ト異ナリ、基督教ハ政治学ヲ修ムル者ニハ尤も必要ナリトノ感覺ヲ惹キ起シタ様被見受申候、去ル十五日ハ幸ニ金森君ノ上京中ナレハ青年会ヲ開クヘシトノ衆員ノ希望ニ從ヒ同氏ニ一席ノ演説ヲ求メタリシニ聴衆人非常ニ多ク何レモ感服仕リタル様見受申候、何卒後來此ノ会ヲシテ専門校ノ辛子種トナリ得ル様閣下ノ御祈之中ヘ御加ヘ被下度伏テ奉懇願候、彼ノ仏教僧侶ノ中ニテ博学ノ名アル大内青蟹（註）、島地默雷之諸氏も時々当校ニ来リ演説ヲナシテ以テ非常ニ我基督教ヲ排撃致シ候得共邪ハ正ニ勝タストヤラ、満校生徒ニ感スル処ハ只議論之組ミ立テニ於テハ実ニ感服ナリトノ事ノミニシテ、仏教ハ信スヘシ奉スヘシトノ感覺ヲ心中ニ惹キ起シタル者ハ一人も無之候得ハ、此機ニ臨ミ全心全力ヲ尽シテ主ノ御力ヲ祈ルコソ肝要ナランカト奉存候、先ハ要用迄、草々頓首

第三月十九日

河波荒次郎

新島先生

閣下

拝

二白、玉体專一ニ御保養被遊度為國家奉祈候

532

三月二十日

杉山重義

①群馬県上州碓氷郡原市村

②神戸諏訪山和楽園

④墨

過般齒痛にて困却致候以來身体兎角疲弱を覺え夫故久く執筆を怠り意外の御無音仕候、然る処又た先生より御懇書を賜はり、感銘之至又た赧愧に堪えず候、時下日々氣候變化之著きにも係はらず、先以其御地先生には益御快癒之方に向はれ、奥様には益御勇壯を加へられ候事恐悅至極に存じ奉候、陳ハ当地方伝道之事に付屢々御忠告被下候而已ならず多く之御喜捨被下候事感銘之至に堪へず候、夫に引替え当地に於ては兎角目下之急務をも対岸之火災視する如き有様にて、概して申さば何事にも無頓着なるとの批評を加ふべき外ハ無之、夫の上近來ハ地方制度之実施なり、国会議員之準備なり、政事風之為めに猫も杓子も狂奔致し居候姿にて、動もすれば熱信なる人々さへも其心靈上之事を忘却致候様之事有之実に歎息之外ハ無之候、然し乍ら一盛一衰一消一張ハ数之免れざる処、何時も今日之如き事は決して可無之と、教会有志之者ハ日々祈禱會を開き熱心に祈求罷在候、大宮へハ過般不破、茂木等之諸氏と罷越申候、右ハ定而右諸氏より其模様申上候事と存候、同地ハ随分見込ある土地にてミッシリ伝道すれば必ず好結果可有之と存候、

然し同処に伝道するに付てハ充分適任之人を得て同地に定住せしめ伝道せしむるに非んば到底思はしき事ハ可無之と存候、殊に（若し小生をしてフランクリーに云ふことを得せしむれば）茂木氏には藤岡丈けにて正に其肩に余る位之重任に御坐候へば、長く同氏をして秩父之伝道を為さしむることは一時に二兎を求むるの譬に齊しからんと存候、然し先づ着手之際ハ致方なき事にて、殊に同地は同氏之門戸を開きしもの故定りたる人を得る迄は同氏担当之事も止むことなき儀に御坐候、同地伝道之事を永久に維持する方法に付てハ杉田、不破氏等とも相談致して尚ほ来月東京部会之時に談合致度存居候○同志社大学寄付金も已に一回丈けハ民友社へ届け国民之友に記載致し候、後口ハ如何に候か出来る丈けハ取纏め度存し候○予て御願申上候書籍米國より荷積之報ありし由御報被下難有奉存候○荊妻よりも宜く申上呉候様申出候に付末筆ながら申上候、やゝの事も屢々御尋被下難有奉謝候、日々生長致し并てワンパクに相成候、小生もバ、と相成ては大分バ、の氣分が致し、バ、らしく相成申候呵々○時下折角御自愛奉專一と奉存候、謹言

三月廿日

重義

拜

新島先生

三月二十一日 白石村治

①越後長岡在久七村 ②京都寺町通り丸田町上る 親展至急 ④墨

寸楮謹呈、春暖の候に候処先生御起居如何に御坐候や伺上申候、扱先達而寸紙を以て御伺申上置候に重て御伺申候ハ甚以て恐縮之至に候得共、当時北越も積雪漸く消へかゝり申候得はこれよりは我儕一増新敷運動を試み可申時期に迫り候上に伝道者会も近きに有之候等の都合ニ付種々様々思考をも運らし居候おりからに候間、万事に十分なる御経験被為有候先生より此地運動の方向其他に付御指南相頂き度日夜に切望罷居候故に御坐候間幾重にも右御推憐被成下御指南の御返書を拝見するの榮を給へらん事切望に不堪候、実ハ前申上候伝道者会は本月五泉にて相開き可申はづの処、坂田君同地を去られしに付来月上旬村上にて相開候事と相成候て、其迄には猶時間も可有之候ニ付勿々乱筆を以て御伺申候、頓首百拝

三月廿一日

白石村治

新嶋襄先生
侍史

534

三月二十二日

児島惟謙

①大坂堂嶋浜 ②神戸諏訪山和楽園 回復 ④墨

華帖拝読仕候、陳者廿五日紳商小集も近寄当日者必ス御出席之趣満足仕候、拟建野氏転任ニ付テハ御掛念之段察入候、併シ昨日同氏へ面会をし相尋候処職務ニ関スル事ニ非ざるヲ以テ兎ニ角出席可致旨ニ有之タリ、又新任知事西村^三氏も多分廿四日ニハ着坂ニ相成、左候へハ是非出席スル事ニ建野より可談筈ニ致置タリ、而して当日来賓ニ対し乍不^省、銘々よりも一言以テ勸告可致見込ニ御坐候、其他不日拝眉在寛語、右貴酬迄、勿々頓首

三月廿二日

惟謙

新島老台

535

三月二十二日

鈴木 清

④墨 ⑥乞親展

拝答、只今ハ結構なる御品老母ニ御恵投被成下難有奉拝謝候、昨夜集会之状況ハ先々平穩ニ経過し、一方より云へバ

甚満足なる結果ニして、原田氏^(助)在任之儘滞米之事ニ大多数を以て決議相成申候、何分アツキンソン氏を頼み来りて大ニ為す事ありし該氏之演説ハ教師之名誉上或ハ原田氏在米あるが為ニ日本之実体を米人が知る云々等之話ニ而、教会之得失ニ就而ハ話し無之候等其他準備ハ甚整ひ居りし様被考申候、小生ハ説を吐き不申、只遺憾之情を起せし而已、集会之人ハ、惣員百七十名、内、男六十余、女百余、^{之レハ健カナル数ニハ無之候}取決ハ従前之儘と云説 百三十四、非とする者三十六

先右之有様ニ而結了ハ致し申候、乍併未タ自由、自治之域ニ進まれざる事ハ残念と存申候、右ハ昨夜集会之状況而已を可申上之处、自分之思想まで筆を走らせ恐縮ニ存候、忽々拝具

三月廿二日

小生

清

拝

函丈

閣下

536

三月二十三日

鶴田三郎・隅谷己三郎・島田錫吉

⑤『DOSHISHA 文学会雑誌』第二十一号（明治二十二年四月三十日）

東京靈南坂教会青年諸氏より院長への書簡

〔前略〕 拟当教會員に武光正成と云ふ一少年有之候处、本月二日腦病に依つて前途幾多の希望を抱き候儘未だ少壮之

少年にあり乍ら空しく長逝致し、然る處、別紙履歴書にも有之候通り、本人は義俠之精神同情之感（イ）くして朋友中薄資之者など有之時は実に身を擲つて助力する事に尽力致し候ことハ度々に候處、嘗て寢食を共にする處の親友が一朝其文之病氣の故より学資を得る克はざるを見て平常親交の情より之を坐視するに堪へず、只氣之毒の至りなりとの一ツの志ハ彼をして奮起せしめ、遂に己が得る處学資の幾分を毎月駅通貯金局へ預け積んで友人の学資に充てんと志し候も、私して誰れにも告げず其母にも兄弟にも告げず病褥に臥してより僅に其由を語り申候、又彼れは同志社入学之事を非常に熱望して東京を出立せんとせしこと己に幾度（ロ）び、平素多病の故を以て遂に至ることを果さず、是れ彼が絶世の恨とするところに候ひき、彼れ常に曰く、同志社々長新嶋先生は真之人傑なり、英傑なり、我れ深く景慕して己ま（ロ）ず、而して親しく先生之教を受けんとすれば病魔我をして行かしめず、嗟々々と故に同志社を想ふの念ハ瞬時も彼れの心を去らず、彼れが将さに死に垂として暗々陰々寂々寥々たるの時、微かに口を啓きて同：志社：大学：新嶋：新：先生と切れぐにさゝやき候ひき、今や彼ハ去つて青山埋葬場裡一台の墓標と化せり、而して彼の高潔なる精神を紀念するところの金額ハ己に積んで十円となれり、然れども余り多分ならざるの金額は友人の学資に充つる能はざるを如何にせん、寧しろ彼れが終始熱望して死に至るも尚ほ忘れざりし先生が苦心經營さるゝところの大学設立費之幾分之内に加へらるゝを得ば本人の志望に叶はんかとの遺族親友らの相談により謹んで御贈附申上候也、先生願はくハ微意の在るところを御諒察あらんことを、頓首々々

親友

島田 錫吉

明治廿二年三月廿三日

隅谷己三郎

鶴田 三郎

新島襄先生

机下

537

三月二十四日

渋沢栄一

⑤写真

本月廿一日付之尊書昨日落手拝見仕候、其前小生一書差上候後尊書ニ接し候得共、事済之件と存し、過日湯浅君ニ面会之序御伝言申上候義ニ候、然は原六郎氏寄付金之義ニ付行違云々ハ此度之尊書ニて明了ニ歸し、原氏より厳格之来書も始て了解仕候、右様之次第なれハ、小生も再三督責ニ類せし催促状さし出不申方可然之処、小生ハ只一途ニ昨年七月之御約束を重んし、一同之中未払有之候ハ商人仲間之恥辱と奉存込少々厳ニ申遣し候処より、却而原氏ニ激怒之情を生せしめ候様相成候義と存候、併拙子も井上伯より他日程克原氏へ御弁解相願候ハ、別段御介意被下候程之義ハ無之と被存候

来示ニ任せ貴台より小生へ御遣候二月十五日付尊書写さし上申候、乍去原氏へ此末尊書御差出相成候ニも、小生より余り貴台へ面倒之事申上候為メと申意味ニ御認無之様奉願候、右様込入且行違候義者文書之間ニ亦行違を重候恐有之候ニ付、寧ロ井上伯帰途神戸へ立寄られ候事と存候間、其節御逢被成篤と事情御托し相成、同伯より弁解被成下候様いたし候方重畳と存候、右者再応貴答迄如此御座候、不宜

538

三月二十五日

海老名弾正

①肥後熊本新屋敷町三百五十六番地

②神戸港諏訪山和楽園

④墨

辱尊翰、陳者北垣氏之子息ニツキ御申越之義ハ学生之重立タル者共相談仕候処左之如ク相決申候、教員モ学生モ注意ニ注意ヲ加ヘ可相成ハ才力ト人物ヲ択テ入校ヲ許ス積ナレハ知己之招介ニヨリテ平素之氣象ヲ吟味スル筈ニ御坐候間、実ハ確君ノ義御断申上度候得共、先生及同志社之或ル知己ヨリ之御相談トアレハ如何トモ可致候、乍憚前以テ一言申上度候事アリ、拙校ハ同志社ト異リ寄宿所ト云ヒ何ト云ヒ至テ飽暴、六枚敷ニ少クトモ四名若クハ六名モ繁居候位ナレハ随テ食物モ亦至テ飽、老円四十錢之食料ニ御坐候、小々ニテモ美服セントスルモノアレハ直ニ之ヲ排撃スル故ニ入費月謝及書籍代共目下三円ヲ要セザル程ニ御坐候、自宅ヨリ通学スル外一切下宿ヲ禁シ、悉皆入塾為致候ニ付実ニ敝敷習練ヲ加ヘ居候、又時々遠足シテ氣力身体ヲ試ミ申候、肥後人ニ取リテ毫モ敝敷ト申訳ニハ無之御坐候得共京坂神之人ニハ殊ニ貴族然タル人ニハ難堪可被為感候、因テ確君ハ或ハ逃出スノ恐アリ、此事ニ至リテハ護衛仕兼候故ニ金子ハ尽ク小生宛御送リアリテ毫モ旅費之資タルモノ無之トキハ或ハ足ヲ縛スルヤモ雖モ、右之段御承知被下テ御送

リ有之候へハ小生等乍不肖充分之力ヲ尽シ御訓練可仕候、何卒九州男子ノ剛氣ヲ吹込様仕度候間篤ト御勘考可被成下候、拙校ハ明後日ヨリ試験、十日計休業、来月十日ヨリ始業之積ニ御坐候、確君ヘモ右之段前以テ承知有之様御申聞被下度候、先生ニハ申上度ハ実ニ山海之如シ、今日迄音信ヲ怠リタル理由モ縷々申上度シ、然シ復々御免ヲ蒙リテ何時カ御拝面ニ期シ度候、何卒其段御海恕可被成下候、草々拝復

三月二十五日

539

三月二十七日

金森通倫

①大坂土佐堀

②神戸スワ山和楽園

本間氏(ママ)ニ托ス

④墨

当地之事ハまだ何とも運び付き兼居申候、迎ても小生之手ニテハ廻兼候故永岡氏を招き今朝より数十人之賛成者へ例之趣意書ニ記名之義依頼致候処、過半ハ不承諾ニ有之今之様子ニテハ此事も迎ても好結果あるまじと存候間先つ見合せニ致候、昨日より今日ニかけ兩度久原氏を尋ね相談致候へ共何分冷淡ニて事之運びニ至らず実ニ困却仕候、夫れより菊池氏へ面会致し依頼仕候処、是れハ余程快く承諾致しくれ候間先づ此分なりとも望有之候、何れ同氏が松本、大三輪、兼松、玉手之諸子と相談致すと申され候、小生も社員会が明日午前八時と申来候間五時之汽車ニて帰京致す攪(マ)悟ニ御座候、ツラ／＼考へ候へバ、大坂之事ハ井上伯ニ是非迫りて伯より十分奨励を願ふニ非らされバ或ハ到底十分

之好結果ハ無之事かと存候、何分小生ノ一身にてハ今日ニ至てハ手廻兼ね候間是非誰レか可然き人物を撰んで是れか
為ニ奔走せしめさるべからすと存候、明日之社員会ニ其儀を持出す積リニ心組致居申候、右ハ用要まで、早々頓首

三月廿七日

通倫

襄先生

540

三月二十七日

山中 百

④墨

拝啓、陳者尊翰によれば本間兄香川県より御派出に相成候趣至極好都合ト存し候、同氏と共に小生も出發随行可仕旨
御下命に相成候得共、該地は式名も出張する程の広濶なる都府にも無之と愚考いたし申候につき同氏御名にて充分
と相察し申候、且本日迄は当地出發の準備出来兼候条彼是の事情にて御依頼に應しかたく候間不惡御聞得被成下度
候、今朝来別紙之通高松在留の信者より通信いたし来申候条、本間兄よりも御注意有之候様先生より同氏出發前に御
申聞け置被成置度候、左なくは折角の御足労も無功に帰するの杞憂不少候、先は御返事旁早々不一

三月二十七日

山中 百

新島先生

541

三月二十八日

綱島佳吉

①新潟県新潟御山通り ②神戸諏訪山和楽園 至急用 ④墨 ⑥発信局は福島

拝啓、然者同志社大学義捐金の義は追々都合よく運び相よろこひ居候、或る部分の有志者は之れか為に別ニ集会を開き大に尽力致しくるゝなぞ旁々以て好都合に御坐候、知事は去二月より上京中なりしか今廿九日帰福さるゝ由、不日面会して十分賛助を促す積に御坐候、又小弟は来月十三日より若松に赴き該地の伝道をいさゝか相助け度心組に御坐候、且つ其節該地の有志者に面し同志社の為に助力を促す積なり、此の上に出て出来丈尽力致し度存念に有之候、尚先生より至急別紙七名外に福島新聞社員宛ニ而依頼状御郵送被成下度奉願候、先ハ要用のみ、勿々

三月廿八日

綱島佳吉

新嶋先生

坐下

〔別紙〕

三井銀行 田中 幸七

六十銀行 奥村新一郎

久次米銀行 後藤 忠吉

阿部 正明

小野 守穩

長尾兵次郎

粒来 甚作

外二

福嶋新聞社員

御中

542

三月二十九日

森田武左衛門

④ 墨

謹啓仕候、春寒大ニ凌能相成追々御快氣ト奉存候、此間ハ本間様特ニ御光来被成下実ニ嬉敷奉存候、然ルニ兩三日中ハ御滞留ト存シ、其上充分ニ準備も仕御満足ヲ不与もセめて可なり之事ニ致度心組之處、御着船之即日ノミ之外時日無之相成、実ニ匆卒之事ニ御座候、実地ハ本間様より御聞取可被下候、艸々頓首

三月廿九日

森田武左衛門

新島先生

坐下

〔別紙〕

時將サニ艷陽三月天色長閑ニシテ閑鷗波上ニ睡ラントス良ヒ哉此好天日良ヒ哉此好時節恰モ我ガ親愛ナル本間重慶、山岡邦三郎ノ二氏来ルニ会ス嗚呼諸君ハ悚然トシテ膚ニ粟ヲ生ズル迄寒ノ朝ニモ尚ホ鋤鋤ヲ採リテ社会ノ開拓ニ從事シ潜然トシテ襟ニ汗ヲ滴ラス炎熱ノ夕ニモ尚ホ算盤ヲ採リテ国家ノ休戚ヲ顧慮セリ多々忙々焉ゾ夫レ安閑徒爾花ニ戯レ月ニ酔フノ余裕アラシヤ然リト雖トモ特リ此好天日此好時節ニ際シ偶マ本間山岡二氏ノ来ルアリ一タヲ茶談閑話ニ消シテ以テ聊カ吾人ガ従来積鬱ノ氣ヲ散ジ平素匆忙ノ勞ヲ慰スルト俱ニ本間山岡二氏ガ交友ヲ求メテ遠ク我ガ讃岐ニ来ル厚意ニ酬ユル亦タ可ナラズヤ依テ茲ニ閑室ヲトシ茶話会ヲ開キ懇親閑話以テ一タヲ消セント欲ス希クハ有志ノ諸君来リテ懇親閑話ヲ俱ニセラレン事ヲ

明治二十二年三月二十八日

発

起

鈴木伝五郎
平野種二
牛窪求馬
土屋兼雄
久保財三郎
近藤熊孺
安東貞
森田武左衛門
大饗英九郎
三木始
小川正治

様

人

渡 辺 克 哲
須 古 織 之 助
宮 本 園 丸

一会	場	高松内町旧大神宮跡
一会	日	今 廿 八 日
一時	間	午后第六時ヨリ
一会	費	尅人ニ付金五銭

(西新大島活版印行)

543

三月三十日

金森通倫

①神戸元町 市田宅 ②西京寺町丸太町上ル 至急 ④墨

拝呈仕候、陳者小生儀只今大坂ヨリ参り候処先生ニは已ニ御帰京ニ相成候由大ニ失望仕候、実は今日大坂ニて菊池氏ニ面会致し、先日來依頼シヲキ候例之取纏之事を相尋ね候処、仲々一寸ニは運び兼ねる由、夫故今一応先日児島氏ニ招れたる連中が会主となり一大会を催し府下之重なる者二百名バカリを招待して主食之饗応位ニて今一度奨励致して

は如何との事ニ候、小生は至極之事ならんと答ヘヲキ申候、付ては児島、高島とは一応打合せずては不都合ニ候故菊池氏が一兩日之中ニ両氏ニ面会して其辺之処を相談致す事ニ話合をき申候、右之運ニ相成候時は逆ても五六日之中ニは事マトマリ兼ね候間、今此暇を利用して神戸の方ニ着手せバヤと存じ、今午後三時頃端書を以て其事を御通し申し、八時之汽車ニて下神仕候処早御出立之後ニて遺憾之至ニ候、乍然此上は小生も直ニ内海知事ニ面会致し、出来ル丈手を着け申度候、先生は此後如何ニなされ候ヤ、御滞京之御積りなるや、或は又どこかニ御出力け之御積リニ候ヤ、至急ニ御様子を承り度候、右は御伺ひまで

三月卅日夜十時過

通倫

襄先生

544

三月三十日

三枝光太郎

① 名古屋

② 「尊下」

④ 墨

恭啓、爾来御無音御海容被下度候、其後毎度尊書を賜り候処小生よりハ絶て拝答せず欠恭の至り奉万謝候、扱て当地に於ける同志社資金募集方の義ハ誠に不十分申訳無之候、其委細ハ金森兄より御話し相願ひ置候付贅せず、小生等乍不及及ぶ丈尽力仕候間、尚相応の義ハ絶へず御下誨被下度奉存候、何れにも先生の尊体の御健康ならんこと切に 天

父に奉祈候、御自愛御專一ニ奉存候、扱て荊妻義京阪遊歴の爲め罷出候付御迷惑ニ候へ共、一度拝謁を爲得度何呉となく御垂誨の程奉切望候、当地の事状ハ同人より御聞取被下度奉存候、昨今取紛れ居り乱筆不敬の段平に御高宥被下度候、勿々不備

三月三十日

三枝生

拜

新島先生
侍史

545

三月三十一日

森田武左衛門

②神戸諏訪山和楽園 坐下 ④墨

三月卅一日夜

昨卅日御差出之御書状拝読仕候、陳ハ此間ハ本間様御光来被成下何之愛相も無之失礼奉詫候、高松も先此所迄ハ進み来候得とも、此上取纏メ、則今日迄ヲ花とし此後之実ヲ結ハス事ニ痛苦罷在候、実ハ私非常之繁忙之身ニ在之候、本間様も能ク御承知被為在、先般伊勢様之御光来之時ハ至テ瞭閑之身ニ在之候所、昨年来商社設立後ハ実ニ一身ニも難担様之繁忙ニ在之、此間本間様之御光来被下候時も殆ント夢中ニテ在之有様、同君ニも申上候事も在之松山之長屋氏之如き人高松ニ一人在之ナレハ恐クハ他之地方ニハ決シテ劣ル間敷ニト存候事ニ御座候

先般私及宮本氏之連名ニテ活判ヲ県下一般ニ配賦セシ以來仏教徒大ニ沸騰致し、演舌会數回ヲ開キ中も私之氏名ヲ讒毀スル等実ニ難堪、何分大衆ノ信徒非常ニ奔走実ニ困入候、前刻来只今迄も僧侶數名参り、此摺物ノ通申来是非勸進員ニ可成被申候得とも、漸々ニシテ多忙ノ訳ヲ以断候位ニ御座候、実ニ此上ノ取纏メニ痛苦罷在候、御賢察可被下候、昨年何様御光来之時も大ニ都合能きも弥々取纏メ不出来より不抱ニ属セシ事多ク在之候、只御病中をも無御厭御親書ヲ被下候御厚志ニ了酬度、満腔之熱心も駕ヲ担クニも對手ノ無キニ困入候、今一人合ヒ棒カアレハト此事ノミ痛心仕候

其内参上拜眉御談可申上候、本間様江之御書状ハ山岡様より同君ニ御転送被成候

新島先生

坐下

森田武左衛門

高松古新町 土屋菊雄、高松西通町 平野種二、高松南新町 鈴木伝三郎、高松浜之町堀川 須古織之助、高松西通町王子権現裏 小川正治、高松内町大神宮裏 大饗英九郎、高松裁判所内 近藤熊孺、高松内町 安東貞、高松古新町 渡辺克哲、高松紺屋町 久保財三郎、高松宮脇村 牛窪求馬、高松天神前 松本貫四郎、高松野方木村仁平方 小西甚之助

〔後欠〕

546

三月三十一日

宇野保太郎

①北海道札幌 製麻会社 ②京都寺町丸太町上ル

拝啓、時下春暖之候、倍々御清穆奉恭賀候、爾来は無申訳御疎濶ニ打過キ欠敬之罪御海容被成下度候、陳者先般来大
学校創立ニ付専ラ御配慮之趣ハ予テ承リ居候ニ付、自分相応之義捐モ差出度彼是苦心仕候へ共、当時薄給ノ生活意ノ
如クナル能ハズ実ニ九牛ノ一毛ニモ及ハザル小額ナレトモ金拾円当地北海道毎日新聞社へ過日取次方倚頼仕候間、御
発起ノ美挙ヲ欽慕スルノ微志而已、御採納被成下度候、先は御不音謝罪旁々右申上度候、勿々不具

三月卅一日

宇野保太郎

新島先生

玉机下

547

四月一日

北垣国道

⑤写真

拝啓、一昨日御帰京之处少々御風氣之趣、折角御保養專一祈上候、扱昨日は御令室様早速御来訪被下、海老名君之書

狀御廻しを蒙り御厚情奉万謝候、海老名君書中、其教育法之厳正深切実ニ不堪感佩之至候、如此厳師如此教育深ク熱望致し候小生之精神ニ候間、確ニ於テも如此厳師ヲ得タルは無上之幸福と存し候、然ルニ万一其教育厳正ニ耐へ兼子候場合ニ至リ候得は、モハヤ世ニ無用之動物ト相成リ一生ヲ可終と極込ミ候間、小生カ右等之懸念は海老名師之推想ト能ク符合スル所ニシテ、尚一層渴望之念相増し申候、乍御手数御次手之節、尋常之生徒よりモ尚厳重ナル教育与エラレ候様御申送り被下度此段御依頼申上候、右得貴志度、艸々頓首

四月一日

国道

新島先生

548

四月一日 田尻東一郎

①但馬国養父郡浅倉村 ②京都府寺町通丸太町上ル 御親展 ④墨

御懇書難有頂戴奉拝見候、如命之時下春和相催候処鳳館御揃益御清栄奉恐賀候、然ハ今般ハ広津、松尾両君御出張被下、去ル卅日養父郡八鹿村ニ於テ面会仕候、然ルニ好機ナル哉、弊郡有志者拾七八名会同致居候ニ付、両君ヨリ御社大学設立ノ必要御懇諭ニ相成リ、就テハ弊郡米田喜太夫ナルモノモ郡内募集方ニ尽力致呉候約足も御座候ニ付、金額人名ハ未タ確乎不致候得共、人氣ハ宜敷哉ニ相覚申候、三十一日氣多郡江御同行致森恒江打合候処、幸ひ七八名ノ会

同有之ニ付依頼ニ及置候処、是も先々養父郡同様ニテ満足致候、小生ハ氣多郡江原村ニテ兩君ヘ御暇ヲ乞、兩君ハ出石江御出張ニ相成申候、城崎、豊岡及湯嶋ハ四月二日中ニ相成候得共美含、二方式郡七味等ハ最早道路ノ便を得サルノミカ地方人士ノ最寄惡敷候間、巡回ノ日取りモ定メカタキ事ニ御座候、依テ御帰京ハ予定ヨリ三四日も相延候義と相信申候、朝来、氣多之義ハ不肖小生ニ於テ精々奔走可致候心得ニ御座候、兩君ニ於テも非常御尽力実ニ敬服仕居候、諸事御兩君江打合申置候間、御帰京ノ上ハ不惡御聞取被成下度奉願上候、右ハ御請迄、以愚墨御伺申上候、恐々謹言

四月一日

田尻東一郎

拝

奉新島閣下

549

四月二日

長屋忠明

①松山 ②神戸諏訪山和楽園 ④墨 ⑥封筒裏書「托大野伺吉氏」

打絶誠ニ御不音ヲ極候、而シテ先生ニハ近来御多病ニ被為在目下於神戸御療養之趣、当勢柄別而御困難ニ被感候事と存申候、兼而伝聞セサルニアラサレ共雜漠取紛御不沙汰相成申候、併シ慈愛之上帝ハ常ニ先生ヲ保護シ玉ヒ漸次御快愈ニ被為趣段誠ニ歡喜之至ニ候、扱囊ニは同志社大学校之件ニ付、縷々御懇書被下、且山中兄来松ニ而尽力相成候故

大ニ都合相成候、劣生義は素より乍不及応分之奔走ニ任シ可申候得ニ有之候、然レ共一昨年来伊ヨ尋〔常〕中学校ヲ設立スル事ニ関シ四方八面ニ向ヒ義捐ヲ促シ在、当時より少ク緒ニ就ントスルニ際セシヨリ、又々女学校拡按之計画ニ従事致在、彼是以表面ニ立テ尽力致候事誠ニ不任心ニモノアリ、故ニ頗ル遺憾之思ヒナキ能ハス候、乍左リ世上ノ大勢直接ニ義金ヲ出シ或ハ奔走スルト否トニ拘ラス、美挙ヲ賛成シ該事之成就セン事ヲ希望スルノ情ハ十分ニ相願レ候故、地方相応之好果は必ス相見江可申^{〔カ〕}と信在申候、則チ前々村井知至或ハ二宮ナリシノ出神^{〔カ〕}し尽相托し候県會議員名中印有之候は、何れも多少金或施周之事と取り可申旨返答ヲ得タル分ニ有之候、其他ハ不賛成と云ニハアラサルモ確答無之候分ニ有之候、而シテ近來は田舎も亦政党競争之熱度一層ヲ加エ候より、教育上ノ事ハ平素冷淡ナル上ニ益冷淡ヲ加フルノ傾ナキニアラス、是同志社大学校ノ為、又松山女学校ノ為ニ取りテモ甚タ憂エ悲ム処ニ有之候○兼而御承知有之候大野侗吉ナル者未タ同教ノ信者ト云ニハアラサルモ劣弟平素極テ懇意之人ニ有之候、且前日は大学設立之美挙ヲ感シ金壹百円之寄付を約セシカ、此度は該金ヲ納付旁大学之模様も直接ニ相伺旁出神致候間、御病中如何ニ茂御迷惑とは存候得共、御面話希申度、而シテ劣弟敢テ御面会ヲ希フ^{〔所〕}処以ノモノハ、奮ニ前案ノミニ止ラスシテ此人ヲシテ何卒神ノ存在ヲ知ラシメ、主ノ愛ノ深厚ナル事ヲ知ラシメ、早く同信仰ト感情ヲ以テ真正幸福ヲ保チ申度、何卒一言之御誘導奉希候、又希クハ同人ヲシテ真理ノ存在ヲ知ラシムルハ此度之行ニアルカト奉存候間、京神中之名士ニシテ彼ノ人ニ益スル方江は何卒御紹介被下度候、時下冷暖頗ル不順、御病躰至而御加養有之候様遙ニ処願候、書外地方之近状ハ大野より御聞取被下度、右大略乱雜之段更ニ御有懇相願候、謹言

四月二日

長屋忠明

新島先生
呈机下

拜

劣弟辛ニシテ上帝ノ恵、主之愛ニ浴ス、御休息希候

550

四月三日

川西光三郎

①兵庫永沢町音羽花壇ニ於 中川内 ②京都寺町通丸太町上ル拾参番戸 親
展 ④墨

拜啓、追日春暖之候ニ候処尊台御病体ハ如何被為在候哉、漸次御快方ナラント奉恐察候、却説、御在神中ハ兎角失敬、且御帰途御出立之際神速御見立ニモ可罷出筈之処、同日不図主用多忙ニ取紛居、本意ヲ失シ候段多罪御海涵被下度候、御承知之通中川氏ニモ御蔭ヲ以漸次輕快ニ付、既ニ過日一先帰郷致候処、時候不順之咎ニヤ忽チ病勢再発シ候ニ付又々当地ヘ罷出、目下兵庫音羽花壇ニ於而加養中ニ有之候得共、是又余り著シキ功驗不相覺候ニ付、再応諏訪山ニ登リ今尚同所ニ於而加養致度様被申居候ニ付、曾而御話有之候金森先生ノ姫路表ヘ御出張相願、演舌云々義ニ付兼而国元ヘ申遣目下其準備中ニ有之候処、豈不図昨日当地ニ於而金森先生御出会申、則旅館ヘモ御訪問被下中川氏ニモ大ニ喜悅致候、其節彼之演舌云々ノ御話しモ有之候処、則金森先生曰ク、中川病氣輕快帰姫ノ上同地ニ於而ハ演舌会開ク方至極宜敷様存候ニ付、先其迄ニ計画ヲ遂ケ予而準備致可置様被申候次第モ有之ニ付、今暫シ日ヲ延シ度候間右

様御了知置被下度、右御通知旁御起居相伺迄、早々頓首

廿二年四月三日

兵庫音羽花壇ニ於而 川西光三郎

新島尊台

閣下

551

四月四日

不破唯次郎

①上州前橋神明町三番地

②神戸港諏訪山和楽園

④毛筆（赤インク）

過日来種々小生之困却スル事テ先生御不快之所ニツプヤキ奉恐入候、兼々御報道ニ及置候東京部会ハ本月一日ヨリ前橋ニ於て開キ、彼是相談之末、大宮之伝道ハ部会（伝道会社ニ依頼スル迄）ノ名ヲ以て伝道スル事ニ決シ、部会委員ハ目今ノ所同地へ送ルベキ人物ヲ尽力中ニ御座候、小崎氏も某氏ニ心当アル由、本月十日比ヨリ杉田、河波、茂木兄等が一ト先大宮へ参ラレル事ニ相成り申候、附てハ先生ヨリ同地伝道費トシテ御廻之分ハ小生迄（小生ハ部会委員ニ會計ヲ兼任仕候）御廻被下度偏ニ奉願候、御廻ノ金員又部会有志社中ヨリ寄付金ヲ合セテ四部之分ニ入レ、六部丈ハ（ボルド）ニ相談仕度存候、何レ此事ハゴルドン氏来前迄相談スル事当然ト奉存候、此度ノ部会之正議員十二人、番外八九人ニテ佐野ヨリハ中山氏も参ラレ、新潟ヨリハ（ドリーモス、スコッドル）氏参ラレ、先ツ盛会ニテ御座候、本月二十二日ニハ佐野ニ於テ上毛伝道師会ヲ開ク心組ニ御座候、同地ノ伝道も此度中山氏ノ報告ニヨレバ好都合と存候、本月九日ニハ伊勢

崎ニ於て上毛信徒大会有之、上毛全体ニ関スル事ハ何レモヨキ都合ニ相成べく存候、前橋女学校も此度ハ上毛信徒一同ニ相談シ、上毛人ノ所有物トシテ以後維持仕度目論見ニ御坐候、関東ノ組合教会ハ余リ己立的ニテ何も損害有之ベク候間、相成リべく大運動ヲ共ニ成シ度志願ニ御坐候、聞ク所ニヨレバ此度ノ（コンスチ、ューション）ハ大ニ返選（家選）アルシ由、先生之御意見ハ如何、御尋申たく、高崎ニハ相成べく松尾氏ハ休業後速ニ参ラレル事宜敷奉存候、沼田伝道（Henry S. O'cutt）ハ（オルコラト）来リ仏ノ演説アリ、同人ニ面会セリ、大ヤマシニ御坐候、五月下旬ニハ杉山、杉田両氏ト共長野ヘ参リ伝道初ムル宜敷ケレバ茲伝道仕度奉存候、同地ニハ誰も伝道スル人ナシ、前橋ノ信者一人ヨリ先日來御申越之金員（大宮伝道費）ハ今日迄着セズ、既ニ御廻ニ相成候や御尋申上候、右ハ御尋旁々御報道迄、早々失礼

四月四日

不破唯次郎

新島先生

二白、此程先生之御不快ハ如何御尋申上候、御令室様ヘ宜敷御伝（書）被下度偏ニ奉願候

四月五日

金森通倫

①神戸〔元町〕通り二丁目 市田宅 ②西京寺町通丸太町上ル 親展 ④墨

先日内海氏〔志勝〕ニ面会致し大坂名古屋等之〔景記〕之況景を語り候処、同氏モ今は通るゝ之道なく、然らば当地方ニ於ても着手致さねばならぬとて早速村野氏ニ添書を与へられ候、夫より村野氏ニ面会相談ニ及び候処、同氏は逃げこしにて今は時期がわるひとか何とか申されたるが、何分一応知事ニ面談スべしと之事にて相分れ候、何分ニも同氏之様子覚束なく感じ候故、帰り後早速市田氏〔籍〕ニ語り、同氏が今一度村野氏ニ面会し神戸之事情など申し、時期は到りをる事を述べくるゝ様依頼致し候処、早速承諾して参られ懇々と述べられたる由、村野も市田氏ニ対しては神戸之事情ニ付て彼れ是れ云ふニ至らず、何分知事ニ面会するから其上にて如何様とも可仕と申されたる由、扱て昨日となり小生は約束之通り村野氏ニ面会して知事と之談判之様子を承り候処、小生之懸念ニ違はず頗る冷淡なる話にて、知事と相談之上先づ新島氏之名義にて港内之重なる者六七十名を招き、其席ニ知事も其他之官吏も又村野等も出席して出来るだけ奨励致す様ニ致したりと申され候間、小生は其れでは実ニ困る事あり、実は大坂ニても其様な話ありたれども、新島之名義にて人を招くも到底十分之結果なき事ゆゑ、是非院長中将等ニ依頼して彼等四人之名義にて招く事ニ致シタリ、夫れですら半数位は来らざりしなり、夫れニ此処にて新島之名を以て招く事となりては素より来会する者甚だ僅少ならん、是れはどふか知事之名か若くば貴君等之御名義にて御招き下されたとヒタスラに申し候共、何分ニも自分等は公然名前を出し主唱者ニなりて其事をなす事難し、東京福沢氏よりも既ニ自分等ニ懇々と依頼あれども、是れは全

く謝絶致しラルなり、然し同志社大学は是非関西ニ於て必要と認むるからは是れニは力を尽す積り、然しながら前ニ述べたる如く福沢之手前もあれば公然表向き之主唱者ニなりて尽力する事ハ御断り申度し、出来るだけ間接ニは御力を尽し申さんと、右之次第ニて甚だ冷淡なる世話之仕方故、何ニとか云込み度く思ふて種々試み候エ共、何之効も無之ゆゑ〔補〕「何れ新島ニ其旨を報して又罷出るべしとて」其儘引取り申候、今朝再び知事ニ面会致しどふか知事之名を以て招せ度く思ひ色々話し致候処、是れは先日とは打て変りたる様子、尚一層冷淡なる有様故驚入申候、知事之名を以て招く事は一切断はられ申たり、又村野等数名を招ひて委員を依頼する事も断はられたり、招ぶならば新島之名を以て招ぶべし、をれはどふしても招ぶ事はせぬと申されたり、是れも間接ニは出来るだけ之世話をするけれども公然表向ニは世話せぬと云ふ語氣なりし、其間色々自分直接ニカ、ラぬ理屈を述べられ候、是れニてサスガ之鉄面なる小生も閉口致し、何分新島ニ其由を申し通しテ何とか可仕と申して引取り候、又若し知事之名を以て招く事が出来ねば、港内之重なる人々ニ添書をくれぬかと申せしニ、是れも繁忙だからと云て断はれたり、最早詮方ツキ候故歸りて市田氏ニ其旨を話し候処、同氏も先日村野ニ面会したる節より彼れが頗る冷淡なる事ニ氣付きたるからどふだかと思ふたら果して然りしなり、今村野と知事が左様之都合なり、全体之輿論を動して資産家之賛成を十分ニ得る事難く、されば今暫時時期を待つ之外なきかとも思ふと申されたり、畢竟知事が冷淡ニ成りたるも村野か知事ニ逢ふて冷淡なる話を致したからと存候、最早此上は如何可仕か小生も今計之出る所を存ぜず候、何れ帰宅之上精く申述べ候エ共、只今之状景を預め御通知申上候

今日丹羽阿部村上之諸氏と相談致し、明後日曜日ニは此近辺七教会ニ書状を出して、今度は信者のみニ対して再び大学之為ニ演説致す事ニ相計ラヒヤキ申候、付ては小生之帰宅は来周月曜日ニ延引仕候間左様御承知下され度候、先日

社員会之始末も有之候エバ可成至急御面会仕度候エ共、何分右之都合ニ候故月曜日まで御待ち下され度候、月曜日ニ
は一番汽車ニて帰宅致候間九時過ぎニ御伺ひ可申候

大坂之會議は宮川と相談致し来周水曜日ニ致す事ニ相決申候、先生ニサへ御異存なくば必ず其運びニ可致候、一昨日
児島院長御来神ニ相成り、市田へ御出で小生を尋ねラレ候処、アヤニク不在なりし、是非逢ひ度き事あれば明日（即
昨日）大坂へ来てくれと言伝有之候故、昨日上坂之上同院長ニ面会致シ候処、先日菊池、大三輪之發議なる今一応
大会を催す事は院長も中將も至極御同意ニて、其日取りは来ル廿四五日之頃と相定りし由、又井上伯ガ近日中ニ御帰
坂ニ成る故、其節は自分ガ近県ニラレバワザ／＼帰坂して藤田等ニ今一応奨励致しけれラル、事を申す積り、然し遠
方なれば致方なし然し高島も遠藤も其事を同伯ニ話す積りなれば、此事を先生ニ通じ先生も是非大坂ニ来て同伯ニ面
会あり、今一応御頼みありたき由申し通しくれと話され候、誠ニ毎々カハラヌ院長之熱心ニて申され候、又西村知事
ニは自分ヨリ十分ニ話シヲキたから、小生ニは早く北垣知事之添書を以て面会致し懇々依頼しをくべしと申され
り、是等之事を出立前ニ話をきたかつたから、ワザ／＼ヨビタルなりと申され候
右は近日運動之景況ニ候間、一寸御通知申上をき候

四月五日

通倫

喪先生

承り候へば御氣分不宜と誠ニ心配仕候、何卒御用心之程偏ニ奉願^{〔カ〕}上候

四月六日


花畠健起

①同志社学院 ②松蔭町 御親展 ④墨

乍憚乱筆御高免可被下候

一書啓上仕候、陳者一昨々日參堂之節ハ御面晤を得て面目ニ存候、未だ御病氣之御様子も十分御心宜敷様見受兼候得は是上御保養御專要ニ被成下度奉希、小生も御承知通之薄信ニハ候得共御全癒のため並ニ大学設立のためにハ日夜皇天上帝ニ祈禱仕居候間、皇天必ず小生之微衷を嘉納したまはんことを確信致候

扱先日拜眉の節、小生卒業後之方向御尋被下候得共、御病態の妨けと成す事を恐れ陳述不仕候、しかし御帰京を幸ひ、学校も休暇ニ候得は小生之決心丈書翰ニ認め陳述可仕候間、御一読可被下奉希候、小生も卒業後は直ニ万里の煙波を凌ぎ、米邦ニ趣き尚勉強もし又風土習俗文化等觀察仕度候得共、其の資金（朱点・以下同）なく且つ一家ニ大關係を有する身に御坐候は、今日ハ中々志を遂るの途も無之、只徐ろに之を果すの機会を此より作為可仕候様覺悟仕候、且又方今我国人の基督教ニ對する情を察するに、各地方ニ於て識見家人物など呼はるゝものさへ基督教の真相（曉）意を知るなく、況んや普通の人々ニ於てハ之を知らざるも無理ならぬ次第ニ存候、斯く一方ニ於てハクリシチャン、アリヤ、の乏しき時に際し、他方ニ於てハ国粹保養（存）とか大同団とか沸起し無神論、破懷主義其の根本を得んとするに際し、基督教の真相（曉）勢を明にせずんばクリシチャン、アリヤ、を流布せずんば、人民の思想中ニ上帝を信するの念を興さずんば、真正ニ我国を救ひ我国民の心神を養ひ独立自治の人民を作為するハ決して望む可らざる事ニ御座候、小生ハ文筆をとり

て基督教の眞想実意を拡張可仕決志致候、されとライフ、ウォルク、ハ生涯の事業として立つ処ハ日本三府をのぞき
他、の、尤、も、要、所、尤、も、好、地、位、ニ、学、校、を、設、立、し、此、に、て、基、督、教、主、義、の、生、徒、を、養、成、し、聊、か、国、家、及、び、先、生、之、御、鴻、恩、ニ、報、じ、主、キ
リス、ト、の、御、栄、光、を、彰、度、熱、望、仕、候、今、日、我、国、ニ、同、志、社、の、必、要、な、る、こ、と、ハ、申、迄、も、な、く、他、日、必、ず、先、生、の、名、に、よ、り、北、海、道、よ、り
九、州、ニ、至、る、間、ニ、数、十、の、同、志、社、を、設、立、す、る、を、要、す、る、の、時、勢、到、来、可、致、候、小、生、ハ、斯、る、時、節、の、至、る、を、信、候、又、自、ら、作、為、致
し、度、存、候、得、は、卒、業、後、直、ニ、伝、道、す、る、よ、り、も、^{〔括弧朱〕}「寧、ろ、一、学、校、の、事、務、に、も、少、少、関、係、し、又、教、授、も、な、し、自、ら、任、し、て、事、ニ、当、る、如、き
地、位、に、立、度、望、居、候、」、^{〔括弧朱〕}「其、の、都、合、も、無、く、バ、先、づ、学、校、ニ、教、へ、て、自、ら、勉、強、し、文、筆、を、研、磨、致、度、」、^{〔括弧朱〕}後、の、方、小、生、後、日、の、為、ニ、可
な、ル、と、考、候、し、か、し、徹、頭、徹、尾、基、督、教、社、会、を、離、レ、て、官、海、な、ど、に、官、立、学、校、な、ど、に、趣、く、氣、ハ、無、之、基、督、教、の、た、め、に、苦、む、ハ
小、生、ニ、於、て、埃、及、之、宝、よ、り、も、貴、く、御、坐、候、兎、に、も、角、に、も、神、よ、り、賜、ハ、リ、し、職、分、ハ、学、校、と、著、作、ニ、在、り、て、適、任、も、此、ニ、在、り、と、存
候、斯、く、決、志、致、候、も、の、小、生、の、生、涯、ハ、失、敗、か、又、成、功、か、不、存、只、其、の、運、命、を、神、に、托、し、全、副、^{〔幅〕}の、精、神、氣、力、を、以、て、小、生、之、責、任、
を、尽、し、可、申、成、功、と、失、敗、と、ハ、小、生、之、知、る、処、に、非、ず、唯、々、責、任、を、尽、し、て、神、の、与、へ、玉、ふ、盃、を、受、く、べ、き、の、み、要、す、る、に、小、生
ニ、と、り、て、伝、道、よ、り、も、寧、ろ、学、校、と、著、作、の、方、基、督、教、を、クリ、シ、ン、チ、ヤ、ン、アイ、リ、ヤ、を、我、国、民、ニ、吹、込、む、の、好、方、と、存、候、嗚、呼、何
日、か、我、国、を、し、て、基、督、教、の、開、化、燦、爛、た、る、の、好、ス、プリ、ン、グ、た、た、し、む、べ、き、乎、全、く、羸、馬、遠、路、の、感、な、き、に、し、も、非、ず、し、か、し、先
生、あ、り、小、生、又、望、を、得、た、り、キ、リス、ト、あ、り、小、生、又、力、を、得、た、り、今、後、キ、リス、ト、の、御、恩、惠、愈、我、国、民、ニ、加、り、先、生、の、御、病
氣、も、速、か、に、全、癒、し、益、す、健、全、な、る、御、身、体、ニ、復、し、玉、ハ、ん、こ、と、を、祈、居、候、聴、く、昔、し、^{〔ラ、ト、ン〕}ブレ、ト、ー、ハ、ソ、ク、レ、テ、ズ、ハ、日、を、同、し、て
生、れ、た、る、を、上、帝、に、感、謝、せ、り、と、小、生、ハ、今、日、の、時、勢、ニ、同、志、社、ニ、入、り、先、生、の、御、薰、陶、を、受、け、し、こ、と、を、基、督、教、を、信、奉、せ、し、こ
と、を、自、己、の、運、命、ハ、自、己、に、て、作、出、す、べ、き、こ、と、習、ひ、し、こ、と、を、上、帝、ニ、感、謝、致、居、候、書、ハ、意、を、悉、す、能、ハ、ず、孰、れ、又、御、快、氣、之
節、相、窺、万、陳、可、仕、候、右、迄、草、々、不、宜、

四月六日認

新島校長殿下

花島〔健起〕

再拝

554

四月六日 石黒 務

①江島珍根二番町 ②京都寺町通丸太町 拝答親展 ④墨

芳束謹誦仕候、先日は神戸ニテ一寸拝謁仕候処、勿卒中欠敬仕候、其後御不快如何被為在候哉、追々好時氣ニ向候ニ付而御順快トは拝察仕候得とも、猶御加養奉專祈候、又手^{〔坂〕}大学御設立之義ニ付、西村捨三へ御面談可被為在事有之候付、先方へ可申入候様何より以テ容易之義ニテ、即チ本日同人へ手紙差出置候間御都合之節御面談被為在度奉存候、二小生起居御懇問難有近年^{〔レウマチス〕}痠麻質斯ニテ時々相悩候ニ付、更ニ骸骨ヲ乞ハン^{〔ト〕}セシ際、天恩之優渥閑散之地ヲ賜へ難有事ニ奉存候、不日京阪以西之旅行仕度含ニ御坐候、自然御地へ参候て必ス参館拝謁、万縷御教示ヲ可奉蒙ト奉存候、右拝酬ノミ、吳々御加護為公私奉專祈候、勿々頓首

四月六日

石黒 務

新嶋先生

虎皮下

尊墨拝誦仕候、御病中にも不被為係御懇切至極なる御教指を辱し千万難有奉存候、貴命にも御坐候通り、北越学館之義に付ては如何にも残念に存候事共一にして足り不申候、殊に其好ましからざる勢力を当地長岡学校にまで波及致され候により、其内に働き居候ニユーエル氏の為め甚氣の毒に存候事も少からざる次第に御坐候、先頃は同学校にて千

(Horatio B. Newell)

数百円の財を費し、同教師の為め新館を築き申候位に候得は、同教師の受は随分宜敷事に候得共、元来同教師と学校との約束甚手輕に候ひし故、学校も生徒も只同教師の親切なる事を卑き考を以て喜居候のミの事にて、同教師の精神を充分に吹こみ申候事等ハ先つ今日の処にては万六ヶ敷有様に有之候、もと同教師との約束と申すは、只々無給にて働く故毎朝の講話を為して基督教の道德を教ゆる事を許すと申位のものに御坐候間、到底学校の内に立入りて之を改良整頓する様なる権利は一切持居り不申候、且此頃の様子を考ふるに、講話へも出てざる生徒半数にも居り候と見受候に、学校よりハ何等の所置も致し不申候、私とても其通りにて只同教師の講話を通訳仕のみに候得は、勿論表向学校の中に勢力を有する事六ヶ敷候間、日夜影にて懸念罷在候、右学校の事に付私共唯今考案中ニ御坐候間、御閑暇の砌御高見御投与被下度奉願候、扱又県下伝道策ニ付、長岡の事ニ付、又私一身の事ニ付、懇々之御教諭被成下深く骨に銘し永く忘却仕間敷候、加之先生之此地方を顧み給ふ御精神紙面に溢れ居り実に恐入申候、是私共の為には千百の加勢に優り申候事と存難有存候、而シテ讀て「近年に至りては只生命の維持云々」の御命ニ至り申候時は、実に何と

(講話)

申不能悲哀の情に乱され、其後を誦下する氣力を奪ひ去られし如く感し申候、然し私共ハ主は先生に猶十分の時を
 与へ給ふて、國家百年の大計を成就するの榮を与へ給ふを確信罷在候、御下間に候坂田氏は五泉を去り候てハ無之、
 五泉の信者が同氏を去らしめたる様に承り申候、同地の将来と同地の信者の為め甚氣の毒の次第と痛嘆罷在候、元来
 同地は永き間野放しにせし羊群に御坐候故、中々六ヶ敷氣儘なる信者沢山有之候、今同氏ハ新潟教会にて働き居候
 由、此頃新潟にての出来事は北越学館にて、新教頭森本介石氏を得候事と永く多人の心をいたため居申候両教会の一致
 結合せしとの二事ニ御坐候、就中両会の旧に復せしは喜ハしき極みに御坐候得共、可惜猶病根依然として其中に滞り
 居候間、愚案を以てせは実ニ同教会は到底一改革を要し申候有様に可相成と存せられ候

于次当長岡もさしたる事ハ御坐なく候得共、先つ進歩の有様に有之候、昨年冬当裁判所上席判檢事新に道に志し遂に
 受洗仕候、以来よく同所内に働かれ候故中には道を求むるものも有之候、且此程は当地県立農学校の教師中道を求む
 るもの有之、従て生徒中にも会堂に出るもの多く有之申候、其他にハ病院長、裁判所長、警察署長、農学校長、監獄
 署長等も皆知己に相成居申次第ニ付、以前よりは門戸も広く相成居候間、大に望ミは有之候、市中もはかく數ハ無
 之候得共尽力罷在候、加之に小千谷、三条、榎尾、与板、柏崎等にも時^(ニ)出張仕候、孰れも先づ好都合に候、先生
 願くは御祈の内に此地を御覚え被下度候

尚々書物の事に迄御注意被成下候御愛惠の段千万難有奉存恐縮罷在候、実に赤面の至りニハ候得共私事当時猶甚貧乏
 に御坐候て書物等を求め候事ハ一切叶不申、実に不自由困難仕居候、唯今私の書棚には借本に非れば小冊子の類にて
 御坐候得は、最大切なる註解等ハ一も所持不仕候、当時間ニ合せの爲め西洋人より借受用ひ居申候、右は甚不慮千
 万にも御親切なる先生之御言葉に甘へ御答申上候次第に御坐候間平に御海容被成下度奉存候、草々拝復

四月六日

二白、御恵投被成下候、下伝道策は他の諸兄にも必ず示し可申候節、猶重て御高見伺上候事に相成候事も可有之候と存候間、猶此上なから御教諭願上申候、又先生の御周旋を煩し、是非とも此度の卒業生を一人此地方へ御遣し被下候様奉願上申候

白石村治

新嶋襄先生

556

四月七日

吉田清太郎

①京都寺町通松蔭町

④墨

拝呈

御病氣中なれハ御面謁を憚かり寸紙を呈して一言御依頼ニ及候

偕て今度出京仕候大野伺吉氏ハ正直なる人ニ有之候ヘハ基督教の真理も容易ニ発明致すヘク、又発明致し候節ハ喜んで真理ニ従ひ申ヘク候と愚考仕候、依て一言半句なりとも先生の真理を御見認相成候点を氏に御伝ヘ被下度、然らハ非常之幸と被存候、長屋忠明氏も此義ニ付て種々書送り候中

此度之出神京は誠ニ神之御導キカと存候、此義人ヲシテ神の祝福ヲ蒙ムリシメハ誠地方之幸ニシテ、又此人之至幸ナラント信申候云々

ト書添へ申候、猶委細之談ニ付てハ他ニ適當の人物^御示し被下、且其人物へ此伺吉氏を御紹介被下候へハ大慶至極ニ奉存候、氏ハ生ニ伺ひ答へ候中ニ

此度ハ何度義も有之候へハ先十日計滞在致積ニ有之候

と申候へハ、先生より基督教の真理を開く心組ニ有之候様被察候、從て先生の神戸行之付てハ少々遺憾^憾ニ感居候^かやとの様被存候へハ、御出発前万一可得ハモ一^行回御御対面被下候上、神戸へ御誘導被下候か、或ハ適當の人を御示被下度ふ、何れにしろ此人か神の救を受ける様御取計被下候へハ至幸と被存候、勿々頓首、再拝

四月七日夜認

吉田清太郎

新寫先生

今や日本帝国の基礎たる大学教育を任ねられ、一刻の余裕なき際、敢て斯御手数を供へんとするものハ只一人の魂を重んずる余情の溢れたる耳

四月八日

綱嶋佳吉

④墨

華書拝誦仕候、四五日前山田知事〔信道・福島県〕に面会して、先生の御面書を呈し、且ツ色々談話し同志社の為に充分尽力せられん事を願ひし処、存外都合よく書記官とも謀り可出来丈尽力すと云われたりき、小弟目下日曜日毎に朝夕二回の説教を為し、一週中金土両曜日を除くの外毎夜の集会あり、其の上パストラル、ビジットもあり、時々筆をとる事もありて非常にいそがしく、寸隙もなき程に御坐候、我同志社の為には可出来丈尽力致す積に御坐候、都合によれば仙台より市原兄を招き演説会を相開き度心組なり

扨て今日落掌仕候御書面を一読仕候処、其筆力と云ひ文字と云ひ先日落手仕候ものとは大にちがひ、且ツ御書面中に「小弟より特に一書を呈し貴下迄御依頼可申旨申来候ニ付」云々の語を見て何にか小弟当地にありて頻に同志社の為に奔走し、更に先生に乞ふて依頼状を促したる様に思はれて、如何にも不穩当の様に見られ、之れでは有志者の精神をひき起すに於て大に力を失は〔失〕はざるやを恐れ申候、固より小弟は大学設立主意書を携へて懇々相説き相すゝめ申候得共、先生よりの御書面殊に数十年來の御精神を吐露せる御面書〔書〕を以て人々を促す時は非常なる力なるを覺へ申候、且ツ之を受くる者に於ては可出来丈丁寧に長くきれひに感楮を惹起する様に語りたる書面に接する時は、大に其心情を真にし、遂に憤懣心〔発〕をおこすに至るべし、斯く云へは何にかポリシーの様に聞こゆれとも之れ決してポリシーにあらず、故に小弟茲に失礼をかへり見ず重て御依頼申上候、御書面の初に〔弊〕に敝社之計画云々特に一書を呈し云々等の

語を委^{〔委〕}皆とりのぞき被下候て可成丈御書面の筆者に御依頼被下度、且ッ可出来丈先生の御精神を書中に御あらハし被下度、斯かる事を申上候は恐縮の^{〔至〕}到なれとも同志社を思ふて聊カ之れか為に尽力する小弟の老婆心御免し被下度奉願候

四月八日

綱嶋佳吉

新嶋先生
坐下

二伸、可相成丈エンベロープに御注意被下度奉願候

558

四月九日

金森通倫

②「湯浅兄ニ托ス」

④毛筆（赤インク）

国民^{〔之〕}の友へ（<sup>〔但シ附録
の爲ナリ〕</sup>）御送金の内ヲ、二拾円湯浅一郎氏へ御渡シ下サル様^{次郎}同氏兄ヨリ小生マデ依頼有之候ヲ今日マデト

ント失念致居リ候、何卒一郎兄へ右金額御渡シ下サレ度願上候

今日ノ教員会ハ今夕七時ヨリラーネツド氏ノ宅ニテ有之候間、小生ヨリ御通知申上候

河波氏ヨリの手紙モ今日マデサツパリ失念致^{〔カ〕}シ、只今御渡シ申上候間、怠慢の罪御海容下サレ度願上候

四月九日

559

四月十日

金森通倫

①大坂 ②神戸下山手通六丁目 ダツレー氏宅 ④墨 ⑥封筒裏書、異筆墨

「※要件」

今朝西村知事ニ面会致し候処、同氏は建野氏とは大相違、必ず吾党之為ニ頼母敷き人物と存候、又菊池氏ニも面会致候処、大坂之会議も井上伯之来坂を得て弥其運びニ着手致すと申され候、高島氏へは同氏も面会致て井上伯ニ依頼すべき事などくと打合せをくと之事ニ候、同氏之云へるゝニ弥金額を確定するニ至らば必ず^(失)必望する事あらんと小生も其点は甚だ心配仕り候、コ、ガ井上伯之井上伯^(マ)之助力を最も要する点ニ候、素より同伯は多忙なればコマカ之事は依頼すべからず、然し此一事は是非伯之力を借り度候間、何卒先生ニは同伯之来神までは可成御保養被遊而其節十分伯ニ打ツカリ、是非大坂之事をマトメクル、様御依頼願上候、最早同伯之力を借るニ非れば大坂之ソクセス覚束なく候、切角之勞も其効甚だ鮮からん、伯之助力を仰くは別之点ニあらず、左之人々之金額を伯之尽力にて定めてモロウ事なり

三千元

藤田伝三郎

6,000
8,000
3,000
17,000

三千円 鴻池善左門〔舊説カ〕

千円 久原庄三郎

千円 藤田鹿太郎

千円 松本重太郎

○千円 阿部彦太郎

○千円 広岡久右門〔舊説カ〕


○千円 芝川又工門

○千円 殿村 エツ

千円 田中市兵衛

○印は、伯は御懇意ニナイカモ知レヌ

其他伯之御見込ニテ千円連中あらば其者共を是非奮潑致シクル、様御願イクダサレ、右等之人物はガ思ひ通り出金致シクレ候ハ、其余ハ必ず応ずべしと被存候、然る時は大坂モ意外之収入ある事と存候、其上は小生モ東奔西走シテ十分尽す積リニ候、右等之人々〔久原、松本、藤田、田中〕は或は説を設けて自分等ガ率先すれば反対党ガ反動するとか、或は自分等ガ多額を出せば他之者ガ引込むとか、何ニとカとカ伯ニ向ひて申すかも知れぬカラ、其処は小生ガ此一月一月以来大坂ニ滞在してソウ方之間ニ往来して十分ニヨリ情実を探リヲキ候、決して左様な訳ニ非ず、誰れモカレモカ、ル時ニハ同激遊会之連中ガ率先すべきなりと云て皆望を彼等ニゾクスル位ニ候、故ニ此時彼等ガ率先するは彼等〔吾〕之為のみならず、又彼等之為ニモ得策なる事と存候、其辺之処をヨク伯ニ申込みヲキ下サレ度候、又伯之心得とも相成べく候

間、児島、高島之両氏も此事ニは非常ニ尽力致シクレラレ右之事を是非伯ニタノメ、又自分等も伯ニ直ちニ頼むからと有之候事を御話下サレ度候段、児島院長之如きは滋賀県内^ニナルナラ、ワザノ引返して伯ニ其事を頼むと申され候をも御話ヲキ下サレ度候、何分ニも今は伯之力を最も要する時なれば、是非助力を御願ひ下され、然し其時ニナリテ先生が御病氣ではコマルカラ是非先生ニは伯之来ラル、迄ハトドコニモ出ず、身体御保養之程願ひ候、右急早之際甚乱筆御海容願上候

四月十日

通倫

裏先生

560

四月十日

斎藤知行

①東京芝区田町五丁目十六番地 斎藤方 ②神戸諏訪山和楽園

拜啓、以来御容体如何ニ被為在候や、日増御健全之儀と奉遙賀候、却説、生儀東花学校ニて諸氏之愛助を以て勉強罷在候処、勉強上之都合より該校を辞職仕上京、両三年当地ニ於て勉強^(致、以下同)至度心底ニ御座候、さてその勉強仕候ハ一之学校ニ入りてニハ無之、糊口之道を造りつゝの勉強ニ候、唯仙台ニ於ての境遇と異なり候点ハ自修時間を多く、他ニ教ゆる時間を僅少ニ仕り丈之差ニ候、而して勿論仙台之方ハ生儀辞職至候ても該校之授業上ニ毫も障礙無之都合ニ至お

き、今后一勉強仕、数年之后奥羽之為めニ身命を、心力を尽し度存慮ニ御座候間、不惡御承引奉願候、実ハ右之考を
余程以前ニ実行至度目論見居候へ^共、米国ニ出張を命せられ居りし從兄之帰朝セさるか為め、只今マテ猶予仕候処、
今年倅ニ帰朝至呉れ候故從兄と同居勉強之考ニ候、乍筆末奥様ニよろしく御伝言被成下度奉願上候、右御報知まで、
草々不備

四月十日

斎藤知行

新島先生
机下

561

四月十一日

不破唯次郎

④毛筆(赤インク)

本月四日御認メ之御書状正ニ相達シ奉万謝候、伝道費トシテ御廻之金員も落手仕候間、御安心被下度偏ニ奉願候、承
候ハハ先生ニハ此程少々御不快、御外出も出来兼候由、御氣之毒ニ奉存候、折角御保養之程奉祈候、上州信徒ノ大会
本月九日ニ於テ伊勢崎ニ開キ、別ニ議スベキ所も無之候故、前橋女学校ヲ上毛信徒之事業トナシ、大ニ広張仕度事、
杉山、杉田両氏之發議ニテ種々討論之末議案之通ニ決シ、各地教会有志者ヲ集メ大ニ尽力スル事ニ相成り、本年八月
比マオーント、ホリヨーク女学校ニ於テ業ヲ終ル一人ノ女教師ヲ送ル事、デホレスト氏も出席シテ約サレ大ニ好都合

ニ御坐候、付てハ此度ヨリ女学校之盛大ヲ祈ル為發起者ヲ集メル事ニ相成リ、先生ニも是非上毛ノ為、且日本ノ為ナル故、發起者タル事ヲ御承諾被下度奉願候、何レ新組織出来次第御廻し申スベク候、此度ゴルドン氏ニ謀リボールドノ寄付金ヲ願ヒ、地所ヲ求メ度キ心組ニテ、杉山、杉田両氏ハ小生ニ目今ノ所委員ニ托ラレ、速ニ運ヒ度存候、上毛之地ニ是非トも人物ナル宣教師ヲ置タキ故、ボールド宣教師ノ一二人ニ相談仕候、目今人ハナキ由ニテ、上毛各教会且各講義所ハ一ヶ所ヨリ一二人ノ委員ヲ撰ビ、近々米國一己教会ニ書状ヲ廻度キ心組ニ御坐候、是レニハ先生も御不同意ハ無之奉存候、^{〔と脱カ〕}デホレスト氏ノ話ニ、一致ノ宣教師ヲ招キテハ如何ト申サレ候得共、進歩的ノ人デナクテハ不都合故、米國ノ教会ニ此事ヲ申廻ス事ニ仕度奉存候、大宮ニハ杉田、^{〔彼カ〕}河田両氏ガ昨日ヨリ出張ノ筈之所、同地ヨリ差支ノ儀申来リ、何レ不日両氏ハ参ラルベシ、本月二十二日ニハ佐野ニ於テ両毛伝道師会ヲ開ク心組ニ御坐候、^{〔藤〕}篠岡ト原町ハ近々伝道教会ニ相成ベシ、先日ハスカツダー氏ト共ニ松本勘十郎氏方ニ参リ、一場之演説ヲナセリ、松本氏ハ不快中ナリ、上毛政社も面白カラズ、^{〔次郎〕}宮口氏ハ御地ニアリ何レも御面会申候事と存候、此度ノコンスチチューションハ少々ヨキ方ニ御坐候得共、此ノ儘ニテハ一致ハ六ヶ敷、小生之見込ニ御坐候、五月之会ヲ待申候、右ハ御返事方々御尋迄、早々失礼、再拝

四月十一日夜認

不破唯次郎

新島先生

二白、御令室様ヘヨロシク

562

四月十一日

金森通倫

①大坂土佐堀二丁目 国本方 ②神戸下山手通六丁目 米国女教師ダツレ
殿宅 親展 ④墨

昨夜来会者は信者中にて招待書を出したる者凡そ四五百名も有之候が、中ニも資産ある者は至而少く、其上即答之出来ざる人々も多くして結果^(果)甚だ不満足ニ御座候、漸く百五六拾円許り之申込位にて、迎ても此儘にては思はしく運び不申と存じ、明午後当宿にて同志社出身之人物拾数名と協議致し、当地将来之運動を相計る事ニ運び置き申候、我党之者と認めたる基督信徒諸子ニして、其冷淡なる事如此し、不信者連中が冷淡なる事は当然之次第と存候、乍併明日之会議ニ於て何ニとか工夫致し、大坂諸子より三千円位は出金有之様致度者と存じ居申候、今度之事業は兼而より困難なりとは推察致し居候得共、實際ニ当り歩を進むる毎ニ益其難事なるを相覚へ申候、然し既ニ乗り出したる船なれば、如何なる暴風怒濤をも乗り切りて目ざす港ニ達すべき者ならんと存居申候、今朝朝日新聞社之織田氏^(純一郎)ニ面会致し、是迄之成行きより前途之方法等を相計り候処、今度大会を催したなら、尚一層推出して各倶楽部各会ニも入込み、其賛助を仰ぐ方至極ならんと之事にて、彼之大意を二千部程同君之手より各倶楽部、各会之会員ニ配付する事ニ致し置き候、当地之状況如此くニ候へば、小生も弥暫時当地ニ転居し、全力を此市中ニ尽し其成敗を試むる事ニ相決申候、昨夜御願申上置き候井上伯之方は是非とも運ぶ様ニ御工夫下され度願上候、恐らく是れで当地之成否を決するニ至るならんと存居申候、只小生之心配仕る処は、此氣候不順之時なれば、先生之御身体如何、其時ニ至りて伯ニ

御面会之出来ざる事などありては大変だと存じ、其れのみ案じ居申候間、何卒御身御大切ニ願上候、大事之前の小事なれば可成之御保養願上候、右之次第なる故、小生之名古屋へ出張は明後土曜日ニ相延申候、迎も名古屋行前ニは御面会六ヶ數からんと存候間、御地之事は何分とも宜く奉願候、先日徳富氏之御話ニ、東京ニても尚続々寄付之申込有之候故、国民の友、毎日新聞などは寄付金募集取扱之期限を延ばしては如何と有之候ガ、小生は至極之事と申して、今朝織田氏ニも其事を断判致し候処、朝日新聞ニ於ては少しも差支有るまじと之事故、御地之又新日報も延ばしては如何と存候、其期限等は追て御相談可仕候へ共、先御参考之為まで申上置候、右は要用のみ、早々頓首

四月十一日

通倫

襄先生

563

四月十一日

金森通倫

①大坂土佐堀二丁目 国本方 ②神戸下山手通六丁目 米国女教師ダツレ

殿宅 ④墨 ⑥封筒裏書「十一日午后四月」

井上伯御来之節、先生より高島中将ニアテ同君よりも伯ニ迫て是非此度は藤田連中之三千円千円株之寄付者を奨励して金額を定めさせくるゝ様申込之儀を御依頼ありては如何、高島之言は井上伯ニ取ても随分重きを加ふる事と存候、

大坂之事ニ付き、高嶺之意見は同伯等之最も注意せらるゝ所なれば、或は好者合ならんかと存候、実は菊池氏よりも同中将ニ其事を話しをきくれと申したれば、同氏は今之場合ニ於て中将ニ余リ面接する事を好ぬ様ニ見受けられ候間、推しては頼み不申置〔筋力〕き候、又若し御書面御差出ニ相成候ハゞ、丁度伯来坂さるゝを見定て御出し下されたし、中将は仲々物事を亡れ易きなりと児島院長も申され候間、同君が亡れぬ様之頃ニ御出し下され候ハゞ至極と存候、右は色々苦慮仕り候余り、一寸御参考まで申上候

四月十一日

通倫

襄先生

二仲、過て御名前之下を切り破り候間、御免下され度願上候

564

四月十二日

川崎正蔵

①布引 ②神戸中山手通 ダツレー氏方 貴答 ④墨

御花墨拝承、陳者井上伯近々御帰港之御噂は承り居候得共、未当方へも何之御沙汰も無之、左様御承知被下度候、若其内相分り候ハ、直ニ御通知可仕候、右御請迄、勿々謹言

四月十二日

新島襄様

尊下

正蔵

拝

565

四月十二日

永岡喜八

①京都寺町通丸太町上ル

②神戸中山手通

ダツレー様

④墨

拝呈、陳者一兩日来殊之外和氣相催候處、御容体如何被為入候哉伺上候、扱先日綱島氏へ差上候書状之事ニ付、別紙之通被申越候間、何卒御下書被下度、左候得は早速相認メ綱島氏へ差送可申候、艸々頓首

四月十二日

永岡喜八

新島先生

566

四月十二日

大塚 磨

①大阪北浜四丁目浜通五拾二番地

②神戸中山手通

ダツレー氏方

貴翰奉拝見候、尚又為御治療神戸江被成御越候段拝承仕候、乍此上御保養御專一ニ奉祈候、先日ハ久々振り得拝顔、御深情之御高話拝聞仕難有奉存候、御依頼之件ハ私丈ケ之働仕見可申と奉存候、昨日奥様御出被下候ニ付、公債証書受取売払申候ニ付預り証は奥様之方ニ差送り置候、右尊答まで、如此御座候也

四月十二日

大塚 磨

新島襄様

567

四月十三日

伊勢時雄

②Waraku Yen, Suwayam[a], Kobe, Japan, (神戸^[諏訪]諏防山和楽園)

④イ

ンク

(Auburndale)
オーボルンデールより一書拝呈仕候、御地ハ定メテ春暖桜花ナド咲チギリ可申思ヒヤリ申候、氣候のvariety際ニハ病ナ

ドも発シ易く、別して御玉躰御大切ニ被遊候様それのみ祈申上候、当地ハ未タ春日とハ難申、漸くソココ、ニ少々ツ、青草を見候位にて、花園ノ花トテハ偶々見れハめづら敷位ニ御座候、天然の風光迄何となく異ニ有之、凡てなつか敷ものハ故山の風月ニ有之申候、当地到着ハ十一日の事にて、それ迄ハサンフランシスコ、シゴゴ、アーンアーボなどニ到在仕、ナ「イ」ヤガラを一見仕候、昨日ボストンニ参リハーデ氏母子ニ面会仕候、頗る親切ノ事ニ忝存申候、必竟先生よりの御厚情ニよる事と深く奉感謝候、ハーデ氏ハ集金の請取方承知致サレ申候、乍然ボールドニテオーデ(E. K. Alden)ン氏ハ十分ニ反对スルノ心得カト被思申候、クラーク氏ハ大ニ賛成ナレトモ、オーテンニ押ヘラレテ、公ニ賛成スル事不能との事聞及申候、ゴードン氏、メリマン氏、グリヒス氏ニ面会仕候、来週火曜日ニプルデンシャル委員会ある由にて、参会して今回ノ目的ノ事ヲ演申候筈ニ御座候、とても公ケニ許可ヲ得ルハ六ヶ敷カラント信申候、本日よりアンドワニ参り、来週木曜ニユールニ参り、其より一先ニニューヨークの方ヲ巡回仕候筈ニ御座候、メリマン氏の説ニヨレハ、金ヲ得ル事ハ必ス出来可申ナレトモ、千ド「ル」ハ困難ナラント被申候、又オールドサウスの人々ニテ当年ボールドニ出金せざりし分ハ、すでに諸方ニ送りし由（先生ノ御手元ニも大分送りしト聞キ申候）ニテ、来一月ニならでハ出金ハ六ヶ敷ナルベシ、然し若し之ヲ得バ、オールドサウス丈ニテ三千ドル位ハ出来ベシトゴードン氏ハ云ハレ申候、素より未タ約束ナドも出来不申候、只日本ヲ救はんとするの神の御大恩をのみ信シ且祈り候事ニ御座候
本日承り候へは、合併ノ事ニ付委員会相終り、一致ノ方ニても承諾仕候由にて大慶ニ存申候、何とぞ 先生ニも御満足相成候様ニ改正ノ相談行届候事ヲ望み申候、私事目下グリーン氏寓居ニ世話ニ相成申候、思ヒノ外諸方にて親切にて大ニ旅情を慰メ申候

カ子チコット州(Ct. Harris)ニテハリスと申ス人今度同志社ノ為メ五万ドルその他都合セテ七八万ドル寄付せし由にて、先生ニ

も照々御満足可被成奉存候、何トカ日本ニテノ寄付も上都合ニ相運ヒ、御宿志ノ程速ニ成就仕候様祈申候
奥様御壮健可被遊奉存候、京都ニテ北堂定メテ御老健可被遊、又河原町山本ニも同様ノ御事ト奉存候、御序も御座候
ハ、私事無事ニ罷在候段一寸御知セ被下候様奉願候、又神戸ニテアツキソン、ダツレ、ハロス、ハウ、サ一
〔Emily M. Brown〕
ブラオンその他知己之諸氏ニ宜敷奉願候、時々私運動ノ趣ハ御通信可申上候、乍然御返事ノ処ハ御心配ニ及不申
候、当秋帰朝ノ節神戸ニて一時ニ御返事承り度奉存候、草々頓首

四月十三日

新島先生

時雄

拝

568

四月十三日

長田時行

①静岡 ②神戸中山手通一番 ダツレー氏御氣附 ④墨 ⑥封筒裏書 新島
筆「四月十五日來着」

拝呈、過日御別れ申候し以来豊橋へ参り、美会伝道士工藤氏ニ面会相談の上、信徒へ大学之事演説仕候、一同賛成早
速集金之上警醒社へ授する旨被申候、又浜松ハ金〔カナダ〕 美会牧師橋本氏被働居候所ニして同氏へ面会仕候所、最早大学之
為委員を撰み集金中之由ニ付未信者へもすゝめらるゝ様依頼仕候、其外掛川、藤枝等ニても一寸咄仕、昨夜当地ニ着

仕候、当地ニハ金 美会の牧師小林氏〔光泰〕働き被居、昨夜ハ幸ニ祈会なりし故其後にて演説仕候所大賛成ニ御座候、今朝ハ小林氏の案内にて田村武治〔信者〕三浦錠蔵〔未信者過日先生、手紙を送りし人〕ニ面会仕候、此の兩人ハ過日来当地の大務新聞へ広告して県下の有志者より寄付金を被募候計画有之候時故、小生之此後ハ旅行ハ大ニ兩氏の助と相成候、猶新ぶんの広告のみならず、一度演説会をも開かるゝ事を咄置候間、何れ金森兄へ向け其節ハ通信さるゝ事と存候付、御出張被下候ハ、必ず善き結果あらんと存候、実ニ此度の遊説ハ意外の好都合にて感謝仕居候、是より沼津、三島等へ参り度候得共明安息日ハ東京にて守候約有之故、右兩地ハ帰途罷越シ申候、右御報迄、他ハ後便ニ申上候也

四月十三日

長田時行

拝

新島先生
金森先生
坐右

569

四月十四日

金森通倫

①大坂土佐堀二丁目 国本方
殿宅 ④墨
②神戸下山手通六丁目 米国女教師ダツレ

一昨日之会合にて夫々受持を定め

大坂教会	松浦君	天満教会	増野君
浪花教会	安藤君	北一致教会	本間君
(内)	新田君		
島ノ中教会	望月君	南一致教会	亀山君

宮川君之宅を仮りニ出張事務所之如き有様ニ致シヲキ候、宮川始め右之諸子へ連名ニて宜く候間、先生ヨリ依頼書を御送り被下度候、小生は昨日一寸罷出度存居り候、十二時頃ヨリハゲシキ頭痛を起し、午後九時頃までナヤマサレ、今朝も目ガサメテモ尚頭重く頭痛止マス、然も兼而諸委員諸子と約束もある事なれば午前ニ推して浪花教会ニ出て演説致し、午後又大坂教会ニて演説致したる処、其帰途よりハゲシクチヨウ之痛みを起し、中川叔母さま之助けられ漸く宿ニ帰りつき■■其儘便所ニて氣絶致したる位、然其後彼れ是れ手を尽し候処、大分気分もヨクナリ候、此儘ならばモハヤ氣遣なしと存候、然し毎も疲労之極迄ニ至れば、右之如き有様ニ陥り候故、是れが疲労之シラセと思ひ明日より帰京致し暫時心を放て休息致す積リニ候、明日は七時之汽車ニて出発致す積り、幸ニ中川様ガ(叔母さま)御同伴下さるから安心致候、モハヤ大分宜く候間、決シテ御心配下サ〔レ〕マジク候、気分悪く甚だ乱筆御海容是れ祈候

四月十二日

570

四月十四日

大久保真二郎

①京都市上京区烏丸頭柳ノ図子町、四月十六日投函
②兵庫県神戸区神戸山
手通六丁目 女神学校ダツレー氏方 煩親展 ④墨

重ネ々々^①埒モナヒ事ヲ申上ケテ一刻千金ノ玉体ヲ煩ワシ奉リ候ハ甚タ恐レ入リ奉リ候得共、事情默示難タケレハ敢テ再ヒ賜顧ヲ乞ヒ奉リ候、事情トハ真二郎今マ直チニ伝道ニ行カント決心仕候事ナリ、過日アレ程貴意ヲ得奉リ候ニ、今忽チ又伝道ニ従事セントハ思想ノ変転モ甚タシイ哉トノ御怪ミアルハ当前ナル事ニ候、事情左ニ

全体真ノ尊校ニ在テ勉強シタシト云フハ殆ント言フヘカラス、言フニ忍ヒサルノ希望アルカ故ナリ、然リト雖モ今ヤ耻ヲ言ワネハ理カ積マヌ仕合セトナリタレハ敢テ言上仕候、幸ニ叱笑

抑モ我邦ハキリスト主義ト惡魔主義商法主義ト横領主義トノ境界線ナリ、両主義ノ争地ナリ天王山ナリ、我邦キリスト國トナリ万国ノ市場トナリ倉庫トナルトキハ世ハキリストノ國トナル、若シ不幸ニシテ我邦惡魔主義トナリ横領殺伐ヲ事トスルノ國トナラハ全世界ハ惡魔ノ國トナサルヘカラス、今我邦ノ一挙動ハ唯我邦四千万ノ同胞ノ禍福ニ関スルノミナラス又全世界ノ禍福ニ関ス、我邦人民ノ責任決シテ容易ナラサルナリ、是ノ如ク容易ナラサル責任ヲ有スル吾人ハ勿論我邦ヲキリストニ献セサルヘカラスナリ、然ルニ甚タ慷慨スヘキハ、我同胞ニシテキリストニ從ヒ奔走スルモノハ一二ヲ除クノ外多クハ皆無力ナリ卑屈ナリ雄略活眼ナルモノアル事ナシ、而シテ我同胞中ノ英雄ハ皆悉ク政治界ニ吸収セラレ、英雄タルモノハ政治ニ奔走セサルヘカラス、政治ニ奔走セサルモノハ英雄ニアラストシ、教

法界杯ニ從事スルモノハ卑屈文妄ノ徒ナルノミト一向ニ宗教家ヲ輕蔑セリ、真入校以來窃ニ神學生ノ情景等ヲ觀察スルニ益々慷慨ノ情ヲ引キ起シ窃カニ思定スル所アリキ、我邦ヲシテキリスト國タラシムルニハキリスト教ノ価格ヲ上ケ天下ノ英雄ヲ悉ク皆キリスト教ノ下ニ吸集セサルヘカラス、政治ハ細工ニシテキリスト教ハ其細工ヲ施コサシムル地金ナル事ヲ知ラシメサルヘカラス、陸海軍ハ国力ニアラス、富ハ幸福ニアラス、知識ハ国力ニアラス、真誠ノ幸福真誠ノ国力ハ道德心則愛國愛民心ナル事ヲ知ラシメサルヘカラス、而シテ真誠ノ道德ハキリスト教ノミナル事ヲ知ラシメサルヘカラス、故ニ苟クモ國ヲ憂ヒ民ヲ愛スルモノハ必ス先ツキリスト教ヲ奉セサルヘカラス、真誠ノ英雄ハ必ス先ツキリストニ從ヒ、キリストニ從ワサルモノハ決シテ真誠ノ英雄ニアラサル事ヲ非常ノ大声ヲ以テ天下ヲ喝破シ、天下ノ睡眠ヲ喝破セント希望シタリ、之ヲナスハ我真一人ノ責任ナリ、キリスト之カ為ニ真ヲ捕ヘ玉ヘリト思ヒ込ミタリ、是レ真永ク貴校ニアリ深ク學ント決シタル所以ナリ、然ルニ今ヤ此決心ヲ破ラサルヘカラノ事情起リタリ、真先キニ実父母ノ紹介ニヨリ養弟ヨリ若干ノ金ヲ借用セリ、而シテ其金ヲ真故モナク消費シタリ、然ルニ一昨年中此金ハ如何ニシテ返済スヘキヤノ問題ガ日々真ノ腦髓ヲ刺戟シタリ、蓋シ是レニハ愚父母共大ニ默示難キ事情アレハナリ、故ニ真之ヲ払ワサレハ実父母共ノ命ヲ煎シテ吞ム如キノ不孝ナレハナリ、然リト虽モ禍ヲ転シテ福トナスハ常ニ天ノ父ノ事ニシテ、此負債ハ則真ヲシテ罪ヲ悔ヒシメ、キリストニ從ワシメタリ、此負債ハ真ヲシテ貴校ニ入校セシメタリ、又其上ニ勉強セシメタリ、着実ノ勉強セシメタリ、此負債ハ真ヲシテ幾分カ誠ノ信仰ニ進メ、誠ノ喜ト勇トニ上ラシメ、誠ノ望ヲ起サシメ、誠ノ智識ヲ得セシメタリ、真ハ實ニ此負債程有難キモノハアラス、此負債程真ノ良教師良友ハアラス、常ニ感謝シテ止マサル所ナリ、然レトモ此負債ハ如何ニ真ヲシテ進歩セシメ、玉トナラシムル力アルニモセヨ、真ヲシテ返済ノ義務ヨリ脱レシメサルナリ、^(マヌグ)歲月ハ已ニ迫リ、心配ハ益々殖ユルナリ、是ニ於テ

カ前述ノ希望ト負債償却ノ方便トハ何時トナク合併シ、此大著述ヲナシテ内ハ負債ヲ償却シ、外ハ我希望ヲ成就セントハ決定シタリ、是レ著述ノ大業ヲ瞬息ノ間ニ成シ遂ケント七転八倒シタル所以ナリ、否成シ遂ケネハナラヌ、男ガ立タヌ、義理ガ済ヌト狼狽シタル所以ナリ、人ハ望ミニ乗ルトキハ色々ノ障害ハ見エナクナルモノナリ、別ケテ真ノ如キ心狭隘ニシテ一途ノモノハ、十年ノ後ニ得ラルヘキ望ミモ今マ忽チ得ラル、モノ、如ク、其間ニ毫モ障害ナキモノ、如ク、見エテ狂奔スルハ余所目ニテハ嘸カシ可笑シキ事ナラン、真ハ実ニ此可笑シキ狂体ヲ去年七月以來持チ續ケタリ

偕、此大著述ヲ速ニ成就セント思フヨリシテ色々ノ求メ起リ来ルナリ、先生方ノ目ヨリスルトキハ日本ノ著書及翻譯書等ハ実ニ木ノ葉ヲ綴クル如キモノナラン、然レトモ真ニ取ツテハ、殊ニ此望ミアル身ニ取ツテハ、中々大切ナルモノナリ、就ヒテハ是ノ如キ書ニシテ一見シタキモノ甚タ多シト雖モ、如何ンセン今日ノ身ハ三ヶ月五十錢ノキリスト新聞スラ購求スル能ワス、甚タシキハ筆墨代スラ忽チ財政ニ関スル仕合ナレハ容易ニ購読スル訳ニ至ラス、唯事毎ニ後悔ト慷慨ノミナリキ、速ニキリスト教ノ価格ヲ上ケサルヘカラサルト、負債ノ歲月ノ廻ルト、引用書籍ヲ購求スル能ワサルト、慷慨ノ益鬱スルトハ共ニ相集ツテ一種ノ病ヲ醸生シ、前期中頃ヨリ久シキ間不眠病サエ患フルノ始末トハナレリ、然リト雖キリストノ真ヲ捕ヘ玉ヒタルハ真ノ明カニ信スル所ナリ、タトヒ不眠病モ、堪ヘ難キ慷慨モ、貧乏モ負債モ皆悉ク真ヲ玉ニスルモノニアラサルナキ事ヲ信スルカ故ニ、益々厚ク之ニ処スルノ方ヲ求メタリキ、語ニ曰ク、富ンテ驕ラサルハ易ク、貧ニシテ怨ミサルハ難シト、折リモ折リトテ猪一郎ノ言アリ、定メテ已ニ先生迄モ説キタルナラント想像シ満面ニ憤リタリ、一ヒ拝謁シテ有難ク、再ヒ金谷ニ会フテ又御厚顧ノ程ヲ聞クヲ得タリ、其レニテ全ク安心シタルニ、此度ハ意外ニモ其レニハ縁モユカリモナク唯忽然トシテ真ノ心中ニ湧キ出テタリ、曰ク伝道

スヘシと云々ト、蓋シ実ニ伝道スルトキハ幾分ノ慷慨ヲ漏ラスヲ得テ、内不眠病モ治スルヲ得ヘシ、而シテ之ヲ聞クモノハ永生ヲ得ン、又働クモノハ食ヲ得ルトナレハ、タトヒ負債ヲ償却スル能ワサルハ勿論ナルモ、負債ヲ殖ヤスニハ至ルマシ、又引用書籍モ或ハ月ニ二三円、タトヒ左ナクトモ新聞雜誌位ハ購求スルノ余地ヲ得ン、又妻子モ全ク水仕奉公ノミニ日ヲ送ラシメスシテ幾分カ伝道ト学文ニ従事セシムルヲ得ン、而シテ負債ハタトヒ契約ノ期ニ払フ事能ワサルニモセヨ、キリストハ必ス我膏血ヨリ、我誠心ヨリ、稼キ出タシタル清キ金ヲ以テ返済セシメ玉フニ相違ナシ、唯之ヲ切迫ニ而カモ、此天下ノ大事業ト負債償却トヲ一ツノ事ニ合併セシメタルハ甚タ宜シカラス、負債ハ時ヲ待ツヘシ、著述モ時ヲ待ツヘシ、無暗ニ狼狽スヘカラスト端ナクモ真ノ脳髓ニ浮ヒ出テタリ、是レ真伝道ニ行クヘシト言フ所以ナリ、真ハ信ス、該負債ハ真ヲシテ著述ノ念ヲ確定セシメ、慷慨ノ念ヲ熾ナラシメ、今又実ニ成就セシムルノ道迄ヲ指示シタリト、実ニ此負債ハ真ニ取リテハ容易ナラサルノ恩人ナリト、然ラハ何レノ方角ニ向ツテ行クヘキカ、唯先生ノ命ノマ、ナリ、然レトモ真ノ実ニ好マサル地方ナキニアラス、若シ此地方ヲ御命令アリタラハ一応ハ意存ヲ言上スヘシ、然レトモ真ノ好ム地方ナキニアラス、猪一郎モ言フタル如ク上州地方ナリ、何トナレハ人心甚タ活潑ノ様子ナレハナリ

若シ実ニ真ノ決心ヲ嘉納シ玉ハ、真ハ却テ早く、速ニ一日モ早く、発足仕ラント奉存候、何トナレハ六月迄待チタレハトテ待チタル丈ケノ取註^{〔所〕}ナケレハナリ、今ハ前述ノ脳病ニテ課業モ勉強出来申サス、又実ニ左程価値アル課業ニモアラサレハナリ、唯速カニ御指立テニ相成リ候ナラハ、一ツノ願ヒアリ、其一ツハ自然神学チャッドボルン組織神学証拠論 教会史及諸註解類、右ノ書籍ヲボルドヨリ頂戴(タトヒ一時頂戴スルモ他日数倍ニシテ必ス返ス)或ハ寄賦或ハ月賦ニテ購求サセ下サレ度(勿論英書ナリ、訳書ニアラス)、二ツニハ一昨年来無業ニシテ大貧乏ニシテ衣

服諸道具モ大抵皆売却シ今ハ大体丸裸ナリ、決シテ見エヲ飾ル抔トハ思ヒモヨラサレトモ、此儘ニテハ實際行ケ申サス、殊ニ当地ニ已ニ若干ノ負債サエ有之候ヘハ之ヲモ償却シテ出立サレル様ニ成シ下サレ度、一昨年来已ニ大分ノ金員ヲ借用シタレ共、彼レモ重々ノ難題ナレトモ此度ヲ最後ノ事トシテ、今一回助ケ暮レ候様恐れナカラ先生ヨリ御申聞ケ下サレ候様奉願候、其レハ何人ニ則徳富猪一郎ナリ、其金員ハ旅費ノ外悉皆五十円ナリ、内拾七円負債三拾參円支度、斯タル事迄モ先生ニ御願申上ケ候ハ甚タ失礼ナル事ニハアラサルヤ、先生幸ニ一ヒ思ヒヲ垂レ玉ヘ、真ノ從來ノ品行取行、其卑屈汚穢ナル事固ヨリ言語ノ尽ス所ニアラス、知己朋友悉ク皆之ヲ惡ミ、骨肉ノ父母ト雖モ已ニ愛相ヲ尽カセリ、天下ノ広キ、人ノ多キ、一人モ真ヲ憐ムモノナク真ヲ愛スルモノアラサリシ、然リト雖唯一人ノイエスキリストハ此不潔ナルモノ、為ニ肉ヲサキ、血ヲ流シ、以テ其命ヲ贖ヒ玉ヘリ、則先生ニ由テ贖ヒヲ成就シ玉ヘリ、故ニ真ハ敢テ先生ヲ以テ再生ノ父トス、今真肉ニ依ラス、キリストニ由テ運動セントスルモ、天下何人カ真ヲ信シ、真ヲ愛スル人アルヤ、唯先生ノ外ニアル事ナシ、故ニ敢テ先生ニ上願スルナリ、嗚呼真ト雖モ全ク胆ナキニアラス、何ソ全ク恥ヲ知ラサランヤ、真ト雖モ全ク無神經ニアラス、何ソ喜ンテ斯ル事ヲ上願センヤ、唯真ノ精神ヲ洞察シ、真ノ赤情ヲ神識シ玉フ事ヲ信スルユヘニ敢テ恥ヲモ忘レテ上願スルナリ、然ラスンハタトヒ七ヒ腹ヲ切ルトモ何ソ面目アツテ斯ノ如キ如キ事ヲ上願センヤ、先生幸ニ真ノ熱淚ハ何レノ處ヨリ出ツカヲ賜願シ玉ヘ、嗚呼書ニ臨ミ腸將ニ寸断セントス、唯イエスハ我証ナリ、唯先生ノ曾テ艱難シ玉ヘル事ハ我カ証人ナルノミ、恐惶々々、謹言

明治廿二年四月十四日認

大久保真二郎

裏新島先生

閣下侍史函丈

拝具

571

四月十五日

柴原宗介

①京都 ②神戸港すわ山和樂園 御親展 ④墨

拝呈、春色十分之好節、先生御病氣如何ニ御起居被遊候や奉伺上候、已日御帰京之節一寸御伺申度存居候処、兼往常
 太郎氏ニ面会せしに、先生ハ御風邪故可成御保養を妨けぬ方よしと被申聞、差扣へ罷在候中、又々神港へ御越ニ相
 成、意外之御無礼仕候、御高免可被下候○坂田警軒先生事、此節ハ稍々心事相碎け全く金森君の熱心と申、新島先生
 の御書面之熱と申、最早辞スルノ道を失フヨヲ覚へらるゝ旨被申聞候、宗介推測仕候ニ、国会議員を勤めつゝ同志社
 ニ奉職する事を許サル、ならば多分止マラル、ヨヲ手ごたへ仕候、デヒス先生の説ニ国会議員ニ而アリツ、同志社ニ
 辛抱してもらひたひと被仰候事ハ坂田先生の心を動かしたる問題ニ御坐候間、其思召にて将来の御処分可被遊候、尚
 聞込之事ハ追々上申仕候○私之身上ニ就き御相談申上度候事アリ、先日帰国セヨト国元之朋友より申越シタルニヨリ
 先月十三日一寸帰国仕候処、私共選挙区内に於テ候補ニ自任セヨト頻リニ進められタレトモ、願レハ無学不肖之身の
 上故、折角責任ヲ全フスルコトノ覚束ナケレハ一応ハ辞退候へ共、何分朋友之熱心厚く、頻リニ進められ罷在り、如
 何進退可仕哉貴意ヲ御示し被下度候、熟ラ考フレハ、明年の議會ハ我教徒ノ倚子も誠ニ僅々タルモノト存候へバ、其
 点ヨリ考フレハ将来ノ為め不肖を忘れ基督の聖旨を帯ビ、自由の一旗を翻ス可キハ此時、否ナ将来ニアルカト確信罷
 在候へ共、何分我身を知レハ恐ろしき氣味も不少、彼是躊躇罷在候、願クハ御病氣の怠りある時一筆為めニ御示し被
 下度奉懇願候、先ハ右得貴意度如此ニ御坐候、恐々拝白

四月十五日

新島先生
坐卜

柴原宗介

拝

572

四月十六日

菊池純二郎

①北海道松前郡福山唐津内町二番地

②京都府寺町通丸太町

④墨

謹白、日増陽春之好時節ニ相成候、御尊公様ニハ益御壮勇ニ可被遊御坐候御手紙之旨委細奉拝承候、然ルニ仰之御旧友二氏トモ維新之際変死シ、今ハ世ニナキ人ニ御坐候、村尾四郎氏ノ如キハ何故か妻子ヲ殺シ、又其他新田某トテ福山藩之学者ナリシヲモ殺シ、其他殺傷サセシ者三四名有之由、當時村尾之五人斬トテ評判之出来事ニテアリキ、其源因ハ少々国事ニ関係アルモ徒ラニ人ヲ負傷セシ罪ヲ以テ斬罪ニ処セラレタリト、又一人之鈴木某ハ維新之際国事ニ尽力シテ益々為ス所アラントシタリシモ、不意ニ狂乱シテ死セリト之事ニ御坐候、実ニ世之中ハ劇場之如クニ御坐候、諸御面会之折モ申上候彼貴社資本之為メ、漆樹培養之一件ニ付、小生帰路又会津ヘ立寄り、实地調査セシニ大ニ得ル所アリタリ、第一寒地之漆樹ニ適スル事又其培養之容易ナル事ニ御坐候、資本ヲ要スル事少フシテ収獲ノ多クアル之ニ若クモノ無之ト奉存候、然ルニ世人ノ未タ流行ニ思付カサルコソ幸ナレ、可相成ハ早く御決心可然ト奉存候、斯ク申進候ハ聊貴社設立ヲ賛成スルノ精神ニ御坐候、或ハ新聞ニ而御承知モ可有之ナレトモ、此度又彼堀田瑞松氏ハ魯壞

二国ノ依頼ニ応シテ渡航スルニ付、其資本金四十万円ヲ今月ノ新聞ニ、政府ヘ拝借ヲ願ヘタリト、尤も右ハ外国政府之依頼ト云ヘハ確實之事ナレハ年々ニ需用ノ多クナルハ必勢ニ御坐候、小生ハ当福山ニおゐてノ繙商トモ申スヘキ連中ヨリ組織シタル和親会（十八名ヨリ成立居ル）ト相談シ壹百五十町歩位着手スル見込ニ御坐候、已ニ承諾ヲ得タリ、唯此後ハ小生京坂地方ヘ同行セシ当福山人岡田伝五郎ト申人未タ帰宅セス、其為メ待居ノミニ御坐候、是等之事業ハ勿論小生之負担ニシテ時間ヲ費ス事同ケレハ、貴社もし御見込アラハ序ニ小生ヲシテ処理為致候而ハ如何ニ御坐候ヤ伺上候、もし又御見込アラハ尚委細申上ヘク候、小生之廟算ニヨレハ右百五十町歩ヲ植付ルニハ壹万円ニテ十分之見込ニ御坐候、尤も会津種樹社ノ予算ニハ壹百六十町ヲ植付ルニ金三万九百貳十五円ニ御坐候ヘ共、是等ハ採殺之際支払フヘキ費金モ合計シタル者ニ御坐候、且十二分之予算ナルヲ以テ其実安神之至リナカラモ、会津地方之疲弊ト耐忍力ノ無キ為メ、右種樹社ハ微々トシテ振サル有様ニ御坐候、実ニ是ヲ小ニスレハ会津地方ノ為メ、大ニスレハ邦国ノ為メ痛嘆セサルヘカラス、総テ日本ハ国力乏シキヨリ衛生ト云ヘ、或ハ教育ト云ヘ完全ナル能ハス、故文部大臣ノ月謝改定ハ後年行ハル、アラハ日本ハ決シテ真ノ文明国トナル能サルノミナラス終ニハ奴隸国タルノミ、是ノ時ニ際シテ私立ノ大中学完全シ居ルニアラサレハ是ヲ救フヘカラス、是ヲ完全シ是ヲ救フニハ又非常之巨費ヲ要スヘシ、宜シク非常之慈心ヲ垂レ、国家ノ為メニ貴社大学ノ万々歳ニ至ラン事ヲ御尽力之程奉希望候、余素ヨリ貴社設立ヲ喜ブ者ナレトモ、現今余カ関係之福山英語学校モ維持之為メ東奔西走スル折ナレハ何分心ニ任セス残念ニ御坐候、御推察被下度候

右申上度、乱筆ヲ顧ミス失敬之段、御海容被下度奉願上候、艸々謹言

四月十六日

菊池純二郎郎

573

四月十七日

不破唯次郎

- ① (消印) 上野前橋 ② (赤インク・毛筆) 神戸港中山手通六丁目一番 だ
ッソ氏方届キ (青インク・ペン) Rev. J. Neeshima c/o Miss J. E. Dudley,
Kobe Bluff. ③ 本文・赤インク・毛筆

拝呈、ゴルドン氏より承り候得バ、先生ニハ再ビ神戸へ御越被遊候由、其後ハ御不快ハ如何之御都合ニ候や御案申上
候、昨日ゴルドン氏ニモ「イソベ」迄参ラレ候故、皆々同所ニテ面会仕候、甚た残念ナル事ニハ此度之免状〔内地旅行〕にてハ佐
野大宮地方ニハ六ヶ敷存候、当地ニハ廿二日比来着之心組ニテ、ソレ迄安中近所へ長田氏ト働レル由、先日伊勢崎ニ
於て上毛信徒大会ニテ当地女学校之事議題ニ相成候、以後上毛信者方大ニ尽力サレ、且上毛信徒之学校トスル事ニ相
成り(是迄右之目的ニ有之候得共)「マオント、ホリヨーク」本年中ハ来ルベキ女教師一人、是非トモデホレスト氏
ハ尽力サレ送度由申サレ候、附てハ女学校広張ハカルヲ謀ル為、先生ニハ是非発起人ノ一人ニ願度奉存候、元来御承諾トハ
推察仕候、又上毛ハ是非人物之宣教師一ヶ宛ヲ招キ、以後設立シ度男子学校之手ビキとも存候間、ボード宣教師方ニ
も毎度談候得共人ナキ由ニテ、聞所ニヨレバ (A. P.) アンドワルノ Prof. W. M. J. Tucker 氏ガ同地ニ委員トナリて外国へ

出スベキ人物もアル由ニテ、先日来上毛信徒一同ヨリ同氏へ一人ノ人物ヲ送リタレル様依頼書出度存候、先生ニハ如何御思考ニ相成候や、定て御賛成ト奉存候、元来此事タルやボールド宣教師方ニ対シ失礼ヲ働ク積ニハ御坐ナク候、種々御相談申上度事有之候得共今日迄御同方々御報迄、失礼早々、再拝

四月十七日夜

不破唯次郎

新寫先生

二白、唯次郎之乱筆御免被下度奉願候、御令室様へ宜敷御伝へ被下度奉願候

574

四月十七日

中村栄助

①京都五条橋東式町目 ②兵庫県神戸中山手通
書 ④墨
ダツレー氏方ニテ 無事用

拝啓、陳ハ今般丹波園部ニ於テ被相開候京都部会へ参集致大学校寄付金之件ハ既ニ議案ニ有之申候間、全会賛成之希望仕候処、何レモ同意賛成ニテ各教会ニ於テ式名或ハ三名ノ委員ヲ設ケ至急寄付金ノ取纏メラ致、早速ニ事務所又ハ金森君ノ方へ可申出答ニ協議取極メ相成候間右之段申上度、且ツ其他何レノ教会ニテモ無何ト等閑ニ相成居候模様有

之候哉ノ噂モ有之候間、此儀ニ付テハ実況ヲ金森氏へ陳述可仕心得ニ御座候、丹波地方之件ハ村^{〔太五平〕}上氏ニ種々協議仕候、且ツ郡長奥村氏面会之上取纏メ依頼仕置候、近日相纏メ呉候筈ニ御座候、先者右申上度如此ニ御座候、艸々

尚々過日以來内貴君ニ度々面会、米國織物ノ件委數御咄シ仕候、然ル処何時ニ而も織直シ可申旨被申候間、至急御取戻シ相成度、此段申上度候也

四月十七日

中村栄助

新島先生

575

四月十七日

佐々城豊寿・潮田千勢

①東京日本橋釘店八番地 ②京都寺町通丸太町 ④墨

未だ拝眉ニ不接され共一書呈上仕候、敬愛なる大先生ニハ益々御清適の段奉恐賀候、陳者^{〔供〕}今般小妹等発起となり音楽会を催し、之にて得たる金員を以貴社ニ御設立可被成処の大学校ニ寄付シ、万分の一ニ共^{〔供〕}せんとせしか、畢竟小妹等のふなれよりして甚不行届なる故ニや、存外金員の上り高些少なれば、肝心寄付せし処の金甚僅少ニして、小妹等の意を不果遺憾^{〔憾〕}限り此事ニ御座候、然るニ先生ニハ疾ニ此拳を聞し給へ、当日ニハ電報を以謝辞を被贈、又御叮嚀なる尊書を被贈、却て恐縮千万ニ奉存候、乍去小妹等ニ取りて無此上名^{〔書〕}与と深く奉感謝候、就而ハ直ニ御返書呈上可仕筈

の処、小妹過日来不快勝ニ付遂々本日ニ相至リ候段万々奉謝候、尚又音楽会顛末書并ニ出納表等出来致候ハ、近日御
通送申上候、右ハ御返書まで、草々敬白

明治廿二年四月十七日

佐々城豊寿

潮田 千勢

新島大先生

玉案下

576

四月十八日

金森通倫

①京都 ②神戸下山手通六丁目 米国女教師ダツレー様方 ④墨

井上伯ニも弥今明日ニハ着神之由、何卒此際十分御計畫き被下度候、伯ハ大坂ニ手出するハ余り好まざる様ニ見受け
られ候〔へ〕ハ、其辺之処ハ能々御注意之上御話被下度候、小生も漸々快き方にて今暫時休息セハ平常ニ復するならん
と存居申候、只今御令室様御出被下御恵与之金拾円難有領収仕候、随分会計困難之際ニ候ハハ辞退なく頂戴仕候、右
ハ御礼まで、早々

四月十八日

通倫

裏先生

577

四月十八日

古木寅三郎

④墨

拝伸、先生ニハ優渥ナル神恩ニヨリ御病痾先ヅ御快氣ノ方ト拝承、実ニ欣喜雀躍感謝罷在候、尚此上全能ノ主ノ御手
閣下ノ上ニアラン事ヲ祈願可仕候、然ハ高梁教会員横田某ナルモノハ百姓ニシテ自身ノ住居ハ未ダ畳ヲ敷ク能ハズ藁
筵ヲ敷キ随分見苦シキ境界ニ御坐候、彼レ一昨夕拙宅ニ来リ、潜然涙ヲ垂レ震ヘ声ニテ申ス様、私シハ同志社大学ノ
為メニ二十錢ヲ寄付シテ喜悅罷在候処、尚ツラ、新島先生様ノ御手紙ト将来大学ノ大切ナルヲ思ヘバ、板ノ上ニ生
涯坐スルモ厭ヒ申〔サ〕ズ様感ジ、為メニ家中ノ有ラン限りノ金銭ヲ掻キ集メ、目今井ヲ掘ラントテ残シオキシモノヲ
モ悉ク合セテ銅貨紙幣小銀貨取雜セ金貳円足ラズヲ得タリ、是レ神様ノ為メニ私立大学ノ寄付金ノ中ヘ加ヘ被下ルカ
ト思ヘバ誠ニ誠ニ嬉敷御坐リマスト申シテ、小弟ニ物語リ仕リ候ハ、実ニ奇特ノ事トテ感嘆ノ余リ共ニ感涙ヲ流シ申
候、右ハ先生ガ御在米ノ時ニ二弗ノ貴貨ヲ呈セシ老農夫ニ似タル所ノモノアルヲ以テ贅筆乍ラ貴聞ニ達シ度、早々頓
首

四月十八日

寅三郎

新島先生

閣下

百拝

二伸、川本政之助氏来高、何ニ角ニ都合よろしく御坐候

三伸、過日ハ御念書ニ預リ恐入申候
四伸、少金ナレドモ追々寄付人増スノ模様ニ御坐候

578 四月十九日 井上 馨

②親展々披 ⑤写真

貴書拝誦、御書中之趣敬承致候得共、頃日来脳痛相起り加養中に付即今御面会ハ難相成候得共、帰京前病間見計ひ、
従是御報知可致候条、左様御承知可被下候、此旨草々奉復

四月十九日

馨

新島君

579

四月二十日

原田正之助

①北海道空知郡市来知空知監獄署、四月廿日托小山義久子 ②西京同志社学
院 乞親展 ④墨 ⑥別紙 鉛筆書、封筒裏書、新島朱筆「Keep!」

謹啓、益御清栄欣賀此事ニ奉存候、小子幸ひニ主乃御恩寵ニより今日迄平安ニ消光罷在候段乍憚御休神被下度候、陳者此度貴社大学設立相成候ニ就而ハ、小子も心丈ケ之義務をも相尽し度奉存候得共、何分無産薄給之もの、これを如何とも致しかたく、仍而小子伝来之刀劔老双これを奉献仕度奉存候間、御叱留被成下度祈上候、抑小子幼より学びし所乃もの、只一ツノ擊劔術これあり候のみ、されは小子仍而以て宝とし財産とする所のもの、またこ乃刀劔有之候乃み、しかれとも幸ひにして今日にてハ神乃御恵みニより靈乃たから乃一層に貴重なる事を感じ候ニ付、セメテ我心遣乃代表として右衣食ニ難代之刀劔呈上仕度奉存候、只其価直乃如何は二段として小子志嚮之如何を御察納被成下候ハ、小子之喜不過之奉存候、先ハ右要意小略刀劔ニ付し差上度、尚書外微意御採酌を祈る、勿々不尽

四月廿日

原田正之助④

裏新嶋先醒

〔別紙〕

二月廿七日ヨリ禁酒

間野栄君

郁春別村ヨリ京都同志社学校寄付

五十匁 坑夫 小林忠之助 十

壹円 鍛冶職 阿部留吉

貳拾匁 商業 大間庄造 十

貳拾匁 豆腐営業 角館モヨ 十

壹円 坑夫受負 木村東太郎 十

壹円 同 小林治郎吉

壹円 坑夫 田口留之助

拾匁 同 城戸重作

五十匁 受負人 及川徳太郎

五十匁 風呂営業 吉田鉄蔵

十匁 商業 臼井甚太郎

十匁 坑夫 中川伊助

貳十匁 同 富沢弥三郎

貳十匁 同 金森隆資

壹円 白戸清三長男受負人 白戸清太郎

五十匁 商業 蜂谷孝兵衛

三十匁 信者 阿部清三

右郁春別村 人家五十戸 人員三百名余リ

580

四月二十一日

新島八重

①京都寺町通丸太町上ル ②神戸中山手通 ダツレー様 ④墨 ⑥封筒のみ、
日付は消印による

581

四月二十三日

松本誠直・岡崎高厚

①大坂小浜四丁目 ②神戸下山手通六丁目 鈴木清殿方 ④墨

尊書拝読、如命百花争色之候、愈御清勝奉恭賀候、陳者小室、沢辺記念文庫一件、毎々煩御配慮奉多謝候、右取纏方
思ノ外遷延相互赧然之至ニ候、金額之儀ハ新井氏(書)ヨリ申上候通、少クトモ七百金之胸算ニハ候得共、實際多少異同ヲ
免レ間敷、何レ来五月末ニハ愈御報可申上念慮御座候、追而金額確定候ハ、購求申書籍之大概御垂示被下度、此義先
般新井氏ヨリ願上置候筈ニ候得共、尚乍序御倚頼申上候、殊ニ寄候ハ、近日来坂可被遊趣、其節ハ得拝姿委曲申承度
奉存候、右不敢拝復如此御座候、敬白

四月廿三日

松本誠直

岡崎高厚

582

四月二十四日

金谷 充

①京都 同志社学院 ②神戸中山手通六丁目 ダツレー殿方ニ於而 ④墨

拝啓、永岡氏江御托送之貴翰拝読仕候処、御懇切なる御見舞を蒙り御厚情難有奉存候、幸ニ小生打症ハ微少ニ而、何程之事も無之、既ニ本日より出勤致居候間乍憚御休神被下度候、扱一昨日礼拝堂之出来事及怪俄人等之景況ハ永岡氏より委細拝陳したる事と存候ニ付、今又再陳不致候得共、今朝小生各患者を見舞たる景況を陳れハ、金森夫人ハ昨日迄ハ殆ント人事を弁させる程之有様なりしも、今朝より容体著しく宜敷方ニ赴かれ、富永令嬢ハ最早全快ニ近く、又本校生徒中重なる怪俄人ハ有馬嘉一氏なりしも、是とても向五週間を経過せば回復する由、其他之諸氏重きも一週間内ニハ全快する趣ニ而、已ニ本日柏井、柳瀬之両氏之如キハ退院致候様之仕第ニ付御心配無之様仕度、^(次)実ニ今回之出来事ハ甚不幸之次第にして、小生等ニ於而も一時寢食を忘れ候程ニ心配致候処、甚しき怪俄人なくし而相済しハ不幸中之幸とでも相諦候より外無之、兎ニ角現在ハ追ふ可からず、将来を敝疾するの外無之、生等建築上之事ニ付而ハ聊か見る処も在之候ニ付、建築委員等ニ向て此際意見を陳述する積ニ在之、書余拝眉ニ譲、御見舞御礼旁負傷諸君之近況申上度如此ニ御坐候、草々頓首

四月廿四日

金谷 充

新島先生
貴下

再啓、愚妻より宜敷御礼申上吳候様申出候、野邨君より沓書可拝呈答之處、相略仕ニ付小生より宜敷申上吳候様伝言在之候

583

四月二十四日

中島幸三郎

④墨

勿々呈寸楮候、先日罷出御邪魔仕候、先生御病氣如何ニ候や、追々御快方ニ被為赴候や、却説、一昨日同志社会堂之二階崩墜、三十人許負傷致シ候趣、唯今去る人ヨリ承リ驚入候、就テハ右人名已ニ先生之御許江報知有之候ハ、何度義有之、則ち舍弟坂田貞之助（五年生）ヨリ今以何等通知無之、若シヤ右負傷者ノ一人ニハ非サル乎トも案候間一応相伺候、金森夫人ハ頗ル重傷之由、何卒何レモ速ニ御快復アラシ事ヲ祈禱仕候、先ハ右得貴意度草々、如此ニ御坐候

四月二十四日

中島幸三郎

新島先生
坐下

頓首再拝

584

四月二十四日

中山光五郎

①野州佐野町

白金方

②神戸諏訪山和樂園

御親展

④墨

尚々御令聞様へ宜敷希上候

謹テ一簡拝呈仕候、乍蔭拝聞仕候処御宿痾も幾分宜敷方之由、珍重之至ニ奉存候、小生よりハ久々御無音に打過候段御海容被下度候、昨二十三日午後二時より杉田兄より受洗者四名有之候間御喜被下度候、尚只両毛牧師伝道師会を当地に開き来会者九名、其他足利より信者来臨被下度聖餐に与りし者十五人有之、当地にて此挙ありしハ之か矯矢ならんと奉存候、又二十二日二十三日両夜大演説会を開候処聴衆ハ誠に少なく五六十人に御坐候、然るに至極謹テ聴聞仕候、此度の受洗者ハ二人ハ上州山田邑樂の人にして、当時安蘇郡機業組合事務所の役員に御坐候、老人ハ千葉県にして簿記学の教師に御坐候、老人ハ当町内酒造家の長男にて至極温順なる家柄に生れ、本人ハ殊に之に加ふるに文明的の性質を帯ひ居候、尚是より後望ある者三四名有之候得共、未だ信仰未熟に御坐候、大伏英学校熟内の青年十人位ハ毎日曜其校内にて小生より聖書の講義を聴聞被致候、又本校教師ハ至極温順なる人にて基督教を余程研究し将来ハ入会する心得にハ御坐候得共、誠に酒を嗜みて之を止める事を得ず困難致し居候、同氏か決心致す時ハ随分好人物ニなるへしと奉存候、何卒御祈被下度候、小生ハ学識不足にして独立して伝道するの力なき事を感じ申候、此度産みたる小兒四人を養育し、独り歩行も相叶ふに至り候て能力ある後任者を得て他に転任仕度候が、此義小崎兄に内々御話申上候テ可然ヤ、未タ早キヤ奉伺候、小生ハ前ニ申上候通り忍耐丈けハトコ／＼迄モ仕候、何卒当地の為に御相談被下

度候、栃木の方へハ再度罷越候得共未タ有志者ヲ得ス、僅カ漢学^{〔ママ〕}熟長中島氏、裁判所書記に面会して伝道仕候、此度大演説会入費八円斗り、先日先生より御送り被下候金円を転用しても不苦や奉伺候、本局よりハ一切出テサル由ニ御坐候、勿々頓首

四月廿四日

中山光五郎

新島先生

585

四月二十五日

海老名弾正

①熊本県同区新屋敷町

②西京府寺町通丸田町上り

④墨

拝啓、却説当英学校入校試験も去る廿日施行仕候、応試生四拾五名内三拾七人合格致候、北垣君も得点四十五位ノ得点にて純粹なる合格とハ申難く候へ共特別に入校致させ置き申候、同氏も入校せられしより日未だ少数に候へバ生徒間に於ても十分の親交ハ無之候へ共、其兆ハ既に現ハれ向後愈好都合ならんと喜び且つ一層注意仕居候、総生徒百三十人余、全体善良なる気風に赴き愈好境遇を造り進歩の途上に走るの勢に候、女学校も目下建築中にて来月十五日迄ハ必ず落成するの筈に候、只将来兩校より好人物を作出せんことを望み居候、右迄草々

四月廿五日

海老名

586

四月二十六日

田口卯吉・伴直之助

②西京 同志社 ④墨

一書拝呈、此程は講堂天井抜け不慮之災起り候趣、怪我人も出て中ニハ危篤の患者有之候哉ニ承り誠に以て驚愕仕候、其後如何不取敢以書面御伺申候也、勿々頓首

四月廿六日

田口卯吉

伴直之助

同志社

新島襄様

玉案下

二伸御取込御察申上候

四月二十六日 村上 定

①神戸下山手通三町目六拾貳番地 ②西京寺町通丸太町上ル 平安信 親展
④墨

謹啓、昨夜ハ御高話拝聴、且ツ御饗応を受け候段奉多謝候、偕其節美術の御話に就きて、明朝なるへしとの御疑問に
 対し、何たる弁へもなく明朝と申上置候処、九鬼氏の演説を熟考仕候得ハ明朝は既に傾頽せんとするの時節にして隆
 盛は唐宋に御坐候、氏の演説中に、唐宋の精華は胡馬の蹂躪を経て落花滿地只余香を聞くのみの語有之候、且つ唐
 宋の隆盛は其源遠く、秦漢に基することを説き、南北、随之頃ハ唐宋の直接なる原因なりとて種々例を引き有之候、
 昨夜の失答を謝し併せて御礼に迄如斯く御坐候、頓首

神戸 四月二十六日

定

拝

新島先生

閣下

588

四月二十七日

児玉仲児

①和歌山県那賀郡粉川村

②京都寺町通り丸太町上ル

④墨

拝啓、暖和之候、爾来益御清康被遊御起居奉恭賀候、扱本県ニ於て来ル五月七日ヨリ臨時県会開設之筈ニ御坐候、此
会日数予テ知ルヘカラサレトモ、凡ソ三四日ハ引続クベク相考ヘ申候、此際御都合ト御見込ミトヲ以テ大学設立ニ関
シ誰カ貴社員御派出可相成様、小生ハ開会前ヨリ和歌山中ノ店中ノ丁十六番地ニ滞在可致筈ニ御座候、右のみ御報告
申上候也、草々頓首

四月廿七日

児玉仲児

新島先生

侍史

四月二十七日

中村缸造

① 福島県北会津郡若松七日町 ② 京都府上京区寺町通丸太町 親展至急 ④
 墨 ⑥ 封筒裏書、新島筆「返書出ス」書留

上帝之御恩、下ニ御病体も追而少シク御快氣ニ被為渡候半欣喜此事ニ御座候、小弟も救主之御愛護にヨリ無事罷在候条御安体奉願上候、擬過般御依頼ニ相成候山本氏之墓碑之義、是迄賈中ニテ自然石見出ス之^{〔カ〕}筈ニ居候处、漸ク別紙図面之通取調候处、代価等ニ至テ彫付料抔トハ甚高価之様被考候得共、石工共深相談を仕候得共見積丈て相懸候哉之由、右ハ若松ニ於テ見積候義ニテ、一之関迄運送料ハ是ハ予算ヲ調候事ニテ少シ減スル哉も難計、尚精々注意致シ可申候得共御報次第御掟可申、依之モ兩三日中ニ一之関寺院へ罷出、場所等も取調候心得ニ御坐候、其節又々可申上山本氏へも宜敷奉願上候

一、当地伝導上過般山岡兄ト交代、^{〔邦三郎〕}東兄^{〔正義〕}ニ相成候テハ前之伝導之結果茲ニ顕レ、昔日ト違非常好都合、去十六日も受

洗者拾老人、尚求道者モ多ク有之都合ニ御坐候、併尚教会之設立之運ヒニハ至ラス甚遺憾トスル処ナレトモ、如何ニセン今日迄之信徒ト申モ書生輩之多、書生ニ非ラサレハ婦人ナリ、又職人トカ何レモ神之為メニ伝導上其他事業ヲ助クル人ニ乏シキ有様殆ト困却仕候、^{〔カ〕}併近時ハ模様ニテ追々中等已上之人ニ賛者モ出来申候間、尤東兄ハ熱心ニ働カレ候故不日ニ主之御恵之当地ニ降ラン事ヲ信居申候、尚当地之為メ御祈可被下候

一、同志社大学寄付金之義、過日来当地安瀬敬蔵氏ト小生兩人ニテ夫々新聞へも報シ誘導致居候得共、實ニ今日迄出

金致呉候モノ僅少ニテ、尤モ一昨年已来会津中学校設立寄付スラ彼是苦情も申立不応之有様、過日綱島兄当地浸洗之為出張候セラレ砌、同兄之御嘶ニハ当知事へも寄付金之事ニ付テハ御嘶も有之由、不日当県下各郡へ派出誘導可致候ノ事ニ御坐候、甚小弟等ハ不行届ニハ恐縮仕候、小生寄付金余り僅少ニテ恥入候仕合御坐候得共金拾五円寄付可仕候、是ハ忝度納兼候間兩三度位ニ来月より送金可仕候間右御了承被下度御願申上候

一、愚子衡平義ニ付テハ毎々御厚情ヲ蒙リ居候処、近時脳病之為勉強モ充分出来サル由、右ハ少シク快氣之都合ナル由申越候得共、小生も遠隔ニテ甚行届不申候間、御序ニ養生方充分ニ相尽候様御申聞被下度御願申上候、先ハ墓碑之件御同旁要用之申上度、余ハ後便ニ可申尽、尚御奥様ニも宜敷奉願上候、頓首

明治廿二年四月廿七日

中村缸造

新島先生

坐下

〔別紙〕

尚々曾テ度々申上候当地中学校之件ハ、何分人民之寄付成りタ、ス、當時校舍老棟其他敷地資本金老万五千六百七十八円余ハ今日も存在シアルモノ有之、右金員ヲシテ設立致候御見込ハ有之間敷候哉、其他ニモ会津人ニシテ当時東京其他同郷人何レモ該校設立ハ賛成ヲ表シ居候間、純然タル有志ヲ誘導シテ寄付募集スルナラハ五千円位ハ見込も有之候、右前資本合テ貳百円位御坐候、右御高慮ヲ奉伺上候、小生迄ニ御示之程奉願上候、当地も當時ハ政事上之運動ハ盛ナルモ、教育上ニ心ヲ用ルモノ無キト申テ可ナル位ニ相至、前之同志之モノも追々減シテ小生ト他ハ貳名ニ過キス、併東京ニアル山川浩氏始長崎知事日下〔義雄〕氏等大賛成家ナレハ、当地ニ人ナキモ他ニ人モアレハ小生も是非共微々タルトモ母校ヲ設立致度志願有之候間、何レお願の尊意御洩シ奉願上候也

590

四月二十七日

杉山重義

①上州原市町 ②西京烏丸々太町 ④墨

拝啓仕候、陳ハ昨日発兌東京日々新聞に記載するに、去る廿二日西京同志社彰栄館之二階墜落し多少之負傷者有之、金森兄之令聞も重傷を帯られし由に候へども果して其事ありしや否、未だ其真否を正すに暇なきも一読実に驚愕仕候、若し右様之変事ありしならば必ずゴールドン氏若くは小崎氏方へ御地より電報にても可有之筈と存候へども、小崎氏には一昨日藤岡にて面会し、其日までゴールドン氏と共に前橋にありたる不破、長田之二氏にも何にも斯る事を存じ居不申しを以てすれば或は虚報かとも存候、何卒其然らんことを祈居候、若し又々新聞紙上記載之程之事ハ無之とするも不幸にして何か異常之事ハ有之しや、唯々御案じ申居候、依て不取敢御見舞迄如斯ニ御坐候、恐々頓首

四月廿七日

重義

新島先生

侍曹

591

四月二十九日

新井 毫

①上毛山田郡大間々町

②西京寺町通丸太丁上ル

火急平信

④墨

両翰拝読仕候処益御清栄之段奉賀候、却説、備後奴可郡庄原駅ニ有志ヨリ組織セル一英学校アリ、僻地ノ常トシテ良教師ナキニ苦ム、依テ之ヲ同志社ニ招カントス、從來何等ノ御交通モ無之故小生ヨリ先生ニ対シテ紹介致シ呉候様、該駅之有力者田部香蔵(和田修次郎之從弟)氏ヨリ申来リ候故、不遠内ニ錦堂ヲ驚カシ可申候間、其余ハ金森氏ニナリトモ御示命被下充分之御尽力被成下度伏テ奉願候、我上毛事情モ乱テ如麻、甚タ痛嘆ニ不堪事モ有之候ニ付詳細公義兄ニ近々可申上候付、同氏ヨリ御聞取被下度候、大学養成者モ追々募集可仕候、御安神可給候、又文庫之件ニ付テハ関東部ハ已ニ金員モ払込候次第故、臨時無御油断(誠直)松本、岡崎両氏ニ御請求被下一日モ早ク設立相成リ候様御取計奉願候、大和事情ハ如何、右ニ就テハ小生甚タ不堪不審ニ事ノミ多シ、御聞知モアラハ御通知奉願候、小生モ先ツ自家ノ位置ヨリ一定セントス、不得止次第故何カ如房然タル者ヲ求メ様共決心仕候得共、未タ確タル見込モ無之茫然打過候、此地千態万状依例紅塵堆裏ニ喜喜罷在候、小生之境遇御憫笑可給候、先ハ右御返酬迄、書外後信ニ可申上候、早々頓首

四月廿九日

新井 毫

新嶋先生

侍史

乍末筆朝夕御自愛專(カ)一ニ奉祈候、八重様ニ別紙同様御鴻音奉願候

592

四月二十九日

元良勇次郎

①東京麴町区土手三番町

②西京寺町通丸太町北へ入

④墨

拝啓、過日ハ尊書御投与被下難有拝誦仕候、其後早速御返書可呈処、今日迄延引之段御海容被下度奉願候、小生将来之業務之事ニ付先生折角之御懇切なる御勸諭難有感佩之至ニ存候、然処小生此地ニ居候て致度と思事少々有之、御地とハ余リ隔離致居候間、可成ハ東京ニ留度と存候、右不惡思召被下度奉願候、先ハ貴酬迄、草々頓首

四月廿九日

元良勇次郎

新島先生

閣下

593

四月三十日

広瀬宰平

①神戸諏訪山

②西京寺町通丸太町上ル

親展

④墨

謹啓、不定之気節益御清適奉賀候、過日御紙面被下候処折悪敷不在中御回答を怠タリ不相濟事ニ候、さて弊老発足ハ爰許明一日ニ而、兩三日間大坂滞在東海道行横浜着ク、来月十一日出之郵船ニ而米国之渡航之心算ニ御座候、就テハ

当地御寄宿之西洋館を叩キ候処御上京之由、是又生憎之至ニ候、凡一ケ年間ハ不得美顔御互ニ健康を祝し再期を奉希望候、荊妻も携帯ニ付是よりも宜ク御伝言申上候、其御園内様え厚ク御一声被下度、右乍延引奉復旁如此御座候、
勿々謹言

四月三十日

在神戸諏訪山 広瀬幸平

新嶋尊兄
侍史

594

四月三十日

茂木平三郎

①群馬県緑林郡藤岡町

②京都寺町通丸太町上ル

平信

④墨

主之御恵下御沐浴被遊奉扨喜候、其後ハ御病氣如何候哉、誠ニ御疎遠ニ打過多罪之極ニ御坐候、却説、段々御配慮ニ預リ弊会義も去ル二十五日伝道教会設立相成申候、此日来会者ハ東京小崎氏、神戸長田氏及上毛ニ在ル牧師伝道師并委員各教会信徒ニシテ凡百人ハカリ、藤岡講義所創立以来未曾有之盛会ニテ、終日歎ヲ尽シ午后五時比散会致候、此夜会堂ニテ演舌会相開キ候処頗ル謹聴致候、二十八日安息日ニハ其結果ニヤ新ラタニ求道者起リ、受洗志願者等モ相起申候、二十六日ニハ長田氏同道ニテ大宮郷ニ出向致候、長田氏三泊し小生一泊ニテ相帰リ候演舌会ハ席之都合ニテ出来ザルモ、有志家夥多シク来リ懇談致、食事ヲ為スノ暇モアラザル程ナリトノ事ニ御坐候、殊ニ英学校之企テアリ、可成同

志社卒業生ヲ聘シ度由被申候、猶五月十日頃演舌会相開キ度望ミ居候、先大宮郷之近況概略申上候也

四月三十日

茂木平三郎

新島先生

二白、御玉体御大切可被成候、小生等只神ニ祈ルノミ、小泉はん義本年も伊香保ニ参リ、湯浅氏之御老母ト同居シ、信仰之糧ヲ得テ帰宅シ非常ニ相喜ヒ申候、昨年ハ先生ニ御面会致、本年モ前述ノ如ク誠ニ小泉はん之為ニハ伊香保ハ幸福之地ニ御座候、又愉快ナル事ハ小泉はんト湯浅御老母ト養蚕及宗教之演舌ヲ為セシトノ事、^{〔符〕}聴衆夥多シクアリシ由、尤モ小泉ハ養蚕餌養法ハ委ワシキ婦人ニ有之候、乍併其有様ハ如何ナル勢ヒニテアリシヤト想像致候、聊御笑ヒ草ノ為申上候也

595

四月三十日

鈴木 清

①神戸下山手通六丁目

②西京寺町通丸太町

④墨

拝啓仕候、去る廿七日ハ御機嫌能く御帰館被遊候条奉祝候、陳ハ廿六日夕御送付之御書面且金員等御預リ申上、其御答を致さざる已ならず御帰京之当日御暇乞も不申上、尚且其後も拙書を呈する事を怠り万々恐縮至極ニ奉存候、実ハ

旧主家之為少々奔走致し候ニより聊か疲労を覚候ニ付、不本意ながら態と怠惰致し候義ニ付御憐恕被成下度伏而奉願上候、御帰京後如何被為在候哉、定し無止之御用向多き候御事と奉遙察候、何卒充分なる御注意被成下度伏而奉祈念候、決而々々函丈自身之為而已ニ御養生を奉願候義ニ在らざる事を御記臆被成下度奉願候、先ハ右祈願仕度且ハ小弟之懶惰を謝罪せんが為め蒼卒如此ニ御坐候也

廿二年四月三十日

鈴木 清

新嶋函丈

閣下

二白、乍憚別紙奥様へ御伝被下度奉願候

596

〔四月〕

原 忠美

④墨

久しく無音に打過ぎ失礼之段御海容被下度万々奉願候、先生近来御病氣ハ如何に候や、幸に神之為ニ国家之為ニ慈愛されよ、小弟神之恵下にあり、無異伝教に従事致居候間御放念被下度候

該地方ハ近来宜敷都合に相成、御承知之通新潟にハ一致、組合之両会之存せし事なるか、神の優渥なる恵により過る

三日いよ／＼合併之祝会を催し、中々之盛会にてありしなり、此度一致合併したる所謂ハ単に祈禱^{〔以〕}之一事に御坐候、今年一月頃より一致教会之一人之青年給合し一人之青年、即二人之ものを合せて合併せん為ニ祈禱会を始めた事なるか、漸次此会ニ臨席するものゝ増加し、遂ニ全二教会をして合併せしむる事トなれり、「アメリカンボート」之起原も青年会之起原も皆二三青年之祈禱に原けり、神ハ弱きものを用ひて強きものを導き給ふ、北越学館ニハ森本介石氏教頭として来れり、新潟にても氏之評番^{〔判〕}よろし、白木正蔵氏今度該学館之教師として来校被致るゝよし、学館之為ニ可祝事なり

(G.E. Albrecht)
アルフクト氏同志社に行かるゝに付てハ中江汪氏も上京被致、再び同志社に入校致^{〔致〕}るゝよし

坂田忠五郎氏ハ五泉を立去られたり、只今新潟に働かれ居り候、何処か他処へ伝道致積之よし、今月ハ越後伝道士会を村上に催し、白石、坂田、スカタ^{〔H. Schuder〕}、原沢（村上之牧師）弟之五人相会し得し運動に付相談致積に御坐候、同志社大^{〔大〕}学寄付金之事ニハ出来る丈尽力致候（然れとも始め北越学館之一事ありしを以て集金惡し）、当地^{〔地〕}ニてハ第一集を民友社に寄送致置候、村上にてハ原沢氏、中条にてハ小管氏、五泉にてハ松田氏ニ募集を依頼致置候、二三日以前ニ新潟に出港致候間、加藤勝弥氏とも相談し、今度三百枚許之主旨書始末書を摺り、之を県会議員を始とし、豪農豪商有志家等県下之人々ニ配付し配布し何日迄ニ東北日報、新潟日々新聞、新潟新聞之三新聞社に送金する様相談致置けり、其手紙を付けて配布する人ハ萩野左門、樋口君なり

新潟教会ニハ古莊三郎氏を牧師として招く積之よし、草々頓首

597

五月一日

井深梶之助

②神戸港山手四十八番

アトキンソン氏方

西京寺町通丸太町上ル

④墨

拝啓、時下愈御清昌被為在候^{〔と脱カ〕}半奉賀候、

陳者日本文之改正憲法及規則ハ先日差上候故既ニ御落手相成候事と奉察候、

英文ハ活版之都合ニテ少々晚れ候得共、漸く出来候故不取敢横浜之活版所より直ニ二百部程アトキンソン氏へ宛差出

候様申聞居候、故ニ多分同氏より御受取ニ相成候事と存候得共、或ハ未だ御落手ニ不相成事もあらん歟と存、別ニ一

部差上申候、附録の方ハ只今製本最中故出来次第差上可申候、草々頓首

五月
四月一日

井深梶之助

新嶋襄様

598

五月一日

小崎弘道

①東京下二番町七十一

②西京上京区寺町通り丸太町上ル東側

親展 ④墨

其後ハ打絶て御無沙汰申上候、偕て先般差出置候修正之憲法ハ已ニ御落手之事と存候、今回ハ大分大切な所に修正を施し、迂生も頗る満足仕候、賢慮之程如何、御意見同度候、今日となり候ては組合会にても又々異論を申立てゝハ甚た不都合之事と存候故、若し御意見あらば以前に同度候、爰に御一考を願ひ度ハ愚弟成章之事にて御座候、同人義学資を得るの目的にて南カリフォルニアにありて商業を致居候処、昨冬大失敗を致せし様子にて今は何の望もなく空しく同所へ遊び居候趣なるが、何とか工夫して東方之学校に入れ神学中の一科を深く修めさせ度存候処、目下同人も資金無之大困却を為す際、如何とも為し難く、尤も東方へ参ればスコラルシップを得て神学へ入学致すは勿論出来ける事と信し候が、先づ東方へ参り暫時滞在致す丈け資金を与へ度存候処、先生に於て何とか宜き御工夫は無之候や一寸奉伺候、若し又然るへき人より信用を以て借用致す様之事を為し得可くは迂生が其借主になる分は差支無之候、先生にハ御知己之人多ければ或ハ米国なり、又ハ本邦にてなり、何とか御周旋は出来け申す間敷候や、尤も同人帰朝後ハ或ハ学校なり或ハ教会なり然るへき所に於て十分之働を為し、必ず其返済を為す事を得へき義と存候、右甚た恐れ入りたる次第なれども一寸貴意奉伺候、早々不一

五月一日

小崎弘道

599

五月一日 佐々城豊寿

①東京麹町区飯田町五丁目卅番地 ④墨

拝啓、陳者兼て申上置し音楽会出納表并ニ顚末漸々出来仕候間御送り申上候、其外右会ニて用たる書類并ニ切符等御一覽に供度候間御受納被下度奉願候、右ハ用事已勿々

五月一日

佐々城豊寿

新島大先生

閣下

①肥前深堀 ②京都府下毫相国寺門前 同志社

拝呈、時下春暖の候ニ御座候処貴下御病症如何ニ御座候哉定て日々御快腹〔復〕の事と存真ニ国家の為ニ奉慶賀候、次ニ愚生も無事消光罷在候間、乍憚御放心被成下度候、先きニ在都の折声咳ニ接し高愉〔愉〕を辱し真ニ銘感〔折〕、爾来何度も貴寓を訪問高愉〔愉〕を受度存居候得共不幸其節病痾の侵す処となり病窓ニ沈吟する二週間為ニ心ナらずも御無礼申上候、而して御面晤の時御話申上候学路〔ママ〕の一件愈々帝国大学出身ニ決定仕候間左様御承知被成下度候、然ルニ学路を此処ニ取ル付家計上少々都合も生シ候故一月間滞在の見込ニて病を扶ケ去月十四日俄カニ神戸出立帰県仕候、而して出立の折ハ寸閑〔ママ〕を造り訪諏山貴寓御尋仕候得共、已ニ帰都の事初〔ママ〕して承知、意を不果真ニ残念の致ニ候、理事も殆ト相済候間近々出都、再ヒ大学予備可致心込ニ御座候、希ハ爾来御見捨なく益々高論ニ浴スルを得ば真ニ満足の致ニ候、先は平生無礼御和び旁御見舞まで、国家の為ニ御自愛専一ニ願上候、草々頓首

五月五日

峯 彦郎

新島襄殿

貴下

二伯、在学嶋本誠兄ニも数度面晤仕候貴下御模様も申聞候、同人も無事事業上日々勉強追々成功の運ニ行ク可ヘシ存候、先は御安心

601

五月五日

中村栄助

④ インク 毛筆

御手簡忝奉拝見候扱テ今朝ノ御返答ハ和歌山行奉承知候義ニテ、早速ニ本日教会相済次第手続キ承知仕度候ニ付、金森氏御宅に罷り越詳細承り、帰路先生御宅に参堂可仕候積リ之处、青年会ノ方々ニ集会有之、直チニ帰り失敬之段御宥免被成下度候、何レ明朝九時ニ先生御宅江罷り越候義金森氏ト約シ置候間、詳細承知仕度存候、和歌山行ハ明日午後六時四十五ノ気車ニテ、大阪ヨリ夜舟ニテ罷り越候筈、之レ又金森氏ヨリ承知仕り早速御返事可仕筈之处、彼是行違相成奉謝候、且ッ又今朝御使ヘ書面ヲ以テ御返答可仕筈教会ノ時刻ニ遅レ候事ト存シ、甚た不行届ノ段之レ又御宥免被成下度、先ハ右之段申上度如此ニ御坐候、艸々

五月五日

中村栄助

新島先生

閣下

602

五月六日

川本政之助

①明石西本町 ②西京寺町通丸太町江上ル 報告書 ④墨 ⑥封筒裏書 新
島筆「返書出ス」、文中の朱丸、朱傍線は新島筆、付関連書簡 天城教会員
朽木兼三郎書簡(川本政之助宛)

〔新島朱筆〕

11.40
32.00
29.45
5.15
12.40
22.45
18.40

129.20
〔ママ〕

御壯健ニ被遊御坐候段奉大賀候、小生義速ニ御拝顔ヲ得テ事情詳細御話申上度存候へ共、差シ当リ教会之事務有之候
故ニ、先其迄ニ概略ヲ此の紙面ニ記シテ御報申上候、第一ニ岡山ニ参リ候処先般手紙ニテ申上置キ候通りノ事情ニテ
翌日直ニ天城^{〔朱丸〕}ニ至リ候、此の地ハ小サキ村落ニテ戸数モ至テ僅少、信者ニシテ此地ニ住居スルモノハ四五十名ニ過ギ
ス、他ハ皆三四里外ノ村落ニ居リ候、此の処ニテ演説致シ寄付金拾弍円四十錢申受候、此教会ハ新会堂建築目論見中
ニテ、費用多端為メニ寄付金も十分ニ出来不申との事ニ有之候、次ニ備中高梁教会ニ参リ候、此の地も会堂建築中ニ
テ有之候、信者一同此度の大学ノ為メニハ余程熱心ニテ大学ノ為メ特別ノ祈禱など開ラキ居候、亦先生ノ健康ヲ祈リ
居候、此ノ信者中ヨリ寄付金三十二円ヲ受ケ申候、金額ハ僅少ニ候へ共古木兄より承リ候へハ信者余程奮発之上ニテ
此ノ金額ヲ集メタル由ニ御座候、次ニ笠岡^{〔朱丸〕}ニ到リ候、即様会堂ニテ演説致シ候処二十九円四十五錢ノ寄付ヲ申受候、
次ニ備後国尾ノ道ニ至リ申候、此の処ハ信徒も十名内外より多く集リ不申、尤モ信徒総数ハ二十名程有之やニ候へ

共、何か教会ニ事情アリテ退会致シ居候、此ノ処ニテ五円五十銭ヲ受ケ申候、是地ヨリ伊予ノ国松山ニ参リ度存ジ候
 処、氣船ノ都合ニ因リテ直ニ讃州多度津ニ渡リ丸亀〔朱丸〕ニ到リ候、井手義久兄ニ遇ヒ此ノ地ノ模様御聞キ申候処、信者ハ
 男女共二十名内外、至テ貧民ニ御座候、中ニハ今日ノ渡世ニモ随分六ヶ敷様ノ人物も有之候程ノコトナレハ、寄付金
 ハ迎モ沢山出来難カラ〔ママ〕ンと事ニ有之候、然シ十二円四十銭ヲ申受候、随分奮発致シ居候由井手兄被申候、丸亀ヨリ今
 治ニ到リ〔△△〕候、此ノ地ハ小生か到ルニ先ンジテ既ニ百三十余円ノ金額ヲ集メ居候、依テ尚此ノ上尽力願度旨勸メ置キ、
 直ニ同国小松〔朱丸〕駅ニ到リ候、此地ハ信徒多くハ他国他所ニ転住シ小松ノ地ニ住スルモノハ至テ少数ニ御座候、戸数ハ僅
 七軒ニ御座候、且商家等ハナク、貧シキ士族ニテ御座候、此ノ地ニテ二十二円四十五銭申受候、此ノ中二年賦も御
 座候、次ニ同国波止浜〔△△〕到リ候、此ノ地も既ニ二十七円ノ金額ヲ信者中より寄付スル事と成リ居候、此ノ処ノ教会も三
 十名不足ノ信者ニ御座候、次ニ同国松山ニ到候、同地も信者ノ数ハ随分御座候へ共貧民ノミノ由、二ノ宮兄〔邦次郎〕ニ承リ
 候、此ノ処ニテ十八円四十銭申受候、然シ尚後ヨリ申シ来ル分も御座候由聞キ取リ候、此レヨリ広嶋、山口、馬関ノ
 模様ヲ聞キ合セ候、即手紙ヲ以テ尋ネ候処、馬関より同志社大学ノ為メ随分尽力致シ居候故ニ此レガ為メ態々巡回ノ
 御勞苦〔下上〕ヲトルニ及ハズとノ返答ヲ得候、山口よりハ何ノ返事も来リ不申候、広嶋よりハ来リ呉レとの返答ヲ得候へ
 共、松山今治等の聖書売ニテ平生広嶋、山口地方ニ巡回致シ居候人物ニ先方ノ模様ヲ聞キ候処、広嶋ハ教会も至テ不
 奮ノ由ニテ、寄付募集に出候とも左程見込ハ無之、却テ損益相償ザルノ恐レアラ〔ママ〕ンとノ事ニ御座候故ニ、小生ノ見込
 ニテ右ノ地方巡廻ヲ一先止メニ致シ申候、然シ広嶋ノ大谷幸蔵兄ヨリ寄付金少々集リ居候由申来候、此レヨリ帰途高
 松ニ立チ寄り候処、此ノ地も小生到ルニ先ンジテ既ニ寄付金ヲスマシ居候由、山岡兄より承リ候故ニ別段ニ演説も不
 致候、此地より直ニ神戸ニ歸リ申候、直ニ御拝顔可仕候、敝教会ノ為メ尽ク可キ事も御座候故ニ、一先直様明石ニ帰

リ居リ候事ニ御座候、備中高梁ヨリ美作ノ落合ニ巡回致すべきノ処、道路ノ悪シキ為メ車夫行キ不申、為メニ同地ハ後と廻ハシニ相成候、然シ態々参リ候事ハ左程ノ益有之候や少々躊躇致シ候、鳥取ハ村上俊吉兄ノ御話ニヨレハ行クニ及ハズとの事ニ御座候、故ニ是も小生巡回致す事ヲ止メ申候

右諸教会ノ寄付金ハ割合少額ノ様ニ御座候へ共、此レハ金額ヲ多く出ス様ナル人物ハ既ニ是迄ニ出金致シ居候訳と、

又一ニハ信者ハ大抵貧民ナルニ由ル事ニ御座候、右諸教会ノ中ニテハ随分大学ノ為メ熱心ナル人も見受候、婦人ノ中

(朱櫻)

ニも祈禱ヲ以テ大学ヲ賛ケ居候者ヲ見受候、先生ノ健康ノ為メ祈禱致シ居候男女ヲ見受候、信者中ニハ金錢ヲ以テヨリも心尽クシと祈禱と尽力とヲ以テ大学ヲ賛ケ居候者多く見出シ申候、如斯処々ノ祈禱ヲ以テ大学ノ成功ヲ賛ケ居候モノ御座候、以上ハ此ノ大学ハ首尾能ク成功スル事ハ実ニ毛頭も疑ヒ無キヲ思ひ、小生心中窃ニ喜び申候、右概略ヲ取り急キ御報申上置候、尚詳細ナル事ハ近々御面謁ノ上ニテ申上度心組ニ御座候、右様御承知被下度候、旅費ハ総計十三円程ニ御座候、御面会之節旅費詳細書と残金とヲ持参可仕候、先ハ右迄草々不一

(朱櫻)

五月六日

川本政之助

新嶋襄様

〔別紙〕

備後国尾ノ道教会

二拾錢

山岡吉憲

五十錢

林原イチ

三拾錢

桑原キヨ

二十錢

井上某

老円

桑原茂吉

五十銭

土井太郎

老円

守田幸吉郎

五十銭

守田ツマ

二十銭

守田某

五十銭

平野ツネ

五十銭

中本猪太郎

五十銭

平野四郎

但シ年々

但シ年々

備中国笠岡

十銭

小川スイ

小川リツ

桑田繁太郎

二拾銭

黒田ツネ

十銭

水川ムラ

老円

柚木吉郎

五十銭

江浪ソツ

三十銭

妹尾テイ

老円

浅野理三郎

老円

浅野富治

五円

浅野富平

老円

浅野亀

老円

浅野光

五十銭

浅野富太郎

五拾銭

浅野正七

五円

広井宗平

老円

柚木小太郎

五十銭

片桐鱗太郎

五十銭

三村仙弥

十銭

小見山寿員

同 小静

十五銭

小見山八九三

二十銭

矢野林夫

十銭

藤井誠三

十銭

藤井キリ

十銭 藤井小マツ

十銭 藤井アサ

匁円 須山繁三郎

匁円 谷本半十郎

三十銭 大島督太

拾銭 萩原福松

二十銭 小川奎太郎

十銭 妻木次郎

五十銭 江浪定平

伊予小松

○五円 長谷部倉蔵

但シ二度ニ納ム

十銭 喜多川タケ

十銭 宇佐美浪次

十銭 長谷部ツギ

十銭 長谷部又造

二拾銭
但シ二度ニ納ム 渡辺イチ

十銭 藤井寅太郎

五十銭 藤井源太郎

十銭 秋田亀太郎

十銭 三木源吉

匁円 西岡直吉

十銭 小川ツナ 桑田タキ

四円 江浪喜平

十銭 辻タキ

二十銭 小川富太郎

五十銭 喜多川明承

十銭 西阪寅吉

十銭 宇佐ミコマ (美) 同 コウ 同 喜久治

十銭 宇佐美デン 山内松太郎

五十銭 高橋繁次

但シ二度ニ納ム 長谷部ヨネ

十銭	木安常次郎	二十銭	矢野シユウ
十円	本脇祐孝	但シ二度ニ納ム 壹円五十銭	国本壮吉
二十銭	岡本愛吉	二十銭	金森武雄
二十銭	金森エイ	二十銭	金森倉太
二十銭	金森トミ	二十銭	越智芳太郎
二十銭	越智浅雄	十銭	越智音吉
十銭	越智ツル	十銭	星加キタ
十銭	星加伝七	十銭	矢野嘉太郎
十銭	藤井久雄		
十銭	田野長太郎		
讃岐国丸亀			
五十銭	松村種男	二十銭	青イク
三十銭	筒井英一	十五銭	林ユウ
二十銭	林峰治	十銭	浜田信平
十銭	青ミツ	二十銭	久保シヅ
二円	須崎金之丞	二十銭	金子柳太郎

三十匁

金子柳太郎

此分ハ一ヶ月二十五匁ツ、二度ニ出ス

十匁

尾岡栄久

十匁

尾岡鶴左右(カ)

三十匁

林康太郎

但シ三ヶ年賦

六十匁

林ハナ

四十匁

石川義治郎

十匁

中川マス

壹円

井手義久行

十匁

今西サキ

十匁

斉藤シゲ

三十匁

竹内ウタ

六十匁

林可彦

十匁

大内フジ

五円

岩瀬正太郎

讃州サカイデ

〔關連書簡〕

四月二十九日

朽木兼三郎書簡 川本政之助宛

拝啓、益々主之御恩寵之下ニ御送光被為在候段奉大賀候、陳ハ先日以来大学設立義捐金一条ニ付種々之尽力仕候得共、其際御物

語り仕候如く会堂新築等之企有之候ニ付意之如く運び不申、実ニ聊々御坐候得とも有志者左之通り献金申込候也

一金拾錢

備前児嶋郡天城

高橋久太郎

一金壹円

天城教会員

本多勝次郎

一同拾錢

同

同 てい

一同壹円

同

石川真砂

一同貳拾錢

同

同 たけ

一同貳拾錢	同	同	たか
一同貳拾錢	天城村上之町	大和	栄
一同壹円	新会員	高橋	庄次郎
一同壹円	同	山脇	恒
一同三拾錢	同	同	かつ
一同貳拾錢	同	同	まき
一同壹円	備中窪屋郡老松村天城教會員	板谷	弥兵
一同三拾錢	同	板谷	常三郎
一同三拾錢	同国同郡有木村天城教會員	藤森	勇
一同四拾錢	教會員	高橋	友
一同拾錢	同	同	太郎
一同拾五錢	同	垣見	まつ
一同拾五錢	同	同	実
一同壹円	同	朽木	忠次郎
一同三拾錢	同	同	知恵
一同貳拾錢		同	甚一
一同貳拾錢	備中倉敷村天城教會員	内藤	欣造 ^(カ)

一同三拾錢 天城教會員

一同三拾錢 津下豐次郎

一同五拾錢 天城教會員

一同拾錢 同 楨

一同拾錢 同 齡太

一同拾錢 同 孝

一同拾錢 同 貞

一同五拾錢 同 朽木兼三郎

〔朱丸・朱總〕

○計拾壹円四拾錢

〔上欄補〕

「一金拾五錢 天城教會員 渡辺弥多郎

〔朱冊〕

合計拾壹円五拾五錢也」

明治廿二年四月廿九日

川本政之助様

朽木兼三郎

二伸、右之金額ハ来月會議之節ハ必ス出伸可仕候間、其際取集ノ差出候間左様御承引可被下候也
再伸、乍憚新島先生ハ御面会之節ハ可然御鶴声奉願上候也

603

五月七日

市原盛宏

①仙台市南田町 ②京都市寺町通丸太町上ル 御親展 ④墨

雲章御惠投被成下忝拝誦仕候処、御病氣に今捗々しく御快復不被成候由、誠に心痛之儀ニ奉存候、拟小生洋行之儀ニ付而ハ先般来不一方御配慮被成下候由奉深謝候、一時ハ後任者之事に付き松平知事より少しく故障めきたる申立有之候様子にて、稍困難を生候へ共、遂に同君に於ても快く承諾相成、過日商議員会に於て公然承諾相成候間先以て一段落ハ相着申候、尤モ表向之年期ハ先以て貳年と致置呉レヨ、左スレバ後日に到リ尚老年延引之事ハ自分等ニ於て含ミ置くべしト、富田、遠藤之両氏より内談有之候間左様仕置候、又留主中ハ家族共へ毎月貳拾円宛御給与被下候事に相成申候、就而ハ小生も用意旁本月廿日比より母及娘を伴ヒ暫時故郷へ参向仕候筈ニ御坐候間、其途中是非拜顔を得て万縷可仕候也、先ハ拝復旁忽々拜具

五月七日

盛宏

生

新島先生

虎皮下

604

五月八日^{〔カ〕}

本城安太郎

①肥前長崎高島
②兵庫県元神戸区下山手通六丁目
女子伝道学校
ダツレ
一シ氏方 親展 ④墨

謹啓仕候、蕩児ガ愛ヲ慈父ニ求ムルガ如ク屢々御難題ヲ申請恐懼ニ堪ヘ不申候、然ルニ愛先生台下私ガ撒但ニ近キノ狂愚ヲ能ク寛容シ玉ヘテ恂々トシテ信実ナル徳風ヲ遠ク吹キ送ラセ玉フ御心事コソ肝銘仕候、却説、私ハ決シテ少成ニ甘シ難ク他年白骨トナルモ必ス忘レ難キノ一事御坐候、蓋ハ身積年鉄窓之辱ヲ受ケ、教育ニハ違ヒ時勢ニハ驚レ英語ハ知ラス眼界ハ狹隘ニシテ甚タ微弱ナルモノニ御坐候、微弱ナル眼界ヲ以テ伏テ後來之日本ヲ思惟仕候ヘハ土地所有之不正ヨリ勤勞ト報酬之不公平、強者ハ益ス強大ニシテ弱者ハ益ス微弱、時勢ニ御利口ナル井上様^{〔聖〕}ハ強者之自治党ヲ編ミ玉フナレハ、私ハ自信鍛練ナル信仰之腕力ヲ以テ、聖靈之劔ヲ提ケテ、命数タニアラハ他日必ス弱者之自治党ヲ耕シ可申歟ト感シ申候、高島炭坑之事ハ一ニ御教ヲ遵守仕居候、暴動鎮撫之當時却テ社員ヨリ諂ヲ受ケ、併シ私ハ決シテ傲リ不申、御教誡ニ則リ益ス謙遜、扱テ是ノ謙遜ハ甚タ美々歟ハ候ヘ共小心翼々、場合ニ於テハ大ナル姑息ニ入リ申候、蓋シ会堂之義モ目下修営中ニ御坐候、落成之上ハ御暇ヲ告ケ功成リ身退クトハ私之甚タ冀望仕候処ニ御坐候、私ハ眼界開拓時勢通觀之為ニ序テ乍ラ知己海舟老先生之御愛庇ヲ蒙リ、慶喜候之^{〔侯〕}深窓ヲ拝シ、早晚米国ヘ渡航仕度候ヘハ常ニ普通ナル英学ヲ修メント奉存候、先回ハ不図之考ニ因テ信者ニシテ英学達者ナル淑女ニテモ醜婦ニテモ豪胆ニシテ私之志ヲ資ケ呉レラレ候女丈夫モ御坐候ハ、愛先生台下ハ私之目的相達シ候様御祈禱被降候ト迄御申送被^{〔題〕}

成下候ニ付、蕩兒ガ慈父ニ愛ヲ求ムルガ如キノ御難題ヲ申請候、毎度聖書御送被降辱ク奉拝謝候、乍遲延当社ヨリ不
日同志社大學義捐金御送可申上候、新聞紙上ニテ拝見仕候ヘハ礼拝堂二階破壞墮落仕候赴、幸ニシテ大負傷モ無御坐
候テ宜敷事ニ御坐候、早速御見舞ハ葉書ヲ以申上置候、時下不順主之御為ニ御自愛奉希候、先ハ要用迄如斯ニ御坐候
也、草々謹言

主ニ在

愛新島先生

台下

主ニ在小弟 在高島 本城安太郎

百拝

猥言ヲ呈シ恐懼ニ堪不申、素ヨリ無教育之私ナレハ唯タ虚心ニシテ台下之御高教奉希候、近作之絶句御叱評奉

願上候

握耒欲耕真理園 勿貪勿盜說天源 満堂白日衆群衷 吾亦偶偷保路言

〔雜〕

605

五月八日 鈴木 清

①神戸下山手六 ②西京寺町丸太町上ル 親展 ④墨

拝啓、陳ハ本日区役所ニ招喚せられ出頭候処、昨年九月買入相成候女学校門前之地面五十式坪之内、三坪新道路へ寄付致す事ニ昨冬決定相成、既ニ新道路敷地と相成居候、然るを今回裂地届を可致筈ニ有之候旨申達候間、別紙調製為致申候間何卒御調印被成下度奉願上候、忽々敬白

廿二年五月八日

鈴木 清

新嶋函丈

閣下

〔朱印〕

襄

御調印被下候ヶ所ハ五ヶ所ニ御坐候

606

五月九日

川本泰年

①神戸下山手通七丁目

②京都 同志社

④墨

邇来御無沙汰打過無申訳候、愈御万吉御起居可被成奉拝賀候、
諸過日申上候浦木弘氏（兵庫縣勸業課ノ人、兵庫教会
ノ人）エ出張被致砌、其地方ニテノ有志家ニ接話有之際、同志社設立ノ件談話被下候事相成間敷哉、新島先生も望テ
居ラレタリト先日申述置候処、昨日来ル十一日頃より兵庫縣下ノ大半ハ巡廻いたし候ニ付、公用ノ余暇可力及賛成者
求度旨被申来、又右趣意書三四十枚御贈リ被下度旨申来リ候、御有合も有之候ハ、小生方迄御廻贈被下度奉願候、御
奥様へ宜敷御致声奉願候、不具

五月九日

川本泰年

拝

新島先生

玉几下

607

五月十日

川上八三郎

①北海道札幌区南一条西二丁目十二番地 実相寺利氏方 ②西京 同志社
平安 ④墨

春暖ニ相向ひ候様ニハ御座候へ共当地ハ桜花も未た不笑候、陳ハ尊殿愈御清安奉謹賀候、此度友人より承り候処ニ依れハ同志社礼拝堂破損負傷者有之候由、学事多忙ニ而新紙を不見候故如何なる出来事なりやを詳かにせず候へ共、万一御被災ハ無之哉と心配罷在候、仮令御親族等ハ御無事なりしとするも、同志社学校之生徒御災難ニ相逢ひ候事ニ御座候ハ、教父教母之御重任ニ当られ候事なれハ御愁傷之程奉遙察候、神徳赫々必ず哉御慰安を得候事とハ存ながら人事之繁雜諸種之御配意ハ免かれ難き事ニ奉愚考候、先ハ御安否相伺度如此ニ御座候、拜白

五月十日

川上八三郎

新嶋襄殿

同八重子さま

五月十三日

不破唯次郎

①上毛前橋神明町三番地

②京都寺町通丸太丁上ル

④朱、毛筆

(Mrs. E. J. W. Baker)

本月十日御認之御尊書且バーケル氏ヨリ之書状共昨日来着奉拝見候、上毛各教会も合一ノ儀ニ付てハ満足之意ナク、前橋ノ如キハ会員中合一ノ為ニツニ分レ、愈々合一スルニナレバ前橋ニ二ツ教会ヲ設立スルニ及ベシ、故ニ小生ハ先生之御返答ノ如ク組合全員ガ満足之上合一出来レバ好都合ト申シ置ケリ、此度ノ會議之都合ニヨレバ小生も一身上ニハ大ナル變事有之ベク存候、三四日跡人見、田中両氏參ラレタリ、何レ田中氏ハ近々御地へ參ルベシ、此夜代人ヲ前橋ヨリ出スカ否決定スル積ニ御坐候、若シ出スニ決定候得バ直ニ小生ハ御地へ向一ツ先出發ノ心組ニ御坐候、バーケル氏之今日返事出ル同氏ノ親切ナル事ニハ驚入申候、小生ハ此程ゼームス、マルチイ氏宗教論ヲ勉強仕候、フイリツプ、ブルツク氏ハ此夏日本遊レル由ニテ、上毛へ同氏ヲ招ク積ニ御坐候、此事当地中学校外国人ヂエフレース氏ノ尽力ニヨル、昨日一寸杉田氏ヲ尋候処、同氏も日々全快之由ニ見ユ、先日之物ハ一致大先生ニ小生之名ヲ以テ尋候処、今日迄も返事来ラズ、何レ不日返事有之事と奉存候、跡土曜日ニハ倉ヶ野松本氏ヲ尋申候処、同氏ノ業も目今困却ノ由ニ承ル、高崎教会ノ己立主義ニハ困申候、此夏ヨリ松尾氏来ラバ都合ヨカルベシ、此度神戸之會議ニハ相成ベク上毛各教会ヨリ代人ヲ出シ度キ議内々相談仕候、若シ上京セバ種々承り度、且ツ種々申上度奉存候、御令室様へヨロシク御伝へ被下度奉願候、吾妻ノ原町且藤岡ノ二ヶ所ハ伝道教会ニナリタリ、右ハ御返事旁々御礼迄、早々失礼再拝

五月十三日

不破唯次郎

新島先生

609

五月十三日

大野侗吉

①愛媛県松山湊町二丁目 ②西京今出川通相国寺前 同志社学校 ④墨

謹テ一翰奉啓上候、先般ハ拝謁ヲ辱フシ高諭拝承、且又美饌ヲ賜リ別テ難有只卑夫鄙野ニ罷在、都様之洋食ニ慥レ
ズ、折角之高意ヲ十分ニ拝味不仕ル事ヲ慙悔仕候、爾来伊勢ニ入り尾州ニ出デ尋デ神戸ヘ罷越シ常盤亭ヘ相伺候処、
折柄貴客之逗留ニ対シ御多忙ト恐察シ、旅亭畠中ヲシテ其旨御挨拶相囑シ一旦帰松、再ビ広島ヘ参リ昨今帰屋仕候間
右御答札御挨拶申上度、恐惶謹白

明治二十二年五月十三日

大野侗吉

新島大先生

閣下

二白、追々暖和ニ相成候得共不相変御養生專一ニ候、此段邦国ノ為メ、御校之為メ祈リ奉候也

610

五月十四日

北垣国道

④墨 ⑥親展

拝読来論ハルリス氏寄付金之義委細敬承、不堪感佩之至候、全ク先生御精神之貫徹スル所之結果尚将来之発達ヲトス
ヘク、為国家為同志社謹テ奉賀候、両書記官其他同志者ニも早速報道、一層励精尽力可致候、右得貴意度艸々、敬酬

五月十四日

国道

新島先生

別冊鉄道問答は昨年十月、小生二三之友人ニ答エタル所ヲ録シタル者ニ有之候、御一読願上候、再具

五月十四日

鈴木 清

①神戸下山手通六丁目

②西京寺町丸太町上ル

④墨

山本様へハ只今電報相発し申候

拝啓、山本御令嬢本日午后三時半御来神相成候ニ付御出神之理由御尋申上候処、
〔久菜〕 今朝京都御発車大阪ニ而テイラ氏〔Wallace Taylor〕

診察を受られ候処、徐々ニ御勉強被成候事ハ宜敷かるべしと被申候由、而してブラオン氏〔Emily M. Brown〕へ之書面も御持参ニ相成候

ニ付、過日之御尊翰ニも難随場合ニ有之候間拙家ニ御止申候、女学校へも早速御出ニ相成候処テイラ氏之書面有之候

為かブラオン氏承諾被致候由、就而ハ武科ツ、之御就業被成候事ニ相成候由ニ候間先々御安心被下度候、先般来家内

より奥様へ色々申上御心配相懸候段今更御氣之毒ニ奉存候、何分素人之事故医師之言と教師之命を信じ其儘ニ蔽ふ所

なく申上候義なれば御海怒被成下度候、乍併本日テイラ氏書面を添へ学校へ被送候事ハ御病状大ニ宜敷事ニして、テ

イラ氏も前日之考とハ変り候事と被存候、御本人之為め甚た祝する処ニ候、右之次第ニ候間暫時御模様を伺ひ可申

候、若し聊かニ而も御模様違ひ候事有之候ラ〔ママ〕へバ早速ニ可申上候、先ハ不取敢早々採筆如此ニ御坐候也

廿二年五月十四日夕

鈴木生

新嶋函丈

閣下

612

五月十四日

大和 博

①筑后国三池集治監

②兵庫県神戸港諏訪山和榮園

④墨

鄙章拝呈仕候、時下易凌相成候処、閣下御容体如何御坐候哉、其後御起居モ伺ヒ不奉多罪奉拝謝候、過日貴地ヨリ帰
リ来候人ヨリ伝聞仕候得バ、大能之御深恤ヲ以テ、閣下御病痾モ日々御快癒之由恐悦奉存候、本年ハ全国一般不順氣
之様御坐候得ハ一層御摂養奉祈候、過般同志社大学義捐金募集之御囑托ヲ拝受シ、当監ニ於テモ典獄ヲ首メ重立タル
人々ヲ誘役候得共、御来意之万分ニ酬ヒ奉ルノ結果ヲ受ス、僅ニ拾六円余（集治監ノミ）ノ集金ヲ得候、右ハ幸ヒ過
日民友記者徳富君ノ来三アリタルヲ以テ、当地集金委員ノ手許ヨリ共ニ御渡申置候得共、些少之集金却テ御報仕ルモ
漸愧之至リ奉存候、蓋シ当監ハ創設已来仏教之説ヲ用ヒ、教誨師始メ看守等ニモ本願寺出身之僧侶ヨリ奉職仕ルモノ
多ク、夫レカ為メカ基督教主義大学ナゾ称スルトキハ一種不可思議的風潮之為メニ遮ラレ、思ハ敷集金ヲ得サリシハ笑
フヘキ次第ニ候ヘ共、是亦是非モナキ事ニ御坐候、何卒右様御推諒被成下度奉願候、先ハ御起居御伺旁右申上度鄙礼
如斯御坐候、敬具

五月十四日

大和 博

新島先生

閣下

再拝

二伸、氣候折角御自愛御保養專一奉存候、乍末筆御令聞ニモ可然御鳳声奉願候、謹言

613

五月十六日

徳富猪一郎

⑤ 森中章光享（孔版）

肅啓、近来ハ殊ノ外雨勝ニテ或ハ飢饉の前兆ニハアラスヤと掛念罷在候、御起居如何、同志社寄付金及び合併非合併に關する同志社教会ノ実況御報被ニ成下ニ奉万謝候、頃日人見、田中の二氏上州巡遊仕、從て幾分の勢声ヲ恢復したる由ニテ御座候、委細ハ人見君年会ニ出張可仕候間其の砌り言上可仕候、内閣紛々擾々タリ、近日中一變動アル可シ、時下先生ノ万福ヲ祈ル、勿々頓首

五月十六日午後五時半 苦雨凄々たる民友社ニ於て

614

五月二十日

花畠健起

① 神戸海岸通五丁目

安藤内

② 京都寺町通丸太町上ル

御直披

④ 墨

一書拝啓、出神之節はとりいそぎ余ニ御相談も不仕御無礼申上候、小生事午後三時過着神仕候間左様御休神被下度候、当地の模様ハ爾来統々御報道可仕候、扱一昨夜土佐教会之代員上京、小生ニ赴会可仕被勸候得共、小生之素志あ

りて相断申候、本日静ニ相考申候処此事ハ一応先生ニ御相談可致事を打忘れ実ニ相済不申次第ニ御坐候、此段ハ千万御推恕被下度奉希候、帰京後ハ尚又小生之素望等委細言上可仕候間何卒左様御承知被成下度候、小生ハ種々先生ニ相窺申上度候得共御病勢を加んことをおそれ打扣候、小生の将来ハ神のため、国のため心力を尽すの外無之、御逸志を体認し之を成すの外無之候、小生之素望も大抵先日書翰ニ認め陳述致候外別ニ変りたる事も無御坐候、土佐教会代員一件ニつきてハ先生ニ一言も陳述致さざりしハ無念之至、此段御推恕を仰ぐため一筆申上候、とりいそぎ乱文御高免可被下候、匆々再拝

五月二十日

花島 健

拝

新島襄殿

御侍史

615

五月二十三日

花島健起

①神戸下山手通六丁目五百九十一の四 小松崎方 ②京都寺町通丸太町上ル
御直披 ④墨 ⑥(消印) 神戸二十二年五月二十二日リ便

拝啓御尊状難有拝読、御尊志の趣是又委細了承仕候、昨日諏訪山下ニ小集会をひらき、修正説の委員丈打寄、修正の点丈略下相談仕候処、大抵同志社教会の修正説と同じく候間此段申入候、本日ハ宮川君議長ニ撰定せられ、種々の議

論も差起候得共、議決之重なる点ハ伝道教会の代員ハ正議員の数ニ入れず、只番外議員席ニ在りて発論動議之權を有するものと相成候、小崎君の動議ありて懇談会をひらく動議御坐候得共、小數にて消滅、直ニ憲法の逐条審議ニ取懸可申相成申候、今晚ハ七時より開會、多分憲法も數条討議可仕候、中途にして此前大阪會議之如き事御坐候ハ必ず修正説を主張する人にも之ニ応するの策をとり可申、此辺ハ御懸念被下間敷、此度の會議ニハ随分議論紛々、為めに議場の静肅を妨ぐる事も可有之候得共、情実を容れず、リーズンニ訴へ、十分聯合の利害憲法の是非を審議仕度覚悟ニ御坐候、兎も角もよも御懸念被下間敷呉々奉希上候、勿々不備

寢

五月二十三日

花 晶 健

新島襄殿

616

五月二十四日

海老名弾正

①神戸 池田屋 ②京都寺町通丸太町上ル 拝復 ④墨

昨夕尊諭落掌、議會出席途中ニ候ニ付直ニポケットニ入レ昇堂候処、議場噴火痛快之余リ何モ忘却、今朝思付拝披候、確君之現状ニ付御両親方御承知被致度ハ実ニ察入申候、然トモ一朝一夕ニ見変タル人物タルハ誰レモ六ヶ敷事ニ

候間、確君モ更ニ御變リ無之ト存仕候、唯々艱本貧乏生否自貧生供ト同寮故、確君モ素朴タラサルヲ得ザル場合ニ被居候、ランブ位ハ校中第一等カト被見受申候、此ノ如キハ眼ノ為最モ必要ナル品ニテ、小生予テ出張スル所ニ御坐候、御購求ノ品ハ皆上等ニモセヨ必要品ニ御坐候、時々都人ニシテ嘸々ト御推察申候事モ有之候得共、決テ姑息ヲ懸^{〔ママ〕}ケサル致居候、同君一ケ年ヲ堪エラレ候ハハ先安心ナラン、尚夏休業中生徒中薩摩地方漫遊之積、確君ヲ是非共仲間ニ入度候、此事被行候ハハ大分気骨モ相立可申ト被存候、御両親様方ヨリ当分頗ル敎敷御勵マシ被成下度心願ニ御坐候、決テ都ニ帰ル見込ハ無之感情ヲ起サレル様希望致処ニ御坐候、目下之現状ハ別状ナシトノ事ニテ、先ツ御両親様モ御安心被成下候様先生ヨリ御伝声之程偏ニ希上候、敬白、乍序不日参館之積ニ御坐候、余ハ拝顔ニ讓ル

五月廿四日

海老名弾正

新島襄先生

五月二十五日

広津友信

①神戸下山手通六丁目

小松崎方

②京都寺町通丸太町上ル

御直披

④墨

天父御導之下ニ議會ニ列し、一致組合兩教会合併問題ニ付兼テ確信スル所ニ立チ公明ニ真実ニ其利害ヲ論し、最良之手段ヲ經テ正當ノ合併可致様議致候へ共、我儕之意見十分ニ採用セラル、事ナク、我儕青年之議論ハ老實徳望アル方々ト相協ハズ、甚タ不満ノ至ニ存候、小子ハ今度修正シタル憲法ノ下ニ兩教会合併シテ遂ニ如何ニ成行ク可キカラ預知セズ、只タ天帝ノ我儕ノ上ニ御手ヲ按キ給ハン事ヲ祈ル、已ニ憲法ノ全部ハ一次、二次、三次会ヲ經テ昨夜議了致候、今夕ハ多分ハ概則ノ部ニ議シ及ブ可ク存候、我儕ハ当初ヨリ公明ノ手段ニ依リ同志者ト共ニ謀リ正論討議致候、此上ハ是非ハ公正ナル評者ノ意ニ任セ、我儕之自家ノ確信ニ立タント決定致候、小子昨日直ニ帰校可致哉ト考ヘ候へ共、万事添ハサル中ニ帰リタリトテ無益ノ事ナレバ、十分今後議事ノ終決ノ上、諸氏ト謀リ向後ノ処置ヲ相定申度候ニ付、全会ノ終ル迄更ニ互ニ隔ツル事ナク共々協議致し度存候、来月曜日頃迄ニハ何トカ十分決定候手数ニ相及ブ可ク存候、今ノ模様ニテハ格別ノ圭角ヲモ生ゼズ、合非、穩ニ相定マランカト存候、先ハ要事迄、早々不整

明治廿二年五月廿五日

広津友信

新島襄先生

閣下

618

五月二十七日

岡部 広

①東京深川消防分署隣

中村方

②京都府三条上ル

親展

④墨

拝啓、逐日暖^ニ和^ニ相加^リ候^ニ処^ニ近^ニ来^ハ殊^ノ外御無音ニ打過、誠ニ以テ申分無之平ニ御海容被下度候、先生御病氣如何、日夜御案事申上候ノミニ甚タ不行届ノ段奉謝候、昨年県会中御校寄付一件ニ付テモ実ニ不都合千万ニテ何ニトモ赤面至極ニテ申上候モ無之、木部書記官モ夫々各郡長ヘモ示談有之趣キナレトモ多数仏教徒致方無之、小生ハ近來ハ無奈念昨年来ノ北陸鐵道ニ從事罷在候、此度ナト許可ヲ得ル迄ハ帰県不仕決心ニ御坐候、内閣ニ於テハ木ノ芽嶺ハ官設ニ相定メ、武生ヨリ恵迄〔氣比〕ヲ会社ニ許可ノ趣キニ決定相成候共、何分鐵道局長反對ニテ容易ニ六ヶ敷、之ハ畢竟北陸鐵道モ彼官設鐵道ト共ニ十五銀行ヘ払下クル計画ノ由ニテ、北陸人民ノ不幸御推察被下度候、政海モ此中來非常ニ波荒キ処、今日ニテ先々無事ニ相成リタル事ナル歟、南海ノ老翁〔續〕モ頗^ニ政海ニ飛入ルノ都合ニ候^ニ處、長海熱心ニ之レヲ防キタル趣キニ相聞^キ、大同団モ一將功成万骨枯ルノ類ニテ今後亦タ可動ト存候、此中齋藤修一郎氏ノ宅ニテ麻生英和女学校ノ教師平岩氏〔懷保〕ニ面会、此人ハ先生ヲ承知セラル、哉ノ趣キニテ、先生ノ御病氣大ニ心配罷在候、当地ヘ御用向有之ハ何事ナリトモ御申下シ被下度候、近頃ハアマリ御無音ニ打過ニ付御近況伺迄、勿々頓首

五月廿七日

岡部生

新島先生

乍筆末何卒御令室様ニ宣敷御伝声被下度候、亦タ此中御校ニ何ニか演説ノトキ女生徒ナトニ負傷云々其節新紙ニ相見、サシタル事無之候歟御案事申上候

619

五月二十九日

加藤勇次郎

④墨 ⑥封筒裏書 新島筆「社長ト校長、総長」

拝啓、益御全快ニ御趣之由、恭賀此事ニ奉存候、陳者予而教員会ニて指名ニ相成居候森田氏并ニ小生洋行之義、今回之評議會ニ於テ何卒可決被成下候様御取運セ被下度奉伏願候、若し万一ニも金員之御都合ニて相運び難き次第も御坐候ハ、有志者中より借用之御運ニハ出来申間敷候哉、何ニセよ是非々々当夏より彼地へ渡航出来候様御取運セ之程懇願之至ニ堪へず、実ハ御面晤之上小生之胸中逐一申述度存居候へ共、御多用中却而御妨と存候間、草紙秃筆ヲ以開陳仕候也

五月廿九日

加藤勇次郎

新島先生

玉机下

620

五月三十日

北垣国道

②親展 ④墨

拝読、然者小生病状御尋ヲ蒙リ御厚情忝奉謝候、サシタル事ニモ無之候間此段御放慮願上候、扱ハルリス氏寄付金尙又多額之増加有之候趣拝承不堪感佩之至候、外国人ハ如此義ニ勇ミ仁ニ厚キニ、何故家人人ハ冷淡ナルヤ、ハルリス氏之特志ニ感激スルト同時ニ家人人之薄キヲ慨歎シ且ツ深ク恥入申候、余ハ期再晤、艸々敬酬

五月三十日

国道

新島先生

621

五月三十一日

宮川経輝

①大坂玉江町耆町目 ②京都寺町丸太町上ル 大学用 ④墨

昨夜ハ御饗応ニ預リ難有奉謝候、陳ハ大学書記之義広瀬源三郎氏ニ示談仕候処、乍不及十分尽力致度候間謹而御請可申上との事ニ御座候、就而ハ来周月曜日より上京仕候ても不苦との事ニ候間、何卒金森氏と御相談之上何分之御通知

被成下度奉待候、月給之義ハ二〇ニテハ立行がたしとの事ニ付、二十三円位ハ御支給被成下度、先ハ右広瀬氏御請之段申上度、勿々拝具

五月極日

宮川經輝

新島襄様
侍史

622

六月四日

綱島佳吉

①大坂江戸堀北通り五丁目 森田清七方 ②京都寺町通り丸太町上ル 御伏願 ④墨

過日は久しふりに御快談に接し一方ならざるよろこびを得申候、小弟義四五日前より少々不快にて服薬罷在候処、最早全癒致し候ゆへ明後六日当地出発帰福仕候、帰路東京よりは非一の「ラルガン」を請求致し、もち帰る積に御坐候間、過日御依頼申上候通り此度は福嶋の為に格別先生の御助力を仰き度、何分の御配慮十二分の御投金被成下度偏ニ奉願候、草々頓首

六月四日

綱島佳吉

新嶋先生
坐下

二白、今回茂木平三郎氏カ上原権太郎氏カ兩人の内一人福嶋に来る事になりたれば、爾後一憤発して相働さ度存念に御坐候

623 六月五日 下村 房

①熊本新屋敷町四百十番地 ②京都寺町通り丸太丁上ル十三番地 ④墨

御手紙被下有がたく拝し上奉候、益々暖気の節に相成候へどもいよ／＼御揃遊バレ御機嫌よくあらせられ候御事数々御目出度奉存候、然処此度金子十五円御送り被下候有がたく、且つ此五月よりハ一ヶ月に五円づゝ御恵み被下候と仰せられ誠に有がたくハ御座候へどもあまり恐おふく奉存候、孝太郎長のるす中御しんせつの御恵みニ相成候上、猶又御恵金御増被下候との御事重々御礼尽しがたく奉存候、孝太郎事も早おひ／＼と帰国致申事にて御座候、佐候らへバ猶又御世話に相成候事ならむ宜敷／＼奉願候、恐ながら御奥様初皆々へよろしく御つたへ上被下度候、どふぞ／＼御前様初め奉り皆々様御無事のはど祈上奉候、次ニ私事も御かげによりて何のさわりなく打暮居申候間午憚佐様思召被下度候、実になはぬ筆にて候間御めんどふと存上候間先ハ御礼まで申縷候、御目出度かしこ

六月五日

下村母

六月六日 小崎弘道

①東京麹町区下二番町七十一番地 ②京都寺町通り丸太町上る 親展 ④墨

六月二日御認之芳翰正に落手忝く拝承仕候、貴書之趣少しく解し難き所有之候間更ニ尋申上候、先生之御趣意は先般之総会議決は過激強迫然たる所ありたるか故、其議決にハ御不同意との事にて御座候や一応御伺申上度候

偕て議會之事情其真を尽さざる所あり、為めに御誤解あらんことを氣遣ひ申候間、当日之事情更に陳述可申候、御存之通り迂生は何処迄ても平和を主とし、成るべく調和せんとの望にて彼地に至り會議を開く以前、二三の人に其旨を語り申候に、一時之に同意せし趣きなりしも、同夜憲法に反対する若干の人々會議を開き（迂生には通知せず秘密に開きしものなり）調和策に反対し始めより議場にて対論すべしと決せし趣にて、翌日迂生か議場にて其説を述ふるや、若干の人々何れも迂生の説に反対し、正々堂々議場にて対論すべき事と主張せり、迂生は之を以て甚た遺憾に思ひたるも如何とも致し方なければ、若手之人々の欲するがまゝ為し置きたり、議事開けて後、若手の人々主張せし所を聞きたるに迂生の心には如何にも偏避なりと思惟する議論多かりしを以て、思へらく、若し斯る議論組合教會議場にて勝を制するときは我教會は此迄なりと、依て迂生は飽く迄之を排撃すべしと決心し、他人の目から見たら幾分過

激にありしか知らざれども、主の爲めを思ひ、組合教会の爲を思ひ、國の爲を思ひ、力を尽くして之を排撃したり、然るに議員の多分は幸に余か輩の説を賛成しけれ、多数にて可決致したる訳にて御座候、御書面中強迫かましき手段云々の言ありたるか、幾分か斯の如き事なかりしには非ず、是れ迂生も甚た悲む所なり、然れども強迫手段は誰か始に之を用ひたるか、即ち少数の反对者か、若し余輩が言を容れざれば分離す云々の言を吐きたるによる、今少数の人々より己の言を用ひされば分離すと強迫し来るときに於ては多数の人々は之を容るとするか、若しくは他の教会にて分離すと云ふとも之を決行す断言せざる可らず、先生其場に御臨みなくして斯の評を御下しあるは寧ろ哥酷(一カ)と云はざる可らず、且つ此に一考を願ひ度は組合教会は数多の人々の集つて一体を為せる教会なり、已に数多の人々にて成り立つ以上は何事を決するにも會議を催し多数決を以て行ふべきは当然にして、若し少数の人々強迫手段を以て多数を圧するに至らは到底教会の政治なるものは行はる可らず、勿論大事を議するときには幾重にも鄭重に鄭重を重ね、為し得べき丈けの手を尽さる可らず、然れども十分の手を尽くして尚ほ不平を鳴すものあらば是致し方なきなり、先生願くは爰に御勘考あらんことを乞ふ

先生の御位置は迂生には少しく判然せざるが、先生は合併には同意なれども、合併を實行する組合会の手段には御不同意との事なるか、此辺十分明白に御明言あり度存候、果して然らんには、先生にハ如何なる手段を以て合併を實行すべきか御勘考なるや承り度候、先生之御意見或は全会一致を以て合併を實行すべしとの事なるか、若し先生の御意見にして斯の如きとせば、迂生は其意を解するを得ざるなり、何となれば数十の教会、数千の信徒尽く同説にならん事は黄河の清まんことを待つと一般、幾年待つても到底其望なかるべし、若し斯の意見を政治上に用ゐる(カ)、一個の教会に用ゐるなば如何、到底何事をも行ふ可らず

兄弟壇に閱けとも外其侮を禦くとの諺もある通り、今や吾人の周囲に敵軍雲の如くに集り来るときに於て、生等は成るべく基督教會のみならず組合教會内の平和を保ち度は万々の義に御座候、此時に際し生等か先生に向て希望する所は今や合併の議に對し不平を唱ふる者は僅々二三の教會にして、然かも其教會員中先生の御意見判然たらざるか故惑ふ者も少からざる次第なる時に當り、先生に於て其意見を御表白なり公けに私に幾分か其信徒をなだむる事に御尽力ありたらは合併の事業十中八九迄は無事に結了致す事と存候

若し先生にして此挙に出てずして、若手の反對者の方を持ち、組合教會多数の人々に對し其所置に御不同意を御鳴らしあるに於てハ、幾分かの教會は必ず多数に對して分離するに到らん事明白なり、若し之か為め合併の事中止するに至らんも、後來組合教會の分離は到底避く可からざるに至らん、是れ迂生か将来我組合教會の前途に於て甚た憂ふる所に御座候、先生の一挙動実には非常の結果を我教會に來す可き事を信すれば、願ふ所幾重にも其御挙止に御注意あらんことを希望仕候、且つや、同志社大学之大業も前途に横はり居れば、若し今回の事にて分離でも生するに至らば由々數大事と甚た心痛仕候、迂生は一己に於ては確乎たる主義を有するにも拘らず、此調和には幾重にも力を尽す積に御座候、殊に同志社第一の卒業生と先生の間の親睦の爲には、如何なる事をも爲して之を全ふせんと常に心に掛け居候

以上迂生が心情を遠慮なく吐露したる所にて御座候、言少しく失礼に渉る所あるを免れず、此辺海容の度量を以て十分御宥赦あらんことを乞ふ

六月六日

新島襄先生

小崎弘道

拝

625

六月七日

宮口二郎

①静岡にて ②京都上京区寺町通丸太丁 ④墨

謹啓、陳者豚児病氣ニ付特別之御高庇ヲ蒙リ、加ルニ昨日ハ御病体ヲモ厭ハセラレズ停車場迄御見送被下、且何寄之品頂戴仕難有御厚礼申上候、幸ヒ天氣都合も宜敷、湖上静穏ニシテ船中静カ動揺ヲ覚ヘズ、午后一時四十分無事長浜ニ安着、昨夜ハ同ニ泊リ、今朝六時発シ之汽車ニて午后二時静岡ニ着仕候、明朝ハ六時廿分ノ発車ニて東京ニ到リ、九日之日曜ハ同所ニて守リ、翌十日ニ帰国之積リニ御坐候間此段御放念被成下候様奉願上候、身体自由ナラザル故汽車汽船等之乗込ヲ大ニ心配仕候得共、主之御導ニより総テ都合宜敷旅行仕候、何卒御令閨様へ宜敷御鳳声之程奉願候、右途中ナガラ不取敢御礼旁申上度、余ハ帰宅之上万謝可申上候、草々敬白

六月七日

静岡にて 宮口二郎

拝

新島先生

閣下

六月十三日

小崎弘道

①東京麹町下二番町七十一番地 ②京都上京区寺町通り丸太町上ル 親展
 ④墨

本月六日御認之芳翰正に落掌、忝く奉拝誦、貴書之趣により総会之議決には御不同意無之事判然致し生も大に安心仕候、然れとも尚は爰に釈然たらざるは前回御書面之御趣意に有之候先生之御趣意は、過般會議之節ありたる一己人之所為に付て御忠告ありたる次第にて有之候哉、又ハ其過激強迫然たる所為は生等一般の過失にて此過失ある以上は生等に同意致し難しとの御趣意に有之候哉、若し先生之御趣意にして第二の意義にてあらば、斯る手段によりて議決ありたる合併の事に御不同意との事なるか、或は只生等之所為にのみ御不同意との事なるか、是亦判然承り度所にて御坐候、次回之御書状によりて見れば或る老練家^カ云々の暴言を發したりとの事を御不同意のやうなれども、初回之御書状には其事判然せず何となれば或る老練家とてハなく生等一同の所為に御不同意の如く有之、且つ又其所為ハ懇談会の事のみならず合併を為す議事全体の所為に御不同意のやう相見へ申候、然し此義は彼此申すに及はざる事なるか若し果して或る老練家の所為にのみ関スる言にしてあらば其人に御忠告あるは至極御尤之義と存候、若し生等即ち合併を唱へたる一般のものに關する御忠告とあらば、生等謹て之を拝承可仕候、但し若し先生之御趣意にて生等へ御忠告とあらば前回御書状の意見は頗る生等に解し難く存する所に御座候、何となれば「新島氏は弥非合併なりと云はるゝならん」とか「兄等ハ無理に小生を非合併反對の地にオイヤル」とかの言あるを見ればなり、以上の如きは生等

之を讀て頗る不快の感格を抱く所に御座候、若し生等の所為にして不都合の事ありと御認めあらば、何ぞ明かに其人に向て御忠告無之候哉、又明白に御判断を乞ふ所は、生等の所為と合併の事業を御区別ある事、又何人々々の所為か不都合なりと明かに其人に向て御忠言あり度事なり、又御書面中に見る所之老練家とか老成人とかあるは誰々の人を御指しある事なる哉、若し万一にも迂生に向て斯の如き言を御加へあるに於てハ甚た迂生の喜はざる所に御座候

迂生ハ今迂生カ彼の総会にて行ふたる所為尽く善尽くし美尽くせりと信し不申候、罪人たる者殊に弱年未練の迂生なれば其罪も過も多からん事を信するなり、然し一行の赤心は組合教会の清潔と平和とを保ち、基督教の進歩を計り、神の栄光を現さんとするの外是なかりき故、初めより平和を主とし調和を計らん事を欲したり、然れども反対論者の説く所を聞き、不問に置く可らざるを感じ、力を尽くして不健然なり偏僻なりと信する説を排斥せんと務めたり、是れ止むを得ざる所為なり、若し先生をして迂生の位置に立たしめば如何、人或は先生の御明識他の御方向を取られたるやも知る可らされども、是先生にして始めて出来け得る所にて生等の容易に企て及ふ所にあらざるなり

(すたカ)

要するに組合教会に於ては今回のみならず以後も亦今日の如き場合起ることなしと可らず、唯先生に望む所は、公明正大正々堂々常に其意見を吐露し、賛成すへきは之を賛成し、同意す可らず之に不同意を唱へ、他の兄弟姉妹をして適従する所を知らしめ給はん事なり、又生等一身上の所為に御不都合を御認めあらば御遠慮なく御忠告を贈らん事なり、右ハ失礼をも省みず只感する所を陳述致したる所に御座候也、早々頓首

六月十三日

小崎弘道

拜

新島襄先生

①新潟学校町 ②京都寺町通丸太町上ル ④墨

向暑の節に候処御起居如何、此方よりハ誠ニ御無音に打過ぎ罷在候、私事も其後色々の情状により北越学館に赴任する様に相成り、かね／＼御伺い申上度心得に候処、混乱後の事務整理の爲め多忙を極め不本意ニ打過し居申候、校務も漸々整理の緒につき、動力もつきかゝりしかとおもはるゝ方に相成候間、是れ亦御安心被下度候、只今少しく政党上の關係ニ付き困難有之候へども是れ亦相談まとなりそふに相見え、生徒も逐々増加する見込にて二三百名は難からぬ事と申す事に御座候、此時に當りてオルブリクト、グレーブスの二教師を失ふこと如何にも残念ニ存候へども今日迄の情状に既に定まり居候ことに候へば如何とも致し方なく、只管其代を待居るのみに御座候、此度暫時御地より来られ候スミス女は不公平なく骨惜せぬ活潑にして上手なる誠に良教員に御座候、御地諸兄弟の御周旋謝する処に御座候、若夫れ九月より新き良教員が二三名オルブレキ等に代りて来り候ば、非常なる運動の出来可申樂み居候、有志家も今外国教員が発奮して二三名補助致し候事あらば、其機に乗じて寄付金を募り眞の校礎をおくべしと申居候、何分にも今の処にてハ生徒の増加し、校規を拡張し、有志者のいよ／＼奮発せんとする時に當りて増加せぬのみかは、却て二人の外国教員が退き減ぜりと風評さるゝことさえ遺憾に存候、又大に有志者の気焰を鋭くに至らんかと此のみ心配罷在候

却説、同志社も逐々御盛大の趣き欣喜此事に存候、差手／＼基督教主義学校の事に一念の至る毎に慨嘆の外無之候、

只望あるハ御校のみに御座候、御校書生の氣風は近来如何に候哉、乍蔭折り居候、随分洋行風も吹き候由に候が何卒書生の氣風をして売学的に赴かしめざる様致度候、愛國的悲憤の精神を養はせ度存候、自任自動の精神を盛になし、振動的の人物たらしめぬ様致度存候、且又聞くところによれば金森君等は大概懸取然たる事業に御従事の由、将又細工の上手的商売的工夫的拍子喝采志望的秘密策的等の疑惑ある様の事には可成近よらず、事の成るも成らざるも只一片の至誠あるのみと云へる精神を十分書生に吹熒致し度存候へば、同氏の如き士ハ寧ろ書生の精神養成に従事さるゝ方願はしく存候、御校も随分敵は四方に相見え候様に見受け居候、乍然我北越学館も詰る処は同種類、同軍のものに候へば、貴校の敵は即ち我敵に有之て、何卒互に奨励忠告喊響相応じて氣勢を張り度候、我等はたとへ毀誉褒貶の中に沈むとも恐れず、騒かず、奇兵を用ひず、たとひ敗るとも死するとも公明正大の四字と共に進退致し度候、此度御校へ赴きたるオルブレト氏は秘密(ママ)のなき愉快の人間に御座候、議論も随分有之る事遠慮なく談せる人物にて、拙者とは殊に無遠慮に交際仕候、只だ一直路にて他人の言を容るゝの大度なく、少しく議論してかゝるときには直に敵と見なしてかゝる様の処は甚だ同氏の為めに惜むべき処に候へども、此程友人の如く談せる人物は稀に見る処に御座候、且つ同氏は内村一件より色々と間違ひ来り、何か自らが失敗して此地を去る如き覺感(ママ)ありやに思はるゝ様子有之、氣の毒に存候、御校もすでに七八百人も生徒有之候趣き、嗚呼事の成る今日に在りと存候、何卒彼等をして社会的の眼孔を開て、日本と云ふものを視せしめ、慷慨悲憤此土の為めにと云ふ義烈の精神を養はせ度存候、此精神を以て宗教上にも政治上、社会上に、学問上にも働かせ度候、国民(こく)の友の筆を見て文を読んで之に倣はんと欲する如きの志望は御免を願ひ度候、今日の天下は才子の動す処也、今日の青年の嗣ぐ処の今より後の天下は愛國慷慨至誠血涙者の支配すべきものなりとす、無術数、無權謀、無上手、無秘密の運動する天下なりと信じ候、嗚呼うるさき哉、早く今世の

過ぎ去りて後世の来ることこそ待ち遠し存候、先生は慷慨の士なり、至誠愛国の人なり、国家の爲め御自愛あらんとを、今日は才子子々の時代に候へば御用心被下度偏奉祈候、早々頓首

六月十三日

新島先生

松村介石
拝

二白、先生は教会一致御不同意の趣き承り候、如何なる御議論に候哉、此迄御目にかゝり候節伺はざりしことは遺憾に存候、何卒御公明に世に御知らせ被下候ハ、大に悟るものも見るべきかと存候、只生の処にては可成大量に一致する方可然と存候へども、貴意御議論のある処を知らば御序の節書生にても筆記させ御教示被下候ハ、難有存候、頓首

628 六月十四日

同志社予備校生徒委員

④墨

拜啓、陳ハ先生久しく御病尋に被為在候処追々御快氣相成由、実に欣喜の至りに御座候、却説、当校学期も僅に数日を余し候間、生徒一同協議の上、従来諸先生の鴻恩を記念せん為明日午后第五時半より当校公会堂前にて写真を取

度、付ては先生御病氣中如何と存候得共、若一御光来被成下候ハ、実ニ雀躍の至りに御座候、先ハ右御案内まで如此に御座候、頓首

六月十四日

委員

百拝

新嶋先生

玉座下

629

六月十四日

三輪振次郎

④墨 ⑥封筒裏書 新島筆「六月十四日 ○同志社ノ為ヲ思ヒ 天下ノ事
社員ノ中 教員ノ中 謹慎シテ 計テ呉レヨ」

謹啓、陳ハ時下暑氣増相加里候ヘ共先生御多样被為在御起居哉御申上候、過日ハ御懇書を辱シ謹誦仕候、其節早速御返事可申上筈之處多忙ニ取紛レ延引ノ為奉謝仕候、弊舎一同無事送日罷在候間乍憚御休神被下度候

一先頃在米國三輪礼太郎（小弟ノ從弟ニシテ先年同志社ニ在学セシ者）ノ友人越前国福井町五島正之助ト申ス仁ヨリ貴社大学資金ノ内ヘ寄付致度旨米金壹円礼太郎ヘ依托、礼太郎ヨリ此程送金有之候ニ付即金壹円三拾弍也、永ニ托シ差上候間御落手被下度候（五島氏ハ現今在米ノ由ニ御座候）

一今般從妹永再ヒ高等科ヲ修度志願ニテ上京致候、乍然同科ヲ学ブニ充分ノ学資金無之為メニ自ラ働キ以テ修学致度

心組ニ御座候間、誠ニ恐縮之至ニ御座候へ共、若シ同人相応ノ仕事有之候ハ、宜敷御配慮ノ程偏ニ奉懇願仕候、余情同人ヨリ可申上候、同人弟与次郎ト申者同志社へ入学ノ為メ上京可致候間宜敷御教示ノ程奉願候、先ハ御返事旁御願迄、早々頓首

廿二年六月十四日

三輪振次郎

拝

新島先生

閣下

二仲、御家内様へ宜敷御伝言被下度且愚妻ヨリ宜敷申上候

630 六月十六日 財部 節

①宮崎県都城町西口 ④墨

兼テ御高名承居候得共未ダ拝顔ヲ得ス候処、愈々御清栄ニテ天父ノ御為メ、国家ノ為メ、御尽力之由大慶奉存候、玆弊地都城伝道之義ハ一昨廿年七八月ノ時分ヨリ鹿児島一致教会ヨリ二ヶ月ニ一回位ヅ、派出伝道相成居候得共、何分隔月位ニテ遺憾不勘候ニ付、熟談ノ上組合教会へ譲ルノ相談相調ヒ、廿一年十一月以来彼ノ方ヨリハ伝道停止相成居申候、左候テ弊地伝道ノ義ハ在熊本「ギニューリキ」、海老名両氏へ依頼仕置候処、「ギニューリキ」先生本年四月御巡

回相成弊地ノ状況ハ委細御視察相成候、将タ鹿兒島一致教会伝道者栗屋正臣氏ヘモ親シク御相談相成候上、一致教会ニ於テ異論ナキ旨御承知ナサレタル上ニテ、本年五月神戸總會ニ於テ日本伝道会社ヨリ派遣ノ処「ギユーリキ」、海老名両先生ヨリ御提出相成候由ナレトモ、伝道会社ニ於テモ當時財政困難ノ由ニテ可決ノ運ビニ至ラサル由、然レトモ弊地伝道ノ必要ヲ「ギユーリキ」先生認メラレ候由ニテ、ギ先生ノ御補助ニテ毎月貳拾円ツ、仕払フハ出来ル事ニ相成申候、就テ同志社ヲ本年卒業サル、広津氏ヲ聘用致^(符)タセト両先生ヨリ御通知ニ預リ申候、尤モ其ノ義ニ就テハ「ギユーリキ」、海老名両先生ヨリ先生方ヘ何トカ御照会相成ル事ト奉存候得共、當時収獲物ハ多ク工人ハ少キノ嘆アル時節ニテ有之候得^(清風)バ実ニ氣遣ハシク候ニ付、小生ヨリモ御願申上候間、何卒右広津氏ハ弊地ヘ御派遣被下度、尤又小生一身上ニ付テハ池袋氏ヨリ御聞取被下候ハ、相分リ可申候、先ハ用事迄、勿々不悉

二十二年六月十六日

財部 節

新嶋襄先生

閣下

631 六月十七日 鈴木 清

- ①神戸下山手通六丁目 ②西京寺町九太町上ル 至急親展 ④墨

欠敬御用捨奉願候

取急蒼卒呈拙書申候、陳ハ女学校門前之地所を夏休暇之内ニ門内ニ取入度旨ブラオン氏之請求ニ随ひ約定書を調整可致之處、該地ハ草生地と池沼ニ有之候間宅地ニ変換之願書差出候後ならでハ貸借約定之認可を難得ニ付、取調候処別紙数通之如く可驚多数之書類を要し申候ニ付実ニ御面倒ニ候^(符)ラヘ共御異存無之候^(符)ラヘバニ御調印被成下度奉願候、又貸借約定書及届書等沓封ニして差出し申候間是亦御捺印被成下度候、甚恐入仕候ヘ共北海道出張ニ時日相迫リ居候間御捺印之上可成速ニ御送り被下度奉願候、先ハ右取急蒼卒拝具

六月十七日

鈴木 清

新嶋函丈

閣下

書類ハ沓封之小荷物として此書面と同時に汽車便ニ差出し申候間左様御承知被下度候、約定書ハ沓封之中ニ別封と致し置申候

632

六月二十日

中山光五郎

①野州佐野町 白金方

②京都寺町通丸太丁上ル 御親展

④墨

拝啓、爾来御無音ニ打過候段御海容可被下候、時下玉体御清適被為在候ヤ本年学期モ終リニ近キヲ以テ定テ種々御取

込ノ事ト奉推察候、向暑ノ候益御摂生奉祈候、次ニ小生儀主ノ御高思ニヨリ日々無恙消光罷在候間御放念被下度候、当地方伝道ノ方法ニ付奉伺候

栃木町ニ本営ヲ定メル事

其理由第一、佐野ノ地ニ有志者ノ偶々有之ニセヨ、或ハ青年或ハ寄留人或ハ近村ノモノニシテ当町内ノ表面ニ立テ事ヲナサ、ルモノナレハ勢力ナキ事

第二、当地人民中教ヲ求ムルモノナシ時ニ或ハ求メントスルモ世ヲ憚リテ聴ク事ヲナサス実ニ望ナキ有様ニ御坐候

第三、講義所並ニ小生ノ住居ニ適當ナル家ナキノ当地ニ来リシヨリ常ニ心掛ケ居候得共今ニ見当ラス、永住人民多キ地ナルヲ以テ貸屋至テ乏シキカ故ナラト奉存候、又仮令ヒアルニセヨ本年度ヨリ年会ニテハ講義所ノ家賃ヲ一切支弁

セス其地方々々ニテ支弁スヘキ旨申越サレタリ、是レ殆ト困難スル処ニ御坐候、今年マテ各地講義所ノ家賃ヲ本局ヨリ支弁セシモ今年俄カニ之ヲ廃セラレテハ実ニ困難仕候、何トナレハ当地ノ如キハ他ノ地方ト同様ニアラス、他ノ地方ハ少ナクトモ一兩年ハ伝道シ已ニ信者モ数十人ニ及ヒ居リ候故支弁スル事易シ、当地ハ未タ四名ノ信者（殊ニ何レモ財産ナキモノ書生体ノモノナレハ）ニテハ到底支弁シ能ハス、又他ニ有志者アルニアラス、又当分ノ処ニテハ有志者ヲ得ルノ望ミナシ、之ヲ小生力出ストスルモ力ニ及ハス、何トナレハ地方ニ巡回スル旅費モ諸雜誌ヲ求メテ未信者ニ与フルモ皆小生ノ給料ヨリ支弁^{（カ）}ハナシ居リシヲ以テ、是ヨリ講義所家賃ヲ支弁スル事ハ能ハス（是迄ハ機業組合事務内ニテナシ幾分ノ札ヲナシ居リタリ、夫ニテモ屯円ハ費ヘタリ、若シ新ニ借り受ルニハ二円以上ヲ要スナレトモ今日迄ノ通りニ事務内ニテハ表札ヲ掲クルノ遇^{（合）}ヒニモ至ラス、伝道上ノ利益ト奉存候、之ヲ公然タル講義所ニナスニハ貳円以上ノ家賃ヲ要シ候）「今本営ヲ栃木ニ移スモ家賃丈ケハ当分本局乃至有志者（信者ナル）ヨリ出サ、レハ

講義所ヲ設クル事能ハスト雖トモ、小生ノ計ル通ニ行ケハ遠カラス講義位ノ支弁ハ出来スヘシト存候」以上佐野ニ依然ト居ルハ不得策ナル理由ニ御坐候

第四、栃木ニ移ルトキハ町内ノモノニテ已ニ確實ナル一名ノ信者ヲ得ル事ハ間違ヒナキ事ヲ發見セリ、又他ニ教師裁判所ノ書記ナト三名計リハ心易ク相成候、此等ハ小生カ栃木ニ移リテ伝道スルトキハ賛成者トハ可相成ト存候、確實ナル人トハ栃木万町ニテ栗田口三貞ト云フ医師アリ、今ハ別ニ業ヲ務メス隠居体ニ暮シ居候得共、同氏ハ基督教ヲ至極賛成致シ居候ヘ共今日迄ホワイト氏等ノ説明ニ満足セス、又諸々ノ宗派アルカ故ニ輕卒ニ入会スルヲ得ス、能ク研究シテ后ニ信セントスルノ心得ニテ雜誌ナトヲ見タキ由ニ付、先日六合雜誌ヲ与ヘシカハ喜テ受ケラレ候、氏ハ金満家ニシテ頗ル活潑ナル人ニ御坐候間此人ニシテ信徒トナラハ是ヨリ必ス伝道ハ盛ナルヘシト存候、小生カ移住シテ時々聖書ヲ講義スルトキハ此人ハ遠カラス信者ニナルヘシト存候

第五、栃木ニ居ルトキハ伝道ノ中心ヲ占メル事佐野ノ伝道ニ堅キ事ハ誰モ知ル処、且ツ我カ教会ノ信者当町ニ二名アリ、又植野村ニモ遠カラス信者ヲ生スベケレハ此上他教会ヨリ来ルモノナシ、小生カ栃木ヨリ一周間ニ一回出張セハ今日アル処ノ信者ヲ養ヒ且求メ居ルモノヲモ導キ得ベシ、而シテ栃木在ノ大久保ナトニモ時々行ク事ヲ得ヘケレハ此村ニテ高橋優君ノ家族ハ二人丈ケハ遠カラス信者トナルヘシ、左スレハ夫ヨリ多クノ信者ヲ得ルニ至ラント存候、又鹿沼ニモ時々行キテ伝道ノロヲ開ク事ヲ得ヘシ、又栃木ニアル浸礼教会ノ牧師ハ根拠ニ力ヲ尽サスシテ大抵巡回ナシ居ルヲ以テ小生カ町内ヲ栗田口氏ノ紹介ニヨリ毎戸訪問スル時ハ其中ニハ求道者ヲ得ント存候、是レ当地ニ居ルヨリ栃木ニ居ル方便理トスル理由ニ御坐候、就テハ先生ヨリ伝道委員ニ御掛合栃木ニ講義所ヲ移ス様ニ被成下度奉依頼候、又先生ヨリ栗田口三貞氏ニ直接御依頼狀ヲ出シテ小生カ栃木ニ移住スルニ付テ万事ノ世話及道ヲ研究セラルヘキ

様ニ御勸メ被下候ハ、小生一人ニテ勸メルヨリモ力アルヘシト存候、夫ニ付テハ同志社設立ノ始末テフ文并ニ専門学校設立ノ主旨及規則ナトヲ同氏ニ御送り被下候ハ、尚ホ同氏ノ感情ヲ惹起スヘシト存候、小生ノ申上候処ニシテ若シ利益ト御認メ相成候ハ、御賛成被下度、且其運ヒニ伝道会社委員ニ御勸メ被下度奉願上候、若シ此事ナラハ巡回（佐野、鹿沼、大久保）旅費ハ小生カ一切支弁仕候ニ付、栃木講義所ノ家賃ハ本局ヨリ（志ヲ遂ケルマテ）御支弁願ヒ度候様ニ并セテ御相談被下度候、幸ニ此事ナラハ小生モ微力ヲ尽シ度存候、若シナラサルニ於テハ小生ハ望ミ無之候間願クハ主ノ手小生ノ計画ヲ助ケ玉ハン事ヲ祈ル、アーメン

右ハ甚タ愚ナル者カハ存不申候得共、昨夜安眠ノナラサルヨリ出テタルマ、直ニ申上候間、御病身且御多忙之处恐縮ノ至リニハ存候得共他ニ申上クヘキ人モ無之（アルニセヨ無頓着ナリ）ニ付不憚申上候ニ付御参考ノ上御賛成ナラハ伝道委員マテ御掛合且栗田口氏方ヘ一書ヲ御差出御勸メノ程偏ニ奉冀望候、又可相成ハ速カニナシ度候、只今小生モ暑中ニ向ハントスルニ臨テ住居ニ差支居リ候、此事ナラサルニ於テハ暫ラク当地ノ在ニナリトモ避暑シ説教ノ時ニ出頭スル事ニ致度候、当町内ニハ可然寓所之ナキ次第ニ御坐候、只今居ル処ハ暑中到底凌キ難ク、当地ハ至テ不便ニ御坐候、何カラ申スモ栃木ノ方優レリト相考ヘ候、早々頓首

明治二十二年六月廿日

中山光五郎

新島先生

閣下

再伸、御老母様御家内様ヘ宜敷御伝声被下度候

六月二十二日

目加田護法

①神戸市多聞通二丁目 ②京都府下 同志社々々長 親展 ④インク、毛筆

拝啓、時下暑中に相向候得共爾来追々御病症も御快氣の事と奉察候、尚折角の御加養專一の程奉祈候、偕過般来より数御投翰の次第ハ逐一日本魂にて該都度電覽に供し候処、其局終に貴社神学部の名義を以て決闘云々の御申越に預り甚以て意外の御申込とは存候得共、予て 宗廟社稷の為なら何時にても一身を犠牲に奉り可申素志に有之候間、早速貴命に応じ決闘可仕候段拝承仕候処、不図昨廿一日午後十時半頃に至り俄然御違約の飛報を一見致し、大ニ落胆罷在候、其と申も御来示の趣即決闘取消状は愚拙の手前共には一向了解仕兼候故、不取敢明廿三日の日本魂に於て御申越の云々と及本館の意見等を登載仕置候条、篤と御覽の上至急何分の御回答を煩し申度候、先ハ右要用迄如斯候也

二伸、此の状着次第三日内に御回答無之候ハ、当方より押して拝参商量可仕候条左様御了承置可被下候、頓首

明治二十二年六月廿二日午後七時半認

神戸市明道館日本魂新聞主

目加田護法印

耶蘇教牧師
同志社々々長新嶋襄殿

六月二十四日

杉山重義

①群馬県上州碓氷郡原市町 ②京都寺町通丸太町上る 平安

御地ニ滞在中ハ如例御厚情ニ与リ奉感謝候、梅雨之節とは申ながら日々不快なる氣候にのみ有之候へども益御機嫌克く被為在大賀至極ニ奉存候、夙ニ御礼且つ御起居相伺可申筈之處帰途種々之用事之為め久く東京ニ滞在致居候て、辛く去る十九日帰宅仕候様之始末なるにより意外ニ遅延いたし候、平ニ御海容被下度奉願上候、扱て一致之事も帰来直ニ先方へ談判ニ及候処、如何なる訳にや其手続上双方に於て其意見ニ非常なる相違あり、委員ニ於ては如何とも取計ふべき道無之に付、唯々詳く其顛末を記し各教会へ報告し、之より後之方向順序は唯だ各教会之意見に任する外無之事と存候、其行違は随分入込みたる事に付夏期学校之為め罷出べき小崎氏より親く御聞取被下度奉願上候○予て御話有之たる先生御一身上に付ての事ハ帰来小崎氏には面会之時尋ねたるに、固より同氏は決して先生を疑ふなど云ふ事ハ無之様御見え申候、唯々同氏之心配する処は先生と伊勢、海老名、宮川等諸氏との間に何か之を隔つる障壁ありて双方の情実相貫徹せざる如き事ある様なるは誠ニ遺憾なれば何とか之を解かざる可らず、若し双方にて何も遠慮することなく充分に打明けて思ふ所を吐露し見れば、何も憚る所も何もある筈は万々之なし、故に可成は斯く尽力し度候、畢竟色々なる流言の流行するも右諸氏を始め多くの人々に先生之御意見御心情之相通ぜざるが為ならんとの心配にて之ありしに付、小生も尤のことと存じ、ソレハ大に同意之事と申、尚ほ充分先生が決して一致之為めに妨害せらるゝ忤との事ハ無之き事をも弁解致し置候

右小崎氏之心配は小生も同じ事にて、伊勢氏が洋行前、同氏と前橋にて面会せし時（不破氏令室死去の時）小生は同氏に向ひ（尤も私かなる人なき室にて）是迄兎角同氏等が先生を憚り何事をも遠慮して隠す如きは実に宜しからず、仮令ひ何事にて不幸にして意見之合はざる所は表面上公明正大に合はすとして決して裏面にてイヤなる感事を抱く様之事有之候ては唯だ一致之事のみならず我國之為め実に悲むべき事なれば何卒充分に隠すことなく服藏（隠）することなく万事打明けて先生とも話し合ふ様致し度勧告致したるに、伊勢氏も今迄は実に左る趣もありたれど、是よりハ其忠告の如く氣を付んと申呉候、然れば宮川、海老名等も同様にて、小崎氏よりなりとも充分に之を話せば決して先生を彼是れ疑ふ杯云ふは有之間敷と存候、今迄先生之御耳朶に達せし事に付ては色々先生之御感情を害すべき事も沢山ありし事ハ充分御察し申候へども、今日我等四方に勁敵を受け、前途大任遠途を引受け居候事ニ御坐候へば何卒幾重にも御忍び下され、兄弟牆に闔ても他に其侮を辱くこと肝心と存候、一致之事は成るも成らざるも唯だ此事計に非ず、同志社前途之事を思ひ候ても内を鞏固にするの必要を感じ候、本年之組合年会之有様を見るも此点に於ては悲喜殆んど央なる様之考なき能はす候、右は小生が愚衷毫も憚るに暇あらず直言致し候、何卒御憐察被下度奉願上候、御一読之上は直に御投火被下度此又奉願上候、時下千万金換へられざる貴重之御身体、国家之為め、斯道之為め、御自愛御加養被下度奉願上候、当地教会は別に変りなし、今年は充分に運動いたし度期望いたし居候

六月廿四日

重義

新島先生

此間は奥様より結構なる品戴き荆妻は大喜に御坐候、乍末筆宜く御伝被下度奉願上候

635

六月二十四日

鈴木 清

①神戸下山手通六丁目 ②西京寺町通丸太町上ル 親展 ④疊

両度迄尊書を賜わり難有奉拝謝候、御面倒願上候件々早速御捺印之上御廻し被下夫々願出之手順致し候、約定書之分而已ハ多分本日或ハ明日ニ相済可申候、地目変換願ハ明年之春許可相成候事と存候、合併論ニ付御示し被下候義万々難有奉拝謝候、御蔭ニよりて自己之精神を確め申候、神戸教会も数日前大会を開き合併論之輿論を定め申候、過日組合教会大会之決議ニハ満足せざれ共、全日本組合教会か不残悦で一致合併を為すなれば我教会も之ニ従わん、若し二個以上之教会が独立分離を為すニ於而ハ此分離教会と共に運動すべし、之れを以神戸教会之輿論とす、右之如く決定致し申候、而して其後教会規約を議定致し居候、本年之大会が神戸ニ在りし事ハ実ニ幸福ニして、余程之一致論者迄が大会之状態ニよりて大ニ独立心を喚起したる有様ニ候、何れ追々時機ニ際して種々可伺出候間御教示奉願候、小寺氏寄付之件、昨夜該家へ参り催促を試候処慶応義塾之為め中上川氏か午後ニ参りたる由相語り、双方とも近日決定致す覚悟ニハ候らへ共年限之処決し兼居候間、尚暫時相待くれ候様申候、依而是非ニ小生之出立迄ニ相定具度旨申置て引取申候、草々不一

六月廿四日

鈴木 清

新嶋函丈
閣下

六月二十五日

新井左壽計

①上野国山田郡大間々町

②西京寺町通丸太丁上ル

雅事平安

④墨

以荊章致啓上候、先以時下追々向暑之所高堂益御清福御起臥被遊御坐候、南山之寿奉鳳賀上候、二に弊老無事消光罷在候際、乍憚様御安眠奉祈上候、しかれハ御通信中、浅間山に寄るとの御高吟、とく／＼感腹いたし候
 山のこゝろ根と申言葉新調と申、且深長と申、絶妙なる御佳什と申受候、又峰にけふりとは胸にとの菜〔カ〕りもふくみ、古今名歌の手にはにも似通ひて、雅情十分ニ甘舌いたし候

〔軒場〕
退婆来てはふれかねけり不二の雲古人
田禾

風になひく不二のけふりの立消て

空にとゝかぬわか思ひかな

とか申
西〔行〕上人

うろ覚には御坐候得とも、それ／＼即吟等も御坐候、先生の玉什は絶ざる烟り空に真こゝろのとゝくの御佳作、いかにも言葉御手強くして御落成、且は又御病氣御全快の御吉兆、鏡にかけの押しうつるか如くにして、喜悅いたし申候、御思想中大功業は万国比類なる御丹心、感佩無極御事ニ奉存上候、且洛陽の一平民とは面白き御雅名、此一の字よほと奇なり、又妙なり、そのまゝにて可然御事ニ御坐候、国の為と申御はし書にて無明の夢をも相さまし申居候、御高吟にすかりて無稽の妄弁を奉申上候、何卒他見の義は御無用被下候様奉祈上候、先はあまりノ延引ながら尊酬旁御伺奉申上度如斯ニ御坐候、勿々敬白

六月念五日

新嶋襄様

膝下

新井左壽計

蚊のやさし知らせて置いて喰に来る

灌仏のさしけり空の花に指

老情

無に合ぬ品(カ)の多さよ土用干

鳴かて飛ふ折もありしか宝とゝきす

ついと飛ふ音ある籠のほたるかな

春

花に風こゝろ吹るゝ思ひかな

はつ蝶や今来て庭になれゝし

嫌はるゝ物と知らぬか残る雪

ふゆそある春と思へは名残かな

出ふ性の出て酔過るはな見かな

乍出たらめ、御推毆奉申上候

乙瓢

拝

〔別紙〕

別紙奉申上候、昨歳中より毫事特別御配慮いたし候仕合万々厚礼奉申上候、猶不相替御懇情ニ預り度奉祈上候、早々不尽

六月廿五日

新井老訥

拝

新嶋様

几下

637

六月二十五日

田中賢道

①熊本県熊本市新屋敷町傘十三番丁百三十六番地

②京都 同志社

侍史貴

答 ④墨

御芳書辱拜見仕候、陳者頃日拝鳳候節承居候同志社大学資金募集之義ニ付九州一円遊説之義小弟へ御囑託相成候処、右ハ小弟ニ於テ種々困難之事情有是候而洵も十分ニ其任ヲ尽シ難ク、然トモ始メ先生及ビ金森兄ヨリ御相談之時ヨリ

同事件ニ付飽マデ微力ヲ効シ可申御答ヘ申上置キ候ハ、小弟一己人臨時々々ノ尽力トコソ奉存居候、加之当地女学校資金募集之義始結ノ後ニ御座候ハ、兎も角ニモ可仕旨御約諸致置キ候訳ニ御座候、併シ些細ノ事ハ如何様ニテモ差^{「マヤ」}悶無是候得共、小弟今回九州一円遊説員ト相成候ニ付テノ第一ノ困難ハ、小弟當時家敗^{「マヤ」}レ賸傾キ僅カニ外人ノ事務員ニ雇ハレ其給料ヲ以テ一家一時ノ難ヲ救ヒ側ハラ經濟ヲ整理罷在候折柄ニ付、微力ヲ拳テ九州遊説ニ専一ナル能ハズ、又目下九州ノ形勢タル兩京及ビ阪神地方トハ全ク其趣ヲ異ニシ、藩政ノ時分ヨリ頗ル資産ノ平均ヲ得、為メニ北端門司関ヨリ南端鹿児島灣ニ至リ豪農トカ富農トカ名クヘキモノ一モアル事ナシ、動不動ノ兩産ヲ合テ已ニ二十万円ニモ達スルトキハ先ツ豪富ノ農商ト称ラル九州ノ富度御推考奉仰度候、第二ノ困難ハ九州各地到ルトコロ農工商士ノ間一ノ首領ト可申モノナク、仮令ヘバ東京ニ於テ誰甲乙ヲ説ケバ、い一線路ヲ略シ、丙丁ヲ説ケバ、ろ一線路ヲ取ルト云フガ如キ事ハ決シテ被行難ク、先ツ博多ニ到ラハ甲商ヲ略シテ乙農ヲ取り、丙工丁士モ亦タ如斯ナラザルベカラズ、長崎鹿児島皆ナ是ニ同ジ、故ニ九州一円遊説スルノ日ニハ戸毎ニ説キ、人毎ニ談ズルノ面倒策ヲ取ラザルベカラズ、形状前述ノ通ニ御座候間、先般来金森兄ガ阪神地方ニ遊説サル、ガ如ク同志社学院及ビ同志社教会ニ働カル、側ラ資金募集ニ奔走セラル、様ナル訳ニハ行キ申間敷候、右小弟一身上ノ事情ト云ヒ、九州ノ形勢ト云ヒ、傍々以テ小弟九州遊説員ノ任ニ当リ難ク候条今般御属託ノ一件ハ万々御辞退仕度候、小弟御辞退仕候ニ付テハ他ニ適當ノ人物御推挙奉仰度候、左候得バ小弟ハ一己人ノ資格ヲ以テ臨時々々ニ応分ノ微力ヲ効シ度候、元ヨリ九州ノ富度ハ前陳ノ如キ有様ニ御座候故、過分ノ用度ヲ費シテモ其結果如何ニヤト危^{「マヤ」}ビ申候、乍憚此儀ハ金森兄共尚ホ一応御熟思煩度奉存候、別紙貴筆ハ御返納仕候条乍恐御落掌奉願候、草々拝復

六月廿五日

田中賢道

追伸、今回尚ホ当地女学校ノ為メ拾円丈御寄付被成下由辱奉存候、右ハ先般拝借致シ候拾円ヲ先生御手許ニ御返納仕候処ニシテ直ニ女学校寄付金中へ投入候テハ如何ニ御座候哉、左候得バ先生御手許ニ於テ為替ノ御手数ト小弟手許ニ於テ為替ノ手数相省ケル訳ニ御座候、右一寸御伺申上候也

638

六月二十七日

目加田護法

- ①兵庫縣神戸市
- ②京都
- 同志社大学創立仮事務所内
- 同志社々長
- 親展
- ④インク、毛筆

拝呈、扱て去る廿二日午後七時半認の寸楮を以て此廿一日俄然決闘御違約の云々三日内に貴答を煩し度旨申上候処、希望仕候通伺書到達、三日目に至り御回答被成下候、全文ハ即ち左に

前略先頃同志社神学部ヨリ御承諾相成候処斯ル人ハ本社ニ無之様同志社より申送候由、然ルニ同志社教員藤田愛二ナルモノガ平素貴社目賀田君之我國文壇上ニ於テ勢力ヲ有セラル、ヲ羨ミ且憤リ居候処、同人ハ同志社ニテモ屈指ノ無頼漢ニテ殊ニ往々賄賂坏人ヨリ受ケ、或ハ悪ムベキ振舞而已多ク候得共、多分同人ノ所為ナラントハ同

志社仲間ノ尊サニ御座候、以上

二伸、目下同志社ニテハ予備校生徒式百名計リノ入学試験（本校ヘ）ヲ行ヒタルニ試験委員藤田愛二、阪田丈平、奥田吉次郎、福島綱雄、清水泰次郎等ガ生徒ヨリ賄賂ヲ受ケ四十名ヲ除クノ外ハ悉ク落第セシメ候而生徒ノ動搖一方ナラズ候

西京上京区相国寺門前町一番戸 同志社普通学校内 財部

拝

神戸多聞通二丁目

明道館本局御中

六月廿六日出ス

右は投翰の出所は西京上京区相国寺前町一番戸同志社普通学校内財部と記載有之候耳にて貴名ハ無之候得共、是れハ全く尊師の御都合に依り財部氏の名目を藉り御廻答に相成候事かと奉存候得共、尊師にして斯る未練の御仕構可有之とも察し兼候間、尚念の為該事実の有無敢て御伺候条、隔意なく御洩し可被下候、若しも前状果して尊師の命を奉し、以て財部氏より御廻答に相成候事なれハ当方に於ても其れ〳〵思案も有之候事故何卒右事実大至急御確答に相願い申度候、先ハ要用迄、早々頓首

二伸、御多忙の段奉察入候得共、此段御諒察の上此状着次第二日間に御貴答被下候様奉待入候

明治二十二年六月廿七日

日本魂新聞長 目加田護法印

同志社々々長新嶋襄殿

639

六月二十八日

菊池侃二

①大阪府東区北浜四丁目第三拾八番地 ②西京 同志社 ④墨

拝啓、昨日ハ御招ニ与リ殊ニ種々御饗応ニ相成奉万謝候、而シテ差急キ失礼致候、右ハ御礼マテ申上度如斯ニ御坐候、勿々不一

六月廿八日

菊池侃二

新嶋襄殿

貴下

640

六月二十九日

中山光五郎

①野州佐野町 白金方 ②京都寺町通丸太丁上ル 御親展 ④墨

一翰拝呈仕候、此間愚案申上候処御賛成被下難有奉謝候、去二十六日栃木へ出張(礼)教会之役員ニ相談仕度存候処、不在にて不得本意且有志家とも云ふへき栗田口氏ニ相談仕候得共、同氏も未だ卒先して尽力する程之信仰なく又他に賛成家なきハあらされ共微力なる者に御坐候、左すれハ小生之考へ通りニ参らす、時期尚早しと奉存候間、先づ

此儘にて働き居る方可然と奉存候、尚漸次拡張之心得にて可相働候、聞く所によれハ鹿沼にも浸〔礼〕教会之伝道師常住之由に御坐候、小崎先生にも相談相願候ひしか、当度此地方へ是非共耆人の助者を得度奉存候、実を云へハ当地も何分当分之处にてハ望無之有様に御坐候、今日受洗に可相成と考ふる人三四名相見候得共是又人間之考にて確実なるを得ず、然れ共着手せし者に御坐候間可相成ハなし遂け度御坐候、先ハ当分之景況如此に御坐候、早々

六月二十九日

中山光五郎

新島先生

台下

641 七月一日 不破唯次郎

①上毛前橋神明町三番地 ②京都寺町通丸太町上ル ④墨

大久保氏ノ月手当ハ十五円ト定申候、ゴルドン氏も同様申越候、月手当ノ事大久保氏へ御伝へ願フ

今日ハ安中ニ参リ杉田、杉山両兄ニ面会シ第一大宮伝道ノ事相談ニ及候处、私共三人丈ハ万事都合宜敷相談出来、杉山、杉田両兄且つ小生三名ヲ各教会ニ相談ニ及ブ事ニ致シ置候得共、大久保兄ハ本日小生ヨリゴルドン教師へ書状ヲ廻し候間直ニ御上京之事至極と存候、能々同兄之事御頼申上候、ゴルドン氏へハ上州ノ教会ハ承知仕候間左様御承知被下度奉願候、今日内々之話ニ、小崎氏が先生へ合一事件ニ付御忠告セシ故ハ、先生が同志社教会之集ニ於て少々合

一ノ事御意見御話有之ル由ト小崎氏へ告ゲル者アルヨリ生ジル由ニ承候、杉山ハ中止説ハ見合ノ意アリ、併シ中止タル事明白ナル事と思レル由、安中教会へも不日湯浅兄ガ参ラレル由ニテ何も杉田兄ハ中止説ヲ取レル人と奉存候、今日二三時ノ話ニテ十分ニ出来兼申候、三ヶ月後ノ集合ハ無用ナル事明白ナリ、杉田兄ニハ委員ヲ引方当然ト小生ハ今日忠告仕候、同氏も同意ニ御坐候、右ハ乱筆ヲ以て今日相談ノ結果已申上候、早々失礼、再拝

七月一日

不破唯次郎

新寫先生

御令室様宜敷御伝へ被下度奉願候

642

七月二日 不破唯次郎

④インク、毛筆

Please burn this letter after you read it.

昨日ハ取急キ書状差出し失礼千万ニ奉存候、杉山氏ハ小崎氏ノ説ニ常ニ服従スル人ニテ、元来私共ハ理アラバ誰ニも敬服スルハ当然之事ニ御座候得共、一己人ノ資格ヲ有スル以上ハ人之自由氣儘ニハ依頼シ能ザルナリ、然シ昨日ハ何

ニ事ヲ成スモ上州丈ハ合一主義ニテ執行仕度存候間、此事丈ハ約束ヲ能クナセリ、杉田氏ハ此度ノ合一ハ彼是と尽力セザルも終ニ自然中止ニ相成ベシト申候、一致会ハ同大会ニテ本年決定セシ通ニ組合会ニ承知出来レバ大会ヲ開事出来ベシ、併シ此度同大会ノ決議之外ニ出デシ相談ハ来年ノ大会迄ハ出来ザル由、実ハ組合ノ合一委員方ガ余リ御世話ガ行届候点ヨリ彼是不都合ハ生^セシナラン、若シ河波氏へ御面会アラバ速ニ帰富之方宜敷キ事御話被下度奉願候、小崎氏ヨリ東京第一教会ヨリ中止説ヲ各教会へ廻ス故御注意申上候と書状参リシ由、面白キ事ナリ、小崎兄ハ先生ニ対シ少しもソスヒ^(suspicious)シヨシハナキ由、杉山兄小生ニ説明アリ、然シ先生ハ充分物事ニ御相談ハ六ヶ敷方ト小崎、伊勢、海老名、金森等ノ評ナリと杉山兄ノ伝フル所ナリ、私ハ聞シ儘御伝へ申上候得共、杉山兄ノ事ニ付キ悪口スル積ニハ無之候間左様御承知被下度奉願候、先日ペーゲル婦人ノ二十円ノ内、十三円程病院ニ払ヒ、七円ヲ以て帰宅仕候処、種々入用多シて以後二十円ニテハ大困却仕候得共、教会も困却ナレバ如何ニスベキヤ、甚だ願兼候得先生之御手元ヨリ以後毎月或ハ時々少々御送金被下候得ハ、ソノ中ニ教会ヨリ来ル金も加増スル事ト奉存候、種々先生ノ御心配中彼是願フ事ハ本意候得共不惡御推察被下度奉希候、養母ハ小兄ヲ同伴シ帰国之積ニ御坐候、先日來小生其一件ニ付御令室様種々御心配被下万々御礼申上候、伝道会社不行届ニハ驚入申候、茂木兄ノ転任之事ハ同氏ハ六七日跡ハ知らザリシナリ、右ハ願用迄

七月二日

不破唯次郎

新島先生

七月二日

杉山重義

①群馬県碓氷郡原市村 ②京都寺町通丸太町上る 平安 ④墨

追々暑さを増し、予て先醒之御賞讀被下候日本のニューイングランドの得意なる時節と相成候、時下先以先醒益御快方、奥様には益御丈夫大賀此事ニ奉存候、下而当方諸兄弟姉妹皆々機嫌克致し居候間乍憚御放慮被下度奉願上候、過般ハ小生之愚直なる性質、前後をも顧みず、尊威を冒し衷懷之在る処を申上候書面之事故充分ニ意を尽さず、或は御感事ニ触れ候事ハ無之りし乎と後にて聊か案じ申候、乍然小生之主意は夫の人々之内に、或は先生に對し種々なる誤解を抱き居候人有之候も全く夫の人々が先生之御心情を知らざることより起因することと信ぜしに付、何卒小崎氏の如き人のインストルメンタリチーに因て之を御頭はし被下候事、我道の為め願上度存念を申上し而已、尚ほ幸に御推察被下度候、此頃不破氏帰県、昨日杉田と三人にて集会し種々話し承り候、色々我が党中之人々に妙な感情を生ぜしめたるは皆其原因一致之問題よりせざるは無之様相見え申候、実に困り入りたる次第に御坐候○然るに一致の問題は御承知之通り双方の行違より何とも手の着け様なき事と相成申候、此後如何に可致き乎、小生等が委員として撰ばれたるは三ヶ月後に開く会の準備の為めなるに、今如斯く行違を生じて最早其会を開く事不能るに於ては断然辭職する筈と存候、小生之考にては今後は只々各教会の意見に任すべき事と存候○秩父大宮之事も昨日相談致し候、未だ各教会へは相談せざれども慥に出来候事と存候、唯々何卒此上は先生之御補助を願上候、何れ委員は部会委員たる杉田、不破の中より申上候と存候○一致之問題も如斯き始末になりたれば本年は一意に伝道する覚悟なることは何れも皆同

様と存候○靈南阪^{〔坂〕}之牧師一件ハ何卒御尽力を仰ぎ度、今日のまゝにて打捨置かバ益々困難に至らんと存候○不破氏之話に(薄々)先生若し御都合によりては今年之夏期を輕井沢に御送り被成候御計畫之由、同地は尤も高燥冷清之地、且つ先生之故山に近く、殊に日本之ニウイングランドに接せる場処に御坐候へバ御病氣之為めにも尤も宜しからんと存じ若し御出被下候ハ、大幸に奉存候○本年之卒業式は余程之人数にて結構ニ奉存候、謹言

七月二日

重義

新島先生

644

七月三日

鶴田三郎

①東京麻布仲之町廿番地

②京都寺町通り丸太町上ル

④墨

神恩ノ中ニ益々御清光奉賀候、次ニ小子儀無事勉強罷在候間乍憚御休神被下度候、陳者此度議決致タル合併ノ件ニ付今日別紙ノ通り諸教会へ送付致候、就テハ上州諸教会トモ同名ニテ諸教会へ通知致度存ジ候へ共、至急ヲ要スル故右之如ク取計申上候、上州ハ不破君ガ引受ケ御尽力有之候へバ近々好結果アルト信ジ居リ候、私教会ニテハ上州諸教会及番町教会ト別ル、トモ戒規、申告ヲ除カザレハ非合併ト議快致シ候、然レトモ大^{〔祝〕}西君等ハ非常ノ不同意ノ由ニ御ざ候也

七月三日

鶴田三郎

新嶋先生

〔別紙・印刷物〕

謹テ書ヲ我親愛ナル貴教会ノ許ニ呈ス、組合一致兩教会合併ノ事タルソノ關係スル所重且ツ大ニシテ輕々ニ看過シ去ル可ラサルハ固ヨリ多升ヲ要セス、我々信徒タルモノハ飽マテ勇氣ヲ鼓シ力メテ天意ノ存スル所ヲ究メサル可ラス、是レ神ニ對スル我々ノ義務ナリ、若シ夫レ合併ノ美名ニ眩惑セラレソノ利害得失ノ如キハ之ヲ顧ミルニ足ラストシテ之ヲ放棄スルガ如キハ決シテ天意ノ存スル所ヲ發見スル所以ノ道ニアラスト信ス、故ニ我が教会ノ如キ合併問題ニ関シテハ応分ノ力ヲ尽シテソノ利害得失ヲ講究シ以テ天意ノ存スル所ヲ知ラント欲スルノ念甚タ切ナリ、而シテ其結果（本年六月二十三日東京靈南坂第一基督教会ノ惣会ニテ之ヲ決ス）ハ遂ニ今日ニ於テハ寧ロ合併ヲ中止スルノ得策ナルヲ断定スルニ至レリ、今左ニ合併中止ノ得策ナル所以ヲ略陳シテ貴教会ノ教ヲ乞ハント欲ス

第一 本年五月神戸ニ於テ我組合教会ノ總會ヲ開キ憲法ヲ討議スルニ當リテヤ、若シ合併即チ一致教会ト合併スルテフ目的ナク、単ニ組合教会ノ憲法否規則トシテ之ヲ論セシメバソノ議決ハ決シテ彼ノ修正憲法ノ類ニアラサル可シト雖、只夫レ合併テフ目的アルガ為メ即チ一致教会ト合併スルニハ我ニ於テモ大ニ讓ル所ナカル可ラストイフ考ヘヨリシテ、遂ニ彼レノ如ク從來ノ組合教会ヲ遠サカリタルノ議決ヲナシタルモノナリ、故ニ神戸ノ總會ニ於テ議決シタル修正憲法ハ組合教会ガ合併ノ為メニ讓ラル、文ハ讓リタル最終極ノ議決ナリト謂ハサルヲ得ス、サレバコソ三月後ノ組合一致合同會議ニ出席スル組合ノ代議士ハ彼ノ修正憲法ノ精神ノ範圍内ニ於テ討議スルノ權利ヲ委任サレタルニアラスヤ、是ノ故ニ代議士ハ仮令文字ニ關スル如キ瑣末ノ事ハ之ヲ修正シ得ベシト雖、ソノ大体ノ精神、主義ニ關スル事ニ向テハ一点一画モ之ヲ動カスコトヲ得ズ、万一代議士ニシテ漫リニ之ヲ動かサントスルモ是レ越權ノ処置ニシテ決シテ効力アルモノニアラサルナリ、更ラニ組合總會ヲ開キテ前議ヲ改ムルニアラス

ンバ組合ノ代議士ハ飽マテソノ修正憲法ヲ主張セサル可ラス、然ルニ今五月東京ニ開キタル一致教会大会ノ組合教会修正憲法ニ
 對スル議決ナルモノヲ見ルニ、文字上ノ事ハ大抵可決シタリト雖信仰個条ニ関シ（第二章末節）主義ニ関ス（第六章一行第七
 一項同四行第九章二項）ル事ハ皆悉ク否決スル所トナリ、加之ヨリ更ラニ一步ヲ譲ラストイフ議決ヲナシタルニアラスヤ、斯
 クノ如ク組合教会ハソノ總會ノ議決ヲ精神トシテ一步ヲ譲ラス（文字ノ修正位ハ兎毛角）一致教会モ亦其大会ノ議決ヲ根拠トシ
 テ一着ヲ輸セサルトキハ仮令三個月後ニ合同ノ大会ヲ開クト雖決シテ纏ルヘキ道理アルナシ、万一纏リテ合併成就スルコト之レ
 アリトスレハ是レ必ラス兩教会代議士ノ一ガ己レノ教会ノ議決ヲ放擲シテ他ニ降服スルニヨラスンバアラス、己レノ教会ノ議決
 ヲ棄テ、他ニ降服スルカ如キハ兩教会何レノ代議士トシテモ万々之レアル可ラス、トスレバ三月後ニ於テ合併完了ノ望ナキハ亦
 甚タ知り易キニアラスヤ、ヨシ三月後ノ合同會議ヲ延期シテ若干月後ニ開ラクトスルモ、兩教会ノ固持スル大体ノ精神、主義ノ
 相容ル、能ハサルハ兩教会ノ議決ニ由リテ已ニ明白ナルニアラスヤ、即チ今日ニ於テ合併ノ望ナキハ已ニ明白ナルニアラスヤ
 第二 三月後若クハ若干月後ノ合同大会ニ於テ万一組合教会ノ或ル部分ニシテ總會ニ議決シタル精神ノ幾分若クハ全部ヲ放棄シ
 テ漫ニ合併ヲ試ミントスルモノアランカ、是レ從來十字架ヲ負テ相提携シ來リタル組合教会ヲ兩断セシムルモノナリ、看ヨ五月
 ノ總會ニ於テスラ憲法ヨリ申告、戒規ニ係ル条項ヲ除カサルカ為メ組合教会中ニ分離ヲ生スルノ恐レアル教会ノ數十二三、即チ
 殆ント組合教会總數ノ五分一ニ上リシニアラスヤ、況ンヤ組合教会ガ合併ノ為メニソノ自由ヲ犧牲トシ、ソノ慣例ヲ犧牲トシ最
 終極トシテ議決シタル修正憲法ノ精神ヲ枉クルニ於テヤヤ、苟モ組合教会ノ人々ニシテ皆悉ク無氣力無頓着ノモノノミニアラザ
 ルヨリハ之カ為メニ更ニ大ナル分裂ヲ來タスハ日月ヲ掲ケテ見ルヨリモ明ラカナリ、願フニ如何ニ合併ニ熱心ナレバトテ組合教
 会ニ大ナル分裂ヲ生シテモ猶進ンテ合併セント欲スルモノハ之レアラサル可シ、若シ夫レ合併ヲ目的トシ合併ヲ成ス為メニハ憲
 法ノ如何ハ顧ミル所ニアラス教会ノ分裂モ顧ミルニ足ラストスルモノアラバ、是レ其實合併ヲ望ムモノニアラス、聯合ヲ望ムモ
 ノニアラスシテ即チ組合教会ヲ挙ゲテ一致教会ニ轉宗セシメント欲スルモノナリ、我組合教会ハ決シテ斯クノ如キ卑屈ニ甘スル
 モノニアラサルナリ、豈ニ独リ組合教会ノミナランヤ、一致教会ノ或ル部分ガ三月後若クハ若干月後ノ合同會議ニ於テ一致大会

ニ議決シタル精神ノ幾分若クハ全部ヲ棄テタリトセンカ、之カ為メニ一致教会内ニ分裂ヲ生スルノ恐アルハ決シテ組合教会ニ譲ラサル可シ、之ヲ一致教会ノ錚々タル人ニシテ而モ最モ合併熱心者ニ聞ク一致教会ハ教会ノ分裂ヲ来シテモ合併スルコトヲナサル可シ、併シ五十位ノ教会中ニ一二個ノ分離ハ詮方ナシト、試ニ思ヘ一致ノ或ル部分ガ大会議決ノ精神ヲ棄テタルガ為メ分裂スルモノ果シテ一二ニシテ止マルヘキカ、若シ一二ニシテ止マラスンバ一致教会ノ之カ為ニ合併ヲ停止スルニ至ルハ以テ推知スベシ、サレバ若シ強テ三月後若クハ若干月後ニ合併ヲ成サント欲セハ組合一致兩教会何レニセヨ、ソノ一ハ必ラス已レノ精神ヲ捨テ独自一己ヲ捨テ、大ニ他ニ譲ラサル可ラス、而シテソノ他ニ譲ル処ノ大ナル方ハ則チ分裂ヲ生スル方ナリ、何レノ教会ニシテモ合併ノ為メニ分裂ヲ生スルハ決シテ宜シキコトニアラス、又タ合併ノ目的ニ適スルモノニアラス、寧ロ合併ヲ中止スルノ勝レルニ若カス

第三 合併ノ目的ハ何レニアルカ、之ヲ組合一致兩教会ノ合併熱心家ニ質スニ異口同音皆ソノ目的ノ一トシテ宗派ヲ減スルノ一事ヲ唱道セサルハナシ、兩教会員ノ合併ヲ希望スルモノソノ一源因ハ宗派ヲ減スルニ外ナラサル可シ、即チ合併ノ為メニ二ノ宗派ヲ合シテ一ノ宗派ヲ作り出サント欲スルニ外ナラサル可シ、然ルニ若シ前ニ述ベタル如ク兩教会何レニセヨ分裂ヲ生スルトセンカ、是レニヲ一ニセントシテソノ結果二トナリタルモノニシテ、ソノ二ヲ一ニセントシタル数多ノ手数勞力ハ毫毛ノ功能アラス悉ク不生産のノ業ニ屬スルニアラスヤ、是レ豈ニ合併ノ目的ニ適フモノナランヤ、且ツ宗派ノ生スルハ人ニ宗派心アルニヨル、宗派ノ減スルハ宗派心減シタルノ時也、思フニ我邦人果シテ宗派心ナキカ、仏教ニ宗派ノ数多キ彼レカ如キハ未タ以テ我邦人ニ宗派心アルノ徵証トスルニ足ラサルカ、一致教会ト組合教会トノ合併ニ四年ノ日月ヲ費ヤシテ未タ其完結ヲ見ス特ニ之カ為メニ教会ノ分裂ヲ来タシ教会員ノ分裂ヲ致サントスルカ如キハ以テ我邦人ニ宗派心ナキノ証拠トナスヲ得ヘキカ、我邦人ノ宗派心アル右ノ如クナル今日ニ於テ、人々ノ切望シタル完全ナル合併、即チ組合ノ精神ヲ捨テ一致ノ精神ヲ捨テ、融然相溶和シ更ニ新タナル教会ヲ組成シ得ルノ合併ハ到底望ムヘキ事ニアラサルナリ、若シ今日ニ於テ完全ナル合併ヲナシテ宗派ヲ減スル能ハストセバ我々ハ寧ロソノ完全ナル合併ナシ得ルノ時機ヲ待タント欲スルモノナリ、故ニ今日ノ合併ハ中止セサル可ラス

第四 今日ニ於テ合併ヲ中止スルトセバ之カ為メニ一致組合兩教会相互ノ感情ヲ惡クセンコトヲ恐ル、モノナキニアラス、是レ尤モノ心配ナリ、然レトモ熟ラ之ヲ考フルニ合併ニ熱心ナルモノハ組合ニ於テモ一致ニ於テモ極少數ノ人々ナルカ如ク、ソノ多クハ言合併ノ事ニ至レハ之ヲ聞クヲ厭ヒ或ハ冷然トシテ合併ノ成行憲法ノ如何ヲ慮ラサルノ事情少ナシトセス、故ニ仮令合併ヲ中止スルトスルモ之カ為メニ兩教会ノ間ニ大ナル惡感ヲ生スルノ恐レハ甚タ少ナカル可シ、若シ夫レ少數ノ合併熱心家カ合併ノ望ナキヲ斷念スルニ際シ、笑顔氣ノ間ニ時機ヲ待ツノ約ヲナシ、更ニ一層懇親ヲ厚フシ互ニ輔車相助クルノ約ヲナシ、ソノ心一点ノ介スルナクンバ兩教会ハ幸ナリ、兩教会ノ上ニハ平和ノ神之カ主タルベシ豈又何ヲカ憂ヘンヤ、且ツ夫レ兩教会合同ノ大会即チ合併ノ望ナキ大会ヲ開ラキ議論紛々タルノ末合併ヲ中止スルトソノ未タ平和ノ望アル今日ニ於テ之ヲ中止スルトソノ得喪果シテ如何ソヤ、今爰ニ望ナキ婚姻アリトセンカ婚姻ノ筈ヲ開ラキタル後ニ婚姻ヲ中止スルト未タソノ筈ヲ開カサルノ前ニ当リ予メソノ望ナキヲ察シテ之ヲ中止スルト何レカ智ニシテ何レカ愚ナル、是レ今日ニ於テ我々ノ最モ深ク思ハサル可ラサルノ一大要点ナリト信ス

以上開陳シタル所ニシテ若シ貴教会ノ高見ニ合フモノアラバ、願クハ与ニ力ヲ協セテ合併中止ノ事ヲ合併準備委員ニ向テ請求シ、且ツ我組合各教会ニ向テ広ロク賛成ヲ求メ、遂ニ今回ノ合併ヲ中止シ合併問題ヲシテ時機ノ熟スルマデ延期スルニ至ラシメヨ、之ニ反シ若シ右ノ言ヲ以テ誤見偏説トナサバ幸ニ教示ヲ惜ム勿レ、神ノ恩寵常ニ貴教会ノ上ニ在ランコトヲ祈ル、頓首

明治二十二年七月 日

靈南坂 東京第一基督教会

七月五日

磯貝由太郎

①同志社 ②寺町通 ④墨

兼而御心配ヲ相願候働ノ事ニ就テハ、仰ノ如ク昨日宮川君ニ御面会ヲ得、私ノ冀望ヲ申述ヘ其他色々御話し申し、若好都合ニ候ハ、御周旋ヲ願置候間同君御帰坂ノ上ハ何トカ小生方エ御通知ノ事と存候、兼而御願申候通小生ハ多額ノ金額ヲ望ム者ニテハ無之、且其代リニ勉強スル時間多ク亦勉強スルニ便利ノ地ヲ撰ヒ度志願ニ御坐候、先生ニモ宮川君ニ御遇ノ節ハ何卒宜敷御願申候、尚帰国後申上ル所可有之候、今回ハ取急キ御暇乞ニ参ルヲ得ス略儀ナカラ手紙ヲ以テ御別ノ辞ニ相代申候、余ハ後日ニ譲リ可申候、草々

七月五日

新嶋先生

磯貝

拝

646

七月十三日

山中 百

①東洞院竹屋町下ル 永井方 ②丸田町に於て 親展 ④墨

拝啓、陳者過日先生より御郵送被成下候小生の拙文神戸又新日報紙上え去る十日掲載いたし候由にて、該新聞社記者より殊に小生に向け昨日其新紙数葉恵与に相成申候、先生より御序も御坐候半は其好意に対し該新聞記者え可然謝辞御申述置被成下度奉希候、早々不一

七月十三日

山中 百

新島襄先生

尚以再応御面接相願へは御苦勞ト存候、文面を以御願申候

七月十四日

伊勢時雄

① [消込・DORCHESTER, MASS.] Via Van Couver @Kyoto, Japan ④
 インク、毛筆

久しく御不沙汰申上候、ニューヨークにて三週間ヲ費やし、僅カニ五三百ドルを得大ニ失望し、ニューヘウンニ到リモンガ氏教会にて演説致し彼是にて更ニ三百ドルを得、若し三千ドルを得ルヲ得バ日本ニ帰るべしト迄ニ卑屈致申候、ボストンニ帰り候てグリヒス氏、ヘルリキ氏の賛助を得、殊ニドクトル、メリマン氏の尽力にて都合四千五百ドルを得、先日ムーデ氏の夏学校ニ参り、同氏の助を得て一夜ニ一千ドルを得申候、目今都合五千六百ドル丈集り申候、十月末迄ハ止り可申、左候へハ一万ドル丈入手可仕と存申候、色々新しき経験を得、悲しき事も有之申候へ共、慨^概して云ハ、神の御恵ニより樂しき旅を致申候、多くの好き友人を得申候、屢々ミセス、バイクル氏ニ参り申候て泊し申候、昨今も参り居、今夜ハトルリ氏(アンドワ生)の教会にて演説仕候、四五十ドルの集金有之申候ヤニ聞及申候、あまり米国滞在長く相成申候て東京本郷の教会ノ都合如何ト心配仕候間、欧州行ハ多分見合せ可申、十一月ニハ帰朝可仕奉存候、明後日よりアンドワニ参り四週間程滞在仕候筈ニ御座候、是ハ暑中ハ集金六ヶ數候故、その間ライブラリにて少し勉強し且教授諸氏ニ質問仕度積ニ御座候、オールド、サウスにて来十月早々演説仕候筈ニ御座候、ハーデ氏母子より未タ何も得ズ申候、出立前ニハ多少与へられ可申カと存申候、先日アムホルストよりL.L.Dの学位進呈仕候義恐悦ニ奉存候、尤も至当ノ事にて小生輩迄も為メニ栄を感申候、万歳万歳万万歳々々々

何卒御宿病追々ニ御快く御坐被成候様奉祈候、河原町ニ別紙差出不申、何卒御序ニ宜敷御祖母ニも尊大人ニも御知セ被下候様奉願候、奥様定メテ御壮健可被遊御座奉存候、右ハ早々、頓首拝

七月十四日

ドルチエスターより 伊勢時雄

新嶋先生

同 夫人

ポツピ、ルームより此之状差出申、ベークル夫人ハ常々此室を新嶋君ノ室ト申され候、尚々暑中御養生奉祈候

公義君ブライド御病死のよし嘸々御心痛可被遊奉存候、よろしく奉願候、金森その他ニよろしく奉願候

648

七月十六日

志垣要三

①茨城県水戸上市備前町

吉川俊平方

②京都寺町通丸太町上ル

④墨

爾来御無沙汰に打過ぎ失礼の段申訳無之候、時下誠に不順に候所先生御起居いかゞ候や奉伺候、降而小生ハ不相変無事消光罷在候間乍憚御休神被下度奉願候、偕小生ハ去る四日家事の都合により俄に京地を発し、名古屋に二泊、東京

に一泊仕り、七日午後当地に着仕候、着後早速書面を以て大学寄付金の件につき申上度と存居候しも家事の都合と愚兄少々不快ニありし為め昨夜まで遅引仕候ニ付電報を以て申し上候、愚兄ハ当地大林区署に奉職致し居り、多少土地のものにも知己有之候よしにて、少く奔走せば少しハ集金致すを得べしと申し居候、就而ハ先生御許し相成り候えば小生ハ諸有志家に遊説致し度と存居候、^(頃)演説などハ小生の及ぶ所に無之候間、一個人に膝を接して談話致し度と存居候、当県知事ハ鹿兒嶋人、警部長ハ鹿兒嶋人、裁判所長、大林区署長ハ熊本人に候、代言人の内にも熊本県人有之、何れも愚兄の知己に候よし申し居候間、彼等に尽力致す様依頼致せば或ハ好都合ならんかと存候、併し当地ハ余り富んだる市に無之候ニ付多分の寄付ハ望む可らざる儀と存じ申候、当地にハ未だ基督教の講義所も無之、時々説教に参るもの有之候よし、当地官吏其他の間にハ近來刀剣大流行のよしにて毎月刀剣会など相開き申候、先日一寸当県師範学校參觀仕候、建築ハ中々立派に候え共、教授方法に於てハ余り感服出来申さざる方に候、本校も過般生徒のさわぎ以来少しハ改良せしやに承り候、夫が為か教員ハ大分不足致し居候よし、目下校長心得なるものハ藤田健と申し藤田^(胡)東虎先生の次男にて当県書記官に候、当地に水戸英語学館なるもの有之候へども一切盛に無之候よし、当地の土族など申すものハ実にあわれなる有様に候よし気の毒の至に候、尚ほ詳細の儀ハ追而可申上候え共、とりあへず昨夜電報を以て申上候理由のみ申上候、何卒時候御厭ひ御撰生の程奉祈候、先は右まで、早々

七月十六日

志垣要三

新じま先生

机下

649

七月十七日

不破唯次郎

①上毛前橋神明丁三番地 ②西京寺町通丸太丁上ル 急用 ④毛筆(赤インク)

十五日御認の御書状今朝相達可奉万謝候、一昨日来女学校広張之儀杉山、杉田両兄も参ラレ佐竹兄ノ相談も先ツ三人文ニて致候処ニ、今日中山氏ノ御書状も拝見シ、愈々佐竹兄ヲ同地へ送ルノ必要ヲ覚へ、本日ヨリ同氏ハ直ニ佐野へ向ケ出發セラレタリ、伝道会社委員大先生方之御意見ハ不分明ニ候得共、目今佐野伝道ヲ中止スルハ上策トハ上毛之人々ハ存セズ、佐竹兄ト共此夏丈ケナリトも十分ニ尽力サレタル上ニ中止スルハ当然ト存候、佐竹兄同地ニ参ラバ御伝言之如クシテ、金子ノ都合ハ相運度奉存候、高崎教会ノ如キハ独立主義ニテ内々聞ク所ニヨレバ大宮伝道費ハ出サ^ぬ決心之由、今日迄公然ト返事無之候、松尾兄ノ来ルヲ生等ハ大ニ相待申候、下仁田伝道も困却と存候、杉田兄が近々甘樂教会へ談判へ参ラレル事ニ相談仕候、女学校も寄宿丈ハ三百円位ノ見込之新築と決定仕候間、宜敷御尽力之程奉願候、ミシヨソノ方ニハ杉山、杉田兄ヨリ書状出ス事ニ相成候、ボール^ドニも近々書状出ス積ニ御坐候、小生ハ帰前後非常ニ多忙ニて、大ニ身体ニ衰弱ヲ覚へ花々敷運動も出来兼、大ニ不気分ニ御座候、養母ハ近々小児一人ヲ伴ヒ熊本ニ帰県スル事ニ相成候、合一中止説も上毛ハ無関係ノ如ク相見候得共、自然ノ中止ニ相成候事ハ一致家も何ニも同感ニ存候、寺沢氏ハ此月曜日前ニハ東京ニ参ラレ候由ニテ、目今前橋ニアリ種^々尽力中ニ御座候間御安心被下度奉願候、大久保氏報知次第、大宮ニ小生が一寸参ル事ニ今日相談相定メ申候、小生ハ目今何ニ之働も出来ザル残念々々

奉存候、種々先生ニハ小生一身上之御心配被下事御礼申上候、杉山へ御申越之事ハ承リ候得共、同氏ノ安中も少々ハ不安心ナル所モ御座候、一致ノ為所々へ不安心疑念ヲ生シ氣ノ毒千万ニ存候、上州役者中ニハ英雄ガナケレバ一致家もナク、反対家もなくグズ／＼とノ評ヲ蒙リ、上州ニ熊本流ガナイカラ目今幸福ト存候、湯淺先生ガ近々安中ニ於一致ノ相談アル由、定テ手前勝ノ話ト推量するに、基督社会ニ於而余リリーダーノ多数アル事ハ好カラズ、平民的ノ基督社会ニシテ貴族事業ノ盛大ニ行レルノハ乍残念組合教会ナリ、藤岡伝働転任ノ儀も後任ノ人ノ荷物ガ着スル迄茂木兄ニ委員ヨリ報知ナク、アキレハテタル事ナリ、上毛ノ臨時寄付金ハ両毛伝道費ニ以後出テハ如何と小生ハ主張仕候得共、今日杉山ガ賛成セズ、種々申上度事多シ、愚筆ニテ出来兼候、靈南坂教会も退会者（中止説共）彼是不都合之評判有之候得共、小生ハ明リ申ズ、例ノ中止説（ママ）（サ脱カ）（脱アルカ）圧制スル法方ニハナキヤと疑フ所ニ御座候、ブルクリン、ミスセスカツト婦人ヨリ親切ナル書状参リ申候、此夏ハ何地へ御越被遊候や、此程御不快ノ御様子ハ如何ニ御座候や奉伺候、先日写真差出候節ハ失礼ナル書状差出シ偏ニ御免被下奉願候、右ハ乱筆ヲ以テ御返事迄、御令室様へヨロシク御伝へ奉願候

七月十七日

不破唯次郎

新寫先生

650 七月十八日 伴 直之助

箋 ①東京々橋区出雲町 ②西京上京寺町 侍史 ④インク ⑥両毛鉄道会社便

拝□、愈御多样奉賀候、陳者過日御依頼之同志社大学校之儀渡辺洪基氏へ面談致候処、同氏ハ此前既に依頼を断りたりと申候、依而其事は承知なるか折角始めたる彼の大学校をそのまゝ棄て置くハ残念ニ付、貴意之程伺ふなりと申候処、夫に付而は愚見あり、そはエライ大学校となさず法律、文学、若くハ神学等金の掛らぬ小体の大学校となすに在り云々、渡辺氏との談話要領ハ右之如くに御坐候、同校之儀ニ付而は小生は尙早論者の一人に御坐候、嘗て友人より此事を話し候所、同人より小生ハ大学校へ寄付せしことを語られ申候、然し其同意不同意ニ不拘小生ハ折角出来かりしものハ之を成立たしむることに飽まで尽力仕度、則ち此意を以て渡辺君の論に向ひ候、私かに渡辺氏の意中を察するに何分の尽力ハ致すべきやニ存候、若し大人ハ真面目に御話しならば必らず助勢せらるべしと存候、此話ハ去十七日懇親会の席上（丁度渡辺君ハ隣席なりし故）話し候儀ニ御坐候、又田口君にも話候処周旋方となつて局に當るとハ御辞退申候へ共、応分の御尽力ハ申度の事ニ御坐候、右御依頼用之顛末大略如此御坐候、勿々頓首

新島先生

侍史

七「月」十八「日」

伴 直之助

御加養專一ニ奉存候

651

七月十八日

徳富一敬

⑤森中章光写（孔版）

拝啓、時下益御清壯ニ被為入奉拝悦候、爾来向暑折角御愛養奉伏祈候、降而野生碌々無異渡光乍憚御休慮奉希候、先以当春ハ京地ニ而拝謁大慶之至、其後寸楮も呈不申失敬拝謝

却説、大久保真二郎夫妻身上ニ付而八年来不一方御厚意を被掛、御蔭を以聊改心之端緒も相見、今般大宮表ニ布教之為被差越、一昨日此元到着、今朝該地ニ向出発候、何卒御厚誼を辱かしめざる様ニ千万企望此事ニ御座候、礼意言筆ニ難託候得共、先此段迄、艸略奉呈仕候、拝手

七月十八日

徳富一敬

新島先生

虎皮下

652

七月十八日

徳富 久

⑤森中章光写（孔版）

真の神の御恵ミの許に長雨の御さへりもなく御暮し遊シ御めて度伺上まいらせ候、次ニこなたも御恵ミによりて相かわらす無事にくらしまいらせ候、御安んし願上候、春の比は参上、毎度御志やま申上候、しかし先度のあるきハよ程兩人共ニ多きになり候か、帰り後ハ一入さかんにくらしまいらせ候、出ても入ても神様の御恵ミにてみなく様の御かひはふニあつかり有難存候、扱大久保夫婦の物^{「ママ」}、在京中ハさらなり、初より今日にいたるまであつき御心つくし、ありかたく筆紙につくしかたく存上候、此体みなく上のふ欽はしく十六日無事着、十八日早朝出立いたし候、此者等の道ハうるはしき天路をのそみつゝいさみすゝんて参り申候、ラサロのはかを出しも今こゝにみる心ちして又袖をうれしきにぬらし、真の神様にかんしやの外なく候、扱又先日は御文ありかたく大かたならぬ御世話様にて御かけにて此度ハつこふ得申へくとたのしみまいらせ候、申上度御事かすく御座候へとも、ま事にふかなひ心にまかせなうあらく御礼まで申上残しまいらせ候、末なから次第にあつく相成とふそく御たいしに遊し候様願上まいらせ候、昨十七日に伊勢さんにもふたり同道鳥渡参上、おゑつさんも大病後にはよく早くけんき付兄弟共によふちゑんハ出う^{「ママ」}すにて御座候、御造り物御老人かた大ニよろこひみな御さかんニ候まゝ是又御安心願上候、めて度かしく

七月十八日

久

新島先生

同御奥様

653

七月十九日

不破唯次郎

①上州前橋神明町三番地 ②西京寺町通丸太丁上ル 急用 ④墨 ⑥封筒表
書、新島筆「文学、哲学、政事、神学、経済学」、その他計算、消印は前橋
七月十七日

十六日御認ノ御尊書正落手奉万謝候、佐竹氏ノ一件ニ付てハ元来先生之御意見ノ如ク中山氏ヘ加勢之為トシテ直ニ参
ラレ、ゴルドン教師ニ昨日右之理由ヲ以て佐竹氏転地ノ事ヲ申送り候、先生ヘモ左様御心得被下ゴルドン氏ヨリ尋有
之候節ハ宜敷佐竹氏ノ事御返答被下度奉願候、小生一身上ニ付先生ニハ種々御心配被下奉万謝候、何レモ小生ハ先生
方之御意見ニ服スル積ニ御坐候、本日リツチャールド女教師ヨリ書状参リ、則結婚ノ一条ニ御坐候、先生ヘハ夏中何
ノ地ニ御越シ被遊候や、御尋申上候、此程先生ノ御不快ハ如何御尋申候、小生ハ多忙ニテ少々身体ニ衰弱ヲ覺申候、
明日ヨリ大宮ニ参ル積ニ御坐候、大久保氏ハ十八日ニ同地ヘ越シタリ、御令室様ニ宜敷御伝ヘ被下度奉願候、女学校
も寄宿舎新築スル事ト致シ申候、委細ハ後報ニ譲リ申候、右ハ御返事迄、早々失礼

七月十九日
(A.A.)

新島先生

不破唯次郎

654

七月二十日

後藤源久郎・関 農夫雄・深沢利重

①群馬県前橋横山町荅番地 ②西京寺丁通丸太町 親展 ④墨 ⑥封筒差出人は後藤源久郎

拝呈、炎暑之候御恩寵之下ニ愈益御清祥可被為入奉大悦候、陳ハ先生御病氣之儀も漸時御全快之由雀躍不斜奉存候、降而小生等も主の御慈愛ニ依リ無事消光罷在候、乍憚御休神可被下候、却説不破家ニも妻君死去後ハ老人小供ニて甚タ御氣之毒の御様子ニ付、小生等も大ニ心痛致し、良嫁ヲ心掛ケ居候處、今度先生之御周旋ニて不破牧師ニも北里某と結婚之約相整ヒ申候由、誠ニ好都合と奉存候、只々不破家のためノミならず教会之ため賀スヘキの事ニ御座候、然ルニ結婚之儀ハ大分延引相成候由承リ候處、不破家之事情を御察し申候ヘバ一日も早ク御取謀ヒ願度候、御承知之通り、同家ニハ三人の小供と御老母ノミニて、御養母も不日歸本へ御歸り之由、左スレハ実ニ小供之教育万端行届兼、実ニ御氣之毒之有様ニ御座候、就テハ牧師之働の上ニも大ニ差障り申候故ニ不破家并ニ教会之事情御洞察被成下、何卒至急結婚之運ニ御取謀ヒ奉願候、先ハ御伺旁御依頼ニ候、勿々頓首

七月廿日

深沢利重

関 農夫雄

後藤源久郎

新島先生

同 奥様

655

七月二十日

志垣要三

①茨城県水戸上一備前町 吉川方 ②京都寺町通丸太町上ル ④墨

前略御免被下度奉願候、陳者過日御送付被下候当県知事公文の添書并に主意書等正に落手仕候間御休神被下度奉願候、本日飯村君宅え参り御面会申し種々御話し申候所、小生の来りし事を大によるこばれ申候、今明兩日ハ休暇なれど、知事公ハ他人に面会仕らぬよし、故に明後月曜日にハ飯村君同道にて知事公の宅に参り充分に依頼致し度と存居候、飯村君ハ此の際充分尽力致すべき旨御話し有之、小生も大に力を得申候、小生ハ是まで同志社の為に尽せし事ハ誠に少なく候間、本年夏休業ハ全く之か為に費し候も厭ふ所に無之候、飯村君と御相談申し、県官、郡吏、市役所員、裁判所、大林区署、警察署等夫れ／＼え一個の帳簿配りおき、義金相集候様致し度と存居候、就而ハ旨意書等大分入用に御座候ニ付、至急左之通御廻送被下度奉願候

一同同志社大学設立の旨意

十五部計

一同同志社設立始末書

同十五部

一同同志社大学設立の大意

卅枚

飯村、齊藤両君と先生より今一応御依頼状御差出し被下間敷候や、左様出来申候えば当地の都合ハ誠に宜敷かるべくと存じ申候

以上

本日飯村君方より帰途、当地にて発行する茨城日報の社長大関俊徳なる者に面会致し種々談話致し主意書等遣ハしおき申候、飯村君に聞く所に依れば同人ハ先達手飯村君より本県下より集る義金の取扱方を依頼せし処、初めにハ容易に承諾しおき、後日に至りて同志社大学ハ耶蘇教云々の故を以て謝絶せしよしに候、飯村君ハ尚ほ今一応ハ相談して見んと申し居られ候、小生ハ是まで「^{〔補〕}大学の為に内国にて」集りし金高等ハ能く存じ不申、時としてハ答に苦しみ申す事有之候えば何卒御序に其の辺の所小生の心得までに御報知おき被下度奉願候、過般御報知申候節、当地にハ基督教の講義所ハ一ヶ所も無之よし申候所、右ハ全く誤に候し故、茲に正誤致し候、当地にハ一致、浸礼、友会よりの講義所相開け居候、而して一致、浸礼両教会の信徒ハ十五名計にて、友会の方にハ未だ一名も入会者無之由、当中学の英語教師「クレメント」と申す人より承知仕候、此の先生ハ過日先生 ウキツシヤルド氏の件に付書面差出し候よし申居候、当地ハ御承知の通り儒教ハ随分盛に候よしなれども、仏教ハ更に勢力無之、仏閣も僅に二個有之のみのよし承知仕候、当地ハ非常に御デギ主義が流行致す処のよしにて、長官の命とあらば少しハ不平を抱きながらも其の命を奉ずると申す様な風習有之候よし、故に飯村君と同道知事公に面会の節ハ充分に知事公の讃成を得る様つとめ度と存じ申候、先は右まで、余ハ又追而可申上候、早々頓首

七月廿日

志垣要三

新嶋先生

机下

乱筆の段ハ御許し被下度候

656

七月二十二日

安住百太郎

①佐賀川原小路

②京都寺町通丸太丁

拝復

④墨

敬承仕候、御地滞在中は御面謁ヲ忝シ候段奉敬謝候、其際荊妻急病危篤ト之電報ニ接シ、急遽帰装ヲ治メ又帰県後モ一応之御伺不申失敬此事ニ御坐候、扱病人事電報之通実ニ大患ニ有之、漸ク昨今快復ニ赴キ候、募集方稍手緩キ次第、汗顔之至リ御坐候、当節広津友信君御光来之由、当地ハ始審長熱心ニ尽力、殊ニ知事ニモ一応承諾之末ナレハ幾分之好結果ヲ得ル事ト予想仕候、御同氏御着賀之上は可及的御助力可仕真意ニ御坐候、却說当県は未曾有之水難、先ツ筑後川堤防決潰、其外処々之小川迄暴溢臨時地方税拾四五万円徴集予算之由、官民共困難此時ニ御坐候、右勿々貴答まで、敬具

七月廿二日

安住百太郎

新島先生

閣下

敬具

657

七月二十二日

不破唯次郎

①上毛前橋神明町三番地 ②京都寺町通丸太丁上ル ④インク ⑥郵便不足
税四匁の付箋貼付

廿日御認メ之御書状拝見、万々御礼申上候、栃木伝道一件ニ付キ、昨日中山氏ヨリ長々キ注文参リ、右之書状ハ直ニ杉田兄へ御廻申候、元来部会ニ無力ニテハ中山氏之要求通ニ参兼、且中山氏ノ働ノ事ハ伝道社会委員之御尊意ニ関係有之候故、上毛ヨリハ彼是ト申ス理由ナク、佐竹氏此夏着手之後同氏ノ意見も尋、然ル後愈々之相談ニ及度奉存候、是非々々同地へ伝道師ヲ送ル事ハ必要と存候、夏後中山氏ハ相不変同地へ働事好ザル事ナレバ、上毛役者ノ見込ニテハ同氏も辞セラレル方可然ト存候、元来生等同氏ノ困却且淋事ハ同情同感ニテ、同氏ノ為ニ心配スル所ニ御座候、然シ今日ハ少々ボジチーウニ万事実行セザレバ^(妨)防害ヲ蒙ル事多ク御座候、佐竹氏ノ為、小生之為、御送金被下候由、何レ委細申上ベク、且万々先生之御親切ニ奉謝候、サスガ熊本男子大久保真二郎兄も少々勞レヲ覚ラレシ由ニテ、東京ニテ五六日ハ休レル方進メ候得共御聞入レナク、大宮へ直ニ御申越シニ相成リ、少々勞之困却ナル事ヲ覚とノ書状参リ、此経験ハ同氏ノ為有益と存候、私も今日ヨリ大宮へ参リタキ心組之处、種々差支有之木曜日ヨリ参リ度存候、来

月十三日ニハ大間々〔ニ〕於て両毛伝道師会ヲ開ク心組ニ御座候、何レ栃木伝道一件も議題ト相成ベク存候、伊勢崎ノ牧師中村尚樹氏（熊本人）ハ此度辞セラレル事ニ相成リ、私共ノ運中ニ入度キ由、是レ考ヘモノニ御座候、私ノ結婚一件ニ付女教師リチャルド氏も種々親切ニ申越シ、無智ナル私トテも、先妻ニ対シ且世間ニ対スル義務位ハ承知スルモノニテ是結婚ヲ速ニセン事ヲ望ム者ニ非ラズ、乍左私ノ子供是伝道上ニ大ニ差支ヲ生ヨリ教会員も本年中ニ執行之儀進メラレ、彼是ヲ思ヒ困却仕候、先妻ノ母ハ殆ンドハーフクレージーニテ、子供ノ教育ニ困リ申候、養母ハ近々私ノ小児一人ヲ伴ヒ熊本ニ帰ル事ニ相成候、併私ハ此事ニ付キ北里ノフイリングヲ害スル種ハ少も無之、同人ガ私ノサルコムスタンスヲ能々思考シ参ラバ別ニ異論無之、且二人ノ子供ヲ病院ニテも同人ガ養成シクレルナラ別ニ速ニ来レト申ザルナリ、伊東テツ女ト同時ニ結婚ヲ進ラレ候得共、此事ハ御断申上候、御令室様ニヨロシク御伝言被下度奉願候、右ハ御返事迄、早々失敬、再拜

七月二十二日

新寫先生

不破唯次郎

658

七月二十二日

小坂橋信二郎

- ① 若狹国大飯郡高浜宮崎町 大石いそ方 ② 京都寺町通丸田町上ル 平用
④ 墨

拝啓、陳者御挙家様愈々御勇健之由奉大賀候、降テ生義モ無異ニ消光仕候条余事ながら御休心被下度候
二伸、扱テ先生モ御承知の一致組合聯合之件、生当夏期学校之際、諸方之牧師伝導氏諸君之御意見ヲ承ルニ、生の意
見ニ合否スルモノアリ、太困却の件モ有之候得ば御病氣之際斯ク申上ルハ甚ダ失敬ニハ候得共、何卒先生之御意見を
御筆被下度候偏ニ希上候、余は次報ニ譲ル、頓首

七月廿二日

小坂橋信二郎

新島先生

七月二十二日

大久保真二郎

①武蔵国秩父郡大宮町
上ル角 煩親展 ④墨

町田方四百二十二番屋敷 ②京都上京区寺町丸太町

恐ナカラ一書奉啓呈候、御揃益御機嫌能被遊御坐奉恐悦候、二ニ私義モ一同無事安着仕候間乍恐御休神奉伏願候、出立之際ハ非常ナル御厚願ヲ蒙リ感謝之義ハ決而筆紙ニ任スヘキニアラス、唯々此上ハキリストト共ニ居リ、先生ノ御志ヲ幾分ナリトモ表揚シ、幾分ナリトモ当地ニ神ノ御守リ、イエスノ御恵ミ、聖靈ノ御導キ常ニ人類ト共ニアリ玉フ事ヲ註釈セン、身ヲ以テ訓解セント祈願スルノミ、又幸ニ先生ノ祈禱ヲ乞

当地ノ大森市三郎ト申ス宿屋ハキリスト教ノ賛成者ナリ、其身ハ町會議員ナリ、又県會議員ナリ財産モ当町屈指ノモノニシテ余程好人物ナリ、キリストノ種子ヲ蒔クニハ富饒ノ地所カト奉存候、何分右ノ人物賛成者ナルカ故ニ、而シテ其交際家ハ何レモ当町ノ牛耳ヲ取ル人物ナルカ故ニ、小生ノ働キ次第導キ次第第二ニ御坐候、就テハ唯々小生ノ責任ノ甚タ苦モナク当町及近在ヨリ当郡位ハキリストニ献スル事ノ出来るハナラヌ次第第二御坐候、就テハ唯々小生ノ責任ノ甚タ

〔ママ〕

〔杯〕

〔小・以下同〕

恐ロシクシテ実ニ戦慄セントスル程ナレトモ、又加様ニ好景況ノ事杯ハ暫ク御隠シ申シ置キテ他日少生働キ損フタ時ノ、人望ヲ失フタトキノ、用心柱ニ致シ置カンカトノ惡魔ノ氣持モ附カサリシニモアラサレトモ、已ニ一昨年来妻子迄モ手刃セント迄切迫シタル少生ヲハ、殊ニ其後迄モ幾度カ懶惰ニモ不潔ニモ卑屈ニモ陥リタル少生ヲハ、遂ニ導キ起シテ今日此処迄導キ玉ヒシ神ハ必ス此後ハ今迄ニ倍シテ導キ愛シ玉フ事ヲ深ク信シテ疑ワサル故ニ、当町ノ伝道モ

ヤリ損ワセスニ導キ玉フ事ヲ信スルカ故ニ、敢テ用心柱モ建テス丸裸カトナリ、背水ノ陣ヲ張ツテ潔クモ当地ノ伝導ノ今后運ワサルハ全ク少生ノ罪ト快ク奉懺悔候、先生唯少生ノ弱キヲ知り玉フ、先生幸ニ忘レ玉フ事ナク必ス生ノ為ニ祈リ玉ヘ、聖靈ノ導キヲ祈リ玉ヘヨ、然リト雖、当地ト雖不足ナキニアラス、用心柱ヲ建ツルニハアラサレトモ、聞シニハ事替リテ人ハ一般ニ情弱ノ処ナリ、或人ハ当地ノ人種ヲ^{〔懷〕}慄悍ナリト申シタルカ故ニ幾分力笑ミヲ含ミ居リシニ、今見ル処ハ^{〔懷〕}慄悍ナラスシテ寧ロ情弱卑屈ナルカ如シ、是レノミハ思フタト聞ヒタニ事替リ候

大森市三郎モ矢張其通病ハ逃レサルモノ、如シ、サレトモ好人物、所謂好人物ナルカ故ニ天下ノ美事ニハ賛成スル人ナラン、大学ニハ已ニ寄付シタルヤ未タシヤ一応御調査アリテ、未タシナラハ先生ヨリ少生ヲ頼ムトノ御一書ヲ彼レニ玉ワルト序ニ、大学ノ事ヲモ御申聞ケアル事ハ如何ナルヤ、其レモ決シテ急ニ御誘ヒハ宜シカラス、少生トノ懇交弥熟スルトキハ必ス幾分力御為メニナル金員ヲ献スルヤモ計リ離シ、唯急ニスルトキハ務メ主義トナリ、各別御役ニハ相立間敷奉存候

東京ニ於テ小崎ヲ訪ヘリ、曰ク過日先生ニ面会シタルヤ、彼曰ク然リ、宮川、金森ト共ニ面会シタリ、曰ク結果ハ如何ナリシヤ、曰ク甚タ上等ナリシ互ニ胸襟ヲ開ヒテ談シタルカ故ニ互ニ余リ想像シ過コシタ事モアリテ相對話シテ見レハ釈然トシテ氷解シタリ予モ甚タ喜ヒ居ル事ナリト、生亦喜ヒ進ンテ曰ク、今日ノ組合教会ハ唯愛兄ノ運動ヲ待ツ、愛兄ニアラサレハ今日ノ患ヲ解クモノナシ、愛兄甚タ任せサルヘカラサルノトキナリ、而シテ之ヲ解クモノ愛兄ナリト雖モ時ヲ用ユルニアラサレハ能ワス、時ヲ用ユルトハ何ソ、曰ク一時合併問題ヲ忘レシメ中止セシムルニアリ若シ愛兄ニシテ合併論ニ偏シテ此紛ヲ解カントスルトキハ青年ハ益勦興、恰モ油ヲ注ヒテ火ヲ救フカ如キノミ、若非合併ニ偏センカ是レ亦異ナラサル結果ナラン、然リト雖愛兄ニシテ一ヒ中止説ヲ唱ヘハ実ニ正宗ヲ以テ豆腐ヲ切ルカ

如クナラン、何トナレハ人皆最早此問題ニ倦メリ、殊ニ全教会大多數ノ人ハ固ヨリ冷々然タル人々ニシテ初メヨリ倦
ンタル人々ト言フモ可ナリ、此人々ハ直チニ双手ヲ揚ケテ以テ愛兄ヲ賛成スヘケレハナリ、而シテ合併論者モ非合併
党モ共ニ極端論者ハ極少数ナリ、已ニ中間ノ大多數ニシテ苟クモ左提右掣^{〔掣〕}シテ愛兄ヲ賛成シタラハ、タトヒ如何ニ過
激ナル非合併党モ愛兄ニ事ヘサルヲ得ンヤ、況ヤ合併論者オヤ、是レ愛兄ノ所謂時ヲ用ヒテ我教会ノ紛ヲ解キ、而シ
テ再ヒ時期ヲ見テ愛兄ノ人望ヲ以テ合併ヲ成スノ方ナリ、苟クモ然ラスシテ徒ラニ合併論ニ偏シテ此紛ヲ解カントス
ル如キ事アラハ、其名ハ組合教会ヲ患フト言フモ其実ハ之ヲ病マシムルナリ、兄ニシテ苟クモ生ニ聞カハ生等モ死力
ヲ尽シテ愛兄ヲ助ケント、詞情ニ応シテ出テ情詞ニ応シテ激ス、彼レ又詞ニ応シテ笑ヒ情ニ応シテ諾ス、然レトモ結
局直チニ生ノ論ニ從フトハ明言セス、予ハ初メヨリ其論通リテアリシト言ヘリ、之ヨリシテ相スルトキハ彼レノ心ハ
全ク中止論ニ傾キタリト言フモ最早今日ノ処デハ相違アラス、唯伊勢帰リ、グリーン再来ノ時ヲ恐ルノミ、然レトモ
生ハ何処迄モ本説ヲ主張シ、爾後度々書面ヲ以テ涵養シ、是非彼レヲ中止説ノ大統領トナシ、組合教会ノ大多數ヲ彼
レニ集メ合併論者ヲシテ丸裸カトナシテ放逐セント奉存候、然ル后ハ又然ル后ノ策アリ、今日ハ唯愛ニ止マルノミ、
尤モ彼レハ左程少生ヲ疑ヒモセヌ様子又少々ハ信用モシタ様子ナリ、情トケタル様子ナリ

当地ニ着シテモ誰レモ知ルモノナク殊ニ世話スル人モナク殆ントアフリカニモ伝道ニ行キタルカノ如クニテ今日迄宿
屋ニ泊シ今日漸ク家ヲ借り移リ候、不破ハ明日ノ中ニハ来テクレル様子ニ御坐候、右ハ甚タ乱筆奉恐入候得共御推
読被下度奉願候、万一少生ノ仕事行キ過キタル事、或誤リタル事アリハ何卒御指揮被下度奉願候、恐々頓首^{〔ラ〕}

七月廿二日

大久保真二郎

新島先生

閣下

拝

二白、荊妻ヨリ暮々宜敷申出候、別紙差上候心ニ御坐候得共着後少々恙アリテ此節迄其義出来兼候間、暮々御断申出候、再白

660 七月二十四日 不破唯次郎

①武州大宮町 ②西京寺町通丸太丁上ル ④墨

二白、私も帰上後身体上ニ大ニ勞ヲ覚候得共、保養ハ六ヶ敷ク、奉身シタル以上ハ神ノ意ニ任ズル方当然ト存候得共時弱キ心出申シ残念候

昨日此地ニ参リ大久保兄ニ面会仕候処、同兄も大ニ悦レ、一昨日ヨリ借宅へ転移セラレ、先ツ当地ノ有志方も同氏ノ為ニ尽力スル様子ニ見受申候、今夕ハ有志者七八名ニ面会之積ニ御座候、大久保氏伝道ノ法方ハ全ク同氏ノ意見通ニ実行サレル方至極と存候間、元来私共ハ同氏ノ加勢トシテ入用ナラ時ニ参ル心組ニ御坐候、元来此度ハ私も同氏ノ来着ヲ賀シ且当地有志者へ照会之為部会ヨリ参リ申候、同氏ハ大ニ前途望ヲ有ラレル様ニ申サレ何ニヨリと存候、此度思ノ外路費も入リシ由ニテ本月丈ハ一ヶ月ノ給料ヲ与ヘル方可然存候間、何レゴールドン氏へ明ニ私共ヨリ相談スル心

組ニ御坐候、松尾ハ不快之為来上延引之由ニテ、高崎信徒方ハ大ニ失望ノ色有之、一昨日倉ヶ野ニ参リ松本氏ニ面会仕候、同氏ノ事業も困却之由ニ候得共本年ハ余程ノ利ヲ得ル見込ノ由、深沢氏方ニハ先日出火有之五千円ノ損害ナリ実ニ氣ノ毒千万ニ存候、公義氏ニハ伝道会社ヲ御辞ニ相成候や奉伺候、元来同氏が上毛ノ地ニ御働ノ事ハ先生ニも御不同意之様ニ承知仕候得共場所ニヨリテハ宜敷存候、是全ク私一人ノ意見ニ御坐候、下仁田ニハ是非伝道師必要ニ御坐候、大久保氏ノ人物ニ付キ杉山、杉田両兄方ニも種々心配之筋有之由申サレ候故、小生も中ニ立チ少々心配仕候得共、先日ノ同氏ノ働ノ様子ヲ見テ後批評ハ可然シト申送候、是等ノ事ハ同志社ヨリ帰国セシ生徒等ノ悪口ナラント推察候、然此事ニ付御心配ハ願フ所ニ無之、左様御承知被下度偏ニ奉願候、明日ハ前橋ニ帰ル積ニ御坐候、大久保氏が武州ニアル故上州と以後通ジ前途大ニ望ヲ有シ申候、此程ハ雨天已ニテ昨日ノ如キハ本庄ヨリ大宮迄ハ九里ノ所人力代一円二十錢ニテ道路悪キ故一人引ニテハ六ヶ敷ク二人引ニテ参リ候得共六時間ヲ費シ申候、都合ニヨレバ本月末ニハ吾妻ヘ一寸参り度存候、沼田伝道上ニ付少シ案ズル所御坐候、併シ余リ他所ノ事ヲ心配シテ内ノ事ヲ心配セザレバ困却ノ地ニ落入セント恐レ申候、御令室様ヘ宜敷御伝言被下度奉願候、大久保ノ妻君ハ頼母敷キ人物と存候、上毛ニも同姉ノ如キ人物ヲ一人招キタシ、何レ今夕有志者ト相談之結果ハ委細御報申上度奉存候、早々失礼

七月二十四日

不破唯次郎

新寫先生

661

七月二十五日

藤田伝三郎

②自由亭 ④墨 ⑥宛名は新島襄、金森通倫両名宛

拝啓仕候、過刻ハ態々御来訪御懇話之趣も有之御厚志奉謝候、然ルニ寄付金額之義ハ壹千円と確定仕候間此段御報知申上候、右ハ彼此勘考、小生之及ぶ丈ケハ既ニ相尽し候義と相信申候間、此上ハ如何様ニ御説諭相成候とも変更致候儀ハ出来不申、此辺不悪御諒知被下度、明日ハ更ニ御来訪被下候様御示指ニ相成候得共、明日ハ他用有之拝鳳之機を得不申と存候間、此段以書面申上候、草々頓首

七月廿五日

藤田伝三郎

新島 襄様

金森通倫様

662

七月二十五日

大久保真二郎

①武蔵国秩父郡大宮町

②^{〔破損〕}市上京区寺町通^{〔破損〕}町上ル

親展

④墨

⑤

本文は新島奥様宛、封筒裏書、異筆「Resident」

一昨日不破氏上^{〔奥・以下同〕}より来り暮れ候間、

当地ノ有志六七人拙宅ニ招き不破氏より小生江紹介致し暮候、且又学校飛出し

之身殊ニ伝道ニハ毫も経験なき身なれハ彼是不都合モアランナレトモ万事助ケテ尽力暮れ候様ニト不破より懇切ニ演述ヲ致暮候間、小生も大ニ都合宜敷又当地ノ人も大ニ喜ヒ、殊ニ不破より一場之話ニ宗教ヲ進メタルハ尤モ感シタル

様子ニ見受ケ申候、小生サエモ大ニ利益ヲ得申候、何レ当地ハ急カス怠ラス、尤モ老練ニ（貞九郎的ニハアラス）懇切ニ勉強仕候間乍恐御安心可被下候

不破結婚ノ事ハ九月中ニ執行シテハ如何、奥様ノハ道ニツケル愛、小生ノハ肉ニツケル愛ナルヤハ計リ難シ、私モ中心ハ成ルヘク奥様ニ御從ヒ申度候得共、段々不破ノ話ヲキ、又我身ノ上ニ引キクラヘ考ヘ候時ハ一時間ハ措置三十分

間デモ腐ツタ様ナ嬢デモ居ラサルトキハ実ニ実ニ如何トモスル能ワサル声ヲ出タテ泣キ立テラレルニハ往生シタル事^{〔ママ〕}

モ度々有之候ニ、マシテ幾日モノ自ラシ、バ、迄モ取ラネハナラヌト言フニ至ツテハ実ニ察シ入申候間、私ハ遂ニ

情実ニ負ケ、然ラハ断然九月中ニ断行セヨト勸メ申候、就而は式ハ是非先生ニ御願申上ケ度ト申ス已上ハ、先生ハ九

月ノ何日頃ニ御帰京ニ相成候ヤモ分ラサレハ、唯九月ト題号計リヲ取究メ申候間日限ハ御心持ニ御定メ被下テ御通知

被下度奉願候

爰ニ一難題ト云ハ彼伊藤鎮君頻リニ北里ニ向ツテ共ニ一所ニ結婚式ヲ行んと主張する由、不破ドコ迄モ否ダト断リタル由ナレトモ万一同し日ニモ差臨マハ些〔許〕ト心酌モアルヘケレハ、願曰ク後ニナルカ先ニナル様ニ御計被下度奉願候、右は大繁忙中要辞而已奉得貴意候、恐々不一

七月廿五日

新寫奥様

真二郎
拜

663

七月二十六日

柳瀬春二郎・矢野七三郎・矢野万助・増田尚平

①愛媛県伊予今治 ②西京 大至急 ④墨

一簡謹啓、時下酷暑ニ御坐候処其御表 玉館御揃不相変主之御恩下御健全可被遊御精忠敬賀之至ニ御坐候、二ニ弊会一同無恙御同様御恵下ニ送日候条御安慮思召可被下候、偕爾後ハ御病氣如何被為在候哉、御容体拝承致度奉存候、小弟等不及ながら先生ノ御全快ヲ不絶相祈居候事ニ御坐候

一予而御聴及も被下候歟、山中百氏ヲ弊会牧師ニ招聘候事ニ約速相調候ニ付而ハ、来ル九月五日按手礼式、同六日十年期式執行仕度、右ニ付而は先醒ニハ我教会創立来万事不容易御配慮被下候訳も有之、殊更山中氏ノ按手礼式ニも有之、旁以是非御来臨相願度一統希望仕居候、併来月五日六日頃ハ学校開業ニ差迫り居候ニ付如何哉と大ニ心配仕候、

其辺ニ於テ先醒御差支之廉も被為在候ハ、定日ハ少々伸縮ニ仕候而も、何分御来会ヲ相願度奉存候ニ付諸方へ案内
状ヲ発スルニ先チ一応相同度奉存候、希ハ御操合之上右定日御承諾被成下候ハ、無此上儀ニ御坐候へ共、若御差支ニ
ヨリ伸縮之御考も被為在候ハ、被仰聞度、尤諸方へ案内状差立候儀差急クニ付、兎も角至急御報相煩度奉存候、宜奉
願上候、右為可得尊意如是ニ御坐候、恐々敬白

七月廿六日

今治教会執事

柳瀬春二郎

矢野七三郎

矢野 万助

増田 尚平

新島襄殿

玉床下

664

七月二十六日

富田鉄之助

①東京麻布区市兵衛町二丁目八拾八番地

②京都寺町通丸太町

拝復

④墨

貴書拝読、久々御不沙汰申上居候、賢台追々御快氣の方と拝承慶賀此事ニ奉存候、乍去不順之事ニ候得ハ無御油断御撰養專一ニ奉存候、小家も先以無事ニ御坐候、杉田玄端過日病死、山妻大よわりニ御坐候、当年ハ友人共ニ而追々遠行多くサデ、氣之モメル年ニ御坐候、市原君江御書状正ニ落手仕候、同氏ハ此節高崎江参リ不在ニ候、廿八九日比帰京、来月三日出立と申事ニ候、御書状正ニ相渡候様可差計候

東華学校も追々好都合ニ候、乍然経費之不足ヲ来スニハ大ニ閉口致候、先ツ明年丈之所ハ無指支様都合出来候得共モ金之不自由ナルニハ大ニ当惑ニ候得共、全体国内中ニ不足物故如何とも致方無之次第、只々堪忍致外無御坐候、草々拝答、此由御内政様江もよろしく奉願上候、頓首

七月廿六日

鉄之助

新島賢台^{〔カ〕}

七月二十七日

不破唯次郎

①上毛前橋神明町 ②京都寺町通丸太丁上ル ④毛筆(赤インク)

拝呈、一昨夜大宮ヨリ帰り本庄ヨリ一書呈オケリ、大宮伝道ハ先ツ後來頼母敷奉存候、大久保兄姉ニも大ニ望ヲ有ラ
 レ、同地有志者ニも大ニ尽力スル様ニ見受申候、大宮行ニテ留守中へ御廻之金員三十五円正ニ落手仕候、佐竹氏ノ住
 居明り次第第二十円ハ直ニ廻ス積ニ御坐候、残金十五円ハ小生へ御加勢トシテ載ギ別ニ御礼申上候、北里トノ関係ニ付
 キ先生ニハ御多忙中ニ種々御懇切之御世話ヲ蒙リ奉万謝候、又聞ク所ニヨレバ教会執事方ハ同事件ニ関シ先生へ何ニ
 カ申上ゲ候由、御氣ノ毒ニ奉存候、小生も家政ナリ伝道上ナリニ付キ種々困却有之候得共、元来小生ハ先生之御意見
 ニ服スル心組ニ御坐候、小生ト雖も事物ニハ非常ト尋常トアル位ノ事ハ元来承知仕候故、只判談ニ困却スル所ハ小生
 之有様ハ常ナルヤ非常ナルヤトノ事ニ御坐候、養母も愈々近日出発スル事ニ相成リ、老人ハ残り候得共用達ハ出来
 兼、小生ニテ子供ノ世話迄ニ力ヲ費サバ本務出来兼候故ニ、世評ノ恐も有之候間如何ニ決定スベキヤ困却仕候、然ト
 雖も万事不都合ノ事ハ先ツ耳ヲ閉ヂ聞ス、今日ハ大切ナル伝道ノ時ニ会勤度存候、此程母ナキ小児等ヲ見テ、教會員
 ノアル方ハ不破氏ノ不行届故子供ハ悪キ習ヒラ覚へ、牧師タル者ノ子供ニハ不適当ト申ス人もアル由、私ハ外室^出已致
 セバ老人ノ昔^風ニテ子供養成候故、目今ノ所ハ別ニ工風無之候、一昨夜湯浅兄来前サレ靈南坂教会へ無牧師ナレバ小
 生ニ参リてハ如何と申サレ候故、小生ノ如キ馬鹿正直デナクテハ牧師ハ靈南坂ニても前橋辺ニテも六ヶ敷也ト答候
 処、否々と大ニ笑レタリ、合一一件ニ付少く申サレ得共、小生ハ少も受ケズ帰宅仕候、寺沢氏ハ東京ニ於テ前橋教会

ノ事ヲ大ニ評シオラレ候由、市原、森田、村井送別会且大西氏卒業ヲ祝スル会有之候間近々一寸上京之心組ニ御坐候、此ノ節人見兄ニも面会致度奉存候、大久保氏ノ計策且佐竹氏ノ計策参リ次第委細先生ニ御報申上度奉存候、承レバ御令室様ニハ御不快之由御尋申上候、早々失礼、再拝

七月廿七日

不破唯次郎

新寫先生

市原先生も目今安中ニアリ

666

七月二十七日

徳富猪一郎

⑤森中章光写（孔版）

木下林蔵ナル少年御地ニ罷り出てたり、右ハ少生ノ社中ナレハ何卒格別御教示ヲ乞候

肅啓、連日濛々不愉快ノ天氣ニ有之候処、漸ク快晴ヲ得大慶ニ存上候、小生頃日ヨリ信州地方漫遊為メニ貴答延引仕候段不惡御海恕ヲ乞ふ、却説、御申越ノ一条ニ付ては愚案モ多少有之候得共、勿々説き尽ス不能、追て開陳可仕候、公義君ノ事ニ付てハ小生御世話申上て少しも差支無之候、三十円内外ノ俸給ナラハ何時ニテモ御都合次第新聞記者若

しくハ学校ノ教授等ニ御世話可申上候、既ニ頃日仙台ヨリモ新聞記者ノ依頼ヲ受ケ居候事ニ御座候、此ノ儀ハ先生ヨリ公義君ニ御通知ノ上可然御決心ノ程御申聞相成候ハ、小生可及丈ハ御周旋ノ勞ヲ採ル可くと存候、若し又た公義君ノ事ニ付て先生ノ御掛念モアラハ小生乍不及同君ノ後見人（少シ失敬ナレトモ）とナリ先々迄モ御見届ケ可致候間、余リ御掛念相成間敷候、湯淺君ヨリ渋沢氏云々ノ儀ハ湯淺君上州留守にて不果、今日帰京致シたれハ不日面会ノ上何分御答可仕候、実ハ渋沢氏より面会ノ儀申入たる書狀到着致居候得共、同書狀ハ湯淺君ニ名当てしたるものにして小生一覽不致候間、かくは延引ニ相成申候、猶又九月頃ハ是非共御来京被成度候、左スレハ必ラス同志社事件ニ今一運相始め度と存し申候、山路氏^(一三)ニハ昨日面会仕候、今夜ハ又た面会ノ都合致置候、佐々城豊壽なる人ヨリ先生御夫婦ノ写真ヲ頂戴仕度とノ事にて、小生ヨリ御願ひ可申上旨依頼ニ相成候、又た同女史ら自己ノ写真一枚差出シ呉レとて小生預リ居候方ハ大版ナレハ幸便ニ御送り可申上候、兎角同志社生徒ノ仙人風とナル傾向ハ彼ノ教員諸氏ニモ御注意ヲ願度候、真正ノ改革心ハ世上と触れて発揮スルモノナリ、故ニ小生ハ同志社生徒ノ避暑休暇ニ東京ニ出掛け候ヲ甚た満足と存候、乍不及其ノ紹介ノ勞ニ服シ可申、先生高見幸ニ此辺御〔後欠〕

667 七月二十八日

山路一三

①東京々橋区南鍋町一丁目 伊勢勘方 ②西京寺町 親展 ④墨

拝呈仕候、陳者大暑之候御五体如何候や、御保養之義第一奉存候、次迂生先達来申上置候時日ヨリ少々早ク、即本月廿三日三州ヲ出発シ静岡江一泊、明ル廿四日午后五時無事ニ到着仕候間御安意被下度候、却説、着后知人旧友ノ中等ヲ尋、彼是奔走仕候処、大概東京ノ何タルハ相解リ候故是ヨリ兼而目算ノ事業ニ取掛度存候、一昨日は兼而御紹介被下候徳富君ト面会仕、一時間位談話ノ后、明ル日五時頃又々御面会ノ都合ニ約束シ其日ハ帰宿仕候、翌日罷出候処岸本、青木、保高等ノ諸君モ御裂会ニテ候故一向親密ナル御談話ニ不及、誠ニ残念之至ニ存候、迂生ハ未タ徳富君ヲ知ラズ、氏ハ已ニ先生ノ御書面ニテ三秋ノ交リヲ結ビシモノ、如クニ御座候、又近々ノ中、勝、矢野等政治上有名ノ諸氏江モ紹介スル等之御約束モ有之候、迂生ハ今度切ニ望ム処ハ可成大豪雄ナル人物、維新来ノ人物、當時有名ナル政治、法律、経済学者等ニ面会仕度存候、迂生ハ今度来京后喜説ノ至リニ不堪事件ハ、日本ニモ如此面白舞台アリシカト云フ事ニテ候、真ニ一生涯ノ大運動場ハ東京ト心私ニ相考候、其他細敷事ハ后日御通知申上候、勿々不宜

廿八日

山路一三

新島襄殿

閣下

二白、公義兄ハ京都ニ御在宅被成候や、若し御自宅ニ候はゞ后日御手紙差上度存候得ハ宜敷御伝声被成下度候

七月三十日

広津友信

① 柳川長柄町 森方 ② 京都寺町通丸太町上ル ④ 墨

拝啓仕候、陳ハ御令閨様御違和之赴承リ真ニ驚入申候、最早御全快ニ御座候哉御安否承度、且ツ一昨夜来大地震アリテ非常之出来事ニ候故、御地辺ハ如何ナリシヤ御動靜何度存候ニ付、昨朝ハ不取敢電信ヲ以テ御安否御伺申上候次第ニ御座候、突爾ノ事ニテ定テ輕躁之謗ヲ免セズ候ト存候ヘ共、何卒此事情御含被下御諒察奉願候、一昨夜十二時頃ノ地震ハ万古未曾有ノ大地震ナリシ由、家トシテ破損セサルモノナク人ノ負傷スル者モ有之、而シテ人々ハ戸内ニ安坐シ得ルモノナク、悉ク戸外ニ座ヲ設ケ、或ハ野外ニ野陣ヲ張リナドシテ徹夜警戒シ、昨夕モ尚ホ時々微動アリテ人心洶々、寸時モ安堵スルノ時ナク、間ニハ怪説百出異聞接踵殆ンド捕風攫雲ノ如キモノアリシト雖トモ、一時ハ中々騒擾又騒擾万人物ニ弄セラレ人ニ玩セラレ、殆ント七面鳥ノ二ノ舞ヲ演セントスル有様ニ有之候、昨夜モ人家悉ク徹夜シテ戸外ニ立チ野陣ニ息ヒ、非常ヲ警シテ候ヘ共幸ニ何事モ起ラズ、無事味爽ニ至リテ一小地震アリシノミニテ、小子モ只今旭日ノ昇ルト共ニ大ニ安堵致候、熊本地方ハ柳川其他ノ地方ヨリモ更ニ烈猛ニシテ其電報ノ赴ニ依リ実ニ驚入申候、宮崎県下、長崎県下辺ハ格別ノ事ハナカリシ旨電報アリシ、天災又天災、洪水至リ大地震フ、若シヴオルテールヲシテ今日在ラシメバ必ズ「人ハ上帝摂理ノ手中ニアル玩弄物ナリ」ト云ハン、是果シテ真理ナル乎、吾人信スル所アリ、大ニ此意ニ異ナル所アリ、然レトモ未タ聖旨ノ在ル所ヲ十分悉知スル事ヲ得ズ、只タ静ニ待テ他日其摂理ノ妙奥ヲ学バント欲スルナリ

本月初旬ヨリ数日前迄ニカケ連日大雨降リシハ大川ニ沿ヒ水多キ地ノミナラズ、山地ト雖トモ耕作上非常ノ災禍ヲ蒙リ候事ハ蔽フ可ラサルノ事実ニ候、其詳細ハ已ニ新聞紙ニ於テ十分ノ御承知ノ事ナラント察シ之ヲ復述スルノ徒勞ヲ執ラズ候ヘ共、筑後川筋ノ地ハ再三又再四水害ヲ蒙リ慘状何トモ申サレヌ次第御座候、柳川地方モ一時ハ食米ヲ得ルニ苦ミ、飢饉ニ陥ラントスルノ危機ニ迄立至リ候ヘ共、幸ニ天晴レ地定リ運搬ノ便開ケ労働ノ利ヲ得ルニ至リ甚タシキ事ノ起ラズシテ一同ノ喜ハ言ハン方無之候、数日前ヨリ小子ハ一考案ヲ立テ、柳川教会員一同ニ謀リ、今度水害ヲ蒙リシ者ヲ救助スル為メ広ク天下ノ基督信者ニ義捐金ヲ募リ度、已ニ該教会ノ賛成スル所トナリテ小子ハ他数人ト其事ニ着手シ各教会ヘ送ルノ書状ト新聞紙上ニ広告スル文等ハ認メ候条、尚ホ久留米、佐賀、福岡、熊本地方ニアル教会ト謀リ、連名ニテ天下ニ訴ヘント欲シ、昨日ハ小子久留米ヘ罷越積リニ候処、大地震アリテ其意ヲ果サズ、都合出来レバ今日相越サント存居候、幸ニ基督信者一同博愛ノ実ヲ彰サン事ヲ、祈願ノ至御座候、去十六日ニハ雨ヲ犯シテ熊本ニ罷越候、其用向ハ一ハ確君留学ノ事、一ハ平素ノ企圖ノ事ト大学義捐金募集ノ事等ニ付、田中君ト協議致スノ積リニ有之候

一、確君ハ近来稍々悔悟セラル、所有之、前日ヨリモ真面目ニ相成居ラル、如ク見受ケ申候、海老名氏始他諸君ニ依頼シテ尚ホ熊本ヘ留学ノ事ニ致シ候、人々ノ嫌疑ヲ恐レ人々ニ悪キ感情ヲ抱カセ候テハ事ノ成ラサルノ心配モ有之候ニ付、翌日ハ直ニ一友ト共ニ阿蘇山ノ絶頂ニ攀登シ、雨風ヲ犯シテ天然ノ絶景ヲ賞玩シ、人ヲシテ小子ノ熊本行ハ全ク遊ビノ為メナル事ヲ覺ラシメ、数日ノ日子ヲ阿蘇山下ノ浴場ニ消費致候、熊本ニ歸リテ後チハ種々ノ御人物ニ面会致候ヘ共、山田武甫氏ノ他行中ニテ面会セサリシハ遺憾ノ事ニ存候、此般ノ熊本行ハ一ハ天国ヲ玩ヒ一ハ人物ニ接シテ愉快ニ罷在申候

一、田中君トハ同志社大学ノ事ニ付、熟談致シ先生ヨリノ御依頼ノ廉ニ付懇々依頼申上候処、同氏ハ十分此事ノ為メニ尽力致度御精神ニ有之、其他ニモ同氏ト協力致サル、青年諸君ノアル由、然シ今日直ニ着手スル事ハ不得策ナレバ今秋頃ニ至ル迄暫時待チ居方至極得策ナラン、其理由ハ第一、今日ハ熊本、福岡県下ノミナラズ他ノ諸県モ天候不順等ノ事ニ依リ一般ニ經濟上心配シ居ルノ時ナレバ甚タ我儕ノ企図ヲ達シ難キノ有様ナリ、第二、只今女学校ノ為メ數百円ノ金額ヲ募集中ニテ其事ト相混シ遂ニハ二ツ共ニ成ラサルノ恐アリ、且又當時機關新聞ノ如キモノニ付財政困難ニテ県下ニ於而他ニ種々募集ス可キ事ニ着手シ居レバ何分手ヲ延ハシ難キ事情アリ、之ヲ要スルニ九州一般ニ執リテ今日直ニ奔走スルハ或ハ時機ハヅレノ如キ有様ナレバ、爰モ時機ノ宜シキ時迄見合スル方得策ナラント考フ云々、懇々御話ニ相成、此旨小子ヨリ直ニ先生迄御通報申上呉レ云々御依頼ニ相成申候、小子モ已ニ先生ニ申上候通今日ハ九州一般ノ大經濟ニ付随分人々ノ内輪ニ於テ苦慮シ居ルヤニ見受ケラレ候へば、只今広ク盛ニマタ確ニ募集スル事ハ出来兼候ノ恐モ有之、加之若シ時機ハヅレニ無味ニ手出シ事ノ成ラサル事共アラバ他日再ヒ手出シノ出来サルニ至ラシ事ヲ恐レ候、余リ急ニセズシテハ如何ニ御座候哉、然シ手出しノ出来ル地方丈ニテ尽力致シ候方得策カト被存候一、平素企図ノ事ニ付テハ小子共ト兼テ意見ノ異ナル人々ノ反動シテハ面白カラサレバ小子ハ表面上決シテ発言セズ、マタ彼等ニ対シテ意見ヲ聞キテ協議スル等ノ事ハ為サズ、可相成反動ヲ起サ、ル様注意シ(熊本人ハ一己主義ニ天性アリシヲ立ツノ赴アレバ僅カノ事ニ反動スルノ過失モ多ク見受ラル)小子ハ重々兼テヨリ同主義ノ人々即チ為ス有ルノ青年諸君ニ心情ヲ打明ケ小子ノ卑見ヲ申述べ候、而シテ彼等ヨリ穩カニ反対ニ立ツ人々ニ協議セラル、方大得策ナラント存候、田中君モ其他民友社連ノ青年諸君モ此事ニ尽力セラル、ナラン、其御決心ヲ承候、只今天氣モ稍々定マリ候ニ付直ニ出發、久留米ニ相越候ニ決定致候条、申上度事ハ山々有之候へ共先ツ筆ヲ茲ニ擱キ追テ續々申上度候、

早々謹言

乍末筆御令聞様ニ宜敷御鳳声奉願候、何卒御全復ノ程日夜切望ノ至御座候、北垣確君ハ先日ヨリ柳川へ参ラレ、小子ノ宅ニ数日御逗留相成、昨日出発三池ノ方ニ赴カレ候、今後ハ必ズ御勉強相成事ト存候

七月卅日

友信

新島襄先生

閣下

一日トシテ寧日無ク彼是ノ事ニ奔走シテ書状モ差上不申、甚タ失礼致候、真平御海容奉希候、先日熊本ヨリ帰り候日先生ヨリノ御書状数通拝誦致候、熊本ニハ十日計日子ヲ費ヤシ申候

669

七月三十日

市原盛宏

① 東京市本郷駒込東片町百三十四番

横井方

② 京都市寺町通丸太町上ル

親展急ギ

④ 墨

奥様にもよろしく奉願候

拝啓、陳ハ出発前多忙の為メ大ニ御無音仕候、以愈御清壮之御儀と拝察恐悦仕候、扱先般参堂之節ハ依例大ニ御厚遇

を蒙り候段深く御礼申上候、 迂生儀も弥第老回卒業式等首尾よく取済し、 本月十六日仙台を發し、 途中一日文日光山を見物致、 去十九日東京に入り老兩日滞在之上、 更ニ上野国へ参り、 漸く本日お以て再上京致し、 何レ来月三日出帆之汽船にて出發之胸算ニ御坐候間、 此旨御了承被成下度奉願候、 迂生家族之儀ハ先般も鳥渡申上候通、 不在中ハ弥御地へ遣シ、 諸事御厄介之程奉願置候間、 是亦よろしく御眷願被成下度懇願仕候、 右ニ付先日仙台より海運にて荷物數包貴宅へ当テ、 差出置候間、 乍憚御受取置被下度、 又获之浜より御地までの運賃先払に致置候故、 御面倒ながら御立替置被下度候、 左スレバ〔証〕かね事遅くとも九月上旬までにハ御地へ参上可仕候間、 同人より直に返上仕候様に取計置可申候也、 時下愈々炎暑に悩むの折柄に御坐候間精々御保養之程奉願上候、 先ハ右御依頼旁取急如斯御坐候、 頓首

七月卅日

東京旅宿にて

盛宏

拝

新島先生

虎皮下

670

七月三十日

大久保真二郎

① 武埴秩父郡大宮町

② 京都市上京区寺町通〔破損〕□□町角

急煩親展

④ 墨

⑥

大久保音羽書簡同封

降り続ノ后ニ激烈ナル暑氣ニ而隨分宜敷氣候ニアラサレトモ、 御揃益御機嫌能被遊御坐奉恐悦候、 次ニ当方も一同無

異消光罷在候間乍恐御休神被下度奉願候、当地之^{〔事〕}時情ハ先便も奉得貴意候通、何分着後一週日位之事なれハ委細ノ事ハ分ラサレトモ、先ツ今ノ分ニテハ町會議員、學校教員及町役吏^{〔杯〕}杯当地ノ輿論を組織する人ノ内ニは不同意ト云フ人迎ハアラサル^{〔樽〕}「ノミナラス、大抵ハ賛成者ニモアリソーナラハ、此上ハ」^{〔小・以下同〕}唯^{〔小・以下同〕}少生有志家ノ賛成ヲ失ワス又貧乏ノ友タルヲ忘レスシテ、キリスト共ニ在リサエスレハ、必ス好結果アルヘシト随分榮ミモ望ミモナキ事ニハ無御坐候、先御休心可被下候、尤モ幸ニ少生共ノ為、又当地ノ為ニ常ニ御祈禱被下候様ニ奉願候
 諸少生ノ計算左ニ御報告申上候

一金參拾參円

ゴルドン教師より

〔新島・青鉛筆〕

内拾五円

但旅費ノ内六分

七〇
八〇

九〇
4.5

4.5
3

7.5

+ 3

10.5

同拾八円

但一ヶ月九円宛トシテ二ヶ月分

外ニ

一金貳拾五円

但内貳拾円ハ旅費ニモアラス、又月給ニモアラス、少生出立ノ為ニ徳富より借用セント曾テ考ヘ居リシ代リニ御元ヨリ拝借ヲ願ヒシモノナレハ是丈ハ特別中ノ又特別ト御勘考下サレ度奉願候、残り五円ハ旅費、月給ノ中ニ御当テ下サレ度候

一金貳拾円

但出立ノ際、月給トシテ頂戴仕リタル分

外ニ

一金五円

但前条貳拾五円ノ内より^{〔繰〕}繰越分

メ貳拾五円

但旅費及月給トシテ頂戴仕リタル分

内

拾円

但旅費ノ四分トシテ御考へ被下度奉願候

殘拾五円

但七月分半ヶ月八月九月二ヶ月分トシテ御考へ被下度奉願候

諸爰ニ御垂聴ヲ願フハ、甚タ赤面ノ至リノミナラス殊ニ勿体ナサニ堪ヘスト雖、實際ノ事情止ミ難タケレハ、僅微ノ心酌^{〔斟〕}ノ為ニ大事ノ御役目ヲ仕損スル如キ愚ナ事アリテハ相済マサル事ニ付、敢テ御含ミ迄ニ御垂聴ヲ願ヒ奉リ置候
右ノ計算ニヨレハゴルドン教師ノ方ヨリハ九月ノ半分、御元ニテハ九月全額分頂戴仕リ居ル事ナレトモ、實際ノ備ハ今現在来ル八月中ノ備ノ外無之候、或ハ賛^{〔贊〕}沢ニ使ヒ込ミタリト御思召モアランカナレトモ決シテ左ニアラス、実ハ京都出立ノ際ハ机ノ如キ、下駄ノ如キ、摺鉢ノ如キ、盥ノ如キハ只ノ如ク売却セサルヘカラス、而て当方ニテハ驚クヘキ高価ニテ購求セサルヘカラス、其辻モ決シテ充分ニ購求シタルニアラスト雖、当地ノ驚クヘキ物価ノ高キニヨリ事ノ爰ニ及ヒ申候間、右ハ不惡御諒察被下度奉願候、尤モ不破ニハ実況稍々申置候間彼レヨリモ或ハ何とか言上スルヤモ難計候、尚此上ニ物入りナレトモ来ル八月十三日ハ大間々ニテ両毛ノ役者会有之由ニ候間、是非出席可仕心組ニ御坐候、都合ニヨリテハ当地ノ説教会且又当地講議所設立ノ事忤不破ヲ經テ相談仕らんと奉存候、蓋今日ノ処ニテハ未タ講義所ヲ設ケス、有志家輩ヲ日々私ヨリ訪^{〔訪〕}ネテ膝組ニ話仕居候、此後二三十日モ經タ所ニテ講義所ヲ立テタラハ大ニ都合宜しからんと奉存候

右ハ甚タ御面働、且恐入奉リ候儀ニ御坐候得共、主ノ為ニ働ク為ニ實際要用之事と奉存候ヘハ敢テ奉得尊慮置候、尤今後ノ工夫ハ又不破とも能ク相談仕ルヘケレハ左程御配慮下さらざる様奉願候、恐々

七月卅日

大久保真二郎

新嶋先生
閣下侍史函丈

二白、今当地中ニテ最モキリスト近キハ県會議員一人、町會議員一人、以前ハ校長ヲ務メタルモノ教員一人及以前東京女師範学校杯ニ教員タリシ婦人一人、是四人ヲ一等トス、其外七人何レモ教員議員は皆賛成ハ仕リ居リ申候

〔同封〕七月二十九日 大久保音羽 ④墨

時こふなから暑さ強く御さ候処、弥々其御元様御揃機嫌能入らせられ候御事と御めて度御嬉敷存上まいらせ候、次ニ此許皆々無事ニ相暮し申候間、乍憚御安心願上候、一昨年来ハ誠ニ御心切なる御教養被下多勢者へ肉体の上迄万事御世話被下候事山々難有、何とも御礼の詞筆紙ニまかせ難く、只々キリストの前ニ涙を以て感謝し、此後私とも兩人心合せ全身全力を尽して御恩の一分々をむくゐ奉らんと夫のミ祈居申候、当地都合も未タ委敷事ハ相わかり不申候へとも、われら神と共にありてはたらき申候ハ、弥々よき実を結び申候半んと信し居申候、尚此上ハわれらの為ニ神ニ御祈被下度願上候、申上度巖山々御さ候へともまわらぬ筆紙ニ尽しかたく、只々御礼心万分の一を申上候、めて度かしく

七月廿九日

大久保音羽

新嶋先生

御奥様

返々、末なから随分から「た」御障りなき様御自愛程願上候、又々めて度かしく

671 七月三十日 志垣要三

①茨城県水戸上市備前町 吉川方 ②京都寺町通丸太町上 至急 ④墨

前略御免被下度、陳者先日御依頼申上候大学主意書、始末書など今に到着仕らず、右ハ如何の御都合に候や、一寸御伺ひ申上候、実ハ当県知事に面会いたし県官よりの義捐の儀ハ依頼致しおき候ニ付、主意書着次第知事の添書を得て各郡長に寄付金の相談仕らんと存居候、本県下に忒拾郡有之候え共、三四郡合併致し居る所も有之、郡長の数八十名に有之候よし、各郡役所のある処にハ警察書〔書〕も設けあり候間、本県警部長よりの添書を得て是えも義捐依頼致し度と存居候、当地ハ実に貧乏なる土地に候まゝ、少数の人より多額の金を得んとするハ望む可からざる儀と存候間、充分広く義捐金相募り度と存居候、就而ハ主意書、始末書等ハ随分必要に候間、是非先日申上候通り御送り被下度奉願候、御都合にて設立大意の方ハ御送付無之も宜敷と存居候、郡役所、警察署の外に、裁判所代言人などよりも出来る丈け募集仕り度と存居候、先日当知事に面会仕候節、知事にハ大学の件についてハ新聞にて承知せしのみにて北垣京都府知事よりハ何も聞さし事なき様記〔書〕應す云々と申され候、併し大学設立ハ非常に賛成なる旨申され候、近日飯村君

ハ東京に御出で中にて御不在ニ候間、同君御帰水ありし次第相談の上郡部に出張致し度と存居候、先は右用事のみ、早々不一

七月卅日

志垣要三

新島先生

机下

追而暑氣甚敷候間、御自愛專一に存候、乍末筆御内政様に宜敷御伝言被下度奉願候

672

七月三十一日

三枝光太郎・山鹿旗之進

①名古屋下堅杉町 ②京都府下寺町通り丸太町上ル ④墨 ⑥新島、金森岡
名宛

拝呈、時下愈々御万祥奉恭悦候、儲甚ダ乍唐突一事左ニ御双談仕候付何卒至急御答誨被下度奉願上候、陳れば名古屋清流女学校に於て目今漢文学を主とし、并に邦語を以て修身学及び地理歴史等を担当させ候教員一名招聘仕り度相考へ居候、然る処熊本県人にて湊源平、以前ハ或ハ小崎と云ひし歟と申す人、年齢ハ二十五六ニもあらん歟、数年以前ニ同志社ニ在学し卒業以前新島君と何哉議論の末退社し、其後御地ニて赤松連城とか云へる人ニ被傭、女学校とかに従事し、後ち転じ

て名古屋に在ル大谷派の英学校ニ来リ、英語教員と成り居しが、之れも同校長と議論の合ハざるがために辭職したりと云ふ、此人清流女学校に入り彼の候補者たらんと望み有之候由なるが小生等深く其人となりと学力とを知らず候付、其取舎に迷ひ居候、右ハ如何可有之哉、其人となり如何、其品行如何、其学力如何、殊に女学校ニ適する方なりや否ヤ等恐入候へ共、何卒至急御垂示被成下度此段奉願候、勿々不備

七月三十一日

三枝光太郎

新寫 襄殿

山鹿旗之進
拜

金森通倫殿

侍史

尚、新寫先生御病況如何、乍此上御手当專一ニ奉存候、生等参京の節ハ御厄介相成奉陳謝候、同志社資金募集の儀ハ未ダ兎角ニ纏まらず慚愧に堪へず候、不遠秋冷の候を待ち御来名の上更に御双談仕度相考へ居候也、委細ハ貴社生兼松亀吉郎氏ニ相告げ置可申候間、追々御聞取可被下候

673

八月三日

大三輪長兵衛

①北堀江亀橋 ②土佐堀三丁目三十六番地 国本氏方 ④墨

拝啓、然レは過般ハ御来河相成何之風情も無之平ニ御海容被下度、偕其節御相談之赴キ議場ニ於テ菊地氏^{〔池〕}ヘ相話シ候
際、幸ヒ西村知事モ来合サレ三人ニ而相謀リ候処、何レモ市会開会中貴下御都合之日ヲ以テ議事堂ヘ御来車相成、親
シク一同江御話之方可然トノ事ニ付、左様御承知相成度此旨御通知申上候、先ハ当用ノミ如斯ニ御坐候、勿々頓首
八月三日

新嶋襄様

大三輪長兵衛

674

八月五日

不破唯次郎

①上州前橋神明丁三番地 ②京都寺町通丸太丁上ル ④墨

先日來一書呈度存候処、種々取紛今日迄延引ニ及ビ心外此事ニ奉存候、先生ニハ播州地方ヘ御越ニ相成候や奉伺候、
先日來北里一件ニ付てハ色々御面倒ヲ願ヒ、御多忙中実ニ奉恐入候、大久保氏ノ書狀ニヨレバ同地ヘ(エビスコバ

ル）教会より伝道ヲ始メル目論見有之候由ニテ、今日迄上州ヨリ着手シタル事実事ニシテ右之様ナル事ヲ聞ク只々驚ク所ニ御座候、何も合一事件之（スキマ）ヲ伺ヒ上州、武州地方ノ如キハ大ニ他教会ノ人ヨリ伝道ヲ始メヨキ目論見アル由ニ承リ申候、故ニ私共も只今ハ安眠中ニ御坐候得共、花々敷運動ヲナシ度存候、併シ常ニ不足ヲ覚ル所ハ一方ニハ金員、又一方ニハ私共奉身ノ不足ナル事ニ御坐候、何レ九月末或ハ十月初旬ニハ、先生ニも御上京之由ニテ御面会之節委細御相談申度奉存候、佐野ノ都合面白カラぬ由、大宮ノ都合ハ先ツヨキ方ニテ只々役者ハ働カバ当然ノ事ニ奉存候、^{（ママ）}プリレス女教師跡ノ土曜日より伝道ノ加勢之為ニ前橋ニ参ラレ幸ニ存候、何レ三四日ハ滞留ノ積ナリ、大久保氏ノ計算も参り候間、不日御廻申ス積リ御坐候、又佐竹氏ノ計算も出来次第御廻申ス心組ニ御坐候、キリユウ講義所之信者方ハ此度大間々ノ役者会ニ出席シ、組合教会ニ入会之事ヲ計ラレル由、私ハ大ニ心配仕候、伊勢崎ノ一致教会牧師中村兄も此程辞ラレ、何レコノ後ハ種々ナル伝道上ニも変化ヲ見ベク存候、篠田^{（昌武）}も明後日より小生養母同道ニテ神戸ヘ向ケ出発ノ積ニ御坐候、是非先生ニハ御面会申度由ニ申居候、寺沢ハ来年ヨリ当地ニ是非帰リ男子学校ナリ且女学校ナリニ働由、牧師ナゾトハ違候と申居ラレ候由ニ承リ申候、^{（カ）}当地教会ニも余程同兄ヲ希望スル人有之候間、来年ヨリ当教会之牧師トナシ、小生ハ上州、武州ナリ之伝道師カ或ハ巡会伝道師ニナル事諸兄姉ヨリ依頼サレルナラ受ル方至極ニ存候、元来此事ハ想像已ニ御坐候、併シ此辺ニ付先生之御意見ハ如何奉伺候、小生ハ彼是と困却堪難も神ノ御用トアラバ忍耐シ働キ決心ニ御坐候、右ハ御報旁伺迄、早々失礼再拜

八月五日

不破唯次郎

新島先生

二白、時下折角御保養專一ニ奉願候、御令室様へ宜敷御伝へ被下度偏ニ奉願候

675 八月五日 柴原宗介

①京都 ②播州明石郡垂水村 松下万亀方 拝答 ④墨 ⑥同封の坂田丈平
書簡(二)通 柴原宗介宛) 省略

貴書奉拝見、久々霖雨快晴後も頗ル炎威猛惡ニ御坐候処、閣下益々御勇壯ニ御避暑被遊候段奉敬賀候、却説此間は御書面を賜り候処、生憎岡山より中川横太郎相越、久々旅宿ヲ叩き閑談時を過し為めニ御無礼仕、翌朝は直ニ参邸之覚悟ニ候へ共、月末取引ニ差間寸時も手引不申、其内御出發ト申事承り残念仕候

大学校寄付金募集遊説之義、公義様御病氣之由ニ而御延引之趣被仰越候へ共、折角之決心故ニ出張可致と存じ候之処、坂田先生より別紙之通兩回迄時機之到来セサル事ヲ以テ相止メラレ、加フルニ私共肉身の兄(親)よりも懇切ニ忠告致吳、今暫ク世見人氣の折合を待ツ可シトの事ゆへ聊か思案罷在候中、中川横太郎上京致候

—— 実は児島郡味野村豪農野崎武吉郎ハ彼レノ別懇家ゆへ招介致し吳度先般以書中頼ミ遣し置候処、幸ニ大坂ニテ開会セラレタル大日本私立衛生会へ罷越候序ニヨリ大学校云々の為めニ上京セシナリ

思は至極沈着ナル議論ニ而、何分先日来の霖雨ニテ塩浜稼人ハ一円菜色ヲ頭し、農家も当年は半凶年採喋々憂苦罷在

候折柄ゆへ、今少し天氣快晴、人氣も緩之時氣〔期〕の到来する日を待つ方、我々周旋スルニモ便リアル所と信切〔親〕ニ延引可

致旨添心致呉候次第ナレハ、是等有志家の思想を打破リ押シテ地方遊説スルモ得策ナラサルノミカ却而人の和を破ルノ恐レアリ将来の不為めと存付、今暫ク遠慮罷在候折柄ニ御坐候、既ニ本日は一書を以て意見を上陳し御高案ヲ仰き度存候処、只今貴書ニ接し匆卒筆硯ニ托し鄙見相述仕候、不惡御推読被下度候、何レ余は拝面之節は更ニ可申述候へ共、目下宗介之感情此ニ到リテ躊躇罷在候、先生右之段以書中相答申候、早々頓首

八月五日

新島先生

台下

柴原宗介

676 八月五日 鈴木 梅

①神戸 ②垂水 白瀧茶屋 ③はがき ④墨

暑氣益相募候処不相変御壮栄ニ被為入候哉伺上候

偕御仰之ミルク之儀、只今上等之品切目ニ付、明日頃着荷之筈ニ候間着次第御送り可申上候、何卒御延引被成下度候、昨日風呂敷包老個汽車積ニテ御許迄差送り置候間、着之上御受取被下度候、早々

八月五日 午后四時

677

八月六日

松山高吉

①神戸山本通六丁目 弥本ニて ②兵庫県下垂水村 瀧ノ東ノ茶屋 ④墨
⑥日付は封筒上書による

拝啓、昨夕ハ途中金森兄と宮川兄とに引止められ塩屋ニ一泊仕候処、定めぬ浪人者ニて困難の至ニ候、今日ハまた神戸ニ来リ在候、然し宮川兄之周旋ニて多分舞子ニ休養之地を得るならんと佳報を待在申候、さらばまた明日ニも御面晤ニ接するの機あらんと楽しみ在候、時ニ西須磨一ノ谷松の屋の二階ハ幸ニあいて有之候、宿泊料ハ上四十銭、中三十五銭、下三十銭かと覚え申候、特別ニ滞留客ハ廿五銭ニて置くよし、宮川兄より承リ在候、先ハ右御報まで、勿々
不一

新島大兄

高吉

拝

八月六日

志垣要三

①水戸 ②大阪土佐堀二丁目卅六番地 国本方 急 ④墨

爾来誠に御無音に打過ぎ失礼の段申付け無之候、時下暑気殊に甚敷候処、先生にハ愈御安行のよし大賀此の事に候、承れば大阪府下の模様一変致し候よしにて、先生にハ是か為に先日來御下阪中のよし実に慶賀の至に不堪候、何卒時候から御撰生の程專一に奉存候、然るに当方模様一変致し募金の儀ハ覺束なくと見受けられ候ニ付、明朝ハ飯村君方に参り大学資金募集の件ハ暫時見合せ被下様申入れ度と存候、実ハ先日も申上候通り、最初小生知事公え面会致し種々御話し申候節ハ大に賛成の意を表され自ら率先して応分の義捐をなし、且つ他人をすゝめんとまで申され、兼て用意致しおきたる大学資金募金薄をも受取られ、各郡長えの添書をも認めんとて申され候ニ依り、小生ハ非常に力を得、飯村君も大によろこばれ申候、爾来今日まで小生ハ県官の寄付金の高及び郡長之添書相待ち居り申候処、本日飯村君より回答を得て事情相分り申候

知事公が前に賛成せしにも係へらず、本日飯村君の御話によれハ知事公の所置ハ非常に冷淡の所置なれば先づ今日の処にてハ募集見合せた方宜敷と存候、知事公ハ同志社大学は宗教を拡張する方法と見做せしものか今度郡長等えの添書を辞せられし理由と云ふは「知事としてハ宗教等の事にハ関係せぬ方よろしかるべく、殊に右等の件などにハ余り関係せぬ様に可致との其の筋よりの内規も有之よし」なりし、知事公ハ右の事情を以て大枚金五円を寄付する旨約束せられ義捐薄ハ飯村君に御返却相成り申候、知事公がかく変ぜしにハ他より邪問〔謬〕を入れしもの有之哉に聞き及び申

候、猶ほ詳細の件ハ帰京の節委敷御話し可申候え共、何分右の如き様子にて先生の御注文とハ少なからざる差有之候ニ付、よし各郡長其の他有力者にはかりたればとて余り面白き運動も出来がたき事と存じ申候、且つ若し此の事広く世間に発表候節ハ後來の^尊簿金上に大に障可有之と存候、今後の策ハ先生御自身にて御暇の節当地方え御出かけありて直接御尽力あるか、又ハ東京の大臣の内より少しく小言がましき添書持参せしもの来りて攻撃せずんハ到底目覺しき運動ハ出来間敷と存じ申候、幸に今回の件ハ極靜かに手を下し候ニ付、知事其の他二三の人の外ハ承知致しおるもの無之、後日再び当地方にて運動を試みるに好都合ならんと存候、併し生意氣にも小生が斯る重大なる事に嘴を入れ為に余白からぬものと致せし事ハ幾重にも御断り申上候、尚ほ、今後の所置ハ飯村君え万事御依頼申上おき候、小生兩参日中に当地出發、東京に暫時逗留致し、直に帰校仕度と存居候、何卒年末筆金森先生え宜敷御伝言被下度奉願候、先は右まで、余ハ拝姿万縷可仕候、早々不一

八月六日

志垣要三

拝

新嶋先生

虎皮下

追而至急相認め候ニ付、乱文乱筆の儀ハ御許容被下度奉願候、何れ飯村君よりも何とか御通知有之事と存候、主意書等ハ悉く飯村君え渡し申す積に候、以上

679

八月八日

木村鎮太

①備中窪屋郡羽嶋 ②京都師範学校近傍 御親展 ④墨

謹啓、時下暖氣愈相加申候処益先生御壯健ニ御座候哉、御養生之節專一ニ奉希望候、鎮太儀過八月一日発京、三日午前帰村仕候間此段御安神被下度候、偕鎮太曾テ先生之宅ヲ相訪申候時御話シ申置候通り依然同志社ニ在学之由御通知致置候処、帰来種々色々ト思案之上今ヨリ向フ一年間地方ニ相働度ニ決定シ、而シテ後一専門科相脩メ度ニ断念致候ニ付、先生之御許ニテ何カ鎮太ニ相当スル好地方無之候哉、兼テ備後地方之学校之事ハ如何ニ結果致候哉、何卒鎮太ノ為ニ此一点御取計被下度偏ニ奉祈候、当地方ニハ小野房太兄アリ、津田鍛雄兄アリ、児島亀土兄モ時ニ相見ルヲ得ルナリ、前途之事、過去之事、現今之事共、相懇談シ相追懷被申居候、右不覚長々敷相成リ御煩読之段万々奉拝謝候、早々不一

重八

鎮太

新島総長殿

坐下

680

八月十日

広瀬源三郎

①東京日本橋区本石町式丁目 大内重兵衛方 ②播州明石郡垂水村 瀧茶屋
松下方 乞親展 ④墨

拝啓仕候、偕テ湯浅兄ノ電報ト行違ヒ先生ヨリノ御書面同氏ニ相達シ候ニ付、早速御取計ニ相成候処、既ニ第一国立銀行ニ於テハ整理公債買入ニ相成居候間、今朝同兄第一銀行ニ御越ニ相成、老万円ノ証券ト定期預ケノ証書トヲ民友社マテ御持帰リニ相成候ニ就キ、幸ヒ小弟も出京之事ニ付、郵税ヲ要セズ直ニ持帰ル可キ様御命ニ相成候間、証書類受取持帰度候ニ付、此状着次第電報ニテ広瀬へ公債ト証書類渡サレタシトノ御文意ヲ御発シ被下度、左スレハ此電報ヲ先生ノ御受取書ニ代へ、小弟へ御渡しニ相成候間至急御発信被下度願上候、前刻も民友社ニ於テ湯浅兄ト御面会致居候処、折善ク小崎兄も御来臨ニテ大学理財上ニ付、前途ノ方法種々御談事申上候処、頗ル御賛成ニ相成、且又当今募集運動ノ模様も略ホ申上置御座候ニ付左様御承引可被下候、先ハ右余ハ拝顔之節得貴意度如此御座候、勿々不一

十日

在東京

広瀬源三郎

新島襄先生

卓下

再伸、此義電報ヲ以テ申上候心組之処、月曜日ニ帰京セラル、伴氏(直之助)ニ面会致度候間、同日マテ滞在致シ度、且又其他ニも少々問合シ度件も有之候間、郵便ヲ以テ右申上候条宣布御承引可被下候

681 八月十日 大村 務

①福岡県筑後国山門郡城内村 ②京都府京都市上京区寺町通丸太町上ル 親
展 ④墨

拝啓、先以先般は突然参殿仕候処得拝鳳、殊ニ御誘引学校拝觀重疊難有奉拝謝候、爾来益御清穆可被為涉酷暑之候御自愛之程為祈候、扱小野米次郎一家ノ様子承リ右御報知可仕申上置候ニ付早速聞合候処、先生ニモ最早御承知可有之同人儀既ニ去ル六月大学卒業、幸ニ好結果ニテ百数拾名之卒業生中拾数名之優等生中之一人ニ有之候由、新聞誌差送紙上相見へ、留守ニ於テモ安心致居候、然ルニ右報知ハ父死去後相達、安堵不至死去候義は実ニ遺憾之至ニ御坐候、父儀モ卒業之義ヲ甚懸念致、病差重リ若シ死去候トモ卒業報知無之間は決テ為知不申様家族へ嚴敷申示置候由之処、母儀モ長病ニテ追々トハ心遣之容体ニ付、遺言トハ乍申死去之事為知サルモ不本意トノ親族申談ニテ死去為知発翰致候処、丁度行違ニ卒業報知ヲ得、親族ニ於テモ大ニ安心致居候、卒業帰朝之際は欧州へ廻リ候志望^(カ)之段は曾テ申越居ル由ニ候得共、母義前陳之通長病ニテ別テ相待居候由、尤先般留守より発翰ニハ死去為知ノミニ有之候得共、最早卒業致居候上は必差急キ帰朝可致ト親族ニ於テモ相待居候義ニ御坐候、本人如何可致哉、前述之家情ニテハ強テ欧州廻リ之儀勸メモ致兼候次第ニ有之候、右は先般御約束之末拝啓致度、書余讓後首候、早々頓首

八月十日

大村 務

682 八月十日 鈴木 清

①日高国浦河郡 赤心社開拓地 ②乞親展 ④墨

酷暑之候ニ御坐候と雖とも、昨年ニ變り倍々御健康ニ被為在候御事と遙賀不斜奉存候、過日ハ罷出御配慮を戴き奉万謝候、既ニ当地着以後殆と三十日と相成候へ共、多忙之為め今日まで拙毫奉呈不仕多罪、且不本意之事ニ御坐候、当地業務ハ年一年望みを確ニし諸氏何れも勉勵致し居候らへ共、農業会社之平生たる困難ハ免る能わず、彼是苦心も致し居候、乍併後來之望みハ甚た愉快ニ存居申候、浦河公会兄弟ハ甚た平和ニして日曜之礼拝ニハ元浦河会堂ニ而五拾名余、西舍村奥ニ而拾数名、浦河郡役所前赤心社商店ニ而六七名ハ集会致し居候、右之如き少数之集合ニハ候らへ共、都会とハ案外氣力之ある人も有之、容易ニ雷同主義ニ傾かざる事ハ可祝事と存居申候、一致問題ハ既ニ東京第一教会之説を賛成して同意を表し申候（コレハ拙生到着前ノ決議）、其精神を伺ふも一致熱心之大家ニして数十日之滞在を為し力を尽して勸告するも日本全会之嘉納するニ在らざれば決而動かぬと云精神ハ力らありと被信申候、同志社大学ニ付而ハ非常ニ賛成を表し度希望有之候らへ共、何分新移民ニして財産なき而已ならず、生活之度甚た低き為め甚遺憾ニ念ひ居候由、公会員之中二三之発起者ありて集金ニ奔走致し居候、伝承するニ義金五拾円余ハ集りたれ共其人々ハ尚ホ多くを望み居候由ニ候、却説、今回沢茂吉より申出候ニ付左之如く奉上候、予而函丈之御配慮を蒙り候当地方聖書売捌之義地方相当ニ売捌も有之候処、売捌人なる服部直一氏聊か病あり、陰難なる当地方之道路十数里を乗馬ニ而往来する事困却致し候由ニ而、過日来数月間ハ売捌之数も減し申候様之次第ニ而、本人ニ於而も永く此職を

執る事ハ難かるべしと申居候、然るニ塚本新吉なる人あり（コレハ松山氏細君ノ弟）至極適當と存じ内々協議致し候
処、本人ニ於而も望ま敷存候間、右服部氏を止め、塚本ニ代ら令る事ハ出来間敷候哉との事函丈ニ伺出、而して拙生
之帰路東京ニ而右之次第聖書会社へ申出候様致度云々、尤も是れ迄之通り監督ハ浦河公会ニ於而為す之心得なりと右
申出候間、蒼卒拙書を認め御伺申上候間、幸ニ御許容被下候らへバ拙生之為め聖書会社へ対する添書尙封御恵投被成
下度奉願上候、拙生義ハ五六日之後当地出立致、東京ニ罷出る考ニ御坐候、東京之宿所ハ芝区芝口屯丁目二番地麻屋
国の方ニ御坐候、右ハ多忙と疲労之中相認め、乱筆之上誤字等も有之、甚だ失敬ニ候らへ共、北海道之旅行者として
御許容被成下度奉願上候、先ハ右御願旁忽々如此ニ御座候、百拝

廿二年八月十日

鈴木 清

新嶋函丈
閣下

尚、残暑も酷だしかるべしと存候間、何卒御用心專一ニ被成度奉祈念候、乍憚奥様へ宜敷御致声被成下度奉願
候、不相変家内ハ毎度失礼を申上居候事と存居候、今回之拙書ハ多忙之中相認、草稿之儘差出候事故、重語等
も多く有之候らへ共、認め代る之時無之候間、不顧失敬送呈仕候、御許容と御推察を奉願上候、草々頓首
聖書会社へ拙生之罷出る事ハ不致とも御書面を御送り被下候か浦河教会より書面を以て依頼致し候而宜敷哉等
之事御教示被成下度奉願候

683

八月十一日

新島公義

①撰州有馬郡湯山 宮原たま方
②播州明石郡垂水 瀧茶屋 松下方亀方
④墨

須摩海浜消夏如何、清風冷月は御身の歎楽ニ入ルナラン歟、山より起ル松濤、海より躍ル白波、皆御身の御保養を佐ルナラン乎、偏ニ御安康を奉祈上候、扱小生去ル七日早天より奈良を發し、大阪にて二三の友人を訪ひ、住吉ニ到りし頃ハ既ニ五時稍過ニ御坐候ひし、夫より草鞋をつけ、晚景をかけて指步悠々六甲山頭月を踐で越へ、十時半ニ当有馬へ来着仕候て表書の宿へ投足いたし申候、浴客、俗客随分多ク有之候へども、昨年ニ比しては少数の由、信者も日本人男女合して二三十人来浴のよし、然レトモ面識の者ハ至て少ク御坐候、外国宣教師ハ重ニ監督、一致、長老派の者ニシテ、凡ソ六十人も居ル由、ウイシャルド翁も居ル由ニ御坐候、曾て聞ク、当年須磨、舞子辺ハ宿泊料頗ル不廉ナリ、書生輩の堪ユル処ニアラズト、尚有馬ハ中等、一週間八疊の室にて壹円三十錢位ニ御坐候、食物ハ多ク自ラ好ムモノヲ撰ンデ命ズレバソレヲ料理シテ呉レル訳、幸ニ小生ノ泊リシ宿ハ客至テ少ナク、夫故閑談ニ友ナシ、少々ヅ、認めモノナド致シ居候、尚ほ朝に泡沫ヲ乱飛スル瀑布ニ到り、夕ベニ山月を友トスルアルノミ、書外勿々、不悉

八月十一日

公義

伯父母様

坐下

二白、御寓所明カナヲニ付、京都ニ訪ひ合セ今日返書ヲ得て茲ニ拝呈仕候、夫故延引仕候

684 八月十二日 渋沢栄一

①東京兜町 第一国立銀行 ②京都寺町通丸太町上ル拾三番地 親展 ④イ
ンク ⑤新島筆「Keep」、東京第一国立銀行便牋

爾来再三尊書御惠投之處、小生ハ多忙と懶惰とニて時々奉答も不仕、多罪之至ニ候、然は同志社御預リ金之義は、兼而来示ニて公債証書買入可申旨拝承仕候得共、公債ニてハ余リ利足も過少ニ而在京湯浅君ニ御相談之上、半額程ハ公債ニいたし、他之半額程ハ第一銀行ヘ六分之定期預ニ取計、且今日迄之御預リニ対し候利足も年四分ニて御仕払申候事ニ取計候義ニ御坐候、右取扱方ハ実ハ来示ニ少々相違いたし候得共、曾而井上伯より生利云々御懇話も有之候、旁以第一銀行ヘも頼入右様取計候義ニ御坐候、併此度之尊書ニて右取計方貴案ニも応し候由拝承安心仕候、大坂地方学資募集之御都合ハ如何御坐候哉、東京も大隈伯ハ御払入相成候得共、原氏之事ハ其後小生ハ関係外ニ相成候間、猶以聞知不仕候、御養病之為播州御旅行之由、近々御快方と存候、小生も本年中ニハ一寸西京迄罷出度と心掛申候、自然其際ニハ實際も拝見可仕候、右拝答迄、如此御坐候、勿々不一

「明治」廿二「年」八「月」十二「日」

渋沢栄一④

685

八月十三日

児島惟謙

⑤写真

拝読仕候、昨日御来阪之趣、炎暑別而御苦勞奉察候、過日土居より別紙差越当日長崎へ向出張致候、御参考迄ニ差上申候、尤同氏帰阪之上ハ今一応懇談可致含ニ有之、仮令草間貞二郎より如何様申出候とも名簿記入之義ハ御見合セ置被下度候、尚いさゝハ在拝眉、勿々頓首

八月十三日

惟謙

新島老台

686

八月十三日

杉山重義

①群馬県上州碓氷郡原市町

②京都寺町通丸太町上る

平安

④インク

残暑尚は厳候へ共朝夕ハ大分凌よく相成申候、先以其御地大家被遊御揃益御勇健奉恐賀候、陳ハ夙く暑中之御見舞可申上筈之処、過般来小兒病氣に罹り于今快癒不仕、且つ養蚕後伝道之事も稍繁忙を来候時節と相成候ニ付、不本意な

がら御無音に打過申候、先生今夏ハ信州輕井沢へ御出之御計画なることを聞知致候ニ付染み居候処、此間上原権氏之
帰郷にて其御都合にも相成兼候事を承り、前日之希望も空く画餅ニ属し候、乍然大学之事も時期之有之候事故、荏苒
歲月を経過せらるゝも策之得たる者に非ず、御心配之事ハ御尤も之事と奉存候、何卒多くの賛成者之京阪地方に勃々
起り出んことを祈申候、上州も今春之養蚕思はしからず、先づ概して云はゞ失敗の方なりしを以て、夏蚕、秋蚕を以
て之を快復せんと欲し、七顛八倒之苦を致し居居人も多く、失敗之上に失敗を重ねるものもあり、夫故兎角何事にも氣
が乗らず唯々目前之事にのみ迫はるゝ有様ニ有之候、大久保真君も此間ハ大宮へ御赴任と見え、小生へも御書状を戴
き申候、昨今兩日大間々町にて両毛伝道士之集会有之候ニ付、同処にて同兄にも御面会可申染み居候処、小児之病氣
にて出席相叶はず残念ニ存候、高崎も久く荒地と相成申居候ニ付、唯々松尾音君之来ることを大早雲霓之思にて待居
候姿ニ御坐候、女学校之事も大分相拂り申候、ミツシヨナリーミーチングよりはまだ何之返事もなし、然しゴールド
ン氏等も尽力致し呉候筈ニ付、多分好結果あらんと望居候、夫の頭痛之種なりし合併事件も必然必至之理よりして先
づ／＼中止之外無之相成申候、(仮令中止之檄文之發せざるも)明年之同盟会にて何か新しき発働あらバ格別、今日
之姿にては何とも手之付け方無之事と存候、小崎氏夏期学校より帰京之後一書を小生に送れり、夫の兼て先生に対し
妙なフイリ^{○○○}ングを抱き居りたる人ニも、全く斯るサス^{○○○}ピ^{○○○}オンを消滅シ、誠ニ喜び居候云々との事を申来候、(尤も
同氏之書面ハプライベートの手紙なり)、小生も我己之為めに大慶いたし候、最早条約改正も中止となりたり、何卒
是より小異を捨て大同を取り(少く後藤伯之遊説口調に似たり)充分天国之開拓に尽力致度候、靈南阪之牧師ハ未だ
御心当ハ無之候耶、同処ハ随分インポルタント之場処に御坐候へバ宜しき人を周旋致し度ものに御坐候、又た書生八
分之教会ゆへ、少し無頓着に見る位之人が宜しからんと愚存致し候、野州伝道之事に付ても今日之伝道士会にて相談

相成候事と存候、種々申上度有之候へども今日は此に擲筆仕候、時下御自愛專一と奉存候、謹言

八月十三日

重義

新島先生

乍末筆奥様へ宜く御伝言被下度、家内よりも宜く申上呉候様申出候に付此に申上候、小児之病氣其外色々なる困難に逢ひて大に益する所あるを覚え申候、然し経験もなく薄信たる小生ゆへ何卒此試験に勝へ重大なる任を全ふすることの出来る様御祈念被下、又時々御教訓被下度奉願上候

687

八月十四日

新島公義

①有馬

宮原たま方

②播州明石郡垂水

瀧の茶屋

松下方

至急

④墨

借家之事ニ付岡本おいそ様へ御書面飛来、早々同道シテ可成丈閑静ナル処ト存ジ二三の寺院ナド相尋候へども皆既ニ充滿、去レバ二十日頃ニナレバ奇峰前ニ聳へ、溪流窓下ニ在リ、涼風簾を叩クの佳室ヲ得ベシト存候、然ル処幸ニおいそ様の手ニよりて佐野ト云ヘル最上等の旅館へ御来着差聞へなき様ニ相談出来申候、尤モ同館より他へ転ズルモ差聞ヘナク、清閑ナル良室ヲ得ル迄又其周旋を同館の主人いたし呉候由、右佐野ト申スハ北垣、中井知事ナドの旅館ニ

シテ頗ル良室アリ、事宜ニよりてハ同館ニ御旅宿可然ト存候、蓋シ十五日ニハ一室明クナリ、是レ中井夫人ノ在リシ室、二階のみハ、六、四畳計りの間三間アリ、頗ル美望絶佳の室、但シ最上等室ニハ非ル由、想フニ其中ノ一間ハ価ヘ一週間三円ナルベシ、兎ニ角今の時ニ際シテハ直チニ差附ニ清閑ナル良室ヲ得ル事六ヶ敷、何人モ俗宿ニ一度止リテ転室ヲ計ル事故、右佐野へ御来着可然ト存候、夫迄ニハ又々可成相尋ネ置可申候、併シ佐野ハ高台ニシテ室々相離レ居リ候由伝聞ニ付、余程御寓館ニ宜シカラント存候、唯其代料ガ少々……、今ノ中井夫人ノ居リシ室ナレバ○別ニ御所の房ト云ヘル館八畳ニ六畳の甚ダ良キ室、来ル二十日ニハ明ク由、ソレモ猶予スレバ又外の人ガ入ル事と存候兎ニ角一度佐野へ御来遊可然ト存候、小生ハ余リ長滞留ハ無用ニ付、近日には出かけ度ト存居候、右草々

十四日早天

公義

伯父様

688

八月十五日

安住百太郎

①佐賀川原小路

②京都寺町通丸太丁上ル

御親展

⑥封筒裏書

「此状至

急ナル用向ニ付、

御他出共ニ候半ハ其先御伝達奉願候」

謹呈、錦地は山水秀媚竹樹鬱蒼既ニ幾分之秋涼ヲ可催候得共、弊地は名ニ負火国ナレハ終日如燬毫モ三伏之酷烈ニ不

讓候、(以下同) 弘津君十三日早朝來訪、御托賜之芳墨永ク秘蔵可仕候、同日は始審長、知事、各部長江同道面会、孰レモ賛成、昨日は幸ヒ常置委員會開会中ニ付皆々面接、外兩新聞社長及ヒ武富當県之名望家ニ有之候江モ同断、是又孰レモ賛成、昨夕は緩リト始審長江面会、將來之計畫等熟議仕候、委細は弘津君帰京之上開陳可有之事ト奉存候、外ニ知事今朝ヨリ出京、三週間計リ滞京之由、同氏ハ大隈伯之推挙ニヨリ当県江転任、故ニ始終同伯ニ倚ル人ナレハ同伯江先生ヨリ一封御差立被置方、無此上上策ト奉存候、訳は同氏カ義捐金高之都合ニヨリ一般之金額ニ影響スレハナリ、俗吏ハ概ネ長官之鼻息ヲ窺ハ常態又同氏ヨリ当県モ未曾有大洪水後ナレハ現金取纏メ方は自分帰県後ニ着手スル上策ナラント被申聞候、弘津君本日午前进滞在、地方有志家面接、午後ヨリ出崎之途ニ就クト之事ニ付、猶同地方知奇之先々江は小生ヨリ添書可仕約束ニ有之候、右草々、敬具

八月十五日

安住

新島先醒

敬具

八月十五日

大久保真二郎

①武羽秩父郡大宮町 ②播州垂水村 松下方 煩親展 ④墨 ⑥江崎信太郎
書簡(大久保真二郎宛 八月十三日付) 省略

八月十五日

益御機嫌被遊御坐奉恐悅候、偕去ル十二日前橋ヨリ不破、杉田、上原同道ニテ大間々ニ趣キシニ、彼地ニテハ一致ノ中村、羽原、浸礼ノ鈴木、石原、組合ノ佐竹、中山ト会合シ、其他ハ皆欠席セリ、其夜説教会ヲ開キ不破、羽原、中村、鈴木説教セシニ集ルモノ四五十人、翌十三日夜大久保(再三辞シタレ共)中山、上原、杉田、石原并シタルニ矢張四五十人ノ聴者アリテ前夜ヨリハ一層静聴シタリ、或ハ是ヨリシテ該地モ一新ノ緒ニツクニハアラサルヤト存申候、尤モ十三日ニハ五人ノ受洗モアリタリキ(内三人子供)、真ニ本会ニ於テ思ヒ掛クナキ利益ヲ得タリ、則次会十一月ノ両毛役者会ヲ大宮ニテ開ク事ト相成リタル事ナリ、勿論誰レモ己レノ伝道地ニ呼ヒタキハ人情ナラン、真ハ第一両毛ノ一人ニアラス、武州ノ一人ナレハ全体之ヲ請求スルノ權利ナシ、第二最モ新参、本会ニモ初メテ出席スル事ナレハ交際モ^(熱)熟レ諸君ノ賜顧ヲ受クルモ少シ、第三斯々ル辺鄙ニ殊ニ各人ノ自費ニテ来リ暮レヨト決シテ真ノ口ヨリ言ヒ出ス事サエモ覚束ナカリシニ、計ラスモ一兄弟ノ發議セシニ満員皆賛成シテ之ニ決シタリ、真ハ殆ント五臟六腑沸騰シ^(序)実ニ感謝ニ咽ヒタリ、後達ヲ承レハ矢張不破ノ尽力ニカ、ルモノ多シト、御席モアラハ不破が大宮及真ヲ顧ミル事ノ深キヲ一言御挨拶賜ワリ度奉願候、此日ノ議長ハ不破ニ^(出)投選シタリ、唯恐ル、ニ謙遜ニテ取扱フ故ニ間緩キ様ニモア

ルガ、却テ其内ニ無量ノ深味醗酵シテ凡テ人ノ心情ヲ溶解スルノ働キアリ、杉田ハ甚タ忠実ナリ、其人ノ進ミシヲ驚キタリ、然レトモ政事ノ知恵ハ到底不破ニ在ルカ如シ、兩人能ク合併シテ離レサルトキハ上焉ハ患ナカルヘシ、真ハ其合体ヲ析ルモノトナル積リニ御坐候、^(補)「未タ面会シタル事ナキ故ニ其人ヲ見ルヲ甚タ樂ミ居リシニ」杉山ニ遭ワサリシハ甚タ残念、之ヲ彼ノ団体中ニ加フルトキハ如何ナル釣合ニナルヤ、之ヲ認ムル事能ワサリシハ殘心、然レトモ察スル処到底主権ハ兩人ノ離合ニアツテ別ニ之ヲ動搖セシムルノ勢力ハアルマンキヤト想像仕候、兎角当地ノ事ハ中々面白キ有様ニテ、真ハ杉山ニ勉メテ親睦シ不破、杉田ヲ助ケント存候

不破結婚ノ時処ニ付前橋執事ト相談セシニツマル処九月下旬ニ果シテ御東上アルナラハ其トキ御執行ヲ前橋ニテ願ヒ奉ツレハ是ニ優リタル事ナシ、何トナレハ第一先生該地ニテ御執行下サルナラハ教会ノ喜ヒ之ニ過キルモノアラサレハナリ、万一其義出来サセラレ候ハ、荒増其時日ヲ御漏ラシ下サレ度奉願候、尤モ金身玉体ノ事ナレハ只今ヨリ定メ難キ事アリ、又別ニ御不都合ナラハ九月上旬ニ不破京都ニ上リ該地ニテ先生ノ執行ヲ御願ヒ申ストノ事ニ御坐候、前橋ハ前条ノ方ヲ甚タ好ム所ナレトモ、止ムナクンハ後条ニ切り替エ申候間如何様トモ御掛慮御漏ラシ下サレ度奉願候、万々御面働ナル事ニハ候ヘ共殊ニ八方ノ關係等モ有之候得共不破ノ為ニ御承諾ノ程奉願候

先月卅日当町内ニ揭示アリ、曰クキリスト教説教会弁士市川某、中村某及田井正一ト、真窃ニ思ヘラク、或ハ旧教ナラン猥リニ訪フモ宜シカルマシト^(書)晩ル、ヲ待チ会場ニ至リ好機アリタレハ弁士ニ面会シタレハ彼等ハ監督教会ノモノナリト、真モ去ル十八日ヨリ当地ニ常住伝道スル積リニテ組合ヨリ派遣セラレタルモノナリト言ヘリ、蓋シ彼等モ今日ヨリ常住伝道スルト言ヘハナリ、故ニ其夜ハ説教ヲ傍聴シ爾來諸事御相談ヲ願フトテ歸リ来レリ、爾後一日常住者中村知憲(今ハ当地ノ宿屋ニアリ僅カニ六ヶ月間神学ヲ学ヒタルモノ、由)ヲ尋ネタリ、彼レモ一回真ノ留主ヲ訪ヘリ、

真ハ他派トノ交際振リモ心得サル故ニ早速不破ニ問ヒ合ワセテ諸事執行罷在候、全体生ノ当地ニ来リタル日、宿亭新井市三郎曰ク、今朝一人ノ聖書売リノ人来タレリ、其人ハメソデストノ人ノ由、然ルニ其人ハ拙亭ニ宿セラレ私ニ謂ワレルニ、当地ニハ組合ヨリ伝道師来ルト聞キシガ誠ニ然ルヤ、委細ノ事ハ汝ニキケハ分明スルトノ事故当家ニ来リ泊セリトノ事ユヘ、左様大久保某来ルトノ事不破氏及本人ヨリモ申シ来リ居レリ、必ス今明日ハ当地ニ着セラル、ナラント存居リ候ト申シタルニ、左様ナルヤ、然ラハ我レハ速ニ帰ルヘシ実ハ我教会ノ某外国人避暑旁当地ニ滞ホリ伝道セラル、筈ニテ、今朝東京ヨリ発スル筈ナリ、我其前ニ其組合ノ事ヲ聞キ合ワセニ来リタルモノナリ、今承ル通りナレハ早速帰リテ其西洋人ヲ途中ニ止メサルヘカラストテ、勿々ニ出立サレタリトノ話ヲキケリ（此事ハ金谷ヨリ言上スル様ニ同人迄書翰遺ワシ置キタルガ同人ヨリ御聞取リ下サレタルヤ）、真ハ窃ニ思ヘラク、然ルトキハ真ニヘニメソデストノ人ハ来ラヌ事トナレリ、是レ 神当地ヲ以真ニ委任シ玉ヘリ、果シテ然ルトキハ真ノ責任容易ナラス、飽迄モキリストノ愛ヲ代表シ悲苦勞倦ノ輩ノ朋トナラサルヘカラス、必スキリストヲ代表セサルヘカラス、キリストノ救ヲ全面ニ拡メサルヘカラスト深ク自ラ恐レ、深ク自ラ任シタル処ニ、計ラスモ忽焉トシテ監督教会ヨリ伝道師来レリ、是ニ於テ真其神ノ摂理ナル事ヲ信スル故ニ真一人ニ任シ玉フノ価ナキヲ悟リ、真伝道師ノ価格ナキヲ悟リ深ク恐レ深ク悲ミ申候、然リト雖是レ神ノ殊ニ真ニ謙遜ト勉強トヲ授クル所ノ教師ヲ送り玉ヒシヲ信スルカ故ニ深ク奮発罷在候、真ノ決定ハ彼レト肉体ノ競争ハ決シテ為スマシ、唯真自ラキリストト共ニアル事ノ競争ヲナサント欲ス、タトヘ監督ノ全力ヲ茲ニ集ムルトモ、真ノ一人ニテ当地ノ兄弟姉妹ヲ愛シ独リヲ慎ンテ当地ノ為ニ祈リ、忍ンテキリストノ愛ヲ願フス事ニハ決シテ負ケマシト誓ヒ申候、昨日ノ帰途、相乗馬車ニ二人ノ紳士ト同車セリ、其何人ナルヲ知ラサリシニ中途ニテ矢張監督ノ信者ナリト言ヘリ、常住伝道師ヲ助ケテ今夜或ハ説教会ヲ開クト言ヘリ、真モ果シテ左様ニ御

運ヒ下サル事ナラハドーカ私モ充分御尽力仕リ候ヘハ当地ノ為ニ御勉メ下サレ度、真ノアル丈ノ知人ニ通シテ飽迄御尽力申スヘシト申シタリ、本書モ認ムル迄ハ未タ何トモ申シ参ラス、鬱積シタル用事ヲ仕舞フタラハ真ヨリ逆様ニ訪ル積リナリ、真ノ故郷ニ志方之善別科生働キ暮シ今ハ甚タ頑固ナル父母兄弟モ不日授洗スルヨシ、^{〔受〕}嗚呼真ハ何故ニ是ノ如ク日々ニ幸福ノ身トナルヤ、是レト申スモ凡テキリストノ恵ミ閣下ヲ通シテ事ノ茲ニ及フ、思フモ涙、思フモ涙、感外ノ外ニハ何事ヲモ能ワス候

①補 別紙御一覽下サルヘク候、真ハ其迎山ト言フモノヲ知ラス、輕薄兒ニハアラサルヘケレトモ、絵画等ヲ商業トスルモノハ多クハ頼モシカラヌ様寛申候、併シ江崎ハ（一度御覽下サレタル事アリ、^{〔小〕}少生ツレテ参上仕候）正直ノモノユヘ、彼レ錦地ニ参上セハ宜キニ御計ラセ下サレ度奉願候」

690

八月十六日

後藤源久郎・深沢利重

①群馬県前橋横山町荅番地 ②西京寺町通丸太町 親展 ④墨 ⑥封筒裏
書ノ署名は後藤源久郎

残暑酷敷御座候処益御清祥奉大悦候、次ニ弊家主思ニ依リ無事消光罷在候乍憚御休神奉願候、陳ハ不破兄結婚ニ付テハ種々御尽力被成下候て九月の初カ十月初ニ御取謀と被成下、御蔭ヲ以て好都合ニ奉存候、^{〔真二郎〕}玆今回大久保辰次良兄ニ

も面会致し当教員之希望〔會・以下同〕スル処も相談リ申候処、同兄も至極同意ニ御座候、当教員之望ハ場所ハ前橋ニて、結婚式ハ

先生ニ願度候間、若シ其時分御出京ニも相成候ハ、其節結婚式御主リ奉願候、先ハ御依頼旁御伺迄、〔ツカサド〕匆々頓首

八月十六日

深沢利重

後藤源久郎

新島先生

閣下

691

八月十八日

吉田清太郎

- ①岡山県備中高梁頼久寺町 卯木氏方 御親展
②京都上京区寺町通松蔭町
④墨

拜呈、小生義過日加納格太郎先生ニ就付て総長に一書を呈し候、今再度承る所ニよれハ、氏ハ一子を携へて上京し身を

立て子を教へん為め総長之下ニ於て額ニ汗してパンを得んと企たてられ候、年来究迫の中ニ在れハ、親族の一人ハ斯

企を度々發議せしも氏ハ少しも動かさりしか、今度ハ自から奮て斯企に出てしと聞及候、惟ふニ氏ハ従来興せる事業

に悉く失敗せしを見て失望落胆の域ニ在りし様見受候か、小生か面会を得たる時、先生より教へられたる小弾丸流の

談、ロヒンソーの評及び事業の意の如くならざるを見て小弾丸流の精神浮興する際、仰々神の人間ニ對する大なる耐

忍、大なる愛を見ば、心自から溶け悠然として再び事業を操らるゝ総長の心得、従つて総長の今日ニ至るまで其精神と其肉体の繼續して能く飛動し得る者ハ只神を識る一点ニ在りしを申述へ候時、氏ハ自己の経歴と比較して幾分か悟らるゝ所ありしやに見受け候、小生ハ斯際内外人の神を識れる者の挙動或ハ基督教の全世界を一統せんとする勢なと、小生か確信する点ハ漏さず申述へ候、氏ハ名ある大酒家の中ニ有之候間、全社会の衛生經濟及び徳義の爲ニ禁酒の必要を看破して、其主義を決行せる禁酒家の精神も申述へ候、其後兩三度面会致し、日本人及び支那人にして心中ニ天の實在を認むるハ神の一面を認めたる事等よりして小生の実験上よりして掩所なく福音の真理を証明致し、従つて祈禱の必要も説き申候處、今ヤ氏ハ從來の物ニ凝るてふ特性を顯して基督教の研究に従事せられ候由、小生ハ総長に伝道報告をなす積ニ無之候ひしか、不覺筆端の奔り亢意を^{〔カ〕}連ね申候段、幾重にも謝申候、小生ハ重ねて申す、氏ハ上京の決心なりと、是れ其親族より耳ニせる一義ニ有之候、然れとも氏より一言も聞かす、小生も亦た問わす、且つ問ふ必要も感じ申さす候、只斯る報知をなすに必要を感せるまゝ分して筆を奔らせ申候、頓首再拜

八月十八日

吉田清太郎

新島総長

案下

692

八月十九日

松尾音次郎

①京都木屋丁三条上ル

横田楼

②兵庫県播磨国明石郡垂水村 瀧の茶屋

至急 ④墨

拝呈、陳ハ爾来御疎音奉恐入候、先日ハ明石会堂へ御来臨被下難有奉存候、小生義是非々々先生に御面謁御相談申上
度と兼て存候処、生憎く当時田家の方へ趣き此処にて病氣致候、漸く明石へ参り申候へハ先生ハ最早十六日有馬へ御
出立被成候由承り、誠に々々失望致候、実ハ小生口頭カタル輕症なりと侮り候候処、今に全癒不致且昨夜来一瞬も眠
むる事相成らず、為めに甚たしく再発し、談話だになす事能ハざる次第となり大ひに迷惑致候、実ハ十八日朝東上の
事を思ひ立ち即時出立、唯今ハ京都に滞在の身となり、右病症再発し空しく床に打伏し居申候、当地にて承り候へ
ハ、先生ハ有馬に御出不成矢張り垂水に御滞在との事故に、実に駭き入り、泣く計りに残念に思ひ候、唯今病床にて
言はん方なく、憂ひに沈ミ此病体にてハとても上州に参る事不^(レ)拘今一度明石へ帰り保養せんかとも思ふ程に御座候、
如何致して宜ろしきや、此際先生の御高論奉願候、事度々行違ひ、誠に遺憾奉存候、病中乱筆御免可被下候

八月十九日

松尾音次郎

新島襄先生

二伸、御令室様へも宜ろしく御鶴声奉折候

693

八月二十日

本城安太郎

①東京淺草区小島町 鷺尾伯爵之邸 ②西京寺町通丸田町 ④墨 ⑥封筒表
書 「大至急ニ付若シ御佗行中ナラハ奥さま御親披希上候」

謹啓、絶而御無音奉申上候モ寸小之愚惑、先生ハ私暴徒鎮撫以來私之為御悦之御余ニ御座候歟、私之目的相達候様真神ニ御祈禱被成下候ト迄、誠ニ父母ニ等シキ御愛慈、深キ御惻切ナル御自筆之御書之御郵書ヲ賜候間、第一着ニ御願申上候処絶テ御断被遊候、原来私ハ宗教上ニ付テハ少シモ学校之教育ナク、更ラハトテ良教師ノ驥尾ニ付シテ以其薰陶ヲ被リタル事モ無御坐候、殊ニ高島滞留中ハ仏法僧侶等并ニ其信徒ヨリ百方攻撃ヲ受ケ、布教之材料ハ所持不仕、四集ハ皆ナ敵軍ニ御坐候、特ニ一身將來之大目的ヲ相達候欧語之修行モ仕度候間、旁タ以テ基督信者ニシテ女学校卒業之淑女モ御坐候ハ、私ハ東洋風ヲ欽慕仕候ニ付、愛先生台下ハ私之為ニ良朋友ヲ御媒介被成下度候様御願申上候処、能勢栄君等ト御同感之自由結婚ヲ御貴ヒ被遊候赴ノ御返翰ニ依リ、迎モ私之目的モ相達不申断念仕候、今回ハ岩崎弥之助殿ヨリ先回暴徒鎮撫之寸小功ニ御報酬トシテ学資拝受仕候、勝海舟老先生并ニ副島、東久世、鷺尾之三伯、永岡護美、宮本小一殿之御賛成ヲ被リ欧州行仕候、尤モ大鳥圭介殿ニ随行仕候テ北京行仕筈ニ御坐候処、不図モ学資ヲ得申候間、仏蘭西行脚ト罷リ成リテ候、此義ハ国家之為一大実効ヲ奏シ可申候決心ニ御坐候、最早万事整頓仕居候ニ付、先生之御居所相分申候ハ、推参仕候テ万縷ノ御暇申上度候、若シ放蕩兒ト思召候ハ、唯タ御勘当而已、然レトモ私之信仰ハ良心ノ在ル所ニ因テ更ニ減シ不申候、乍毎度御居所至急御電報奉希候、至急之御返電ヲ玉ハラスバ蕩

兒ハ仏国へ向ケ解纜仕候ニ付、蕩兒ガ 日本ラシキ実効ヲ大陸ニテ仏国へ対シ吾三千余万之旧信義ヲ代表仕候テ御覽
ニ入可申候、逐日政事社会之頻繁ト共ニ宗教之御社会モ極メテ御頻繁ニ可有御坐候、先は要件ノミ、時候柄御自愛專
一謹而奉願候也、頓首謹白

八月廿日夜

本城安太郎

拝

新島大先生

台下

二白、奥さまへ宜敷御鶴声奉希候

694 八月二十日 山路一三

①東京麹町区三番町九番丁 小金方 ②西京寺町 親展 ④墨

拜啓仕候、陳者炎暑之候御身体如何候や御伺申候、迂生義以后元氣罷在候間御安意被下度候、却説、其後色々所感有
之、何時カ御通知申上度存候得共、未た不及其処御失礼申上候段御海容被下度候、左ニ一片ノ感情ヲ差伸候間御笑聞
被下候得ば幸甚、凡ソ臨機応変ハ目前ノ計略ニ応スルノ方ナリ、安ソ大英雄大豪ノ大運動ニ処置スルノ策ナランヤ、
蓋シ事ノ起ルハ起ルノ日ニ起ルニアラズ、其因テ来ル処遠シ、遠シ故ニ其謀略ニモ亦遠大ナリ、事成就スレバ天下モ

転覆スベク、成就セザレバ尸ヲ野茎ニ露ス、固ヨリ覚悟ノ上ノコトナリ、故ニ彼輩ガ意中常ニ徘徊シテ止ム能ハザルハ虎窟ニ入ラザレハ虎兇ヲ得ズトノ確言ナリ、縦令ヒ色ニ頭ハサズト雖トモ、常ニ憂憤常ニ慷慨、玉ヲ懷テ天下ヲ奔走スル幾十年、其間或ハ乞食トナリ、或ハ雲助トナリ、身ニハ枕スル処ナシト雖トモ、露宿ノ中不倦常ニ天下ノ事ヲ経営シテ其鉄心ヲ碎カザルナリ、又其心兄ヤ洋々トシテ大海ノ如シ、如何ナル大魚モ其中ニ游泳スベク、巍々トシテ大山ノ如シ、如何ナル大獣モ其中ニ生棲スベシ、故ニ大ナルモ小ナルモ強キモ弱キモ善キモ惡シキモ皆風ヲ望テ東ヨリ西ヨリ南ヨリ北ヨリ来テ之ニ従フナリ、彼カ一挙手一投足ハ大地震ノ如ク社会全面ヲ動揺シ、彼カ眼光ハ電光ノ如ク社会全面ニ輝キ彼カ語声ハ雷ノ如ク社会全面ニ響クナリ、故ニ彼ハ能ク社会ヲ左右スルヲ得、彼ハ能ク社会ヲ運動セシムルヲ得、彼ハ能ク社会ヲ転覆スルヲ得、嗚呼何ソ夫レ盛ナル、社会ハ皆滔々トシテ彼カ命ニ流レ、沸々トシテ彼カ命ニ怒ル、、、所謂大英雄大豪傑ト云フベシ、彼ノ西郷南洲翁ハ生カ平常仰望スル処ノ人ナリ、彼ノ三田老先生ハ生カ平常渴望（、）、縦令主義ハ異ナルモ、、、スル処ノ人ナリ、実ニ彼輩ハ一世ヲ擾亂スルノ人物ナリ、動揺セシムルノ人物ナリ、所謂社会ノマグネチックバルソントモ称ズベキ人物ナリ、故ニ彼輩カ一挙手一投足ハ社会変乱ノ基トナリ、彼輩一声一笑ハ社会全面ノ与論トナルナリ、嗚呼何ソ夫レ如斯盛ナル、思フテ是ニ至レバ或ハ投機ト称スベキ乎、或ハ一時ノ奇計ト云フベキカ、、、否々決シテ然ラザルナリ、其因テ来ル処遠シ、彼ノ西郷南洲翁ガ改命ハ維新ノ際一挙シテ成就セシモノニアラザルナリ、天保年以來已ニ西郷ガ意中ニハ胚胎セシナリ、福沢先生今日ノ勢ハ一時ニ盛ナリシモノニアラザルナリ、今日アルノ所以ハ遠ニ溯テ慶応年ニ生レシナリ、其謀ル処或ハ二十年、或ハ三十年ヲ越テ今日ノ盛大ヲ来タセシモノナリ、決シテ今日一時ニ是ニ至リシモノニアラサルナリ、彼等ガ今日アルノ所以ハ数十年間胸中懷ク処ノ宝玉ヲ雨ノ日ニモ嵐ノ日ニモ、或ハ血ノ汗血ノ涙ヲ流シテ持続ケシガユエナリ、決シテ偶

然ニアラザルナリ、歎羨スル勿レ、今日ノ玉殿龍閣ヲ反テ愛スベシ、彼輩カ英傑ノ心胆ヲ失望スル勿レ、目下吾人が微々タルコトヲ、大木モ嘗テ二葉ヨリ生長セシニアラズヤ、只慨然トシテ憂ヒ愀然トシテ悲ムハ吾人同窓人士果シテ遠慮アル乎、果シテ大望アル乎、果シテ之ヲ成就スルノ勇氣アル乎、、、、嗟思ヒ是ニ至レバ我ナガラ我ヲ知ラザルナリ、、、只天ニ嘸^{〔天〕}ヒ地ニ泣テ望ムラクハ利運ノ小路ニ迷ハズ、情慾ノ枝路ニ至ラズ、正ニ堂々タル大路ヲ長ノ年月旅行シテ遂ニ望ニ達スルコトヲ、然ルニ其路タルヤ或ハ平易ナルアリ、或ハ嶮峻ナルアリ、或ハ直線、或ハ曲線実ニ千變万化云フベカラズ、感ズベカラザルモノモアラン、然レトモ之ニ折レズ屈セズ通徹スルコソ真ノ同志社人士ナルヲ、生ハ断ジテ望ム、若シ途中目的ノ為メニ斃ル、トモ天ニ対シ人ニ対シ又同窓人士ニ対シテモ喜ンデ睨ルベキノミ、安ゾ虎窟ヲ恐ルベキ反テ覚悟ノ上ノコトノミ、若シ又同志社人士ノ看目アリナガラ枝路ニ迷フコトアラバ生キテ今生ノ猪豚タランヨリ寧ロ土ヲ喰テ死スベキノミ、安ソ人ニ対スルノ面目アラシヤ

斯ク論シ来リ論シ去ラントスレバ或ハ云ハン、山路ハ狂氣セリト、然リ、生ハ却テ同志社人士ノ癡狂セザルヲ疑フナリ、現今ノ雲行ヲ察シ其風勢ヲ知ルモノ安ゾ心中私ニ變動ヲ起サバ爾モノアランヤ、天色黄バミ雲行靜カニシテ氣候何トナク鬱々然タルトキハ農夫モ漁夫モ能ク天変ノ近ヅクヲ知ル、況ンヤ苟モ才識アリ知慮アリ以テ能ク社会ノ交替ヲ洞察スルノ眼光アルモノニシテ現今ノ雲行ヲ見、現今ノ潮流ヲ察シ之ガ用意ヲナサバ爾モノアランヤ、見ヨ識見アリ、慧眼アルモノハ二十年后ノ日本社会ヲ黒田内閣ハ勿論碎レ大隈、井上兩伯ハ老衰シ陸海軍警察ハ中央ニ勢力ナケレハ国会ト争フベカラズ、又争フベキ人物アルヤ■ラザルナリ疑ナキ能ハズ——然リ此時ナリ此時ナリ、見ヨ／＼中原ノ鹿ハ彼々は々ニ奔走セリ、今左ニ追フモノアルカト思ヘハ又右ニ追フモノアリ、或ハ東ニ或ハ西ニ我モ我モト各々才知アルモノハ才知^{〔才〕}ヲ戰ハン、勇氣アルモノハ勇氣^{〔勇〕}ヲ戰ハン、天晴明治青年花盛ルハ此、、、此、、、此時ニア

ルナリ、此時ニアルナリ——私言スルモノアリ、信スベカラズ信ズベカラズト——不知其言ヲ疑フモノ、意匠ハ何ニアルカヲ、若シ旗ヲ卷テ三田老先生ノ門前ニ頭ヲ扣クノ覚悟ナレハ可ナリ、然レトモ苟モ氣慨アリ、苟クモ同志社人士ノ精神アルモノナレバ信セズンハアルベカラズ、決シテ夢ニアラザルナリ、幻ニアラザルナリ、實際ニ来ラズンバアルベカラズ、何トナレバ兩虎相和スル能ハザレバナリ、必ズ勇勝劣敗ノ法ニ從ハズンバアルベカラズ、彼ニ——
 仏教ニセヨ世俗のニセヨ凡テ敵ヲ云フ——知勇アレバ彼勝チ我ニ知勇アレバ我勝ナリ、然ルニ退テ現今社会ノ実相ヲ觀察スルニ真ニ然ルベキモノ一トシテアラザルナク、彼ノ三田流ナルモノハ何ソヤ、所謂日本ノ商人気ナリ、伶俐ナル美男子風ナリ、其論スル処為ス処皆計算的ナルガユエニ金錢上ノ自己風ニ付テハ感服スルモノアラン、然レトモ未タ知ラズ、彼輩一旦国事ニ奔走スルトキ、生命ヲ軍門ニ懸テ突進スルノ勇氣アルカヲ、彼輩尊奉スル処ノ主義ヨリ論スルモ、現今社会ニ浮沈スル処ノ頭象ヨリ論ズルモ、其結局至ル処決シテ是ニ達セザルヲ信ズルナリ、況ンヤ彼輩未ダ生死ノ道ヲ知ラザルニ於テヤ、生ハ斷シテ言フ此等ノ徒決シテ恐ルニ足ラズト

又東京大学風ナルモノアリ、学士冠ト称ズル大ノ冠ヲ頂キ、意氣揚々トシテ天下ヲ横行ス、冠ヲ拍テ曰ク、学士ナリ、曰ク学士ナリト、路傍ヨリ呼ブモノアリ、年五百金ニハ如何ト、否六百元ニアラザレバ売ラズト、然ラハ左様セン、ト一言ヲ聞クヤ否ヤ、頭ヲ垂レ尾ヲ揺シ笑坪ニ陷入リ巧言妖色、巧ニ己ヲ主人公ノ意ニ投合セシム、其主義ヲ問ヘバ曰ク、臨機応変無主義ト云フ主義ナリト、噫天下ノ人迷途ニ陷入ルノ甚タシキ、何ソ是ニ至ル、苟モ愛國ノ精神アルモノ誰レカ痛嘆ノ極ニ至ラザルモノアランヤ、凡ソ一国ノ強弱ハ其国民ノ強弱ニアリ、国民ノ強弱ハ其国青年ノ如何ニヨルナリ、其国青年ノ如何ハ多ク其国高等ノ知識ヲ有スル学生先導者ノ如何ニアルナリ、其他ハ皆風ヲ望テ之ニ靡クハ勢ノ免レ能ハザル処ナリ、然ルヲ日本最高等ノ大学生斯ノ如シ、況ンヤ天下ノ学生ニ於

テヲヤ、噫如何ニシテ国民ヲ自生自由ノ民トナセ^{〔サ〕}ン、如何ニシテ国民ノ民力ヲ強大ナラシメン、如何ニシテ国民ヲ真ニ独立ナラシメン、吾輩ハ断シテ言フ此最愛ノ日本ヲ彼輩ノ手ニ渡スヲ欲セザルナリ、又彼輩ハ決シテ一大勢力トナル能ハザルヲ信ズルナリ

是ニ至リ益々我輩同志社人士ノ責任ノ重キヲ感ズルナリ

生之ヨリ我同志社ニ付テ意見ヲ伸度存ズレトモ紙数多数ニ渡レバ御面会ノ節申上度存候、勿々不具

廿日

山路一三

新島襄殿

二伸、目的ノ義は条約改正一件ニ而墓々敷ゆかす誠ニ残念、然れ共民間ノ諸氏とは親密ニ御交際仕候、又先達御談之義は今年年中ニは是非如何様にか都合仕度存候、万事御面会之節迂生ノ意中ある処御伸申度存候間、乍恐左様御承知被下度候、頓首

695

八月二十二日

馬場種太郎

①神戸東川崎町 田中貞直氏方 ②摂州有馬温泉場 大門佐野方 侍史 ④墨

謹啓、大暑之節先生益御多祥奉慶賀候、小子在京之際ハ御懇篤ナル御世話ヲ蒙リ、諸事好都合ニ相運ヒ小子身ニ取り幸栄之ニ過キズ奉鳴謝候、只此上ハ天ノ許シノアル限り忠実ニ相働キ申度幾多ノ希望ヲ抱テ帰北仕候、去月下旬京都ヲ出テ備作地方ニ帰り居リ、漸ク兩三日^{神戸}前^{神戸}ニ来リ申候、全体十九日出航ノ山城丸ニ搭シ度キ積ノ処、暴風ノ為メ来ル廿三日ノ薩摩丸ニ乗ル事ニ相定メ申候、^{当地}ヨリ乗船仕候訳ハ浦河ニ働キ居ル田中助氏ノ妻栄姉ト同伴スル事ヲ托セラレ候為メニ御座候、本日は当地ニテ拝顔ヲ得ル義ト存候処、既ニ有馬ニ御転シ被遊候由承リ候ニ付、紙上ニテ拝別仕候、又別ニ願上度義ハ兼テ同志社病院ニテ相働キ居候友人堀俊^(造)三氏ノ義ニ御座候、同氏ハ作州落合ノ人ニテ同地ニテハ随分名望アル医師ニシテ、且ツ落合基督教教会ノ柱石ト頼ム人ニ有之候、落合ハ久敷無牧ノ地ニテ今日ハ頗ル気毒ナル有様ニ立至リ居候得共、同氏ノ落合ニ^{アリシ}アル間ハ自ラ牧師ト同一ノ働キヲナシ伝道ニ従事シ、近傍二三ノ小団体ニモ力ヲ添ヘ居申候、然ルニ医術ヲ研修シ度キ望ニテ一時出京仕リ候、同氏モ早晚帰国セントノ考ニ有之候処、當時切ニ落合ヨリ帰ル事ヲ促シ来リ居リ申候折カラ、小子モ亦作州ニ参リ伝道上ノ模様拝見聞仕候ニ、同氏ノ帰ル事ハ落合ノ為メ其近傍ノ為メニモ甚タ緊要ノ事ト存候、尤モ堀氏一身ノ上ヨリ申サバ、京都ニアルハ或ハ利益アル事カトモ存候得共、孤城落日ノ状景ヲ呈セル落合教会ノ為メ、又同氏ノ素願ヨリ申サハ氏ノ帰国ハ至極適當ノ事ト存候、同

氏モ既ニ決心シテ其職ヲ辞スル由ニ御座候、小子ハ速ニ其許容ヲ得ルヤ否存ジ不申候得共、願クハ同氏ノ為メ、殊ニハ落合教会ノ為メ、同志社病院ニ於テ速ニ其職ヲ解カレン事ヲ切望仕候、氏ノ帰国ヲ望ムノ理由ハ単ニ其郷里ヲ思フノ情念ヨリ発シタル義ト存候、同氏ノ後役トシテ医師ヲ得ル事ハ左ノミ難キ事ニ有之間數ト存候、小子モ亦多少ノ愛郷心ヨリ、同氏ノ帰国ヲス、メ、且ツ同病院ニ向テ其解職ヲ願ヒ度存居候、何レ同氏ヨリベレー氏へ右義相話候事トハ存候得共、時機モ御座候ハ、何卒ベレー氏ニ向テ其意ヲ御通シ被降伏テ奉願上候、拜眉ノ上口頭ニテ万々縷述仕度ト存居候処、紙上ニテ御願申上候、末節ナガラ令夫人へ宜敷御鶴声奉願上候也、大島ミツポーサン以下諸氏へ参り候品隨ニ御預り申候、右申述度、勿々拝具

廿二日昼

須磨海浴場 金森兄寓所ニテ

馬場種太郎

拝

新島先生

玉机下

696

八月二十二日

不破唯次郎

①上毛前橋神明町三番地

②播州垂水村

松下方

④墨

先日ハ御親切ナル御書狀載キ万々御礼申上候、承レバ先生ハ甚暑ニモ関ラズ大学ノ事ニ付非常御尽力被遊候由大賀之至ニ奉存候得、折角大切ナル先生之御身体ナレバ御保養之程奉祈候、大間々ノ集も先ツ宜敷都合ニテ、十一月ニハ大

宮ニ開会決シ、大久保氏ハ大ニ喜ビ居ラレ候、大間々ノ高橋氏も九月比ヨリハ辞ラレル決心之由、此度同所ニテ五人ノ受洗者有之候、扱大久保氏ニも新家持ニテ此度ハ意外ノ入費ヲ要ゼシ由ニテ、甚々願兼候得共十円程此度ニ限御加勢被下度奉願候、同氏ノ所ハ同氏より御伝ヘ申候由ニ承候間別ニ御報ニ及不申候、種々私一身上ニ付キ御注意被下奉万謝候、私も退去ヲ受ル迄ハ忍耐シ働度奉存候、河波氏ハ辞ラレル由承リ候、富岡ノ為且上州之為ニ残念ニ存候、沢田氏ヘ御廻ノ洋本ハ正ニ落手仕候間直ニ同氏ヘ廻申候、佐野ノ伝道ノ都合も能々承リ、中山氏ハ目今伝道ヲ十分ニ成サレル由ニ申候、佐竹氏も同地ニテ加勢中ナレバ、相成ベク本月末カ来月ニハ佐野、栃木ノ二所ニ一寸参リ度存候得共、今日迄金子ノ都合も有之不分明ナリ、伝道会社ニハ種々不都合有之候故、相談之上忠告致度存候得共先ツ目今ノ所ハ忠告中止ノ説多有之候故ニソレニ決シ候、桐生講義所ノ一件もデリケー「ト」ノ問題候間、私共ハ無関係ニシテ大間々ヨリ帰リ候、教会ニ非ラズ講義所ナレバ彼等ガ一致より独立シテ、十月高崎ニ於テ開ク部会ニ教会設立ヲ願ヒ出デルナラ、私共ハ如何ニナスベキや部会ニ任度存候

小生結婚日一件ニ付教会より要求出デ、幸大久保氏も参ラレ執事より同氏ヘ相談アリシ由ニテ、大久保氏より委細ニ願上げ候由ニ承リ申候、先生も種々御面倒と奉存候、且奉恐入候、此秋ニハ相成ベク一度上州ヲ御廻被下度偏ニ奉願候、高崎ハ松尾氏ヲ大ニ待居ラレ、速ニ同氏ノ着ヲ祈申候、甚々乍延引御返事迄ニ乱筆ヲ呈シ申候、御令室様ニヨロシク御伝ヘ奉願候、早々失礼、再拝

八月廿二日

不破唯次郎

新寫先生

八月二十二日

広瀬源三郎

①京都寺町丸太町上ル 新島御宅ニテ
 ②摂州有馬 佐野氏方 無事平信
 ④墨

一翰啓上仕候、如來諭一昨日金森兄ト相談之上本日事務所ニ帰り候処、予想ノ如ク随分雜務嵩ミ居候ニ付、荒増取片付飯坂仕度心組ニ御座候、東京ヨリ持帰りノ公債証書并ニ預金証書トモ本日第一国立銀行京都支店へ保護預ト致シ置候間、此段御休慮可被下候

住友吉左衛門寄付金ノ内、昨日金老千円也、第一国立銀行大阪支店へ入金ニ相成候旨、同行ヨリ受取報告到達相成候間、御承引可被下候

過日ノ兩夜ノ風雨ノ荒レニハ近村ハ随分潰損ノ在所有之趣キ、前刻も汽車中ヨリ一見致シ候処、高槻、山崎近傍ハ良田湖ノ如ク残狀ヲ極メ置リ候、併シ京都ハ余リ損所無之、尤も御留守館ニモ何ノ障りも無之候間、御安心可被下候、先ハ右之段得貴意度、如此御座候、勿々謹言

八月廿二日

京都ニテ

広瀬源三郎 印

新島襄先生

尚々、未タ残暑甚敷候間、漫々御保養ヲ專一ト奉祈候、已上、先生宛ノ諸方ノ来狀ハ止メ置候哉、又ハ大阪マ

テニテも差送り候哉御伺申上候、御留守居へ御報願上候也

698

八月二十三日

木村鎮太

①備中窪屋郡羽島 ②摂州有馬 佐野方 坐右 ④墨

謹答尊翰今朝到着拝読数回仕候、陳ハ鎮太儀此一年間ハ優々郷里ニ送るも不本意、又た不愉快、何処にか有益ニ実効ニ相費さんものと決定致居候、幸ニ備后地方其処之れあり候得は一先来月より始まり明年五月之終迄、則ち来年大学選科之試験ニ差支ゑざるの間ハ孜々尽力致可申候、而して選科ニ赴くの事、当時未だ其準備にして不完全ならハ、六月上京する乎否やを決する能ハす候、兎角来年五月終迄と日限一先相定置被下度候、早々

新島先生

坐下

鎮太

拝

再白、過日ハ岡山県卒業生之中小野房太、津田鍛雄、児島亀士之三兄と鎮太四人の者種々既往を追懐し、色々将来を相談し、岡山ニ滞留する者四日頗る愉快にて有之候、孰れも皆一年間ハ処々に散在し、来年ハ選科を目的とし高等中学を修業場と^し上京致す都積ニ御座候、鎮太の近感又ハ之に外ならず、血氣勃勃一首を賦す、御一笑可被下候

縦然吾莫聖賢容 一片何無落々胸

叡意曾遊兒戲似 青鞋欲踏芙蓉峰

新島先生
坐右

鎮太
拝

699 八月二十三日 永岡喜八

①京都寺町通丸太町上ル ②兵庫県有馬 佐野氏 ④墨

残暑未退候処、時下益御多祥奉恭賀候、陳者小生段々長引一昨日帰京仕候間、此段不惡御賢察之程奉願候、実ハ遅ク
トモ本月十四五日頃ニハ帰宅仕度存候処、途中ニ而意外ナル事柄杯發生仕候故、最初予想ヨリハ余程相後レタル次第
ニ御坐候、広瀬君も昨朝帰京被致、事務所ハ遽カニ賑カニ相成申候、先ハ帰京御為知迄申上度、時下御自重奉祈候、
敬白

廿三日

永岡喜八

新島先生
梧下

700 八月二十三日

新島公義

①京都 ②摂州有馬郡湯山町 佐野時之助方 ④墨

拝啓、昨二十日は宝塚ニ一泊、今日午後二時京都ニ帰着仕候、茨木高槻間ニテ一時間モ停車セラレ、楠公決別之松以西ハ大雨之余勢未ダ治ラズ茫々タル濁水大湖の如ク田面の損害得テ云フ可ラズ、鉄道モニケ所ハ大破損、昨二十日より「ソロ／＼」ト先ヅ通行ハ出来申候、扱御祖母様ハ御安泰ニ被為在候間、御休神可被下候、其他異状無之候、右暴風雨ニ就テハ僅ニ葡萄ダナヲ美事ニ庄破セラレタルノミ、其他食堂ノ紙、天上東北部ト西南部ガ雨の為ニ卷下ゲラレタルノミニ御坐候、而シテ表の長塀の壁未ダ水痕ヲ残シ居候、小生ハ五六日間滞京の積ニ御坐候、長岡君ハ二十日ニ帰京の由、右勿々拝報

八月廿三日

公義

大博士

閣下

六甲山ヲ下レバ炎暑赫々、大阪ヲ経テ京都ニ来レバ愈々苦熱ヲ相感ジ、今日ハ九十三度ニ御坐候、故ニ有馬が

慕しく御坐候

701 八月二十五日

金森通倫

①須磨境川温泉 ②摂州有馬 佐野方 至急 ④墨

去る月曜日之風雨之際ニ御出立被遊候由あとにて承り大ニ心配仕候、其後の御様子は如何ニ候也、何卒御保養專一ニ奉願上候、小生も昨夜帰宿仕り今朝早速伊藤伯を尋ね候へ共、此度は病人を同道致し居る面会を断ると之事ニ御座候、御申越之件々は何ニも相調ひ不申候○大坂之方は尚六ヶ敷く相成る一方にて、小生も殆ど考察ニ究し居申候、何れもつまる処は出金せねばならぬと^{〔覺・以下同〕}撓悟致し居り候へ共、可成逃げらるゝ丈けは逃げ、延ばせる丈けは延ばし、又減ぜらるゝ丈けは減し度き有様故、最早多くの者は小生ニ対して留守をツカフ事と相成り申候、殿村と岡橋ニは面会致し候へ共、松本、阿部、西田、浮田などニは未だ面会不仕候、幾度行くも留守をツカハル、ニは殆ど閉口仕候、菊池の方も多くの人々他行中にて事未だハカドリ不申、官員連中の方も遠藤、今井等は留守にてまだ運び不申、造幣局次長の長谷川氏ニは面会之上頼置き申候、昨日も市会之処ニ参り大三輪氏ニ面会致して色々相談仕候へ共、是れは迎ても頼みニ成る人物では無之事と存候、菊池、玉手、伊場、佐藤の諸子ニも一寸面会致置き候、何れも金額を定る、可成避けらるゝニは閉口仕候、小生も今周金曜日ニは棉京の心組ニ候間、諸用相カサミ居り候故、金曜日までは上坂

六ヶ敷御座候、其日ニは大坂ニ立寄り申す攬悟ニ候○広瀬氏帰坂、公債壹万円銀行定期預手形壹万千円を持参致され候故、早速京都の同銀行支店ニ預け置申候、徳富氏より言伝ニ、先日先生まで何ニカ同氏の意見書を差出置候ガ今ニ御返答なきが如何なる様子か御尋ね申上げくれとの事ニ候、右は何ニ付ての意見なるや、又已ニ御返答ニ相成候也御伺ひ申上候、又益田、青木、原の諸氏へは先生より早く催促書を御出ありて、速ニ現金を申受けざれば不都合ならんとの事ニ候、又今一事は秋ニなれば先生の御上京成さる事は至極の好都合ならんとの事ニ候
右三条は徳富氏の言伝ニ御座候、右は要用迄

八月廿五日

通倫

新島先生

702

八月二十八日

新井左壽計

①上野国山田郡大間々町支店 ②西京寺町通丸太丁 同志社 尊酬平安 ④
墨

以無章致啓上候、先以時下残暑の甚敷御同意難御凌相暮候所、高堂益御清福奉賀上候、随て草庵無異消日罷在候際、乍憚様御安眠奉祈上候、陳者兼々毫よりも御願奉申上置候御揮毫之唐紙沢山御投与被成下大悦之至辱拝受いたし候、

且御筆意益御莊^{〔廿〕}ニ而逸々感佩仕候、直様額面ニ相認席上ニ懸置候而朝暮相楽居申候、其内御余隙も被為在候ハ、玉什御洩音之ほとかならず奉待上候、先ハ今日厚礼奉申上度如斯御坐候、書余重脚ニ申上残候、勿々敬白

八月廿八日

新嶋襄様

梧桐下

乙瓢
拝

秋立やわたくし雨の根もきれて

治世の恩沢

踏たわび言つゝ拾ふ落穂かな

老養

煮えるまで小者も笑ゑやことし哉

はつ木の子見物かましう置^{〔並カ〕}へけり

新綿の馳走や宿の敷ふとん

来日ありといふことなけれ

愚さのはかなし冬をまつ心

火を喰ふ虫もまた来る残暑かな

老倅

御差添

奉申上候

二白、愚弟毫義、無申量重々御懇情いたゞき厚札奉申上候、猶々此上御引立被成下様奉祈上候、〔敬〕明年千歳一遇之時世なとゞ申奔走中、偏ニ御憐察奉仰候、乍末筆御令閨様へよろしく御鳳声奉申上候、早々頓首

703

八月三十日

松村介石

①新潟学校町

②京都寺町丸太町上ル

至急

④墨

拜具、陳者此度スコッドル氏其姉の病氣の爲め急に帰国いたし候様相成申候ニ付てハ、実に北越学館ニ取り非常なる災害に御座候、オルブレクトは去り、グレブスは去り而は、杖柱とも頼み居候スコッドル家悉皆引払ふて帰国すと相成候てハ、折角内村騒動より乳れたるを漸く恢復いたし信用を得んとするに、俄然として失望の域にしづむことに御座候、幸にして此度スミス女来り候様相成候へども、〔乱〕コザット女二人のみにて兎ても教授算束なく此迄ハスコッドル夫妻と其姉とオルブレクトとグレーブスとコザットと五人も有之候ものを、生徒は増し、校規は拡張のおりから非常の困難に御座候、然し何れスコッドルの後任の来らざれば到底滅落の次第ゆえ、今の処にてハペドレイと申す新渡来せんとする教師来る様定り、且つ岡山のケレー氏〔Otis Cary〕スコッドルに代ること出来得べきかと申すことに候へども、此二

人とも何れ九月末ならでは帰来せぬ由、左ればスコッドル氏受持の教授はたとひ二女教師が余計に教ゆとも、新級も出来候間兎ても出来不申、休業の外無之とも存候、附而はスコッドルよりも御地の諸宣教師に向ふて嘆願致候筈に候が、何卒右ペドレイ、ケレイの来る迄一二ヶ月の間にてよろしく候間、当今同志社にて教へ居る独身にてワレットと(Samuel C. Bartlett)か申す人を御借し被下間敷哉、オルブレクトも参り、其他二三の教師も加はり候ことに候へば、何卒一二ヶ月の間無理にても北越の為に御辛抱被下候て、其一人御借し被下間敷奉希上候、スコッドル家族は来月廿日に出立の由なれば、其迄に至急に願上度、同氏は独身の由に候へば、結束は容易ならんと存候間、何卒同人に御すゝめ被下、今の処危急御助力被下様奉希上候、右太急ぎ申上度、早々頓首

八月卅日

松村介石

新嶋先生

704

八月三十日

中村栄助

②寺町丸太町上ル ④墨 ⑥封筒表書 「金六拾円添」

過尅は参堂誠ニ失敬奉万謝候、陳者寄付金即納相成候分、金六拾円不取敢持参為致候間、御入掌被下度、何レ後ニ受取証引合セ可致候、先ハ右迄、如此ニ御坐候、艸々

二伸、先刻不在中、中外電報社ヨリ新聞広告代請求ニ罷リ越候間、特別割引之義申遣シ置候間、若シ哉貴家様ニ参り候ハ、御振向ケ相成候様此段申上置候也

八月卅日

中村栄助

新島先生

閣下

705

九月一日

塩井健太郎

④墨

一簡啓呈、残暑之節高堂皆様益々御清健奉敬賀候、次ニ小弟日々主恩之下ニ消光罷在候間、乍憚御安心被成下度候却説、吉田清太郎兄ハ小弟とハ特に親愛之兄弟にて、万事互ニ打明け相談もしたり、又されつゝなる間柄ニ有之候処、過日ハ加納喜三氏ニ就き其性質上之看察を通知可致旨先生より同兄へ御申越シ相成り候よし、同兄之談しにて承り申候、就てハ小弟ハ高粱生れの者故、幾分か加納氏ニ就き知る処も有之、則ち同兄より小弟の看察せし処もつひてに先生まで通知してくれたしとの御依頼ニ相成り候、しかし人物鑑定等ハなか／＼小弟ら凡眼の者にて六ヶしき業ニ候得共、只其凡眼のまゝにて看察せし処を申上れハ、喜三氏ハ今てハ母公と分れて父公と一処ニ起居致居られ候（同家貧にして夫婦分れをされしとか）且家貧にして昨今ハ僅ニ四拾銭の月給にて山林局之小使^{（カ）}ニ頼まれ居られ候、かく困

難なる故ニ同氏之為めにハ成程我まゝを制し責任を重んずるの習慣を得られ候、其一例ハ小弟の家にて遊戲中も五時ハ来たか／＼と常ニ問ハれ候趣ハ、始終其務を心ニかくる者と被信候、ケダシ五時ハ出間時^(マヤ)ニ御座候、且天性伶俐にして才氣あり、少年ながらも能く事務をはこばし、クヅ／＼する風ハ少しも見へず、又正直にして偽なき証ニハ小弟カ喜さん勉強カ好きカ遊カ好きカとの間に、同氏ハ直ニ真面目で、ハイ遊カ好きですと、かさらず明言セラれし事実にて幾分か分り申候、今是を全体より略言セハ智ハ髓ニぬけ目なしと信候、徳の点ハ好き談ハ聞くも、あしき方ハ更ニ耳ニふれさることに御座候、誠ニ人ニきくニ同氏ハリコウ者の評判ある人ニ御座候、小弟折ふし同氏と交際するニ、すれハするほど可愛之情を起さしむる性質を備へたる少年にて、小弟常ニ以為らく、此有為之好少年にして何の教育もなく僅ニ四拾銭の金銭ニ追ハれつゝセハしく埋れ木となりて花さく時期もなく生涯を送らんこと憐むべく悲しむべきの極なりと、只此困難より救ひて天賦之才力を発揚セしむるの救主あるを待つのみニ御座候、右ハもしも先生御参考の一助とも相成候かと心付き老婆心もて不肖ながら所見申上候也、敬具

九月一日

塩井健太郎

総長新寫先生

閣下

①備中高梁頼久寺町 卯ノ木方 ②京都寺町通松蔭町

「後ニ如何なる人とならん〔と脱カ〕するか」

金ハ有たすとも善ひ人となるか宜し

「何故」

金を以て事をする^①と有たすして事をなすと、有たすしてやる人ハ有てる人の半に至るとも有たす

してやる人かよい

是れ今日只今加納氏の令息と問答せる筆記ニ有之候

〔加納喜三〕

昨日塩井健太郎氏の問ニ答へて今ハ何をするか楽しきかと云ハ、今ハ遊ぶ事か樂しと其正直の精神を見るニ足ると被存候、一汎〔般〕の評によれハ子供も老人も一声ニ令息ハ〔音〕伶俐の幼年と申居候、小生の見る所ニよれハ聡明と申方可然存候、只々利巧なる計ニ無く純良なる性質其眼ニ充ちたる様被存候、何様讀し過ぎる嫌有之候へ共、反対の点より看察仕候処、左之結果を見止申候

或る人の忠告ニ、境遇によりて或る一部分の性質を發育せしむる者なれハ、境遇を見て其鑑定②に斟酌を加へざるへからすと

今令息ハ山林局の小使をなせハ進退応答ニ一見小かさしき振見ゆるニ非ざるかの疑を起せしニより

小生ハ其忠告を与へたる人の元ニ令息を伴ひ自己か幼少の頃の実験ニ照して鑑定せしめ〔し脱カ〕に「よろしからんと」申答へ候

小生ハ一抹の墨を以て彼の面を塗りたり、令息依然たり、否一時激したる如きも暫時俯して人を仰き見す、其情の静まるニ及びて笑て余を見たり、されとも余情の静まり兼ねたるニや、転して他を見て稍涙を落さ^(ママ)りし、小生ハ只其性質の中ニより義烈の点か一層明白ニしたき耳なりしも、幾分か其失敬の挙ニ過て激せる点の外ニ於て、さし方り其性質を知る能わす、然しなから斯人ハ聡明の少年と申之無^外之候

先生か万一斯少年を教育せんとならハ早熟の恐ある耳にて、他ニ其の欠点を目下発見する事難からんと存候、然し小生ハ彼ニ向ひて外国行を尋ねし時「若し父さへ許さハ洋行すへしと」独行して懼るゝ気色無之候様見受候、何様教育するニ十分価値ある少年、新日本将来の好人物の卵子と確信仕候、偕て過日御申越し一条は深く心得置候然し薄々承る所ニよれハ(他人より)是非上京致さるゝ様子ニ見受け候

今筆を閣ニ臨み御相談申上度候

第一、氏上京之事、氏の依頼主義より出れハ不可なる事を一言申[。]伝へきか、されハ其旨小生よりか或は塩井健太郎より申伝へし

第二、若し其際にハ氏の子息を今般小生等上京之際携へ申へきか
若し斯の一義ニして至当の事ニ有之候へハ塩井健太郎まで申伝へ被下度候

小生ハ来る三日の朝ハ高梁を出て一応松山まで帰り、十日頃にハ帰校可仕心得ニ有之候、塩井健太郎は同志社三年生にて篤実なる青年ニ有之候、彼ハ高梁本町の産ニ有之、休暇中卯木方ニ同居仕候、金森氏ハよく御存ならんと被存候、小生出発後の事ハ万事彼ニ委任しても一層円活直実ニ処置可仕候

九月一日

吉田清太郎

拜

二白

令息ハ十才の少年ニ有之候間、京都ニ伴ひ申すならハ、尋常小学ニ入校せしめ可申耳ニ有之候、小学校ニ於てハ優等を得たる事二回ありしと聞及候間、多少学才も可有かと存候へ共、是教員^{〔ママ〕}ニ就て取調る都合ニ往かされハ甚た遺憾ニ有之候

然し読書よりハ習字を好まるゝハ遺伝の然らしむる所ならんか

諸猶一之申度ハ才氣と言も其癖^弊ハ少しくコセくする風ニ有之候、再言セハ余ニ細微の点ニ氣の付く事驚くへく程ニして老婆の如く感せられ候へ共、親の命せられざる事も機ニ応して処置致され候事、人をして感服せしむる計ニ有之候^{〔カ〕}ヨし、是れ境遇之然らしむる所乎、將た天稟之然らしむる所なるか、或ハ其天稟か境遇ニよりて発達せし者ならん乎

小生一日加納氏の宅ニ至りしニ、令息二三の子供と庭前ニ遊はれ居れり、老婆程なく一子を擁し去る、令息其子の下駄を認めて直ニ携へて其宅ニ送れり

父公畑より帰る、令息曰丸山の伯父さんか御寺ニ御坐ると、父公曰く、ソーカと、面会を願ふの意あり^るか如し、然れとも小生の在るを以て小生を案内して楼上ニ登れり

談話中令息登り来る、氏立て一書を出して曰く、丸山の伯父ニ、令息声ニ応して曰、ハイ御帰ニ立倚^{〔寄〕}ニ被成^{〔ママ〕}と願ひ置けりと

小生ハ其氣の付く挙動ニ驚きたり、事ハ弁すと、加納氏ハ云れたり、常ニ然るを信す、然し其コセ付事ハ父公も反つて憂ひ居らるゝ如し

然し其才氣を共ニ善良なる天性に發揮し居るハ明白の事実と見認め申候、何様少年の事ニして小生の如き頓物の如何とも断し^{〔ママ〕}する能わさる所なりと雖とも、基督教主義の教育を施せは十分ニ發達して日本ニ尽する所あるべし、兎ニ角小生ハ其胸中一の守る所ありて動かさる風ありて存するハ小生も甚た愛敬する所ニ有之候

707
九月三日
小崎弘道

①東京麹町区下二番町七十一番地
②京都寺町通り丸太町上ル東側
親展を
乞ふ
④墨
⑥前欠

先般来ハ打絶て御無沙汰申上候、当夏ハ播州地方へ御水浴ありし趣、定めて愈御清康之事と存候、生も静岡県下興津へ竜ヶ月水浴致し、漸く両三日前に帰京仕候、偕て兼て御願申上候舎弟成章之義、過日先報より通知有之候趣によれば商売損失之負債丈けハ大概弁価之道相立候故、之にハ最早や氣遣なきも唯困却なるは最早や同地にてハ金を取るの見込無之、且つ學問を為す事は出来きず、日々貴重之時日を消費致すのみに付何卒ぞ東邦へ到るの方法を立てくれよ東邦にさへ到らば大学に入るの道も有之可けれども之にハ旅費其他に凡そ百五拾弗之金を要すれば、其金を送りくれ

との事にて御座候、同人を空しくカリフォルニアの南部に埋め置かんも甚だ遺憾なれば如何とか其方法を付けくれんものと心配仕候得共、迂生も御存之通り微力にて有之候故、何も心の儘にならず甚た困却仕候、就てハ先生の御勘考を願ふは何人有力者に図り金二百円許を借り入る事ハ相叶ひ不申候や、尤も同人帰国迄之処ハ迂生か其利子等ハ引き受け相払ひ可申候、万一同人「死去致すか又」^{〔挿入〕} 帰京後之を返済致し兼候場合に於てハ迂生引受け相払可申候、実ハ此義ニ就てハ湯浅兄ニ相談を願ふかと存したるも、同兄にハ此迄厄介を掛けたる事多ければ此上斯る相談は致し難く、止むを得ず先生に御相談を願ふ事に相成り候、此義何とぞ御容シ被下度候、成章義神学并哲学歴史を専修致す積りに御座候得は成業之後万一同志社にて御入用にて有之候ハ、喜て御奉行申さすべく候、右何分の御返事成るべく奉願候也、伊勢兄より之書状に、同兄も已に六千二百弗許の寄付金出来せし、尚ほ此上数千弗の寄付金募集致す積の趣有之候賀すへき事なり、^{〔雄之助〕} 沢山氏近日米國より帰朝致したる趣、同志社にて雇ひ入る都合にハ相運ひ不申候也、右要件迄如此、早々不一

九月三日

小崎弘道

新島襄先生

①上毛前橋神明町三番地 ②京都寺町通丸太町上ル ④墨

八月廿八日御認ノ御尊書相達シ今日迄御返事延引ニ及ビ奉恐入候、承レバ先生ニハ甚暑ニモ閑ラズ大坂地方ニ於テ大
 学事業ニ付御尽力被遊候由、折角天下ノ為御身御大切ニ奉願候、承レバ先生へハ此度高学位ヲ米国より御受被遊候由
 ニテ実ニ日本ノ為ニ奉大賀候、扱先生ニハ種々上毛全体ニ関シ御心配有之、格別小生一身上ニ付色々御心配被下万々
 御礼申上候、桐生講義所ノ事ハ今日迄委細ハ不分明ニ御坐候、御申越通ニ注意スル方至極に奉存候、大間々ノ高橋氏
 ハ此度同志社神学別課生ニテ入学志願ノ由ニテ仕方無之、十月高崎ニ於テ開会ノ部会ニテ跡ノ所ハ相談ニ及ベク存
 候、何レ目今ノ所ハ前橋より十月より両毛ノ汽車も通スル事ニ相成候間、加勢スル様ニナラント存候、此事ハ元来世
 話好デ成スニ非ラズ、八月末ニハ佐野へ一寸参り度キ心組ニ御坐候処、時ト金ノ不都合上ヨリ参り兼、且或ル役者方
 ハ余リ不破ガ一人ニテ働ハ宜敷カラズトノ評も有之候間、私も少々見合セ申候、併此事ニ付御心配ハ御無用ニ御坐
 候、寺沢氏ハ一昨日帰前サレ、昨日二時程談話仕候、教会ノ事ナリ女学校ノ事ナリ杉田、杉山初メ何ニモ教育ニ不心
 得ノ者共ガ成ス事ハ大不平ト申サレ、私ハ何ニモ返答不仕、同兄ハ私ガ此度工風ナシ前橋へ帰ルベキ同兄ヲ東京ニ行
 ク様ニ計リシト立服^(腹)ノ由ニテ意外ノ罪ヲ蒙リ申候、私ハ一切同兄ニ対シ無関係ニ有之候間左様先生ニモ御心配ナキ様
 ニ奉願候、此度小生結婚一件ニ付色々御世話様ニ相成り、実ニ御多忙中且御不快中ニ御氣ノ毒ニ奉存候、十月上旬ニ
 ハ御上京之由ニ承リ奉侍候、然ルニ北里ハ十月末ナラデハ不都合ノ由申越シ、先生ニモ御上京アラバ一ヶ月位ハ東京

ニ御滞在ト奉存候得共、念ノ為一寸奉伺候、前橋ニ於て先生ニ願ヒ結婚スル事ハ大希望ニ御坐候得共、御申越ノ如ク入費ノ一点ニ付テハ思考スル所も有之、何レ^皆々様ノ御明説ニ従ヒ、教会ノ為トアラバ小生ハ何レノ所ニ相成候とも宜敷御坐候、松尾氏東上延引ニハ高崎ニも大ニ^失望シ居ラル由ニテ、同兄も不快ノ由ナレバ氣ノ毒千万ニ奉存候、先日一寸高崎ニ於テ星野^{〔光多〕}ニ面会シ合一ノ話有之候処、一致会に於てハ組合ノ決議所デハナイドレ程デも一致サへ出来候得バ讓ルトノ事ナリ、果シテ然ルや否や証シガタシ、或ハ口実ナラント奉存候、河波氏も後人アル迄滞留ノ由、跡ニ伊勢崎ノ中村ヲ招キテハ如何ト申立デル人アリ、是レ思考モノト存候、大宮ノ都合も先キヨキ由ニテ安心仕候、上毛ニアル同志社出生ノ人々ハ大久保氏ニ反対ノ人多シ、世ノ中ハ六ヶ敷モノト奉存候、沼田ノ都合ハ益々ヨキ由ナレトモ高橋氏ニテハ大不都合ノ由ニテ好人物ハ無之や、沼田ハ彼ノ地方中心ニテ是非伝道ノ都合計リ度奉存候、下仁田ハ引上げ須田氏へ当地女学校ノ書記ニ依頼仕候、同地ニも人ハ入用ニ候得共、入費一点ニハ富岡教会も困却と奉存候、大間々ニも好人物ヲ頼ミタシ、藤岡ノ茂木氏ノ事も大ニ心配仕候得共、伝道会社ノ地ナレバ不行届ノ事已と奉存候、小生も^{〔Channing More Williams〕}ビシヨブニ非レバ余リ広ク働ザル、方当然ト奉存候、此地ニも^{〔Channing More Williams〕}ビシヨブ、ウルリヤム氏先日來參ラレ同教会設立目論見候ノ由、賀ベキ事ニ御坐候、余程冷氣ニも相成リ伝道ノ時ハ參リ候、先日來病後弱体ニテ十分之働も出来兼、亦子供ノ世話等ニテ教会員ノ望通ニ働出来兼残念ニ奉存候、大久保ヲ大宮ニ送りシ事ニ付キ、何ニカ湯浅君ナゾハ申サレル由候得共、私ハ知ぬ体ニテ罷アリ候、面白キ貴族のノ世中デロニハ平民主義デ余リリーダー先生ガ多てハ困リ入候、兵士も居ナイト先生方已ニテハ戦ハ出来ザルベシ、私共ハ喜ンデ下等ノ兵士ト相成度奉願候、長々敷失礼ノ書状差出シ御免被下度奉願候、御面会ノ節ハ種々言上致度事多御坐候、御令室様へヨロシク御伝へ被下度奉願候、早々不一

九月四日

不破唯次郎

新寫先生

709

九月四日

松原藤兵衛・瀬尾武雄

①長崎県西彼杵郡高島村本村ニテ ②西京今出川相国寺門前町 同志社英学
校 御親披

前略御免可被下候、然は小子等儀ハ西肥孤島の流民ニテ已ニ数年間此処ニ遊寓仕候処、当島ニ参候以前嘗而真神の御恩化を蒙リ、藤兵衛事ハ馬関赤馬関教会ニ入り、武雄事ハ兵庫教会ニ入り、一旦愛兄姉等を辞して本島ニ迷ひ付候以來ハ信仰之沈下其極を告げ元より教会とても無之候間、薄信の者なる小子等其危^險甚たしく大ニ信者たるの面目を失ひ神前に罪を犯すことも多々有之候処、昨年夏時分に至り貴師の御派遣として本城保太郎氏此地ニ伝道せらるゝや之か為大ニ力を得、是まで沈静したる信仰も稍や燃え上り会堂の御建築もあり、将来の御伝道ニ於ては幾分か当所の事情にも馴れ申候ニ付、乍不及応分の御加力をも可申上、且や充分の御訓導をも相蒙るべく喜望仕居候処、本年七月ニ至り同氏ハ何かの御事情にて上京被成候事ニ相成、若し帰嶋相成らざるニ於ては他ニ御代りの御方御来島可被成御話しニ御座候処、未だ其御方も相見え不申、然る処弊島事ハ御承知可有之候得共、周回僅々一里位とハ乍申、各県各

府民の集会せる一小都府とも可申処にて、煩激なる生業の下ニ勉強仕候モノ、着実なる自治の法を知らず、殊ニ当島ニある炭坑々夫の如きは無頼此上もなく、随而得れば随而消費し、飲酒と博奕ハ彼等か得意然として為す処ニ有之、若又精神正しくして実直なるものも当島ニ来り、前きに己か聞きし処とは案ニ相違し利得無きか上に益苦役を極め、一旦此地ニ来るものハ容易ニ帰郷を為し能ハざる様納屋頭等の仕組の中に取込められ、始終憂悩ニ堪えざるか為め縊死或ハ溺死を思立、遂ニ骨を孤島ニ暴すの鬼と相成候等の有様にて、之等の為めにハ是非力ある宗教の感化を以て自治の精神を富ますべく、又炭坑社政之上に付而も充分の改良を望む点も有之、兎に角会堂も已ニ修築を終へ世間には耶蘇教会堂とまで知られ、未だ伝道の端緒も相聞不申候而は世評ニ対して面目を相失ひ僧侶等ハ益謗謔を甚ふ可致、却而彼等真宗の徒ハ西京本山派遣とか申して常住持の外ニ入交り伝道を致し、尤も勉強致居候得ハ此地ニ在る小子等ニ取りて吾宗の伝道師の派遣ニ相成候事を実ニ切望ニ堪不申、殊ニ近頃尤も小子等の感ずる処ハ是迄炭坑社の宗教を見ることハ最も冷淡極まる有様ニ有之候処、今回該社の首立たる役員共後來の盛大を来たさんには坑夫取扱の改良及内部の一大改革を行はさるべからずと、已ニ先日来坑夫死亡の統計表及病院患者の病源を精密ニ相調べ居り、加之然るべき宗教ハ該社の為めに尤も必要なる事を認知せられ藤兵衛事も先年以来社管出稼納屋之帳面方と相成、平素の持論も相演べ今日ニ至りてハ聊か信用を相受け、兼而聖教信奉の事も社中ニ知れ居り、此改革ニ付而は種々御相談をも相蒙り、藤兵衛が帳面方と相成申候素志の佳境にも立至るの場合と相成欣喜雀躍の至ニ不堪、吾聖教を敷くの時熟し来り、此時を外してハ最早他の機会も無かるべく思ふて、茲ニ至れば早く伝道師の御派遣相成度奉存候、只々伝道師而已ならず当炭坑々夫総計三千有余の中多くハ脚氣病にて日々倒るゝ者五六名もあり、是等の看護法ニ於ては此頃少しく丁寧ニ至り候得共、病者之為精神を尽して之を慰め、且之看護するか如きハ夢にだも見える処ニテ、吾基督信者

（患者八百余名有之候）

の看護人ハ此地ニ於テ最も必要と存候、乍然之等ハ第二の着手にて目下の急務ハ伝道師の事ニ御座候、本城氏後任の儀ハ如何可被成候や、若又其御地ニ於て御派遣出来兼る御事情有之候ハ、他ニ之ニ処するの法を立てざるべからず、当処の為何分の御復報を仰度候、頓首

九月四日

長崎県西彼杵郡高島村

松原藤兵衛

瀬尾武雄

新島襄様

附言

当処の御事情ハ能々御承知可被成候得共、坑夫と云者ハ多くハ放蕩無頼にして俗ニアマシモノの寄合場ニ有之候得ハ、之を誘導せんには随分困難相極め候而已ならず通常人と雖も事を好ミ奇を好むの風習有之申候得ハ、之ニ当らんとする伝道師ハ篤信ハ勿論剛胆不抜ニシテ、殊ニ炭坑舎の如きハ下の者と見ては頗る輕蔑を為すの風ニ御座候故、直言を好むの御方ニ有らざれハ難堪儀と奉存候、此言甚だ不敬を失する出過ぎたる申分には御座候得共、後來を慮かる誠情の難止きより斯く申上候間、御了察被下度候、以上

710

九月五日

不破唯次郎

①群馬県前橋神明町

②西京寺町通丸太町上ル

④墨

昨夜松尾兄来着ノ報ヲ聞、今朝二番汽車ニテ高崎ヘ急キ参候処、同兄ニハ不快ニテ東京ヘ出立之際ニテ（ステーション）ニ於て、四分間面会セシ私も直ニ汽車ニテ帰宅仕候、残念至極之至ニ奉存候、高崎教会ハ大ニ失望之由ニ承リ申候、仕方無キ事ニ御坐候、富岡も河波氏丈ハ後人ノアル迄滞留ニ決心ノ由ナレトモ会員中ニも種々之説有之ノ由ニテ困却と存候、佐竹氏昨日来前、七日より西京ヘ向ケ出発仕候間、同氏より一切佐野地方ノ事御承知被下度奉願候、須田氏女子校ノ書記ニ頼ミ昨日参ラレタリ、大間々之高橋氏ハ神学校ヘ入校ノ志ハ目今家事ノ都合ニテ中止ニ相成リ、近々熊本ニ帰ラレル由、残念ニ奉存候、右ハ御報迄、早々失礼

九月五日

不破唯次郎

新嶋先生

711 九月五日 大久保真二郎

④墨

廿九日有馬ヨリノ惠雲昨四日拝承、誠ニ有リ難キ次第ニ御坐候、先以御掬益御機嫌渡ラセラレ国ノ為同胞ノ為天下ノ為ニ感謝奉リ候、尚ホ益世ノ罪ヲ負ヒ悲苦ヲ負ヒ、又吾人衆生ノ為ニ善良ノ模範ヲ大地球ノ青史ニ画キ玉ワン事、真ノ誠心キリストニ祈ル処ニ御坐候、^(能脱カ)諸降テ当地ノ景況ハ如何ナル御恵ミノ試ミナルヤ、実ニ不思議ト迄ニ思フ程ニ都合宜敷日々幾分ツ、ノ進歩モ見ユル上ニ求道者モ加ワリ申候、真ハ実ニ益々戦々競々ノ心日ニ益シ生シ、時トシテハ余リ卑屈ニハ陥ラヌカトモ思フ程ニ自然ト細心仕候居リ候、実ニ生ケル神ハ恵ミ賜フナリ、聖靈ハ真誠ニ吾カ為ニ祈ルナリ、今ヤ誠ニ神ノ慈恵ノ懷ノ中ニアルヲ確信ス、安心ト喜ト望トハ恰モ泉ノ湧クカ如ク実ニ手ノ舞足ノ蹈ミヲ弁セサルナリ、是ト申スモ唯 先生ノ御賜如何ナル詞ヲ以テ感謝セン、如何ナル物品ヲ以テ感謝セン、真ハ唯真誠ヲ以テ其感謝ヲ我周囲ノ兄弟妹姉ニ訟フルモノアリ、真ハ御存シ通り無字ナリ無骨ナリ、決シテ伝道ノ任ニ堪ユル能ワサルヲ知ル、然レトモ我足ノ喜ハ黙スルヲ得ス、見シ事聞シ事ハ伝ヘサルヲ得サルナリ、真ハ期年ニシテ秩父郡ヲシテ学者タラシムル能ワス、然レトモ真ハ期年ニシテ秩父郡ヲシテ喜ト望ミニ満タシムル事ヲ信スルナリ、今ヤ求道者廿人ニ及フ、其中五名ハ最早決心ノ由、然レトモ未タ何分ニモ骸骨備ツテ生命下ラサルカ如ク、道理ハ解ルニ似テ喜ヒナキニ似タリ、真ハ未タ信者ト認定スル能ワス、然レトモ不日聖靈下リ必ス彼等ノ五臟六腑ノ底ニ明カニ印シ玉フヲ信ス、殊ニ初メテノ事ナレハ充分確信ヲ認メサレハ決シテ虚礼ヲ行ワサル積リナリ、唯 主ハ求メヨサラハ与ヘン

トテ生命ヲ以テ待チ臨ミ玉フヲ信スレハナリ、右ノ連中ハ当町ニテ身分アルモノ共ナリ、彼等ハ必ス善ト例トナルヘシ、^理儲甚タ御断リモ申上ケス専断ナル処置トノ御答メヲ蒙ランカトモ存シ奉リタレ共、本月ヨリ一ノ家屋ヲ借り受ケ已ニ明六日ノ夜講義所ノ開所スル積リニ御坐候、其訳ハ先日來ハ日曜々々ニ説教モセス唯七八ノ求道者ガ私ノ宅ニ來リテ話ヲキ、又聖書ノ講義ヲキクノミナリシガ、此連中ガ言ヒ触ラスノト人ノ耳目ノ働キトニヨツテ最早余程評判高クナリタルヨシナレトモ、私ノ方ニ來ルモノハ大抵当地ニテノ上等株ノミナレハ、下流ノ人々ハ色々ト心ヲ卑屈ニシ、我等モ耶蘇ヲキ、タヒガ一ヶ月幾何位ノ月謝ニテ学バレルヤ、貧乏ナル我儕デモ学バレルヤ杯ト疑フテ、私ノ心安キモノニ尋ヌルモノ杯屢有之由耳ニ入レリ、殊ニ又我々ハ彼ノ人々ノ如ク行^機義正クシテシラサル人ノ宅ニ行クノハキマリガ惡ルヒ杯ト云フテ居ル人甚タ少ナカラヌト承リタレハ、最早グヅ々々シテシテ居ルヘキトキニアラス、断然ト講義所ヲ開ヒテ公然ト講義ヲナスノ甚タ好機會ナル事ヲ發見シタレハ、折節良キ明キ家モアリタレハ機ヲ失ワス断然借り受ケ只今造作ヲ施シ居リ申候次第ニ御坐候、御伺ノ上トハ存シタレ共、神ハ斯ナル機會ハ失ワシメ玉ハヌト信シタレハ断然決行仕候、唯当地ハ非常ニ物価高く、私ノ坐敷ヲ二日間借り居ル家賃モ貳円、此度ノ講義所ハ三円ニテ御坐候、其レモ全体狭ヒ処ニテ貸屋ト申スハ容易ニハ無御坐候、弥之ヲ開キタラハ私ハ其処ニ出張シタラハ多クノ求道者氣兼ねナク遠慮ナク続々集ルヘシト皆人ノ見込ミニ御坐候、当地ヨリ三里奥^方(甲^方^野信^野^境)ニ小鹿野ト申ス処アリ、町家三百余此レ秩父郡ノ第二ノ中心ナリ、該地ニモ今段々ト伝手ヲ吟味中ニ御坐候処、二三ノ甚タ良キ伝手アリ、必ス二三週間ニハ一度出張シテ伝道地トナス積リニ御坐候、^(皆野)ト申ス処アリ、第三ノ中心ナリ、是レニハ未タ手出シ出来申サス、又近村ニモ漸次ニ求道者アリテ大ニ私ニ面会セン事ヲ望ミ居ルトノ事ナリ、右ノ如ク前後左右実ニ引キテモキラサル有様ニテ中々一日モ半日モ閑日杯ハ無之、働カント思ヘハ幾何モ働キ所アリ、唯身体ノ限

リアルヲ恨ムノミニ御坐候、現ニ私当地ニ着后ハ一人モ来人ナキ日ハ唯一日アリタルノミニテ、其余ハ皆二三人宛ノ来人ナキ事ハ無之候、然レトモ午前中ハ堅ク理リテ面会ヲ謝絶シ容易仕居候、前述ノ五人ノ未信者ハ願クナレハ先生ノ九月末或ハ十月初メニ上^ニ芻迄御出張ナレハ先生ヨリ直チニ^洗シタシト大ニ望ミ居レリ、真モ初メテノ種子取リナレハ実ニ之ヲ熱望セサルニアラス、然レトモ金身五体決シテ容易ニ斯タル辺僻ニ煩ワスヘキニアラサレハ勿論出来ナヒ事トハ諦メ居レリ

監督ノ伝道師ハ昨日出立スルト申シタリ、講義所ヲ開クニ付、説教ヲ依頼セントテ訪ネタルニ同人曰ク、明日出立スル積リナリト、何トナレハ斯、ル掌大ノ地方ニ二人モ来リテ自然ト競争スル如キハ決シテキリスト信者ノ面目ニアラサレハ、弥出立スル積リニ本部ニ相談状ヲ遣シ置キクレ共、其返事来ラサルニヘニ最早出立スル積リナリ、但此近在ヲ試ミル積リナリ、小鹿野ヘモ行ク積リナリト申シタリ、而シテ彼レ此地ニアル間ハ氣ノ毒ナル事ニハ唯一人モ求道者迎ハアラサリシ由、彼レヨリモ外ヨリモ承リ及候、果シテ然ルトキハ弥真ヲ以テ当地ノ伝導師、則悲苦者ノ友ト任シタレハ真ハ益々奮励其責任ヲ容易ナラ全フスル積リニ御坐候、願クハ幸ニ真ノ為ニ祈リ玉ヘ、廿九日出ノ惠雲中深ク感銘厚ク奉感謝候、願曰ク世ノ些々タル人物トナラスヨフ、願曰ク真誠ノキリストノ弟子トナリ候様大丈夫ト相成候様 先生御恵ミノ手ヲ我頭上ニ按キ玉ハン事ヲ懇願奉リ候

当地ハ初メニ思フタ程ニ富メル地ニアラス、五六万円ノモノ四人、其内二人ハ近江商店、三万円位ノモノ三人、其他ハ数フル程ノ事モナシ、然レトモ左程今日ノ生計ニモ窮スルト云フ様ナ人ハ無之、大学ノ寄付等モ格別ノ事ハ之レアルマジク、然レトモ今暫ク真モ信用ヲ得タラハ千円ヤ二千円ハ此郡中ニテ出来ソーニ存候、兎角急ガヌ方宜シカルヘシ、万^一 先生御席ニ御枉駕下サル様ノ事アラハ即効ハナケレトモ往々ハ効アルニ相違ナシ

当地ノ男ハ随分質朴ナリ、多クハ職業ナクブラリ／＼ト遊ヒ暮ラスモノ多シ、真ノ祈ル所ハ此人々ヲシテキリストノ為ニ非常ノ働キヲナサシムルニアリ、就ヒテハ 先生御東上ノ節委細御伺申上ケテ京浜ノ豪商紳士ニ御紹介ヲ願ヒ、彼等ヲシテ働キノ門ヲ開クハ伝道上一大必要ト存シ奉リ候

不破結婚ハ十月末ナラデハ北里ガ出来サル由ナレハ如何ニ相成ルヘキヤ、尚問ヒ合ワセタル上ニ先生ノ御都合ヲ拝スル事ニ仕ルヘク候、右ハ大ニ取紛中乱文乱筆御高恕被下度奉願候、恐々

廿二年九月五日

大久保真二郎

先生新嶋 殿下

侍史

二白、奥様へハ別紙献上仕ラス、宜敷御伝へ被下度奉伏願候

712

九月六日

松尾音次郎

①東京小石川区上富坂丁二十四番地

星野浅治郎氏方

②京都市寺町通り

④墨

新島先生閣下

陳ハ高崎教会より九月一日迄に是非共東上すべしとの望ミあるにつき

〔以下同〕

且小生よりも病氣前左様申つ

かわし置候ニ付。且小生の病氣と云ハこれに托して該地に赴くを辞せん為めなりなと唱ふる者も該地にあるより伝聞いたし。且喉頭カタルモ慢性にて愈々長ひく模様。御座候へハこれにてハ一日も早く一度ハ東上致し其實際を示し。何とかの処置をつけ。早々引き返しゆるく保養致度と存し（さもなくハ心も心ならず保養なし難く被感せられ候）去八月廿九日出發、兎も角も東上致し該地に趣き、右實際相示し申候處、今一ヶ月位東京にて保養し呉れよ、其上にて愈々の処決定致し度との望に御座候、慢性カタルに御座候へハ実に当惑仕居申候、如何様処分可致や頗る困却仕居候、御高案御示し被下様奉願候

且御願ひ申上度義ハ小生の愚弟本年四年生に相成居候者（川本竹泰）小生より万事支給致す定まりに御座候處、右病氣にて全くこれを如何ともなす能ハざる次第と成果て申候、若し同人働き口も御座候間敷や、偏へに御心配の程奉願候、頓首

九月六日

松尾音次郎

新島先生

坐下

713

九月六日

田中賢道

①熊本県熊本市新屋敷町傘三番丁百二十六番地
②西京 同志社 侍史 ④
墨

秋冷相催申候処、御多様奉恐賀候、却説以来御賛助之女学校も夫々落成仕、今回則チ別紙之通明細書出来仕候間、御一覽被成下度奉願上候、尤未以四百四拾余円ハ、当時引続募集中ニ御座候、右全ク相仕舞候ハ、微力ヲ挙テ大学資金御募集ノ前驅ニ相当リ可申覺語^{〔悟〕}ニ御座候、何分本年福岡之水害ヲ始トシテ熊本震災、紀州大和ノ異変等ニテ何地モ義捐金募集ニ汲々タル時節ニテ、誠ニ寄付金之相談ニ大困難ヲ来シ申候、書余ハ後便ニ相讓申候、草々頓首

九月六日

田中賢道

新島襄殿

〔別紙 印刷〕

熊本女学校新築費明細書

一金千四百円三拾八錢三厘

内訳

四百三拾六円七錢

敷地三反三畝歩

七百五拾六円六拾七銭

二階附本家下家共六十七坪五合建築費

百貳拾七円七拾銭三厘

疊井戸物置石場等其他雜費

八拾円

門及垣廻小使部屋建築予算

一金千四百円三拾八銭三厘

内訳

六百円貳拾七銭

寄付金収入済

六拾五円五拾銭

寄付金申込未収入分

貳百八拾八円

月賦寄付金

四百四拾六円六拾壹銭三厘

向後寄付金募集スベキ分

以上

明治二十二年八月廿九日

寄付金募集担当

田中賢道 印

① 武勳秩父郡大宮町

② 京都市上京区寺町通丸太町角

煩親展

④ 墨

金子拾六円御惠送被下候趣被仰越誠ニ難有奉感謝候、然ル処右ハ現金ニ而御封入被下タルヤ、将又郵便為替切手御封入下サレタルヤ、雲翰ニハ送り候間落手セヨトアルノミニテ切手モ金子モ封入無御坐候、封ジ目等能々相調査仕候得共、一向開封シタル跡扱ハ見ヘ申サス、或ハ御封之際御忘レ其ニテハ無之哉ト乍恐奉存候、兎角氣遣ワシキ次第ナレハ敢テ御伺奉申上候

当地講議所^{〔義〕}ハ去ル六日ニ開キ候、開所式ノ演説ニ聴衆三十余名、皆々謹聴ノ内（些モ法螺ナシ何トナレハ当時ノキリスト新聞サエ些シ法螺ガアリハセヌカト曾テ疑ヒ候ニ付斯克弁ス）、昨夜ハ日曜ノ集リニ忒拾余人皆喜ヒ帰レリ、蓋シ帰ルトキニ大抵皆自白シタルカ故ニ之ヲ知ルヲ得タリ、就テ有志者ノ請求ニ応シ明後十一日ヨリ五日ノ間、連夜演説ヲナス事ニ決シタリ、弥好結果ヲ賜ワラン事ヲ信ス、兎角伝道ノ都合ハ弥好景況ニ御坐候

関東ハ必ス一致結合、必スキリストニアル兄弟ノ親睡^{〔睦〕}ヲ失ワサル覚語^{〔悟〕}ニ御坐候、真モ曾テ改革家トナルハ易ク成業家トナルハ難キ事ヲ知り、一連責任ヲ得タラハ大教師ナル事ヲ思ワサリシニアラス、今ヤ予想も大ニ実リ喜ヒ限り無御坐候、騷虞不折生草^{〔草〕}茎ノ語ハ唯先生御一人ノ所有物トセス、又忍耐ハ勝利ナリト云フ事モ先生御一人ノ所有物トセス、真二郎ノ其持主トナリタシト日夜ノ祈リ此点ニ集リ居申候、嗚呼先生誰レカ先生ヲ知ルモノアラン、天下ノ広キ何ソ先生ノ知己^{〔友〕}アラン、然レトモ唯イエスハ実ニ先生ノ良友ナリ、真之ヲ思フ毎ニ未タ曾テ毅然トシテ起タスンハア

ラス、幸ニ国家ノ為、横ニ字内、縦ニ無限ノ為ニ益御自愛之程奉伏祈候、恐々

九月九日

大久保真二郎

新寫先生

机下

関東御下向ハ何時頃ナルヤ

715

九月十二日

梶原保人

①東京牛込区若松町四番地 中村方 ②西京寺町丸太町上ル 煩親展 ④墨

拝呈仕候、陳者私儀も去る九日京都出發致し十日東京着仕候、然るに京都出發の際は御厚情を辱ふし奉謝候、当地着直ちに民友社にて徳富氏に面会致し御伝言の事申伝へ申候、条約改正に付ては未だ鎮定仕らず候、政府部内に於ては大山、西郷、山田等は寧ろ賛成にて伊藤、松方等は寧ろ^反對論の熾なるを欣ぶ如き有様に候へ共、公然手強き反対は致し申さず候、井上は反対はせざる模様にて後藤も別に断然たる処置は致し申さざる可く、寧ろ今日の地位を保つに汲々たる有様に御坐候、右の如くして政府部内は既に結合したる風にして、只此よりは山県の進退に候、然し氏は寧ろ反対せざる事に相成るべく候、そは今日反対する者は鳥尾、三浦、谷の如き山県の平生好まざる人物に候へば、彼

等を助くる事は致し申さざるべく候、今日に於て既に山県派の軍人は賛成論者に御坐候、且つ政府一体は改進黨よりも寧ろ大同派を蛇蝎視せる有様に候へば、彼派を救ふ事は為し申さざるべく候、山田は自己の監督せる法律を有効ならしめん為め賛成し、松方は大隈を嫌ふより反対する事になりたる如き模様に御坐候、実に今日は反对者も賛成者も主義を標準と致したるに無之、唯一己人の關係より国家の大事を処置する如く実に可歎事に御坐候、然し今日は政府の方針は既に一定して断行仕る可き雲行に御坐候、斯る有様に候へば政府專制の今日にては民間に於て囂々騒ぎ立ち候ても政府の意を枉げしむる力は無之事と存申候、若し政府に於て愈断乎たる処置を為し候はゞ、反对者は愈激昂致し、或は西野〔文太郎〕の如き者再び舞ひ出で犠牲者となる人起るやも測られ申さず候、反对者も地方政治家に向ては可成丈け壮士連の東上せざる様説諭致し候へ共、愈統々東上仕り候へば其極は或は第二の保安条例を出すかも測り難く候、賛成論者に於ても種々手を尽し候へば内外相応して成就の運に至らしむるも出来難き事にも無之候、右の事情は徳富一派より聞きたる事にして未だ反对者の意見を叩き申さざれば、今日の事務に適中したる意見なる乎保証難致候へ共、公平の意見と存申候、私も今度は愈専門学校に入学致し申候、時候變遷の節に候へば御自愛專一に奉願候、先〔カ〕ハ右粗略なる御報道迄、草々愚筆

九月十二日

梶原保人

新寫襄殿

716

九月十二日

木村鎮太

①岡山七番丁五番地 阿部氏内 足下 ④墨 ⑥日付は
封筒裏書による

謹啓、時下愈秋冷ニ相成候砌先生ニハ愈御健勝御尽力カト奉遙祈候、陳ハ毎度御煩悩申上候備後学校ノ一件、終ニ其
議成ラス、昨日端書ニテ渡辺某ナルモノ既ニ有之由報道致来候、此報道ニ接シ鎮太頗ル断腸裂胸之感想有之候、而シ
テ之ヲ囊キノ数十日間雲烟漠々アンサーテン中ニアリシ痛苦ニ比スレハヤ、心安キヲ相寛申候、嗚呼顛蹶多キハ世路
ナル哉、蹉跎タリ易キハ人事ナリ、此路ニ当リテ此事ヲ処ス千辛万酸兼テ覚悟致居候事トハ雖モ、備後ノ一件幾分カ
其真相ヲ鎮太ニ悟ラシメタル様ニ感セラレ候、先日來岡山ニ来リ同窓児島兄ト相会シ鎮太向後ノ方針ヲ相図居申候、
尚ホ数日間ハ当市ニ滞留致居候、今日ハ種々ウヲークノ場合相求居申候、右ノ条々至急先生迄御通知致居候、願クハ
旧ニ倍シ御養生之程、早々不一

新島先生
足下

鎮太
拝

717

九月十六日

大久保真二郎

①武勳秩父郡大宮町

②京都市上京区寺町通丸太町上ル

急要辞

④墨

益御機嫌能被遊御坐奉恐悅候、抑モ本年ハ如何ナル年ナルヤ、何故ニ斯ノ如キノ災厄ヲ降シ玉フヤ、震災風災水難ヨリ外ハ条約改正ノ騒動ナリ、実ニ恐ロシキ事ニ御坐候、然リ共吾人天父の下ニアルモノハ決シテ恐ル、事ナク唯御慈愛ニ鞭ト承知罷アルモノ、願クハ全国ノ兄弟姉妹此時ニ当リ悔悟、願クハ吾人伝道者ノ上ニ兄弟姉妹ノ敵ヲ玉ワリ伝道ノ力ト又其折リヲ与ヘ玉ワラン事ヲ熱願ノ至リニ堪ヘス、此際何ソ全国ノ信者相約シテ祈禱会ヲナス事共ハ如何御坐候や

落手セヨト仰セラレタル金子ハ今ニ到着仕ラス郵便局江ノ報知書ハ来リ居ラヌヤ、若シ局ニ来テ居ルナレハ切封ノ御入レ損ヒナレハ安心セラル、ナリト存シテ尋ネタルニ、是ニモ来リ居ラス、就テハ或ハ通運ニテ御送りハナカリシヤ、全体通運ナルモノハ甚タ不都合モ多ク、且延滞スルモノナリト、又金子ハ一層甚シキ由、巧者ナル人ヨリ承リ及居候、已後は是非郵便為替ニテ御通送奉願候、兎角今日迄到着仕ラヌニ付テハ少々ハ困リ申候、何ヨリ如何ニシテ御送り下サレタルヤ御通知奉願候、伝道ノ都合ハ不相替好都合ナリ、然レ共決シテ急キテハ悪ルヒト云フ事ヲ少々発明仕候、何モ失策ハ仕ラス、昨夜迄連夜説教ヲヤレリ、熱心ニ来聴スルモノ廿余名アリ

実ニ郵便錢モナク相笑ツテハ居レ共窮モシタリ、京都ニ居ル時分ハアレデモ午房位ハ輕蔑シ居タレ共、今当地ニテハ午房売りガ来テモ中々之ヲ買フ訳ニ行カス児ガ買フテクレト云フヲ漸ク理リタリ、全国ノ兄弟姉妹ガ水災震災ノ事ヲ

(牛房)

思ヒ出スノ神ノ鞭トハ明カニ悟ルヲ得タリ、凡テノ事良カラサルナシ、又御一笑ノ中ニ心事ヲ諒シ下サラン事奉願
候、右ハ仕方ナク当地ノ有志新井市三郎より少々金員借用郵便錢出来タレハ不取敢奉得貴意候、勿々不一

九月十七日

大久保真二郎

新嶋襄殿

718

九月十六日

清水泰次郎

①有馬 佐野時之助別荘にて ②京都九太町 坐下御親展 ④墨 ⑥日付は
封筒裏書による

前略御免、陳バ過日ハ御金融なし被下有り難く御坐候、早々御返済仕るべく之処、英国よりハ未だ送金せず、書林之
方ヘハ不快ゆヘ充分に掛け合ふを得ず、甚だ遅引いたし候段幾重ニも御断り申上候、時に拙者未だ帰校いたさざる事
に付て委細くわしく陳述ハ返て校長を信する薄くして、又た自から信する厚らざるを示めすものなりと妄想するを以
て、金森氏ニハナルベク速ク帰校とのみ答へ置けり、然るニ近頃或る医師之診察ニよれば病症已でに漫性たるが故に
中々一ヶ月間くらいニハ全癒せざるべし、又た病症の変て喘息となるやも計り難しとの事、拙者ハ未だ輒く是を信せ
されと、万一不幸ニして廃するニ至らバ御校之御用ニハ達ち不申るべし、然る節ハ拙者より校長へ当て辞表差し出さ

ぶるを得ざるべし、余り御校の^{〔補〕}保助を受くべからず、只た怨むらくハ老母尚ほ^{〔Henry J. Laidlaw〕}ラニン氏之病院ニ在て生死定まらず遺憾不少候、然かし是も神にまかせば宜しからん歟、両三日熱甚たしくして他出せず、種々の妄想をなす、御一笑なし可被下候

新島大兄
坐下

泰次郎
拝

719

九月十六日

上田周太郎

①紀伊郡伏見京橋水谷 ②上京寺町通丸太町上ル 玉机下 ④墨 ⑥日付は
封筒裏書による

拝啓、陳者愈々御壮健に御座被遊奉賀候、扱て拙兒兼而より御拝顔仕御高聴を賜り度存し再三御門前を伺ひ候得共、御不在中にて得御目に掛らす候、拙兒昨年御校を卒業致せし以来種々雑多と家族の事情に因り神学部を修る事も得為す、終に家事を助け傍ら独学を致す事に決心し、不得止紀伊郡高等小学校に在勤致候得共、実に独学などは意外に困難なることにて想像せし十分一たも為し得ず、誠に残念の至御座候、左れはとて学資金のなきにも拘はらず父母弟妹七人の家内に毎月三四円を送る責任御座候故、如何に神学部 of 修業を熱望するも難き次第とは存すれ共、若し拙兒相

応の勤勞を為してなりとも出来事なれば今一層勉強致度願ひ居候、誠に恐れ入りたる事なから以愚書御高論を奉希候、頓首

新寫先生

上田周太郎

720

九月十七日

不破唯次郎

①群馬県前橋神明町三番地 ②京都寺町通丸太町上ル 急願用 ④墨

承レバ先生ニハ最早御帰京被遊候由奉大賀候、扱申上げ度事許多ニ候間、何ニヨリ言上スベキヤ困却仕候、第一大宮伝道も都合宜敷由ニテ神ニ謝スル所ニ御坐候、然ルニ大久保氏ノ給料ゴルドン氏より参ル分延引候故ニ大ニ困却ト申来リ、部会ノ集金も思ノ儘ニ参リ困却仕候、先生ヨリハ既ニ御送金被遊候由候得共、昨日迄ハ着セザル由、何レ大風雨ト水害ノ為運送延引ニ及ナラント奉存候、一致合一ノ大問題ニ付てハ上州各教会も安眠中ニ御坐候得共、某先生（上州ノ大先生）ハボツ、安中辺ニハ是非合一ノ事ヲ勤メラレル由ニ承リ申候、河波氏も目今滞留ニ決セシ由ナレトモ、富岡教会ニハ内々説分レ河波氏退カバ正キ牧師ヲ招キ度心組之由にて、ヨキ人物アル迄無牧にて日ヲ送ル決心ノ由ニ承リ申候、高崎教会内も面白カラズ、松本氏ノ如キハ種々不同意ノ筋有之由ニテ相成ベク忍耐サレル様申上

候、大間ノ高橋氏ハ同志社ヘ入学ハ中止ニ相成リ帰国サレル由、後人ハ小崎氏ノ方ヨリ申越ニ相成候得共、能々相談ノ上ニ招度奉存候、桐生一件ハ何ニノ報もナク候間、御安心被下度奉願候、此度ハ上州地方も大風之為物価非常ニ高敷ニ相成リ、小生ノ如キハ先月母ヲ国ニ帰シ一ヶ月ノ給料ヲ凡テ費シ候間、本月ハ先生より載候十五円ノ内五円殘金アリ、ソレニテ此月ヲ送ル事六ヶ敷存候間、甚々願兼候得共、先生ノ御都合ニテ少々御送金被願度乍恐奉願候、先生ニハ種々大学校之事業ナリ御多忙中ニ一己人ノ困却ヲ度々申上げ、先生ニ御加勢ヲ願フ事ハ偏ニ恐縮之至ニ奉存候、来月中旬或ハ下旬ニハ兼て願置候小生共ノ結婚も先生御司リ被下候由、北里迄御伝ヘ被遊候事、同人より申越シ万々御礼申上候、然ルニ教會員中ニモ牧師が前橋ニテ結婚致スナラ亦々金入リダト申シ、彼是と申ス人も有之候間、教會員ニ出金サセル心組ニハ無之候得共、斯ノ如キ次第ナレバ反テ他所ニテ執行宜敷カラントも存候、相成ベク本月中ニ決定仕度存候、併シ場所ハ教會員某氏よりも先生迄願ワレシ由ニテ宜敷方ニ服從仕ルベシ、北里方ニテハ何レノ地ニても差支無之由申越候得共、老人も国本ヨリ雄結婚ノ為ニ上坂セシ由ニテ、北里方ニテハ京坂両地ノ内ナラ至極都合ハ宜敷カラント思考仕候、寺沢氏も本月上旬より帰前ニ相成リ種々万事ニ尽力有之候得共、相不変例ノ習ハ有之、元来私ハ少シも關係セズ、併シ多数ノ青年ハオダテラレ度々不都合ノ事も有之候、来年よりハ愈々帰前シ、学校設立之由ニテ尽力スル人も有之候由ニ承リ候、故ニ結婚ハ先生之御意見ヲ伺ヒ来月中ニ決定仕度奉存候、女学校之事種々困却有之候得共、先ツ追々進歩之方ニテ常ニ金員ハ不足仕候、ペーケル氏ハ教授所之為ニ寄付金ハ出来おルヤ、是非寄宿所も新築ノ見込ニ御坐候、ペーケル氏ヘ上州伝道且女学校ノ事ヲ細ク申越テハ如何御坐候〔説〕御意見奉伺候、宣教師ノ方ヨリジュリヤ、ギユリキ女教師ヲ委員トシテ此度女学校一件ニ付相談ニ参ラレ目今滞留中ニ御坐候、来月ニハ前橋ナリ御地ナリニテ御面会申シ委細言上可仕候、牧師が種々評ヲ受ケル事ハ珍事ニハ無之候得共、私ハ世話好ノ牧

師トノ評ヲ受ケ、且子供ヲ世話スルニハ宜敷トノ風評ノ由有難キ事ニ御坐候、両毛汽車も十月上旬ヨリ運轉之由承リ候処、不幸ニも此度ノ大風ニテ害ヲ生シ、二ケ月も延引スルナラン、右汽車通行ニナラバ余程便利桐生、足利辺、佐野辺へ進入ルニハ好都合と奉存候、此度ハ各教会ニテ己立主義ノ盛ニハ驚入申候、亦々不信用ノ基督教社会ト存候、
来月^年五月組合ノ會議ハ是非トも京坂神ノ中ニテ執行ノ方可然偏ニ奉祈候、先日御申越ノロー先生之御書状ハ^拜相見仕度奉存候、松尾音次〔郎〕氏も目今東京ニテ保養之由速ニ来上ヲ希望仕候、跡土曜日ニハ一寸安中ニ参リ杉田氏ニ面会仕候処、同氏ノ意見ハ異事ナク大ニ安心仕候、靈南坂ハ何ニデも独立ニ決定セシ由ニテ或ハ分レル勢も有之ラント奉推察候、長々敷書状御免被下度奉願候、早々不一

九月十七日夜

不破唯次郎

新寫先生

721

九月十七日

徳富猪一郎

⑤ 森中章光写（孔版）

最早東京モ最良ノ時節とナレリ、御上京何時ニテモ差支ナカル可く候、乍併政治熱非常ノ沸騰ニテ多くの收穫ハナカル可く被存候、上州地方御巡回ありたらそれ丈ノ効用アル可しとの事ニ御座候、多忙中不取敢申上候、不一

九月十七日

徳富生

襄先生

722

九月十九日

木村鎮太

- ①名護屋シモタテ杉ノ町五十四番戸 マッコルピン氏内 ②京都 坐右 ④
墨 ⑥日付は封筒裏書による

郵書謹呈仕候、陳ハ曩ニ備後学校ノ一件首尾能ク相整申サマリシニ付、直ニベレー師ニ問ヒ合セ其手続ニヨリ愈名護
屋ニ働ク事ト相成候、而シテ昨日十一時無恙着屋申候、此段御安神被下度候、該校ハ一箇ノ女学校ニシテ今将ニ着步
セントスル処ニ御座候、^(R. E. McAlpine)マッコルピン氏及^(A. E. Randolph)ランドルフ婦人其他一二名之西洋婦人ノ手ニ成ルモノニ御座候、未タ官許
モ得ず随テ広告募集等モ是レヨリ相始メントスル都合ニ候、願クハ先生時々鎮太ニ教ユル所告クル処宜敷御頼上申
候、不 一

木村鎮太

拝

新島先生

坐右

九月二十一日

不破唯次郎

①上毛前橋神明町三番地 ②西京寺町通丸太丁上ル 急用 ④墨

冷氣ニ相成リ先生ニハ御不快如何被遊候や御尋申上候、扱妻一件ニ付てハ種々先生へ御苦勞ヲ願ヒ奉恐入候、然ルニ北里方ヨリハ期日ニ付度々申越シ、先生御上京日も元来不分明ナレバ衣服も来月上旬ト下旬ニハ大ニ異ナル所アルナド申越シ、北里雄事も中ニ立チ兩親ハ未信者故色々心配ノ筋も有之候由申越候間、元来教会ノ求もアリ先生ニも御承諾有之候得共、右之都合ニテ彼是トウルサク御坐候間、本日左ノ如ク返事仕候、先生ニも御相談致サズ甚々恐入候、来月十日ニ西京ニ於テ結婚執行ノ心組ト申送候、最も此事ニ付テハ浮田、加藤兩氏より委細先生へ御伝へ申スベク奉存候、若シ先生へハ来月十日比迄御在京ナレバ乍御面倒司会ノ儀奉願候、万事常々気儘ノ願ヒナシ心外此事ニ奉存候、私も帰前以來此夏中也休ミ出来兼少々勞レ申候間、一周間位ノ一チエンジハ宜敷存候、此地ニアレバ元来休ハ出来兼候、上州全体ノ運動ニ付ても色々見意ヲ有シ候得共、元来運ビ兼残念至極ニ奉存候、兼て待居リタル合一委員ノ報告書此程廻リ来リ申候、靈南坂も綱島氏ヲ招度由ニテ、小崎氏ハ福島へ參ラレタリ、寺沢了氏も帰県中ハ種々尽力アリ、併シ相不変例ノ人物ニ御坐候、湯淺君ハ合一事件ニ付、上州ニ彼是ト手ヲ入ラレル由ニ承リ候得共、反て上策トハ申シ難シ、来月末ニハ大宮へ杉田兄ガ巡廻へ參ラレル都合ニテ定メテ受洗人もアラント奉存候、大久保氏ハ相不変非常ニ働レル由ニテ大ニ安心仕候、高崎ノ事ハ大ニ心配仕候、偏ニ上州ノ為ニ御祈被下度奉願候、右ハ願用迄、早々失礼

九月二十一日夜

不破唯次郎

新嶋先生

二白、御令室様へ宜敷御伝言被下度奉願候

724 九月二十一日 大久保真二郎

①武州秩父郡大宮町

②京都市上京区寺町通丸太町上ル角 煩親展

④墨

恐レナカラ前略御高恕願ヒ奉リ候、当地伝道ノ景況ハ漸次ニ都合宜敷、殊ニ先日貴意ヲ得奉リ候通り講義所借リ入レ五日ノ間連夜演説シタルヨリ大ニ外界ノ空氣ヲ變シ、耶蘇ハ中々宜敷モノナルゾヤトノ風評ハ余程ノ速力ニテ伝達シタルヨシ、今ヤ求道者大宮町ノミニテ廿八名ニ及ヒ、内八名位ハ余程信仰ニ近キ申候、然ルニ私義ハ毎月曜ヲ以肉体ヲ休息セシメ居候ニ付、是ヨリ荳里計リアル村ニ鉱泉アレハ入浴ノ為ニ参リタレハ、該地ニテ求道者アレハ説教セヨトノ事ニ付喜ンテ承知セシ処、夜ニ至リ亭主曰ク、余リ人数少ナケレハ斯ハカリ少人数ニテ拝聴スルハ勿体ナシ、他日大勢ヲ集メテ云云ト申スニ付、中々去ル次第ニアラス、一人ニテモ聞キタヒト云フ人アレハ喜ンテ話スナリトテ早速取掛リタル処、都合拾人程ノ聴衆皆大ニ喜ヒ、遂ニ一週ニ一回ツ、伝道スル事ニ取極メ、明后月曜ニ又行ク積リナ

リ、此度ハ必ス廿余名モアルナラン、右ノ次第ニテ何時ノ間ニヤラ 神ハ已ニ檻ノ外ニ數多ノ羊ヲ御集メニ相成申候、只今ヨリ手広ク御願申スハ来夏ハ必ス三人補助勢ヲ御送り下サルヘク御用意願ヒ奉リ候、何トナレハ真未タ曾テ一日モ閑ニシテ暮ラシタル事ナク、実ハ甚タ身体ノ少キヲ憂フレハナリ

就テ一ノ御承諾ヲ願ヒタキハ私ノ妻甚タ馬鹿モノニ相違ナケレトモ幾分力真ノ信仰ヲ有スル様ニ相考申候、又彼レ自身モ非常ニ伝道ノ必要ヲ悟リ、動モスレハ飛ヒ出サントシテ実以テ圧抑ニ困リ申候、前述ノ通り繁忙ノ折リ殊ニ婦人ノ伝道ニ甚タ必要ヲ感シ東京ヨリ徳富母ノ助出張ヲ依頼シ居ル位ナレハ、彼レカ働キ暮ルレハ此上モナキ詔ヘ向ニテ、圧ユル所デハナク実ハ煽動デモシタキ程ナレトモ如何ンセン、当地ニテハ職業多端ニシテ下女奉公杯スルモノナク、今日ニ至ル迄雇ヒ出タサズル次第ナレハ、子護リトオサントノ兼勤ヲナサセネハナラヌニ、不遠慮ニ飛ヒ出タサレテハ甚タ迷惑ナリ、又彼レモ大ニ之ヲ遺憾ニ思ヒ、一ト筋ニオサン丈力、セメテ子護丈ナリトモ放免セラレ勉強ト伝道トニ従事サセ玉ヘト祈リ居レハ必ス不日ニ許ルサルヘケレトモ、今差当リ子護丈ヲ雇ヒナハ勉強杯ハ未タ勿体ナキ事ナレトモ伝道ノ手伝丈ケハ幾分力出来申スヘク存シ、過日来断然子護リヲ京都ヨリ呼ヒヨスル事ニ決定仕候、蓋此子護ハ在京ノ節永ク召仕ヒ当年十一年某月ニナルモノナレハナリ

右一条ヲ志方之善ニ申シ遣シタレハ定メテ同人参上スヘシ、其節ハ何卒来月ノ手当六円ヲ御渡シ下サレ度奉願候、蓋同人ハ私腹心ノ朋友ニテ、殊ニ後來甚タ見込ミアルモノナレハナリ、甚タ弥力上ノ事ニテ実以テ恐レ入り奉リ候得共、何処迄モツケ乗ツテ来ル奴ダト御思召モ恐入り奉リ候得共、フィッシュンノ教会史丈ケ御恩恵下サレ度奉願候、志方江代人参上ノ節代金帰渡シ下サレ候得ハ此上モナキ事ニ御坐候、通運会社ヨリ御送り下サレタル分ハ未タ到着仕ラス、恐クハ中途ニテ事故アリタルヤ、実ニ評判通りナレハ未タ廿日ニモ足ラサレハ驚クニモ足ラヌ様ニ覺ヘ申候、

右ハ要辭ノミ急キ貴意ヲ得奉リ候、恐々謹言

九月廿一日

大久保真二郎

拝具

新寫先生閣下

侍史

725

九月二十三日

松波仁一郎

①東京麴町区飯田町四丁目廿一番地 ②西京丸太町 ④墨

一筆啓上仕候、秋冷之候朝夕ハ余程凌ぎよく相成候処先生御容体如何に御座候也、度々書面を呈して御伺ひ可申上答の処、意外の御疎遠仕候段真平御用捨被下度候、諸先達て御申越しに相成候同志社大学設立義捐金の儀は、当第一高等学校内にて募集仕り候、勿論当校ハ官立校にして凡而私立を疎するの風有之ニ付、思ふ程の抛金も無御座よう／＼の事にて別記の金額を募集仕り候、金額ハ実^{〔些〕}に^{〔些〕}些少に候得共、当校有志者よりの寄付金としてハ随分妙^味妹^味のある事と存じ、徳富氏に依頼してワザ／＼第一高等学校の文字を^{〔持〕}捜入仕り候、此募集に關してハ発起者ハ小生一人に御座候得共、矢口、村上^{〔信太郎〕〔直次郎〕}其他諸氏の力をも大に受けたる儀に候得は左様御思召被下度候、若し貴社大学の御記録を御調製相成候御序でに 一金八円九十錢 第一高等学校有志者ヨリ寄付との文字を御記載被下候ハ、有かたく奉存候、尚当高等中学の事に関して御尋問の事御座候得は御申し遣^ハハ^{〔マカ〕}し下され度候、早速御取調申御報知可申上候間、毫

しも無御遠慮御申し付ケ被下度候

目下時候變更の折から御病氣の御身体御養生專一と奉存候

九月二十九日^三

仁一郎

再拝

新島先生

玉机下

726

九月二十三日

茂木平三郎

①群馬県緑萐郡藤岡町

②京都上京寺町通丸太町 親展

④墨

一翰拜呈愈御清適奉扑喜候、陳者過日ハ米国ヨリ尊称御贈相成ラレ誠ニ恐悦之至謹テ奉賀候、其後ハ御疎遠ニ打過候
処、御尊体追々御快方ニ相成候由大慶之至ニ奉存候、偕段々御配慮被下候秩父大宮モ大久保氏常住ト相成誠ニ好都合
ニ御坐候、此頃彼地有志家ヨリノ報知ニヨルニ、教之事ニ付テハ従前トハ異リ誠ニ穩ヤカニテ別ニ惡評ヲナスモノ無
之中々模様宜敷、去ル十二日ヨリ十五日迄連夜説教等有之道ヲ求ムル者多ク頗ル謹聴セシ由、昨年東京ニテ申上候一
婦人^{漢学}者ハ近日洗礼ヲ受クル事ニ相決シ申候、其外有志家ハ何レモ好人物ナレハ必ラス好結果有之、後日教会ノ一基
礎相定リ可申候、却說尊慮ヲ煩ス事ハ不忠ノ至ニ候得共、誠ニ不得止之事柄故申上候、去ル二月中モ先生へ哀願致候
小生負債之義、種々工夫ヲ廻ラスト雖モ良法無之困却致候、財政困難之伝道会社ヘ向ヒ増給ヲ請求スル訳ニモ不相

成、返却之期限ハ段々ト相後レ、目下差迫リ候次第ニテ当惑致候、当分之手当ヨリ引去リ返却スル事モ不出来、却テ毎月之手当ニテ不足ヲ生スルハカリニテ困難致居候、甚々恐縮之至ニ候得共、何卒良御工夫ヲ以テ御垂憐被下候得、幸甚之至ニ御座候、依テ御答モ願ミス再ヒ哀願致候也

九月廿三日

茂木平三郎

拝

新島先生

二白、小弟過日伝道会社之行違ひニテ藤岡ヲ相去ラント致候処、小弟相去リ候テハ教会分烈相成候様相見ヘ候ニ付、治会之為メ踏止リ従前之通伝道致候間、此段御了承奉願候也

727

九月二十八日

植村保雄

①北海道札幌北七条東屯町目

製麻会社

②京都寺町丸太町上ル十三番戸

③はがき

④墨

御ばあ様^ハ御機嫌宜し候や、宜御願上候

寒氣相もよをし候処、益ス御機嫌罷らせられ候むや御伺奉り候、私共も御蔭にて無事札幌へ廿五日着致し候間、何卒

御休心被下べく候、就ては御届物正に御渡申候間、御安心被下度候、札幌ハ思ひノ外立派にて京都にてもをよばぬぐらひ存居候、先は御機嫌伺度傍頓首〔カ〕〔旁〕

728

九月三十日

松本勘十郎

①群馬県倉か野町 ②京都寺町通丸太町上ル 親展 ④墨

拝啓、其後ハ意外之御無音奉深謝候〔カ〕、時下益御壮健ニ被遊御坐候御事ト奉推察候得共、或ル新聞紙ニ御危篤トアル由伝聞仕候得共、諸兄等も一向ニ承不申由ニ付甚信兼候、如何方今之御容体拝承仕度候、扱兼テ御配慮被下候我教会牧師タラントスル松尾兄も病発、過日出高スルモ此地方及東京ニ滞在ヲ進ムルも承諾ナク、終ニ帰国被致甚残念此事奉存候、右ニ付当分伝道者無之而ハ不相成事ニ候間、弥松尾氏当地方望無之事ニ候ハ、其後確ト承リ候上主牧師相願度、又本年一盃位遅ク相成候トモ是非伝道者無之而ハ不相成候間、恐縮之到ニ候得共、京師在留トノ事ニ御座候間、内々御聞取被下候而右辺之撰択ニ而後任ナリ伝道者ナリ御配慮ニ預り度一条ニ御座候、尤不日不破氏上京之都合之由、昨日面会右等ノ義も願置候間、同兄ヨリも申上ヘク、馴トモ当教会昨年以来無牧師困難之次第御洞察被下、一日も早々西群馬教会ニ相当之仁御振向被下候様偏ニ奉希上候、右は教会一同ヨリ申上ベク之所寸暇無之為メ高崎へも出向不申ニ付、小弟ヨリ申上候、右御伺旁御依頼迄如此御座候、勿々拝具

廿二年九月三十日

新島尊兄

松本勘十郎

729

九月

西村栄治

④墨

⑥封筒表書

新島筆「Keep」

玉翰拝読仕候、然は小生儀今般同志社普通学校画学教師トシテ本年九月ヨリ来ル明治廿三年六月迄一学年中御雇入之趣拝諾仕候、就テハ在勤中老ケ月金拾五円御下渡被下候趣謹テ御受仕候、頓首敬白

明治廿二年九月

西村栄治印

新島襄殿

明治22年

十月一日

黒木文平

①宮崎県児湯郡都農村 ②京都 同志社 ^{〔侍〕} 侍史御中 ④墨

尊書捧読仕候、時下秋冷之候ニ御座候処、益御清康被遊御動止奉恐賀候、陳者賤息光義種々御愛顧ヲ蒙リ奉感謝候、然ルニ這回學資贈与之義ニ付、御勸告之趣深ク敬承仕候、光義是迄御校へ入學仕居候処、過般来ヨリ脳病ニ罹リ一時休業仕居、于今根治不致候由、斯ル弱体故到底御校卒業無覺束、且家計上ノ都合ニテ學資支給相見合候処、不図貴意ニ被為懇懇々御教諭ヲ忝フシ奉拜謝、此上ハ断然尊命ニ随ヒ爾後及丈ケ學資送給仕度候間、尚^不相變御愛顧被成下度伏テ奉冀上候、此段乍失敬以鄙翰御回答申上候也、恐惶謹言

明治廿二年十月一日

黒木文平

新島襄様

〔侍〕
閣下侍史御史

731

十月二日

徳富猪一郎

④毛筆（赤インク）

⑥民友社用箋、別紙ナシ

別紙差出申上候、御一覽ノ上御取捨被成下度候、先生御上京尤モ可然、上州行ハ湯浅氏ヨリ何トカ申上候筈ニ御坐候、小生ニ於テハ今秋御枉駕可然と奉存候、機会ハ自カラ来ルモノニ無之と愚考罷在候、湯浅兄モ御上京ノ上ハ必らず尽力可仕候、同氏ノ性質余リ熱中セサル方ナレハ実地ハ口ヨリモ確ニ御坐候間、御掛念ナク御枉駕可然奉存候、小生モ程ニヨレハ本月中旬迄ニハ京師迄一寸参ラネハナラヌ事出来、或ハ御出発前御伺申上候やモ難料候、此儀ハ内聞ニナシ置き被下度奉願上候、御上京ハ本月中旬位、尤モ好時節と奉存候、勿々頓首

十月二日

トク富猪一郎

裏先生

玉案下

時下御自愛專一ニ奉願上候

十月三日

不破唯次郎

①上毛前橋神明町三番地

②京都寺町通丸太丁上ル

平信

④墨

九月廿六日御認メ之御尊書一昨日相達シ奉万謝候、承レバ先生ニハ此程御不快之由如何被遊候也御案申上候、扱小生結婚一件ニ付種々先生ニハ御心配被下万々御礼申上候、亦金員も御廻被下由ニテ不日来着と奉存候、是も御礼申上候、高崎ノ松尾氏も不意帰国サレシ由ニテ同会員方ハ大ニ失望ノ由、松本氏ノ如キハ是非にも先生と御相談申シ、速ニ好人物ノ伝道師ヲ招キ度由ナリ、先生ニハ既ニ御聞及カハ知ザレトモ杉山氏ノ困却一件ニ御坐候、此事ハ御通知申シテ宜敷や否小生も知サル所に御坐候間、左様御承知被下度奉願候、他ニ非ラズ杉山ノ妻君ニハ何ニ之理由アルヤダ(Chore)イウオールスヲ求メラレ、終ニ決スルニ至ナランとノ風評ナリ、杉山兄ニも元来困却ナレトモ以後働キ上ニハ大困却と存候、本年ハ上州ノ伝道上ニハ大変更ニテ甚々困却スルヨリ外ハ無之、委細上京之節御在宅ナレバ申上度奉存候、大間々ノ高橋氏も近ク帰国ノ為出発ノ積ニ御坐候、先日大風以来万物非常ニ高敷(高)ニ相成リ一般人民ハ大困却と存候、八日之船ニて出発ノ積ニ御坐候間、九日夜ニハ西京へ着スルナラン、右ハ御伺ヒ方々御返事迄、早々失礼、再拝

十月三日

不破唯次郎

新寫先生

二白、御令室様へヨロシク御伝へ被下度奉願候

733

十月四日

加藤勝弥・松村介石

④ 墨

拝啓、毎度御懇切なる御書狀頂戴難有奉謝候、然らば本校も諸君の厚意を以て宣教師の中にも大に人気宣布、ペッド
レ氏夫婦も来着、ケレー氏来らざれば長岡よりニューヘル氏来り、長岡へは青年会より来る外国人を送る都合の由に
候間、大に安心仕候、今回学館にて演説せしものを筆記致候間一部呈上仕候、付ては本月より我党の主義を以つて青
年養成上に於ける雑誌を毎月一回発兌致都合に相成、已に本月廿五月初号発兌の計画に御座候、雑誌の名は北光と申
し候、甚だ御病氣の処恐縮に候へ共、右雑誌へ短文にて宜敷候間、祝文一篇是非共御投寄被下度、但し十五日迄に願
上度、勿々頓首

十月四日

加藤勝弥

松村介石

新寫襄先生

734

十月七日

星野光多

①東京本郷区西片町十番地 ②京都市寺町通丸太町 ④墨

爾來御無音に打過ぎ欠礼仕候、其後先生御左右如何に被為在候哉、大学の大家も着々其所を得られ候趣国家の為大賀此事に奉存候、又先きに米国の一大學より博士号御受納被遊候趣き伝聞仕り乍影御喜奉申上候、先生の健康と其事業の成功とは吾曹の宜敷天に向て懇求すべき事と奉存候、偕松尾君病氣の為め婦京入院せられ候後、同君御病狀は如何に有之候哉、御承知之通、高崎も長き間無牧にてソレガ為メ会中甚敷退歩を来らせ候所ナレバ、此上ニも無牧ニ致し置候時は奈何に成行候や案じられ候ニ付、若し同君の回復長ビキ候次第なれば何とか別に西群馬教會を為め御取計被下度、不破君よりも充分に同地の模様御聞取被下候上何とか御工風奉願上候、先は右申上度、艸々不乙

十月七日

星野光多

新島先生

御夫人に宜敷御伝被下度、香蘭遺本一冊謹呈仕候

735

十月七日

宮川経輝

①大阪玉江町壺丁目 ②京都寺町丸太町上ル 貴答 ④墨

両通之端章正ニ来到、忝謹見仕候処、〔孝太郎〕下邨兄無事御帰朝相成、就而ハ今午後於洛東中村楼歡迎之宴会御催被成、小生

ニも出席可致様御寵招ニ預リ誠ニ難有奉謝候、然るニ近時会务多端、何分出京致兼候間、下邨兄ニハ先生より宜敷御伝へ被下度奉願候、常議員会ニも同様出席不仕候間、宜舖御協議被成下度、右御断旁艸々不整

十月七日

宮川経輝

新島先生

侍史

736

十月七日

山中 百

①伊与今治通丁五十六番地 ②京都寺町通丸太町上ル 親展至急 ④墨

前略、陳者近日は御病氣如何に御坐候哉、秋冷之候に押移り少は御快復ならんと御察し申居候、二に私儀も先生の膝下を離れ四国島に参り、主の働怠なく相勧め居申候間乍憚御安心被成下度候、偕今回十年期祝会江は是非〳〵御来臨

を仰き度、信者未信者の別なく御病後御疲労なれは会堂にて一同拝眉丈なりとも仕度熱望いたし居申候へとも、格別御差支もなくは右の状況ゆへ御来今被成下候得ば伝道上ニも一層の進歩を来すべく、且つ大学義金も更に募集の機会もあるべく候条、御養生旁御出掛被成下度候、御旅宿は柳瀬別荘借受け申置候故極々閑静にて宜敷歟ト相考居申候、教会員の勧告により小生の結婚式も同時に挙行仕る哉も難計、其辺の御相談も乍恐縮申上度に付、返すくも御来臨の程奉希望候、早々不一

十月七日

山中 百

新島先生

玉机下

尚以、御令妻には是非く御来臨仰度候、御同伴にて

737

十月八日

三宅荒毅

①仙台市東二番町六拾二番地

②京都市寺町通丸太町上ル

至急用

④墨

拝呈仕候、秋冷ノ好時節ニ相成候処、先生ノ御容体ハ如何ニ御座被遊候哉奉伺候、当地モ主恩ニヨリ教会ノ都合モ宜シク主教ハル、者多ク招キ玉ヘリ、又一同無異罷在候間、御放慮之程奉願候、却説小弟今般テホレスト氏ト相談ノ

上、Dr. Fisher's Manual of Xian Evidences ノ訳述ヲ計リ、既ニ翻譯モ終リ近々出版致サント存ジ候、就テハ先生
ニ本書序文ノ義ヲ希ヒ度、素ヨリ先生ニハ御繁忙ノ上御不快ナル事ハ承知仕居申候得共、簡單ナル Introduction
テ宜シク候間、御苦勞ノ義御承諾被下度奉願候、頓首

十月八日

三宅荒毅

新島先生

738

十月八日

辻 孝次郎

④ インク

謹啓、陳者小生出発之際ニハ御丁寧なる御紹介状を辱し御厚情之程奉鳴謝候、其後八日午后六時英船アビシニヤ号ニ
搭して十時神戸拔錨仕候、扱て陸上ニて予想致せしとハ随分事替りたる事のみ多く種々雑多の困難を蒙りし事ニ御坐
候、神戸よりハ小生一人而已ニして真ニ心寂しく横浜迄航海致せし処、横浜よりハ日本人二人乗込大ニ慰^(カ)ミ申候、船
ノ臭氣と南京の臭氣の鼻腔を貫き候ニハ真ニ閉口仕り候、這般の航海ハ全体より申せハ先ツ平穩ニ有之候様皆々申候
へども、小生の如き初回の渡行者ニハ随分船暈の苦痛感し申候、初の三四日(神戸より九日)間ハ只持参せし果物を食
せしのみニ有之候、嘸先生の渡行の如き御困難ニてありしならんと今ニ至りて始めて悟り申候、設ひ氷雪之難苦を凌

き候も敢て意とせず忤能く申候へとも、扱て実地蹈んて見れば随分事替りたるもの等有之候、去る廿九日 Vancouver
 ニ無事安着仕り、此地ニ一日半許り滞在仕り候、其日ハ市中を見物致せし処、七八名の日本人ニ出合候、此地ニハ日
 本人五十名許 Saw mill 等ニ働き居候、近頃ハ少々風俗の改良も行れかゝり、支那人よりハ多少の優待ヲ受け居候
 由、乍去何分下等社会ニ有之候へハ、領事も大ニ氣遣ひ被居候、此日領事杉浦氏を訪問致し数時間談話仕り申候、吾
 校の事も漸次実業的の人物をも出たすならん忤語り、種々御親切なる待遇を蒙り候、同氏とも同伴ニ而卅日出発致す
 筈之処、小生ハ廿九日此地を去り、Canadian Pacific R. T. & The Lake Superior & Lake Ontario の方ニ向ひ候、
 数多山水の風光靈活艷美なる処、或ハ沃野千里の開拓地を四日半間乗り、即チ五日目ニ Port Arthur ニ参り、此処
 ニて乗替へ North Bay より Toront ニ趣め Toront より Niagara Falls 及 Niagara Suspension Bridge ニ至り、此処
 ニ一日滞留仕り、八日 Rochester, Cornwall 等を経て無事安着仕り候間、御放神成被下度候、(統) 忤海中ハ格別目新しき
 ものとても無之候へとも、British Columbia & Dominion ヲ経過スル際ニハ実ニ有益なる事物を見聞仕り候て、大
 ニ故国ニ罷在候節とハ思想も替り申候、尚再三熟慮の上ニて深く広く能く Canada Province の事ハ我等日本人の思
 探窮可致土地ニ有之候と存候、百エークルスハ開拓者ニ与ふると云ふ結構な沃野ニ御坐候へハ、植民致す人等ニハ殊
 更ニ探窮すべき処ニ有之候、当地ニ着し候て始めて米国ニ来りたる様感じ申候、未だ旅行の疲労も全く去り不申候へ
 ども、往來の繁忙なるを見てからハ一時間も無益ニ休ミ居り候事ハ出来不申候様感じ申候、道中毎々紐育府ニ趣き旨
 を人互ニ語りたれハ、其ハ The hard city to live なりと申せしが、果して左様ニ相違無之様被感申候、今日迄二
 日間六ドル以下の下宿屋を求め居り候へども、未だ見出し不申候、如何様ニ儉約致し候も月四十五ドルスハ入り申候
 由ニ御坐候、真ニ高価ニ一驚を喫し申候、学問を為しニ此地ニ態々数多の金を費して来る事ハ果して得策ニ有之候

や、小生ハ疑ハしく感し申候、未だ着後尚浅く御坐候へハ、充分觀察を下したる上ニて広津君等〔友信〕の渡米一件ニ就き小生の考へ申送ル積りに有之候、愈々明日 Mail の出発ニて充分御報道申上候事出来不申候へハ、先ハ大略御通知迄、
匆々不

十月八日夕

5th Avenue 55 West 9th St

辻 孝次郎

新島先生

閣下

二仲未ダテ未ダ金曜日参らす候てテーラー氏ニハ面会不仕候

739

十月九日 大塚 磨

- ①大阪北浜四丁目浜通老番屋敷 ②京都 拝答 ⑥封筒裏書「不破唯二郎君
ニ托ス」
〔次〕

貴翰辱拜見仕候、如貴諭秋冷相催候処、愈御清康奉賀候、陳者此節北里方結婚ニ付而ハ種々御配慮被成下奉万謝候、
私儀も明日ハ参堂仕候筈之処難去差聞御坐候間、悴兩人差出し候間宜敷奉願候、却説、金子御入用之由ニテ御預ケ之

内式百円明日北里罷出候様返上仕候様御紙表之趣拝承仕候、私儀ハ前条申上候通不参仕候間、北里江托し送金可仕候、此段一応之拝答迄申上候也

十月九日

大塚 磨

新島襄様

740

十月十日 大江頼之助

①但州瀬戸 ②京都寺町丸太町 ④墨

本月七日癸之芳書正ニ到着拝誦仕候、偕当春神戸ニ於而分袖以来委曲可申上筈之处、不図打続病痾故頓と欠礼之段真平御免、然るに過日快氣ニ赴候際、机辺凶傑平野次郎氏之短冊頭れ候ニ付、不思揮毫不取敢同氏之意中申上候事ニ御坐候、御尋之如く支障ハ決して無之候間乍憚御解慮可被呉候○同志大学之義ハ何分右様之次第、為ニ遷延仕候へ共、時世と俱に相応協力可致候、近頃少し感動も有之候ニ付、年末より单身漫遊之心算ニ候、尤も明年度(本年十一月)通常兵庫県会へ臨席之序ニハ是非貴門を叩き万々御咄ニ預リ可申候、先は得貴意申上度、早々頓首

十月十日

大江 頼

新島襄殿
几下

747

十月十一日

坂本十三也

①愛宕郡田中村百四十番 井上半次郎方 ②寺町通り 親展 ④墨

謹啓、小生ハ兩三週間以前東都ノ英吉利法律学校ニアリシ一寒書生ナリ、小生ハ確ク信ズ、同志社ハ新日本社会ノ精神ナルヲ、小生ハ深ク信ズ同志社学校ハ新日本文明ノ源泉ナルヲ、是レ小生ノ客月東都ヲ去リテ西都ニ来リシ所以ナリ、憾ムラクハ故郷ノ一信書小生ヲ促ガシテ再ビ東都ニ歸ラシメントス、サリナガラ是亦深キ天意ノアル所、小生謹デ其命ニ須ヒ奉ランノミ

小生主ニアリテ深ク先生ヲ敬愛ス、小生ノ故郷ニアルヤ曾テ本多庸一氏ノ宅ニ於テ先生ノ真影ニ接スルヲ得タリ、爾来未ダ其真体ニ接セサルヲ憾ム、今ヤ小生ノ西都ニ止マル僅々兩三日ノミ、仰キ願クハ小生ヲシテ一タビ先生ノ真靈ニ接スルノ榮ヲ得セシメンコトヲ、若シ御許ヲ得バ小生ノ幸ナリ、明日悦ンデ参謁スベシ、小生過日金森さん、浮田さんニ拝顔ヲ得ンカ為ニ小生知り相ノ学院四年生ニ紹介ノ勞ヲ乞ヘリ、然レトモ学友ハ時ヲ惜ム、且ツ紹介ヲ難ンズルノ性色アリシヲ以テ、乃今先生ニ拝顔ヲ得ンガ為ニ不敬ヲ願ミズ此書ヲシテ其勞ヲ取ラシメタリ、頓首

十一日認

新寫裏先生

坂本十三也

742

十月十六日

齋藤壬生雄

①山形県山形市大字香澄町 ②西京 同志社 侍史 ④墨 ⑥封筒表書「重
野謙次郎紹介書」

秋冷之候先生御病氣ハ如何ニ被為入候や奉伺候、小弟も一昨年ヨリ当山形へ伝道へ参り居申候、此ノ頃友人重野謙次郎氏一男一女ヲ勉学為致度トの事ニ而上京候処、東都ニ於テ精神的教育ニ付テ不充分ヲ感シ、今回先生ニ拝眉ヲ得テ右氏（二子）ヲ御依頼シ、同志社へ入学為致度トの事ニ而小弟へ添書ヲ求メラレタリ、氏ハ当県會議員ニシテ山形市會議長ナリ、目下ハ専ラ国事上其他多少之実業上ニ奔走被致候人ニ御坐候、願クハ同氏二子の為メ御深切ニ御教示被下度奉願上候、此段書翰ヲ以テ申上候、書不尽言、早々不具

廿二年十月十六日

齋藤壬生雄

新島先生

743

十月十七日

富田鉄之助

①相州鎌倉由比浜 ②東京山下門外 対山館 ④墨

御懇書拝読、御出京之由恐賀、早速得拝光度候所不遠内帰宅之心得ニ候間、御滞在中ニハ必らず拝話相楽居候、山妻ハ在宅ニ候、土曜日位ニ参リ申候、御添筆し可相通候、拝答ノミ、草々、時下御自愛奉祈候也、頓首

十月十七日

鎌倉
鉄

新嶋先生

744

十月十九日

広瀬源三郎

①寺町丸太町御宅ニ於テ、朱印「京都同志社大学創立事務所」 ②東京京橋区元数寄屋町三丁目 成勢方 親展ヲ乞 ④墨 ⑥同志社大学事務所用箋

〔欄外〕
「明治」廿二「年」十「月」十九「日」

一翰啓上仕候、海陸トモ無恙且御健勝ニ被為在奉恭賀候、当事務ニ於テも日々都合能ク相運候ニ就キ御休慮可被下候、阪地モ去ル月曜日ニ金森兄処々奔走被致候得共頓ト快ク面会スルヲ得ズ、松本重太郎ハ面晤ヲ得ルモ僅ニ五拾円ヲ与フルト而已申切リ候由、然シ乍ラ久原、藤田鹿ノ兩人ハ兒島君配慮ニテ五百円ヲ^ツ諾セシ趣キニ御座候、其他藤本清兵衛外米商連ニも面会ハ被致候得共、即座ノ金額ヲ答ヘズ、是ニ付明后月曜日ニハ金森兄ト迂生同道下阪仕リ奔走ヲ試ミ度予定ニ御座候、就テハ此度ハ必ス坂地ノ医者代言人連中ニハ金額ヲ定メ夫々記帳ヲ乞フ心組ニ御座候、何レ阪地ノ模様ハ逐一御報道可申上候、定テ近頃ハ政事ノ大騒ギニハ先生ノ御運動ニモ聊カ障碍ト相成候事ト奉遠察候、余波ハ矢張京阪ノ人心ヲ動カシ幾分カ差支ヘ候事ト存候得共、金森兄モ御奮発ナレハ俱ニ他ヲ見テ躊躇スル事ナク進テ奔走仕度存候、当地ノ豪商連ノ約束セシ未納ノ金モ中村、大沢兄へも相談仕候処、大沢兄ヨリ一応夫々御掛合被下候義ニ相成候間、御安意被下度、先ハ右得貴意度如斯御座候、勿々敬具

在東京

新島襄先生

侍史

広瀬源三郎

再伸、別封ハ昨日同志社事務所ニ於テ金森兄ヨリ領掌仕候間御届申上候

乍恐永岡兄ニ宜布御鶴声之程奉希上候、野村兄より郵送相成候新聞紙定テ御落手と存候、尚陸續差送り候条御承引可被下候也

745

十月十九日

伊勢時雄

④インク

先日は御念書被成下難有奉存候、大阪辺江御出かけにて御奔走被成候丈ニ御健康ニ被為在候趣大慶恐悦ニ存候、陳者先達て森田義〔久万人〕、米国に渡海仕候折同志社より旅費御仕送ニ相成処百七十ドル計二百円ニ有之候由、右ハトテも満足ニ無之二十五トル計不足仕候由申居候、私も森田同様桑港迄中等にて参り候へ共、ボストン着迄二百二十トル計違ひ申候、米国ニありて旅費なく学費ナキハ甚タ困難ノ事ト奉存候間、何トカ御評議之上にて不足分御仕送ニ相成度、私より願上候

私事本日午後一時当港出帆、英リウプール江渡洋仕候、昨日にてボールド大会も終り申候、争論ノ点ハ今ニカタ付不申候得共、少数ノ勢今年ハ殊ノ外盛ニテ、一二年ノ中ニハ全く勝利ト相成可申人々見込にて御座候、是より英仏独宗教上視察を遂げ(ざっと)二月下旬ニ帰朝可仕候、金員ハ九千一二百ドルノ高迄登り申候、余ハ必ず成就可仕存居申候、先生時下御撰養偏ニ奉祈候、河原町江もよろしく奉願候、奥様御壮健可被遊御座奉察候、呉々もよろしく

十月十九日

伊勢時雄

拝

新しま先生

尚々、本日にて桑港着後満七ヶ月ニ相成申候、森田、市原〔盛宏〕、原田〔勉〕も大会ニ参り申候、何も皆壮健ニ御座候

746

十月十九日

網嶋佳吉

①福嶋西裏五丁目

②東京元数寄屋町三丁目

成瀬方

至急用

④墨

華墨拝誦、然は 先生今回当地方に御来遊相成候由大慶に奉存候、小弟ハ可出来丈尽力致し度志願ニ御坐候、然るに当県会は来月上旬開会致し候ゆへ、可相成は地方有志者の出福中御来遊下され候方万都合宜しからんと存候、先生の御都合は如何ニ御坐候や承り度、思ふに来月十四五日頃御来福被成下候ハ、凡てニ都合よろしきかと愚考仕候、右得貴考度、先ハ要用迄、勿々

十月十九日夜

網嶋佳吉

拝

新嶋先生

坐下

二白、先生の御都合ニつき至急御一報相煩申度、小弟日漸く快方に赴き候間、御休考被下度

747 十月二十一日 鈴木 清

①神戸下山手通六 ②東京山下御門外 対山館ニテ 親展 ④墨 ⑥日付は
消印（神戸）による

尊書難有拝読仕候処、海上無御恙平穩ニして御着京被遊何之御障りも無之御滞在被為在候条慶賀不斜奉祝候、当時ハ
国家之為め可悲可歎（大隈重信襲撃）西亜勇氣之流行とでも可申之時ニ有之候らへバ、特別御注意被為在度奉祈願候、陳ハ当地小寺
氏寄付金之義ハ小生帰神後数々催し申候処、譬ひ一時ニ出す事を為さず年数を延すも老千位ハ出すべき之考へなれ
共、未タ公然申入る程之確定ニハ無之と申確答無之候、併し慶応義塾と同額と申事ハ確言致し被居申候、然らば拙者
ハ数々催促可申と相語り候処、決而忘却不致候間、其中相決め公然申入可致と被申候而已ニ了り、何時とても空敷引
取居候様之次第ニ御坐候、又旧主人の方ハ実ニ無申訳義ニ候らへ共、当時之処ニ而ハ更ニ望み無之慨歎之事ニ御坐
候、近比ハ非常之借金も出来居り候間、（ママ）拙も小生之力ラニハ難及事と存居申候、小寺氏の方ハ多分年数を永くして老
千ニ決する事と信じ居申候、先ハ右不取敢申上度蒼々採筆如比ニ御坐候、頓首百拜

新 函丈 閣下

再々、過日も願置候神戸教会之牧師之件宜敷御配慮奉願上候

鈴木生

十月二十一日

田中賢道

①宮崎県宮崎 清和館止宿 ②東京々橋区日吉町廿番地 民友社屈キ 下執
 事敬答 ④墨 ⑥封筒裏書 新島筆メモ

老秋之候ニ御座候処弥増御安康奉大賀候、二ニ下拙儀、依尚旧ニ無異消光罷在申候間、乍憚御休神被成下度奉願候、却説、下拙儀本月八日熊本出發、目下日向地方へ巡回中ニ御座候、本月四日台下ヨリ御恵投之御華墨宿許ヨリ高鍋へ郵送仕候間、一昨日同地ニテ拝見仕候、又広津兄之手簡も宿許より美々津ニ郵送仕置候条、同地ニ於テ接收致シ御情実詳細ニ承申候、尤も大学資金御募集一件ハ今日之形勢何共憤慨之至ニ堪不申候、御下命之如ク此大学之成否ハ実ニ百年大計之定敗ニ関スルモノナレバ平生種々苦心罷在申候、尤も今回御相談之一件之如キハ御承知通り微力ノ下拙ガ決シテ其任ニ堪可申共存不申候得共、関ヶ原ノ御一戦ニ唯々傍觀仕候事亦タ心ニ快カラズ候、併シ一方ヲ顧ミ候得ば、熊本女学校及ビ其他ノ事も種々関係ヲ有シ居候事ニ御座候得ば、奉命ノ一事何共旅行先ニテハ決シ兼候訳ニ御座候間、来ル十一月二日頃熊本へ帰着、熟議之上直ニ御返答可仕候、此事ニ付テハ余リ支那人風ノ申条ニ御座候得共、心事御推洞万御海審被成下度奉願候、将又本日当地へノ東電ニ依レバ、福岡玄洋社員久留嶋某外務大臣ヲ彈撃云々、元ヨリ電報上委細ハ相分不申候得共、大臣ハ重傷、下手者ハ即死ノ由承申候、此事タル頃日来或ハ然ル事モヤト掛念ハ致居候モノ、保守党ノ横行切齒ニ堪不申候、曩ニ森大臣ガ凶手ニ斃ル、ヤ、官海ノ本支流ニハ大ニ保守党ノ威力ヲ示シ、為メニ大学資金へ喜捨ノ志念迄打挫キ申候趣伝聞仕居候処、重テ今回ノ事件有是、前途ノ事亦可知ナリ、微力

尚能ク万一ニ益スルアラバ一死モ敢テ辞シ申間敷候、筆意偶々慷慨ニ亘リ万御容捨被成下度奉願候、先ハ差急ギ御報迄如斯ニ御座候、頓首再拝

十月廿一日

田中賢道

新島襄先生

下執事

749

十月二十一日

横田安止

①京都市下 同志社学院 ②東京市京橋区元数〔寄〕屋町三丁目 成勢方 平
信親展 ④墨 ⑥同志社文学会朱野原稿紙

新嶋先生座右ニ呈ス

横田安止百拝

拝呈仕候、先生御無事御安着、爾来御清適ニ被遊御座候由大賀候、時候不順ノ節ニ御座候ヘハ此ノ上国家ノ為メ御自愛御自重被遊御座度生等一同熱望熱祈致居候、当地ニ於テハ御内ノ皆々様御無事ニ被遊御座候、昨夕ハ御留守を伺ヒ申候、奥様ハ殊ニ御壮健ニ御見受ケ申候、又タ先生ノ夢思幻想ノ中ニアル同志社学院も其後無事ニ運轉致居候、当地ニ就テ御心遣ハ無用ニ御座候、万事乍憚御安神被下度候

生徳富氏ト十分ノ談話を為スノ時間を互ニ得サリシも目下生力学校ニ付テノ觀察思考ノ大略ハ十分ニ述フル事ヲ得

候、又タ同氏ノ先生ニ対セラル、同志社ニ対セラル、感情ヲ聞クヲ得、又タ共ニ幾分カ同志社ノ将来ノ経綸も談スルヲ得、生ニ於テハ大仕合ニテ甚タ愉快ニ御座候ヒシ、生も成丈ケナラハ深ク精シク同志社学校内ノ真相を開剖分析シテ、同氏ニ説明明示致シ、同氏ヨリ直截ノ忠告勸誘を得タキト切ニ思ヒ候ヒシモ、十分ニ同志社学校内ノ真相ヲ説明スルニ苦ミ申候、御承知ノ通り同志社モ未タ一定ノ形ナク、未タ混沌ノ有様ヲ脱セズ、生徒ノ大多数ノ風采感情モクラシケーシヨシヲ為スヲ得ザルフオルムレスノ有様ノ処モアレハ、十分ノ説明ニ甚タ困難ヲ覚ヘ申シ候、然シ大体ノ有様傾向風采等、又タ学校管理上然ハ十分説明シタル積リニ御座候、同氏ハ果シテ同志社現時ノ有様ニ付十分ノ觀察を其腦裏ニ形ツクル事ヲ得タルヤ否、同氏ハ斯ノ如キ人事社会ノ事ニハ随分理會力ノ敏捷ナル人物ナレハ、生ノ言ハ足ラザルモ十分ノ理會ト觀察ハナサレタルナラント存居候、生等共ニ手ヲ取リテ内外呼応シテ我カ同志社ヲ先生ノ希望ノ在ル処 天ノ使命ノ指ス処ニ進メ、我カ日本國ヲ救フノ大業ヲ成サント氏ト共ニ談シ候事ニ御座候ヒシ、同氏ハ十三日ニ同志社ニテ演説サレ候、随分一般ニ感動ヲ与ヘ申候、生ハ実ニ氏カ社会上ニ deep insight ヲ有シ居リ、又タ話ニ一種ノ氣力ヲ有シ居ラル、ニハ敬服ニ御座候、演説筆記ハ此度ノ文学雜誌ニ載スル事ニ御座候、成就次第ニ先生ヘ呈ス可ク候

東京ハ近頃ハ一層ノ騷擾ヲ増シ、時も時兇徒カ大隈氏ヲ狙撃シタリト、生等実ニ驚キ申候、生等閑雅ナル当地ニアレハ新聞ト友人ノ書狀トニテ一班ヲ探知シ居位ノ事ニ御座候カ、大隈氏狙撃ノ事件等ヨリ推シテ見レハ東京ハ上モ下モ東モ西モ嚙々ノ騷擾ノ事ニ候ハン、大隈氏カ負傷ノ甚タ重カラサリシハ幸中ノ幸、願クハ速ニ快復ニ至レカント生ハ望ミ居候、実ニ時勢ニ通セザル小胆狹隘ノ兇徒ノ為メニ幾分ノ人物ヲ維新以來失フハ実ニ迷惑ナルモノニ御座候、以來政府ノ運動如何ニ赴クカ実ニ聞キ度キ事ニ御座候、何ニセヨ、此度ノ變動ニテ中止ニナルセヨ断行ニナルセヨ、

藩閥政府ハ仆ル、ナラン、此レ丈ケハ愉快ニ覺エ居候、徳富氏ノ談等ヲ聞キテヨリハ生等此度ノ中止ノ甚タ我党ノ自由主義ニ大害ナルヲ認識スルヲ得、政府ノ断行ニナレカシト入ラザル世話ナガラ考ヘ居候、如何ニ世ハ騒クトモ小生等ハ静カニ考ヘ、各自ノミツシヨシヲ知り、将来ノ日本ヲ改造スルノ用意準備コソ速ニ為サバル可カラスト思ヒ居候、生等ニ愈々今日ノ有様ハ維新革命ノ未タ十分二三ヲも遂ケズ、生等ハ革命ノ波瀾層々タル中心ニ在リ、日本ノ風潮ヲ導クノ改造スルノ大責任アル事ヲ感セシムル事ニ御座候、世ノ中ノ有様ハ生等シテ益々大胆ナラシメ、励マシメ、望ミアラシムル事ニ御座候

此等ノ今日ノ世ノ有様、殊ニ東京ノ有様ハ先生ノ御事業ニ大妨害ヲナシタリト推察致居候、然シ又タ此ナカノ騒動カ長ク続カサル事ナラン、二三ノ事ナラン、若シ此レカ幾分カ収マリノ付ケハ先生ノ御事業ニハ却テ都合ノ事ニナランカナド、時々明カ〔ナ〕ラザル心ヨリ思ヒ居リ候、生等世ノ騒キニツレテ騒ク事ハナク、只今ハ静カニ勉強修養致居候ハ万事御安心被下度候、京都ハ山水明美ノ閑土トハ云ヒナカラ実ニ世ノ中ニハ不頓着ノモノナリ、又タ同志社モ其ノ中ニアレハ無頓着ナリ、大隈氏カ刺ハレテモ撃レテモ頓着ナク未タ演説ノ問題ニモナラザル位ニ御座候、生ハ覺ヘズ冗長ニ認メ申シ先生ノ時間ヲ盗ムヲ恐ル、余ハ次便ニ譲リ申ス可ク御座候

十月二十一日

750

十月二十四日

広津友信

①上州倉カ野 松本氏方 ②在京 閣下 ④墨 ⑥手渡書簡

拝啓、拝別後御容体如何被遊候哉、何卒御健全ノ程重々奉希候、小子事高崎ニテハ部会ヲ傍聴し、又昨日来前橋倉カ野辺ニ遊ヒ要事ヲ弁シ申候、今日は高崎ニテ一西人ノ方々ニ面会シ、然後磯部ニ参リ信者方ノ懇親会ニ列スル積リニ御坐候、倉カ野ニハ已ニ先生ノ御書状到着致候ニ付、松本君モ大ニ奮起シ実ニ懇切ニ御世話被成下候、募金ノ事ニ付テハ松本君ノ御計画有之候、万端ハ幸ニ松田順平君御帰京ニ付申合メ置候条、諸事同君ヨリ御聞取被下度奉願候、上州辺ノ事ハ大久保君モ昨日御上京相成候ニ付、縷々御聞取相成候事ト奉存候、尚ホ松田君モ委細御話可相成候、新潟ヨリハ重テ早く到着スル様御促相成候条、可相成早く出発該地ニ参ル積リニ御坐候、申上度事山々有之候ヘ共、何レ後日ニ讓候也、早々拝具

十月廿四日

友信

新島先生

閣下

額一枚松本勘十郎君ニ呈上致候

751 十月二十六日 不破唯次郎

①上毛前橋神明町三番地 ②東京々橋元数寄屋町三丁目一番地 成瀬方 ④
墨

一書奉呈上候、先生ニハ御上京後定て日夜御多忙と奉存候得共御身体ハ如何御尋申上候、私共帰前後直ニ何度存候て種々取紛今日迄失礼相働奉恐入候、扱結婚一件ニ付テハ非常之御親切ヲ蒙リ万々御礼申上候、先日部会ノ様子ハ定て大久保氏より言上セシナラン、杉山氏ノ事ハ終ニダイウォルスに相成リ氣ノ毒千万ニ存候、先生ニハ何日比上毛ノ地ニ御出浮被遊候や奉伺候、高崎ノ伝道師ハ神戸ニて出来兼、是非トモ御相談ノ上好人物ヲ得ザレバ上毛全体ノ運動上ニ甚々困却ニ存候、此度部会ノ委員も小生ハ杉山氏ト同点ニて、杉山兄ニ依頼スル事ニ相成リ申候、佐野ノ中山氏轉地ノ事ハ小崎氏ニ能々依頼仕候処、同兄ニハ至極同意ニ御坐候、広津兄と面会仕候、以後新潟トも共ニ働度約束仕候、昨夜ハ前橋ニ於て群馬公議會員ノ政談演説会アリ、非常ノ入ニ候得共、先フエリユウルト評シて可ナリ、目今各地ニ於て御存之通ニ政事上ノ運動アリ、伝道上ニハ防害ノ事多御坐候、妻雄よりも宜敷申上候、何レ御面会之上ニ讓申候、早々失礼再拝

十月廿六日

不破唯次郎

新島先生

十月二十七日

広津友信

①上州松井田町 上原氏方 ②東京京橋区元数寄屋町三丁目 成瀬方 ④墨

拜啓、小子事高崎、倉ヶ野、前橋ニ遊ヒ候後磯部温泉ニ遊ビ、幸ニ碓氷郡中ノ信者方ノ親睦会有之候ニ付共ニ懇親致シ、其夜ハ杉山、奥、日山^(マツ)田君方ト同宿致候テ、一昨日は磯部ヲ発シ横川ヨリ十余名ノ兄弟姉妹方ト共ニ馬車ニテ輕井沢迄参リ、碓氷峠ノ紅葉ヲ見物シ、再ヒ阪本迄帰リ杉田、杉山兄方ト同行ニテ説教会ヲナシ、昨日は早朝横川ヨリ松井田ニ帰り上原権太郎君ト共ニ妙義山ニ攀登シ、金洞山ノ絶景ヲ探リ、一昨日モ昨日モ自然ノ風光ヲ弄ヒテ銳氣ヲ養ヒ申候、而シテ今日は松井田ニテ説教ヲ致候テ兄弟方ト聖日ヲ守リ申候、明朝ハ愈々出發致シテ越後地ニ入込ミ、三十一日迄ニハ是非新潟ニ到着可致積リニ御坐候、斯ク上州地方ニテ逗留数日ヲ費ヤシ候モ、畢竟小子兼テ高山大川ヲ跋涉シ万有ノ風光ヲ愛スルノ癖有之、又知人ノ多数アリテ其好意ヲ空フスルヲ得ザリシ故、事茲ニ及ヒ候次第ニ候へは何卒御推察可被下候、碓氷ノ紅葉ト金洞山ノ絶景ハ如何ニモ小子ノ心ヲ奪ヒ実ニ愉快ニ存候

今度新潟ニ達スル迄ハ東京ニ於テモ、上州ニ於テモ、ロヲ開カサルノ積リニ有之候処、幸ニ東京ニテハ何レニ於テモロヲ開カサリシニ上州ニテハ勢不得已、高崎、倉ヶ野、阪下、松井田等ニテロヲ開カザルヲ得ザルノ場合ニ至リ素懷ニ戻キ申候、然シ新潟ニテノ用意ト相成候条少々ハ^(辭)明ラム可キ事モ有之申候、上州部会ノ性質其実況及各教会ノ事情伝道ノ運ビ等ニ付テハ大久保君ヨリ縷陳相成候事ト奉存候、又已ニ松田君ヨリ御話相成候通義捐金募集ノ事モ随分預想外ニ少ナカラン事ヲ恐れ申候、然シ今日ハ生糸ノ価値モ異リ一般ニ囊中富裕ナル方ノ由ニ候へは存外ノ結果モアラ

シカト被存候

過日御惠投被成下候金子ヲ以テ御論ニ從ヒ真々フランネルヲ購求致候条、^{〔中〕}臙^{〔中〕}股引等ヲ製リ、身体ヲ保養シテ働ヲ為スノ用意ヲ十分致ス積リニ御座候、而シテ向後伝道ニモ勉強ニモ日夜十分力ヲ尽ス積リニ有之、又時々伺ヒ事情ニ応シ、各地ヲ廻リテ一般伝道上ノ方策ヲ立テ、各伝道師諸君之騏尾ニ附シテ働ク様決定罷在候条万事小子ノ事ニ付テハ御懸念被下間敷御安心可被下候^{〔以後脱落アルカ〕}

其後内閣ニハ大變動有之候赴、今後如何可相成候哉、実ニ容易ナラサル勢ト相成申候、何卒平和之強固ナル内閣ノ出来、将来正當ノ方針ヲ立テ活発ニ運動ノアラン事切ニ希望罷在申候、申上度事山々有之候へ共、何レ着瀉ノ上縷々可申上候、早々謹言

十月廿七日

友信

新島襄先生

閣下

753

十月二十七日

古賀鶴次郎

①京都 同志社 ②東京京橋区本スキャ町三丁目 成瀬方 侍史 ④墨

拝啓、国歩艱難之時分ト相成リ人心何トナク輕佻切迫ニ傾クヲ觀察仕候、而ハ学生ノ身分トシテモ心窃カニ浩嘆ナキ能ハズ、況ンヤ至誠衷情夙ニ国家生民ヲ以テ自ラ任ジ給フ先生ノ御心事如何アラント奉諒察候、想フニ今ヤ識者ノ憂慮ニ上ル可キ最要ノ事件ハ此ノ適従スル所ナクシテ滔々ト流俗ニ屈服シ去ラントスル青年少壯之思想感情ヲ如何ニシテ一緒ニ收攬随喜セシメテ其方向ヲ強固健全ナラシム可キヤノ問題ニアラント奉愚察、然トモ遺憾千万、当今ノ世界シテ其偉人物アルヤト思考仕候得ハ、恰モ茫々宇宙人無數幾個男兒是丈夫ノ感慨ナキ能ハズ、小生ハ独リ深ク信ズ、先生ハ即チ当今青年者ノ類ヲ以テ標準トスヘキ一世ノ師表者タル Great ^[Mission] mission ヲ負ヒ給フ事ヲ、噫先生ノ任ヤ重且ツ遠シ、先生幸ニ主ニ御忠勤ノ傍重々御自愛被遊候而寛大ナル御思召ヲ以テ御運動被遊様心ヨリ切願仕候、時事ノ憤慨感動ハ尤モ先生ノ御不快ヲ愈スル^[癒]所以ニアラズヤト存シ候、小生等ハ天真ニ打明ケテ申セハ先生ノ命數ノ一日ナリトモ永ク久シク日本社会ヲ照ス可キ有力ナル光輝タラン事ヲ切望切願仕候、言規ニ当ラズ、甚ダ先生ニ呈ス可キニアラズト御叱正モ有之ベク存候得共、時感結ンデ措ク事能ハズ、衷情ヲ開キテ侍史ニ呈ス、不惡御垂訓之程奉願上候、頓首敬白

十月廿七日

爾の学生

鶴次郎

百拜

754

十月二十八日

松村介石

①新潟県新潟市学校町 ②東京 粟津様御留にて ④墨

御容体如何被成有候哉、当節は御上京の由されば益々御快方と相察し国家の爲め奉大賀候、扱過般北越学館にて我党の主義を拡張する爲め「北光」と云へる一雑誌を発兌せんとするより、先生に（京都の御住家）に宛て精神的教育雑誌右「北光」発兌の祝文を御願ひ候へども、先生御上京後に相成候と存候、初号は来十一月上旬に発兌の都合に候へば此には間に合ひ不申候へども、何卒来十二月上旬二号発兌の分に先生の祝文相願ひ度、御病氣の処恐縮に候^{（ハ脱カ）}とも至極短文にてよろしく候間御惠投のほど今より奉御伏願候、又此に一事御相談懸度事有之候、此度新潟にて一人物を見出し申候、此人は昨年信者となりしものにて只今は県庁ニ奉公致し候、年は廿二歳に御座候、樸直、至誠、豪雄、善心にして能力も有之、身体は至て大丈夫にして夜中寝ねずともビクともせぬ者に有之、元と官立新潟中学校に居り、北越学館夜学校に來り居り候、漢籍は随分出来、英学ハスイントン^{（異）}万国史位は易く読み得べく候、此人当時大に感ずるところあり教会信者と風を殊にすれども、争はず黙して説教を聴く、信者中には友なく候へども、過日夜窃かに拙者の処に來り心情を吐露し申候、全く全心全体を捧げて天国の爲めに働く決心に有之炳然に御座候、只今にてハ毎金

曜の夜一人来りて拙者より神学等の事学び居り申候、此人は後に必ず伝道界に非常に力を著すべきものと存候、此程の人物を埋めて拙者一人にて時々神学を教ゆるは全局の爲めに惜しく、然らばとて彼れは扶助を仰て勉強せんとするハ諒とせざる志見はれ候間、能く説き勧めて同志社の本科生に送り度候、附而は彼れには学資なきことゆえ外国人に相談せんと存候へども、外国人は往々間違ひ起りて折角扶助する人を怒らせる恐れあり、殊に有為の人物は扱ひ難く候間、誰か日本人の有志者にて補助せんとする人御承知に無之候や、実に今日ハ人物探索尤も肝要の時に有之、斯る人物を失はんは誠に神国の爲め我国の爲め遺憾に存候、右御伺ひ申上候

十月廿八日

松村介石

拝

新嶋先生

755

十月二十九日

伴直之助

①東京々橋区弥左衛門町七番地

経済雜誌社

②「侍史」

④墨

拝啓、只今は長座奉謝候、御話之件ニ付只今田口とも談合致候処、同人ハ平生之主義ニ幾分か接触之趣申居候へ共、兎ニ角懇命難然御請致し、数通之御^紹介書差出可申旨ニ御坐候、追而書状差上候間左様御承知被下度候、勿々頓首

十月廿九日夜

伴直之助

御旅寓中何なりとも御不自由のこと有之候ハ、無御遠慮御申付被下度候

756

十月二十九日

篠田昌武

④墨 ⑥端裏書 新島筆「廿二年十二月十八日返書出ス」

拝啓、時下秋冷之候御尊体如何ニ御坐候哉奉伺候、陳者小生帰路之際御避暑被遊候姫路へ参館仕候処、折悪敷御上坂之御留守ニ而御内政様ノミ拝顔ヲ得候、小弟ハ其后不破ツル姉ト京都へ参リ暫時滞在仕候而帰路ニ就キ、過ル八月末日ニ帰郷仕候、却説、当地伝道之模様ハ御承知之通、メソヂスト、一致、監督、旧教ノ四教会ヲ以テ伝道仕候得共、曾而申述候如ク当各学校生徒幾多之青年中未ダ信者相受ケズ甚ダ遺憾千万ニ存候、左リトテ斯クノ如キ青年輩決シテ忌ミ嫌フニアラズ、却テ仏教ヲ忌ミ嫌ヒ、基督教ニ耳ヲ傾ケ求道者多キ有様ニ御坐候、既ニ過ル日曜日私外ニ一人組合教会員ト計リ基督教演説会張り札ヲ以テ開キタリシニ、意外ノ聴衆者ニテ大概青年輩ノミ数十名モ有之候、併シナガラ仏教演説会ト言ヘバ青年ニシテ耳ヲ傾ムケルモノハ至テ稀^稀レニ有之、現今ノ処ニテハ幾多青年等ハ基督教ヲ望ム風ニ見受申候、然ルニ今日ニ至ルマデ未タ青年信者ノ生セザルハ畢竟スルニ夫レニ応シ彼等ヲシテ満足セシムルノ力

アル伝道ナキ事ト愚考仕候、前記各教会今日ノ伝道ハ只管規定ノ日曜説教アルノミニシテ、他ニ異様ノ伝道法無之候様見受ケラレ候、故ニ私共二人組合信者ハ主ノ力ニヨリ組合教会ヲ形クリ、第一青年会ノ如キモノヲ設ケ、聖書研究会ヲ開キ多ク青年輩ニ伝道スルノ心組ニ御坐候、幸ヒ当地ヨリ十三里内外ノ宮城ト言フ所ヘ海老名一郎兄伝道致サレ候ニ付、当地ノ為メニ尽力被下様相談致ス筈ニ御坐候、猶ホ望ムラクハ冬季休業カ或ハ夏期休業ノ節、同志社神学生佐竹篤兄ノ如キ人ヲ御遣ハシ被下候へば、当地青年輩ノ伝道忽チ収獲スルヲ得ル事ト信ジ候、小生ニハ来年九月ハ是非同志社ヘ入学仕度切望仕候、若シ神小弟ヲ祐ケ入校ヲ許ルシ賜ハ、実ニ幸甚ノ至リニ御坐候、唯祈ルノミ、時下御養生專一ニ奉存候、先ハ乱筆ヲ以テ不取敢御報知旁御見舞まで、早々不敬

十月廿九日

篠田昌武

新島襄先生

追テ先生ノ御写真頂戴仕度奉願候

〔戴〕

757

十月三十日

大久保真二郎

①武州秩父郡大宮町 ②東京々橋区日吉町 民友社 人見一太郎氣付 親展
書

過日ハ御繁忙中度々参堂甚タシク御煩ワシ申上ケ奉恐入候、殊ニ容易ナラサル御賜ヲ頂戴難有奉感謝候、偕今日又候書中ヲ以テ御願ヒ申上ケ候ハ再ヒ金子拾円御恵ミ下サレ候様ニトノ一事ナリ、斯ク申上ケタラハ定メテ詞ヲ甘クスレハ何所々々迄モツケ乘リテ増長スル、毫モ耻ヲ知ラヌ動物カナト御認定下サルハ至極御尤モナル次第ナレトモ、生ト雖モ木石ニハアラス先生ニアラサレハタトヒ死ストモ敢テ御願申上クル能ワサルナリ、今其死シ^{スト}モ申上クル能ワサル理由ヲ唯 先生ニ向ツテ敢テ上願スル所以ヲ千金ノ寸時ヲ寛容シテ御垂聴アレ

全体生ノ身トシテ十五円ヲ頂戴スルハ過分ナリ生ハ実ニ過分ト存居申候、然レトモ当地ニテ生活スルニハ余程余リ易スキニモアラス、実ハ京都ニテ拾円ニテ生活スル方ハ遙カニ優リ申候、又生在京都ノ時分月七円ニテ生活セシカ、尤モ時々不慮ノ賜ヲ頂戴スル事モアリシガ、当地ニテノ拾五円ト各別異ナリタル事ナク却テ幾分カ食物ノ上^ハ等ニテアリシナリ、サレハ拾五円ハ過分ナレトモ平日ノ生涯ニハ毫モ余裕迎アル事ナク、去レトモ勿論糟糠ニモ飽カスシテ居ルモノモ直キ側ニアル事モ日々目撃スル事ナレハ決シテ不足杯トハ思ヒ申サス、唯神ハ悉ク知り玉ヘハ実ニ小生ニ価ヒアルナレハ又賜ワル事アルヲ信シタリシニ、過日ノ部会ニテ三円ヲ増ストカノ企テノ様ニ見受ケ感謝シタル程ナリキ、然レトモ過日頂戴仕リタル拾円ハ行カストモ宜シキ事デアリシカハ知ラサレトモ、部会ニ行キタル及ヒ東京ニ出

テタル費用トシテ立派ニ五円ノ金ヲ費ヤシ、残り五円ヲ以テ彼ノ宿料及演説會費ニ充ツル事ト致シ候事ナレハ是レハ左様御承諾下サルヘク候、然ラハ今御願ヒ申上クル金ハ何ノ為ニ要スルヤトナラハ、已ニ九月ヨリ開キタル講義所ノ屋賃二ヶ月分相支ヘタル事ト、二ツニ尤モ申上ケ惡クキハ家内殖エテ夜具ノ不足仕レハ所々尋ネタレハ三円五拾錢ニテ一ト組買ワレル様子ナレハ其レヲ合セテ九円五十錢^{尤也}、目下差迫リテ入用仕ル次第ナレハ、實ニ羞耻ノ至リニ堪ヘサレトモ敢テ鉄面ヲカブリ御願申上候也

全体私此度部會ニ出テタルモ重モニ講義所ノ費用ヲ願ヒ取ラン為メナリキ、其レ迄モ突然ト此度初メテ言フニアラス、實ハ八月中両毛役者會ノトキ部會委員タル不破、杉田ノ両氏ニ是非トモ講義所ヲ要ス、之レナケレハ生大宮ニ派出セラレタル所詮モナキ事ナレハ、是非生丈ノ働キノ出来ル様講義所丈ハ一時御設ケ下サルヘク、四五ヶ月モスル中ニハ必ス講義所丈ハ独立ノ見込ミモアレハ是非ニト請求シタルニ、兩人ヨリ其レハ我輩ニ任カスヘシ、兎モ角モ汝ハ安心スヘントノ事ニテアリタレハ實ハ断然ト（其際ニ臨ミテ別ニ相談セサリシモ）開キタリ、而シテ其費用今日迄来ラス、過日ノ部會ノトキモ尤モ曖昧ナル事ナレハ少々踏ミ込ンテ相談センカトモ存シタレトモ、余リ切迫シタラハ兩人ニ不足ヲ言フ様ニ聞カレテモト、又兎モ角モ自ラ分別ヲツケント考ヘテ泣ク々々退キ其足ニテ出京 先生ニ拝謁実ハ是等ノ事モ御意得度奉存タレ共、余リ々々アツカマシケレハ是レモドーカ仕ラント其場ハ退キタレ共、帰ツテ見レハ火ノ地獄ニテ如何トモ工面ノツキ様モアラサレハ敢テ御願申上ケ候次第ニ御坐候

今更部會ノ不信切ト不熱心トヲ強ヒテ先生ニ訴フルニハアラサレトモ、實ハ折々頼ミ申斐ナシト思フ事ナキニアラス、小生当地ニ来ル砌、七月分ト八月分トヲゴルドン師ヨリ受取り来レリ、又其旅費ノ六分モ受ケ取り来レリ、而シテ其旅費ノ過不足共ニ早速通知セヨトノ事ナレハ少々過ニナツタ所ヲ明細書ヲ添ヘ（不破ノ請求通り二枚）不破ノ手ニ

送りタリ、蓋不破ヨリゴールドン師ニ申送ルトノ事ナリタレハナリ、然ルニ十月初旬ニ至ルモ九月分ノ月手当ヲゴールド
 ン師ヨリ送り来ラサレハ如何ナル訳ナルヤト不破ニ尋ネ越シタルニ、又該計算書ハ送り暮^{〔與・以下同〕}レタルヤト尋ネタルニ勿論
 送りタリ、今又九月十月分ハ直チニ送ル様催促スヘシトノ事ナレハ、小生ヨリハ尚更ニ愛兄京都ニ出ル事ナレハ何卒
 直接ニ面会シテ金員受取り来リ暮候様暮々頼ミ越シタレハ、彼レ京都ニ着シタラハ送り暮レルダロト相待居タル
 ニ、其事モナク部会迄何ノ便リモナケレハ部会ニ出タラ定メテ不破ガ現金ヲ渡シ暮レルダロト^案ニテ出会シテ見レ
 ハ、ゴールドン師ハ留主ナリシカハ逢ワサリシトノ返答ニテ、実ハ^{大ニ驚キ}益々困リタリ、故ニ生モ大宮ニモ深キ知人モアラサ
 レハソノ金錢ノ無心、又負債抔滞リテハ大ニ伝道上信用ヲ失ヘハドーカ此月末ニハゴールドン師ヨリ送り来ラヌナ
 ラハ部会ノ手元ヨリ御取り替ヘデモ下サル事ハ出来マ^ヒヒカト請求シタレハ、勿論ナリ必ス月末ニハ送り越ストノ事
 ナリシカハ、安心シテ今日迄相待チタルモ、今ニ何タル便リモナク、而シテ懸ケ取りハ今朝ヨリ度々読メカクレハ殆
 ント今ハタマリ兼、斯クハ部会ノ不足迄モ訴フル次第ニ御坐候、願クハ不破輩今少々心切ニ世話致シ暮レタラハ小生
 等ハ兎モ角モ、部会ノ為、天下ノ為、大幸福ト奉存候、ゴールドン師ノ方モ斯ク二ヶ月モ約束ノ伝道地ニ赴キ居ルモノ
 ニ送金セスニ置クトハ如何ナルモノナルヤ、或ハ初メノ計算書ヨリ御受取りナキニハアラサルヤト迄疑ヒ申候、先生
 ヨリ数ヶ月ノ前金ヲ頂戴シタ^レハ、勿論之ヲ流用シタレトモ、凡テ九月中ニテ各別残りナク本月分トハ全ク負債ニテ
 送り居リ候次第、少々御諒察奉願候、敢テ部会ヲ怨ムニアラス、唯天下ノ為、部会委員其人ノ為ニ勉強心切ナラン事
 ヲ祈ルノミ

過日ノ部会ニ生ハ一請願ヲ部会ニ持出タシ置ケリ、秩父ノ伝道ハ金錢次第ニ伸縮スルトハ甚タ卑屈ナル申分ナレト
 モ、実ハ大ニ金錢ニ関スル様ニ相考申候、何トナレハ小鹿野ト申ス処ニモ求道者ナキニアラス、其他在々郷々ニモ求

道者ナキニアラス、然レトモ演説ヲスルニモ金、宿泊スルニモ金、凡テ身体モ運動セシムルニモ金入ラサル事ナク、殊ニ唯今直チニ日曜学校ヲ開ヒタラ本年中ニ必ス三十人位ノ小児生徒ヲ得ヘキノ見込ミアレトモ、カルタヲ買フモ金、書籍ヲ購求スルモ金、凡テ金ニ依ラサルナシ、故ニ願クハ生ノ月手当ノ外ニ幾分カ伝道費ヲ賜ワレタシト請求シ置キタリ、此ト差出タル請求カハ知ラサレトモ、来年四月ノ部会迄生ノ請求ニシテ一切採用セラレサルトキハ、生ハ直チニ東京ノ三教会及上州一円ノ諸教会ニ生直チニ号訴^(強)シテ助ケヲ乞ヒ敢テ部会ノ手ヲ借ラサル積リニ御坐候、生満腔ノ願ハ先生限リナキノ知遇ニ酬ユルハ唯此質朴ナル秩父ノ山中ニ純粹ナル自由平等ト潔白ナル平等思想ヲ養ヒ唯一ノ天父ニ事ヘ、唯イエスヲ手本トシテ國ノ為天下ノ為一切衆生ノ幸福ノ為ニ一身ヲ犠牲ニ供スルノ大英雄ヲ養フニアリ、先生無言ノ説教ヲ以テ生ノ自由ト信仰トヲ開發シ賜ヘリ、今ヤ先生無言ノ説教ハ生ヲ通シテ秩父ノ全面ヲ覆ヘリ、願クハ此質朴ナル地ニ日本ノ手本ナル真誠ノ自由、真誠ノ信仰ト、真誠ノ幸福榮達アラシム事ナリ、就テハ程ニヨリテハ唯部会ノ手ニヨリテノミ運動スルトキハ前述ノ通りノ遺憾アリレハ、四月ノ部会ノ后ニハ殊ニ東京ニ於テ開ク事ナレハ、其時ノ都合ニヨツテハ直チニ東京教会ニ訴ヘ活発ナル運動スル積リニ御坐候、此義如何アルヘキヤ、併セテ御伺ヒ申上ケ候、蓋シ已ニ此間教会ノ代員トシテ出テタル諸委員ノ如キハ幾分カ秩父ノ為ニ感情ヲ誘起シタルヲ信スル事ナレハナリ、以上書ニ臨ミ情迫ル、自裁スル所以ヲ知ラス、恐懼々々謹言

明治廿二年十月三十日

新島襄殿

閣下侍史函丈

758

十一月一日

五十田勇治郎

①兵庫県武庫郡西ノ宮東ノ町八十一番戸 ②東京元数寄屋町三丁目 成瀬殿
方ニテ 親展 ④墨

華翰御投与被成下拝誦、不相替御厚情奉拝謝候、偕近比ハ如何御起居被為遊候哉ト想像ニ不堪ヨリ御伺ノ為メ一応愚書ヲ拝呈可仕心算之处、却テ芳書ヲ寄セラレ恐縮不少、先以閣下益御壮栄ニ被為涉欣喜不斜為国家奉賀候、却說、兼々御示命相受居候当地勧誘方ノ義ハ不絶精神ヲ相込メ尽力罷在候得共、何分田舎之事故聊感覺ノ薄キ場合も有之哉、兎角墓々敷不相運自ラ愚拙ノ精神ヲモ頭ハレ不申、誠ニ閣下ニ対シ汗顔ノ至リニ御坐候共、尚一層勉テ御勸メ、終ニハ好結果ニ至ラシメント熱心罷在候間、延引之段不惡御海恕奉祈候、当今ハ如命条約改正ノ問題ヨリ廟堂上一大御変革モアリテ、嚙御地方ハ人氣区々ナラント奉遠察候、当地杯ハ僻邑なれとも自ラ影響ノ来タスアリテ田舎相応色々ノ取り沙汰致し居候得共、差して人氣ニ障リモ無之候、尚上州及ヒ福島地方へ御巡回之由何卒御道中御身御保護奉祈候、乍恐縮御出先キより時々御通報相願度、左スレハ当地ノ景況モ時々御報導可申上候、当冬ハ御帰京之由、其際ハ必ス拝謁縷々高話ヲ拝聴可仕ト奉存候、平井、二宮ノ両士へハ早速厚意相通し可申候、何卒々々此節御身御保護專一ニ奉祈候、先ハ貴報迄、余ハ後鴻ニ可付ト申残候、草々謹言

廿二年十一月一日

五十田勇治郎

新島襄殿
閣下

百拝

二伸、先般来一応御伺可申上筈之処、愚拙当今病氣ニ罹リ、早四旬余モ平臥罷在、一ト比ハ余程大患ニ有之候得共、近比少快ク覺ヘ候、旁以テ御不音ニ相成候段奉謝候也

759

十一月二日

金森通倫

①京都新町今出川 ②東京々橋区元数寄屋町 成勢方 ④墨

拝呈、陳者御申越之士倉氏之一件は先日來大坂ヘ参り候節は度々相尋ね候ヘ共、未だ來坂なしト之事故、同氏之來坂次第早速通報致呉様銀水楼並ニ泉角等ニ頼み置き〔候脱カ〕處、土倉氏着坂之由通報有之候間、早速書面を以て相尋ね候處、同氏より之返書ニ、何れ出京致す故其節面会せんと之事ニ候間、日々其れのみ相待居申候、大坂ニても久原、鹿太郎之兩氏ハ各五百円ヅ、出出事ニ相決し申候、阿部、岡橋は幾度参り候ても面会致し呉れず、夫故西村知事ニ面会して岡橋之事を依頼し、又磯野氏ニ阿部氏之事を依頼致置き候、松本氏〔カ〕は書面ニて先づ五十円を寄付すべしと申來り、此上は如何ニ御相談アルモ請合ひ難しとの事ニ候、然し小生よりは書面を以て再び推し返し置き申候、何高崙か児島之手を借らざれば到底成就六ヶ數らんと存候、学校之様子は先づ静穩なる方ニ御座候、和学教師之儀御申越ニ相成候處、実は先日モ大学皇典科卒業ニて是迄本願寺之学校て和学教授致居り候者雇れ度き旨申出候ニ付き、松山氏ニ協議

致し候上終ニ断る事ニ致し候、又同科教授之事ニ付ては少々熟考仕度儀も有之、浮田、下村、松山之諸氏ニ只今相談中ニ有之候間、今少し他より雇ひ入れ之儀は相見合セ度存候、何れ御帰京之上精しき事は御話し申上べく候

ハルリス氏ニ出すへき書面之事且同氏之寄付を以て起すべき学科之事等は東京社員之見込は已ニ相分り申候や、又認可学校之儀ニ付き文部省之様子は如何ニ候や、原六郎氏之六千円は如何ニ相成候や、何卒都合能く御運び被下度奉願上候

先生之御帰りは何日頃ニ相成可申や、御伺ひ申上候、帰途名古屋ニ御立寄被下度事は至極と存候、拙宅ニも一昨夜荊妻安産男子出生仕り候、母子とも無事ニ有之候間、御休神被下度候、当分之处は小生も他行六ヶ敷候間、大坂其他之处ニ出張出来兼居り申候、右は当時之様子御知迄、早々不具

十一月二日

通倫

新島先生

760

十一月二日

新島公義

①奈良水門

②東京元数寄屋丁三丁目

成瀬方

④墨

慈腸溢レテ筆端ニ流レタル恵信ニ接シ忝ク何回カ拝読仕候、先月来大学之為メ御出京被遊候趣拝承、船中ノ御障リに

無之候や、断乎トシテ御用心、昨年ノ如キ事御身ニ成ラザラン事ヲ偏ニ祈上申候

扱私身上ニ関シ尊意ノ程御垂示被降忝ク奉存候、唯小生年来尊下ノ厚意ニ酬ユル不能、汗顔之至ニ不耐候、私モ尚奈良ノ如キ地ニ来リテ脚かけ三年、ドウカシテノト銳意殆ド五十人計リノ信徒ヲ導キ已ニ会堂ノ地面ト現金百五十円計リヲ相集メ、正ニ会堂築造ノ望モ相立チ候ニ付、是ニテ御免ヲ蒙リ少シク望ミアル地ニ出デ一戦スベキ乎、彼ノ伝道会社内閣モ当時兎角人ヲ待ツニ重厚ナラズシテアレバ、此紛々タル外ニ出デ新聞事業ニ従事シ、徳富先輩等ト相提携シテ頑才ヲ尽スベキ乎、主ノ聖意ヲ受ケ度祈願罷在候次第、北国云々の御垂示ニ付テハ早く広津兄ノ報ニ接シ度、其次第二由テ当地ヲ辞スル期ヲ定メ可申ニ付、何卒此上ノ御指導幾重ニモ奉願上候

兎ニ角奈良ノ前途ハ沈々遅々タルニ相違ナク候ニ付本年ニテ相去リ度、仮令新築落成ヲ觀ルニ不至モ、小生ノ働キタル甲斐ハ方附ケ置テ辞スル運ニ当時心組ミ居候間、北国ノ模様分リ次第御報知ヲ煩シ度候、乍憚広津氏ノ住所御一報奉願上候、右草々頓首

十一月二日

公義

伯父様

貴下

新井君へよろしく奉願上候

○伝道社^{〔会〕}界ヲ去テ新聞ニ従事スル事ヲ断行スベキカ、小子伝道ノ志シナキニ非レバ熟考中ニテ、偏ニ此小身ノ

為メ御祈リ被下度候

〔別紙〕

同志社大学ノ為メ奈良県警察官一統ヨリ金三十二円計リ寄付セラレ候ニ付、一寸一書尊下より田中貴道ト云フ
警部長迄御礼ノ書御投シ被下度奉願上候、奈良県ハ当時十津川ノ移住民一件ニ付、寄付金等容易ナラザル内ニ
少金ナレトモ取纏め呉候ニ付、是非ニ厚意ヲ謝シ度、私迄一寸御郵送ヲ奉煩候

761
十一月三日
金森通倫

①京都新町今出川
②東京々橋区元教寄屋町三丁目老番地 成瀬松次郎方
④墨

拝呈、陳者和学教師之儀ニ付ては昨日も申上候通り松山、浮田之諸子と協議之上少々熟考仕度儀有之候間、今暫らく
他より雇ひ入之儀は相見合せ度存候、且又和学之事は小生等是不案内ニ候事なれば是ニ付て万事松山氏と協議之上相
計らひ居り候間、左様御承知下され度候

生田目氏之事ニ付ては小生も松山氏も再参面会之上終ニ御断リ申上たる訳ニ御座候、黒川氏ニ計りたる上採否を決す
ると申したる訳ニは御座なく候、然し同氏を断る際ニ兼而和学教師之事は黒川氏ニ相計り置き候ニより、何れ同氏ニ
も篤と相談仕度候間、先づ此度は御断り申す、若し又将来ニ於て御依頼申す様なる事あらば宜く御頼み申す(素より

終り之言葉は out of politeness to Mr. Namatame) と云ふて同氏は全く相断りたる姿ニ御座候、黒川氏ニ尋て同氏之採否を決するなど云ふ事は更らニ無御座候、若し同氏ニ於て尚同志社ニ關係ある者之如く思はるゝ誤なりと存候、全体黒川氏云々之事が其時ニ出たるは皇典科卒業生ならば兼而同氏より松山氏ニ紹介之人も有之候、然し同志社ニモスコシヨキ人をと之事故、其を断りたる位なり、然而今生田目氏は同し科之卒業生之内なれば、タトヒ同氏を用ふるニせよ黒川氏ニ對して十分之掛合をなしたる上ならでは不都合と存じ、黒川氏之事を話ニ混ぜたる事ニ御座候、然し是ニかゝわらず同氏は已ニ断る事ニ致し置きたる儀ニ御座候、和学之儀ニ付ては御歸り之上御相談申上るも決して遅きニあらずと存候間、左様御承知被下度奉願上候、右は御回答迄

十一月三日

通倫

新島先生

762

十一月四日

新井 毫

①深川東元町荳番地

串田邸内

②京橋区元数寄屋町三丁目

成瀬松三郎方

返信 ④墨

玉章拝見、却説、御来旨ニヨリ帰毛見合可申之處、無余義事情ニテ明日一旦帰杖致候、尤モ来七日二列車ニテ帰京可^(カ)

致候、小生ハ其夜拝館可仕候、万縷其節御伺可申候、右不取敢御回酬迄如此、草々拝復

十一月四日

丹岳

乙民先生

侍童

763

十一月四日

時岡恵吉

①新潟県長岡町大字観光院町

五十嵐屋内

②京都府寺町通丸太町上ル

閣

下 ④墨 ⑥封筒裏書 異筆墨「巻号」

謹而総長閣下に奉報、福音御教訓の如く教会政治ニも係らず、教会内部の運動ニも係らず、分争があるも直接之ニ係らずして、只管愛を説き実行に愛を發表せんと決心致して参岡仕候処、預想外ニも五十有四名の教会々員は処々に散在して輩に^{〔舊〕}残るもの三十有余名ニて有之候、其三十有余名の会員は実に四分五烈^{〔裂〕}乱て麻の如く或は其党或は農学生派或は青年派、又〇〇派あり、既に〇〇派の如きは全党挙て一致教会を設立せんとして東京一番町教会ニ相談致し、明治学院卒業生栃谷喜三郎氏を招待せんまでに至りたりと、既に聞く所によれば其相談も整ふて来岡の日も切迫したる趣きなりと、農学生党は漸々随落する傾向あり、某氏派及び青年派は〇〇派の所致を憤りたるもの如く見受られ候、^{〔ママ〕}^{〔処置〕}^{〔の脱力〕}而して栃谷氏は北条てふ村落に大臣とも云ふ大富家あり、彼が養子に高橋善作氏なるもの、即ち同志社卒業生あり、

彼は一番町教会の会員なり、ゆゑニ大ニ此華を賛成致し月給の如きは一切支弁致すべしとて遂に相談整ふて来岡する趣きなり、嗚呼彼等此隙を窺て長岡を奪んとは又卑劣の極に有之候、然し此時や早く彼の時や遅し、小子去月廿五日

即ち金曜日ニ着岡致し、翌々日曜日ニ於てキリストの愛我を勉せりと云ふ保羅の言葉を借用致して一場の説教を試み

申し処、日頃忘却し居たりし処の愛を聊か思ひ起さんとする傾向相見候間、直ニ連夜愛てふ題ニて説教致し、且つ愛

てふ主意ニて連夜祈禱会を説教後ニ致し申候処、大ニ愛の一字に感ずる処ありて皆云ふ、キリスト教信徒の生活は愛

なりと、斯るるゆゑに全会大ニ振興致し(箇)童に会毎ニ数名計り集り居たりしも三十有余名の多きに至りたり、嗚呼愛の

能力も大なる哉、加之(行)二三四五夜の如きは全会涙にくれて絶声するもあり、涙を流して大声するもあり、其有様恰

も狂せる者と思ふの外又他事も無之き程ニ御坐候、其後は教会大に一変して愛敵の事を口にもし実行ニもする都合ニ

て、是まで仇敵視したる処のものも今日は親愛なる友人の如く相成候、実に絶大なる哉愛の能力や、実鴻大ナル哉愛

の能力やと主に感謝しつゝ喜び居候、然し尚憂ふべきは栃谷氏の事なり、高橋善作氏の事なり、今我教会の困難なる

際、且つ日本伝道会社の経済上欠乏なるとに乗ぜんとするは、閣下が御教示の如く此地は数里を離さる裡に折尾あり(箇)

り、此伝道地ニは各地とも当教会のものあらざるはなし、既に斯の如く道は備れるなり、只此上は手を尽すにある而

已、然し憾むべきは小生一人ニては到底及ざるなり、現に長岡だに窺んとするものあり、況や地方ニ於ておや、閣下

願くば御法方も無之や、広津兄ニも相談致したる次第ニ有之候、若し御法方も有之候得バ何卒御教示有之度奉願候、

小生は閣下の御教示の如く終生愛を説き又必ず愛を実行致し熱心神ニ事ふるに至れば神の栄光自ら顕れん、就ては閣

下小子ニ与ふるに爾須頭神乃栄光と大書して御送り被下度、小子常に居間の傍ニ備て閣下が直接御誠め給ふに換へん

と奉存候、願くば通常の御揮毫を乞ふにあらず、只閣下の誠を毎日蒙る能ざるを憂ひて坐傍に之を備へんとす、何卒一揮毫を惜むなくば小子の幸福又之より大なるは無之候、次に注解ハ小崎教師に御相談致し申置き候処、大変隙取るやふ有之候間、此手を断り申候間、*Philip Smith* *Cetera* *Abbot* *Cetera* *Abbot* の注解御送り有之度、此外コンコルドダンス聖書字引其他有名なる熱心家の説教集等御送り有之度奉願候、尤も之が代価の支弁法は如何仕候ものなるや御報らせ被下度奉願候、右は用事まで乱筆御高免被下度奉願候、敬白

十一月四日

時岡恵吉

新島総長

閣下

二伸、高橋君の伝道上ニ付き御意見も有之候得バ御通知被下度奉願候、又此地方の伝道ニ付き御意見も有之候得バ充分小崎教師ニ御相談なし被下度奉願候、伝道会社ニは左程に思て居ざるものならずやと推察され候間、懇々切々会社へ御相談奉願候、孰も至急御相談奉願候

十一月六日

不破唯次郎

①上毛前橋

②東京々橋区元数寄屋町三丁目宅番地

成瀬方

④墨

先日來毎度御尊書載〔載〕キ奉万謝候、承レバ先生ニハ十日後御來前之由奉待候、玆此度ハ十一日より大宮ニテ両毛伝道師會ヲ開事ニ相成り、十四日ニハ皆々上毛ノ役者も帰上ノ積ニ御坐候、是念ノ為申上候、宮川兄ニハ七日当地着ノ報参リ申候、高崎ノ事も元來助力セザルベカラズ、神戸ノ阿部氏〔政恒〕ヘハ杉山、杉田兩人且小生ノ各ヲ以て相談書既ニ廻申候、星先生〔野〕ハ余リ高崎ノ事ニ關係アリテハ面白カラズ、大宮伝道費ノ事ハ御申越通ニ不都合千万ニ御坐候、以後都合宜敷ナラン、是迄委員ノ大罪ハ私ニ御坐候、上毛全体運動上ニ付ても意見ナキニ非ラズ、御面會ノ節迄ニ讓申候、本月中ニハ是非沼田、吾妻辺伝道ノ為ニ参り度奉存候、大間々ハ目今ノ所前橋ヨリ働事ニ相成り、人アラバ直ニ送ル心組ニ御坐候、此程ハ寒氣日々相増シ先生之御不快ハ如何奉伺候、御來前ノ日御決定アラバ一寸前以て御報被下度奉願候、上野発朝九時ノ汽車ニテ御來上アラバ好都〔金沢〕と奉存候、此程ハ杉山兄も〔ツライアル〕ニテ万事相談も出来、一昨日より昨日迄杉田兄ト当地ニ参ラレタリ、妻事來上後日々多忙ニテ先生ヘ失礼相働申候、同人も先生御來前ヲ日々奉待候、右ハ取急キ御返事迄、早々失礼

十一月六日

不破唯次郎

新島先生

765

十一月七日

広津友信

①新潟東仲通二番町 吉勘方
②東京京橋区元数寄屋町三丁目 成瀬松二郎
方 ④墨

拝啓、只今芳翰拜誦御高諭真ニ有難奉謝候、目下新潟ニ、長岡ニ大事迫リ来リ居候条、輕慮短計ニ陥ル事ナキ様ニ謹
ミ、嚴肅ニ硬直ニ公正ニ進退処分致度存居申候間、尚ホ御高見ヲ漏ラシ御教示被下度偏ニ奉願候、今日之勢ニテハ到底
伝道会社ノ組織ヲ一変シ大運動ノ出来候様経綸ヲ立テ候事ハ最要中ノ最要急務ト奉存候

新潟ノ兄弟方ハ非常ナル喜悅ニ有之、甚タ小子ヲ愛シ信セラレ候、目下為ス可キ事沢山ニ有之候ヘ共、徐々ニ秩序ヲ
立テ兩分子ヲ打丸メテ一団体ト為シ、兩者ノ感情ヲ溶解シテ甘ク調和致度、御高諭ニ從ヒ愛ノ靈ノ満チ渡リテ実ニ美
麗ナル、柔和ナル一団体ト相成候様祈リ居候、小子ハ日々少々ツ、真ニ兄弟方ヲ愛スルノ情切ニ相成、教会ハ実ニ可
愛ラシク相見候ヘ共、真ノ愛ノ乏ヲ愈々感シ申候、殊ニ力ノ不足ヲ相覺ヘ候ヘ共、只管有ル所ノ力ヲ尽シ聖旨ノ成ル
事ヲ求メ居申候

明治22年

大和田氏ハ今度一致教会ヨリノ依頼ニ依リ村上教会ヘ働カル、事ト相成、明日愈々御出発之由ニ御坐候、兼テ内々計

画ノアリシモノト見へ、小子ハ一昨日発表セラレシ迄ハ露程モ知ラサリシ、小子実ハ同氏ヲ働人トナシ漸々伝道ヲ拡張スルノ積リニ有之候〔し〕かば、実ニ今日ハ意外ノ事ニ相連申候、原君ハ大ニ都合宜敷来ル月曜日ニハ是非面会スルノ約束ヲ致居候、白木、檜村氏方ハ学校ニ御尽力ニテ随分都合宜敷方ニ相見ヘ申候

長岡之事ニ付テハ兼テ小子モ存居候ニ付、途次一泊シテ態々信者ノ重ナル人々ヲ訪問シ其懽心ヲ得置候、而シテ小子ノ将ニ長岡ヲ去ラントスル時、高橋善作氏来訪セラレ時岡君ト小子ニ御来談相成候ヘ共、小子ハ尚ホ所為アリ、其日彼是談判セズ、先ツ時岡君ヨリ談判相成候方適當ト存候ニ付、ワザト小子ハ取急キテ出發致候、而シテ時岡、高橋兩氏ノ談判ノ筋ハ委シク時岡氏ヨリ報知有之先ツ今日ノ処デハ含ミ控居申候、未タ例ノ伝道士来ラレズ候由ニ有之候、追々長岡伝道ノ事及時岡氏働ノ件ニ付テハ熱図致候都合ヲ計ル積リニ御坐候、何分今日ハ目下小子一身ノ働モ迫リ居、日夜寸暇ノ無之時ニ候ヘは、此段御含置被下度奉願候、柏崎、三条其他所々ニ伝道ス可キ好地有之、今度例ノ伝道士長岡ニ止マラサルナラバ或ハ柏崎、三条ニ目ヲ注グナラント被察候、願クハ越後一國ハ上州ノ如クニ一主義ノ一手ニ掌握致度希望罷在候、余ハ後便ニ譲リ候也、早々不整

十一月七日

友信

新島先生

先生他出ト存候、今迄書状呈上不致候、御無音御免可被下候

766

十一月七日

小野英二郎

①東京南伝馬町一丁目 伊東屋 ②上京区丸太町上ル 閣下 ④墨

拝啓仕候、久々御疎遠ニ打過シ先生御起居如何被遊候哉、定メテ御壯康国民之為メ御奔走有之居候義奉拝察候、小生御存知之如ク一寒生ニテ是迄海外留学罷居候処、神之愛護教導ニ依リ幸ニ一身之健康ヲ全フシ、本年六月ミチカン大
学ヲ卒業スルノ榮ヲ得ハ寔ニ上 天ニ謝シ、下 父母ニ謝スルノ次第ニ御座候、小生モ是非本年中ハ米国若シクハ欧
州ニ滞在致シ度キニ依リ、夫ニ経画罷在候最中、突然愛父病死之旨申来リ、且ツ老母モ平常之弱体ニ御坐候間、直チ
ニ帰国ノ事ニ一決致シ、客月十七日桑港ヲ出帆致シ海陸無事、一昨日横浜へ上陸仕候間乍憚御安心可被下候、小生モ
将来事業之為メ二三週間ハ当地へ滞在之目算ニ御座候得共、一先ツ帰省可仕ニ付、帰途数年振りニ拝顔之喜ミヲ得ル
義ト案ミ申候、書余拝眉之上、早々不敬

十一月七日

東京ニ而

小野英二郎

新島襄先生

玉坐下

十一月八日

金森通倫

①京都 ②東京々橋区元教寄屋町三丁目老番地 成瀬松次郎方 ④墨

拝呈、陳者生田目氏之事は松山氏ニも相計り候処、同氏よりも小生と同様同志社ニ雇ふ事は断然相断はられ申候次第なれば、今ニなりて生田目氏か彼是れ申さるゝ訳は無之事と被存候、又学校よりは一旦已ニ明白ニ断りたる者ニ、今更又同氏ニ対して彼れ是れ申訳をなす之道理はなき事と存候、全体同氏が先生ニ来て此ノ苦情をならさるゝは甚だ不当之事と存候、然し已ニ先生ニ来られたる上ニ候へば、何卒先生よりは右ニ述べたる趣を以て御返答なしをき下され度候、若し此上彼れ是れ申さるゝも其れは致方なしと被存候、何ニも学校ニ於ては少し之過るべき点は無之事と存候、且又黒川氏云々之事は同君が彼れ是れ云ふべき限りニあらずと相考へ候、同氏ニ計るも不計も又遅く計るも早く計るも、生田目氏之関する所ニ無之候、如何なれば黒川氏ニ計て後ニ生田目氏之採否如何を決する訳ニはあらず、同氏は其ニかゝわらず已ニ断りたる人なればなり、又黒川氏ニは松山氏より相談致したる事も有之候へば、何ニもイツハリたる訳ニは無之候、松山氏とも申したる事ニ候が、生田目氏を断りたるは学校之為ニ甚だ幸なりし、かゝる後々迄も苦情ラシキ事ヲ云出ス之人はタトヒ学識あるも学校之為ニ不為ならんと、右之次第ニ候間、若し先生之処ニ同氏ノ来らるゝ事有之候ハ、何卒宜しく御話置き下され度候○田中賢道ヨリ上京致サウカト申ス電報マイリ候間、スグキタレト返報致シヲキ申候

十一月八日

金森通倫

明治22年

768

十一月九日

志方之善

①京都 同志社神学校 ②東京京橋元数寄屋町三丁目 成勢方ニ於テ 平信
要用 ④墨

寒氣弥相増申候処益御清栄、主ノ御恵ノ下ニ御仁勸^{〔勸〕}ノ段万々御目出度事ト奉祝賀候、陳者頃日ハ態々尊翰ヲ賜リサタ
メ女及ヒ小姉ノ事ニ付、万々御配慮被成下御厚意御丁寧ノ段難有奉感謝候、以御蔭小姉事ハ四五日前ニ来着、此後暫
時小弟ト同居致積ニ御座候間、左様御思召被下度候

サタメ女ノ事ニ付テハ不浅御配慮御周旋被成下、昨日神戸ベロース姉より同女ノ事ニ付問合ニ相成リ、寔ニ先生ノ御
丁寧ナル御尽力ニ対シテ何トモ申上様モ無之厚ク奉感謝候、然ルニ今度小姉事来着致候ニ付、篤ト同女ノ様子ヲ聞取
申候処ニ依レバ、彼女ハ父母兄弟間ノ困難ナル事情ト歎ク可キ迫害窘苦ニヨリ、彼女ノ篤志熱心無上ニ愛望熱着スル
ノ目的ヲ自由ニ遂ケ容易ニ高尚ナル神ノ役者トナルハ中々六ヶ敷次第ニテ、小弟モ大ニ失望深ク彼女ノ為メニ愁歎仕
候

是迄折角敬愛スル先生及ビ姉妹ノ懇篤周蜜ナル御世話ニ預リ今更出港^{〔ママ〕}入学出来兼テハ実ニく不都合ノ至ニ候得共、

当時日本社会ハ凡テ如斯不自由ナル、不愉快ナル家内ニシテ、婦人方ニ自由幸福ノ事等ノ人権ハ略ホ奪領滅却セラレタル有様ニテ、此点ニ於テハ小弟等ノ日夜痛歎慷慨、^{〔寤寐〕}寤寐悲シム可キ歎ク可キ心配多キ^{アワレ}怜ナル日本婦人ト云フ語ハ小弟等ノ脳裡ヲ甚ダ離レザル事ニ御座候、目下彼女ハ此不愉快ナル境遇ト困難ナル事情ト、歎息悲哀ノ^{〔迫〕}迫害ノ中ニ涙ト憂ヲ以テ貴重ナル日月ヲ冗費シ、到底入学シテ自由ナル愉快ナル貴キ神ノ役者トナルハ六ヶ敷事ニ御座候間、敬愛スル先生ニモ左様御思召被下度候

右ハ先生ノ懇切親愛ノ御配慮御周旋ノ万一ヲ鳴謝シ、併セテサタメ女ニ換リテ出港^{〔入港〕}入学ノ出来難キ理由ヲ記シ、日本ノ万民ト憂案ヲ共ニシ給リ、博愛慈仁ナル先生ニ民間ノ不自由ナル不愉快ナル婦人ノ悲嘆ス可キ情実ヲ悲歎愁訴^シシ願わクハ賢明有徳ノ敬愛スル先生ヨ、此怜ナル婦人社会ニ自由幸福ヲ与ヘ給ヘ、乱筆不敬ノ大罪ハ幾重ニモ御海容被下度候、時下不順ノ候尊体御自重御愛護ノ程日夜主ノ前ニ記臆^{〔憶〕}致し居申候、早々不肖謹白

十一月九日

不肖

志方

敬白

敬愛スル

新島先生

閣下

尚々、^作■末筆御宿本ニモ奥様初メ外方様ニモ御無事ニ御座候間、左様御思召被下度候、早々再白

769

十一月十一日

広津友信

①新潟市旭町通老番町十七番地 ②東京京橋区元数寄屋町三丁目 成瀬松二
郎方 ④墨 ⑥封筒裏書 異筆墨「弐号」

拜啓、其後御起居如何被遊候哉、追々寒氣烈敷相成候条御保養專一奉願候、随而小子日増愉快ニ相働キ居候条、何卒御放眷可被下候、実ハ真ノ恐懼ヲ得テ参リ候ヘ共、来リテ内実ヲ探索シ、又兄姉ノ心情ヲ伺ヒ候ヘは実ニ真実ト愛ニ満チ高尚ナル御方モ有之、一体ニ信ト愛ヲ以テ小子ヲ遇セラレ存外好都合モ相見ヘ、是ヨリ忠実ニ兄姉ノ益ヲ図リ神栄ヲ目標トシテ働キ候ヘは、漸次優美壮雄高尚堅実ナル教会ト可相成樂ミ居申候、兄姉ニ交リ其真情ヲ知り候ヘは益々教会ヲ愛スルノ心切ニ相成、随而自家之不全完^(ママ)不足無能ヲ感覺致候、然シ之カ為メ決シテ失望不致、只管上帝ノ大能ヲ信シ彼ニ任セ全幅ノ力ヲ尽シ堅忍不拔力行致スノ覺悟ニ御坐候

教会ノ内実ハ真ニ混沌トシテ恰モ創世記第一章二節ニ記シアル状ニ似タリ、是ヨリ光アレヨト基督ノ大声ヲ発シ玉フト共ニ小子共力ヲ尽シ秩序ヲ立テ候ヘは、漸次万象現ハレテ絶美ノ王国相立ツ可ク信シ、小子ハ只タ沈思聖旨ノ在ル所ト兄弟方ノ利益トヲ探リ徐々ニ運動罷在申候、是非先ツ教会ノ規律ヲ定メ秩序ヲ立テタル可ラサル勢ニ迫リ居候、今週間ニ委員数名ト協議シ、極々単簡自由ナル規律ヲ立テ教会ノ総議ヲ経テ規約ト可成様手数致居候条、何レ数週日ノ後ニハ程善キモノ出来候ト存候、兼而懷抱致居候自由主義ハ難ナク達セラレ候様存候、然シ他日組合教会ト連絡ヲ通スル様ノ事ハ今日定メ難ク最モ好時機ヲ待タサル可ラズ、徐々ニ成ス可キ事ト信シ居申候

長岡ノ方ハ其後御變リ何事モ無之、小子ハ平素相知ノ兄弟モ該地ニ有之候事ナレバ裏面ヨリ相談シテ動カサル様ニ手数致置申候、今日ノ都合ニテハ小子全県下ヲ巡遊スル訳ニ不参、少々日延致候

今日住家ヲ定メ候家ハ岡ノ上ニアリ、眼下ニ全市ヲ見下シ風光絶佳ノ勝地ニ有之候、白木正藏君ト同居ニ御坐候、原君ハ今年后來鴻セラル、由ニ候ヘハ懇談可致積ニ御坐候

十一月十一日

友信

新島先生

閣下

770

十一月十一日

宮川経輝

①上州倉ヶ野

松本氏ヨリ

②東京々橋区元数寄屋町

成瀬方

侍史

④墨

芳墨忝拝誦候、先夜ハ突然推参御妨候、陳ハ今回越後地方ヲモ巡回可仕様御懇切ニ御勸被下、且其費用トシテ御手許ヨリ金拾円御寄付可被成下旨被仰越、御芳志之程誠ニ難有奉謝候、然ルニ阪地ニ於テ来廿一日夜ニ泰西学館ノ組織上ニ付緊要ノ集会相開キ可申ノ先約御座候ノミナラス、会務上ニ於テモ第四安息日迄ニハ是非帰阪不致而ハ難相成候間、越後巡回ハ来春ニ致度心得ニ御座候、右之都合ニ御座候間、折角之御諭ニ候ヘ共、今回之処ハ貴意ニ從ヒ難ク、何卒不惡御宥恕被成下度奉願候、勿々拝具

十一月十一日

宮川経輝

新島先生

771 十一月十一日 矢崎鎮四郎

①神田裏神保町五番地 ②侍史 ④墨 ⑥封筒表書 新島筆「Keen」

拝啓、昨日は参館仕種々御教誨を賜はり候段難有深く心に銘して忘却仕るまじく候、別紙に記載仕候ハ小生が曾て市中逍遙の際に偶然目撃仕候事や、又絵などを見て想ひ浮びし事の中で最も幼稚にして御病氣に触るべき理もなしと存候間、昨日帰宅後筆を採りしものに御坐候、甚だ拙くハ候得共、聊か御旅情を慰むる事を得ハ幸甚と存じ劉覽に供し奉り候、勿々頓首

十一月十一日

矢崎鎮四郎

新嶋襄先生
侍史

〔別紙〕

愛の一線

夏の夕方でありました、靖国神社の鳥居前をぼちや／＼と太った愛らしい六七歳の小児が細い竹の棒で地上へ線を引きながら走つて往きます、吾妻下駄を穿いた四十有余の此児の母が微笑を含みながら、きざみ足で其線の上を走つて往きます。風俗ハ士族らしく見えました、是ハ小児と母との間に「かあさん、あの私が地びたへ線を引くから、かあさんハ其上を歩くのだよ」「あいよ」といふ約束が成立つたものと思はれました、

小児ハ一二間走つてハ後をふり返つて、母か線の上を歩くのを見て、さも嬉しさうに莞爾々々笑ひながら走つて往きます。母の身に取つてハ細い線の上を歩くのハ定めし大儀でもあり又馬鹿らしくもありません、が其実母の心ハ其様事にハ少しも思ひ至りません、我子の喜びを喜んで一心に其線の上を走つて往きます、而して其と同時に小児を守る如く其後姿から少しも目を離しません、転べハ直起すのでありませう。小児ハ立止まつて後を向き直しました、同時に母も立止まりました。互に顔を見合せて笑ひながら何か言つて居ます。一二分たつと小児ハ後づさりにそろ／＼歩き出しました、すると母もそろ／＼線の上を歩き出しました。小児ハ育つ盛りです、もう後づさりハ免倒になりました。向ふを向くと走り出しました、すると母も一所に線の上を走り出しました、恰も其が如何様か大節の事でもある様に。此間二人の傍を通つた人ハ幾人でしたか、激しく駆て往つた人力車も慥に二ツ三ツハありました。然し親子ハ其を少しも知りません、其にハ少しも気が着きません。此児の引いた線細い一線が二人の為めの天地でした。愛を結ぶの糸でありました。覚えず見惚れて居る内に、嗚呼横町ノ、二人は横町へ曲つて其影ハ見えなくなりました

小児の智慧づく様子

ある屋敷町を通りました時、三ツ四ツの男の児が傘を車輪の様に大地へ臥かして廻はして居ます、而してゴロ／＼音のするのを大層喜んで余念なく廻はして居ます、暫くしてふと地上にうつる傘の影を見て「おやなんだらう、此丸いものゝ動くのハ」と思

い顔に、用心に用心して極めて遅くそろ／＼と廻はし始めました、而して全身の注意力を一点に集めジツと其影を見詰て居ました。此子の守でありませう？ 十四五の少女が其傍に立ッて此子の様子を見て微笑して居ました。

母の愛

ある薄暗い室の中に三十五六の女が物思はしさうな顔をして何か心配さうに考へて居ます。何を思ッて居るので傍に二歳計りの小児が小さな夜の物にくるまつて、すや／＼と眠ッて居ます。何を思ッて居るのでせう此母親は？ 母の目ハ間の隙（以下同）に向けられてあります、とんと隙を通して次の間を見すかさうという様な風に。然シ心ハ余程の遠くにある様です、時々神経が高まると見えて、身を震はせたり胸を波立せたりする事があります。夫婦の中でも不和なのですか？ 親舅との中でも悪いのでせうか？ 目元もうるんで見えます。其内に目ハ隙を離れて我子の顔の方へ向ひます、而して母の苦勞も知らず聖の様な顔をして心持よささうに眠ッて居る我子の顔をジツと見詰て居ます。母に添乳の夢でも見たか、靜にニツコリと笑ッた其顔の愛らしさ、嗚呼此子ハ母の為めにハ命の是れ母の命、苦も樂も一時に消へてます。母ハ我子の頬へ自らの頬を押当て、一滴の涙を落します。

772

十一月十五日

広津友信

①新潟市旭町通り老番町十七番地 ②東京京橋区元数寄屋町三丁目 成瀬松二郎方 ④墨 ⑥封筒裏書 「※参考」

時下御起居如何被遊候哉、寒氣日増相募り候条玉休御大切ニ御保養之程奉願候、随而小子事モ今日迄日夜兄姉ト接シ

伝道事業ノ端緒ヲ開キ碌々消光罷在申候条、乍憚御放眷可被下候、陳ハ在長岡時岡君ヨリノ報道ニ依レバ未タ例ノ伝道士モ来岡不致、却テ教会モ折合宜敷、是迄新潟一致教会員ニシテ該地ニ移リ例ノ伝道士招聘ニ付テモ与リテ力アリシ某一家族モ一昨日長岡教会ヘ転会致度旨申来候程ニ有之、時岡君ノ御骨折リニ依リ漸次都合能可相成様ノ模様ニ候、ニユーエル氏モ数日前小子ニ書ヲ寄セ歡迎ノ意ヲ表セラレ、尚ホ将来提携伝道上ニ大ニ尽力致度由御申越ニ接シ、来ル廿四五日頃ニハ新潟ヘ同氏モ来遊セラル、赴ニ候ヘハ、能々同氏ノ意見モ承リ伝道上ノ計画モ相立テ度存居申候、原君ハ数日前来遊セラレニ泊致サレ縷々御話ヲ承リ候、同君ハ永ク新発田ニ在リテ働キ是非該地ニテ成功致度由ノ決心ニ有之候、小子短月日ヲ越路ニ送ル次第ニ候ヘ共、其間ハ諸君ノ驥尾ニ附シ尽力可致積リニ御座候

〔忠告〕

小子新潟ニ来リ候以来実ニ驚キ且不快ニ勝ヘラレサル事ニ接シ申候、其事ハ他ニ非ズ、先生ノ御一身ニ付キ人々ノ誤解様々ニシテ深ク親ク御心事ノ程ヲ悉知不致事ニ御座候、松村介石君ノ如キハ今夏東京ニ於テ縷々是迄一致問題ノ件ニ付探知致サレ候赴ニ有之、種々ノ事情ヲ知り居ラレ、小子ニ向テ縷々御話致サレ候中大ニ先生ノ御主義心事ニ付御存ナキ点有之、為メニ誤解ノ廉不尠、而シテ引テ小子ノ心事拳動ニモ誤評有之、小子ニ取リテハ実ニ慨嘆ニ勝ヘズ、不快是極リ候条、小子ハ直ニ同君ニ向テ小子ノ合併問題ニ関シテノ意見、教会政治ニ付テノ主義ヲ明ニシ、且又先生ニ付テノ誤解ヲ排除セン為メ迷謬ヲ啓発セン為メ、小子ハ先生ノ懷抱致サレ候教育上宗教上ノ主義如何、合併問題ニ付テノ御意見ノ存スル所如何等ヲ弁ジ、小子ノ先生ヨリ承リ候事ハ曾テ合併問題ノ起リシ当初牧者先生方ニ向テ御話相成、又曾テ大阪委員阿部、杉山両氏ニ向テ御話相成候旨趣ニ外ナラズ云々弁陳致候、小子実ニ不快ニ勝ヘサルハ世人殊ニ宗教教育世界ニ頭角ヲ表ハシ居ラル、方々ノ我儕ノ心事ヲ誤リシ迷惑シ百疑万迷ノ中ニ居ラル、事ニ御坐候、然シ是致方ナシ、只タ我儕ハ自家ノ確信スル主義ニ立チ万難ヲ犯シ千苦ヲ嘗メ毀譽褒貶ヲ恐レズ公明ニ直実ニ自家ノ

主義ヲ貫徹致度存候、某ノ咏セラレシ「兎ニ角ニ心ハ独リ定メテ人ニハ人ノ知レヌ世ナレバ」ヲ唱シ、自ラ慰ミ居申候、今日内部ノ勢ヲ察シ候へば来年春頃迄ノ準備愈々大切ニ相成申候、或人ハ先頃神戸ノ会ニテハ青年輩團結シテ先輩諸氏ノ虚ヲ撃タリ、故ニ青年ノ勝算トナリ、先輩ノ敗北トナリヌ、然シ今度開カレントスル会ニハ、、、、、ト申サレ候事ハ、只タ其人一人ノ心事ニ在ルノ覚悟ノミナラズ、一般先頃反対ノ地位ニ立チシ人々ノ心中ニハ凝結致居事ト存候、油断大敵

或人々ハ先生ノ曾テ上州東京辺ノ教会員ヲ煽動セラレシトテ大ニ含ミ居候有様ニ御坐候、中々種々手ヲ尽シテ挙動ヲ伺ヒ居候、而シテ種々ノ誤説ヲ流伝致候事ハ如何ニモ慨嘆ノ次第御坐候、申上度事沢山有之候へ共、何レ後便ニ可申上候也、早々拝具

十一月十五日

友信

新島先生

閣下

過日御約束申上候横井先生ノ書三幅任幸便西京へ御送り申上候、多分御令閨様御落手ノ事ト奉存候

十一月十六日

徳富猪一郎

⑤ 森中章光写（孔版）

昨日罷り出てたるも他事ニアラス、福島御旅行ヲ御止め申上度積リニて有之候也、若し強いて綱島氏より御勧め申上候得ハ金森氏ニても御呼び寄せ代理として出張せしむる様致との事ニ御座候、自今嚴寒に向ふ此時ニ際して福島ニ向ふ恰も先生の御容体よりすれハ赤手にして彈丸矢石の地ニ向ふか如し、若し万一の事ニ有之候ハ、生ハ同志社大計画の爲めニハ申迄も無之、又ハ先生の御東上ヲ翼賛したる小生及京都ニアル御令閨様ニモ申訳無之と存候故ナリ、此事ハ追々拝顔の上可奉得貴意候、今朝ハ朝比奈氏〔知衆〕ニ用事有之候間、只今より同氏ヲ尋ね可申、その用済之次第早速御宿迄拝趨可申上候、若シ綱島氏との御約束有之候ハ、御待受ニハ不及申候、本日ハ午後四時迄ハ在社ニ付、御在宿の時ヲ窺て必らず御訪問可仕候、拝答不一

十一月十六日

徳富生

新島先生

玉案下

千金の身是非共御愛護万々ニモ奉祈上候

774

十一月十七日

横田安止

①京都上京区 同志社学校 ②東京市京橋区元数ギ屋町三丁目 成勢方ニテ
親展 ④墨 ⑥封筒裏書 新島筆 計算

拜啓仕候、其後先生別ニ無御変被遊御座候^(誠脱カ)気候愈々寒烈ニ赴クニモ係ラズ御身体愈々御壯健ニ御赴き被遊ル、兆候アリト医師カ診断申上候由、生等ハ此等ノ幸報を承リ実ニ欣喜此事ニ御座候、然シ此上尚ホ一層御療養被遊御座、速ク全ク御壯健ニ^御成リ被遊ル、様、生等熱望熱祈致居候、今度ハ生憎ニモ先生ノ御上京被遊ル、ヤ否、政海ノ波瀾一層激起シ、井上伯モ居ラズ、大隈伯ハ遭難ノ事等アリ、先生ノ御経綸ノ御事業ニハ非常ノ障礙^(障)を致シタル事ト遙察シ奉リ候、又タ加之先生ハ其ノ激浪ノ中ニ御單身御独行ノ御事ニナレハ一層御困苦被遊御座候ト遙察シ奉リ心痛仕居候、生ハ朝夕先生ノ御事業ノ為メ天父ヘ祈禱仕居候、而シテ生ハ信ス、一時如何ニ先生ノ事業力運ヒ兼ネ候モ、政海ノ激浪ハ如何ニ滔々タルモ、世俗洋ノ風波如何ニ烈シキモ、如何デ長ク先生ノ猛志を支ユルヲ得ンヤ、必スヤ御目的ノ港ノ彼ノ辺ニ御到着被遊ル遠キニアラザル可シト信シ居候

同志社ノ生徒殆ント七百ニ過ク、豈ニ悉ク無腸男子ノミナランヤ、必スヤ先生ノ跡を追ヒ御精神を嗣ぎ事業ヲ天下ニ為スノ男子起ルヲ信スルナリ、天父今日迄先生ノ御事業を助ケ成サシメ玉ヘリ、今日ニ至リ豈ニ助ケ玉ハザル事ノアランヤト思ヒ心痛仕中ニ大ニ励メ申居候、其後同志社ニ於テモ別ニ変リタル事ハ学校ニモ教会ニモ無之、一抵ニ先生ノ御出立後ハ万事宜敷シキ方ニ運ヒ居候、別ニ御掛念被遊御座事無之御座候、乍憚左様御安神被下度候、今日迄ノ事

テハ十分相分ル事ハ無之御座候モ学校ノ運轉ノ都合モ幾分力推察致サル、事モ有之、生色々考へ居リ申候、其等ノ事ハ御帰宅後委細御談申上ケント切ニ思ヒ居候、又タ生ハ徳富氏ノ来校以来一層社会ノ事情ヲ知ルヲ得種々感動心中ニ起リ居ル事ニ御座候、又タ生ノ前途ノ事モ常ニ胸中ニ往来シ思想感情ノ起ル事多ク何ツレ先生ノ御帰リノ上縷々申上度切ニ思ヒ居候

夫ノ神戸ノ一件ハ殆ント生等ノ意ノ如ク相運ヒ居リ候、御安心被下度候、此ノ事ハ先生ノ御出立後程ナク熊本ヨリ生ヘ一封ノ書来リ右ノ事ヲ報シ申候、此レモ委細ハ御帰宅ノ上ニ申上ク可ク候、小生ハ右等ノ事モ在リ其後書状を奉呈シ御報道申度存居候ヘトモ、去月東京を御去リ被遊ル、様ニ承リ、御宿所モ不分明且ツ御帰宅も近クナル様ニ承リ候故ニ御報道モ今日迄致サス候、昨日御留守を伺ヒ申候処、奥様も御変リナク御座被遊候、而シテ先生学校ノ事を聞き度シト御申越有之候様御談シ有之候故、生ハ早々学校ノ甚タ無事ナル事ヲ御報道申候次第ニ御座候、余ハ御帰宅ノ上委細申上ク可ク御座候

十一月十七日

横田安止

拝

新島先生

座右

二仲、時下氣候不順、返スノモ先生国家ノ為メ御自愛御自重被遊御座度熱望ニ堪ヘズ候

去ル十五日ニ理學館ノ定礎式ノ執行有之候、一同実ニ希望ニ満チ愉快千万ニ御座候ヒシ

775

十一月二十一日

金森通倫

②京橋区南鍛冶町 林屋ニテ 親展 ④墨 ⑥封筒裏書「此ノ書西京ヨリ着
シ候間、即刻御届仕候也 民友社」

寒気次第ニ相増候処、先生御起居如何在ラセラレ候ヤ随分御用心之程偏ニ奉願上候、当地校内も差したる変りも無之
先ツ平穩之姿ニ御座候、小生も過日來家内病氣之爲他出仕兼居候処、最早病人も漸ク快方ニ趣き候間、先日は大津ニ
参リ中井知事ニ面会致し例之長談話ニ終日費し、然し幾分か江州財産家ニ着手之端は相開け申候、其後同知事之添書
を得て八幡之高田義輔氏ニ面会致し候、同人は当時八幡之豪家西川氏之支配人となりをり頗る江州資産家連之間ニは
勢力ある由ニ候、同人もまだ小生を見忘れは不致、漸時昔日之語など致、^江候州前途之運動ニ付ては深く頼み置き申
候、且つ又八幡ニて中村治兵衛と申す是れも江州之資産家ニ面会致し、西川氏も同席ニて相語り将来再会を約して相
別分れ申候、高田氏は昨日当地ニ来られ候由より、明日は同君と同道ニて中井知事を訪問仕る心組ニ致居候、何れ其節
何とか将来之運動を相計り可申と存候、一昨日より一寸大坂ニ下り、昨日帰校致候が松本、岡橋、阿部等之動ざるニ
は殆ど閉口仕候、先日^生ニは何日頃御帰京之御心組ニ候ヤ
米國ハリス氏ニは書状は已ニ御出し被下候ヤ、又同氏を同志社之コレスポンデントメンバーニする事ニ付ては東京
之社員と御計り下され候ヤ、同志社学校認可之事は如何ニ相成候ヤ、御地之御運動は如何ニ候ヤ、原六郎氏之六千円
は如何ニ相成候ヤ、右等之様子一寸御聞かせ被下度候

十一月廿一日

通倫

新島先生

776

十一月二十一日

新島八重

①京都寺町通り丸太町上ル ②東京元数寄屋町三丁目 成勢方 平信 ⑥封筒のみ、封筒裏書 新島筆「Keep」

777

十一月二十二日

金森通倫

①京都 同志社 ②東京々橋区南鍛冶町 茂林館 親展 ④墨

拝啓、陳者先日御申越ニ相成候小野氏〔英二郎〕之一件早速社員諸氏へ相計り候処、山本、中村之両氏は何ニも異存無之由、松山、大沢之両氏は何分其人物を知らざる故可否之判断六ヶ敷、然し他之諸子ニ於て人物ニ申分なきと申さるゝならば別ニ異存無之由申来候、宮川氏ニは未だ面会不仕候故、同氏之意見は不存申候、小生も先日一寸小野氏ニ面会致シ少

しは話かけを乞申候、目下経済学者一名是非入用之際なれば同氏之如きは是非得たき者と存候、然し此ニ御尋ネ申上
度事は同氏は最早独逸語は自由ニ候ヤ、若し然らされは独逸行ニは甚だ不都合ならんと存候、同氏之学識ニ付ては未
だ能く其力を計る之機は無之候へ共、ミシガン大学長エンゼル氏(James B. Aresell) (Edmund Buckley)よりバックレー氏ニ送られたる書状ニは小野氏之事
をイタク誉めたる語句有之候、何分有益なる人物とは被存候、又過日之教授議會ニ於てゴルドン氏之動議ニより小野
氏を同志社ニ雇ふ事を社委ニ勸告致し度ニ相決し、其取調を五名之委員ニマカサレタル次第ニ御座候、右之次第ニ
候、同氏を同志社ニ行く事は小生は大ニ賛成仕候、右ニ付ては十分御熟考之上又小野氏が他之事業ニカ、らざる中ニ
宜く御取計らひ被下度候

過日御尋之天長節之時生徒不満云々は事實相違之御座候、素より二三之者が間違ニて 天子之御臨幸之節同志社は奉
迎せぬと教員会ニて議決したりと聞込み、小生之処ニ来りし者は有之候へ共、何ニも其他ニ異なる事は無之、然し御
承知之通り生徒之不満、請願等は学校之常ニして、当年も相変わらず統々小生之モトニ押かけ候へ共、何ニも学校之不
穩ニなるが如き事は更らニ無之候

先便ニ御尋申上候事は何卒早く御聞セ下され度願上候

十一月廿二日

新島先生

通倫

十一月二十二日

奈須義質

①熊本市新屋敷町三百九十九番地 ②京都市上京区寺町通丸太町上ル 親展

⑥托渡辺政徳君、封筒表書「二十二年十二月十八日返書」

近頃御動止如何に候や、承れは先生又病を凌んで大学の為め御精勞の由、愚生微力如何とも難為、主に由りて日夜に先生の健全と祝福を懇祈致居候事ニ御坐候、降而愚生事西降以来殊ニ繁激難堪の局に相立ち志望頗る宏壮なれとも実力の補ふ所百一に不及、日夜為之苦慮憤倒せんとする數々に有之候、されとも剛者不屈故大業成ト存じ、沈禱精祈の下に常ニ強忍仕り候

初メニ合併事件の如きあり、従て教会の結合を強固ならしむる能はず、之れが為めに外敵を攻むるの余力なく、中にハ小人大量に乏しく、又大勇なく却て教会内部の萎靡を来さんとするの患も免れざりし程にて、為之に多く苦惱仕りたる事ニ候、一方にハ宗教利用の誘導あり、一変して宗教疎斥の辛境あり、未だ事情も甚だ詳かならず憤激、困苦、憤激、困苦の間に消失したるは早や殆んど一年間の日月に有之候、近頃には到りて光景漸やく一変致し、教会の親和も拾収せられ、海老名君も大に奮振の方に有之、宣教師連中も又幾分か出精致し一週以前に於て九州組合集會を開き一大好果を得たるの好運に進ミ《九州組合教会信徒相談会記録ハ三四日内ニ呈上可仕候》県下伝道地の培養も聊か満足を得、薩州伝道の方針幾分か又鋭敏に相成り、海老名一郎、高橋邑重両氏猛戰中に候へバ、肥薩自ら響應の域に進むも甚だ遠からざる事と存入候

乍併近頃政熱の激昂殊に甚敷、爲めに或ハ勢焰を割がれゝの恐なき能ずと雖も、肉に由て生るゝ者は肉なりにて、結果ハ事物の真相を表ハし愈の伝道の好機を備ゆるの方に御坐候、只智識にあらず文学にあらず聖靈の大靈に由て働き得るや否やに御坐候、故に今日の有様を以て機を見て進ミ時を知て守り、攻守宜敷を得バ将来二年の中にハ大勢を一変すべき儀と堅信仕候

愚生一身の処置に到りてハ未だ容易に断定致し兼テ大に熟考致居候、愚生に於ても深く日本伝道の将来を推想仕れバ不肖と雖も敢て任ずる所輕からず、現世紀の一大犠牲者たらんことを欲するの熱望ハ教々として難禁、されバ又その脩養する所も愈々深厚ならざるを得ず、一念此に到りて天旨何処に在るか判明し得ざる次第に御坐候

日本国 その真面ハ奴隸国に等しく正大豪邁の神氣果して何の辺に存するか、日本にリバイバルストなし、之レ真伝道者なきなり、嗚呼伝道も又死物 伝道会社何処に活氣ありや、基督新聞何処に光輝ありや、胆小氣弱トハ「ジャパニズメン」ノ事に候はんか

以上憤慨に堪へざる事も実に多く御坐候、されども憤慨の多きハ我が運動の領地の広大なる所以と思直し申候、兎角人間ハ自己の勤勞を省ミルノ薄くして命運と境遇に向て憤怒を抱き易きものに候得は、此ノ点に向てハ深く自反仕る精神ニ御坐候、偉大ならんことを欲するハ迷の始めに候はんか、されば我をして正直忠信ならしめんことを以て終身の祈禱と可仕候、先者近来の疎遠を謝し尊況を伺ひ奉ること如此に御坐候、艸々拝頓

十一月廿二日

奈須義實

新島襄先生

案下

二伸、時下御自愛專一ニ奉祈候

779

十一月二十三日

横田安止

①京都市上京区 同志社学校 同志社学校
②東京々橋区南鍛冶町四番地 茂林館ニテ
急ぎ ④墨

拝啓候、陳者先生御上京被遊御座候爾後ハ、生ハ大ニ御玉体ノ御安否如何ニ掛念當タナラズ致居候ニ、何ニの幸か、此ノ氣候愈々寒冷を増スニモ係ラズ御安康ニ被遊御座候トノ幸報ニ近頃頻ニ相接スル事ニ御座候ヘハ、心実ニ歡喜ニ堪ヘズ幾分力安心仕りて相暮居候、然ルニ今日先生ノ御風邪御様子を承り実ニ驚き申候、重き御病状ニハ無之ト相承り申候ガ果シて然ルヤ否ヤ、此ノ寒氣日々増スノ不順ノ氣候ニ御座候ヘバ実ニ御氣遣申上居候、是レ或ハ先生ノ此ノ社会ノ大風怒濤ニ反抗シて過度ノ御働きの結果ニハアラザルヤト遙察シ仕居候、此ノ時候ノ不順ノ時ニ御座候ヘハ、又タ東京ハ殊ニ氣候不順ノ土地ニ御座候ヘハ御氣遣申上クル事一層甚シク御座候、委細ノ御病状切ニ承り度御座候、徳富氏カ在京ノ事ナレハ氏カ満腔ノ誠実を尽クシテ先生ノ為メ万事相図ラヒ呉レラル、事ト遙察シ居候故ニ、此度ノ御病氣ニ付テモ幾分力安神致処モ御座候トモ、先生ノ御身体ノ從來甚タ御衰弱被遊御座候上ノ事ナレバ御氣遣申上ケザル得ズ、素より万事先生ノ御周到ノ御注意ノ中ニ行ハレ居ル事ト深ク信シ居候モ、御身体ノ御保養ノ一点ニ至リテ

ハ其ノ猛志御剛毅ト相並行致兼ね、其御事業ノ運転ノ局面如何ニ依リ、或ハ過度ノ御働き等アリテ御注意ノ及ハザル
事ハ有之ザルヤト窃ニ掛念ニ堪ヘズ罷在候、素ヨリ万々生ノ言ヲ俟タザルモ国家ノ為メ今一層御自愛御自重御保養被
遊御座度熱望熱祈ニ堪ヘザル事ニ御座候、当地ニ於テハ別ニ異状ナシ、其後ハ学校ノ万事ノ運転も宜敷シキ方ニ御座
候、今日ハ学校中ニモ先生御喜ヒ被遊ル、精神元氣ノ發達ノ兆候も或ル部分ニ相見ヘ申居候、寸毫ノ御氣遣も御無用
ノ事ト存居候、願クハ幸ニ全ク当地ニ付テハ御安神被下度候

奥様も至ツテ御壯健ニ御座候、生ハ御留守ニ時々罷出テ御馳走ニなり申居候、生ノ同級ノ者共も相誘フテ罷出テ申居
候、学校内ノ事ハ委細御帰宅ノ節縷々申上ク可ク御座候、(前ニモ申上ケ候如ク氣遣ハシキ出来事ハ全ク無之御座候)
返スノモ御療養專一ニ被遊御座度切望致居候、御病状も当地ニテハ曖昧ニテ相分ラズ切ニ委細承り度候、願クハ長
岡氏より先生ノ病状如何ヲ委細御報道被下度く切ニ思フ次第ニ御座候

十一月廿三日

横田安止

拝

新嶋襄先生
座右

780 十一月二十六日 大久保真二郎

①武勳秩父郡大宮町 ②群馬県前橋町曲輪町 不破唯次郎方扁 煩親展 ④
墨

〔欄外〕〔密・以下同〕
「少々秘蜜ノ願意アレハ人ナキ所ニテ御覧下サレ度奉願候」

東京御駐在ノ節一書奉呈セント存シ居タリシモ、大説教会前晚餐礼執行前ニ際シ非常ノ繁忙ニテ遂ニ本意ニ背キ、其内已ニ上叟江御発途ノ由承リ、御駐在所不分明ナレハ又々本日迄延引、昨日ニ至リ漸ク不破氏ヨリ不日当地江御出ニナルトノ返書ヲ得タレハ其レヲ当テニシテ本書奉呈仕候

弊地大説教会ノ結果ハ可ナリト不破氏杯ニ申シ置キシガ其レハ小生知ラサル前ノ事ニテ、実ハ中等以下ノ社会ニハ大分宜敷様子ナリ、故ニ上流門閥財産威權家ハ相携ヘテ反動ヲ顕ワシタリト、止ムヲ得サル事ト存候、唯惜ムラクハ之ニ乗シテ大収獲ヲナシタキ事ナレト共、如何ンセン秩父神社ノ大祭ニテ人皆狂シ、所詮本月中旬ヨリ来月中旬迄ハ伝道ハ出来申サス候

又伝道費ノ事ハ月々五円ツ、其内六部ハゴルドン氏ニ頼ミ、四分ハ上州ヨリノ名前ニテ其実先生ニ御出金ヲ願ワントノ話合アリタリ、又此後ハ月六円ノ株ハ上叟ヨリ直接ニ私ニ送ルトノ事ナリ、今度ハ大ナル不都合モアルマイカト存居候

借取分ケ御伺ヒ申シ上ケ度キ事アリ、秘蜜ニ神裁ヲ得タキ事アリ、願曰クハ一応愚意垂聴ノ榮ヲ賜ヘヨトハ別義ニア

ラス、此後ノ運動ノ方針是レナリ、東京ニテ拝謁後熟ラ勘考仕候ニ該合併問題ハ如何ニモ来ル五月ニ再発スル事ハアルマシト存候、勿論アノ儘ニテ放棄スル訳ニハ至ルマシケレトモ人皆之ヲ発言スルサヘ今日ニテハ余程氣ノ毒ノ様子ナレハ中々大勢力ヲ以テ再発スヘシトハ思ワレ申サス、実ニ小崎ガ小生ニ向ツテ言ヒシ如ク一時中止ノ報告迄ニ止マリ、其後ハ全力ヲ込メテ伝道会社ヲ奮ワスル為メニ組織変更等ニ會議ヲ費スニハアラサルヤト奉存候、小生ハ実ニ此外ニハ出テマシト存候、蓋(失礼ナカラ其实ヲ言ワネハ意味尽サ、ルユヘニ敢テ断言ス罪ヲ恕シ玉ヘ)小崎ナリ宮川ナリ海老名ナリ金森以下ハ勿論決シテ事業ニ経験アルモノニアラス、故ニ斯タル事ニ遭遇スルトキハ早クモヘコタルルモノナリ、昨年ノ大阪、本年ノ神戸會議ニ於テ意外ニモ案外ニモ若壯者ヨリ攻撃セラレテ彼等ノ心胆ハ全ク已ニ擊破セラレタリ、尤モ其當時ハ各一時勇ヲ鼓舞シテ之ヲ攻撃スルハシタモノ、何分若壯者ハ毫モ怯ルム事ナク恐ル、事ナク、愈叩ケハ愈激昂シ何レノ処迄ニテ止マルヘクモアラサレハ彼等ハ実ニ已ニ往生シタルナリ、夫レ迄モ同輩同席ノモノナラハ尚鼓舞シテ戰フ事モアランナレトモ何分ニモ彼等ハ老人ナリ、敵ハ壯士ナリ、之ト戰フハ決シテ彼等ニ取ツテ嘗レニアラス、否甚タシキ汚名ノ寒曝ラシスルニ異ナラサレハ彼等ノ愚ナルモ遂ニ之ヲ悟ラサルヲ得サルナリ、其レニテモ勘癪ハ止ム能ワス、故ニ此上ハ其巨魁タル其袋冠リタル先生ニ向ツテ一攻撃ヲ試ミ其袋ヲ抜カセ、正
面ノ戰場ニ呼ビ出シ、之ヲ当ノ敵トシテ戰フトキハ否正シク利多シトシテ遂ニ銚ヲ先生ニ向ケタル処、一撃ノ下ニ破
ラレ一敗地ニ塗レテ立ツ事能ワス、況ンヤ側面ヨリハ壯士益攻撃シテ先生ヲ以テ吾人ノ袋冠リトスル以上ハ、吾人ヲ
以テ汝等ハ実ニ人形ト思フヤ、吾人ニハ腦力ナク智慧ナキ死物トシテ智慧ハ悉ク皆汝等ノ専有物ト思惟スルヤ、若シ
果シテ然ラハ汝等ノ不明ハ実ニ憐ムニ堪ヘタリト遠慮モナク攻撃シタルカ故ニ彼等遂ニ戰フ能ワス、止ムヲ得ス今日
ノ有様トナリタルナリ、殊ニ伊勢ハ感情尤モ鋭ク又敵愾尤モ深キガ故ニ、已ニ既ニ大阪ノ會議ニテ其斯クアラン事ヲ

予知シタルナリ、故ニ尤モ小胆ナルモノ尤モ卑怯ナルモノハ実ニ日本ニ身ヲ隠ス事能ワス遠ク海外ニ迄遁ケ出タセリ、生ハ実ニ疾ニ彼レニ向ツテ兄悔悟セハ米國迄モ遁クルニハ及ハヌニ、広ヒ浮キ世ヲ心柄狭ク暮ラスハ兄ノ為ニ悲ムナリト諫メタル程ナリキ、彼等伊勢程ニハ敵愾モ深カラス感情モ鋭ナラス又彼程ニ卑怯ニモアルマシケレトモ、決シテ来ル五月大袈裟ニ合併ヲ主張スル丈ケノ勇氣ナキ事、胆力ナキ事、又經驗ノ力ナキ事ハ真実ニ信スルナリ、彼等ノ価格ハ実ニ此辺ニアラント奉存候、然リト雖モ万一ニモ彼等実ニ真ノ予想ノ外ニ胆力アリ氣力アリ鼓ヲ鳴ラシテ攻メ来ラハ彼等モ幾分力談スルニ足ルナリ、真ハ組合教会ノ為ニ一ヒハ斯タル人物アル事モ喜ブナリ、若シ其レ程ノ人物ナリセハ初メ決シテ植村当リヨリ眩惑サルマシ、植村ヨリ眩惑サル、人物ニ過キス故ニ、此度モ最早是レギリニコソノトシテ中止スルナリ、一時中止トカ何トカ名コソ暫時中止スル如クニ見セカクルモ、決シテ再発セシムル丈ケノ勇氣アルモノハアラス、其実ハ実ニ千万歳ノ中止ニ相違ナシ、決シテ心配ニハ及ハヌト奉存候

然ラハ吾人此後ハ暫ク枕ヲ高フシテ眠ルヘキカ、否々敵ハ先ニ天王山ヲ取ラントスルヲ悟ラサルヤ、吾人ノ敵ハ今ハ

組合教会中ノ貴族主義者否無主義者ニアラスシテ組合教会外ノ貴族主義者ニアル事ヲ知ラサルヘカラス、夫レ昔ヨリ戦ヲ司トルモノ未タ曾テ其亡滅ノ門ヲ防キ得タルモノアル事ナシ、蓋右ヲ防クトキハ災ニ左ヨリ起リ、前ヲ防ケハ後ヨリ起リ、常ニ災ハ備ヘサル所ニ起レハナリ、今ヤ吾人ハ常勝軍者、最後勝軍者キリストノ旗下ニ属スルカ故ニ、最終ノ勝利ハ疑ワスト雖モ、吾人ノ智ト勇トハ全クキリストニ貢キセサルヘカラサルナリ決シテ吾人ノ智勇ヲ通シテキリストハ勝チ玉ヘハナリ、然ラハ今日ニ当リ実ニ敵ノ攻撃ノ点ヲ悟リテ先ツ之ヲ制シ自ラ真誠ノ衝路ヲ悟リ自ラ防クト共ニ自ラ進攻シ、敵ヲシテ防戦ニ暇ナカラシメ活路ヲ求ムルニノミ汲々タラシメサルヘカラス、若シ此真衝路ヲ発見セスシテ無策ノ挙動ヲナストキハヨシヤ教会内ノ貴族ハ亡ホスヲ得ルモ之ヲ亡シ得ル^(サ脱カ)トキハ天下ハ皆貴族主義充滿

スルニ至ラン、是レ豈ニ策ノ得タルモノナランヤ、熟ラ思フニ、今ヤ一教教会ハ已ニ全ク合併ヲ断念シタリ、其全副ノ心ハ一ニ伝道ニ向ヘリ、組合教会ヲシテ互ニ争ワシメテ自ラ其間ニ乗シテ長足ノ進歩ヲナサントスルニアリト、然リト雖彼等モ全ク断念シタル如クニモ見セカケサルヘシ、又小崎、伊勢輩ヲハ成ルヘク動搖セシムヘシ、而シテ彼等ハ常ニ二途ヲ取ルナラン、若シ伊勢輩ヲシテ合併ニ奔走セシメ組合教会ヲシテ奔走ニ勞セシムルモ一策ナリ、伝道上ノ運動ヲ渋滞セシムルモ一策ナリ、又互ニ争ワシムルモ一策ナレハナリ、二ツニハ万一合併破レテ伊勢輩ヲシテ組合教会ニ人望ヲ失ワシメ、不平ヲ感セシメ、之ヲ甘ク奪フモ一策ナリ、彼等必ス此二策ノ中ニ往来シ、右スルモ左リスルモ自ラ損セサルヨフニ計ルヘシ、果シテ然ラハ吾人今日ニ当リ慧眼以テ之ヲ処置セサレハ或ハ一時貴族主義中ノ一寫トナサレンモ計リ難シ、是レ今日尤モ注意セサルヘカラサルナリ、タトヒ教会内ノ微々タル貴族主義ノ奴輩ヲ撲滅スルノ快アルモ已ニ全天下ニ貴族主義充滿スルニ至ラハ吾人何ノ面目アツテキリストヲ拝シ、何ノ面目アツテキリストノ代表者タルヲ得ンヤ

以上已ニ病根及其証候ヲ陳述シタリ、今処置方法ヲ論セン、一言以テ之ヲ蓋ヘハ、非、常、ニ、伝、道、ノ、速、力、ヲ、進、ム、ル、ニアリ、蓋シ身体中幾分カ腐敗分子アリ、動モスレハ惡熱ヲ醸サントスルモノアリト雖モ、健康十全ナルトキハ之ヲ圧シ、漸クニシテ■全ク消散セシムルヲ得レハナリ、今教会ニ滋養ヲ与フルトキハ僅微ノ腐敗ハ化善スルヲ得レハナリ、然リト雖モ一步ヲ進ンテ其細絛ニ躓レハ自由思想平等主義ヲ快ク伝道セサルヘカラス、今組合教会内ニテハ此主義ヲ有スルモノヲ頑固トシ、尚宗派心アルモノヲ固陋トスルノ風勝ヲ占メタリ、今后ハ此主義ヲ有セサルモノヲ秘息セシメサルヘカラス、公然ト我レハ宗派心ニ充滿ス、コングリゲーシヨナリズムニアラサレハ實ニ日本ヲ救フ能ワサルナリト信スルナリトノ言顯ワシヲ以テ、我教会内ニ全勝ヲ得セシメサルヘカラス、而シテ此思想ヲ以テ組合教会内

ニノミ勝ヲ制スルニ止ラス、此主義ヲ以テ伝道シ組合教会外則全日本国ニ勝ヲ制セシメサルヘカラス、其然ランニハ当ニ如何ンスヘキ

第一伝道会社ヲ我党ノ手ニ掌握スルニアリ、近頃小崎輩該社ノ組織ヲ變更セントスルニ意アリ、真大ニ之ヲ賛成シ置キタリ、吾人ハ此機ニ乗シテ之ヲ掌握セサルヘカラス、全体組織ハ幾百篇變更スルトモ、今日ノ如ク松山、大沢、宮川輩ノ手ニアラシナハ決シテ活動スル事能ワサルナリ、唯ニ活動セサルノミナラス禍害ヲ醸ス事已ニ歴史ノ証スル所ナリ、サレハ吾人ノ今日之ヲ計画スヘキハ尤モ急クヘキハ此度此人則担任者ヲ替ユルニアルノミ、吾人ハ今日予メ其候補者ヲ定メ、イザ来ル五月大会ノトキニハ兎角ノ事モナク容易ク其人ヲ選定シル様同志中ニ巧ミニ計リ置カサルヘカラス、決シテ彼ノバイブルクラスノ輩ニ与フヘキニアラス、是レ実ニ組合教会ヲ一新スルノ策ナリ、先生其人ヲ選定セヨ、真已ニ広津ト横田ニハ申通シ置キタリ、何分ニモ其御選定然ルヘカラント存候、真ノ知ル所丈デモ上告セヨトナラハ、真ハ阿部磯雄可ナラント、若シ万止ム^(安・以下同)得サル事情アルナラハ小崎トシ之ヲシテ書生頭ニ養ヒ立テサルヘカラス、然レトモ之レニハ幾分ノ教育ヲ要スル事ナレハ或ハ阿部ナラハドーデアローカト奉存候、然レトモ阿部連モ何分宗派心薄カリソーニ小生ハ考ヘ申候、唯適當至極ト言フ人ナキユヘニ先之ヲ考申候、広津ナラハ此上ナシナレトモ何分位置ニ不足アルヨフニテ万事不都合ナラン、阿部ヲ主幹ニシテ横田ノ如キモノヲ竊カニ書記ニスレハ重々ナリ第二ニハ毛武ノ部会ヲ活動セシメ部会伝道ヲ盛ニスルニアリ、今別科四年ヲ卒業セサレハ伝道サセヌ抔トハ些ト窮屈ナリ、苟クモ信仰慥カニシテ幾分ノ勢力アルモノハ遠慮ナク部会伝道者トナスニアリ、東京ノ如キハ数ヶ処ニ講義所ヲ設置シ盛ニ伝道セサルヘカラス、今日迄ノ如ク内ノ戦ニハ人見輩モ大ニ尽力シタレトモ以來ハ成ルヘク外ノ働キニ力ヲ尽ス様是非先生ヨリ深く御示シ下サレ度実ニ祈リ奉リ候、尤部会ニモ會計ノ困難等モアルヘケレトモ、六分ノ助

ケモアリ、又実ニカヲ伝道ニ入ル、トキハ決シテ一ケ年五百円ヤ千円ノ金ヲ得ルニ難渋アラス、其難渋ナルハ全ク不精神ヨリ起ルト真ハ実ニ考ヘ申候、願曰ク武毛ノ部会一致シテ今後活発ノ運動ヲナス様ニ御示シ下サレ、又此伝道上ノ運動ヲ以テ凡テノ内輪ノグヅノヲ庄倒スルヨフニ、又其平等主義平民主義ノ活氣ヲ以テ非宗派主義合併主義ヲ其人等ノ所謂開化主義ヲ沈睡セシムルヨフ一挙万得ノ処置致シタキ事ニ御坐候

第三ハ伝道師ノ製造是レナリ、今日迄ノ如ク岡山ヤ今治辺ノ煙草屋ノ丁稚トカ蒸氣問屋ノ小僧カニテハタトヒ卒業シタレハ迎決シテ今日ノ伝道ハ六ヶ敷候、其レ迎モ人数少キハ又其上ノ疵ナリ、生ハ今日ヨリ見込ミアルモノハ悉ク神学校ニ送ル積リナリ、願曰ク御合ミ置キ下サレ各地ヨリモ成ルヘク多数送り出タス様仕度候、然ルニ其レニ付一言々上スヘキハ同志社ノ試験ハ甚タ輕薄ナリ、願曰ク武毛部会ニテ試験シタルモノハ直チニ採用スル様ニ致シ度、然ラサレハ偶々難渋ノ中ヨリ資本ヲ拵シラヘテ出^{リヨヒ}試験出京都シテ試験ニ落第シタルトキハ一方ナラヌ難渋ナリ、其等ノ恐レアル為ニ初メヨリ出京セヌ人モ尠カラス、故ニ陸海軍等ニハ凡テ出張試験ヲ行フナリ、同志社ニテ出張試験スル事ハ出来ヌ事ナレトモ、各地ニ伝道師アリ牧師アル以上ハ之ヲ部会位ニ委任スルハ実ニ天然ノ便利ナリ、此便利ヲ利用セスシテ却テ輕薄ナル試験ノ下ニ遙ルノ呼出タスハ不都合ナリ、人ヲ得ル能ワサルノ方ナリ、願クハ来年ヨリ能ク御協議ノ上、科程ヲ定メ責メテ武毛丈ケナリトモ部会ニ御委任下サレ度奉願候

第四小崎輩則合併連ヲ痛ク攻撃セサル事ナリ、強ヒテ攻撃スルトキハ之ヲ放逐スルノ実トナリ、一致教会ノ肥料ト相成可申、唯彼等ニハ位置ヲ与ヘスニ矢張我教会内ニ封鎖セサルヘカラス、然ランニハ第一攻撃セヌ事ナリ、第二位位置ヲ与ヘサル事ナリ、第三伝道ヲ盛ニシ組合派ノ宗派心ヲ遠慮ナク若壯者ノ中ヨリ唱道スル事ナリ、右ハ小生実ニ厚ク考想スル所ニ御坐候、勿論甚タシキ間違ノ事アラン、唯理由ハ御教ヘ下サルニ及ハサレトモ右四方ノ計策中ニ就テ可

否ノミ御漏ラシ下サレ度、万一神算ニ叶フ事アラハ速ニ御運ヒ下サレ度奉願候、何トナレハ真ハ実ニ今日ハ中々容易ナラヌ時節、若シ此後十年間ヲ経過スル内ニハ大ニ日本ノ主人定マリテ再ヒ動カス可カラサル有様トナランヲ恐ルレハナリ、グリーキ教、ローマ教、監督教深ク恐ル、ニ足ラス、況ンヤ僧侶神官ヲヤ、然リト雖モ一致教会ノ如キ、実ニ似テ甚タ非ナルモノニシテ大ニ今日日本人民ノ智度ニ適スル如クナレハ実ニ甚タ恐ルヘキノ大敵ナリ、吾人ノ備フヘキハ是レニアリ、願曰ク吾人ハ非常長足ノ進歩ヲナシ決シテ四千万人ヲシテ彼等ニ与ヘテハ吾人ノキリストニ対スル責任防クヘカラサルナリ、願曰クハ心情錯乱、前後混乱、唯御推読又死罪ヲ恕シ玉ヘヨ、恐々謹言

十一月廿六日

大久保真二郎

拝

新島大先生閣下

侍史函丈

781

十一月二十六日

時岡恵吉

①長岡町大字阪の上丁五十一番地 ②東京府京橋区南鍛冶丁四番地 茂林館
閣下 ④墨 ⑥封筒裏書「式号」、(長岡消印)十一月二十七日イ便、(前橋消印)十一月二十九日ロ便

今朝喜しき音をなしたる此手も今夕は此音をなすの止を得ざるに至りたり、即ち一致教会云々の事にて有之き、此度

田村、石原の両氏長岡に参り一運動をなさんとて明廿七日着岡の趣き如何致したるものなるや、ニユーエル教師にも
談じ、又広津兄にも談ぜんとて来岡を促し置き候、然し方所の渋谷善作〔北条〕（高橋善作〔氏ノ事〕）氏及び彼が本家は非常なる富家なる
を以て会堂をも新築致しても一運動を試みんとする意気込なる趣き承り実に驚き入たる次第に有之候、小子斯る事も
やあらんと前以て小崎教師に相談致し置き速に御決定可然と催促仕候得共、同氏も御多忙の御身体ゆゑ今日の次第と
相成候、実に勢を逞ふして是非長岡を捕らんと御勵み有之候、〔度脱力〕就ては閣下如何致すべきや、御熟考なしくだされたく
伏而奉願上候、又至急小崎氏にも御熟談ありて其趣き御返事被下度奉懇願候、ニユーエル教師も閣下の御意見御聞合
て後ち御取扱ひあれと申され候ゆゑ傍以て御意見御伺ひ奉り候、尚委細は不日御申上べく候、右は大略如斯に御坐
候、敬白

十一月廿六日認む

時岡恵吉

新島総長

閣下

十一月二十七日

時岡恵吉

①長岡阪上町五十一番地 ②東京京橋区南鍛冶丁四番地 茂林館 閣下
 墨 ⑥封筒裏書「参号」、(長岡消印)十一月二十六日ハ便、(前橋消印)十一月二十八日ハ便、本文末尾「廿七日認む」とするのは「廿六日」の誤り

目下御病氣は如何御坐候や、日夜氣遣ひ 神様に熱心祈禱仕候

教会内部も先づ〳〵万事整頓仕候ゆゑ一身上に付き少々相談有之新潟に参り申し候処、広津兄の御勸を蒙り同氏同道にて新発田に至り、原兄を御尋ね申して其帰路兼而約束致したる金曜日なれば与板に立寄り説教仕候処、五十有余名も集り近頃盛会にて有之候、其翌土曜日帰岡仕候得バ懇切至らざるなく、周到至らざるなく、全文愛に溢れ坐に感涙を催す処の閣下の玉章有之、余の事にて拝読之を久ふし、又読返し〳〵て之も又数回仕候、其以后今日に至るまで毎朝祈禱后聖書と〴〵もに拝読仕候、然し之を^行為すにあらざれば閣下の御意にあらざと終身汲々之を務めんとて味へば味ふ程喜を得申候、故に是より向ふ安息日毎に一つの御誠を一題として小生が味たる真味を教会の兄弟姉妹にスソワケを仕度心得にて、来る十二月一日安息日には汝の眼中に敵を存する勿れの御誠を尙兄弟姉妹と^共に俱に味ふ心得に御坐候、拟本月十八日新潟に参り、広津兄に御目に懸り種々御教示にも相成、又血肉の及ざる憐愍を以て宛がら実弟と均しく取扱れて帰り申候、其節新発田に参り原兄にも御目に懸り四方八方の御話の末吾儕三人は尙一身の如く尚一体の如き運動なさんとして、以后隔月一回巡回致して此度は長岡に両氏御出に相成、小生が伝道の有様を窺ひ注意忠告

致し、次回は新潟新発田と斯様の相談に定り申候間、御喜び被下度奉願候、長岡も教会所が町端にして且つ六疊敷二間而已なれば目今頗る狹隘を感じ申し候間、此度中央は〔蓋〕転じ余程盛さんに致度く、其移宅式として来月九日頃に致し、彼是以て長岡へ新潟新発田より御出になるならん、斯の如き閣下の児輩は睦しく暮らし居候間、尚時々御教示被下度、小生屹度胆に銘し 閣下の御意を奉報度希望に御坐候、必ず小生を御忘れ無之様奉願候、ニユーエル教師に少々神学上の質疑及び英語を研究致し度より御相談仕候得共、未だ以て御返事無之故、閣下願くば御一言を御添へ被下候得、小生の幸福と奉存候間、何卒御一言御添被下度至急奉願候、小子は非常に困難なる点もあれば都合により阪上町五十一番地に借宅仕候間、以后御玉章は右の宅宛にて御辱ふされ度奉願候、尚外に嬉しき者は同志社の生徒と名のつきしもの十名内外、今新潟県下に有之候間、彼輩と計り同志社の為神の為同じ運動致し度きと広津氏も三輪氏も御考のある事なり、是も不日好結果あるならん、追て委細は御通知可仕候、右は御返事まで、草々不備

明治廿二年十一月廿七日認む

時岡恵吉

敬白

新島総長

閣下

二伸、草稿の儘なる失敬は御高恕有之度奉願候

十一月二十七日

徳富猪一郎

⑤ 森中章光亨（孔版）

〔河・以下同〕
川島〔醇〕氏ニ明朝面談可申、その都合ハ追て可申上候

肅啓、前橋御安着ノ貴報ニ接シ先ハ安神仕候、島田氏との御会話至極結構と存し申上候、慶応義塾ニ先着セラレサル都合ハ最充分ナル注意ヲ要スル儀勿論と存シ候、小生川島、松方二氏への面談ハ篇斗熟考の上何れとも決行可仕候、或ハ屢バスレハ疎セラル、ノ恐レモ少しく之レアル可ク候間、其の都合ヲ慮カリ兎角決行可仕候、上州の方ハ飽迄も知事書記官等に尽力する様御迫り相成候方尤モ可然と存候、川田ハ御承知の如く幾分か慶応義塾ニ近き人ナレハ此人ヲ揺がすニハ松方伯ノ助言モ勿論ナレトモ、先生ノ御面談尤モ有力ナリと存候、巨大ナル物体ニハ従て巨大なる槓桿ヲ要ス、時下日ニ最冬に向ふ、幸ニ多少の情実ヲ擺脫して十二分御節養千祈万禱申上候、書不尽言、勿々拝具

十一月廿七

徳富生

新島先生

〔和五郎〕
福田生ハ御用ニ立ツヤ、御遠慮ナク同氏相応ノ事御下命ヲ乞ふ

784

十一月二十八日

新井 毫

①山田郡大間々町

②前橋神明町

関農夫雄方

平安

④墨

益御清祥奉賀候、却説、帰山後義捐金募集ニ着手致候処、各部落ヨリ追々相纏リ、来月六七日頃迄ニハ何分之結果相分リ可申候、額面ハ不多モ人頭ハ多数ニ可相成候、弊地方之事情稍小閑之機ニ相成リ候ニ付、地方有志者親ク音容ニ接シテ直ニ欧米之趨勢ヲ知悉仕度ト申ス輩モ有之、就テハ来月二日ヲ期シ一小会ヲ当町ニ相催シ先生之御臨会ヲ煩度、鉄陸居士御相談之上御心組之日取御定置被下度候、尤モ明日我郷之人深沢集作氏出橋拝舘可仕候間、委玉^(曲)同人ヨリ御聞取被遊度候、小生モ三十日ノ晩迄ニハ出橋拝晤可仕候、書余拝姿之節可申上候、草々不尽

十一月廿八日

新井 毫

新嶋大人

梧右

再伸、福田氏ニ別紙同様御致声是祈

785

十一月二十八日

住友吉左衛門

⑤写真

拝啓、時下寒冷之候愈御安康奉欣喜候、然ハ貴社大学校設立ニ付、寄付金三千円差出シ可申内江、先般金壹千円相送り、猶本日金壹千円当地第一銀行江相渡シ置候間、同行ヨリ御請取被下度、且残額金壹千円ハ追テ御廻金可致候、此段宜敷御承知可被下候、先ハ右得貴意度如此御座候、勿々頓首

明治二十二年十一月廿八日

住友吉左衛門

新嶋襄様

786

十一月二十八日

時岡恵吉

①長岡阪ノ上丁五十一番地

②東京府京橋区南鍛冶丁四番地 茂林館 閣下

④墨

差急き御通知仕候、サテ田村、石原両氏御来岡に相成候に付ては、^{〔北条〕}方所の渋谷氏と俱に御運動の御様子は前以て御通

知仕たる次第にて有之、就而は此方も可然反動を試むべきと存じ、広津兄に電報を相かけ、同氏とゞもに待ち設け、今や／＼と思の外彼等は長岡に参りても小生等に会合致さず、如何なる風の吹き廻しなるや直に新潟に趣れたり、尤も○○先生を機器として運動と致してとて至極シークレットの策を取りシ処、○○先生深く小生を信じ事の実を以て語る、得たり賢しと、其策小生を破りくれんと彼に命ずるに凡て時岡に相談致し、俱に御相談可致べきならば御運動可仕と返事致さしめ候処、彼大に驚き聊か失望の所へ新潟より広津兄来岡致したる事が彼等に漏れしものなるや、早々方向を変して新潟に趣きたり、然し其帰路必ず長岡に立寄るものなり、尚油断のならざる事あり、尤も長岡を取る能されば三条を本城として加茂、ツバメ等に伝道致さんと考へ居るものならん、尚後日の運動を窺て委細は通知可仕候、右は大略まで、早々頓首

十一月廿八日

時岡恵吉

新島襄殿

閣下

787 十一月二十八日 徳富猪一郎

⑤森中章光写（孔版）

肅啓、今朝河島氏訪問仕候処、同氏曰く、既に二回程松方大臣ニ面会したるも寛話ヲ得ず、幸本日は是非会合す可れ

ハ其節ハ屹度話し合ひ置く可しとの事ニて有之候、小生よりも一切の事縷陳イタシ、且つ小野光景氏へも云々と申し候処、右亦委細承知セリ必らず松方伯ニ左様申し通す可との事ニて御座候、猶又谷元、種田の両氏ニハ既ニ河島氏より話し置き又た谷種二氏よりして他の銀行会社員等ニモそれ／＼話し可致との事ニて有之候旨被申候間左様御承知被成下度候、小生モ近日中ニ松方大臣ニ催促ニ（借金の催促ニアラス）出掛け可申、併し右ハ都合見計ひの上可致積リニ御座候、河島氏ハ必らず我党の頼ミニナル程の尽力ヲナシ呉候ナランと被存候

貴地の都合ハ如何ニヤ、前橋、高崎等の豪富輩ニハ如何ニヤ、知事ハ果して尽力仕候や、乍序新井氏地方モ未だ片金モ出て居り不申（其他の地方ハ一回若しくハ兩回の募集ヲナセリ）候間、同氏平生の大言ニ対しても是非今回ハ多少の収獲^{〔獲〕}可有之と存候間、何卒先生より確乎取り留メタル寄付金取り纏め差出候様同氏へ御談し被成下度と存候、時候柄折角千重万重ニモ御自愛ヲ乞ふ、勿々不一

十一月廿八日

徳富生

新島先生

玉案下

788 十一月二十九日

金森通倫

①京都 同志社 ②東京々橋区南鍛冶町 茂林館 至急親展 ④墨

昨日之教授議會ニて是非一人之日本教師必要なる故、小野氏を今聘する事叶はずば其代リニ沢山氏を聘し度と之議起り満場一致ニて右之議を社員ニ要求する事ニ相決し申候、就ては先生之御滞京中ニ右之事御運び被下様偏ニ奉願上候、右は教授議會之決議を具申仕候

先日来科目改正之議起り随分異説も多く前途如何ニ成行くや、甚だ心配仕居り申候

十一月廿九日

通倫

襄先生

789 十一月三十日

中山光五郎

①下野国佐野町 基督教講義所 ②上州前橋神明町 関農夫雄様方

多田先生ハ世上之交際に就てハ貴下之故を以て懇篤に御世話被下候得共、道を御求め無之誠に遺憾に御坐候

貴翰拝読仕候処、今回大学之為御来前之よし、何卒主之大能之聖手貴下之上にありて御目的之幾分なりとも達せらるゝ様奉祈候、御多忙をも不顧小弟之起居御尋被下候段難有奉感謝候、其後へ意外に御無音誠に赧顔之至に御坐候得共、御高免被下度候、陳者当地之近況何分にも好運に至らず、御説の如く不動之山の如くに御坐候処、之を動す之信仰乏しき事のみ遺憾やる方無御坐候、然るに小弟か此地にあるは神の聖旨と奉存候間、小弟に代りて当地之為御働被下候者有之迄ハ飽迄も尽力致度決心に御坐候、目今之処にてハ佐野の中にてハ老人の求道者無之有様に御坐候、僅かに式三之高等小学生不怠聴聞に來り候、其近在にて兩三人求道罷在候得共、何分活発なる信仰心を惹起さしむる事を得ず、実に残念之至に御坐候、去廿三二十四兩日の夜ハ東京聖書の友旅行委員崑瀨泰三郎氏來佐、説教并に幻灯會を開候処、流石に基督教を聞くことを好まざる佐野人民も幻灯を見んか為に始めて四五十人の大人來り候得共、其後絶へて來る者無之候、昨日は幸にも近在鐙塚村の人小林と云へる兄弟來訪せられ親しく道の事を談話仕候、右兩人の中、弟の方は大に信仰有之、よく祈をなし熱心に親戚友人等に勸をなす様子に御坐候、神は此人を以て小弟の働き口を開かせ給ふかと大に喜悅罷在候、小妻参りてよりハ愈々御來訪被下候人の為に大に益する所有之候、此に一の困難なるハ、是迄本局より家賃老円つゝ御送り被下候処、今月よりハ無沙汰にも不送、小弟方にてハ是迄の預算にて講義所を新に借受、之か為是非共式円の金を要し候処、前ニ御送りの老円迄廃せられてハ実に差当り困難を極め申し候、此義は伝道委員に篤くと申談せしかとも何分にも成就せず、御序の砌一寸御一言の御助成願度奉祈候、先ハ小弟之近情略報申上候、尚々玉体御自愛之程幾重にも奉祈候、拝復

十一月三十日

中山光五郎

790

十二月一日

徳富猪一郎

⑤ 森中章光写（孔版）

肅啓、昨日島田氏^{〔三郎〕}来社横浜ノ事ニ付彼是打合せ仕置候、今日は松方大臣相訪ひ大分長きインターウユヲ致シ、種々情
実打明け懇談仕候処、同伯も殊の外熱心にて是非近日横浜連中ノ重立たるものを呼ひ寄せ談判可致、又た東京ノ方
も聊か方寸ノ中ニアレハ安心可致との事にて有之候間、左様御承了ヲ奉請候、島田氏の事も松方大臣ニ相談し致置
候、小生ノ見ル所ニヨレハ島田氏の松方伯ニ就テ望ム所アルモ、松方伯ハ實際ニ於てハ熱心の度強きが如し、島田氏
ハ派書云々と申すも同伯ハ決して其位テハナキカ如し、先ハ右迄、草々不一

十二月一日

徳富生

新島襄先生

玉案下

十二月三日

松本勘十郎

①西群馬郡倉ヶ野町

②前橋神明町

関農夫雄氏方

閣下

④墨

謹テ拝呈仕候、此程ハ久々ニテ拝眉種々御懇命被仰付忝奉深謝候、承候ニ拝別之夜御発病被遊、種々御加養被遊御快
 方ニハ被為入候得共、御疲勞之旨嘸々御旅中御不自由之御議御推察仕候、其後如何ニ御坐候哉、御案事申上候、折角
 御自愛被遊候様奉希上候、右は以参^{〔上〕}可相伺之所、内外多忙之事有之、為メニ失敬仕候、右御伺迄如斯ニ御坐候、
 勿々謹言

明治廿二年十二月三日夜

松本勘十郎

新島尊愛兄

再伸、此程不破兄来倉ノ節一寸伝達仕候、彼ノ大学寄付金第一銀行領収書ハ其都度京都へ差送候哉ニも相考
 候、是又御序も候ハ、御尋被遊被下度、^{〔永〕}長岡兄へ御達し置可被下候、尚小生相応之御用向等も候ハ、無御遠慮
 被仰付可被降候、不二右御粗末ニ候得共、難耄羽拝呈仕度、不破ヨリ御届申上候、御笑留可被降候

792

〔十二月〕三日

徳富猪一郎

⑤ 森中章光写（孔版）

肅啓、嚴寒ニ向ひ平生壯健の人スラ難耐候所、マシテ先生ニ於テハ定めて御苦勞奉察上候、陳レハ友人渡辺政徳氏今般拝謁申上度との事ニテ候間、御接見の上可然御示教奉願上候、同氏ハ熊本の人にして年来小生懇親のモノニテ御座候、先ハ右迄申上候、匆々拝具

三日

徳富猪一郎

新島先生

793

十二月四日

広瀬源三郎

① 京都寺町丸太町事務所 ② 前橋神明町 関農夫雄様方 親展ヲ乞 ④ 墨
⑥ 日付は封筒裏書による、「同志社大学事務所用箋」

一 翰啓呈仕候、長々ノ御旅中嘸御心勞ノ御事ト奉遠察候、玉体ニハ御疲も無之候哉御伺申上候、偕テ過日来屢々永岡

氏マテ書面ヲ以テ申入置候義、定テ御了承被降候ト奉察候、其后上州地方ノ景況時々伝承仕り欣喜雀躍罷有候、過月以來は金森氏も殆ト隔周間ニ一度ハ下阪被成、昨日田中賢道氏も着阪ニ付、今朝十時ノ汽車ヲ以テ下阪被致、兩三日滯阪ニテ着々歩ヲ進メ一垆を試ミル胸算ヲ以テ出發被致候間、帰京之上ハ其模様聞込尚申上候間、御承引可被下候、劣生義は京都ニ在テ書面ヲ以テ諸々ニ督促ニ従事仕居候、何分去ル三十日ヲ以テ第二回募集期モ既ニ畢リ候ハ、是ヲ機トナシ未納者ニ催促ヲ試ミ、或ハ第二回中取扱ノ勞ヲ採リ吳候諸新聞社ヘ報告ヲ促シ、送金ヲ頼ミ込候、就テハ今晚金森氏ト面会仕り候節第三回募集之義ハ諸君ノ御意見如何御定メニ相成候乎ト御尋申入候処、未タ御決定無之由ニ付、劣生ヨリ先生ガ元江相伺吳様御示ニ付、此義御伺申上候、至急否哉御意見御洩し被下度、御賢意ヲ拜シ金森氏ニ申伝候間宜布奉願候、先は右之段愚札ヲ以テ如斯御座候、艸々敬白

在上州
新島先生
研北

京都ニ於
広瀬源三郎

十二月四日

杉山重義

① 碓氷郡原市町

② 前橋神明町

関農夫雄様方

④ 墨

其後之御容体ハ如何ならんと御案申居候処、杉田兄之来訪及び不敷より之通信にて漸次御快方之御様子承り大に安心仕候、乍然何分寒さ之時分殊に風烈き御地之事に御坐候へバ充分御用心御加養被下度奉願上候、実ハ先生東京に御滞在中夙く一書呈上不仕候てハ不相濟訃に御坐候へども、最早遠からず親く拝顔を得候事と存じ御無音致し居候処、過般御地へ御着之報に接し直に罷出候へども、折悪く御不快にて拝顔を得ず空く立帰申候、然るに御地より帰り見れば御懇切なる御書面相達し居候て親く拝顔を得たる心地し難有奉拝誦候、御教諭之趣、一々小生之心肝に徹し難有奉存候、御地之御模様も大に都合宜き趣何卒充分之好結果有之候様致し度蔭ながら神前に祈り居申候、当上州地方伝道之事は不敷、杉田等より申上候て御承知被下候事と奉存候、何卒益拡張致し度きものにて此事のみ願ひ居候○已に御承知之通り今回ニューヨークにて開きしアメリカンボールド之年会にては我日本之評判は頗る善く益々伝道之規模を擴張致し候筈、此際日本に於ても尽力充分に憤發致し不申候てハ不相成儀と存候○又同年会にコンミッテより提出したる日本一致組合両教会合併事件取調之顛末を見るに或る宣教師等が言ひし如く熱心なるものに非ず、甚だ淡泊なるものゝ様に見受けられ候、十月廿四日発兌之クリスチアン、ユニオンに詳しく記載いたしあり候、シエツド氏方より御取寄せ御一読被下度奉願上候○此間不敷兄より申上候と存候が、此際我よりクリスチアン、ユニオンに投書して一致事件に関する我がポジシヨンを明にすることは必要と存候、先生之御考ハ如何ニ御坐候や、御伺申上度候

○小生も今回之トラブルに付てハ一時は余リ之事に途方を失ひ失望落胆致し候へども、其後大に勇氣を快復し、今は天命之在る所を悟り大に喜び居申候、今回之事變によりて益々コンセンレーションの精神を増加せしは大なる神之恩恵と存候、然し御承知之通り弱信之者ゆへ動もすれば失望之淵に陥り候事も有之候間、何卒御祈禱之際小弟之為にも御記念被下度奉願上候○此間は結構なる品、杉田氏へ御托し御送り被下難有頂戴仕候、半田も大喜びに御坐候、時下追々寒氣相増し居国家之為め斯道之為め充分御加養被下度切望之至ニ不堪ず、恐々拝白

十二月四日

重義

拝

新島先生

梧下

795

十二月五日

伊勢時雄

- ①(消印)BERLIN, N. W. 7/12, 89 ②Japan. Kiyoto 西京寺町丸太町上ル
③絵はがき ④墨 ⑥表書は黒インク(消印)KOBÉ, 23. JAN. 1890

日々寒氣ニ相向申候処、御安泰被遊御座候や否、何卒御加養奉希上、迂生無事ニ罷在、本年中当地滞在、来一月二十日イタリヤ出帆可仕、三月初旬帰朝ノツモリニ御座候、何方江も宜敷奉願候

十二月五日

ベリンヨリ

伊勢時雄

796

十二月九日

広津友信

①新潟市旭町通老番町十七番戸 ②東京京橋区鍛冶町四番地 茂林館 ③は
がき ④墨 ⑥(消印) 越後新潟、九日ニ便

拜啓、時下御壯健ニ被為在候哉、先日は御違和之由承り爾後御音信ヲ得ズ如何被遊候哉、甚々懸念罷在候、先月廿五日附ヲ以テ成瀬松次郎方へ一書呈上致し御相談申上候次第有之候処、日々御返書相待居候へ共、何ノ御音信モ無之候故、御落手相成候哉否ヤ心配致居候、先日県下ヲ巡回致し、一昨日帰宅又々明日は五泉地方へ罷越ス積リニ御座候、^{〔長〕}永岡ニ俄然起リ候事柄ハ時岡君ヨリ詳細御報道申上候事ト存候故、別ニ小子ヨリ不申上候、意外ノ事ナリシモ都合能ク治マリ、爾後ハ随分注意ヲ要スル次第ニ御座候

十二月九日

797

十二月九日

広津友信

①新潟旭町通壱番町十七番戸 ②群馬県前橋神明町 関農夫雄様方 ③はがき ④墨 ⑥(消印) 越後新潟、十日口便

拝啓、時下如何御消光被遊候哉、其後久敷御起居如何ヲ承ラズ候へば甚タ懸念相立申候、先日は東京成瀬方へ宛テ
縷々ノ書状呈上致シ候へ共、御返書ヲ未タ頂戴不致、其後茂林館ニモ書状差上候へ共、是茂又返書ヲ得ズ候ニ付、如
何相成候哉ト心配致居候ニ付、乍失敬一寸御伺申上候、長岡ノ事ハ時岡君ヨリ詳細御報道相成候事ト信シ候へば略筆
致候、早々

十二月九日

798

十二月九日

小野英二郎

④墨

拝啓仕候、時下愈々御壮健之事ト奉拝察候、小生義客月廿日東京ヲ発シ京都へ一泊海陸無異、同廿五日帰着仕候ニ

付、乍憚御安慮可下候、^{〔教脱カ〕}此之節ハ数ヶ年之不在ニテ家郷モ大ニ旧觀ヲ変シ、且ツ父并ニ弟打続キ此之世ヲ逝り、墓地モ未タ乾カサル有様ナレハ、帰着以来此之週間ハ見ルモノ聞クモノニツケ非常ノ感慨ヲ起シ申候、老母モ未タ五十年ヲ越サルモ小生不在中数々大病ニ罹リ候ニ付、嘸カシ衰弱之様子ナラント予想致帰着致候得共、精神ハ実ニ強健ノモノニシテ、全心国家ニ対スルノ企望ヲ以テ充サレ、小生モ喜悅此之事ニ御座候、併シ本年春以来父及弟之重病ニ際シ万端之家事一身ニテ管理致候様子ニテ精神ト体力トハ仲々比較致サス、小生帰着致シ俄カニ安心致候モノト相見ヘ、廿七日夜より又々病床ニ伏シ一時ハ随分心配致候得共、漸ニ快方ニ赴キ兩三日前より全快致候、先ツ大ニ安心致候、併シ母モ平常奇弱ノ身体ニシテ、妹二人第一人之セ話有之候コトナレハ、小生ニ於テモ過日御話申上候如ク明年より直チニ海外ヘ再航スルハ情ニ於テ忍ヒサル処有之候、且ツ小生不在中田地家具等ヲ低当トシ、^{〔抵〕}五百円程之負債致居候都合ニテ家計上よりモ随分困難少カラス、残念ナカラ彼之一件ハ先ツ断念罷在候、小生モ過日拝顔之節略ホ陳述致候通り之精神ニシテ、間接ニナリ直接ニナリ先生大学設立ニツイテハ^{〔合〕}応分之力ヲ脇セ度キ企望ニ御座候間、兩三年之後、欧州ヘ派遣セラル、御内約ヲ以テ御協力仕ルヘキ方法ハ相立チマシクヤ、一応御協議申上候、小生モ数日前当地有志者輩より当柳川ニ設ケアル橘蔭学館^{〔共立尋常中学校〕}ノ教頭方ヘ是非暫時ナリトモ出ツルヘキ相談ヲ蒙り、未タ帰省之日モ浅ク^{〔熱〕}熱考中ニテ返答ヲモ延引致度候、併シ小生モ当地方ヘハ長ク滞留スルコトヲ好マス、一日モ早ク小生目的ノ事業ニ従事致度キ精神ニ御座候間、若シ他ニ然ルヘキ地位アラハ直チニ当地出發之決心ニ御座候、小生ハ日本今日ノ時勢ハ經濟変遷ノ時代ナルコトヲ信シ、今ヨリシテ機械製造起リ蒸氣運般開^{〔敷〕}クルト共ニ貧富ノ間隔アツレキヲ生シ、彼ノ欧米諸國ノ大問題タル社会上ノ危難ヲ生スルハ必然ノ勢ナレハ、現今ニ於テ此ノ困難ヲ未タ予防スルハ經濟上一大問題ニシテ、之ヲ解クニハ第一精密ナル經濟上ノ調査ヲ要シ、第二ハ經濟上と論ノ嚮向ヲ一定スルコト御座候、即^{〔二脱カ〕}

チ政府民業ヲ管理スルノ区域及ヒ其ノ管理ノ方法性質等ヲ明カニシ、斯ノ如キ重要ノ点ニ於テ与論ノ嚮向ヲ一定シ、然ル後種々ノ危艱ヲ生スルニ從ヒ之ヲ矯正スルトキハ欧米諸國ノ如ク手工ヨリ機械工ニ至ル變遷ニ際シ激烈ナル社会上ノ變動ヲ生スルコトナク、日本ニ於テハ貧富ノ間隔ト其ノアツレキヲ避ケ、平和且ツ健強ナル經濟社会ヲ生スルノ途ニ進メタキモノニ候、概言スルニ、小生ノ愚見ニテハ日本現今ノ時勢ハ十八世紀末代ノ英國ト時期ヲ同フスルニ係ハラス、社会ノ性質ヨリ論スルモ其ノ境遇ヨリ推スモ大ニ嚮向ヲ異ニシ、英米學者ノ所論ヲ以テ直チニ之ヲ応用スルニハ随分困難アリ、危^(險)礮多キカ故ニ日本ノ門^(ニ)題ハ日本ニ於テ解明致度キ精神ニ御座候、依テ向後兩三ケ年間ハ日本ニ於テ静カニ勉勵致シ充分ニ經濟上ノ事實ヲ摸究シ、然ル後兩三年間欧州ニ航シ學理及ヒ実地ノ制度等ヲ調フルコト返テ実益多カント信^(ラ)セラレ候、今日迄ハ未タ日本現地ノ事實ニ明カナラサルカ故ニ彼ノ地ノ制度ヲ調ヘ工場ヲ視ルモ觀察ノ主点ヲ定ムルニ苦ミ有益ナル思想ヲ得ルコト少キカ故ニ、若シ日本現地ノ困難ヲ知り、彼ノ地ニ再遊セハ実益アル觀察ヲ為スコト少カラサル義ト信シ申候

右者小生平日ノ思想ヲ陳ヘ候儘御推読可被下候、小生モ前文申上候通り当地有志家ヨリノ相談ニアツカリ進退ニ苦ミ候際、現地ノ事情委細陳述^(マ)之致シ、先生ノ御意見ヲ乞フ申候、願クハ心得之為メ先生之御内意ノミ至急御知セ被下度奉願候、最早京都ヘ御帰着ニ相成候哉、其之後御病氣如何被遊候哉、随分時下御自愛御保養之段切ニ奉願候、頓首

二十二年十二月九日

新島襄先生

梧下

柳川ニ於テ

小野英二郎

拝

799

十二月九日

時岡恵吉

①長岡阪上町五十一番戸 ②東京市京橋区南鍛冶町四番地 茂林館 ④墨
⑥日付は封筒裏書、新島筆「五号」、小崎弘道書簡（時岡恵吉宛）同封

其後石原氏村上より御帰路一場の演説会を催シ可なり都合もよろしく有之候、其際彼が将来長岡ニ於ける運動如何を窺ひ申候処、明年六月頃までは別段運動をなざるものゝ如く有之候、然し明年は明治学院邦語科卒業生二十名計りあるよし、之等は派出すべき場所を今日より定めざるを得ざるなり云々、就而は方所の高橋君と計り見附町に運動を試むやも知るべからずと話し候得共、油断のならざるは〇〇先生に対し非常に歎心を買はんとすることに有之候、兎に角明年までには我教会の基礎を固め一つの独立自給教会を設立し得る信仰充分にあれば、先づ／＼憂べきに有之間敷候間、此段御通知申上候

次に御依頼申上兼候得共止を得ざること起れり、即ち伝道会社より一向御送金を怠るゝことに有之候、小生非常の貧生ニて負債もあり着身着儘にて昨今は其れだに破れる次第なり、然し子路は之を耻ぢずと小生も又之を耻ぢず〔ち恥カ〕、只糊口を防ぎ得ば幸甚なるに今は之だに不充分を感じ処より、少々激烈なる督促をなしたる処より別紙の如き返事来たり、実以て迷惑仕候間、閣下御便もあれば会社の運び今少し完全せざれば小生の不幸而已ならず、小生が社会ニ対し不信用を取る原因なり、小生社会に不信用を取れば即ち伝道の進歩を害することに有之候、実は小生此経験は有之候故、非常に行末を恐れ居候間、願くば閣下が一己の意志として小生が申上たる如きことと明言せず、只閣下御一己の

御意見として至急御会社に御注意奉希候、小生ニ於ては之より迷惑の甚しきもの無之候、右は御通知旁々御依頼まで、早々不一

新島襄殿

閣下

時岡恵吉

二伸、愈々中央の或大なる家屋を借受け新運動を試む心得ニ御坐候、尤も現今信徒は三十有四名のみなれば五円計りしか集金無之き故、充分のこと六ヶ敷有之候、其上ニユーエル教師の寄付を仰ぎて会社ニも義務（義務）をも尽さるを得ず、旁々困難なれども今暫くの辛抱ニ有之候、今日は信徒一同勇み励み進で動く勢なれば小生は只万歳々と祝ふ而已に有之候、十九日は広津兄も原兄も移転式旁々御来岡の都合なり、追て其様子御通知可仕候

〔同封〕

十二月五日 小崎弘道（時岡恵吉宛）

本月二日御認之花轡只今落手仕候、伝道委員か長岡伝道に不熱心なるか如き御小言を頂戴致し候得共、是は甚た解し難き事に御座候、金員送達之如きは元来事務専務之人の担当する所にて、小生之如きは其事務を執行するものに非ず、唯伝道上の相談計画を為すのみにて御座候、此辺兼て御誤解なきやう願度候、兎角送金之遅滞せしは不都合の事故、早速京都へ催促可仕候、但し此遅滞を生したる一原因は長岡教会よりの出金如何程なるや判然せざるによる、大兄の御書面には一錢も出来けざるやう聞れとも執事よりの書面には毎月四円位出来るとの事なりしか、此辺如何至急御教会之御確定を乞ふ所に御座候也

十二月五日

小崎弘道

十二月十一日

宮川経輝

①大阪玉江町壹丁目 ②東京麹町区土手三番町廿番 小崎弘道氏届 ④墨

⑥封筒裏書「先生之所在地ニ早速御通送ヲ乞フ」

寒威追日相増候処、益御壮康被遊御起居候哉御案申上候、大学資金募集之義ハ如何なる御都合ニ候哉、保守運動之爲め定而幾許か之妨害有之可申と遙察仕候、兎ても一挙ニ成功を期す可き之事業ニも無御座候得ば、昨年之如く神戸又ハ其它重適之地ニウイントルクオルトルを御定め遊し候て、嚴寒中英気で御養生遊し、春陽回復之時を待て田中、広瀬等之諸氏を両翼ニ備へ、筒先揃へて御運動被遊度希望仕候、将又同志社内部殊とニ先般可得貴意置候諸点ニ付てハ御帰西を待て十分御協議を願度志望ニ御座候間、余り寒威之加はらざる内ニ御引上被遊度奉願候

今茲ニ先生之御補助を仰き度一事差起候間、御邪魔とハ奉存候得共鳥渡御一考を煩し度候、兼而小生共数名相謀り設置致候泰西学館も漸次好都合ニ進歩致し来り、目今之処ニて生徒も百廿名余御座候而来年末ニ至り卒業之者六七名も有之申候、而して学年之三分強ハ更ニ基督教会ニ列り候者にて中ニハ同志社ニ入り正科神学を専脩致さんとの志望を有し候者も御座候、右之次第なるが故ニ将来ニ於てハ一良校と相成り可申と存じ大ニ相樂、尚亦一步を進め校内ニ商業科を置き当地人民之需要ニ応じ度存念にて其計画ニも取懸居申候、然るニ爰ニ一大難事と可申ハ授業料之外資本とてハ一錢文も無御座、毎日之経費ニも差間候次第ニ御座候間、先日来社友を募り明年よりハ理財の機関も滑カニ運転可致と奉存候へ共、当春来月々不足を生じ、今百五十円程之金を得ざれば此節期^{〔季〕}を経過し難く実ニ当

局者ハ非常之困難を相極め居申候、若し先生之御手ニ於いて何ニか御補助ニ預りて宜敷フオンド、又ハ御友人より之委托金ニても御座候はゞ幾らか御割与被成下候事相叶申間敷哉、ネーゲーチフ之方ニ候得バ御返書を煩ハすニ及不申、只幾分之シムバシーを賜り度書外拝鳳を期す、艸々拝具

十二月十一日

宮川経輝

新島先生

801

十二月十一日

大久保真二郎

①武埴秩父郡大宮町

②群馬県前橋町神明町

関農夫雄殿方

煩信展

④墨

主ノ御恵ミノ下ニ益御機嫌御坐遊ハサレ奉恐悦候、過日ハ卒度少々冒患ニ御罹リ遊ハサレタル様ニ拝承仕リタレ共、最早御快復ノ御様子或ハ例ノ蕎麦ノ崇リニハアラサルヤト奉遙察候

来ル金曜日頃ニハ御出京ノ御日取りノ由伝承仕リタレハ、一日御見舞旁参橋仕度山々ノ望ミナレトモ、此節迄ハ延引御出京后一日何卒御召寄セ御覧下サレ候ヲ得ハ、何ノ幸カ之ニ加ヘ申サン、実ニ満腹ノ願ニ御坐候

当地ノ信者新井市三郎ト申スモノ県会開設中(十二月末迄)東京ニアリテ該処ヨリ浦和迄日勤スル事ニ御坐候、御出京后ハ必ス参堂仕ルヘケレハ丁寧ニ御覧下サレ度奉願候、本人ハ余程殊勝ニシテ誠実又明カルキモノナリ、未タ勇氣

ニハ乏シケレトモ他日ハ必ス平民主義ノ良將トナルヘシ、殊ニ秩父郡テフ一ノ無尽蔵ヲ有スル事ナレハ能ク之ヲ用ユルトキハ他日ハ必ス大学校ハ該レ一人ノ力ニテ支持スルニ至ルヤモ計リ難シ、御心置キナク御覽下サレ度厚ク奉願候

松本萩枝ト申ス信者本日東京仕候、是レハ晩年ト申セシ儒者ノ娘ニシテ高等女学校ニモ教員タリシモノニテ、随分京地ニハ知己多ク、又尤モ淡泊ニシテ尤モ活潑ナルモノナリ、当地ニテハ門地モアリ人モ能ク知りタルモノナリ、来年ヨリハ神戸伝道学校ニ入レヨト進メ居リ申候、本人ノ志ハ往々ハ一女学校ヲ起シタシト云フニアリ、是レモ必ス平民主義ノ女丈夫タルニ相違ナシ、御心置キナク御覽下サレ度奉願候、二人共ニ勾々ノ事ナレハ未タ信仰ハ若シ、願曰ク在京中ノ御保護一向ヲ奉願候

茲ニ一ノ速ニ神裁ヲ得タキ事アリ、早速参堂シテ神裁ヲ得ントモ存シタレ共、一応先ツ書中ヲ以テ御伺ヒ申上ケ御出京后ニ参上スル事ニスルモ遅カルマシト存シ、此義ニ及ヒ候トハ別義ニアラス、当秩父郡甚タ世ノ文明ニ遠ク遺利山ノ如ク、遺利ノ無尽蔵トモ云フヘキ程ノ事ナリ、今之ヲ利用スルトキハ畜ニ秩父郡ノ伝道ヲ輕快ナラシムルノミナラス、又直チニ全国ノ伝道ヲ輕快ナラシメント奉存候、真ノ心頗ル動キ而シテ自ラ裁スル所以ヲ知ラス、蓋シ之ヲ利用シタキハ真固有ノ病根ニハアラサルヤラ恐ル、ト共ニ、之ヲ利用スルノ道ヲ講セサルハ懶惰ニハアラサルヤトノ疑問交モ刺衝シテ止マサレハナリ

誠実ナル求道者兩三名来リ曰ク、我輩炭商組合ヲ造リ東京ニ炭ヲ商ハント、仍テ其詳細ヲキクニ相場ハ東京ニテ五十錢ノモノ当地ニテ廿錢ナリ、本山ヨリ当地迄、当地ヨリ本庄迄、本庄ヨリ上野迄ノ諸運賃ヲ合計シテ拾錢ニハ足ラヌヨシ、故ニ合計三拾錢内ニテ東京ニ達スト、故ニ東京ニ購買主アルトキハ忽チ送り出タサル、事ナレハ願曰ク、信者

ノ中ニ其売捌キヲ担任スルモノヲ汝ノ（生ヲ指ス）世話ニテ週旋セヨト、真ハ早速徳富方ニ申送り其運ヒ方ヲ依頼セリ、然ルニ尚其詳細ヲ聞クニ炭ノ産所ハ当地ヨリ壹里半程山奥ナリ、自ラ山ヲ買ヒ自ラ之ヲ焼クトキハ尚ホ利益アリ、全体山ハ立木共ニ壹町歩ノ代価五円位ナリ、其レモ教町或ハ數十町ノ大坪ハ壹町ノ価ニ円位ノモノナリ、故ニ其地ニ於テハ薪炭ノ如キハ只ヨリ二番目ニテ、当地マテ壹里半程ヲ馬背ニテ送ル中ニ此前述ノ相場トナル、然ルニ今ヤ此壹里半ノ処ニ馬車道開ケルノ時將ニ熟セントス、若シ此道一ヒ開クルトキハ從來ノ価ハ忽チ十倍スルニ至ルヤ明ケシ、過日モ百七十町ノ山林、尤モ麗ワシキ立木ヲ有スルモノ土地立木共ニ三百円トカニテ手打ニナレリ、之カ為ニハ成ルヘク土地ニ金ノ落ツル為ニ千七百円以下ニ売ラヌ申セト余程世話人杯アツテリキミタレ共、遂ニ一狡猾残忍ナル豪商ノ手ニ落チタリト、是ノ如ク道開クルニ先ツテ一二ノ威力アルモノ金力アルモノト連絡シテ先ツ其利源ヲ抑ユル故ニ道開ケタレハトテ残ル処ハ実ニ糟粕ノミナリ、願曰ク、先生（生ヲサス）我輩貧民ノ味方トナリ我輩ヲ濟ヒ玉ヘ、是ノ如キノ山林ヲ今日ニ当リ之ヲ買ヒ込ミ、今ノ立木ハ忽チ炭トナシ、其跡ニハ梨ヲ植ヘサセ、其利ヲ以テ一ハ吾人貧民及秩父一般貧民ニ生業ヲ与ヘ、一ハ以テ伝導^道及教育ノ費ニ当テ玉ヘト、真熟ラ之ヲ聞クニ實ニ是レ事實ナリ、真モ實ニ是ノ如キヲ遺利ヲ^独特リ該残忍狡猾ナル豪商輩ノ手ニ私セラレテ、彼等ノ肉体ノ快樂犬豚ノ快樂ノ資コレヲノ種子火事ノ卵ノ製造ノ資本ニ供スルハ實ニ残念ニ存スルナリ、一ヒ若干ノ資ヲ投シテ此限りナキ山林ヲ買ヒ置クトキハ独リ炭トナリ多クノ貧民ハ之カ為ニ生業ヲ得、福音ヲ聞ク事ヲ得、而シテ之ト共ニ該芸娼妓蜜売^密詐偽博徒等ノ製造費トナルノ代ワリニ全国ノ伝道費トナリ教育費トナリ、殊ニ同志社大学ノ如キハ遂ニハ其純利ノミニテモ支持セラル、ニ至ルヤモ計リ難キナリ、然ルトキハ是レ非常ノ幸福ニシテ万民ノ喜ヒ之ニ過キタルモノナシ、キリスト真ヲ此地ニ遣ワシ玉フハ決シテ偶然ニアサルヘシ、凡テノ事凡テノ人ノ心ヲ知り玉ワイエス、何ゾ偶然ニ茲ニ派遣シ玉ハン、

必ス真ノオヲモ充分ニ伸暢セシメン、為ニ真ノ慷慨ヲモ充分ニ実ラシメン、為ニ特ニ茲ニ遣シ玉ヒシ事ヲ信スルナ
リ

殊ニ真今日ノ身タル八方ニ向ツテ信ヲ失ヒ、天下人衆シト雖モ、真ヲ信スルモノナキノミナラス、真ヲ非難セサルモノナシ、真ト交ルモノハ信ヲ失ヒ、真ノ恰モ真ハコレヲ病ノ如ク人ニ恐レラレ人ニ嫌ラワレタリ、然ルニ此際ニ当
リ、唯独リノ先生ハ大胆ニモ真ヲ捨テ玉ハス、大袈裟ニモ真ヲ用ヒ玉フ、狂瀾怒濤ヲモ忍ヒ、誹毀讒謗ヲモ厭ワ
ス、却テ無類ニ真ヲ愛シ、真ヲ憐ミ玉ヘリ、真タトヒ薄恩タリトモ如何ソ、此大恩ヲ忘却セン、一ヒハ天下ニ向ツ
テ先生ノ明ヲ照ラシ、辱知ノ万一ニ酬ヒサランヤ、是レ真曾テ京都ヲ発スルニ当リ遙カニ先生ニ向ヒ竊カニ神ニ
誓ヒタル事ナリ、当地ニ到着后日々ニイエスハ真ヲ導キ玉ヒ、益々好都合ヲ益快樂ニ希望ニ進マシメ玉フニ依リ実ニ
感謝ニ余念ナカリシニ今ヤ又此ノ事アリ、真ハ或ハ実ニ大ニ發育セシメ玉フノトキカトモ思ヒ申候、然レトモ又或ハ
幾分カ恐レナキニモアラス、敢テ書面ヲ以テ一応御伺申上候、大ニ取紛レタル事アリ、書流シノ儘恐レ奉リ候得共、
読返シモセスニ奉呈仕候、若シ明細ニ御聞取下サルノ御心ニナラハ、御出京后早速御呼ヒ下サルヘク候、又其レ迄ニ
ハ尚実況等モ明細ニ取調ヘ置キ申ヘク候、書ニ臨ミ情緒錯乱裁スル所以ヲ知ラス、恐れ々々、謹言

十二月十一日

大久保真二郎

拝

新寫襄殿

十二月十二日

中山光五郎

① 栃木県佐野町

基督教講義所

② 前橋神明町

関農夫雄様方

④ 墨

謹啓、此間ハ不破兄を以て御慰問被成下候段万奉謝候、其際同兄より拝承仕候処、先生御病床に被遊御坐候由、乍蔭心痛只神に恩恵を祈る而已に御坐候、兼て当地近来之様子不破兄に申上候ニ付御聞取被下候事と奉存候、十日小崎大兄と偕に栃木町を巡回御相談申上候処、未だ栃木にも確實なる保助者無之に就てハ寧ろ佐野にて働く方得策なるへしとの事に御坐候、小弟も素とより其覚悟に御坐候、且又九日不破兄に依頼して沓人の受洗者有之しか同人素至極熱心にて、又其兄小林孫平君ハ改進黨員にて少しハ人の卒先家^{〔中〕}に御坐候処、同君も弟周次郎君の改悔以来其品行以前に變りし有様を看て至極感服、今ハ自身も信者になるの覚悟にて度々小弟方へ参り申候、此兩人ハ当安蘇郡の灯台となる人ならんと奉存候、尤も兩人の住居ハ佐野より沓里程東なる鎧塚村^{アツ}に御坐候

諸先般家賃之事に就て申上候処、御心配被下不破兄を金五円御遣し被下候段奉謝候、是迄本局より送りし金沓円ハ本局書記か誤りて送らざりし由申来候、依て御送付被下候金円ハ御受可申答にハ無之筈之处、小弟去々月結婚、新に家庭を設くるに付て物入多、且家賃之義申候次第に誤られ困究^龍致在候、然るに此度幸にも俄に演説会を開く事に相成、此入費更に用意無御坐甚心痛仕居場合なるを以て、御送付の金円拝借いたし度候次第に御坐候間、右様御了承被下度奉希上候、当地も是迄ハ斯る入費更に出る所無之甚た困難罷在候処、是よりハ小林周次郎兄等も入会いたし候ニ付、幾分か出る所あらんと存候、先は先般之御礼旁當時の概況申入煩御一覽候間、御海容被下度候、頓首再拝

十二月十二日

新島先生

台下

中山光五郎

尚、閨妻より宜敷申上候

803

〔十二月〕十五日

徳富猪一郎

⑤ 森中章光享（孔版）

肅啓、御塩梅如何ニ候哉、本日ハ一寸参上仕度存候得共、
恕奉願上候

〔解〕十一月三日〜十二月十五日「國民之友」発行停止
開停以後殊の外多忙にて、本日は欠礼可申上候間宜敷御推

大磯行の事ハ如何、御決意被成候哉、何卒篤斗御勘考奉煩候、到底持久の策ヲ以て動かすにあらされハ能ハさる可し
と奉存候

若し御決着被成候ハ、松柏ニハその旨御通知被成置候てハ如何、尤モ右ハ余り激越ニなき様少く手短かに柔和に御認め被成候ハ、無此上大幸と存候、同伯も目下胸中の波瀾層出仕候間、或ハ当リマケ可致と掛念仕候故ナリ、冗言開
陳、勿々不具

明治22年

十五日

徳富生

新島先生

玉案下

804

十二月十六日

時岡恵吉

- ①長岡阪ノ上町五十一番戸 ②東京京橋区南鍛冶丁 茂林館 閣下 ④墨
⑥日付は封筒裏書による、新島筆、「六号」

十九日移転式は成べく盛ニして永く長岡全体ニ於け(る脱カ)基督教の感覺を一変致し度き心得ニ御坐候、広津兄も原兄も御出なるべしと信ず

病褥に御認め被遊候玉章落手拝誦、之を久ふし之を数回ニシテ転た愁然、不覺涙を催さしめたるものは閣下の御様子にて有之候、今更云ふ迄も無く又恐れ多き事ながら尊体は閣下のものたらざるを信ず、願くば自愛せよ、小子ハ過日辱ふされたる玉章は永く紀念せざらんと欲するも得ざる能ざる事有之候、伝道何の眼中一人の敵だに存する勿れ云々、含味熟考篤く自ら深く願みて路加伝六章三二に对照したるものを本月第一安息日に教会に分与仕てより更に愉快を増し、其次は少々身体の勞を覚へ旁以て或る一人に説教を願ひ、第三安息日即ち十五日、嗚呼此十五日聖安息日ハ小子が特筆大書すべき生涯中の一大事跡と奉存候、他人に病あるならは己れ自ら病る如せよ云々の御教示を羅馬書

十二章十五に引照致して説教致したる処、教会内は何となく澄しく頭を垂れ涙を以て祈る姉妹有之候、兄弟も姉妹も互に喜愛を供にし度きと語りツ、教会を帰られたり、然し憐なる悲むべき一人の兄弟と姉妹あり、彼等は主を憂しむる行為あり、彼等は小子をし三日も病褥に伏さしめたる行為あり、去れども尚愚にも大能の神を欺んとし、小生を胡魔化さんとし、教会を再び惡魔に渡さんせしも未だ実正とても無く、小子も之が教会全体の注目せざる前に、彼等が全く亡さる前に未発の内に防ぎ度と思ひ、同夜使徒行伝十九章爾曹信者となりしとき聖靈を受しや云々の保羅がエペソ人に起したクエツシヨンを起し、躬自も忘れて三十分計りも話せし時、彼の婦人が一声罪人を許し給と絶泣せしと同時に彼の男子も胸を打て涙に声の出ざる計りなれども、漸く祈り申候処より教会は一同声を挙げ、暫しは只物凄き計り、只神恩を感じ覺ず涙と供に神恩を奉讃候、小子は非常の労疲を覺しもの故、直に家に帰りし処、兼て熱心なる婦人との兄弟と尋ね来り、婦人は旧ひ信徒にして経^{〔験〕}験もあり老練家なるが為に小子の疲勞を慰め旁相談もありて来りしものなるが、他の兄弟は何も安心がなひ、聖靈を受けしやの御問に答難きと悲む故、小生も慰め、姉妹も慰め、且つ祈り申候処、大声を發し、嗚呼讀むべき哉、彼は喜ぶ事極り無き程にて、一人にして数回の祈をなし、怡^{〔殆〕}ど狂せるものゝ如く有之候、其れより夜十一時過ぎになるも、己れ喜べば人を喜すべしと手分をして信徒の家を尋ね、或は二時過ぎに及びたるものありたり、小子が眠りたるは一時前后にてありしが、翌朝未明に前夜の罪ある婦人涙を以て、昨夜眠る能ざるなれども、今全く赦されたと信ず云々と云て話^{来り}したり、其より同十二時まで人絶えず、十二時后小生或〇〇先生の宅を尋ねし時ハ高慢なる不遜なる行為あれども、吾眼中敵なし、只だ彼の為に祈るべしと思ひ祈りし時、彼娘は父の為に悲み不覺涙ニむせぶ計りなり、斯くて高慢なるものも稍々くぢけし処へ、昨夜の熱心なる婦人も来り、他の熱心なる兄弟も来り、申し合せずして自ら一の祈禱会なるもの聞き、一家族とも涙ニくれ申し候、其

為に午后五時半〔補〕「ニなりたり其れより」拙宅ニ歸りし処へ閣下の玉章を載〔載〕き読來読去りて転断腸の思あらしめたり、依
 て教会に一周間の祈禱会あれば、取敢ず臨会致し祈りて閣下〔ママ〕に至れば、小子自ラ禁ズル能ズシテ喉フサガリ胸固りて
 暫く絶声したり、漸くにして又祈り終りて、小子不覺長岡自給教会の必要を陳べ、且つ自ラ負債もあるも、貧なる
 も、暫く此教会の為薄給も潔くする云々陳べし処、教会一同喜びたり、依て多分本月十九日移〔移〕転致し、少々費用も余
 分入りたるなれば明年に至れば自給教会設立し得るの幸福あるならんと喜びたる儘御報道可申上候
 只今御返事載〔載〕き難有奉存候、追々御病氣もよろしきよし、実に欣喜雀躍とは實際只今経験仕候
 閣下が御氣質として曖昧を惡む、尚蛇蝎より甚しきを知る、故ニ少々弁ずるの必要あり、長岡教会は其以前教会を導
 ざりし故ニ十七才の尤も経験ニも何ニも富ざる青年を執事としてありし故ニ、（小子が參岡以前より教会革命まで）伝道会社よりの間に出
 金高而已を報道して、支出口を示ざる処より、小子は出金高と支出口を合せ報道致したるより間違起りたるものな
 り、以后早速弁すべき事なれども、之とても其儘ニ致し置かれたるよし、然し目今は會計を身本ある人ニ撰〔元〕み、執事
 も改撰致したる故ニ斯々る不都合は有之間敷奉存候

新島襄殿

閣下

尚、将来運動ハ神ニ任セ可仕候、其結果は拝見致度次第御通可申候

時岡恵吉

①大和国奈良水門村

②東京々橋区南鍛冶丁四番地

茂林館

平信

④墨

其後の御動止奈何被為在候哉と心窃に御案申居候處、貴札御惠投正ニ忝ク拝誦仕候、上毛地方モ追々好都合に御進撃の折柄御身ニ御障害あり、遂ニ已むなく御引揚に相成候心事重々御遙察申上候、一上一下、一勝一敗マ、ナラヌ世運ニ御坐候、扱小身将来の方針に關し不相變縷々御開示被成、親愛重厚唯心肝ニ銘し可申候外ニ無之奉存候、且ツ多年東北地方ニ道を伝ふるの御計圖も拝承、願て此組合教会老輩の大先生が狐疑懊惱、妙なる風情あるも了知仕候、越後の長岡江は一人時岡恵吉ト云ル者ヲ差向けたる由、此事ハ已ニ御承知ニ候哉、実は先般来広津氏の通報如何ニあらむ乎と相待構へ候へども未だに無之、小生ハ大失望の極点ニあり、歲月ハ流レ去り半生の光陰去テ空ク、何トナク心情ヲ刺撃スルモノ不少、此頃徳富兄へも一書ヲ発し、同君等同志の者ニ一味之運動ヲ供にし（同君トハ曾テより意氣相投ジタル真朋ナレバ）予テ尊下ガ大計スル福音平和純白独立の精神ヲ以て社会上ニ相働ク方希望の旨ヲ相談致置候（元より鈍力ナレトモ）、已ニ如斯スレバ小身の従事する仕事モモ相變ヘザル可ラズ、是レ小身が苦痛ヲ感じ候事ナリ、何トナレバ伝道の急務は今の時ニ膺リテ小身の如キ者オモ狩リ出サントスル場合ナレバナリ

雖然熟ラノ小身伝道の経歴ヲ考へ来レバ、転タ失望スズンバアラズ、何トナレバ、兎角面白カラザル障害伴ヘバナリ、曩ニハ勢州ニニ往キ、^{〔符〕}驚力ノ甲斐ハ反テ、怪シカラヌ反報トナリ（今ハ彼等の粗忽明白ナレトモ）、今後尚奈良の如き沈遅寒冷（民心ノ状）ナル地ニ来リ忍堪尽力今ニ至リ、之ニ加ヘテ今春の一大不幸ヲ視ルニ至ル、抑々鍊達ハ発

達ヲ生ズルモノ乎、嗚呼聖旨奈辺ニ存シ小身ヲ如此ナシ給フ乎ト是迄屢々感ジ候へども、尊下從來の御垂誨、度胸ヲ寛大ニ致スベシト今日迄忍デ相働キ申居候次第ニ御坐候

擬徳富兄ハ往々迄モ新聞雜誌ヲ以テ、独立の政論ヲ唱道シ、之ヲ以テ斯民ヲ救済セントシ給フカ、將、我國のブライトトなり、一の政派ヲ結バント欲シ玉フ乎、「或ハ将来政務ヲ掌ニスル乎」是レ小子の同兄ニ相謀リ相尋ネタル次第ニ御坐候、小生同君等ノ志望ト、折ニ由テは同君等同志ノ驥尾ニ加ハリ一尽力仕り度志願ニ御坐候、而シテ同君よりハ未ダ返事モ来ラズ、由テハ、新潟県下伝道ノ確答今少し御猶予ノ程奉願上候、且又終世尊下ノ御志シヲ以テ志シト可致（仮令万分ノ一ニセヨ）、想フニ徳富兄モ同様ナラン、願クハ恐入候得共、小身方針ニ関シテハ徳富君トモ大至急ニ御相談被成下度奉願上候、小生ノ資格ハ実務家ニ天性有之事ト自ラ奉信候、先ハ不取敢乱筆御返事如斯ニ御坐候、草々頓首

十二月十八日

公義

拝

伯父上

貴下

○二白、京都ノ祖母上様モ先々御無事ニ被為入候由御放神被下度候

○御身ハ重々御用心偏ニ祈上申候

○エンゲージ一件ハ神戸ニ何トカ相謀リ可申候

○奈良ノ会堂モ図面出来致申候、然レトモ未ダ着手ノ場合ニ到リ兼申候

十二月二十日

金森通倫

④墨

貴書拜読仕候処、先生ニは其後引続御快方之由奉欣賀候、何卒乍此上御保養專一ニ奉願上候、扱て当地学校も僅かニ二三日を余す之場合、教員生徒甚だ繁忙をきわめ居り申候、然し先づ平穩にて何之風波もなく経過し候、或部分之教員ニ対して生徒之不滿あるは到底難免校病にて、色々困却之点も有之候へ共、先差したる事も無之して皆治り申候、教員会中にて別段変りたる事なく先づ無事之傾ニ有之候、然し先日より科目改正之議論起り、是ニは随分ヤカマシキ議論も有之候へ共、是れは左ノ七名ノ委員ニ托して取調べ中なれば来年ニ於て再び教授議會之問題と可相成節、右は〔之〕改正は最早同志社大学之一部たる理化部は弥一兩年中ニ開始となり、又政事經濟部も亦近きニ有れは神学部と合せて三学部之起るは最早近きニある事故、其ニ適する用意之学科ニ致すべき必要ありとノ点より起り候、多分一年位はチヤムル事ニ可相成と存候○田中賢道氏は先日到着ニ相成り、早速大坂之事を依頼致し、當時は同市ニ於て御奔走中ニ候、同氏之身上ニ付ては先生之御帰京を待ちて御計申上度存居候へ共、当年中ニ御帰京無之上は早速常議員会を開らき万事相談仕べく候、常議員会は来る二十三日ニ相開き可申候○先日之教員会ニは弥原田助氏を同志社神学部教師として聘する事に決しし、併せ牧師の任を依頼する事ニ決し申候、付而は小生より社員諸子へ右御相談申す事ニ相成居り申候○先日柳川の小野氏より玉翰参り候が早速御送り申候間御落手と存候、右ニ付ては已ニ御返書を御出し下され候や、何卒彼の人を失はざる様御注意被下度願上候

当方右はニ於ても先づ大坂を片附げ、其より他方へ手を出す心組ニ致居候、滋賀之方は段々手を出しかけ申候、京都へハ近く浜岡氏等と相談之上ト切上げ仕る覚悟ニ致居候、神戸は何分知事ノ冷淡なる為め今ニ手出し兼ね居り申候、学校も昨日ニて閉校致候故、今日より下坂可仕候右は御返事迄、早々

十二月二十日

通倫

襄先生

807

十二月二十日

松尾音次郎

①播州明石郡高和村

②上州前橋神明町

関農夫雄氏邸ニテ

④墨

拝啓仕候、時下加寒之砌御起居如何御座候哉奉伺候、随て小生事一時ハ医師の診察と云ひ彼是困却をきわめ居申候処、本月初旬より病勢頓に減却し目今の処殆快復の状態と相成り、声音の事も案外よろしく大声を発する事さへ避け申候へハ、通常の説話においてハ聊差支無之勢に御座候、右の次第にて大声をさけさへすれハ外ニ一切別条無之身分と相成申候上ハ最早一日の寒村に屈居するに忍ひす、決然応分の務め相尽し申度心願御座候、さりとて演説説教等のすん／＼出来申事ハ到底暫時断念せざる可からざる勢に候へハ、此一身ハ先づ学校教育の方に向くるより外至当の道無之と思考罷在候次第、如何御座候や、敢て先生の御教示を煩し申度候、且又御心当りの筋も御座候へハ何卒引立被

下様奉願候、既往ハ追ふへからず、明治廿三の新年と共に潔く一生の征途に上る事と相成候へハ重量の義御座候万々奉恐入候へ共、右よろしく懇願仕候、頓首

十二月廿日

松尾音次郎

拝

新島先生

閣下

808

十二月二十三日

広津友信

①新潟旭町 ②東京々橋区南鍛冶町四番地 茂林館 ④墨 ⑥封筒表書「四号」封筒裏書 新島筆「十二月二十三日付」

拝啓、過日前橋ヨリ御帰京ノ上直ニ御投し相成候芳書ヲ拝誦致候へば危篤ノ御病苦ニ御罹被遊候由真ニ驚入申候、何卒時候柄十分御撰養之程幾重ニモ奉願候、何日頃御出発京都へ御帰り被遊候御預定ニ御坐候哉、今度ハ上州地方モ都合不宜存候赴甚^(趣)タ御焦慮之儀奉存候、然シ必ス成功可有之確信罷在候、小子事来新以来日夜上帝ニ祈り、又智慮ヲ尽シ身勞ヲ厭ハズ、一方ニハ教会ヲ鞏固ニスル事ニ、一方ハ地方伝道拡張ノ為メニ、又殊ニ長岡競争事件ニ働キ、何事モ思フ儘ニハ不運、如何ニモ物事ハ一直線ニ仕遂ケラレズ、或ハ之カ為メ慨嘆悲奮^(憤)ニ勝ヘラレサル次第ニ候へ共、自ラ心ヲ和ケ氣ヲ謐^(メ)リ居、自家ノ分ヲ忠実ニ尽サバ何日カ遂ニ功モ成ル可ク信シ日々働居申候、何分金ト人トノナキハ

懐ハシキ至極ニ御坐候

其後教会ニハ規約定リ、小子ノ起稿ニ係ル規約通りニ通過シ、先ツ自由自治主義ノモノト相成候、故ニ以後ハ此習慣ヲ養成スル事ニ専ラ尽力スル事必要ト相成申候、如何ニ主義ハ善良ナルモ會員等ノ此主義ニ対スル習慣ヲ養ヒ美味ヲ感セシムルニ非サレバ永續スル事能ハズト奉存候、是迄ノ有様ヨリ申セバ組合会ノ方デハ余リ自由ヲ主張シ過ギテ氣儘トナリ、乱暴ニ至リ数人ノ専權トナリ遂ニ會員ハ倦ミ厭ヒシ有様ナリシ、是統御ナカリシ為メナリ、又一致会ノ方ハ何事モ大和田氏ノ引率スル儘ニナリ依頼心ノミナリシ、故ニ互ニ議論スル事モナク人数モ少数ナリシカバ、物事モ滑ニ連ヒ一体ニ信仰ハ暖ニ気分ハ和キタル方ニテ實際感情のニハ進ミタル方ナリシ故ニ、一タヒ合併スルヤ羊ノ狼ノ中ニ投シタルノ心地シタリトトカヤ、而シテ長老的政治ノ奇癖アリテ動モスレバ專斷干涉のニ陥ルノ風アリシ故ニ、組合會員等ニハ不快ヲ生シ来ラントセリ、已ニ幾分カハ生シタリ、而シテ實際組合方ハ議論家事務家ノ分子ナリケレバ相方教会ヲ相撲ノ土俵トナセシナリ、斯ル有様ナリシモ全体越後人士ハ自治自治の人種ナレバ自由自治主義ヲ唱フレバ直ニ之ニ応スルハ天然ノ美質ナルカ如シ、故ニ合併教会ヲ独立ト呼ビ、政治ハ自治自主々義ナラサル可ラズ、主權總會員ニ在リ云々主唱スレバ非常ニ喜ヒ之ニ和シ候、於是乎小子ノ提出セシ規約モ何事モナク容易ニ通過採用セラレシナリ

昨日者新規約ニ從ヒ委員ヲ改撰シ、来一月ヨリ実施ノ事ニ相成候、小子来新以来教会ノ状態ノ変リタル事ハ誰ニモ明ニユル^(ミ脱カ)ノ程ナリ、小子斯ク申スハ自家ノ功ヲ誇ルノ意ハ万々無之、只タ兄姉方ノ為メニ喜ヒ将来神意ノ最モ滑ニ行ハレ神ノ子タル兄弟方ノ發達ニ最モ便ヲ与ヘシカ為ニ感謝ト喜悦ニ満ツルノミ御坐候、又一体ニ信仰モ確實正當ニ赴キ暖ナル心情モ起リ候事モ事實ニ御坐候

原、時岡君方トノ交際ハ頻繁ニ有之、小子ハ其驥尾ニ付シ全県下ノ為メニ又同君方ノ地方ノ為メニ尽力ヲ不厭候、長岡事件之為メニハ是迄不勘苦心致候、過日二回県下要地巡遊致候際、各地ニ関係ヲ付ケ将来ノ事ヲ慮リ居候ヘ共前陳ノ通、人ナク金ナク、又本部新潟教会ノ是迄能ク固マリ居ラサ^リシ為メ墓々敷運ハズ、加之時候ノ為メ妨ケラレ候、明ニ申セバ小子今ノ時候ニ働クハ天時ヲ得サル者ニ御坐候、冬ハ何分通交自在ナラズ、来年四月頃ニ至ラサレバ交通モ自由ニ相成ラズ、故ニ小子ノ今日ノ境遇ハ人和ヲ未タ全ク得ズ、今方ニ漸ク人和ヲ得ントスルノ有様ニアリ、加之天時ヲ得ズ、地理ハ申に及バズ、然ラバ数ヶ月^越後ニ在リテ何事ヲ成シ得ベキカ、実ニ慨奮^憤ニ勝ヘズ候
去木曜日長岡ニ会合シ演説会ヲ催シ、又伝道拡張ト長岡目下ノ困扼ヲ理^メケルノ道ヲ講シ申候、長岡ノ事ハ時岡君已ニ御報道申上候事ト信シ候、今度一青年米國ヨリ帰國セシ長岡人ヲ依頼シ三条ニ道ヲ伝ユルノ端緒ヲ開キ度計畫致シ、未タ本人ノ承諾ヲ得サレバ急ニハ定リ難ク候、若シ右之事定ラバ柏崎ノ事ニ取掛ラサル可ラズ、而シテ五泉ノ方ヲ固メバ一寸全県下ヲ一握スルノ計相立チ申候、何レ来一月頃小子起稿シ、時岡、原君方ト連名ニテ越後伝道ニ関シ一文ヲ日本伝道会社ニ提出スル積リニ御坐候

今日勢、越後ハ各派垂涎ノ争地トナラントスルノ有様ニ有之候、已ニ其兆候掩フ可ラサルモノアリ、決シテ我儕ノ逸居放意ス可キ之時ニ無之、実ニ心苦シク御坐候、然シ越後人士ノ特質ヨリ見レバ自主自治主義ノモノ最モ適スル様御坐候、是非将来ヲ慮リ一運動可致好地ト被存候、然シ北國デハ成功ヲ晚キニ期セサル可ラズ、トテモ急速ニ浮上ル人質ニ非ズ、サレトモ自主過キテ誤テ暴挙ヲナスノ憂ハ有之候様被存候、是只タ小子ノ管見ノミ

日本全局面ヲ觀察シ、各派ノ間柄ヲ熟視スレバ、殊ニ一致組合ノ間柄ヲ見レバ、已ニ敵愾ノ氣ヲ帯ビ一軋競争ノ有様トナラントス、実ニ忌ム可キ卑劣ノ所為ト被存候、小子思フニ来春モ合併ハ出来サル可シ、サレトモ組合会ハ恐クハ

本年神戸ニテ確定シタル憲法ヲ直ニ組合ノモノトナシ、此規律ニ從テ運轉セントスルニ至ラズ候哉、若シ然ル傾アラバ我儕ハ早く意見ヲ定メ、神戸ニテ決シタル憲法ヲ尚ホ修正増補セサル可ラズ、而シテ自主自治主義ヲ尚ホ明瞭ニセサル可ラズ、然ル後伝道会社ノ組織ヲ改良シ、地方部会ヲ改良シ運動ヲ始メバ宜シカランカ、先生如何被召思候哉
今日原君御来新ノ筈、来ル廿六日ヨリ時岡、間霜、ニューエル諸氏ハ三条、五泉辺ニ巡回セラル、筈、小子モ都合ニ依リテハ三条ニ参リ会合セント存居候、時岡君は両三日五泉ニ止リ働キ成シ下サレ候様依頼致置候、成瀬夫婦、ヂャットソン嬢女学校教師方ハ三条ノ近傍燕町辺ニ廿六日出掛ケラレ伝道ノ働ヲナシ、又女学校ノ賛成ヲ得ラル、積リニ相成候、因之少々ノ運動始リシ事ヲ御承引可被下候

昨日通運会社ヨリ金貳十円送り来リ慥ニ落手致候、万端御配意ヲ煩ハシ真ニ有難奉存候、十三日夜御認ノ芳書ニ依レバ小子ヨリ差上候書狀御落手不相成、又先生ヨリノ書狀小子ニ参ラズ、奇怪ノ出来事ト存候処、去月廿五日付ノ愚翰ハ已ニ御落手ノ由大ニ安堵致候、依之小子ヨリ差上候書狀ハ悉ク御落手ノ事ト存候、先生ノ御手紙十八日付ノ分ハ其中ニ詩アリ歌アリ、又先生ノ御主義ニ関スル者アリ、委細十分ニ承知致候、是書ハ十八日付ニシテ廿二日ニ着、而シテ東京ヨリ御出シ相成候者ニ御坐候、其後上州ヨリ御差出シ相成候分ハ更ニ落手不致候、小子先生御宿所ヲ知リシハ基督教新聞紙上ニ前橋ノ関氏方ニ御止宿トアリシ故ニ御坐候、去木曜日長岡ニテ一通拝誦、又其翌朝一通合セテ二通拝誦致候条左右御承引可被下候

小子更ニ勉強ノ暇無之、故ニ渡航ノ準備出来不申甚タ困リ入申候、未タ独語ハ更ニ学バズ、又希臘語モ修メズ一意伝道ニ心身ヲ奪ハレ候、小子真ニ万能ノ才ナク一時ニ何事モ出来不申切齒ノ至御坐候、教会ニハ婦人会出来、又北越学館ニ学ハル、当教会員ハ青年会ヲ組織セラレ、先日各其開会式盛ニ行ハレ漸々クリスチャンノ働モ可出来被存候

小子来春此地ヲ去リシ後ハ如何ナル人ニ牧会ヲ依托ス可キ乎、最モ宜敷人ヲ御撰定御知ラセ奉願候、若シ働人ナキ時ハ一旦築キ始メシ該事業モ他日空キニ帰センカト、又其人ニ依リテハ小子ノ成セシ事ハ全ク破ル可シ、実ニ懸念ノ至御坐候、右要用迄、乱筆御推読可被下候、早々不整

十二月廿三日

友信

新島襄先生
虎皮下

809

十二月二十三日

篠田昌武

①鹿児島市大字西田百五十番戸 ②東京々橋区南鍛冶町四番地 茂林館 貴
酬 ④墨 ⑥封筒表に付箋、「本人儀若シ出発ノ時ハ京都寺町通丸太町上ル
東側へ御送配有之度候也」、封筒裏書 新島筆「一月六日返書出ス」

御内政様へよろしく御伝声被下度候

御懇切ナル御華墨及ビ御写像ヲ賜ハレ難有拝受仕候、愛兄過日前橋ニ御滞留相成候ヒシ事ハ二三日前之基督教新聞ニ
而拝承仕候、併シ御病氣之事ハ誠ニ意外之事ニ而御座候、今日ハ如何之事ニ御坐候哉、嘗而頂載仕候御書面ト此の度
ビ頂載仕候御書面トノ筆勢ヲ比較スレバ余程御衰弱ニ而、未ダ御病氣御全快ニハ相成ラザル様想像仕候、只ダ私共ハ

全能ナル父ノ御力ニヨツテ日早クモ御全快ニ相成ル様祈リ奉リ候、降而愚弟事神の御祐助ニヨツテ幸ヒニ健康ヲ得消
光寵在申候間、乍憚御安神被下度候、却説、当地儀此以前申上候通り益々組合教会設立之必要ヲ感シ申候ニ付、二三
ノ兄弟ニ談ジ合ヒ愈々組合教会之設立アル様ニ毎週祈禱会ヲ特別ニ設ケ申候、幸ヒニ近日ハ組合教会員他県ヨリ二三
人来ラレ候ニ付、小生モ大ニ勇氣ヲ得申候、只今当地ニアル組合員八十人近クニ相成候故ニ、来年ハ我邦未曾有之
時、千万一遇之年ナレバ私共ニ於テ大ナル記念日ナル故、此日此時ヲトシ、来年一月五日即チ第一安息日ヨリ全ク一
致教会ヲ分離シ（小生共ハ今日迄一致会ニ而安息日ヲ守リ働キ申候）新ラタニ一家ヲ借り受ケ講義所ヲ設クル事ニ断決致シ、目下頻リニ熱禱致シ申
候、一致教会教師ニモ小生滑ラカニ相談いたし候処、幸ヒニ同教師モ拒マズ、大ニ賛成ヲ得候故大都合よろしく御坐
候、固ヨリ小生共ハ神学ノ一科ヲモ修メザル者故、随分困難ニハ有之候へ共、当分之所デハ聖書ノ講義ノミ致ス見込
ミニテ一ヶ月ニ一二回演説致ス積リニ御坐候、然レトモ小生想フニ当地ハ早晚組合教会ヨリ伝道スルノ地ナレバ私共
連署ヲ以テ、来月ニハ在熊本ノギユーリキ先生ヘ一書ヲ呈シスル目論見ニ御坐候、小生今日ニ於テ組合教会ヲ設立スル
ノ必要ヲ感ゼシ以所ハ実ニ勢ヒノ然ラシムル所ニシテ、則チ未信徒中ニ大ニ望ムモノ相生ジ申候、加之一致教会信徒
及ビメソヂスト信徒ヨリ組合教会ヲ望ムモノ陸續トシテ相生シタリ、焉ンゾ悠々トシテ之レガ早遅ヲ考フル時ナラン
ヤ、現ニ一致教会ノ柱石トモ或ハ骨トモ言フベキ長老執事ハ私共新設ノ組合教会ヘ転会ストノ申込ミアリタリ、又メ
ソヂストノ骨トモ言フヘキ或ル兄弟ハ組合会ヘ転会ストノ話シアリタリ、蓋シ自由ノ風ハ既ニ我が地ニ吹キ来レリ、
自由ノ空氣ヲ吸収セシ「ツルークリスチヤン」ニシテ、豈ニ自由ナキメソヂスト、一致ニ碌々タルンヤ、既ニ然リ然
レバ鹿島青年社会、一般ノ人民ニ向テ適當スルノ組合教会ヲ組織セザルヲ得ズ、是レ小生ガ同教会ヲ組織スルノ今日
急務ナルヲ知り天父ニ熱禱スルノ以所ナリ、仰キ願ハクハ愛兄宜敷生ガ意ノアルトコロヲ察シ賜へ、時下御保養專一

ニ祈リ奉リ候、右御返事旁目前ニアル来年ヲ迎ヘ奉ラン、早々頓首

十二月廿三日夜認ム

篠田昌武

新島襄先生

三白、御交際ノ竹崎一二君ニハメソデスト信者ニシテ同教会ノ骨ナリ

810

十二月二十三日

時岡恵吉

①長岡阪ノ上丁 ②東京々橋区南鍛冶丁 茂林館 閣下 ④墨 ⑥封筒表書
「八号」、日付は封筒裏書による

前回ノ次ぎ

火曜日も先夜の如き様子にて特に会員の喜びとするは長岡産の人にして米国オークランドに在学されたる処の間霜廉君の伝道士として帰朝され、久ぶりとて御帰岡ニ相成、御出席されたる事ニ有之候、此夜の喜びは堂ニ満ち実に盛に有之候

二十日水曜日即ち十九日は愈々教会移転の為に信徒一同浮き立ち八方尽力怠りなく実に一同一身一体誠に神の子の様

子と云ふの外なき程にて勇敷見受けられ候、其夕方新発田より原兄の御出ニ相成、御一同道にて教会ニ参り祈禱致し、其終り頃ニ至ると一の驚くべき悲むべき報ありたり、即ち新会堂として移転すべき家屋は西念寺の敷地五尺計り借りてあるよし、故ニ僧侶は耶蘇教の侵入を恐れ、之を防がんとて敷地を返すべし、然らざれば家屋を破壊しても返すべし、よし敷地返すとも雪一粒も雨滴一滴も我屋敷内ニ下すべからずと小兒然たる愚な談判有之候、当教会ニも七円内外の費用を空ふしての後なれば頗る困難致し、段々屋主ニも篤実を旨として相談致したる処より、屋主は大ニ基督敎の価直を覺り、涙ニくれて断りたれば止を得ず新会堂を見[■]附るまでと云ふ処より、尚も相談ニ^{至急}彼西念寺ニ参り申候処、十三ヶ寺の僧侶は額を合して将来長岡基督敎の勢力如何ニ付き驚きたる様子なれば容易に聞き入れず、一時たりとも耶蘇の説敎せば破壊すべしと云ふ意気込にて有之候故、屋主は大ニ其^{了見}慮權の劣しきを感じ耳を基督敎ニ傾けりとぞ、然し兎ニ角教会ニは賃し能ず、又教会ニも強て迫らずして恕し申候、就ては信徒の一人云ふ、我儕は住に家屋あり、去れども神の殿のなきは遺憾之至りなり、故に是非教会新築致さん^(勳)同議ありたり、此説たる白石愛兄の御在岡の節も出たるものなるよし、然し其際容易に賛成するものなき次第ニありしも、此度一徒の御発議は全体を驚^{皆々}し皆々賛成致したるものなり、依て当分の内は拙宅を仮教会となし、明年雪解け次第着手致したきと目今専ら此議盛なり、小生常に口を入れず、只好きよ^(構)楯を取り居申候間御安心有之たし

二十一日、俄に船江坐を借り大演説会を催したり、演士は広津、原、渋谷、ニユーエル、間霜兄等と小生都合六人^(カ)交るゝ演し申上候、当時雨天にて雪も雨ニ交りて降りたれば三百人計り会合仕候、然し至て静然たりしは感服の至りニ御坐候、翌廿二日与板ニニユーエル夫人^(Jane Newell)、ゲルリド・コサック^(Gertrude Corack)、渡辺女、原兄、間霜と罷出、婦人会を設立致し、以后毎月一回ニニユーエル夫人、渡辺女の兩婦人御参与ニ相成伝道なさる事ニ相決し申候、同夜或会席を借受け演説す、原

会するも二百五十計りにて此夜は非常ニ雪降たり、去れども出會するものゝ趣きにては今後与板の伝道大ニ見込有之候、広津、原兄の御相談は一切広津兄より御通知有之べし、今教会設立するニ付き、百円計りは当教会にて出来べきも三百円内外も入り申べき故実は困難仕候、相当の家屋中央ニ有之も亘り町と云ふは悉く片側は西念寺の借地を借り居り、其他は繁華すぎて借宅料非常ニ高く且つ有名な救世教主大道長安なる者頗る奔走して之が為に喜で家を借すべきものなき故、新運動せんと欲せば新築致されは始らずと見込れ候、教会も全体の輿論なれば多分与へらるゝものならん、然し閣下は此点に如何思召すや、御意見御教示有之度伏て奉希望候、尤も教会の發起なれども不可と御思召なれば御止め被下度奉存候、然し小生はよろしからんと奉察候、又京都大沢氏より二十円昨日御送りニ相成たり、然し其内小生十月より参りたれば十二月分まで調度閣下の御送金に相成たるものを合せてよろしく有之候、就ては会社へ申遺したるは閣下へ対し速ニ返却可然の旨を以て仕候、委細は会社より御通知有之べし、当教会も愈奮起致し教会設立、会堂新築兼々明年雪解け頃、即ち五月上旬までニは致したきと今日全体の御議論なり、若し議論の如く行くなれば幸福なりくく、長岡今日の仏教の勢力盛なり驚くべきなり、救世教の勢猛虎の如し、小生敢て之を敵視して戦ずと雖も、此方も相当の働きなくば非常なる失敗を取るならん、大道長安氏は英傑の僧侶にして基督教を類似したる教方ニ有之候間、随分力を添さるべからず、新運動なさざるべからず、只幼稚の兄弟姉妹を如何せん而已矣、閣下よろしく御配慮を乞ふ

新島襄殿

時岡恵吉

原君は今日まで小生宅へ、間霜兄と供ニ滞留致され、明日御帰新なざるよし

二十七日よりニユーエル氏、間霜氏小生と供ニ三条、五泉、燕等伝道の為一周間斗り滞留掛けニ罷出申べく候
尚其詳細は御通知申べく候

811
十二月二十五日 不破唯次郎

①上毛前橋曲輪町 ②東京々橋区南カジ丁四番地 茂林館 ④墨

先日来先生ヨリハ毎度御尊書被下奉万謝候、御帰京後日々御全快被遊候由、大賀此事ニ奉存候、幸昨日ハ杉山兄も来前ニ付キ御書状相渡候処、同兄ヲ初私ニも只々先生之御志ニ動かサレ、私共ノ不満ヲ覚申候、先日一度巡廻教師石原氏一寸立寄ラレ、長野伝道ノ事申サレタリ、同地ハ既に上田ニアル某伝道師が出張セラレル由、又私ハ跡ノ月曜夜桐生ニ参リ、例ノ先生連中ニ会合仕候処、目今ハ甚々残念之様ニ見受申候、井手兄も来着セラレタリ、此上ハ下仁田ト大間々ニ伝道師ヲ送ル方必要ニ御座候、併シ先生之御明案ニハ最も御同意申上候ガ、杉田、杉山両兄トも能々相談仕度存候、公義氏より信州へ御越之事も至極と奉存候、速ニ実行仕度奉存候、一月ニハ早々三人ノ中誰か一人参り度小生ハ心組ニ御座候、上代氏も二三日跡杉山氏方へ参ラレシ由ニテ、同氏も上州之〇〇人物ナラン、私共ハ能々同氏ノ方向ニ付キ相談致度希望ニ御座候、先生御上京後妻も不快ニ相成リ、生世以来之大病ノ由ニテ、熱ハ四十度ニ達シ一

且ハチプテリヤ病ナラント思考仕候処、幸一昨日よりハ宜敷相成リ、ソレ故今日迄御返事も延引仕候、昨日ハ御廻之物正ニ落手仕候、実ニ難有奉存候、当地青年方も先生御帰京以来大ニ信仰上ニ注意ノ色相見大ニ喜ヒ申候、都合ニヨレバ廿八日比ニハ伊勢老人見舞之為上京仕度存候、先生ニハ同日比迄ハ御在京之御心組ナルや、一寸奉伺候、承レバ大久保兄も上京サレシ由、同氏ハ頼母敷人物ニ御座候、桐生ニハ一月早々参り度存候、廿八日迄御在京ナレバ種々御面会之上御意見同度奉存候、関氏へ御廻ノ品ハ今日迄届兼候由念ノ為申上候、妻ヨリも宜敷申上候、乱筆偏ニ御用捨之程奉願候、長岡兄ニ宜敷御伝言奉願候、早々失敬、再拜

十二月廿五日

不破唯次郎

新島先生

御転地ノ節ハ御宿所一寸御教奉願候

812
十二月二十六日
不破唯次郎

①上州前橋曲輪町百四番地 ②東京々橋区南カジ丁四番地 茂林館 ④墨

昨日再ビ御書状来着前ニ失礼申上候、桐生之事ハ御面会之上ニ委細申上度奉存候、小生サラリニ付てハ御心配被下

難有奉存候、此程ハ執事ニも色々之事ニ付心配サレル由にて、何レも近々都合宜敷相成ナランと愚考仕候、元来先生之御好意ニハ小生少シも不同意ハ無之候、廿八日迄御在京ナレバ一寸御面会仕度奉願候、京都之御辱母様ノ御様子ハ如何被遊候や奉伺候、早々失礼

十二月廿七日^六

不破唯次郎

新島先生

813

十二月二十六日

広津友信

①新潟市旭町 ②東京京橋区南鍛冶町四番地^(治) 茂林館 ④墨 ⑥封筒表書
新島筆「五号」、封筒裏書、「※十二月二十六日付」

拝啓、数日前呈上致候書状已ニ本日当リハ御落手被遊候事奉察候、一昨日者芳書拝誦、按手礼之事ニ付色々得配意被下候段真ニ有難奉存候、其後度々教会員ノ或人ヨリ返答ノ催促ヲ受ケ候ヘ共、未タ確答ヲ致シ得ズ中々決定ニ困ミ申候、明晩カ来日曜日ニハ教会員ニ何トカ返答シ、彼等ノ求ニ付キ再ヒ尚ホ勘考致度存居候、小子ノ考ニテハ受ケタリトテ格別非常ナル利害モ無之候ヘ共、一体小子ノ働ハ数ヶ月間ノ事ナレバ斯ク手数ヲ尽スノ必要ナク、又渡航致候事ニ付テ前途ヲ案シ候ヘ者、斯ル式ヲ経サル方至テ自由ニシテ便宜ナランカト存候ニ付、実ハ断リ度切ニ此事ヲ会員方

ニ申述ブルノ積リニ御坐候、此外ニ何ノ致方モ無之候、今実情ヲ申セバ斯ク強テ按手礼ヲ受ケサセントスル者ハ二名位ニシテ此二名ハ中々會員中ニ八釜數者ニ有之、成瀬君ニ正反對ノ人ナレバ同氏ノ授洗晩餐施行等ヲ不好、甚タシキハ祝禱ヲモ同氏作ス事ヲ不好程ニ有之、又松村氏^(全右)、西洋人等教會員外ノ者ノナス事モ不好候次第ニテ、是非今度ハ新ニ致度心組ノ由ニ有之候、此等二名ノ外ノ會員ハ格別確執スル者ニアラサルカ如ク相見ヘ候ヘ共、若シ二名ガ主張シ始ムル時ハ一苦情ハ起ル次第ト察セラレ、如何ニモ二氏ノモチーブノ宜シカラサルヲ嘆シ申候、教會員ハ永ク小子ヲ留メ度希望モ有之様子ニテ、新ニ家屋ヲ建テ山上景佳ノ地ニ居ヲ占メハ如何、會員ヨリ如何様共力ヲ尽ス可シ云々申シ呉レラル、者モ有之候位ナレバ、若シ按手礼ナドヲ受ケ余リ關係ヲ付クル時ハ遂ニ来春情実ニ迫ラレ新潟ヲ立去ル事六ヶ敷不相成哉トノ恐モ有之候

一致派ノ方ハ穩和党ニシテ心モ直ク信仰モ暖ナル方ニ有之、小子ニ対シ格別不足ノ廉無之様相見ヘ、寧ロ暖ナル心ヲ以テ小子ノ言ニ從ハレ候ヘバ、按手礼ヲ受ケズトモ非常ニ感触ヲ悪クスルノ懸念ハ有之間敷ト存候、組合分子トテモ——右二名トテモ——小子ニ心ヲ離シタル者ニ無之、小子ニ能ク一致シテ麗シキ心ニ有之、決シテ小子ニ付テ悪クハ思ヒ居ラレズ候ハ近来ノ実況ニ御坐候、只タ是迄ノ正反對ニ立ツ或人ニ快カラサル心地アルカ為ニ小子ニ是非本牧師タルヲ求メ、平素招聘ノ時ノ希望ハ會員一同此心ナリシト迫マラル、次第ニ御坐候、実地ニハ善イ所モ惡イ所モ中々込入タル事情有之候ヘ共、悉ク陳述致兼候条御推察ノ上小子将来一身上ニ付、今度按手礼ヲ受クルノ利害ニ付御卓見御漏ラシ被成下度奉願候

一応教會員ニ計リ、否ヤノ御報道追テ可致候条、右ハ只タ今日小子ノ考ヘト教會員ノ事情丈申上置候、長岡将来ノ働人ノ事ニ付テハ、小子未タ深ク考ヘ得ズ、何レ纏々ノ事情ハ追テ緩々申上度候条、尚ホ宜敷働人ヲ長岡ニモ新潟ニモ

御撰ヒ被成下度偏ニ奉願候、本年モ数日ヲ余スノミニテ、正ニ廿三年ヲ迎ヘントスルニ当リ感想湧出喜悲交至リ、人生在世不称意ノ嘆モ有之、又人事多是希望外ノ喜モ有之、年如流水去不還、人似草木争春榮ノ感モ起リ、不耐悠忽送流年、志要自今百練堅、鬱々喬松風易触、唯依強幹耐秋天ノ精神ヲ生シ候、之ヲ要スルニ本年ハ小子ノ一身ニ付キテハ真ニ多事ノ年ナリシ、最モ記憶ス可ク、又大ニ希望ヲ属ス可キ事有之申候

先生何処ニテ新年御迎被遊候御積リニ御坐候哉、定テ京都ノ学生諸氏ハ待ナリ思居候ト奉察候、右ハ要用迄、早々不整

十二月廿六日

友信

新島先生

閣下

814

十二月二十六日

白石村治

②福島県福島鈴木堂一番地

②東京々橋区南鍛冶町四番地

貴酬

④墨

貴墨拝誦仕候、先生御病氣に御罹りし趣ハ兼て或人より伝聞罷在、日夜に甚敷心を痛め居候処、御下教によれハ此頃ハ漸々御快き方に向はせられ候由、実に欣喜至極に相感し申候、然し猶此上とも世の為め御自愛被為遊度偏に奉希望候

扱兼て此地方伝道の事にハ先生厚く御意を注かれ候趣ハ度々承り居候所、此度貴書に接し益々之を明にするを得、此地に働く小生に取りてハ誠に不可言之勇氣と力を戴き申候、何を以て先生之御厚意に報すべきかと千慮致候に、只金玉の貴論に従ひ粉骨碎身此道を説くの外無之と深く相感し申候、先生願くハ此后とも一増此地を御思ひ被下、兼て又小生を御顧み被下、度々御高見御漏し被下度、且又御祈の時にも恒に此地と小生をも御覚え被下度願上申候、当地ハ信者も現員三十に満たざる程にて候上に、綱嶺兄之病氣之為め永く働きを中止され居候等の事情有之候故、不知々々何となく衰運に向ひ先頃ハ其極点に迄落来りしかと考えられ実に心痛仕候所、此程ハ幾分つゝか各其睡りを醒まし申候具合に相成喜ハしく存候、且從て何分か求道者も相見え申候様に相成候て、望みと喜を以て日夜此事に従ひ申候間、乍憚御休心被下度願上候、御高論にも有之候通り、仙台中会にてハ今度更に常住伝道者を此地へ差向け申事に決議致候由に候、而シテ此地の一致教会に属せし信者数名ハ連署致候て、右中会に向け伝道者の精選及出来得へくんバ何某を送られたし等の事を注文致しやり候由に御坐候、又此頃迄当地に働き居候浸礼教会宣教師ブラオン女史ハ此度都合有之候趣にて、明日此地を引払ひ申候事に相成申候、尤も同教会に新に加ハリし人等ハ無之様承知致候、何方も同様外国人の直接伝道は中々六ヶ敷事に存せられ候、此後とても尚数々此地の伝道及当県下運動の具合等ハ委細御報導を怠り申間敷候

(順平)

松田氏に御勧め被下候段実に難有奉存候、同氏にしてもし郡山に來られ候事に相成候ハ、何と幸福かこれに如き可申、小生等は実に無用之僕にして只其任所を守ルにすら難き者に有之候間、到底他所に手を広げ得る事ハ叶ひ不申と信居候得ハ勿論出来得らるゝ丈の力ハ尽可申候間、猶此上先生よりも充分御勧め置被下度切望仕候、扱又小生病氣に付尋常ならざる御配慮を辱ふし、加之多分の金円御恵投被成下実に難有奉万謝候

又河西老兄への御言伝及御写真はたしかに同氏に相届申候、同氏に御写真を渡し候時御言伝の一々相話し候処、同氏ハ感涙を以て之を戴き申候、且兼て先生の御事ハ恒々覚え居候事なれハ、此上ハ日夜必定先生之為め熱禱可仕候間、幾重にも宜敷申上くれ候様にとくれ／＼申され候、先ハ貴酬迄、草々拝復

十二月廿六日

白石村治

新嶋襄先生
侍史

815

十二月二十七日

不破唯次郎

①上毛前橋曲輪町

②東京々橋南カジ丁四番地 茂林館

④墨

桐生伝道一件ニ付種々御心配之程御申越ニ相成り、元来廿八日ニハ出京致シ委細申上度心得ニて書状ニてハ不分明之事多有之ナラン、併シ本日より御他行被遊候様御申越ニ相成り候間、桐生伝道案ニ付キ元来小生一己ノ意見ヲ申上候、同地講義所之有力者ナル高山と申ス人ニ付キ、〇〇教会中ニも色々之説有之候由ニテ、残ル講義所之連中コソ頼母敷人々ナリと桐生教会員且東京ノ石原保太郎氏も申サレ候、然ト雖も講義所ニハ私ガ自由主義ヲ取ル人多ク有之、何レ同地教会ト講義所之和合ハ六ヶ敷存候、石原氏ノ言ニ曰ク、講義所之高山ハコマリタル人物ナレバ、別ニ仕方無之、組合教会ニても入加セバ然ラント、小生曰ク、組合教会ハ一致教会ノゴミステ場ニ非ラズ、前橋教会ヨリハ桐生

ニハ汽車之便も有之、且大間々ハ組合教会部会ノ伝道地ナレバ、時々桐生ニハ講義所より御招ノ節ハ御加勢ニハ罷出ルベシ、加ヘテ前橋教会ニハ桐生ニハ伝道地と致スベキトノ説有之候間、或ハ折々同地ニ着手スル事もアラソ、同地教会ト講義ノ和合ニ付テハ、私共ハ局外中立之地位ニアレトモ、一地方ニ同キ教会ガ二ツ之集ヲ執行スル事ハ上毛全体ノ不利益ナレバ、和合ニ付テハ尽力之決心ニ御座候と答タリ、一月ニハ講義より出張否加勢ニ参ル様ニ依頼ヲ受ケ候間、参ル心組ニ御座候、一月ハ早々杉田、杉山、井手兄等ト会合シ、信州ノ事ニ付相談致度奉存候、妻之不快ハ先生之御世話致セシ故ニ非ラズ、上州ノ寒氣ニハ始めて打ラル故ナレバ、先生之御心配ハ御氣ノ毒千万ニ奉存候、同人事も今日ハ余程宜敷相成候、小生ニハ此程是非ニ上毛ノ信徒並ニ役者ハハ格別ニ伝道上ニ付アクグレーシーノリニ実行致度存念ニ御座候、是珍シキ思考ニ非ラズ、併シ唯次郎ニシテ珍シキ思考ニ御座候、余りローカル、インテスストヲ盛スルハ伝道好案ニ非ズト思考仕候

大磯よりハ一月何日比御帰京ノ御積ナルや、又何月比御帰宅之御心組ナルや奉伺候、北里方よりハ先生之御帰宅ヲ待、例之御相談ヲ致方由、本日より愈々中仙道兩毛之汽車ハ全通仕候間大ニ便利ヲ覚申候、前橋之任益々重大ニシテ折角小生が忠義ノ働キ為ス様御祈被下度奉願候、小崎兄ニハ明日出京セバ是非面会之積ニ御座候、一月中旬ニハ部会之許アラバ(費用ノ点ナリ)大宮ハ参り度奉存候、本庄よりハ熊谷へ速ニ着手スル方可然小生ニハ思考仕候、一月ニハ同地へ一寸内々参り度存候、是レハ小生一人之意見ニ御座候

小生ニハ外ニ注意シテ内ニ不注意ノ害アリ、乱筆偏ニ御免被下度奉願候、雄よりも宜敷申上候、先生西京へ御帰宅以前ニハ是非一度御面会致度心組ニ御座候、早々失礼

十二月廿七日

不破唯次郎

新島先生

816

十二月二十七日

新島八重

- ①京都市寺町通り丸太町上ル十三番戸
②東京々橋区南鍛冶丁四番地 茂林館
③封筒のみ

817

十二月二十八日

新島公義

- ①奈良 ②神奈川県相州大磯 ムカデ屋屈キ
④墨 ⑥封筒表書「同人江御届ケ被下度候」

歳次御自愛ヲ祈ル

東京ヨリ御発ノ長篇ナル玉章廿四日の夕べ正ニ郵着、偶々クリスマスマスノ事アリ、終リテ茲ニ一両日間尊文ニ対シテ黙

考幾回トナク拝誦仕候、扱芳志血涙ノ存セラル、所ロ不肖ト雖トモ奈何テ心ニ入り魂ヲ動かサ、ランヤ、而シテ尚ホ神命ノ在ス所ローニ垂訓ヲ祈リ志シノ向フ所ヲ尋究スルニ潔ク決然往テ働クベシト云ル思念ニ付キ、小生直チニ今ヨリ東北地方ニ飛入り、今一樣一働可致ニ付、速ニ其計圖ニ御着手被下度奉願上候

古人云フアリ、三十ニシテ立ツト、是レ小生近時切リニ心中ニ生ジ来ル思ヒナリ、今ノ如ク奈良ニ引籠リ居リ候テハ、又奈良ハ歴史上、経済上、土地ガラ上、トモ活潑ニ進軍難出来奉信候ニ付、此上ハ一兩年間信州ニ越州ニ何レヘナリトモ飛往テ一ツ篤力致スベク決心仕候、尤モ地勢ノ義ハ尊下ニシテ御研磨ノ上信州ヲ是ナリトセバ速ニ長野ニ入ルベシ、是レ小子ガ伝道上最終ノ命脈ニ御座候、新聞ニ從事シ社会的ニ打テ出ル事ハ暫ク差扣ヘ尊命ノ如ク用意モナクテハ叶ハヌ事故、一兩年間ハ東北ノ中原ニ往テ尽力可致候、今ヤ歳末ニ際シ用事モ不少、唯々右ノ決定シタル事御廻報申上度心事如山、思ヒ今一々記ス不能、就テハ来年三月ニハ必ズ彼地ニ飛入度奉存候ニ付、直ニ御工風ニ御着手被成下度千万奉願上候

長野ハ善光寺ニ拠テ立ツノ一市ニハ非ルカ、是レ小生ノ長野論ニ就テノ一疑問ナリ、伊勢ノ山田ハ太神宮、尚奈良ハ春日、大仏及二月堂(観音)ト云ル如クアラバ全ク経済上ヨリ伝道ヲ遅沈ナラシムル事アリ、從來我国ニ於テハ神社仏閣ノ在スガ故ニ一市ヲ成スモノ不少、下京区ノ本願寺ニ於ルカ如シ、故ニ善光寺ナシト雖トモ長野ハ信州開化ノ中心トナル地理ヲ専有シタル土地ナルヤ、善光寺ナクモ長野ハ立チ行ク場所ニ候ヤ、小生ハ伊勢ニ往キ、奈良ニ来リテ、此節ハ実見致シタル確論ヲ有スルモノ故、今度目ハ大ニ市勢ヲ研究シテ一身ヲ向ケ度ト存候、然レトモ此觀察スル眼光ハ実ニ尊下ニ一任可仕候間、善光寺ガ勢州山田、奈良ノ如キ地ト相違アル義ト前回ノ尊書ニ由テ明ニ致シ候ニ付、小生ハ必ズ二月中ニ当地ヲ引揚ゲ断シテ信州ニ往クノ精神ニ御坐候、尚ホ新年ニ入りテ可申上候、何卒速ニ御工

風ノツキ次第御報知アラン事ヲ切ニ相待可申候、取急ギ乱筆乱文御寛恕被下度候、草々拝復

二十二年十二月廿八日

慈親ナル
伯父様

坐下

小篁

公義

818

十二月三十日

広津友信

①新潟市旭町

②東京京橋区南鍛冶町四番地

茂林館

④墨

⑥封筒裏書

「十二月卅日付」

拝啓、去廿一日及廿六日附之愚翰已ニ御落手之事奉存候、其際申上候通、昨日教会員一同へ小子ノ事情悉ク公明ニ申陳べ牧師タル事ヲ断リ候処、昼夜二回協議有之、遂ニ小子ノ請求ヲ容レラル、事ニ相成、且又按手礼ノ有無ニ関セズ牧者ト信シ牧師ノ名称ヲ附スル丈ハ許シ呉レ云々ノ相談有之候条、小子ハ無名ニシテ単ニ広津ノ名ヲ以テ常ニ呼ビナサレン事ヲ求メテ事相済ミ申候、兼テ申上置候一二名ノ御方ハ不同意ト見ヘテ決議ヲナササル中ニ早ヤ退場セラレ、夜ノ会議ニハ出席ナカリシ、此外ノ人々ハ格別感情ヲ悪クセシ様ニハ昨日相見ヘ不申、只タ今後如何ヤト少々注意致居候、小子多数ノ人々ニ信用ト尊敬トヲ受ケ自ラ恐縮致居候次第御坐候、只今一人ノ敵ト見働ス可キ人ハ更ニ無之、小子更ニ敵ヲ作ラズ、又他人一トシテ小子ヲ敵トスル者ハ無之候、向後益々神之御働全会ノ上ニ弥増シ從來ノ悪弊ヲ

一洗シ、新生ニ至ル可キ見込有之、稍々希望ト信仰ヲ置キ申候、敵ヲ愛セサル可ラサル信者ニシテ互ニ兄弟ノ間ニ於テ敵ヲ作ルカ如キ弊有之、兎角冷淡不浄ノ心情行為有之候事ハ実ニ可痛之至御坐候、小子切ニ生ケル神ノ教会ヲ作リ度心身ヲ勞シ候ヘ共、自ラ不完不徳不能ノ者ニ有之、何事モ未タ希望ノ幾分モ達セズ、自ラ分外ノ大望ヲ抱キシニ非ラサルカラ自疑スル次第御坐候、先生幸ニ御病間時々御啓発被成下度奉願候
本年將ニ暮レントス、半生事業何所成、壯図未成日月逝ノ嘆有之申候、正ニ明クレバ宗教世界モ愈々多事ナラントス、只タニ政治社界ノミノ多忙ニハ有之間敷奉存候、御病氣其後如何御坐哉、〔候脱カ〕御全復切願之至御坐候

十二月卅日

友信

新島先生

虎皮下

819 十二月三十一日 不破唯次郎

①上州前橋曲輪町 ②神奈川県相州大磯 百足屋方 ④墨

卅日御認メ之御書状、本日相達難有拝見奉万謝候、拟先生ニハ御病中ニ伝道上御心配有之候てハ如何ナラント御案申候、昨夜三時比、〔農夫雄〕関兄ノ宅より出火アリ、先生御滞留被遊候別家ノ外ハ全焼セリ、衣類何ニも出ズ、子供方が助ケラレシ事ハ偏ニ神ニ謝スベキ事と奉存候、今日ハ氣之毒千万之様ニ御坐候、同氏より先生より御送之物も落手サレ

〔説カ〕

由ナレトモ皆々焼申候、雄不快ニ付度々御尋被下奉万謝候、此程ハ全快仕候間御安心被下度奉願候、昨日ハ河波兄も少々相談之為一寸参ラレ、先生より何ニカ御廻有之候由にて、同兄ニハ大ニ喜居候、同氏と同伴にて昨日ハ井手兄ヲ尋申候処、井手兄も大ニ喜レ、二時程上州之伝道上ニ相談仕候、新町ハ井手兄より高崎教会と相談之上執行サレ事ニ相成り候、一月三日ニハイソベニ役者会ヲ開キ、二十三年上毛伝道運動案に付キ相談スル事ニ井手、河波、小生三名にて昨日回状相廻申候、一月中旬ニハ大宮ニ参り、熊谷、本庄伝道上ニ付キ大久保兄と相談致度奉存候、桐生伝道之儀ニ付先生御明案ハ承知仕候、目今同地之事ハ小生一人にて運方可然と存候、来月三日ノ會議ニ於て信州之事ハ相談之上御通知ニ及度存候、都合ニヨレバ下仁田ニハ宜敷キ伝道師ヲ得ラレルナラン思考仕候、都合人物アラバ先生ニ御相談ニ及ブ心組ニ御坐候、井手兄ハ大ニ上州伝道上ニハ（インテレスト）ヲ置カレ、マンフリーニ働レル積ノ由ナレバ大ニ頼母敷存候、一致合一ノ儀ニ付ても私共ノ意見と同氏も異ナル所無之、大ニ安心仕候、同氏ノ一家ニ付てハ大ニ心配ノ由ナレトモ、何レヨキ人物アランと進メ置候、兼て御心配ノ小生給料一件も教会より愈々二十五円程渡サル事ニ相成り候間、乍失礼御安心被下度奉願候、妻も一月よりハ大ニ働ク目論見にて、小生も一月よりハ相成ベク所々へ伝道ニ参り度存候、小生之無力無信ニ付、偏ニ御祈奉願候、熊谷伝道ニ付てハ御申越ノ様ナルヨキ工風アラバ好都合と存候、相成ベク両毛ニアル我同主義之信者別格ニ役者共少々面倒ニアルも能々相談之上ニ万事運度存候、幸ニも両毛ノ組合教会ニハ総督モ無之、大將タル人物も無之、皆々同等ノ役者ナレバ平民主義ヲ実行スルニハ頼母敷いと存候、偏ニ御笑被下度奉願上候、廿八日ニハ一寸上京之心組ニ候処、
〔説アルカ〕
事故出来兼申候、右ハ御返事迄、早々失敬

十二月卅一日

不破唯次郎

二白、雄より格別ニ宜敷御伝言申上候、^{〔水〕}長岡兄へヨロシク

820

月日未詳

浜岡光哲

④墨 ⑥渋沢栄一書簡（昭：二月八日付）と合綴

海陸無事異御安着奉遙拝候、扱大学校資金募集規則之儀本日迄ニ御送致可申之処、兼而加藤氏へ依頼致候置規則漸一
両日前ニ被廻候、然ル処加藤氏之意見ハ有掟額募集主義ナリ、小生之意見ハ兼而申上候通無掟額主義ナリ、賛成者ノ
入り易キハ氏ノ意見ニアレトモ、寄付金ノ多キヲ得ルハ小生ノ意見ニアルト存候、然レトモ最初ノ方法ハ最モ大切ナ
ル者ニ候間、昨日中村栄介氏ヲ招キ協議致候処、左ノ如ク一決致候

先第一着ニハ小生ノ意見ニ倣ヒ、兼而申上候通兎ニ角端書ヲ以テ全国ヨリ有志賛成者ヲ募リ、次ニ寄付金ノ記入ヲ請
ル事トシ、其申込期限ハ本年十月ヲ一期トス、第二着ニ至リ別冊加藤氏ノ意見ニ倣ヒ募集スル事トセハ大ニ可ナラ

ト之通一決致候ニ付而ハ御発程前ニ御相談被下少々相違致候辺モ有之候間、至急一応御相談致候、^{〔度脱カ〕}右確定致候迄ハ印
刷為相見候間、東京有志者ト御相談之上東国地方へ頒布ノ分ハ其御地ノ活板所ニ御摺立サセニ相成度、西国地方之分

ハ当地ニテ摺立配布可致候ニ付、右御模様等々御郵寄是祈候、先は要用ノミ如斯

浜岡光哲

新島襄様

821

月日未詳

柴原宗介

②榻下

④墨

拝呈、過ル廿日ニ光臨を忝フシ快活之御尊顔を拝し大慶不過之候、別書明治中興懷旧論者野生之蔵書ニ御坐候、手元
ニ者二冊ありて老冊者不用ニ候間進上仕候、御慰勞之一端ニ御高覧被下候へは幸甚ニ候、拝白

宗介

拝

新島先生

二白、北垣知事鉄道論今少之間借覧仕度候

〔問答〕

明治二十三（一八九〇）年

822 一月一日 原 忠美

①新潟県新発田寺町 ②西京寺町通丸太町 ④墨 ⑥封筒表書「写真一葉」

恭賀新年

御令閨ニ宜敷

小弟写真御郵送致候、先生之写真一葉御戴致度伏て奉願候

久しく無音に打過ぎ失敬之段御海容被下度候、聞く、先生にハ先月来御不快にて御東上被遊候よし、其後如何に候や、さしたる事も無之候や心掛致候、先生にも既に御承知之事と存候小弟過日長岡にまいり、同地に数日間逗留致候、北越にハ白十字社なるもの奸淫せざる事、飲酒せざる事、嚙煙せざる事とし、三項を確守するとの約束を以て設立致候、新潟に之か本部を置き、地方に支部を置き申候、長岡にも白石君之働かれし時より幾分か會員有之候へとも、僅か一二人に止まり、信者と言へとも之に加はらず、社会に害毒之流るゝを見て袖手傍観する有様なりしか、生

も白十字社に加入致たる事なれハ其要を話し、時岡君と相談し、同地に白十字社支部を置く様致候、先生も多分御承知ならん、去年県会に向て廃娼建白致候時にハ之に同意致したる人僅ニ九名なりしか、今年ハ余程「ママ、以下同」廢娼論勢力を得て三十二名有之、存娼論者三十三名にして僅か一名之事にて其議論通過するを得さりし、来年ハ総賛成を以て之を全廢致度、今より民間之輿論を惹起す様用意致積に御坐候、もし果して廢娼論にして勢力を得、当県下に之を全廢する之榮を得は、当県下之幸福なるのみならず日本全国之幸福なるや疑ふ可からず、嗚呼当地之空氣ハ腐敗せり、其中に立ち入れハ入る程腐敗せるを知る、婦人伝道ハ到底我儕青年にてハなし能はざるなり、妙齡之令嬢に伝道なし能はざるのみならず、細君にも伝道致難し、嗚呼災哉、北越人よ、嗚呼災哉「田脱力」新発人よ、然れも弟ハ彼等「と脱力」憎み彼等をさけるものに非なり、如何にもして彼等に神之光を輝し、聖靈之火を以て其罪を焼き尽さんと欲す、先生か当地之為ニなし給ふ祈禱ハ小弟等ニとり千万金之価有之候、先生か過日時岡君に御郵送なし給ふ若墨ハ弟等之元氣なり、先生幸に安せよ、弟等ハ当地方之為ニ血之汗を流す積に御坐候

一月一日

原 忠美

新島襄先生

①上州碓氷郡原市 ②神奈川県相州大磯 百尾屋謙吉方 ④墨

恭賀新年

過般ハ御地へ御転居之由、直後之御容体ハ如何ニ被為在候耶、追々御快方之事と奉存候、小生等三名へ宛て御送り被下たる御懇書ハ小生女学校之事にて前橋に出張中不破氏方へ相達し直ニ奉拝誦候、御考一々御尤と奉存候、就中信州伝道之事ハ如何にも御同感ニ御坐候、就てハ至急相談致候筈に御坐候へども、何分年末多事之際にて寄合候事も甚だ心に任せず、夫故延引仕候、然るに只今不破氏等より来状にて、来る六日上毛地方伝道會議に付相談を兼ね役者会を磯部礦泉に催ふし候との報知有之候ニ付、定而同氏に於ても右之考乎と奉存候、何れ右之集會にハ杉田氏等も出席可有之と存候ニ付、色々相談可申候、若し不都合なくば信州伝道之事ハ小崎氏にも説得して、同氏をも熱心なる発起者と致し候ハ、甚た都合宜からんと奉存候、已に同氏へハ先生より右に付、何か御話有之し事あるや、又は同氏へハ後にて言ふ方宜きとの御考に有之候耶、右御一考被下度奉願上候、実ハ小生之考にてはアメリカンボルドの方へ相談するにも上州ばかりでなく小崎氏等をも中間に入れる方得策かと存候、何となれば余り上州のみがアングレツシーブなる伝道策を取ると思はれて妙な感事を惹起されては善からずと存候故なり、若し小崎氏をも説得する方可然との御考に御坐候ハ、何卒先生よりも同氏へ御勸諭被下度奉願上候、勿論先生之御意見を伺ふ迄ハ決して同氏へも誰へも右に付てハ相談ハ致さず候、何れ磯部會議之上万々可申上候、何卒時下御自愛之事、国家之為め、斯道之為奉祈候、右は

年始御祝詞を兼ね用事迄申上度如斯ニ御坐候、勿々拝白

廿三年一月一日

重義

新島先生

玉案下

824 一月二日 東 正義

①福嶋県若松本六日町二十一番地 金川方
②東京市京橋区南鍛冶町四番地
茂林館ニテ


謹賀新年併せて先生閣下之上に主之御恩寵限なくあらん事を祈る

過日は御懇篤なる御書状を賜り誠に／＼難有奉万謝候、偕先生閣下には旧冬より御上京被成候へ共、兎角御病氣勝之由承り大ニ心痛致居り候へ共、一書だに呈して御見舞を申上る事もなく、誠に御無音に打過しに、かへりて小生の些かの病氣之為めに御見舞之華翰を賜へり、誠に汗顔之至りに御座候、何卒小生が御無音之大罪御容赦被下度伏し而奉願候、偕先生御承知之通り、過日来教会は非常なる恩寵を蒙り、教会之面目をも一新するに至り候ニ付、一運動をなさんと企て居り候所、小生が愚なる肉体之療養を送りしが為め遂に病魔に罹り、先生をして大に憂慮せしむるに至り実に恐縮之至りに御座候（病氣ハ脳病ニ非ザリシ故其点ハ御安心被下度候）然し而既に／＼全快致し候間、乍憚御休心被下度候、偕小生儀、保養■

一身上之物件にて先月末より一寸越後長岡へ参り、本日帰松致し、華翰を拝見致せし次第にて御礼之為め愚書を呈する事も大ニ延引致し誠に恐縮之至りに御座候、右之次第故何卒悪しからず御容赦被下度候、長岡に於ては時岡兄に面し種々伝道上、又信仰上之談話を致し互ニ益を得申候、元來時岡兄とは初対面之事なれ共、恰も旧友之如く互ニ心情を吐露し喜を極め申候、嗚呼先生時岡兄が長岡参る時に同兄に送り玉ひし御一言、乃チ愛之熱を冷き信者之心中に注ぐ云々之語は実ニ牧会之奥義と存候

教会に於ても去ル七月來少々分争あり、種々小刀作工〔細〕て之を一致せしめんとせしが能ハざりしき、然ルニ或ル兄弟より

〔果〕

先生が彼の語を時岡兄に送られしと云ふ事を聞き、小生も非常に感ずる所あり、其語を実行せしか夥して当教会の分争は根を留めざるに致れり、之れ実に先生之賜なれば実ニ感謝に堪へざる事に御座候、何卒先生閣下よ、未経験なる小生の為め牧会上又伝道上之事に付、無御遠慮御教訓を垂れ玉ハ、何よりの幸に御座候、此度ハ御見舞として沢山之金円を御投惠被下、誠に難有奉万謝候、実ハ病氣の為に多くの費を要し、其上越後へ参りし為め、案外之費用を用し、今や実に困難を致し居り候所にて誠に何とも御礼之申上様もなき程に只々難有奉謝候、諸御相談之件は小生之大に希望する所に御座候、聞く所に依れば、一致会に於ては本年六月より関東に於て一大運動を試みんと企ある由なれば、小生も幾分か注意する所ありしが先生之御説は小生の大ニ賛成する所なれば、直ニ松田兄へ掛合可申候、元來小生ハ松田兄とは親しく交際致し居り候へば、出来るだけ同兄が郡山地方へ参り、当県下の為に働き呉るゝ様相勤め可申候、若し同兄が当県下へ來り呉るれば、小生の為めにも幸に御座候、中村兄等〔紅道〕へ先生の御意見を話し候へば、同兄等も松田兄へ書を送らんと申候、先は乍延引御礼且つ新年之賀儀迄如此に御座候、ふ、乱筆不文御推読被下度候也、早々頓首

一月二日

新島襄先生

閣下

東 正義

猶々、嚴寒之候に候へば御身体御保養專一と存候

825

一月二日

大久保真次郎

①武砦秩父郡大宮町

②相砦大磯町

百足屋

平信

④墨

弥御機嫌能新年ヲ迎セラレ奉恐悦候、益御渾家ノ上ニ万福アラン事ヲ清祈ノ至リニ堪ヘス候

当地伝道上モ不相替都合宜敷、又弊家一同モ偏ヘニ御厚顧ノ賜ニ由リ無異新年ヲ迎候間、御放神奉願候、感謝ハ筆紙ノ尽クスアラス候、恐々謹言

明治廿三年一月二日

大久保真次郎

先生新島殿下

侍史函丈

拜具

一月二日

時岡恵吉

①長岡阪ノ上丁五十一番地 ②東京京橋区南鍛冶丁 茂林館 閣下 ④墨

謹而奉恭賀新年

旧年は種々御配慮を辱ふされ実以て奉万謝候、扱て新年も相変らず愈御深切になし被下度奉願候、当教会も特の外好都合にて本年本月廿日ヨリ連夜祈禱会を催し、寄付募集方建築係職工監督等を撰み、将になすあらんとする際、米国シカゴヨリ四十五円の寄付あり（之は建築費として寄付されしものニあらず、教会に於ても六十円計も予約あり、且つ建築落成まで小生が借宅を以て之ニ当つれば、本年十月まで四十円の貯蓄出来、尚甲鎧劔類を寄付せばニューエル氏は之を米國ニ送り売買致させて教会建築費に当んと心組たり、出来得るや否は扱て置き、一同此決心にて有之候、〔補〕当地の信徒は常々云ふに「長岡は迫害のなき地なり、迫害はあらざりしと話し居りたりしが、今日は長岡教会設立以後の面白き時にして迫害の傾向頗る盛なり、僧侶も勃々して居る様子、特に救世教杯は頗る意気込たる趣きなり、特に教育者の内にも今頃真ニ目を醒し頗る抵抗を試みんとするものゝ如し、嗚呼幸なる哉、今キリストの光り今日現れんとす閣下当地の為、小生の為、御祈禱なし被下度奉願候、右は用々まで如斯御坐候、恐惶敬白

明治廿三年一月二日

時岡恵吉

新島襄殿

閣下

一月三日

増田尚平

①愛媛県伊予今治 ②西京 親展 ④墨

新年之御慶賀万里同風、愛度申收候、其御表玉館被為揃主之御鴻恩ニ御勇往可被遊御精忠欣躍之至ニ奉存候、二ニ当院弊屋一同御同様御恵下ニ送日罷在候条御安慮被下度候、然而過般十年期祝会ニハ是非先醒之御來臨ヲ仰度と相心得、前以御容子相伺候へとも、御病氣之故ヲ以不能其儀、宿望ハ遂不申候へとも毎々御懇情なる玉章ヲ賜リ一同満足仕候、付て御聞及被為下候如ク、夫々無滞執行仕候而一同感謝仕候儀ニ御坐候、且亦過般先醒ニ額面壹枚御筆旁相願候処、御病中付て平素御揮毫不被遊候訳ヲ以御断相成、素より御余儀無キ次第と存、断念罷在候処、豈図ラン、過日青木要吉氏へ御托し御恵送被成下、寔ニ意外之大幸実ニ々々満足仕候、柳瀬翁へ壹枚相届候処、是亦満悦被致申候、生等の如き微々タル者より相願候事も不絶御記憶被下、御病中も不被為厭御揮筆被下候儀ハ実ニ以謝辞筆上ニ難^カ尽難有感佩仕候、此段奉厚謝候、早速御挨拶之書状呈上可仕之处、長ク御東行中と伝承候ニ付、只管遅行候段御海恕被下度候、先醒御病氣此節ハ逐々御快方之趣承リ日々感謝仕居候、時下嚴寒ニ御坐候故、願ハ御自愛被遊、国民之為ニ御長壽被下候様仕度、生等不絶熱禱仕居事ニ御坐候、書外期重便候、右為可得尊意如是御坐候、恐々謹言

一月三日

増田尚平

新島襄殿
侍史

再伸、甚粗品失敬千万ニ御坐候得とも、蒲絳五本送呈仕候、御笑味被下候ハ、本懐之至御座候

828

一月三日

松尾音次郎

①兵庫県明石郡高和村

②神奈川県下相州大磯 百足屋方

新春之御慶目出度申納候、承れハ過般来先生にハ殊に御不例にいらせられ候趣、切角御保養之御義偏に奉希望候、偕又早速小生働さ候処ニ付御配慮被下奉恐入候、小生事麗嶋の方へ趣く事望ましく候ニ付、可然御取計ひ之程奉願候、必要と思召廉々御取究め被下様奉願候、先つハ御回答まで如此御座候也

一月三日

松尾音次郎

新嶋先生
閣下

一月三日 森 信夫

①筑後国山門郡柳河長柄町 ②西京 同志社 ④墨

拝啓仕候、先以目下時候変ニ付、邦家之為め御自身之為め学校之為万般之為めニ、益御莊健ニ被為在候半事こそ乍蔭
祈る所ニ御座候、扱小野英二郎氏は御蔭にて首尾能く米国よりも卒業して帰省被致、尚又独乙行を御勧めを蒙むら
れ、同人之幸福は不申及、私等ニ於ても感佩ニ堪へざる事ニ御座候、過日之御電報即日相届け、今日之御懇書直ニ持
參可仕候、御懇命之如く、出来丈け相勧め可申候、広津友信及ヒ女め共は屢々貴館を煩はし色々御親切なる御待遇を
蒙り候段、無上之喜を以て私共ニ報知致申候、誠ニ難有仕合セニ奉存候、何卒無御遠慮御教育被成下度偏ニ奉懇願
候、右拝復且御礼迄如此御座候、謹言

廿三年一月三日

森 信夫

新島襄殿

二白、乍憚御令閨様ニ宣布く御伝言被成下度奉願候也

①奈良 ②神奈川 ③相州大磯 ④百足屋屈キ ⑤至急平用 ⑥墨

去月三十一日の貴翰誦読仕候、然ハ小生決然勇奮今春二三月を期し河中島に打て出て一戦可仕覚悟致し候間、此事に御承引可被下候、就テハ小子善光寺ニ未た一人の知己も無之候間、着手の御工風、其道も候半ゞ可然尊下ニ於テ御計ひ被下度願入候、上州より視察ニ趣かれたる結果の報道、一日モ早ク承り度候、小子惟フニ単ニ上州よりの働きたしで出張すべきか、願クは如斯しては奈何

○一日モ早ク信州伝道の急務ヲ説キ、上州諸教会の希望ヲ陳し、伝道会社ニ注意要求スル所ロアリテハ如何

○而シテ小子ハ本月中旬ニ奈良ヲ辞スル意見ヲ陳シ、東北ニ働カン事ヲ要求スベシ

○奈良ハ当分七八円の伝道師ヲ置クカ又ハ郡山ト掛持ニシテ働ク事ニセバ、伝道会社ニモ大ヒナル影況ハナカルベシ（五十丁計リ）
（響）

ト存候

○何レ例の狐疑連先生ノ事故、上州ノ一働キトシテ信州ニ入バ、此経倫ハ何人ゾト悪敷取ルヤモ不計（繪）

○故ニ明ニ上州諸教会一団の希望ヲ陳シ相成小子ガ奈良ヲ辞シテ長野ニ入ル、多分意ノ如クナルベシト存候

○上州ハ別ニ伝道会社ニモ出金シ、更ニ団結隊より信州ニ伝道スルノ力アラルカ

○上州ノ志望ヲ陳シ、是迄より少シク多ク伝道会社ニ寄付し、矢張り日本伝道会社、組合派より堂々一人善光寺ニ入ル方、他教派ニ対スル威勢、実力、光榮上、宜敷策カト奉存候

○又一ニハ将来須坂、中野、稻荷山若クハ松代、上田、松本等ニ伝道スルノ便利トモナルベクト存候

○依テ直ニ上州諸教会ノ志ヲ我伝道会社ニ陳述スル所アラバ、小子茲ニ本月限り奈良ヲ辞シ、二月又ハ三月ヲ以テ
スポント善光寺ニ飛入ルベシ、敢テ謀ル、御高見如何

○上州一地方ノ働キトシテハ、信州全土ニ勢力少ナキカト覺ユ、已ニ先ニ他教派ガ進入シ居レバナリ、上州ノ意見果
シテ如何

善光寺ガ如來ニ依テ昌盛スルノ地ニ非ズ、地の理^利ト人ニ由テ立ツ地ナレバ動かジト云フ事ハナカルベシト奉信候、実
ニ奈良ハ沈滞冷沮、彼ノ、コラジン、ベツサイダト一般ニ御坐候、彼の監督教会ニテハ小生ノ来着以来伝道師ノ替ル
事^六九名、加フルニ米人一人在留、然レトモ信者トシテハ今日腐敗シ來ルモノ彼の教会ニ多ク生ジ意外ナル事ナリ、幸
ニシテ我教会ニ此難ヲ免ル、ヲ得、少シツ、ニテモ進歩ナキニ非ズ

噫今ニシテ小生殆ド三年の働ヲ回顧セバ愚ナル忍堪ニテアリシナリ、今ヤ新年ニ入り一先ヅ此地ノ方ヲツケ、早春遅
クモ三月ヲ期シ信州ニ雄飛シ、余勇ヲ留メテ一戰可致候間、幸ニ御休神被下度候

大和国ハ、大坂市ヲ加ヘテ（大坂市ノ人口殆ド九十萬）摂、河、泉三国ヨリ生ズル総罪人ト大和一国ト對スル割合ナ
リ、故ニ日本全国中、訴ヘノ多キ冠首ノ国ナリ、人民ナリ、加之テ暗沈タル奈良、小生ノ伝道是迄涙ダナキ能ハズ、
而シテ元より驚力唯今日アルニ至ル、神ト尊下ノ御教示ニよりシのみ、幸ニ憐察ヲ垂レヨ

委曲申上度事有之候へども、善光寺進入ノ決心申上度以上、勿々如斯ニ御坐候、頓首

一月三日夜

公義

伯父様

坐下

拝

○二日、小子モ何ナリト活潑ニ打テ出度、昨年の如きハ、春來何トナク、消費、新年ハドウゾ、清福ニ多様に送り度ト祈居候

○大学事件モ金森先生ノ御働き、奈良県ハ一文モ集ラズ、尊下一本の御手紙ニテ警察部、裁判所部内併セテ五十兩位ヒ今ニ至テ歎ズルナリ、小生信州ニ入テ此事ニモ一働き可致候、或ハ新潟地方ニモ此事ノ為ニ趣キ、小生一臂ヲ奮ヒ、セメテハ一万兩計リモ手ニ入レ度ト存候

○従来大学事件ノ働キハ、手順宜布カラズ、此度ハ、人ヲ動ス話の下ニ直ニ即坐ニ集金スル様致し、小生独自一己ニテ東北地方ニ働き度ト存候

831

一月四日

新島公義

①奈良 ②神奈川県相州大磯 百足屋ニテ ④墨

近作御吟詠の封書方ニ拝覽す、題北越之伝道御作、^{〔概〕}感慨沈痛、^{〔証〕}遮莫家郷想遠証の情ナキ能ハズ、大磯迎春の御作、悠

然有余韻妙絶ト存候、加ルニ文字亦清浄優美ニシテ新年の快味ヲ覚江申候、謹テ高意ヲ拝謝ス

扱昨夜已ニ呈貴酬候如ク、河中島進撃の一挙ハ事意外ニ出テ、都合善ク相運び候様仕度、是非共二月の下旬若クハ三

月の上旬頃ニ進入スル様致度、就テハ小生ハ遅クモ二月上旬頃に当地ヲ引払申度候間、上州之議速カニ一決、直チニ
伝道会社ニ向テ意見ヲ陳弁セラル、様希望の至ニ不堪候、小生ハ小生の後任の策ヲ廻シ、当地ハチャント始終ヲ一結
致シテ退クの積ニ御坐候、本月中は尚大磯ニ御滞留ニ候や、未ダ御帰京の期日は定まらざる義ニや伺度候、長野の新
知事内海忠勝氏ハ二十日頃入県の由、是亦幾分の便利かと奉存候、氏は基督教の大賛成家ト聞江タレバナリ、先は後
信のある日迄、草々不宣

一月四日

伯父様

坐右

公義

拝

徳富君よりも何か近日返書ヲ呉レル由申来候

私も一度長野ヲ一見仕度、若ラズンバ尊下若クは尊下ニ代人ノ觀察ヲ得度様ニモ奉存候、然レトモ不破、杉

山、杉田三兄ノ内一人ノ已ニ視察セラレタル所速ニ拝聞仕度候

832

一月五日

富士成豊

①北海道札幌区北四条東一丁目一番地 ②西京寺町通丸太丁上ル ④墨

謹賀新年

久々御無音打過候得共、貴兄益々御健康被保喜悦不過之、而シテ客歲神戸御寄寓先ヨリ年始状ヲ忝フス、願フニ其御軫地ハ西京ハ土地少シク高所ニ位スルが為メ、貴兄之御病患ニハ不宜故カト乍蔭推測致居候、然シ其後ハ快方ニ候哉、御序御洩被下度候、次ニ小生義も昨年之巡回ニテ当北海道之沿海各港湾之調モ粗々完全ス、今年ハ何れ之方ニ着手スベキ歟、日々相樂居候、昨秋之頃、小生外出中馬場種太郎君ニ御惠投之珍物ハ正ニ拝受仕候、乍例貴兄之御交情謝スル所ヲ不知、宜敷御聞置被下度候、乍末御内君江も宜敷御声繼相願度、且ツ小生等婦夫も無事消光、日増事物之進開を相樂居候、御休神可被下候、先ハ年始御礼旁々、平素之疎遠ヲ深謝ス、拝具

明治廿三年一月五日

在札

富士成豊

新島襄殿

追啓、当札幌モ年増次第一体之景況宜敷方ニテ、近頃ハ炭鉱鉄道会社成リ、同社ニテタ張^{ユウバリ}、空知^{ソラチ}之両炭山ト室蘭港之間ニ鉄道布設之経画^(計)中、為メニ間接ニ移住民之便ヲ開ラキ、日増人氣宜敷方ニ御坐候、本年夏秋之候ニハ御縁合セ御婦夫連ニテ屯兩月間ハ当札幌ニ御遊歩ハ如何ニ候哉、内藤氏之妻君モ殊ニ御壯健ニアリテ、御妻

君之御嘶相手もアリ、万事都合宜敷、御決定之上ハ、壹週間前ニ御通知ヲ煩度、左スレバ御住居所等夫々準備可致、乍不敬貴兄之御健康上ニ障碍ナカラン事ヲ希望スルノ余リ一寸茲ニ微志ヲ述ルモノナリ、御勘考被下度候也

即日

833

一月五日

徳富猪一郎

⑤ 森中章光写（孔版）

頃日は大勢と申す程ニモ無之候得共、喧噪ナル連中打連参上仕り、一時の佳興ニハ有之べくと存候得共、或は御病如何哉と深く掛念仕候、その後は国民新聞創業の多忙ニテ、殆んど他事ヲ中止仕候次第ナレハ、松方伯ニモ未タ面会之都合ヲ得不申候、併し近日は同伯も富岡別荘ニ閑居被致候間、何れ帰京の上は面会の期を得可申候
申上度事ハ山々御座候得共、不取敢右迄申停候、勿々以上

一月五日夜

徳富生

新島先生

玉案下

一月六日 小北寅之助

①西京 同志社予備校ニ而 ②相州大磯 百足屋ニ而 御直披 ④墨

謹而奉賀新年

拙生

去ル明治十九年九月 主之御辱ニ依リ別科神学ニ入学仕、爾来 主之御慈悲中ニ厚ク先生之御恩義ヲ蒙リ、当学年ヲ以テ卒業仕候場合ト相成、誠ニ感謝之至リ奉存候、将来之伝道地ニ付キ勘考仕居候処、肥後八代教会役者ナル江浪氏辞職ニ相成、現時無牧ニシテ後任者ヲ選ブハ当教会之急務ニ御座候、就而は学校ニ在ル八代人其委任ヲ受ケ一致之相談ヲ以テ拙生ヲシテ其後任トナサント尽力シ、教会及ヒ伝道会社委員之相談ヲ遂ゲ、赴任ヲ促シ呉レ候、拙生神之御聖旨ヲ伺ヒ奉リ、諸先生及ヒ朋友ニ謀リ、実地模様問ヒ合セ、彼此参考仕候処、御聖旨之存スル所ト存ゼラレ、当地伝道之任ニ当ラントノ志望有之候、就而は先生之御指図ヲ仰キ決定仕度、何卒御教示被成下奉願候、右ハ重大ノ事件ニ御座候故拝顔ヲ得テ御伺ヒ申上度存候得共、八代教会之現況ハ無牧ニシテ漸次衰運ヲ来シ、会員安堵致シ難ク、後任者之決定切迫致居候折柄、書面ヲ以テ御意ヲ伺ヒ奉リ候、恐惶謹言

明治二十三年一月六日

小北寅之助

新島大先生
呈机下

一月六日 新野 稔

①滋賀県近江国八幡池田町五丁目拾六番地 ②相模国大磯 百足屋ニ到ル
 虎皮下 ④墨 ⑥封筒裏書「安永稔事」

尺素拝呈仕候、陳者新年之御吉慶万里同風芽出度申納候、先以主之優渥ナル御恵ニ拠テ、閣下益御機嫌能御超歳可被遊、欣喜雀躍之至極ニ奉存候、二ニ迂生モ真神之慈雨恩風ニ沐浴仕、無恙犬馬之齡ヲ加候間、乍憚御休神被降度候、先者年甫之御祝詞旁如斯ニ御座候、敬白

国会開設之歳一月六日

新野 稔

新寫襄殿
 侍史

別啓

昨年十二月下旬京都日出新聞閱覽致居申候処、閣下御持病再発之趣掲候ニ付、如何被為入候哉、日夜心痛罷在候折柄、古賀鶴二郎氏去ル三日來訪致吳候間、他事ヲ問之無暇、直ニ閣下之御病状相尋申候得者、最早近々御快方ニテ格別氣遣候事モ無之趣御令聞様ヨリ承知致タル様申聞候、依テ迂生ニモ大ニ安堵仕候、即今嚴寒之時節ニ候得者、御保護專一ニ奉存候、却説ニ西宮五十田勇次郎氏ニモ昨年九月二十日ヨリ随分酷烈ナル癉症ニ罹リ、一時ハ到底快方之見込無之程ニ病勢漸候モ、幸ニ快氣致申候間、乍憚御放神被降度候、就テハ兼テ閣下ニ御約束ヲ結タル一件モ今ニ涉々敷運動共出来致居不申事ト奉存候、迂生ニハ同人之三男教育上万事委托ヲ受、手元ニ引取世話仕居候ニ付、年頭祝義旁來十三日頃同方へ罷越存意ニ候得者、彼之一件ニ付テハ其節能々誘

導奨勵致置合ニ御座候、先ハ要用迄、早々謹言

再伸

昨年十月十八日霞ケ関ニ於テ国家之柱礎タル大臣ヲ弑セ〔ト脱カ〕ンシタル兇徒カ同郷而止ナラス、且少年之時同窓ニ在テ螢案雪灯ヲ供ニシタル学友中ヨリ現ハレ出タルハ実ニ社会ニ対シ慚愧之至極ニ御座候

除夜感

萍蹤南北復西東

歲月忽如矢脱弦

三十年来何所得

依然吳下旧阿蒙

836

一月七日

遠藤能定

①京都 同志社神学校 ②相州大磯 百足屋ニ而 要用 ④墨 ⑥日付は封筒裏書による

謹テ明治二十三年ヲ祝シ、併セテ先生ノ万福ヲ祈ル 諸テ甚タ差付ノ事ニ候ガ、小生ノ郷里熊本県下八代ヘ当校別課神学四年生小北寅之助氏ヲ来ル六月ヨリ永住伝道士トシテ招聘仕度、付テハ略ホ談判モ相整候得共、同氏ノ申サレル

ニハ、当校生徒トシテ縦令屢々面談ノ光荣ヲ辱フスル能ハストモ、直接間接非常ニ先生ノ御薫陶ヲ蒙リタルモノナレハ、一応先生ノ御意見ヲ承ハルハ至当ノ事ナラント、因テ同氏ハ余リ先生ニ御面会致シタル事モ無キ故ニ、小生ニ証明トシテ一封先生ヘ差出様ニト申サレ候間、此ニ一封差上申候ガ、一体御承知ノ通、肥後人ハ愚直ナル方ニテ、鋭敏ニシテ才子ラシキ人物ハ到底適當致ス間敷カト存候、既ニ一昨年卒業シタル江浪亀四郎ヲ招聘致候ヘ共、同氏ハ小々輕爽鋭敏ニハ有之候ヘ共、厳格ノ徳ニ乏シキ人ニ有之候處、果シテ適合スル能ハスシテ、當時八代百ニ垂トスル信徒ハ牧者ヲ望ンテ悲鳴致居候故、百方吟味致シ候末、小北氏ハ真ニ実義ニシテ多言ナラズ、江浪氏ノ如ク機敏ニラサルモ、能ク困難ニ耐ユルノ徳アリト思ハレ、此人ナラバ肥後ニ適當シタ人物ト存シ候ガ 先生ノ御考ハ如何ニ候や、御尋申候、何委細ノ事ハ小北氏ヨリ申上ラレタル事ト存候間省略致候、草々頓首

新嶋先生

閣下

遠藤能定

拝

二伸、寒氣益々相加ハリ候時節、御病氣ハ如何ニ候や、国家ノ為メ我輩青年書生ノ為メ御保養專一ニ奉存候

837

一月七日

半田平次郎

①上州碓氷郡原市町 ②相州大磯 百足や様方 参人々御中 ④墨

謹奉賀新年

華翰拝誦仕候、陳ハ先生ニハ兼てより大磯ニ御滞留被為遊候事ニ聞及候得共、彼此ニ取紛れ遂ニ御無音仕候段、平ニ御有免可被成下候、尊体ニハ引續きて倍御健勝ニ被為在候事と存ジ奉^{〔逆〕}迺賀候、這回ハ亦新年の御祝詞ヲ蒙リ忝奉存候、殊ニ先生の芳墨一書を添へ御恵与被成下、誠ニ有かたく頂戴仕候、将亦過般前橋御枉駕の節も美墨一挺御恵与被下、是亦重々難有奉深謝候、誠ニ万端申上度事御坐候へ共、愚筆申尽すを得ず、殊ニ失礼の拙文御仁免被下候、先ハ早々御礼のみ、折角御保護專要と奉折候、頓首謹言

廿三年一月七日

半田平次郎

拝

新島先醒

閣下

一月七日

小野英二郎

①福岡県柳川新外町 ②神奈川県大磯 百足屋ニ而 梧下 ④墨 ⑥封筒裏
書 新島筆 [Keep]

客月廿八日之芳翰正ニ拝読仕候、小生前途之事業上種々御厚配ニ相成、縷々御懇切ナル御忠言、逐一拝承仕候、尊翰ニ接シテハ頗ル感慨ニ堪ヘサル様被覚、独逸一行モ先便申上候如ク全ク断念罷在候得共、同志社大学之前途ヲ思ヒ、理財学上智識ノ集点ノ現今ニ必要ナルヲ感シ、今日ニ於テハ決シテ一人一箇ノ私情ニ制セラルヘキ筈ナキ事深ク胸中ニ銘シ申候、依テ一昨日電報ヲ以テ一寸申上候如ク、独逸留学之事モ篤ト再考之上、森信夫氏トモ相談致シ、不日判然タル御返答可申上候、独逸行ニツキ困難ハ二ツニテ、第一ハ母之老体ナル上、家政ニ困難ナルコト、第二ハ徴兵ニツイテノ関係此之二件ニ可然工風相付候得ハ、断行致シテハ如何ト只今思考罷在候、併シ今日午後三時より森氏ト会合之筈ニテ、委細同氏ト相談御返答可申上候、右ハ貴酬迄如是ニ御座候、頓首

二十三年一月七日

小野英二郎

新島襄先生

梧下

839

一月七日

田中源太郎

①東京本郷区 医科大学第一医院内上等五号室 ②相州大磯駅 百足屋方ニ
於テ ④墨

復賀新年

追而近頃新聞紙を読ム事ヲ禁セラレ居リシニ、漸々一昨日其禁ヲ解カレ候ニ付、風ト或ル新聞紙ヲ閲シタルニ、其記事中先生ノ御不快ニテ令夫人ニモ御上京之由実ニ驚愕仕候間、直チニ随行ノ者ヲ御旅宿茂林館ヘ相伺ハシメ候処、先生ニハ既ニ大磯ニ於テ御養生相成居候趣、近頃ノ御容躰如何ニ御坐候哉、何卒為國家最前ノ如ク御不養生ノ事無之候様御撰養奉禱候、次ニ拙者義入院後御懇切ニ御訪問被成下奉深謝候、一時ハ随分危篤ニ陥リ候得共、幸ニ順次快氣ニ向ヒ、近日散歩入浴等モ相試ミ候様ノ次第ニ御坐候間、御休神被下度、拙者も今日迄ハ随分我慢ニ有之候得共、此後ハ直ニ悔悟致候ニ付、余後モ充分ニ保養致候覚悟ニ御坐候間、先生ニモ呉々モ御自愛相成候様仕度候、右御病氣伺旁年詞御答迄如斯御坐候、勿々頓首

一月七日

田中源太郎

新島襄殿

追而令夫人ヘ宜布御鳳声奉奉候
〔願〕

一月七日

横田安止

①京都市上京区 同志社 ②相州大磯 百足屋ニテ 乞御親展 ④墨 ⑤封
筒表書「固ク他見ヲ禁ス」、日付は封筒裏書による

小生ハ先き同志社ノ情勢又タ其レニ付テ小生ノ感念ノ大略を徳富氏へ申送り置キタリ、先生へ氏ヨリ談ナサレタル事ト存居候へハ、此ノ書状にハ^{〔録〕}尤モ簡単に記シ申候、万事間

頃日ノ御念書其後も無幾度繰返し拝誦仕候、当時先生大磯御蟄居の御心情実に奉推察に有余、時々難言の感慨湧き来り、心ハ矢竹に思ヒ候も、今日の小生又タ如何トモ為し得ス、唯タ朝夕に上帝に向ひ先生将来の御幸運を祈り居る次

〔調登〕

第に御座候、目下社会の潮流幾分カ先生の事業に逆流し、斯ク御事業に一頓挫を来タシタル事ナランも、ツマリ先生の鉄石尚透ルの雄厚濃烈の御精神にハ支ヘ得ザル事ト存居候へハ、此ノ一事ハ氣長く奉待設居候

御書状中の御希望の条々、御指南の件々、逐一拝承仕候、先生の御精神深ク肝刻仕、小生の応分の勉励労働ハ致ス可ク御座候、敗鼓之皮云々の御教諭ハ小生ニ取り実ニ頂門金針、爾来ドコ／＼迄も服膺仕ル可ク御座候

昨年広津等カ艸案ニ関リタル同志社教会の規則は今尚ホ金森氏の手許に有之事ニ御座候、氏帰宅後直に受取り印刷に付シ、会員に分配致ス可ク御座候、生等一同苦慮ノ上決定致シタル規則の事に御座候へハ、其の重要な件々丈ケハ心に印シ居リ、教会の運轉ハ此の規則にヨリ運轉致サセタル事に御座候、目下別に規則の必要もなければ全ク教会ニテ等閑に過ぎ来リシ事ニ御座候、誠に日本全国の伝道之責任を負フタル、而して各教会ニ自由自治の主義も明然タラザ

ルの時節に際し、小生等朝夕に此ノ主義を唱道シ居リナカラ、斯ク気ヌケ等閑ノ事多ク、実に内に省ミテ耻入ル次第ニ御座候、爾後ハ此辺の事万事応分の注意熟慮致ス可ク御座候間、御心配被下間敷ク奉願候

学校に就ての先生の御希望御目的ハ小生平素了承、御同感の次第に御座候へバ、御希望の如ク小生応分の働きハ致ス可ク御座候、爾後ハ特別の時間を設ケ同窓の学友にハ交際致し度存居候、特に同級生ニハ今一層親シク致シ度存居候、御承知ノ通りの小生の事ナレバ、心にハ十分思ヒ居ル事ニ御座候も、我カ学校の為メにナル様ノ事ハ中々為シ能フ所にアラズ、実に慚愧の次第に御座候

関東伝道の御計画、又タ組合教会発達の兆候承りて実に愉快に存居候、此の機を過マラズ我党の士が奮て其勝利を制スルの策を為ス事熱望ノ至リニ御座候、我カ宗教社会の気運も近時ハ一転シタルカ如シ、此の五月にハ伝道会社組織革命に尽力致シ、今日の組織（有レトモ無キ如キ不規律不整頓ト組織）迄改革シ、今一層簡單トナシ、地方分権の制を取らバ如何ンナド、愚^{ナル胸}胸に時々思ヒ居ル次第に御座候、ロースノパンフレット（合併問題に就て）ハ柏木ト其ノ

大要ダケ訳シ、其ノ終リニ生等合併上の意見を陳ベ加ヘ十枚許リノ一文ヲ草シ終リ居り候、生ハ印刷ニ可致シ合併間

題再勃ノ時分配シ、幾分カ我党の気焰を吐カンカトノ存念にて御座候ヒシ、今日トナリテハ是等ノ必要もナキカ如シ、先生如何ニ思召被遊御座候哉、ロース氏の教会政治（小生カ拝借致シ居ル本ト同書）二冊ト同氏のホツケット、マ

ニヒアル（Pocket Manual）一冊、デキストーンノ A Hand-Book Congregationalism 一冊及コロニーノ A Manual of the principle doctrines and changes of congregational Churches 六冊、此内に米國ヨリ送付致居候是等の書籍

ハ如何に御為シ被遊ル、ヤ承リ度候、安部氏にハ書籍（例の）ハ御送付ハ如何に被為ル可ク御座候や、是レも承り度候、生ハ氏ト何時カ面会致して種々宗教社会の現象又タ氏の意見（道伝会社組織等又タ合併上の）モ切に聞キ度ク存

居候も、恰好ノ機会ナ旧冬キに苦シミ居候

旧冬ハ徳富氏より縷々の書状来り、当今学校の情勢に就き指南サル、処有之候、小生も氏にハ何ニモ匿クスナク委細
送リ置キ候、先生にハ御帰宅ノ上縷々申上ケント存、今日迄申送り申サマリシ、御帰宅も延ひタル次第に御座候へ
バ、以来時々委細御報道申シ上ク可ク御座候、或ハ徳富氏より生力氏へ報シタル事を御談シ申上ケラレタル事ナラ
シ、又タ金森、下村の両氏も上京の事ナレハ、両氏より学校一体の情勢ハ御聞取り有之候事ナラン、今生ハ教員間の
事ハ金森氏等ニヨリ十分御承知の事ト存居候ヘハ生徒間の情勢を大略申上ケン

先生の御上京後ハ、云ハ、生徒間の或ル部分にハ元氣付き居ル方ニ御座候、今迄ハ生徒間の嗜好ハ演説にアリシも、

又硯筆ノ研磨著シク、其歩を進め来り、只今デハ各級ニ一ツカニツの写字雑誌を発売致居候、而シテ其の唱道スル処

ハ元氣回復自由精神発達等ノ事多ク、又タ間にハ当今の学校の管理ニ不平ヲ鳴ラシ新任校長ニ反動致シ居リ候、又タ
西洋教師に何トナク嫌厭ノ情を含ミ居リ候、中にハ面白カラザル文章モアリ、挙動モ有之候も、一体ヨリ云ハ、当時

ハ昨年の末方ヨリも宜敷シ方ナラント存居候、或ル部分にハ元氣発達の兆アル如ク相見ヘ候、以上ハ学校の或ル或一

小部分の情勢に御座候カ、大多数の情勢ハ万事に冷淡に、無頓着に、悠々又タ飄然トシテ暮シ行き申候、此レハ今日

に初マリタル事ニアラズ、小生等カ入校以来の有様ニテ、別に驚ク可キ事ニハ無之御座候、誰レカ唱道スルト無ク、

生徒一般の反動ハ金森氏ニ在ルカ如シ、金森氏ト生徒間の感情甚タ悪シ、小生一時ハ此レニ付心配致候モ、今日ニテ

ハ当初の如クハ無之御座候ヘハ、是レニヨリて別に学校ニ不都合の生スル事モ無之ト存居候、小生ハ初ヨリ万事金森

氏を補助スルの精神にて、万事を為シ居リ申候、金森氏も生等ト談スル事を好マル、事ニ御座候ヘハ都合宜敷ク御

座候、又タ生徒一般の教員会議に対スル感情も以前ヨリハ悪シキ方に御座候、此辺の消息ニ至リテハ申上クルモウル

サク御座候、誰レカ鳥の鷓鴣〔鷓〕を知ラン、ドチラモドチラ、小生ハ此に何トモ申上クルヲ欲セズ、何ニ様ニ今日ハ我カ同志社も組織上革命セザルス可カラザル事ノ時、又タ教育法、教師陶汰等の改良アラザル可カラザル時ト存シラレ候、又タ生徒間ノ元氣風采に於テモ改良セザル可カラザル時ニ御座候

同志社をシテ日本革命の一要素トナシ、所謂ル改革家を産出セント欲セハ以上の改良ハ是非致サル可カラズ、実に今日の社会の情勢ト云ヒ、同志社の情勢ト云ヒ、之を思ヘバ、実に思偉人の情自ラ切に御座候

今日ハ社会を挙ケテ皆ナ情実ガラメ、何事も光明磊々の所置ハ無之、轍頭轍尾小刀細工の様子、耳に触ル毎に残念に堪ヘズ、我カ同志社ノ運転も此の弊風に陥リ居ルの感ナキ能ハズ、生ハ我カ新任校長も教師も万事校内の所置ヲして小刀細工の苟息〔息〕の教育法改良法を相止メと為ラシメザル事を希望して止マサル次第に御座候、神学生其他普通校の学科教育法小生ハ今日迄経験し来り、愈々改良の点多きを知ル、一大経綸を立て同志社の運転を図ラザレハ、我カ同志社をして皆ナカ朝夕に言フ日本革命の一大要素ト相成ル事ハ中々覚束ナキ感ナキ能ハザル次第に御座候、小生ハ四囲の境遇を顧ミ、深ク内に省リミテ実に愧入ル次第に御座候

先日徳富氏より先生ト同志社の将来に付御協議申し候、漸次一弊一害を改良致ス可シト申送レタリ、生等実に嬉シク心強ク存居候、生ハ近頃ハ教師諸子ニ向ひ同志社の最大目的ハ如何ナルモノナルヤト問ヒ度き感情モ有之次第に御座候、教師諸子の意の在ル所解釈に苦シム事ナキニアラズ、小生ハ卒業の期限モ差し迫り、小生胸裏ニハ一身上色々の感念蟄集シ居リ候、先生ト万事御打合せ申シ将来の大計を立て度ク存居候、先生ノ小生へ就テの御考ヘモ承リ度候、三月を越ヘテ御帰リナケレハ書状にて御打合せ申シ度ク存居候、先日田中賢道当地へ来り、御留守宅にテ数時間談話申候、実に愉快に覺ヘ申候、今日天下の保守党の形勢も幾分力了知スル事ヲ得申候、誠に人ハ逆境に立タザレ

ハ十分の練鍛ハ六ヶ敷クノト感セラレ候、今日保守党ノ学校又タ其ノ青年を見レハ多ク有為ノ健児多キ次第ニ御座

候、然ルニ却リテ改進黨主義ノ青年に有為ノ人物少キハ、是レ改進黨主義ノ青年ハ順風ニ立チ、保守党ノ青年ハ逆風ニ立チ居ルヨリ起ル事ナラント存居ラレ候、小生ハ我カ基督教社会の萎靡不振ノ形勢、又タ近クハ同志社の元氣十分に振起セザルヲ思ヒ、時々今一度我カ基督教社会ヲ驅リ、我カ同志社ヲ驅リテ、逆風怒濤ノ中に立テセ度ク切ニ存居候、嗚呼我基督教社会の不振、我同志社ノ元氣の十分發達セザル、其ノ原因ハ全ク其ノ境遇カ順風快潮に乗シ居ルニアリ、順風快潮実に望マシキモノナリ、然レトモ腐敗ノ分子此ノ内ニ孕ム、小生ハ実に我カ同志社ヲシテ今一度逆境に立テセ度ク存居候スル事ニ御座候、曾テ先生力我カ日本にハ清教徒の輩出スル丈ケノ境遇ナシト御談シ有之候が、生ハ近頃頻リニ此ノ御談ヲ思ヒ出シ、慨然タル次第に御座候、生モ実に一度逆流に立チテ才氣胆力を鍛練致シ度き感念に満チ居リ候、小生ハ覺ヘズ知ラズ冗長の言を吐き申候、意少クシテ文字多きハ小生ノ弊、先生御諒察被下御覽被下度候、実ハ浄書致シ、無用の文句を取ルネハナラヌ次第に御座候モ、小生を知リ玉フ先生ニ御座御座ヘハ、此儘奉呈仕リ候、宜敷御諒察被下度候、草々不一

一月六日

横田安止

頓首

新寫先生

座右

二伸、奥様も無御變被遊御座候、小生モ成丈ケ御慰メ申上度心情に御座候モ、武骨ナル小生毎々罷出デ却テ御氣ニサワル事ハ無之ヤト恐レ居ル次第に御座候、時毎々罷出テ野ナル小生ノ如キモノニ懇切ニ御待遇ニ与リ実に恐入次第ニ御座候

先生の御玉作時々捧誦致居候、上州ヨリ東京へ御帰途ノ作と広津へ御送与の作トハ、句々先生の御精神を見る、小生モ及ハズナガラ和韻仕ラントノ大望ヲ抱き試ミ申候処、中々御目ニ掛クル詩未タ出来ズ、耻入次第に御座候、社会の風波先生に逆流スルノ中、可惡の病魔襲ヒ来ルの時、先生悠然又タ超然、大磯の浜に一咏一揮被遊ル、御風采、当地ヨリ遙察し奉り欽仰ノ情、憂愁の念ト共に胸中に往来スル事ニ御座候、返〔ス〕々々モ先生国家の為メ御自愛御保養被遊御座度熱望熱祈仕候、御壯健にて三月の末頃御凱戦御帰宅切ニ奉待候
徳富氏より送本中にハジヨンブライトノスピーチハ無之御座候、是れ生力先きに該書ハ当地にて手ニ入り候故、左様申送リタル事有之候に由る事ニ御座ハン、先生の御厚情ハ深く肝銘仕候

学校ノ事情ハ広津、徳富ノ両兄にハ恒に委細書き送り居候、近時教会の運動も別ニ変リタル事ハ無之御座候、学校一般に当今社会の風潮に伴ヒ、何トナク宗教社会を以前ノ如ク念頭に掛ケザル傾向モ有之レハ、以来ハ此辺ヘ十分注意仕リ、教会振起の策を為ス可ク御座候、然シ決シテ教会カ其勢力ヲ失フタルニアラズ、御心配ハ御無用の事ト存候、教会等其他委細ノ事情ハ他日ノ愚状に譲り度候

和田兄ノ事ハ御心意の在ル処委細了承仕、和田ノ為メ最良の都合を生等取扱ヒ申ス可ク御座候、和田モ先生の御心意ハ十分肝刻致居様子ニ御座候

下村氏等の生徒間ニ於ケル感化の方向等御承知ナクハ御報知申上ク可ク御座候、其他の事（モ）

〔別紙〕

小生ハ此の愚状を認メ畢りて、詩思勃然、先生の広津へ与ヘラレタル玉作に和韻仕りて一詩を賦し候、未タ詩

にナラズ、所謂似而非者ナルモ御一笑に供す

眼前窮達非所意

最後戦勝只所勤

超然自処世俗界

百難用中天語聞^案

841

一月八日

松本勘十郎

①群馬県西群馬郡倉賀野町

展 ④墨

②神奈川県下相州大磯町

百足屋方ニ於テ 親

尊書相達忝拜見仕候、先以大磯ノ御越年被遊恐悦ニ奉存候、予テ希望致居候御染筆御書初トシテ御贈恵被下、家族一同大悦奉深謝候、兼々被仰置候新町伝道ノ事手続もアルニ付、旧臘手配致候所、町之中央ニテ八畳之間三ツ続ノ家講義所ニ貸シ呉候約定ニ御坐候、尤先方申ニハ、一月ハ成丈ヶ見合、若始メ候ハ、月末ニ致シ呉候様申居由、右ニ付不破、井出等ト相談之上、不日着手可仕心算ニ御坐候、此程不破へも申遣置候間、近々来ルヘク、其上確定ノ義申上候間、先以此義御放念可被下候、扱前後致シ申訳無之、日夜神念シ候牧師も三月到着忝奉存候、誠ニ荒果タル牧場ニ候

間、牧師も御配慮之事ト奉存候、此所ニ於テ一層改良致し度兄姉等專苦配仕候、疾ク御礼申上度勿論ニ候所、旧冬押詰まり風邪ニ、持病等ニテ繁忙中引籠旁延引仕候○関氏も火災扱々氣之毒ニ奉存候、先者右御礼申上度、向後期更ニ可申述候、勿々

明治廿三年一月八日

新島尊兄

松本勘十郎

拝

尚々、第二払込第一銀行切符等見当り不申、精々相尋居候

842

一月八日

大久保真二郎

①武荻秩父郡大宮町

②神奈川県大磯町

百尾屋ニテ

煩親展

④墨

新年勿々雲翰飛来何ノ喜か之ニ加エン、双手ト一心トラ満開シテ之ヲ拝スレハ御偶感ニソアル、壮図却促男兒涙滴、
々、灑、為、縷、々、文、ノ如キハ実ニ感銘斜メナラメス候

(ママ)

志方ヨリ年始状来リ曰ク、小北ハ已ニ八分迄八代行ニ決シタリ、今更少々関東伝道ノ必要ヲ論シタレハトテ急ニ動クマシ、唯此上ハ新島先生ノ御指図ヲ待ツノ一事遺ルノミ、若シ先生已ニ御同意アル以上ハ直チニ八代行ニ決意致居候

彼レノ決心ニハ

間、此上ハ先生江伺状差出候時、先生より御指図アルノ外、彼レハ動き申さすと申来候、是レハト心配致居候処ニ、今夕小北寅之介ヨリ書状来リ、弥兄（真ヲ指）ノ言ニ從ヒ八代行ニ決シタリ、懇情ハ忝ケナケレトモ今ハ變化仕ラスト申来候

今トナリテ七転八倒スルモ己レヨリ蒔キタル種子、己レニ還ル如何トモスル能ハサルナリ、願曰ク、先生幸ニ関東ノ急務ナルヲ説キ、速ニ小北江向ケ御教示賜はり度奉願候

当地ノ景況甚タ面白ク、人々皆狂スルカ如ク喜ヒ、生ノ如キハ実ニ嬉しさノ余リニ眠り申さす、昨夜ハ些しも眠り申サス程ニ御坐候、来ル廿六日ニハ晩餐モ守ル積リ、恐ク八十人位ノ受洗者アリ、其中ニハ奏任官アリ、判任官アリ、財産家アリ、極貧者アリ、中々愉快ニ堪ヘ申サス候

十二月分ノ手当ゴルドンヨリハ未タ来ラス、テュートニック人種ノ特性カハ知ラサレトモ、些ト馬鹿ラシク存候、御序モアリタラハ一本賜わり度奉願候、右ハ大喜ヒ中勿々取筆乱粗真平御高免被下度奉願候、恐々

一月八日晚

大久保真二郎

拝

新寫先生

梧下侍史

843

一月九日

青柳新米

①群馬県前橋田中町五十五番地 ②神奈川県大磯駅 百足屋方 ④墨

匆卒相認メ乱文幸ニ御判読ヲ給り度候

拝啓、其後は絶テ御存問ヲ欠き申分無之候、寒ニ入りて御眠食如何候、日夜御案し申居候処、昨日不破牧師御地より帰橋せられ、御動静を詳知致し、閣下益御清適ニ渡らせ候趣き承り、欣舞踊躍国ノ為メ大賀致し候、当地御滞留之節御面悟之栄を給ハリ、種々御訓誡を被り誠ニ有難奉感謝候、御蔭様ニて小生も大ニ覚悟スル処之あり、一際将来之希望ヲ確ふし候得共、一身の方向ニ就てハ未だ少し決心致し兼候場合も之あり、誠ニ^{〔慚〕}慚愧之至ニ候、今年之如きは最も多事多忙之秋にして、我儕神之僕之光ヲ現ハす可き大切な時機と存し候得共、教会ノ不振、伝道之委靡甚數誠ニ残念之至ニ候、神は小生之如き不肖ナルものをも何なる所ニか用ひ給ふ事とは信認致し候得共、甚た薄信薄弱ニして尙未ダ決心致し兼ね候間、何卒小生之為め御訓ヘ且ツ時々御垂教ヲ賜へらば幸福之ニ過るもの之なくと存し候

不破兄御出向之節は御面^{〔倒〕}到なること御願申分なく候、小生は元来少シモ詩歌之嗜好なく斯道ニ於てハ殆んど盲人故、敢て御高吟ヲ弄スル積りには之なかりしも、過般御面談之節当今我国有司有志之心実之腐敗せるを御談し申候時、閣下奮然御慷慨之余御近作として一詩を朗吟シテ聴かせ給はれり、此時小生は非常ナル感ヲ興し、閣下ヲ御仰望致し候、平生之感覚ニ一層之厚ヲ加ヘタルヲ覚ヘ申候、依て爾来種々ニ相考ヘ候得共、全ク忘却其ノ影ヲ留メス、遺憾極マリナク候折柄、不破氏出京ニ相成り候故、若シモ御面談ノ節ハ御尋ネ置キ下サレ度と請求セシ処ニ候

御示シニ相成リ候御高吟之詩御鴻志之幾分を判し感激致し候、〔上毛之青年〕青年会ニ賜ハリシ兩句ノ御訓言日夜服膺致し度と存

候、申上度事多けれトモ悉し難く余は後便ニ譲リ申候、先は御礼旁区々ノ意申上度如此ニ候、時下寒威不常、幸ニ国
ノ為メ御自愛アラン事ヲ、頓首百拝

廿三年一月九日

青柳新米

新島先生

閣下

844

一月九日

松田順平

①東京本郷湯島天神町一丁目六十番地 高木方
星方 親展 ④インク
②神奈川県大磯駅 ムカデ

時下寒冷甚數御座候処、追日御快方ニ趣カセラレ候由承知仕リ佩感罷在候、次ニ当講義所モ日ニ月ニ好運ニ相向ヒ申
候間御喜ヒ被下度候、扱テ過日来ヨリ度々御懇談ヲ蒙リ候福島県行ノ一儀、其后小崎及綱島ノ兩兄ニ相談仕候所、兩
兄トモ滞京説ニ御座候、去レトモ小生ニ於テハ其節御話申上タル如ク東北特ニ我県下ノ万事ニ付テ不進歩ナル事ハ常
ニ憂フル所ニ候得ヘハ、若シ主ノ御許シアラハ猛進シテ其任ニ当ラント決心罷在候、真ニ我県下ノ智徳ヲ進メ、徳義
ニ依テ動ク所ノ有為ノ士ヲ養成セントセハ、剛氣不拔ノ氣ヲ以テ生キタルキリスト教ヲ伝フルヨリ外其道ナキヲ思

〔ハハ〕元ヨリ不屑ノ小生ニテアレトモ、其任ニ当テ死スルハ本懷此上ナキ次第ニ御座候、且兩三日前、東兄ヨリモ先生ノ御希望ニ就テ細カニ意見ヲ申来ラレ、尚亦今日モ若松の熱心ナル信者佐藤政吉兄ヨリモ切ニ県下ニ働ク事ヲ希望セラレタル書面ヲ了シ、大ニ感スル所モ増進仕候、依テ過日御話申上候如ク断然東北ニ参り候様決心仕候間、何卒一日モ早ク御計画被成下度、然ラサレハ他ノモノカ無暗ニ手ヲ出シテ将来ヲ誤ル事ナシトモ難云ケレハ、是非共此方ヨリシテ先鞭ヲ着クル事ハ尤モ切要ト存候

承レハ横井兄モ三月二日頃ノ汽船ニテ横浜ニ御着シニ相成ル日取ナルヤ御座候^{〔説カ〕}ヘハ、僅々五六ノ安息日アルノミ、サレバ当講義所ノ説教ノ如キモ若シ都合ヲツクレハ間ニ合ハサル事モアルマシト存候、去レトモ横井氏帰朝后マテ東北行ヲ見合セ候ハ、又或ハ他ノ手ヲ出スニ逢フヤモ知ルヘカラス、過日上州ノ不破兄ノ話ニヨレハ、下仁田トヤラハ此方ヨリ伝道スヘキ土地ナルニ、若シ手ヲ出サスニ居ラハ、メソデストヨリ手ヲ出スト平岩氏カ云ハレタリトノ事ニ御座候、彼ノ組合教会ノ林立セシ処トモ云フヘキ県ニ於テサヘモ已ニ然レハ、二ヶ月ノ猶予シテ居ル事ハ甚々氣ヅカワシキ事ニ思ハレ申候、小生モ愈彼ノ地ニ働クト相決シ候上ハ、人后ニ立ツ事ハ余リ望マシカラヌ事ニ御座候間、可成ハ速急ノ手段ヲ用ヒ度存候、且近頃福島県人ノ基督信者ノ親睦会ヲ相開キ、将来可成的県下ノ宗教上ノ運動ヲ助ケサスヘキ心算有之候、亦若シ該地ニ趣クニ就テハ三春ノ有志河野等ノ賛助モ得度、サレハ二三週間ハ其等ノ計画ニモ要スル事ニ御座候間、何卒々々御尽力被下度奉希望候、時下折角御自愛專要ニ奉祈候、頓首

二十三年一月九日

松田順平

新島襄先生
机下

一月十日 原胤昭

①北海道釧路シベチヤ ②西京相国寺町 貴下 ④墨

新年敬賀

愈御壯勝御超歳奉祝候、小弟幸ニ 主之御恩下ニ浴シ相働キ居申候、渡北後日も浅ク候へ共 主之特恩ニヨリ且各会友之御厚誼ニヨリ村上兄来北之勞ヲ蒙リ、シベチヤ組合教会ヲ為シ候事感謝し、又会友之厚辱ヲ拝謝仕候、爾来会勢も日ニ相進ミ慶ヒ申候、小弟も事務頗ル激ニシテ伝道之余裕も無御坐候間、一人之地方伝道師ヲ得度相謀リ居申候、監獄ニ対スル小生カ働ハ幸ニ第一之目的ヲ達シ候、則チ先年来北海道監獄ニ被行候不法残虐に囚徒ヲ斬殺撲倒非命之死ヲ与フル之事ニ御坐候、一昨年目撃之儘実ヲ發イテ報道書ヲ局者ニ出し、且其局之大臣方へも直接ニ其実ヲ吐露致候処、頗ル意外之感アリシ容子ナリシカ、忽チ内務之内訓出テ、旁其方針ヲ換へ、就中当釧路監獄ハ其魁タル場所ニ候カ、爾来官吏も交迭シ、遂ニ昨年ハ全年度ニ只タ一人之逃獄アリシ而已、総而囚徒恭順ニ服役致し候事ト相成候、併シ小弟カ第二之目的タル出獄人保護之事業に付而は存外ニ地味不肥、尚且兼而期シタル資金之途絶江甚タ困却之位ニ立チ候、只タ 主之御導ヲ俟而已ニ御坐候、監獄之方針に付而は内務之輿論ハ前日ニ異リ、ヤ、進化致シ候へ共、北海道ハ道路開鑿業ニ囚徒ヲ役シ、費ヲ減セントスルヨリ変則之治獄不少、頗ル治獄之真ヲ失フ事アリ、遺憾ニ御坐候、万事耐忍 主命之努力仕候而已ニ御坐候、先ハ年賀旁如斯ニ御坐候、謹言

一月十日

胤昭

拝

新嶋先生
侍史

846

一月十日

松尾音治郎

①播州明石郡高和村 ②神奈川県相州大磯 百足屋方 ④墨

拝呈仕候、小生只今之処毎週六日教授致すと毎日三時間ハ教授可出来と奉存候ニ付、右の時間教授致すとして月給之
処ハ四拾円位と奉存候、小生初の程ハ該校ハ鹿兒嶋土着の有志者の設立するものと思ひ居申候、メソヂスト派の臭味
を滯ひをるとハ思ひ設けざる次第にて有之申候故、何卒右御掛合の序、其組織の大略御聞合セ被下様奉願候、依て
早々御回答申上候也

一月十日

松尾音治郎

新嶋先生

閣下

小生只今の処、同志社風の教授方なれハ先つ一人前ハ可出来と奉存候

明治23年

一月十日

宮川経輝

①大阪玉江町 ②相模国大磯 百足や 几下 ④墨

御懇書奉拝見候處、御別袖後非常之御大患にて御困難被遊候由実ニ驚入申候、然し目今之処にてハ自然御快方にて大磯ニ御休養旁大学資金募集之為め御尽力被遊候段大悦不斜奉存候、陳ハ弊館之事ニ付て深く心思を勞せられ御厚配被成下候段何とも難有奉謝候、一兩年中ニハ幾人かの卒業生も出来可申見込ニ御座候得ば、骨折甲斐ハ屹度有之可申歟と相樂居申候、同志社ニ於ける心靈上之維新革命ニ付而ハ貴書を辱うせし以来毎朝祈禱懇請仕居候、小生共如何ニ当局者ニ向ひ論難攻撃仕候とも、上よりの熱火全フアコルチー^[Faculty]を暖むるニ非らざれば無益之長談贅語なるべしと奉存候、仰き願くハ同社之運命を支配し玉ふの天父、吾人之熱請を納れ本月末之学校祈禱会迄ニ更新力を垂れ玉はんことを、実ニ今廿三年ハ国会之開設と偕ニ教会史上ニ一大特書すべき一段級を登り度切望仕居申候、小生ハ年首より清潔ピュリチーと云ふ觀念深く腦裏ニ徹底致し、今年ハよしクオンチーテの進歩を見ざるも是非クオルチー^リの改良を見度、先づ己を潔めて成し得べくんバ全教会ニ及ぼし度奉存候、我基督教之教ハ信徒ニも非らず、無神哲學家ニもあらず、腐敗したる牧師、汚穢ニ染みたる伝教師なるかと存じ、慨歎之至ニ堪不申、起てよ聖役者よ、何ぞ五斗米にて造りたる十字架を負わんとする乎、先生願くハ小生共異常之高潔なる志望と純白なる精神を以て、垢染みたる欧米風の信者ニ非らず、プリミチーウエーヂのヤコブ的信者を出し得る様常ながら信行兼備之信徒と相成可申様御懇禱被成下度奉願候、降而先生之快復を禱り、併せて彼の事業の上ニ主恩之増加せんことを求む、敬白

一月十日

宮川経輝

新島先生

848

一月十一日

不破唯次郎

①郡馬県前橋曲輪町 ②相州大磯 百足屋ニテ ④墨 ⑥(消印) 前橋一月十六日ロ便、不破雄書簡(850・一月十二日付) 同封か

一書奉呈上候、先日ハ大勢罷出種々御馳走様ニ相成り奉万謝候、帰宅後直ニ御礼状も差出兼心外此事ニ奉存候、明後日ヨリハ信州地方ニ参り度心組ニ御坐候、何レ杉山、杉田兩兄ニも別ニ差支無之事と存候、上毛各教会之祈会も先好都合ニて、本年ハ特別之御恵ヲ蒙リ大運動致度希望ニ御坐候、御依頼之金員ハ直ニ〔農夫雄〕関氏へ相渡申候、河波兄よりハ今日迄何ニ之通信も無之、同兄ノ決心如何と案申候、此程上毛各教会ニローカル、インテレスト之盛大ナルニハ困却仕候、倉ヶ野ニも毎周井手出来兼候由ニて、松本兄より同地伝道策ニ付相談参り候得共、井手兄ニて動レル方元来当然と存候、元来杉田、杉山小生ニも時々ハ参りて助力スル心組ニ御坐候、下仁田ノ事も杉田、杉山兩兄へ能々相談之上宜敷相運度存候、グズノスレバ一月も過キ去ル事ニて、上毛ノ伝道時節ハ毎年十月より三月下旬迄ナレバ、生等役者共ノ上ニ十分天恩ヲ蒙リ様御祈り被下度偏ニ奉願上候、何レ信州より帰宅ノ上ニ委細申上度存候、早々失礼、再拝

明治23年

一月十一日

不破唯次郎

新島先生

二白、^{〔永〕}長岡兄へ宜敷御伝言奉願候

849

一月十一日 小崎弘道

①東京土手三番町二十 ②相州大磯 百足屋 親展 ④墨

先日ハ大に御邪魔致し失礼申上候、偕て松田順平君本日参り、愈郡山地方へ出張致す事を決せし旨申来候が、実は迂生此迄東京へ滞在、番町之伝道を助けくれるやう相勧め居候間、^{得共}已に右之如く決心致されたる以上は一日も早く其志の達するやう尽力仕度候、御存之通り伝道会社は目下財政大困難之折にて、迎ても新たに事業を始むる事叶ひ不申候が、右松田君之事ハ何とか先生之方にて御工夫為し被下度偏に奉願候

兼ねて待受けたる小谷野氏ハ一昨日入港之汽船にて帰朝仕候、迂生ハ未だ面会仕さるるが多分明後日にハ面会致す積に御座候

同志社神学部ハ是非改良せざる可らざる事と存候、^{〔脱アルカ〕}今てさも入学し神学を修めんとするもの少きに、政治科設置之上

は尚ほ更之に入るもの少からんと存候、同志社にて将来伝道士を出すの望なきに至らは、宣教師ハ勿論日本之諸教会信者皆な望を同志社に失^{絶つ}ふに至らん事を恐る、是れ生の日夜憂慮に堪へざる所に御座候○中島力造氏本年五月帰朝之目的なるよし申来候が、願くは同氏を神学部に入れ度存候、何卒ぞ同氏之給料に付、至急方法を御設け被下度切に希望仕候、右用事迄如此、早々不一

一月十一日

小崎弘道

新島先生

850 一月十二日 不破雄

④墨 ⑥不破唯次郎書簡(848・一月十一日付) 同封か

時分柄寒気凌兼候処、主の御恵之元に御障りなふ被遊、御起居候由万々奉遙賀候、降而此方一同無異消光仕候間乍憚御林心被下度奉願上候、扱先日は大勢罷出不浅御厄介ニ預リ万々奉謝候、帰前後早速御礼可申上之処、彼此取紛れ御不礼申上候段何卒御用捨被下度奉願上候、誠ニ先生の御壮健なる御顔を拝し噫^{〔噫〕}敷存候、帰前後直ニ兄弟姉妹ニ御咄し一同悦び申候、乍此上御加養專一奉願上候、且其節ハ種々なる事を御願ひ実ニ先生の御尽力被下候事に依り他日好都合ニ相運び、共に快く当地に於て神の御用を相務め候日来るなら^んと^{〔ん〕}楽しミ居候、御厚情之段幾重にも奉謝上候、乍

憚^(水)長岡様へも宜敷御一声被下度奉願上候、先ハ御礼旁御機嫌御伺度、委細は後便ニ可申上候、時下御自愛專一奉願上候、早々不一

一月十二日

不破

雄

新嶋先生

閣下

851 一月十二日 原 忠美

①新潟県新発田寺町 ②神奈川県大磯 百足屋謙吉方 ④墨

昨年暮にハ京都の方へ御帰宅遊るゝ様聞き及候間、今年始めに当地伝道之有様に付略は認め、京都へ郵便致置候処、東都に御滞在にて拙書御落手被遊候や、残念之至に奉存候、過るクリスマスにハ結構なる演説全集御恵送被下、今日広津君より幸便に托せられ送られ候間難有落手致候、万謝之至に奉存候、先生近頃御病氣ハ如何に候や、御伺ひ申上候、小生乍不及先生之御身体之御壮健にあらん為、且同志社大学之為、日々神前に祈禱致置候、先生幸に安する処あれ、過日写真一葉郵送致置候、御落手被遊候や、北越は本願寺之金倉にて金満家なきに非ず、然れも彼等^(ト脱力)は是を用ゆる之道を知らず、彼等にハ智識なく公共之精神なし、皆握りて離さると云ふ之類なり、然れとも本願寺に熱心なる処を以て見れハ宗教之精神なきに非ず、もし彼等を神に導く之日ハ、日本に大なる働きを致すへし、現今新発田伝道ハ

ハかゝしき進歩無之候へとも、先づ漸次進歩する之有様に御坐候、日曜学校にハ「ママ」常尋小兒五六十名参り申候、当地に於て最も有力者は代言人に有之候処、近來彼等は政治熱にうかされ宗教に耳を傾けず研究致度心を有するものハ沢山有之候間、何れ明年に至れハ伝道致積に御坐候、市中之伝道ハ青年会之組織にならひ、五六人を受持ち働く様に成し居り候、多望なるハ軍人中之伝道に御坐候、昨年長谷川中佐が当分營に聯隊長になられたる時にハ二三之信者あるに拘はらずキリスト教嚴禁せられて困却致居候処、神之導により長谷川氏転任、川崎聯隊長來隊致るゝに逢ひ、宗教之自由を得、且同氏自らキリスト教を研究致るゝ心有之候間、時々訪問相談し申候、加之佐藤大尉ハ熱心に聖書を研究被致、神前に救はるゝ遠きに非ざるへし、願くハ当地之為、常に御祈禱なし被下度候、当地現在之信者ハ二十二名に御坐候、過日之拙書に申上候通婦人伝道にハ大に困却致居候

新潟之信者ハ皆広津君を愛し居候、唯氏をして長く在港致るゝ様望み居候、然れとも氏は既に渡米之御決心犯す可からされハ後を如何になすべきや、皆々心配致居候、先生如何に御考候や、長岡は近頃甚た宜敷都合なり、三条にハ近頃米国より帰朝被致候真霜藤氏に伝道願度存念に御坐候、月報云々はニユーエル氏に相談致候処、八分迄承諾被致候、氏は美以美教会に属るゝ人なれトモ、宗派心なく自由されるゝ方に御坐候、五泉にハ岡山之福家氏ニ依頼致度とも考居候、中条教会にハ牧師を得る事甚た難し、時未た来らず、第一ヶ月一度位行く積に御坐候、明日ハ同地并に黒川に趣く積に御坐候、小北越を愛す、新発田を愛す、神ハ弟を当地に送り給へり、如何なる苦痛弟之上に來り候共、弟ハ当地に働き当地に神之栄光を顯さん事を期す、人を樂ましめ人を歎はしめん為に非ず、神に樂を与へん為に働かんと欲す、人を怖るゝに非ず、神を怖れて働かんと欲す、もし弟が生命を有する内に栄光を顯す能はすんは、ヘンリー、マーチン之如く死して神之栄光を顯はさんと欲す、願くハ不肖なる小弟を上にに愛顧を垂れ被下度候、弟か今

年之元旦に心に銘したる句は詩篇第一篇二節エホハの法をよろこひ日も夜もこれをもはんと欲す、願くハ健全幸福先生之上にあらん事を祈る、草々頓首

一月十二日

原 忠美

新島襄先生

852

一月十二日

松田順平

①東京本郷湯島天神町一丁目六十番地 高木方
②神奈川県大磯駅 百足屋
方 ④墨

御赤心ヨリノ御懇書拝誦仕り愈勇氣ヲ得申候、特ニ本年初週ノ祈禱会ニ於テ献身ノ味ノ幾分ヲ悟了仕候間、一層地方伝導ノ必要ヲ感シ申候

万事主ノ摂理ノ下ニ好都合ニ向候様ニ被存候、御来示ノ如ク河野等ノ尽力云々、然ルニ氏ハ目下東北ニ歸リ居候故、当地ニテハ何分其計画ヲナス事能ハサルモ何トカシテ有志者ノ賛成ヲ得ルノ策ヲ講シ可申候間、御案事被下間敷候、且兼子君ヘモ尽力アル様申送り候間、或ハ氏ヨリノ招介モ多少の利ヲ与フルナラント存候

小崎氏ニ東北行ノ決心ヲ御話申上候処、氏ハ愈御決心ノ上ハ其ノ如クセラルニ万宜敷トの事ニ候、然シナカラ伝道局

ニハ一文ノ金ナケレハ迪モ致方ナシ、手ヲ出スナラハ委員の責アル事ト相成候トノ御話ニ御座候ヘシ、去レトモ小生ハ飽マテ福島県行ノ必迫ナル問題ナル事ヲ主張仕候、不才不学ナレトモ献身ノ機ニ際シ猶予スヘキニアラサレハ、是非共先生へ御相談被下候テ一日モ早ク該地へ赴任セラル、様御尽力ヲ希望スル旨御話申上候

承ルニ一致会ニテハ再ヒ鶴岡中学校ニ居ル藤生金六氏ヲシテ福島町へ行カシムルヤニ略決定仕候様子ニ候得は、今日ノ処ニテハ一日モ早ク本城ヲ郡山ニ築クヘキノ期ト奉存候間、願クハ一日モ早ク其道御立被下度奉希望候、小生ハ何ニモ書籍ヲ有セサル故、多少買入候上田舎へ参リ度御座候間、何卒御都合被下度、創業ノ際多分ノ入費等モ相掛リ候事ニ候半ガ田舎ニ参候而ハ本ヨリ外ニ智識上ノ收入ハ無之次第ニ候間、何卒此辺も御推察被下度奉願上候、講義所ノ方ハ直ニ去リ候而も敢テ不都合ト云フ程ニも無之候間、此レモ御案事被下間敷候、松本、村上ノ両氏アレハ何トカ説教者ヲ頼ミテ三月初旬マテハ間ニ合セ可申トノ事ニ御座候、依テ小生ハ安シテ田舎行ヲナス事ヲ得ル場合ト相成リ、神意ノアル処ハ如此モノカト驚キ入候程ニ御座候、尚小生ニ於テ是非献身ノ生涯ヲ送ラレ候様御祈被下度其ノミ奉希望候、先ハ当用ノミ、乱筆乱文御用捨被下度候、頓首

一月十二日

松田順平

新島先生

閣下

所感

心ダニ恵ノツニ湿ハ、言葉ノ花モマコトニゾ咲ク

御添刪奉希候

一月十三日

浮田和民

①京都上京区第十二組梶井町十一番戸 ②相州大磯 百足屋 ④墨

爾後御無音申上候処時下御養生如何ニ御坐被成候哉、幾重にも御自愛之程奉懇願候、陳者今回金森、下村上京、該地
 員の見込にて到底同志社大学ニ政治法律学部ハ東京ニ非ざれば不都合なりとの考案のよし、尤至極の所論と存申候
 へども、前途右にて同志社大学独立の体面上、世人の信用する所如何ニ御坐あるべく哉と掛念仕候次第ニ御坐候、同
 志社大学ハ今ノ如く独有ノ教師なく、資本も今分なりと仮定せば固よりの事ニ御坐候へども、是迄乗出シ候上ハ是非
 東京大学の寄生虫然タル大学若くハ文学部にてハ到底世人の信用ニ背き可申と存申候、左すれば早晚教員も図書館も
 凡テ同志社独有のものなかるべからざるハ、東京に於てするも当地に於てするも、異なる所無之と存申候、小生ハ東
 京に於てするの一事ハ更ニ不同意無之、百般の便益有之候間、敢て賛成の至ニ御坐候へども、政治部にても法律部に
 ても東京に於て開くにせよ、当地に於て開くにせよ、独立の体面ハ潰すべからず、独自一己の資質ハ失ふべからずと
 覚悟すべき事と奉存候、固ヨリ有名なる学士、法律家、裁判官等の助力を請ふことあるハ差支なき事と存申候
 右様覚悟を要する事とすれば、東京に於てするの利益ハ同志社の大学に欠くべからざるの利益にてハ無之、附屬の利
 益を失ふことまでの事ニ有之、而して大学を同処ニ置く能はざるハ取も直さず同志社大学に独立の力なきを表言するに近
 しく世間の信用如何あるべき哉と此点のみ未だ疑團氷解不仕候間、尚十分社員方の御思慮ありたる上御治定あらんこと
 希望之至ニ御坐候

一月十三日

新島襄様

浮田和民

854

一月十四日

小崎弘道

②相州大磯 百足屋 ④墨 ⑥封筒表書「松田順平兄に托す」

貴書奉拝誦候、松田兄之事に付御申越之趣拝承仕候、尚ほ教会より派遣するやう致す事ハ早速相談可仕候、同兄は至急彼地に出張致し度志願にて、右御相談之為め御地へ罷出て可申候間、万事同兄と御目相談被下度候、尤も同兄月手当は凡金十五円位にてよろしかるへく存候、尚ほ旅費等之事ハ直に同兄に御相談被下度、右貴答迄如此、早々頓首

一月十四日

小崎弘道

新島襄先生

二白、小谷野氏ニハ昨日面会仕候

一月十四日

篠田昌武

① 鹿児島県鹿児島市大字西田百五十番地

② 神奈川県相州大磯 百足屋方

至急 ④ 墨

ギューリキ氏ヨリハ未タ返事参ラズ候

時恰モ安息日ニ於テ愛兄之華墨到来、取ル手遅シト拝誦仕候処、愛兄ニモ御養生之為メ相州へ御越シ被遊候由、折角御自養之程奉祈候、降而私共運動は新設以来未ダ二三回之定期集会ニ候得共、未信徒ハ二三名参リ申候、去ル初週祈禱会ハ一致教会ト連合いたし候、目今小生共ノ方ハ説教之如キハ毛頭不致、只管聖書講義ノミニテ有之候、御存知之如ク小生事未タ神学上聊カノ研究無之故、聖書講義等モ致テ不完全ニテ充分未信徒ヲシテ、満足セシムル不能、加フルニ近頃出版ニ相成候ラルネド氏之著述ナル日本ノコンメンタリーモ所持不致、彼是残念千万、併シ小生共ハ決シテ己レ等ノ学力等ニヨツテ人ヲ導キ入ル、トハ万々好マザル処ニ有之候得共、何分ニモ経験ナキ薄信ニ有之候得ば、唯々天父ニ熱禱スルヨリ外無之候、愛兄^{〔弟〕}兄ノ此ノ度賜ハル候御書面ハ小生ヲシテ大ニ勇氣ヲ与ヘ元氣ヲ増サシメシノミナラズ、他ノ兄弟ヲシテ大ニ勇氣ヲ励マサセ候、到着ノ其ノ夜講義所ニ於テ兄弟姉妹之前ニ朗読致シ候処、実ニ諸氏ヲシテ軋タ感涙ニ堪ヘザルシメタリ、猶ホ此之上モ一層天父ニ御求メ御尽力之段私共之切望スル処ニ御坐候先日在熊本之海老名、ギューリキ^キヘ宛テ一片之書ヲ呈出致シ候、則チ左ノ如シ

謹而書ヲ博愛ナル大兄等ニ呈ス、然レバ当地ハ一致其他二三ノ教会アルト雖トモ割合ニ伝道進マズ、殊ニ中等社会以上及ヒ青年

社会ニ於テハ甚シク福音之伝ハラザルヲ覺ユ、彼ノ高等中学其ノ他ノ学生凡ソ七八百名モアレトモ未タ斯卡ル学生ニシテ信者生
セズ、遇々求道者アルト雖トモ充分彼等ヲ満足セシムルノ好伝道法ノナキハ実ニ遺憾ト言ハザルヲ得ス、想フニ我地伝道ノ奮ハ
ザルハ大ニ教会政治或ハ教会伝道法ニ関センカ、彼ノメソヂスト及ヒ監督教会ガ当地ニ伝道スル有様ハ実ニ其卑屈ナルヲ知ル、
夫レ故ニ往々求道者ヲシテ却テ礙^{【躓】}ヅカシメタルノ例僅少ナラズ、豈ニ我儕組合會員悠々トシテ之レヲ傍觀スベケンヤ、夫レ我地
ノ人民ハ宗教上ニ於テハ甚タ冷淡ナルト雖トモ、時勢ハ実ニ我ガ冷淡ナル鹿兒島人ヲシテ宗教心ヲ喚起セリ、故ニ近時ニ至テハ
大ニ我カ青年社会ニ於テ宗教ニ耳ヲ傾クルモノ多シ、現ニ当地ニ於テハ^{【ケル】}ハム教徒ハ婦人会或ハ演説会ヲ設ケテ以テ^{【ケル】}ハム教ノ隆盛ヲ計
レリ、是レ我ガ地ノ^{【ケル】}ハム教社会ニ於テ古今未曾有之新事業ナラン、^{【ケル】}ハム教既ニ斯ノ如シ、我儕焉ンゾ伝道進歩ノ好策ヲ講ゼザルヲ得
ンヤ

近時政治熱ト同時ニ自由ノ空氣稍々盛ンナルガ故ニ、求道者ニ於ケル其ノ影響ハ我ガ基督教会ノ政治如何ニ及ボセリ、既ニ然
ラバ何ソ自由ナキ教会ヲシテ彼等求道者ノ満足スル理アラシヤ、嗚呼全能ノ父ハ遂ニ吾々組合教会員ヲシテ其ノ員數ノ僅少ナルニ
モ係ハラズ、組合教会ヲ設立スルノ必要ヲ感セシメタリ、故ニ中尾、篠田ハ惣々宮城海老名一郎兄及ヒ串木野高橋邑重^{（徳富君ノ門弟子）}
兄^{（二名共コングレゲイションノ伝道師ナリ）}ノ下ニ至リ其ノ儀ヲ面談セシニ、幸ヒニ賛成セラレタルヲ以テ、猶ホ一層ノ勇氣ト望ミトヲ得タリ、此ヲ以
テ吾々数人ハ特ニ組合教会設立ノアランヲ為メ祈禱会ヲ開キ、続イテ家屋ヲ別ニ借り受ケ講義所ヲ設ケ、決然本月五日即チ第一安
息日ヨリ開会セリ、其ノ方法ニ至テハ数人ノ各々、応分ノ講義所費ヲ出シ、当分未信者ニ対シテハ説教ハ毫モナサズシテ只管聖
書ノ講義ノミヲナシ、其ノ定日ハ水曜ノ夜及ヒ日曜ノ夜ニシテ、日曜朝ハ感話祈禱ヲ以テ礼拝トセリ、今我儕ハ此ノ儀ヲ訴ヘ、
猶ホ大兄等ノ卓説ヲ聞カントス、乞フ幸ニ回示ヲ賜ヘヨ、頓首

鹿兒島組合講義所

執事 中尾庄太郎

篠田 昌武

二白、目今組合教会員タルモノハ左ノ如シ

近頃来麿セシ人

宮崎教会員

松山臥猪

同 夫人

同 人

同

福崎丸平

同

同 夫人

同

同 小供

尚々当会設立ノ事ハ一致教会伝導師ヘモ熟談いたし候処、大ニ賛成セラレタリ

海老名弾正様

Rev O. H. Gulick 様

之レニテ御推察被下度候

却説、御聞キモアラン、小生ハ郷友会ノ組織ヨリナル鹿児島授産会社ノ業務ニ従事スベキ義務アル身故、只今ハ同会社ヘ務メ候而自由ニ運動ノ出来ザルヲ残念ニ存候、明十五日ヨリハ勸業ノ為メ当県下各地方ヲ巡回スルノ命ヲ受ケ、実ニ今日講義所ニ於テ外ヅシ難キ時ナレトモ、二三十日間留守ニテ巡回致シ候ヘバ、講義所兄弟方ハ小生ノ巡回ヲ他人ニ依托シテ、此ノ時ヲ外ツスナナド申シ請ハレ候得共、是トテ職務上ノ事ナレハ憾^{〔遺〕}憾ナガラ兄弟諸君ノ本意ヲ得ズ候而真ニ困リ入候、故ニ出来ルカ出来ヌカハ計リ難タケレトモ、串木野ナル高橋君ニ小生留守ノ間出張ヲ乞ヒ度存シ候、実ニ小生ハ此等ノ都合旁ニヨリ必然定住伝導師ノ今日ニ切迫セシヲ知ル、又小生モ出来得べきヤ如何ハ今日ヨリ計リ知り能ハザレトモ、是非本秋ハ同志社ヘ入学ノ希望ヲ抱キ、主ニ祈リ申候

蓋シ小生ハ月ニ村雲、花ニ風てふ不自由ノ身ニテ、前ニモアル如ク授産会社ノ業務ニ従事スベキ任アレバ、此ノ職務ヲ辞サレ得ルヤ、此ノ一点今日ヨリ知レザレトモ、精神一到何事カナラザラン、況ンヤ神ノ祐助アルニ於テハヤ、小生ハ只タ熱淚ヲ以テ主ニ求メ居候

書シテ茲ニ至レバ小生ハ層一層益々定住伝道師ノ我地ノ来ルニ必要ヲ感ズ、愛兄乞フ、我地実情ヲ察シ賜へ、小生ハ前後ヲ顧ミズ我地ニ伝道師ヲ送ラレン事ヲ溢淚熱血ヲ以テ切望ス、早々頓首

一月十四日

篠田昌武

新島襄兄

乱筆且前後錯雜ノ文真平御免、時下御自愛是レ祈ル

○伝道師之今日ニ必用ナルハ折角刈リ入レタルモノヲシテ腐敗ニ歸セシムルノ恐レアリ、現ニ今日斯クノ如キ現状ヲ呈シタリ

或ル一人ノ兄弟ハ元來組合教会員ニシテ近頃或ル所ヨリ当地ヘ来リシモノナリ、而シテ其人ノ当地ニ来リシトキハ殆ンド不信者ノ如キ有様ナリシカ、近頃私共講義所ヲ設ケ旁々勸メタルニ、全ク快復シ実ニヨキ信者ニ相成リ、講義所費用等モ其人半額出金スル如キ勇氣ヲ出サレタリ、然ルニ講義所信者ハ数名ニシテ常ニ絶ヘス当地ニ在ル人ニ無之、中尾ト云フ人ハ聖書売り人ニ候得ば田舎地方ヘ時々参リ、小生モ三前書之如ク巡回ニテ福崎某ハ十七八日頃ヨリ延岡ノ方ヘ参ラレ候、左スレバ残ル信者ハ或ル快復セシ兄弟ト同人ノ妻君其他一二

人ト相成候、同氏モ此ノ度私共留守ト相成候ニ付而は大ニ落胆失望セラレタリ、為メニ同人ハ言フニ「若シモ斯クノ如キ申留守、乙留守僅カニ三人ノ集リナラバ、私共モ三人ニテハ聖書ノ講義モ毛頭出来ザルニ付、集リニハ暫ク出会セズナド」大失望ニテ小生真大困却罷在候、右様御憐察賜ハレ度候、此段書添申候

856

一月十五日

大久保真次郎

①武荻秩父郡大宮町 ②相州大磯町 百足屋 煩新展 ④墨 ⑥封筒裏書、
新島筆「回答ニ及ハス」

度々ノ恵雲誠ニ難有奉拝誦候、小北之事ハ最早如何ともする能わすとの事奉拝誦候、河波氏を御向け被下候事なれハ此上もなき事ニ御坐候、小谷野之事、早速松本ニ相談仕候ニ曰ク、彼レハ元来熊谷ニ而尤モ微賤なるものなれハ所詮熊谷ニ而は信用あるまし、又本人も決して熊谷ニ而事業をなすの心あるましとて一応ハ打案し居たるが遂ニ手ヲ拍ツテ曰ク、「タケ」ト申スモノアリ、熊谷ニテノ財力家ナリ、又小谷野杯ノ恩人なり、故ニ小谷野も必ス彼レノ言ニハ従フヘシ、然ルニ本日其「タケ」ヨリ依頼サレタル事アリテ児玉ニテ面会スル事ナレハ委シク相談ヲ逐ケ、程ニヨリテハ小谷野帰郷次第「タケ」ノ宅ニテ小谷野ヲ説キ、遂ニハ三人小谷野松本及小生ヲ指ス同道ニ而一応先生ニ拝謁スル様ニしてハ如何とはやりきつて燃立来り候、真ト雖モ中々強ヒテ止メス、皆ヨシ／＼トテ打別レタリ、明後日ハ松本帰宮、

「タケ」トノ様子ハ相分リ可申、恐クハ万事都合ナラン、蓋シ 神ハ常ニ吾人ト共ニ在スヲ信スレルナリ、吾国邦ヲシテ自由ノ園トナシ玉フノ御心、吾兄弟姉妹ヲシテ自由ナラシメ限リ命ヲ全フセシメントノ御心ナレハナリ、ゴルドン師ハ送り暮レタリ、容易ニハ怒ラサレトモ伝道上ニハ実ニ甚タシキ不都合ナリ、繁忙ノ極底ヨリ時々血吟迸出皆奉拝誦候、唯益天父ノ為ニ身体御保養奉祈候、恐々頓首

一月十五日夜

大久保真次郎

拝具

先生閣下

侍史

〔別紙〕

追伸、当地ノ事情ハ甚タ宜敷、其源因多キ中ニ裁判官熱心シタル事其一ナリ、知事替ワリ郡長位置危殆ナル事其ニナリ、其三ノ源因ハ松本、新井等熱心ニ働クユヘニ一時ニ騒ギ立チ今ハ中々怪シカラヌ賑ヒニテ、或ハ一年モ伝道シタル地方ノ如キ有様ナキニアラス、小生ノ信仰如何ハ真自ラ証シセス、然レトモ今ハ唯在天ノ父真ヲ知ルノミナラス、先生ノ知ルノミナラス、当地二三ノ人ハ明カニ真ヲ証スヘシ、彼等ノ喜ヒ、豈其証拠ナラサランヤ、彼等ノ自由、豈其自由証拠ナラサランヤ、嗚呼今ハ何ヲカ言ハン、唯在天ノ神ヨ 吾レ今明カニ汝ノ恵ミヲ感謝スト言フノ外ナキノミ、アーメン

一月十七日

不破唯次郎

①上州前橋曲輪町 ②神奈川県相州大磯 百足屋ニテ ④墨

其後ハ大御無音ニ打過失礼此事ニ奉存候、今夕信州より帰宅仕候処、河波兄一件ニ付キテノ御書状只今相達シ、先生ニハ同氏新潟行ニ付キ御心配被下恐縮之至ニ奉存候、先生之御書状并ニ別紙一通ハ直ニ杉田、杉山両兄へ廻申候、彼ノ事タルヤ私共ハ河波兄ニ対シ外面上ハ知ザル形ニテ、杉田兄ニモ富岡教会へ相談之工風ニ付キ心配ト申サレ候、河波兄ヲ藤岡へ働シメル事も先日先生へ御相談通ニハ直ニ参リ兼候次第ハ他ニ非ラズ、茂木兄一件ニ付伝道会社ノ委員方ノ実行スル所も花々數無之、只々困リ申候、左スレバ河波兄ハ是非トモ富岡へ働レル様致度奉存候、承レバ先生ニハ再ビ御病氣ニテ御困却被遊候由、実ニ御氣ノ毒千万ニ奉存候、近所ナレバ妻雄も少々御加勢出来ナラント申居候、此度ノ信州行ハ小生共ニ取りテ大ナル神ノ御恵ト思考仕候、ゴルドン氏へハ小崎、杉山、杉田三兄より信州ノ事ハ委細相談ニ及レル由ニ決申候、目今ノ所ニテハ上州ニテ公義氏ノ月手当ノ割合ハ六ヶ數存候、何レ此事ハ杉田、杉山よりも申上ゲル事と奉存候、小生ハ廿五日より大宮へ参ル心組ニ御坐候、同地ニモ七八名ノ受洗者も有之候由、帰路ニハ一寸熊谷へ立寄度心組ニテ、是レハ極々内々ニ御坐候、明後ノ日曜ニハ大間々ニ参リ、来火曜日ニハ国定、桐生ニ参り度希望ニ御坐候、右ハ御返事迄

一月十七日夜

不破唯次郎

新島先生

二白、信州行ノ入費ハ近々御通知申ス積ニ御坐候

858

一月十七日

不破唯次郎・杉田 潮・杉山重義

- ①群馬県上州磯部 山城軒にて ②神奈川県相州大磯 百足屋ニテ ④墨
⑥封筒差出人名は不破唯次郎

寒威酷烈を極め居候得共先以益御多幸奉大賀候、陳ハ過般長野より郵便はがきを以て申上置候通り、去る十三日高崎第二之列車（東京第一）を以て出発し、同日午後八時頃長野に到着仕候、予て信州ハ有名なる沍寒之地とハ聞居候へども、左程迄とは思はざりしに、思ひに優りたる寒氣にハ殆ど閉口致し候、室内之ガラス窓にかゝりたる空氣が尽く氷結々晶したるには恰も北極線内に入りたる心地致し候、之にて其一般を御推察可被下候、翌十四日は一日同地に滞在し市内を巡視し、且つ一二心当之人々を訪問致し候、夫々御添書被下候銀行先生をも御尋申したれども、折悪く遠行之由にて面会を得ざりしハ残念之至ニ御坐候、且つ浅川某（曾て甲府にてカナダ、メソヂスト派之牧師を致し居りし人なるが、何か故ありて之を止め、今は長野師範学校之英語教師を勤居り、且つ間接に伝道にも尽力致し居る人にて、一致教会にても、美以美教会にても同氏を手がゝりと致し居る趣なり）も学校休業中、上京之由にて■之にも面

会するを能はず、且つ師範学校之生徒中にも一二信徒（一致派之人なり）ある由なれども、是とても皆休業帰省中に面会するに由なかりしハ誠ニ残念なりしと雖も、前橋教会員之一婦人高島於てうと申人（同夫人之良人ハ師範学校之教師にして未信徒なり）を訪ひ、同地之概況ハ大略相分申候、如何にも同地ハ有名なる善光寺所在之地にして、昔は同寺之朱印地にもなり、今日とても同市は唯々同寺之為めに衣食致し居候様なる有様ゆへ、同地之伝道は余程困難にして、之に当るには非常なる信仰と勇氣を要する事は云ふ迄も無之候へども、何分同地は同県下第一之要地にして、且つ他之教会にても未だ充分に思ひ切りたる伝道をも致し居らざる事故、断然之に着手することは甚だ緊要にして一日も忽にす可らざる事と相感じ申候、乍然小生等三人之考にては、同地之伝道ハ余程有様を替へ、先づ外部に講義処を開き、説教をなして人を導くことよりは、寧ろ内部にて有志者等と交を結び、所謂基督教の麵包種を以て一時に全市を膨脹せしむることを第一好策と存候、且つ信州伝道を初むる以上は決して長野一市にのみ手を止めず、可成的アングレツシーヴにやらかすこと肝要なり、然し近傍之少し頭はれたる場処は何れも皆既に一致若くはメソヂストの伝道地と相成居候へば、我に於ては其説教会が難場として躊躇致し居候、長野町へ第一に着手し之を立脚之地として、夫より四方へ手を伸すことは信州全体の伝道策に付ても最も適當なる方法と存候、已に同地伝道の事をアメリカンボルドに照会することは小崎氏も大賛成大同意に付、同氏と連署にてゴールドン氏方へ早速掛合候様可致候、尤も今回説教会にて、同氏には来る廿日頃安中、原市へ被参候筈なるを以て、兩三日之中委細同氏と相談致候事出来可申候○十五日には長野発第二列車にて御代田迄参り、同処より岩村田へ趣候、同地は北佐久郡之都会にて随分緊要之場処なり、信徒十五六名あり、内半分は一致教会之信徒なれども、半分は組合教会員にて原市教会に属する者も二人あり（嘗て原市に來り柏屋に奉公し居たる人）、前橋教会員一人、倉ヶ野、松本之工場に在りし工女二人あり、只今は一

致教会より伝道者（大沢某と云ふ、小生等之行し時には他へ伝道へ出掛け、留主なり面会せず）を派遣し居れり、抑も同地へ行しは過般同地之信徒依田某（前に云ひし二人の一人）原市に來りし節、信州之事を話し、事に依れば近々長野辺まで遊歴することある乎も知れずと申せしに、若し然らば是非枉駕ありたしとの切なる望なりしに付、今回色々将来之為め参考にも成ること可有之と存じ一寸立寄申候、同地之信徒は如何にも熱信にして将来に頗る望ある景況なり、小生等三人同地之信徒と話し頗るスピリチュアル、エキスペリエンスを得たり、同夜は同地信徒之望により説教会を開きしが頗る好景況なりし、同地は一致教会との関係もあり旁組合教会へ取ると云ふ訳にも行くまじけれども、種々なる信徒之混合致し居候事故、若し教会を建るならバ先づ取敢えず何之教派にも属せざる独立教会を立て、其後充分に伝道上之便宜、信徒之所好によりてを探求して、何かに属する様致すこと宜からんと存候、組合派之信徒等も大概ソナ考らしく相見申候、斯る善き場処ありしを今まで打捨置たるをは如何にも馬鹿ゲタル事と存候へども、今更如何とも致方なし、今後之事を計画する外に無之候、翌十六日朝同地を發し、汽車にて（御代田より）輕井沢まで來り、同地より鎮道馬車にて有名なる碓氷嶽を越へ横川へ來りしに、今回小生等之帰路を要し、坂本駅にて説教会を開く之計画ありしに付、又々坂本迄引還し、昨夜は同地にて説教を致し候、（折節中山光五郎氏も佐野より帰省中にて、上原権太郎及び郡徳鄰之二人と共に來りたり）横川之鎮道馬車会社は益々信徒を出し、去る十二日之安息日にも二人授洗したり、同社々長も頗る基督教を賛成し、昨夜は全社員を奨励して説教会に出席せしめたり

此旅行は十三日より今十七日に到る迄前後五日に及び、此五日間奇談山の如く不破兄が馬車に酔ふたるを第一とし、御代田停車場にて人力車の欠乏に逢ひ杉田、杉山兩人が一人乗の人力車に相乗し屢々顛覆せんとせし事、翌朝馬車の馬が少も動かずして浮雲く汽車に乗り後れんとしたる事、等申上れば数尽きずと雖も、何分筆紙に尽し難く候ニ付、

此事ハ拝顔を得たる時可申上候、右様之事情ゆへ、何分僅々の日子、充分なる調査も得遂げ不申候へども、大概之事ハ相分申候、何分一日も早く着手し、忍耐と勇氣を以て伝道する事緊要と存候、定而一致会之人々は此度之遊歴を聞て種々と妙な感思を抱く事ふかと存候へども、之は致方なく候、唯々内氣にして処女之如く致し居るが芸にもか無之候、然し先づ可成的はウワイズにカウシ阿斯にやる事も肝要ニ御坐候、前先に申上る通り、長野は随分難場あれども希臘教にては已に百名程之信徒もあり、立派なる会堂をも建設し居るを以て見れば、決して望なき場処にあらざることは明白に御坐候、然し一致教会の三ヶ月伝道にては到底覚束なく候、一旦手を出したる以上は飽くまでも忍耐する精神なくては六ヶ敷事ニ御坐候、小生等三人其話を聞く積にて希臘教の会堂を訪へ其教師を尋ねしも、不幸にして逢ふことを得ず、唯々右の話は他之人より聞き得たる処ニ御坐候、右は只々汽車より上りたる儘にて、取急ぎ認候事故乱筆不文甚く候、何卒御推読之程奉願上候、時下御自愛專一ニ奉祈候、敬白

一月十七日

不破唯次郎

杉田 潮

杉山重義

新島先生

玉机下

859

一月十七日

河波荒次郎

①上州富岡 ②相模国大磯町 百足屋方 ④墨 ⑥封筒裏書「十七日午前一時カク」

閣下再ヒ御病氣ノ由、私如キ不忠ノ者アリテ種々御配慮ヲ煩ハシ奉ル事多キカ故ナラント恐察仕リ何トモ申訳ケナキ次第二御座候、何卒此ノ罪御赦被下度奉願候、私十三日ヨリ正月ニテ世人ノ休業シ居ルヲ幸ヒ、只今迄各地ヲ奔走仕リ、四五日間帰宅仕ラサリシ為メ到来シ居リタル尊書モ拝見スルヲ得ス、為メニ御返事申上ル事甚タ遅延ニ及ヒ候段恐入申候、御懇篤ナル御書面悲喜交々ニ至リ汗背慚愧ニ不堪、主ニヒレ伏シテ落涙仕候、主ハ我心ヲ知り玉ハン、又閣下モ私カ胸中ハ御存知ナルヘシ、併シ私カ今日ノ境遇モ御承知ナキカ為メ態々越後迄罷リテ市島輩カ利己ノ為メ狂走スル、其ノ灯提持チスル腐腸男子ト御輕蔑ナサル、ハ御尤千万ニ御坐候、私モ実ニ愚鈍ナリト云ヘトモ、此ノ理ヲ弁ヘサルニハ無之候故ニ、私ハ今日マテ此ノ事ヲ閣下ニ申上ケサリシナレトモ、木原ガ私カ事ヲ憐シテ窃カニ閣下ニ通知シタル為メ、私モ不取敢端書ニテ申上タル次第ナリシ、定メテ閣下ハ私ヲ利禄ノ為メニ変心スル甲斐者ト御賤シナサル、ナルヘシ、又木原カ貴寓ヲ訪ヒタル節ニハ、金森兄ト徳富兄ト居合サレタル由、二君も此ノ事ヲ知ラレタル由、今日尊書ヲ拝見仕リ二氏モ貴君ノ御推察ノ通り私カ境遇ヲ知ラレサル為メ同シ考ヘ抱カレテ御賤メナサル、事ナラント私カ今独リ天父ニ向ツテ痛哭仕リ候、私カ閣下カ御親切ニ加勢スルトカ助力スルトカ仰セ下サル、御親切ハ辱ケナク候得共、市島カ提灯持チヲナサントスルカ腸ノ腐レタル男子ヲ引留メ為メ餌ヲ与ヘ置クトノ御精神ナルヘシト

思へハ、閣下ヨリ下サル、錢ハ一厘タリトモ縱令餓死スルトモ頂戴仕ラズ候、又断シテ越後行ハ不仕候、私モ郭外三頃ノ田地ヲ所持仕居候得共、此地ニアリテ伝道仕り候ハンヨリ、歟ヲ故山ニ肩ニシテ黄牛ヲ逐ヒ閑々耕作シテ愚父母ヲ慰メ、愚弟カ学資ヲ調ヘテ、日月ヲ送ランコソ実ニ愉快ナル事ニ御坐候、嗚呼閣下ハ私カ意ヲ知ラス、故ニ斯ル語ヲ筆ニセラル、ナルヘシ、木原カ閣下ニ如何ナル事ヲ申上タルヤ知ラスト雖トモ、今私カ心腸ハ実ニ四分五裂筆ヲ取ルニ堪ヘズ、何レ面会シテ私ハ閣下ニ嚙ミ付キ申サン

860 一月十七日 大久保真次郎

①武羽秩父郡大宮町 ②相州大磯 百足屋内 煩親展 ④墨

前略御高恕可被下候、松本萩枝事急用有之一昨日出京昨日帰宮仕候、其話ニ小谷野ハ既ニ帰朝罷在候由、一応面会セんと存したれ共、何分火急之事ニ而廻リ兼、殊ニ其宿所定カナラス、定めて横浜ノ彼レノ親属ニアルナラント、就テハ今日ニテモ引返し出京スヘキヤト申出候ヘ共、小生先差止メ彼是当教会ニも都合アレハ、来二月勿々出京スル様相談致置候、唯氣ニナルハ、彼レハ先生ニ拜謁スル様之運ヒニ相成居候や、将又当方則萩枝より相談致さねハならぬ事なるや、若シ唯此方而已より彼レヲ擔ニセネハナラヌ事ナレハ其考ヘニテ手運ヒ仕らねハナラス、又先生之方より御手マワシニナレハ又其積リセネハナラス、如何ナル都合ニ可仕や、尤当方ヨリハ今日ニモ熊谷ノ竹井（小谷野ノ幾分カノ恩人、過日一タケ）ト

（セシモノナリ）ニ依頼シ、松本萩枝ヨリ用事アレハ二月勿々面会致旨申遣シ置答ニ御坐候、兎角第一ニ小北ヲ失ヒタル事ナレハ、此度ハ是非失ワサル様仕度、充分ノ御厚顧ノ程奉希候

該山林ノ一条ハ初メ申出タルモノ何事アルヤ、近頃格別熱心セサルヤニ見受申候間、私方よりハ先其儘ニ差置候、尚御聴ヲ願ヒ置クハ、当地ハ何分天然之庫ニシテ中々洪大ナル富源有之候、着々資本ヲ入レタラハ実ニ無量之富ヲ得ルナラン、必ス頑固極マル支那及東洋諸國ノ伝道費ハ此地ニ備ヘ玉フ御摂理ト奉存候、願ハクハ、先生一ヒ御奮臨、当地ノ実況ヲ御覽被下度事ニ御坐候、其レハ兎ニ角一ノ豪商、則当地ノ事業ニ資本ヲ入ル、人ヲ是非々々御紹介奉願候、是迄ハ決シテ先生ノ真ヲ撫育シ玉フノ途中ニ於テ遁レ玉ワサル責任ニ御坐候、蓋天下ノ事ハ必ス茲ニ在レハナリ、勿々恐々

一月十七日

大久保真次郎

拜具

新寫先生
閣下

861

一月十八日

新島八重

①サイケウテラマチマルタマチアカル
②サヲシウヲイソ ムカデヤ
③
電報 ⑥浮田和民の妻

ウキタスエケサシンタ

862

一月二十二日

平岩愼保

①東京東島居坂 ②東海道大磯宿 むかで屋方 御侍史 ③はがき ④墨

今夕七時ヨリ如例祈禱会相催居候際、新島先生大病之由承知仕、小弟等甚驚入一同為めに祈禱申上候、其后如何ニ御坐候哉、御見舞且伺上候、目下国家之為め先生之御病勢ハ甚痛心仕候、何卒世益之為め、基督教教育之為、御全快在世之程不堪祈願候、敬具

一月廿二日夕

平岩愼保

拝

863

一月二十二日

長浜教会執事

①江州長浜 ②西京寺町通丸太町 ④墨

嚴寒之候、主の御恩寵より御平康ニ被為在奉欣賀候、偕本日新聞紙ニ於テ御先生御病氣御危篤之趣承知仕、一同驚愕心痛仕候、即夜祈禱会相開キ惟主の大能ヲ祈リ罷在候、依テ御先生之御病氣如何ニ御坐候哉、御取込中御手数之至ニ御坐候得共、一度御報知被成下度、右不取敢御見舞旁御尋申上候、勿々不備

一月廿二日

長浜教会執事

新島襄様

御留主居

864

一月二十二日

大久保真次郎

①武刃秩父郡大宮町 ②相刃大磯町 百足屋 平信 ④墨

唯要辞而已急奉得貴意候、過日ハ金子拾円程長岡喜八氏之御名前ニ而御惠送被下正ニ奉頂拜候、来ル廿六日ニハ上刃ヨリ不破氏ヲ招キ晚餐ヲ守ル、同日ハ受洗者九名内男六名(其内ニハ檢察官屯名郡書記式名町長屯名土着商人ニテ中

等以上ノ者式名)^女男三名有之候、爾他差掛リタル求道者三拾名計リ有之候、反動モ余程勃興シタレ共、未タ之カ為ニ

庄セラル、程ニ無之、昨夜ハ試験会相終リ、今日^は廿六日ヲ待ツノミ、唯御恵之洪大且ツ実ニ此地ヲシテ天国タラシムル御旨ナル事ヲ感謝之余リニ堪ヘス、喜ヒノ儘以寸楮奉煩垂聴候、勿々已上

一月廿二日

大久保真次郎

新寫先生

梧下侍史

拜具

865

一月二十三日

原 忠美

①新潟県新発田寺町 ②神奈川県相州大磯 百足屋にて ③はがき ④墨

今朝先生之御親切なる芳墨頂戴致候、御厚意之程肝銘致候、同時に広津君より意外之飛報に接せり、先生御病氣危篤なりと、書を取りて忙然自失致候、直に神前に祈禱致候、当地之信者皆々先生之為ニ祈禱致居候、願くハ慈愛に富める神、先生之上ニ多年之生をかし給はん事を切望致候

866

一月二十三日

北里義正

①大坂北浜三丁目十番邸 ②相州大磯駅ニテ 京都同志社長 ③はがき ④墨

拜啓、陳者御宿痾御療養ノタメ貴地江御転地療養之處、此本御重体哉ニ伝承仕候間、乍略儀端書ヲ以御安否奉伺候、時下嚴寒之砌ニモ御坐候間、一層御恙用奉祈候、頓首

廿三年一月廿三日

867

一月二十四日

五十田勇治郎

①摂津武庫郡西宮町ノ内東ノ町八十番屋敷 ②神奈川県下大磯温泉場滞在 京都同志社長 至急 ④墨

拜啓、擬早春ニハ不相替御愛顧ヲ垂レ給ひ御年賀狀御投与ニ預リ拝謝ニ不堪、当方ヨリハ意外ノ御疎濶ニ打過ギ、実ハ昨年来相続キ未タ病床ヲ離レズ、故ニ不計モ延引之段平ニ御海恕奉願候、陳ハ其後閣下ニモ兼テノ御病痾御治療ノ

為メ其地温泉場ニ御保養ノ由ト拝承、追々御治愈ナルヤ如何哉ト想像罷在候際、計ラスモ西京同志社ニ在ル豚兒栄治郎ヨリノ急報ニヨリ視レハ、閣下御病氣非常ニ御事重ク相成リ候旨承知仕、実ニ驚愕千万、尚本日ノ関西日報ニモ閣下御病氣御事重クニ付、同志社ヨリ夫々御出張云々トアリ、誠ニ配心ニ不堪、愚拙モ平常ナレハ早速御地ヘ罷出親シク拝謁ノ上纏々御見舞も申上、尚相応御用等モアレハ相同道ノ精神ニ有之候得共、何分ニも閣下御承知之通り、小子も客年ヨリ大患ニ罹リ、已ニ業ニ鬼籍ニ入ラントスルヲ助カリタル身ノ上ナレハ、未タ病床も離レ難キ次第ニ付、万事本意ニ任セス、誠ニ遺憾千万ニ御坐候、仍テ不取敢禿筆ヲ揮ヒ御病体如何被為在候哉相同道、尤モ小生ニ相叶ヒタル相当之御用もアレハ、早々御示し御越被下候ハ、国恩万分一ヲ報スル為メ精々閣下ニ相尽し度精神ニ御坐候間衷情御聴納奉願候、先ハ奉急御病痾相同道、短書如是御坐候、草々謹言

廿三年一月廿四日

尚、御病氣御保護ノ段呉々為国家奉願度、乍恐縮御容体ノミ早々御洩し奉願候也

新島襄殿
閣下

五十田勇治郎
病中ニ付代筆御免

868

一月二十四日

松尾音次郎

①兵庫縣播州明石郡高和村 ②神奈川縣相州大磯 百足屋方

拝啓仕候、昨今御起居如何候や、小生本日新紙閱讀罷在候際、不図先生御病状に関する一項を見受け甚心痛催居候、新聞紙ハ随分誤伝多きものに候へハ、実地御容体之程奉伺候也

一月廿四日

松尾音次郎

新寫先生
閣下

〔年次未詳〕

869

一月十二日 河井 淡

①奈良 ②同志社 親折

拝呈、豚兒より之報知ニ依レハ過般來御不例之由、酷寒之候一入之御困難奉遠察候、何卒精々御療養被加、速ニ御全快所禱ニ御坐候、偕豚兒義ハ弥予備校入学御許可相成、保証人ハ大沢君、寄宿ハ加藤君方ト相定リ、都テ都合克万事一ト先落着致候由万端御厚配被下感謝之至ニ不堪候、何レ不日上京万謝可申述候得共、不取敢右御礼且御依頼申上度如此御坐候、仍玉体御療養肝要之御義奉存候、勿々拝具

一月十二日

淡

新島老台

玉案下

追而豚兒今後之処万端可然御指揮偏ニ御依頼申上候也

870

一月十八日

柴原宗介

①撫子花書院にて ②親啓 ④墨 ⑥封筒裏書、新島筆「堺丁丸太丁上ル東」
側、鈴木」（鉛筆書）

呈 新寫先生閣下

御病氣追々御快方之御容体奉伺恐悦之到ニ奉存候、追日嚴寒御自愛を禱ル

却説、先般御病中も不顧昇堂仕、尊意を伺置候同志社英学校教科書借覽之云々、五十名余も可有之見込ニ御坐候処、劣生乍不及是迄同志社は慈恵主義を以て如斯自由自在之方法ヲ施行セシモ、今日は幾百人を以て数フル生徒ニ対し有限之力を無限ニ施ス事、真ニ堅ケレハ、何卒同志社を愛して御購読アレヨト説諭を尽し、終ニ十二人之借覽生にて此期は相済申候まゝ御安心可被下候、右ニ付御保助を仰ク事無之候まゝ、過日之願意は御取消被下度奉願上候、此義早速罷出上申可仕之处、荊妻病氣にて家事繁忙を究め、延引仕候段御免し可被下候○荊妻一昨夜八時男児死体にて出產仕、昨夜府下愛宕郡浄土寺^村埋葬地ニ送り候、併し 神恩に依り産後病人ケ成健体を保つよふ見受け少々安心仕候、兼而之御交誼ニ依り、乍延引御届ケ申置候、先は右之段以書中申上度、恐々敬白

一月十八日

柴原宗介

拝

871 一月二十五日

森田久万人

②御親展、玉几下 ④墨

拝呈仕候、明廿六日は学校祈禱会ニ相当リ、就テハ松山、ゴルドン両師へ演説ヲ願ヒ、午前七時半より右会相開キ度旨今朝一統へ通知仕候、午後ハ記念会ノ由ニテ、全日休課ニ相成候、先生御病状如何ニ御座候哉、可成御保養專一ニ奉存候、然ルニ若シ御病氣ニ御氣遣ヒ無之様御感被遊候ハ、明朝御臨席之程ハ相叶ヒ不申候哉、是ハ只小生より御報知旁御伺上候也

一月廿五日

森田久万人

新島襄様

二白、猶ホ御無理ニ御来車ハ幾重ニモ御氣遣申上候間、何分御熟考奉仰上候

872

一月二十七日

金森通倫

②拝復 ④インク

唯今ハ御人を被下、好物之クラカルを給はり難有奉謝候、又大久保兄之二円、小生之月給三十五円に拝受仕候、小生病氣も日々増シ快方、決シテ御案シ被下間敷候、右ハ御礼まで、草々

一月廿七日

金森通倫

新島先生

873

一月二十八日

富田鉄之助

④墨

尊書拝読、小生よりも以外之御疎遠ニ打過居候、爾来御容体如何被成候哉、甚寒之節ニも候得ハ別而御自愛專一ト奉存候、然ハ東華義会規則御入用之段拝承、小生手許ニ無之候間、松倉方江申遣候、もし同人方ニも持合無之候ハ、早々市原方江申遣候様都合之筈ニ御座候、且東華学校之近況も来示之如ク高等中学予備科新設又少々反对党も相出候

哉ニ而、市原氏ニハ心配致居候模様傳聞候得共、要スルニ田舎間之通弊ニ而意とするに足らぬ事と遙察致居候、外部之評番位ハ度外ニ置、漸次内部之進歩ヲ計リ候事專一ニ有之候、当節佐藤三之助、遠藤敬止等も出京ニ付、不日松倉初メ小参之上、尚後來之事共内話之心得候共、大要前述之通りニ而敢心配無之と察居候、草々拝答候、敬具

一月廿八日

鉄之助

新島先生

874

一月三十一日

金森通倫

④インク ⑥封筒裏書「金森拝」

拝呈、只今ハ誠に好物ノ御品ヲ頂戴仕リ難有御礼申上候、扱て小生儀、其夜ヨリ胃痛ヲ起シ、此数日ハ只ミルクノミ飲ミ外出モセズ、只ウチフセリ申候、本日少シク快ク候間、御心配下サルマシク候、右ハ御礼マデ、早々

一月卅一日

875

二月三日

金森通倫

②拝復 ④墨

御書面拝誦仕候、御申越之儀ハ如何ニモ御来論之如く此之如き事ナキモ、自然発烈せんとする政事志操之青年、殊に金子之如きハかね／＼現時政府ニ対し不満を有する人物ナレバ、今日在校中外人と此之如き催ニ会する事ハ甚タ懸念ニ存し候、又学校ハ政府の大ニ注目する処ナレバ、尚更学校之為めニ一大事と存候、何卒先生ヨリ金子等ニハ在校中ハ余リ此之如き事ニ出会せざる様御勧めニ相成り、又柴原ニハ可成在校生徒を誘導ナシクレヌ様御はなしニ相成てハ如何、小生ハ甚タ懸念ニ存し候、先右様被遊候方得策かと存し候、右御回答迄

二月三日

通倫

新島先生

876

二月三日

中村栄助

②寺町丸太町上

別冊相添

④墨

拝啓、陳ハ第三高等中学学科課程等之義ハ委數此教育概覽中ニ有之候、何卒御高覽被成下度、且賄方約定案取調候
処、格別参考ニナルベキ者無之候間、御随意ニ御契約相成可然ト存候、尚詳細之義ハ参堂拝眉可申述候也

二月三日

中村栄助

新島先生

閣下

877

二月二十一日

伏見 通

①同志社庶務

②校用差遣

④墨

然者第四寮下寮長白木正蔵君東京表へ去木曜日当地発足之由、就而者右寮内不行届ニ承候ニ付、今日不敢階上寮長
安田勝君ニ兼務之儀依頼仕候間、右代人撰挙之儀奉願上候、且又五年生より別紙願書被差出候間、是亦取来差出申上
候也

二月廿一日

新島校長

閣下

伏見通

878

三月二日

青山長祐

②図面在中 座下 ④墨

拝啓、然者昨夜ハ御賁臨被下候処、何之風情も無之甚疎待愧入候、拟相国寺へハ御内約之趣申遣置候、且実地図面も漸ク見当り候間、不取敢御手元迄差出候ニ付、御一覽被下度、尚余情拝芝可申尽候得共、右得賁意度如此候也

三月二日

青山長祐

新島襄様

青山長祐が新島襄に提出した実地図面（明治九年頃）

鳥丸正



羅乃直七宅記

一休宗
松雪院印

素已牙痛但苦於痛了
元一條索隱

生疾
入江則復宅此

北

實地考證老傳九名

下橋敬聖地

帝

土庫

起

८-१-७५

六宮九十三

六三

地境

李時珍

食積 素平定地

879

三月五日

清水瀧次郎

①封筒表書 再拝 ④墨

寸楮拝啓仕候、陳ば昨晚ハ大ひニ難有奉存候、別封ハ之れ土倉庄三郎様へ差送る請取ニ候得ば甚だ御迷惑之至リニ候得共、何卒同人と御面会ニ相成り候はゞ宜しく御頼み申上候、而て小生ハ昨晚先生之御勸めを被り、自室ニ帰り能々考へて実ニ深く基督ニ従はざる可からざる事と固く先生之御誠めを■守らざる可からざる事ヲ悟り候、今離ニ臨むも、不肖ニして憚つて陳ぶる事不能、願ハクハ後日再会之時ハ必ず先生之御前ニ愧る事無きを得る様ニ千万神ニ祈る事ニ御座候也、草々頓首

三月五日

清水瀧次郎

新島襄先生
足下

880

三月三十日

徳富猪一郎

⑤ 森中章光写（孔版）

肅啓、春暖相催し候処、先生愈御多样奉大悦候、陳れハ此度カコシマの人鵜飼吉治氏御校ニ入学の為御地ニ罷り越候ニ就てハ、何卒先生の懇篤なる御示教ヲ辱ふし度精神の由にて小生へ右紹介依頼ニ相成候間、一書如此御座候、草々頓首

三月三十日

徳富猪一郎

襄先生
玉坐下

881

四月九日

田中不二麿

⑤ 写真

拝披、バイブル教授之件ニ付、懇縷御陳述之趣ヲ領シ候、然ルニ自今之情態にてハ銳意進取候てハ多少之妨碍ヲ来シ、却而退歩之患ヲ可醸も難量候間、先ハ従前之如ク徐々御着手之方遂ニ者進歩之影況ヲ可現出与相考申候、ハルテ

一氏云々も御尤之事にて小生〔に謝カ〕おゐても素より記憶スル所ニ候へ共、何分前項ノ如キ現状にて未タ断然適施スルノ線度
ニ不至候間、漸進誘掖ノ方可然候条、此旨御諒了相成度書不尽言、草々布復

四月九日

不二磨

新島君

追申、ハルテ一氏ニも貴下之困難ノ秋ニ際シ困難ノ地ニ立、彼ヲ斟ミ此ヲ量リ施設宜ヲ得、拮据勉力之段ハ備
ニ知悉相成候事にて、小生彼地にて会晤之節毎々該氏其他へも詳しく話及候事ニ候、此旨任序添陳候也

882

四月十日 龜山 昇

①大坂西区土佐堀裏町三十三番地 ②西京市 ④墨

向春之砌尊体如何、久シク御安否モ伺ひ申サズ御無沙汰申居候、御許容被下度、私儀主之御惠恩ニヨリ無恙碌々消光
罷在候間、何卒御休意被下度、且ツ主之好役者トナリ得ル様御祈禱之節御記念被下度候、偕テ当米津橋三郎氏ハ以前
同志社ニアリ三年間修学致タル人ナルガ、目下浪花教会ニ属シ居青年中望ヲ属スベキ人物ニ御座候ガ、兼テ脩学之為
メ洋行之希望アリタレドモ、其法方ヲ得ズ困リ居ラレタル处、昨年三月断然当地ヲ去リ秋田ニ至リ、土居通予氏之世

話ニテ其校之教授ヲ務メ多少之金員ヲ得タレバ今回は非トモ素志ヲ貫キ度トノ事ニテ、先ヅ米國ヘ向ケ發途之望ミニ御坐候ガ、何分先方ニ一ノ知己モ無キ事故、相成ルベクバ先生之御知己之人ニ御紹介ヲ願被下度ト之事ニ御坐候、目下同氏之位置ニシテ洋行ハ賛成致ベキヤ、或ハ今少シ金員ヲ得タル後之方が宜シキヤ、先生果シテ御賛成ナル哉存じ申サズ候得トモ、若し御同意被下候ハ、何卒然ルベク御世話被下候様奉希候、右御依頼迄、早々不備

四月十日

龜山 昇

新寫襄殿

883

四月十六日 西 毅一

①備前岡山 ②西京寺町通丸太町 ④墨

過日者電報并ニ御書翰を以て嵐山之旧花之御催し御案内被下難有奉存候、然ル処野生折節之^(カ)うつ病再発臥褥、執筆も難渋之処より拝答も延行ニ相成リ不敬真平御海涵可被下候、漸ク本日ハ押而執筆御礼御詫旁如此ニ御坐候、草々頓首

四月十六日

毅一

新島先生
侍史早々

884

六月一日

徳田利彦

④墨 ⑥端裏書 新島筆

拝啓、御清適可被成御坐奉恭賀候、陳ハ貴地 Edmund Buckley 氏より桑港松宅百弗ノ手形当店へ送付相成、同金額ノ中ニ而龍動并ベルリン^(ロンドン)弘為替取組呉候様依頼相成候、然ルニ同氏且其手形振出人モ一向承知不仕候間、右依頼謝絶可仕心得ニ御坐候処、更ニ取調候ニ同志社ニ御雇入ノ教師ニ有之候趣、果シ然ラハ決而不都合ナル間違等ハ有之間敷ト相信、請求通倫敦及ヘルリン^(ロンドン)弘ノ手形ヲ作り、別紙ニ封入御手許迄差出申候、果シテ同氏ハ同志社ノ教師ニシテ確實ナル人ニ有之候ハ、御手数恐縮ノ至奉存候得共、右御書翰御渡可被下、若御承知ノ人ニ無之候ハ、御返送可被成下様ニ奉願上候、頓首

六月一日

徳田利彦

新島讓様

侍史

再伸、パークリー氏ヨリノ書翰ニ単ニ京都梨木町ト而已有之、委細ノ宛名無之不安心ノ廉も有之候、旁御手許迄差出申候

885

七月二十七日

浜岡光哲

① 木屋町

② 寺町通丸太町上ル

親展

④ 墨

拝啓、過刻者失敬奉多謝候、扱其節御内示之趣モ有之候間、帰途車ヲ木屋町ニ飛シ土井氏ヲ相探候処、大津屋ト申旅籠屋ニ投宿致居候、面会充分奨励致置候、併シ種々之内情モ有之赴ニ候間、明早朝一応御面話相願度、実ハ貴校拝見之儀相促候得共、明朝ハ二番汽車ニテ帰坂スヘシト申居候ニ付、後日参校スル事ニ相約候、右得貴意度如斯候、頓首

七月廿七日

光哲

新嶋先生

閣下

886

九月四日

板垣退助

① 高知潮江新田

② 京都寺町通丸太町上ル町百四十番地

御直披

⑤ 写真

御書翰御投拝誦仕候、先以残暑尚ホ甚布候得共、弥御清安可被成御渡奉拝賀候、随而小生儀過日無事帰郷仕候而銷光罷在居候間御安心被下度候、然ハ旧主山内容堂之実子山内豊尹ト申者、先生御世話相成居候同志社の学校へ入学スル

事付、親ニハ余程志候処、側ニ在候者等種々之ヲ遮ラントスルヲ以テ、未タ果シテ入学スル事相成ル哉定リ難候得ハ、同人近日九州ヨリ帰途先生御尽力の同志社学校ヲ拝見ニ参ル筈ニ有之由ニ付、小生も以為ラク親自実地ニ目撃シ、且ツ能御規則等ヲ承ルナラハ大ニ宜布カルベシ存候間、先生乍御面倒御尋申上候節ハ御逢被下度奉願候、又タ小生之過般書翰ヲ以テ申上候処の書生ハ少々不得止之都合小生伴フテ帰郷仕候、而シテ右之訳ニ依リ当分之内ハ上京スル事能ハサルベシ、故ニ此段重ネ而申上候、而シテ出京仕候節ハ何分宜布御世話奉御依頼候、先ハ右斗勿々如此御座候、不尽

九月四日

板垣退助

新島襄様

887

九月二十三日

金谷 充

②封筒表書 御親展 ④墨

拜啓、今朝参館候節ハ意外之御厚諭を辱シ謝無辞奉存候、御客来中御令室様ニハ御礼不申上立返失敬仕候間、此段可然御致声奉願上候、右御厚諭之趣老母荆妻等ニ申聞候処、不一方感佩致宜數御礼申上呉候様返す／＼申出候
扱今朝拜話仕候食料之件ニ付、道序有之、金森君ニ相尋候処、（先生より拝承せし扱とハ更ニ不申候）成程前週月曜

日ノ集リニ於て来月より食料を増加する旨広告致したり、然レトモ其金額を幾千ニ定メたりとの事ハ未タ広告せざる由被相答候、然ラバ教員會議ニ於てハ既ニ貳円五拾銭ト決議せしや否相尋候処、是亦未タ確定之場合ニハ不至、目下研究中ニ有之由被申居候、依而考るニ、今朝先生之御咄ニ月曜日ノ集之節云々ト被申たるハ、右広告之誤聞ニハ無之哉、果シテ然ラハ今朝之御咄合ハ全ク行違ト存候間、此段心付之儘申上置候

就而ハ右未タ確定せざるこそ幸ひ、生等之愚考ハ充分金森君ニ開陳致可成適當之金額ニ取極候様致度存居候間、此段御休神可被下候、尤右相談之模様ニ付而ハ又候拝趨御差図可相仰事も可有之ト存居候間、是又御承知置被下度又御内話申上置候野邨君之件ハ万一生徒多数之意見ニ依而食堂監督相断、他ニ其人を入るゝ様相成候節ハ忽ち俸給ニ映響を来シ、実ニ氣之毒之至ニ存候、此義ニ付而ハ生義学校之為、又同君之為、可^及丈尽力ハ可致候得共尚可然御賢考之程奉願上候、右要用而已申陳度如此

九月廿三日

金谷 充

新島先生

閣下

追啓、今朝貴論之福山漢学教師門田新六先生之件ハ貴論ニ従ひ直ニ郵便を以而申送置候間、為念申上置候

拜話仕候
、
、
、
、
、

888

十月四日

池袋清風

②封筒表書、拝復 ④墨 ⑥封筒裏書 新島筆、計算

御書面拝見仕候、此詠ハ言葉劣き故添ふかきなくハ詠者の事情を知りたる人かなくてハ唯此詠のミにてハ辞世とも何とも分り申さず、又辞世にも言論の為に苦しめられたる場合にもあてはまり可申候

此意のミにてハ詠者嘗て己の意見を述べたるにも世に用ひられぬを歎き、其赤心を吐きたりとの外ハ思ハれ不申候、露の實ハ誠の字をかくべきや

此詠者嘗て先生江文なり言論なり述べたる事ハ無御座候哉、又政府人民に向ひ可然事なきや、込僚某とハ、込ハ死者ならんも僚とハ僚なと友人ならてハ名字ならん、何分此はかきを送りたる人の詠にハあらざるべし、敬白

十月四日

池袋清風

新島先生

玉楊下

十月七日 下村 房

①熊本県熊本新屋敷 ②西京寺町通り丸太町上ル十三番地 御新展 ④墨

御手紙被下忝^{まづ}拝し上参らせ候、先々御揃遊し御機嫌よくあらせられ誠に御目出度奉存候、先以此度ハ御しんもじとして御助金送り被下候事誠に有がたく奉存候、実ハこれたけハ拝領致さぬつもりにて御坐候へども、此夏少し病氣ニ付其上長崎より子共夏のやすみに国本ニ帰り候ニ付、思ひがけなき物入致申間、少し心ほそく存居候処、存がけなく御助金御恵被下候間あまりわく^{くわ}ぶんとハ存ながら恐^{おそ}拝領致申、御蔭^{かげ}にて何も自由なる事も御坐なく一重ニ御恩のほど忘れがたく奉存候、扱^{あつか}とや、おふせのとふり孝太郎事も両三年ハ帰り不申候よし、せつかくの勉強にて御座候間、其身の思ひだけハ勉強致候よふニ申送り置候事ニ御座候、私もなるだけ身のよふじんを致、今より二年を相待申候と存居候事ニ御座候、はゝかりながら御奥様初めとなた様江も宜敷く御つたへ上可被下よふ頼上候、かなハぬ筆にてどふぞく御すひもじ御らん可被下よふ奉願候、先々此段迄、御目出度かしく

十月七日

新嶋先生

下村

母

890

十月三十日

木村熊二

①封筒裏書「托丹羽君」

④墨

朝替ハ冷氣ニ相成候処、尊堂御一同様御安泰、主の御恵の下ニ御起居相成候段珍重拝賀、扱当地江滞留之節ハ茅屋へ御枉駕被下、其節ハ拝姿を得ず、爾来必す御旅館へ罷出へく心得ニ御坐候得共、勿卒通行罷在候中、已ニ御帰京相成候との事にて遺憾無限を覚候、爾来尊家如何ニ有之候哉、御案し申上候、何卒御自愛あらん事を望也、此度丹羽君再ひ同志社へ御帰相成候、同氏目的ハ実に主の御旨のある所と生ニ於ても喜ひ居候、両会合併之義も如何相成候哉、生〔朱印〕なとハ局外中立之姿ニ而、只主の御指示を祈るより他ニ手段も無之候、愚生甥桜井敬吉と申もの神戸人ニ而兵事課長を勤仕居候間、同人罷出候ハ、一寸御面会御教示被下候様奉願候、御令閨様へも先日一寸拝容を得たれと其節ハ大ニ失敬仕候、乍末可然御致声奉願候、先ハ前件申上度、勿々頓首

十月卅日

熊二

襄先生

足下

百拝

891 十一月一日 徳富猪一郎

⑤ 森中章光亨（孔版）

先生ヲ書家視スル儀ニハ万々無之候得共、目下滞京ノ郷友アリ、是非御依頼致呉ヨト切ナル望ニヨリ、望ヲ小生より紹介申上候、何卒御面倒トハ存候得共、宜敷御承引奉仰候、草々

十一月一日

徳富生

新島襄先生

玉案下

892 十一月五日 金谷 充

④ 墨

拝啓、陳ハ一昨日拝趨之砌、舎監并食堂監督者之義ニ付御懇談之趣尚篤ト熟考候処、誠ニ御賢考通舎監（兼務）トモ併セテ野邨氏へ囑托候方一挙兩得之策ト相考候、就テハ右之趣直ニデビス、森田之両主監へ懇談候処、両氏ニ於テモ同意ヲ表候ニ付、尚食堂委員一同へ遂協議候処、是亦異存無之彼是協議全ク相整ヒ至急囑托致候事ニ決定いたし候、

何レ詳細之義ハ拝趨可申上候得共、此段一寸貴聞ニ達置候、以上

十一月五日

金谷 充

新島先生

閣下

追伸、野邨氏俸給之處、是亦御賢考之通学校より拾円、生徒中ヨリ五円都合拾五円報酬スル事ニ相極候間、是又御承知被下度、野邨氏ト相談之義ハ小生依頼ヲ受候ニ付、本日相談可致心得ニ御坐候

893

十二月二十三日

川本泰年

①神戸 ②京都 ④墨 ⑥托和久〔山〕キソ殿、封筒表書に委託金額を記入

口上

金参円参十銭

右御落手可被下候

第一銀行

金受取書七頁

右金高百五十式円三十銭也

両口合計

(朱点)
金百五十五円六十銭

今日不取敢和久山キサ殿へ托し贈呈仕候、此外約束金二十円許有之候得共、未タ入手仕兼候、委細ハ小磯、木村等へ
談し可申上候、不具

十二月廿三日

新島大先生

玉机下

川本泰年

拝

二白、右ハ小磯ト小生兩人分木村強ハ別ニさし上候筈ニ御坐候、不一

〔年月未詳〕

894

三日

柴原宗介

①撫子花書院にて ②封筒表書 親展 ④墨

拝啓、然者今朝者公義様より御厚意之御忠告被為下難有奉謝候、小弟も本日之会合者如何あるならんと案じつゝ諸氏の尾ニ就き修学院村へ散歩仕候処、彼の中外電報の三宅氏の父上の宅なるよし、三宅氏の案内ニ随ひ罷越候、其連中者左ニ

中外電報社の

小川氏 三宅氏 何レも信徒なり

同志社にて者

金子氏 高木氏

佐竹氏 大久保氏

右之連中にて三宅氏の楼上ニ会し、方今政事上の事を談じ、其末終ニ今日者上下共腐敗の社会となりたるなれば、到底〇〇の政客も人民の有志家も皆な俱ニ腐敗の毒氣ナレハ永遠を期して談スルニ足ラズ、此時我等信徒タルモノハ此日本ノ腐敗シタル社会の爲めに真実神様ニ祈願して生命アル元氣を頂き、社会ニ尽ス可キハ我等の責任なる事を或ル兄弟の發議ニより直ニ楼上にて祈禱会を開き讚美歌を歌ひ互ニ神様ニ召サレタル履歴を語り、誠ニ美敷集りをなして散会仕候、嗚呼神ハいつも清潔ナル思ヒヲ我等ニあたゑ玉ふゆへに、其結果も又清潔なり、決而警察の嫌疑等ニカ、ル集リニ無之候まゝ御安心可被下候、一寸參堂して申上度候へ共、非常ニ勞しましてよふ／＼に筆を取りし次第御赦し可被下候、拝具

三日

宗介

拝

新島先生

梧右

〔年月日未詳〕

895 年月日未詳

青木周蔵

- ①東京 ②神戸ニ而 諏訪山下和楽園 ③封筒のみ

896 年月日未詳

今村謙吉

- ④墨 ⑥「雜報社用紙」

貴翰忝拝誦、然者吉村兄聖書売之義ニ付、半旅費聖書会社より受取候様〔委細〕イ才同書中之趣承知仕候、然ル処小弟聖書会社トノ約速〔束〕ハ前以テ教師ノ許ヲ得テ該社江申入レ置キ、其上月報ト引替ニ非サレハ月給等請取難ク候ニ付、吉村兄ノ分ハ小弟より請取方甚タ六ヶ數御座候間、御地教師ヨリ該社江直ニ御掛合、金子御請取被下候而聖書代七円七拾七銭

小弟兄御渡し相成候様仕度御座候、龜山兄之義ハ才承知仕候○聖書売伝道者月給旅費十二月、一月分別紙之通ニ御座候間、甚タ勝手ニ候得共、次ノ土曜日正午迄ニ御廻金方御取斗被下度、二月分も一集ニ相願度候得共、未タ月報揃ヘ不申候ニ付、万一御指支ナクハ中助トシテ最五十目斗相廻被下間敷哉、去トモ月報ナシニハ御話し方六ヶ敷候ハハ是非ナキ次第ニ候○過日伝道会社御地方集金御報知被下、早速印刷可仕処、御地ヨリ来レハ大坂ノ分知レス互ニ折違ト相成甚タ不都合ゆヘ右印刷ハ大集会迄見合ニテ如何相伺申候○宇野弥作彌作兄神戸教会ヘ入会ノ義ニ付、過日御地教会ヘ薦書御送り方御依頼ノ由ニ候処、未タ御送り無之ニ付、至急御廻し相成候様致度旨松山兄より及御依頼候様申聞候間、乍御邪魔其筋ヘ宜敷御伝声奉願候○福音舎半季正算甚タ遷延シ恐縮之至ニ候、右ハ次ノ土曜日小弟兄宅ニテ集会シ採金利子等相渡し申度候間、御参会被下候ハ、幸甚、愛兄採金利子三ヶ月分一円五十錢ハ今度御廻シ金ニテ御引取被下度、精算書ハ跡より御送り申上候○昨年九月中尾氏ヘ渡シ金二円十六錢六リハ取替ノ筈、右金子も同様御引取奉願候、早々不一

新島愛兄

今村謙吉

897

年月日未詳

金森通倫

④墨

只今ハ御使を被下田中氏之事ハ承知仕候、御申越之ストフブハ誠に御安き御用なれとも、近来コワレ居りとても見本にハなるまじく候、然し只其形ちのみに候得ハ、何時にても御用ひ被下度候、彼品ハ御承知かハ存不申候得共、当地にて出来合のもの、多く有^{三条に有之}之候由、又私之内の分ハ大坂より来りしもの之よし、此ハオーチン氏の所造ニ候よし、又過日リツチャド氏之御咄ニハ、彼分ハ用ひ都合不宜、尚よき都合に造り得る事を得るとの咄も有之候故、為念申上置候、何れ又明日御拝芝御咄可申上候、右御返事まで

(一) 新島襄書簡と呼応する書簡

『同志社新島遺品庫収蔵資料目録』（下・一九八〇）によると、新島襄宛の和文書簡はすべて一〇二五通である。いま、これを年次別に表示すると次の通りである。

年 次	書簡数
慶応3・1867	3
慶応4・1868	4
明治2・1869	4
明治3・1870	0
明治4・1871	7
明治5・1872	0
明治6・1873	0
明治7・1874	5
明治8・1875	10
明治9・1876	4
明治10・1877	1
明治11・1878	5
明治12・1879	3
明治13・1880	3
明治14・1881	10
明治15・1882	2
明治16・1883	6
明治17・1884	8
明治18・1885	27
明治19・1886	62
明治20・1887	24
明治21・1888	254
明治22・1889	482
明治23・1890	50
年 次 未 詳	43
年 月 未 詳	2
年 月 日 未 詳	6
	1025

その書簡の数量的な特徴を単純に同年次の新島襄書簡（全集第三・第四巻書簡編）と対比すると次の通りである。
ここでは嘉永五年以降慶応二年までの書簡一六通は対象外とした。

年 次	書簡数
慶応3・1867	6
慶応4・1868	3
明治2・1869	4
明治3・1870	1
明治4・1871	4
明治5・1872	8
明治6・1873	4
明治7・1874	3
明治8・1875	15
明治9・1876	3
明治10・1877	3
明治11・1878	6
明治12・1879	6
明治13・1880	13
明治14・1881	26
明治15・1882	11
明治16・1883	24
明治17・1884	38
明治18・1885	34
明治19・1886	58
明治20・1887	72
明治21・1888	193
明治22・1889	251
明治23・1890	27
年 次 未 詳	34
年 月 日 未 詳	6
	853

これによると往来する書簡の残存数の数的特徴は明治十八年（一八八五）以降に見られ、とくに二十一年、二十二年にその頻度がきわめて高く、各総数の過半を占めていることが知られる。その顕著な呼応・関連については、新島襄と彼に書簡を寄せる三百有余の人びととのつながりを別に索引で呈示することを試みた。

宛書簡の冒頭の書き出しには、「珍書惠贈」、「華翰三通拝受」、「尊翰拝誦」、「華墨拝読」、「玉章拝見」、「両度の芳墨拝読」、「懇書捧読」、「拝答」などが、しばしば見られ、その封簡裏書に、新島は「Keep」としるしたり、肉太の筆で、日付あるいは符号を施すなど、受領後の取られた措置などを想定することができる書簡の多いことからすると、新島書簡は現在知られるより、さらに多くが、発せられたことが考えられ、まさに「書簡の人」であり、かつ従来知らなかった新島襄像も、うかがい知ることができる。

さて、本巻（上巻、下巻）には、上記一〇二五通の書簡のうち、八九七通を選択して収載した。選択の基準は同志社出身者の書簡ならびに新島襄の書き残した「辱知姓名簿」（本巻の口絵、見返しにその一部分を呈示した）に見られる人びとからの書簡を基幹にして選択した。なお「辱知姓名簿」は、新島が朱墨によって、あるいは鉛筆で記載したものであり、この「住所録」は、同志社出身者ならびに政府、中央の頭官、それに同志社大学運動に協力を申し出ている地方名望家の有志者群である。

（二）病床に寄せられた電報・見舞状

全集第四巻（書簡編）において、生前の新島襄が名ざしで述べた「遺言」（明治二十三年（一八九〇）一月二十一日付）を収載した立場からすると、見舞の電報や見舞状は、その願いが新島襄に届けよと惻然とした表白であって、そ

の死をいたむ「弔電」、「弔文」ではない。もちろん、死去のしらせを受ける日時の遅速によって、見舞の電報や見舞状が枕頭に寄せられたこともあったわけであるが、その病気の平癒を願うひたすらな思いの表われは、本来的に生前に新島襄に寄せた宛書簡に相当するといつてよい。本巻には、これをすべて収載することを取り止めたので、『同志社新島遺品庫收藏資料目録』（上・一九七七）に収められている、かかる「来簡」関係を発信日・発信人名の順に掲げると、次の通りである。

電報

一月十八日 ハシモトジスケ

一月十九日 新島八重

一月二十日 人見一太郎（二通）、シトミテンロウ、木村熊二・津田仙、民友社、徳富猪一郎、富田鉄之助

一月二十一日 新島公義、新井毫、ベルリ、同志社別科神学生一同、同志社普通科二年生、同志社五年生、同志

校、京都四条教会、松村介石・白木正蔵、民友社、横田安止、伊東熊夫、河原林義雄、井上馨

一月二十二日 東正義・中村航造、ベルリ、同志社普通学校一年生、同志社普通科三年生、同志社四年生、初

鹿野寿、亀山昇、加藤勇次郎・下村孝太郎・浮田和民、児島惟謙、熊本英学校、溝手文太郎、長田時行・阿部政恒、中川ユキテル（二通）、サバタノブユキ、柴原宗介、田中賢道、和田正幾、岩崎弥之助

一月二十三日 アツキンソン、デフォレスト、ホワイト、コルテス、原六郎、広瀬源三郎、堀貞一、今治基督教会、西群馬教会、長田時行、清水泰治郎、須田明忠、東華学校、ユアサマツタ、湯浅治郎（二通）

一月二十六日 小野英二郎

月日未詳

ナイトウカツヲ、平安教会

見舞状

一月二十一日

津田仙

一月二十二日

杉浦義一、葉山於菟、京都四条教会、松本勘十郎、元良勇次郎、関登里、洪沢栄一

一月二十三日

立川吉太郎、伊庭与吉、木村強、田中一二

一月二十四日

大和田清晴

一月二十五日

松本鋭彦、原沢富重

一月三十一日

岸かね

(三) 日本人の英文書簡

『同志社新島遺品庫收藏資料目録』（下）に収録されている、「新島襄宛英文書簡」のうち、日本人の英文の書簡は、全集第三・四卷（書簡編）ならびに第六卷（英文書簡編）に収載した同人書簡とも、きわめて密接な関係をもつ書簡群である。

これら日本人の英文書簡は当初、本巻の編年月日順のなかに組み入れて、編集することを企図し、ついで和文来簡と英文のそれとを別けて収載することも考え、その準備は進めたが、最終的には、やむなく、この英文来簡を本巻編集からすべて外すこととした。

先述の「病床に寄せられた電報・見舞状」の逐一を「目録」としてとりあげたように、「新島襄宛日本人英文書

簡」を編年順に発信地名を付して掲げる。

なお「新島襄宛英文書簡」の総数は『同志社新島遺品庫收藏資料目録』（下）によると、一八六七年（慶応三）から七四年（明治七）までの在米時代が三十六通、一八七五年（明治八）から八五年（明治十八）までが一九七通、八六年（明治十九）から九〇年（明治二十三）までが二一五通、年次未詳をあわせて、その総数は四八〇通余におよぶ。

一八七八年（明治十一年）

五月七日

岡部長職

Springfield, Mass., U. S. A.

一八八〇年（明治十三年）

七月三十日

赤峰瀬一郎

San Francisco, Cal., U. S. A.

一八八四年（明治十七年）

九月二十五日

下村孝太郎

Kiyoto

一八八五年（明治十八年）

二月十四日

下村孝太郎

Kyoto

五月二十日

不破唯次郎

Fukuoka

六月二日

* 内村鑑三

Elwyn, Pa., U. S. A.

六月二十日

中島力造

Cleveland, O., U. S. A.

六月二十一日

* 内村鑑三

Elwyn, Pa., U. S. A.

六月二十七日

* 内村鑑三

Elwyn, Pa., U. S. A.

七月十五日

* 内村鑑三

Elwyn, Pa., U. S. A.

七月十六日 小崎成章

Orkland, Cal. U. S. A.

八月十日 * 内村鑑三

Gloucester, Mass., U. S. A.

八月二十二日 * 内村鑑三

Hyde Park, Mass., U. S. A.

八月二十四日 * 内村鑑三

Hyde Park, Mass., U. S. A.

八月三十一日 * 内村鑑三

Boston, Mass., U. S. A.

九月九日 * 内村鑑三

Amherst, Mass., U. S. A.

十月十九日 中島力造

New Haven, Conn., U. S. A.

十月二十三日 中島力造

New Haven, Conn., U. S. A.

十月二十八日 * 内村鑑三

Amherst, Mass., U. S. A.

逸月日 ***内村鑑三

Elwyn, Pa., U. S. A.

一八八六年(明治十九年)

五月一日 下村孝太郎

Worcester, Mass., U. S. A.

十二月二十八日 中島力造

New Haven, Conn., U. S. A.

一八八七年(明治二十年)

八月十二日 新島公義

一八八八年(明治二十一年)

一月二日 中島力造

New Haven, Conn., U. S. A.

一月五日 服部他介

二月七日	神田乃武	
二月二十九日	神田乃武	東京麹町区飯田町
四月十五日	下村孝太郎	
四月二十二日	中島力造	New Haven, Conn., U. S. A.
七月二十二日	下村孝太郎	
八月十三日	小谷野啓三	South Merremark N. H., U. S. A.
八月二十二日	家永豊吉	Choutaqua, N. Y., U. S. A.
八月二十二日	中島力造	New Preston, Conn., U. S. A.
九月十六日	下村孝太郎	New York, U. S. A.
十月十八日	家永豊吉	Baltimore, Pa., U. S. A.
十月十五日	内村鑑三	
十月二十日	* 内村鑑三	新潟北越学館
十一月十一日	下村孝太郎	Baltimore, Pa., U. S. A.
十一月二十五日	下村孝太郎	Baltimore, Pa., U. S. A.
十二月二十九日	森田久万人	Kyoto
十二月三十日	加藤勝弥	
一八八九年(明治二十二年)		
一月一日	下村孝太郎	Baltimore, Pa., U. S. A.

一月五日	甲賀ふじ	Combidgeport, Mass., U. S. A.
一月十九日	家永豊吉	Baltimore, Pa., U. S. A.
二月三日	下村孝太郎	Baltimore, Pa., U. S. A.
三月十九日	下村孝太郎	Baltimore, Pa., U. S. A.
五月十一日	下村孝太郎	Baltimore, Pa., U. S. A.
五月二十日	下村孝太郎	Baltimore, Pa., U. S. A.
六月十二日	家永豊吉	Baltimore, Pa., U. S. A.
八月十六日	下村孝太郎	Worcester, Mass., U. S. A.
八月二十六日	家永豊吉	Chautauqua, N. Y., U. S. A.
九月十二日	森田久万人	New Haven, Conn., U. S. A.
九月二十六日	下村孝太郎	東京
十月二十四日	不破唯次郎	Maebashi
十一月十日	森田久万人	New Haven, Conn., U. S. A.
年月日未詳	市原盛宏・森田久万人・下村孝太郎	

下村孝太郎

* 『内村鑑三全集 36』（書簡一）（岩波書店 一九八三）に収録されている。
 * 『内村鑑三全集 36』では、六月二十一日付と二十四日付（追書）を併記している。

***『内村鑑三全集 36』では六月五・六日としている。

(四) 書簡襲蔵の経緯

同志社に現在伝存する新島襄宛書簡(和文)の形態は、そのほとんどが原簡(自筆または代筆)であるが、原簡のガラス原板あるいは写真(複写)、その他写本という形で襲蔵されてきた。

来簡編の編集にあたって、従来渉猟のおよばなかった刊本、新聞、雑誌などに収載されている書簡も収めることにつとめた。

こうした同志社に襲蔵される新島襄宛書簡のなかで、渋沢栄一の新島襄に宛てた九通と徳富猪一郎の新島襄に宛てた三十二通は、新島襄宛書簡の総数からすれば決して高い比率を示すものではないが、新島襄宛書簡の全体の伝存の経緯・形態をうかがう上で、一つの特徴を示唆するものがあると思われる。

渋沢栄一書簡は240号書簡(明治二十一年(一八八八)五月十日付)、252号書簡(同年六月二十七日付)、253号書簡(同年六月二十八日付)、278号書簡(同年十月十一日付)、285号書簡(同年十月二十五日付)、342号書簡(同年十一月二十六日付)、455号書簡(明治二十二年(一八八九)二月八日付)、537号書簡(同年三月二十四日付)、684号書簡(同年八月十二日付)の九通である。

このうち240号書簡、252号書簡、253号書簡、278号書簡、285号書簡、342号書簡、455号書簡、537号書簡の八通は『渋沢栄一伝記資料 別巻第四 書簡二』(渋沢青淵記念財団龍門社、昭和四十二年)に収録され、その所蔵者については240号書簡、252号書簡、253号書簡、278号書簡、285号書簡、342号書簡の各通、都合六点の書簡は「広津旭氏所蔵」とするさ

れており、他の二通、455号書簡、537号書簡は「同志社所蔵」とある。『渋沢栄一伝記資料 別巻第四 書簡二』の「凡例」によると、「所蔵者は編纂当時（昭和七年—十一年）の記録によるものであって、現在の実体を示すものではない。戦禍に依る推移が予想されるが、編纂当時のままとした」としるされている。したがって、渋沢栄一書簡は、その多くが広津友信の遺族によって伝えられてきたことが知られる。この間の経緯を伝えているのは『改訂増補新島襄先生詳年譜』（森中章光編、学校法人同志社・同志社校友会発行、昭和三十四年発行）の「餘録」に収められている昭和十九年（一九四四）十一月十七日の次の記事である。

この日、芦屋市西蔵町在住の廣津友信未亡人初女より昭和七年六月新島八重夫人永眠いらい保管の新島先生関係資料日記及び先生あて書簡其他多数を一括して、新島先生伝記編纂委員兼幹事森中章光これを受取り、同志社の保管に移す。これにて最も重要な伝記資料整う。九月より交渉を重ねること数回に及ぶ。

これは新島襄宛書簡の正確な数量にまで及ぶものではないが、渋沢栄一書簡を含めて、新島襄宛書簡の多くが校友、その遺族の手によって伝存されてきた経緯を伝えている。

次に徳富猪一郎の新島襄宛書簡は168号書簡（明治二十年（一八八七）十一月三日付）、169号書簡（同年同月十九日付）、217号書簡（明治二十一年（一八八八）三月八日付）、228号書簡（同年三月二十二日付）、230号書簡（同年同月二十四日付）、232号書簡（同年四月二日付）、233号書簡（同年同月四日付）、242号書簡（同年五月九日付）、243号書簡（同年同月十四日付）、286号書簡（同年十月二十六日付）、291号書簡（同年同月二十九日付）、318号書簡（同年十一月十七日付）、345号書簡（同年同月二十七日付）、348号書簡（同年十二月二日付）、365号書簡（同年同月十二日付）、368号書簡（同年同月十六日付）、403号書簡（明治二十二年（一八八九）一月九日付）、417号書簡（同年同月十六日付）、500号書簡（同年三月二日付）、613号書簡（同年五月十六日付）、666号書簡（同年七月二十七日付）、721号書簡（同年九月十七

日付)、731号書簡(同年十月二日付)、773号書簡(同年十一月十六日付)、783号書簡(同年同月二十七日付)、787号書簡(同年同月二十八日付)、790号書簡(同年十二月一日付)、792号書簡(同年同月三日付)、803号書簡(同年「同月」十五日付)、833号書簡(明治二十三年(一八九〇)一月五日付)、880号書簡(年次未詳三月三十日付)、891号書簡(年次未詳十一月一日付)のすべて三十二通である。

このうち、365号書簡と731号書簡は原本であるが、他はすべて森中章光写の孔版、すなわち謄写版によるものである。したがって本巻に収める徳富猪一郎書簡のほとんどは原本に基づくものではなく、写本という形態であることが大きな伝存の特徴と云うことができる。

徳富猪一郎書簡の年次からすると、新島襄との間の書簡の往復は、かかる168号書簡(明治二十年(一八八七)十一月三日付)から833号書簡(明治二十三年(一八九〇)一月五日付)の期間にのみおこなわれたのではない。本全集第三巻、第四巻に収めた徳富猪一郎に宛てた新島襄書簡によると、明治十三年(一八八〇)には、88号書簡、87号書簡、88号書簡、90号書簡、91号書簡、92号書簡、94号書簡の七通で、うち90号書簡では「御着京後早々三君〔徳富猪一郎・河辺鮎太郎・湯浅吉郎〕より御安着の御報被下」、91号書簡では「先達而中より二回之御文」、92号書簡では「過日御授投之御書面」、94号書簡では「如斯華翰投与」と往復が認められる。明治十四年(一八八一)には、96号書簡、114号書簡、115号書簡の三通で、96号書簡には「去々月念十七付之貴書拜見」、114号書簡には「貴書并御当地刊行ノ新紙〔東肥新報〕数葉御恵投」、115号書簡には「過般御投与之貴書」と冒頭にしるして往復が確実に認められる。明治十五年(一八八二)には、119号書簡、124号書簡の二通であり、119号書簡には「先達中ハ貴書御投与」としるされている。明治十六年(一八八三)には、130号書簡、147号書簡の二通で、130号書簡は年賀状、147号書簡には「貴書老通并ニ御隣家御手製之服沙老箇御恵投」と認められている。明治十七年(一八八四)は該当書簡がなく、明治十八年(一八八五)

は219号書簡の一通のみであるが、この書簡も「〔新島が第二回の欧米旅行から京都に帰って〕直ニ御来書ニ接し」と見える。明治十九年（一八八六）は263号書簡、271号書簡、279号書簡の三通であるが、263号書簡は、「高知を経て東上する徳富が東垂水に新島を訪問」し、271号書簡は「大江義塾が閉塾され東上する途上、同志社に立寄る塾生」の動静と消息を伝えるものである。明治二十年（一八八七）は289号書簡、296号書簡の二通で、289号書簡は「早々貴翰を忝ウシ」とあり、296号書簡は「過日国民之友第壹号〔二月十五日発行〕御送付」とある。

したがって、第三巻・第四巻に収められているこの期間の徳富猪一郎宛の新島襄書簡は、すべて二十通、そのうち十四通は徳富猪一郎からの書簡に応答する形の書簡であることが知られる。しかし、これらの徳富猪一郎書簡の原本は一通も伝存していないばかりでなく、その写しも存在しないというきわめて不自然な状態であることが知られる。この時代は、同志社の揺籃期であるとともに、若い徳富猪一郎の立場から言えば、同志社学生、そして、『国民之友』を発刊するまでの離陸、台頭期にも相当するから、この欠落は、その史的究明を進める上で、きわめて大きな傷手といわなくてはならない。

『新島先生へ宛てたる徳富蘇峯翁書簡 三十一通 他に金森通倫氏宛のもの一通併録』と題する孔版の冊子（本文16丁）には、後に掲げるような「後記」（タイプ）が付されている。「後記」は「昭和二十〇年一月 同志社校友会 長 若松兎三郎」の刊記・識語があり、かつ田中良一の墨筆案文が補綴されている。書簡の伝存の経緯を知る上では、タイプの「後記」よりも、なお、輻湊した思念を伝えているので、これを引くこととする。

徳富蘇峯氏が新島先生ノ事業ヲ補翼シタルコトハ世ニ既ニ定評アリ 然レ共ソノ機微ニ至リテハ先生ト徳富氏ト
両心ノ他知ル者無シ 余深クコレヲ遺憾トシタリシガ偶成寶堂文庫中ニ徳富氏が新島先生ニ宛テタル書翰写本一

綴アルヲ知り　之ヲ借覽スルニ徳富氏ガ先生ニ致シタル衷情縷々文中ニ満チ読者ヲシテ感激セシムルコト多大ナ
リ豫テ余ガ遺憾トシタリシコトモ本稿披見ニヨリテ解消シタリ　^{セントス} 洵ニ是レ无壤間ノ秘稿歟　^{史ミ} 絶妙ノ同志社資料ナ
リ　茲ニ許諾ヲ得テ膳本ヲ作りテ有志ノ参考ニ資シ且ツハ資料ノ湮滅ヲ防ガントス　^{史ミ} 花押(田中印)

昭和二十〇年五月

同志社校友会長　若松兎三郎

この「後記」では、その時期を昭和二十一年以降のいつとするかは、定めがたいが、『新島先生書簡集』（昭和十七年六月一日発行　編纂者　森中章光、発行者　若松兎三郎、発行所　同志社校友会）を刊行し、爾後も史料の蒐集を進めてきた同志社校友会は、成實堂文庫に徳富猪一郎の新島襄に宛てた書簡の写本、一綴のあることを知り、蘇峰の許諾をえて膳本を作ることがおこなわれたことを伝えている。

筆者のお茶の水図書館における「旧成實堂文庫并竹柏園本」書目に関する「仮目録（昭和十六年六月二十三日成實堂文庫書目調査）」を筆写した記録によると、「合冊十三号」には次のような書き取りが見られる。

1348 横井小楠、長岡護美書簡
1360 徳富蘇峰書翰　一箱

- (一) 三十八通(実は三十九通)　明治20～23、新島襄宛
- (二) 三十七通(実は四十五通)　大正・昭和、長男多太雄宛
- (三) 一〇五通　広島日より、欧州家書
- (四) 八十五通　大正2年、一敬宛

(四) 四十六通 大正1・8・1・12、一敬宛

(以下略)

さきの「後記」にある「書翰写本一綴」とあるのは、「1360」の(一)に記載されている新島襄宛書簡と同じものとしてよいであろう。

同志社では、「天壤間ノ秘稿」とし、孔版で、その写本を作り、その謄写の過程で、森中章光氏による校合がなされて、これが伝来して今日に至ったわけである。しかして、その写本の収蔵は、さきの広津家に伝蔵されてきた新島襄宛書簡の同志社への移管より、さらにおくれた時期であったことが推定される。

これら渋沢栄一書簡、徳富猪一郎書簡のことから総合しても、同志社新島遺品庫の開庫にあたって、それは昭和十七年(一九四二)十一月二十八日のことであるが、その折、展示した史料は約六十点であったとされており、しかもそのうち多くが個人襲蔵の史料であったとされることも決して奇異のことではない。

なお、徳富猪一郎書簡はかかる史料の伝存の経緯を重んじて「森中章光写(孔版)」とした。

(五) 新島襄とその「系図」、「人脈」

新島襄宛書簡は、新島襄の品行・人格(キャラクター)に呼応し、あるいはこれに感応する各自の個性の発散・顕示である。

それは新島襄を核とする同心円的なひろがりを示すものであり、あるいは、二極による多数の楕円的というか長円の「世界」をそこに構成するものである。かかる点では、新島襄宛書簡の全面的な開示によって、従来の新島襄像の表裏というか、ないしは多面的、多角的な像の想定と、その構築を可能にする場をはじめて共有するようになったと

いえよう。

ここでは、新たな新島襄像にせまる方途を「系図」と「人脈」という二つにしばって試みることにする。ここにいう「系図」、「人脈」とは、同志社における、また組合教会、大きく言えば日本の基督教会における、それであることは言うまでもないが、「系図」は新島の同志社を継述する系譜・筋道をたどることにおいて、「人脈」は組合教会、とくに「教会合同」、「地方教会」にかかわる伝道にたずさわる人々をとりあげることとする。

「系図」にかかわって、新島襄の在世中に、その指名をうけたのは金森通倫である。新島の金森宛書簡に、「兎角多病ニ罷在其職務を難尽候付、今回社員評議之決議を経而七月一日より向一ケ年間、本社予備校、普通校、神学校三校々長之「名義ヲ以小生之」職務を全く貴殿へ御依頼申候間、此段御承引有之度」(第四卷67号書簡 明治二十二年〔六月〕とあるのがそれである。この依頼は五月三十日の社員会において決定をみていたもので、六月二十八日付徳富猪一郎宛にも、「後任者指定之義ハ遙かに小生に優りたるメンタマを具有し賜ふ貴兄之御意見に御任申置」と見え、追記には「同氏〔金森通倫〕カ弥後任者ト相成可申カハ自から別之問題ニ有之、此ノ一ケ年間之手ギワを篤と見届申度」(第四卷67号書簡)とある。

この金森通倫に宛てた新島襄書簡は、ことの経緯からも数多く発せられたと推定されるが、第三巻にはなく、第四巻に収載した金森通倫個人宛の書簡は、さきの67号書簡のほかは、『国民新聞』(635号・一八九二年一月二十三日)に「前欠」の形で掲載された「二十一年」四月二十九日付(第四巻所収追加8号)の一通しか存在しない。この事の不自然さは、痛恨を覚えることである。かつて、金森次郎氏にお伺いした折、「父はある日、新島先生の手紙を火中にした」ということを伺い、また「再び校門をふむまい」というお話も承った。「金森も一刀流」(第四卷68号書簡・明治二十二年七月二十一日)と見る新島の立場からする「継述」の難しさは、新島襄の死後においても、金森の

重い重い負荷であつたに相違ない。

明治二十二年五・六月を境とするそれまで金森通倫書簡のいくつかを摘記する。

先生に願上度儀御座候、^{〔ラ〕} ロルネッド氏之宅にまひり候処、先生が綱島君の為に御求めに相成り候書籍あまたまひり居り候、内に Harris Self Revelation of God と申す一書有之候、該書は私が只今甚懇望致す者にて是非頂戴致し度く候が如何に候や、私共学校にて第三期ニ自然神学と証拠論を神学生に教ゆる事に相成り候が、右之 Self Revelation of God は是等の為に最も必要な書にて只今読み度候間、何卒私に御譲り下され度候、綱島君の為には今より直きに再び米国に申しつかわすも別に妨なからんと存候、彼の書は夏休等遙か以前より、ロルネッド氏之宅にありし位なれば、同君の為に今差当りて必要と申す訳にも無之候間、彼ノ書は小生に御譲り下され度願上候、而して同君の為に別^ニに今より申しつかわしては如何、此事を至急に御返書願上候〔下略〕（266号書簡・明治二十一年九月十八日付 傍点引用者、以下同じ）

〔前略〕学校の事は先づ宜き方と存候、私は此期は少しも教授を致さず全く社務に尽力致しをり申候、末筆ながら奥様に宜しく、又太郎よりは先生并に奥様へもキスヲ一チヨ可進呈仕候間、御受納下され度〔下略〕（269号書簡・明治二十一年九月二十七日付）

扱て又此ニ一大切迫之要件と申すは別儀ニ非ず、彼之弘法も人なり、吾も人なり、同じ五本之指さへあればなでふ彼之人ニ劣るべきと拔山之勇義を鼓舞して書出したる此書翰も矢張りみゝず之曲りに異ならず、此ニ至て小生之失望落胆殆其機度ニ達し申候間、昨日御懇請申上置候御手本之儀至急御恵与被下度願上候、素より三十（七十二、非ず）之手習、迎も名家となる之望は更無之候へ共、先つ一通り世間普通之文字さへ出来候へば夫に

て満足可仕候間、何卒御憐察被下度候〔下略〕（446号書簡・明治二十二年二月四日付）

ここには、まさに呼吸のあった、新島に対して金森の気性、氣質の溢れる姿を見ることが出来る。浮田和民書簡（419号書簡・明治二十二年一月十七日付）には、金森のことに心を配りながら、「今日小生同級生にして同志社にある者の中、真に力量あるハ金森ニ相違御坐なく」とし、金森は彼で、呐喊し、突進してやまなかった姿を「大阪府内同志社大学賛成者」（473号書簡・明治二十二年二月十七日付）に付した△や○のしるしによって伝えている。

「人脈」の構図は、さきに述べたように新島襄を中心として同心円的であり、あるいは数多くの楕円（長円）を新島襄を圈極として形成する「世界」である。

その「世界」は書簡の数量だけで、そこに形成される「世界」の役割・意味を定めることを慎むべきではあるけれども、従来の新島の発するシグナルだけで律して来た「世界」は、改められ、純化・拡大したと言つてよい。

「教会合同」にかかわる問題は、その運動に尖兵的に尽瘁する人見一太郎、竹越與三郎、花島健起、大久保真二郎らの消息に、従来の教会合同問題とは異なる、新島の指示する新しい面を浮き彫りにしている。さらに注目すべきことは市原盛宏の次の意見であろう。それは明治二十一年十二月十三日付（366号書簡）の書簡である。

市原は次のように述べている。

今回之事件に付き慎んで先生之御処置を拝察するに、所謂千慮の一失、先生にハ御氣付無きにやと憂慮仕候へ共、畢竟小生之暗愚たる未ダ先生之御深意を了解し得ざる故ならんと存候間、予メ御叱正を願置候儀は他にあらず〔中略〕兎ニ角今回頂戴致候貴書中にも、頗ル伊勢輩を御攻撃被成、先日大坂総会之節、海老名列に御遣被成候書の如きハ極メて激烈なるものに被思申候、固より彼等限に御遣被成候事なれば何仔細も無之候へ共、

彼貴書をバ会衆の前に朗読すべしと御申越（後刻御取消にハ相成候へ共）被成候に至てハ小生如何にも先生之御趣意を了解仕兼候〔中略〕先生にして彼様なる事を衆人に対して御吹聴被成候曉にハ此まで先生の股肱として働来り組合教会中先輩として仰募せられたる彼委員諸氏ハ遂に其適當なる勢力名望をも失ふに至らん、是れ或ハ忍ぶべきも、若し教会内に從來未曾有之波瀾を生じ先進後進の間に軋轢を起すに至りてハ実に由々しき大事にして、是程忌ま／＼しき事ハあるまじと存申候、先生之御精神ハ了解仕候へ共、其実施法ニ至テハ小生甚疑惑仕居候、右之条々ハ付しモ非常之大事と存候儘、尊威を憚らず愚衷之程服藏なく申上候〔下略〕

この市原盛宏の姿勢は、年を越して小崎弘道の書簡（621号書簡・明治二十二年六月六日付）にも爆発的に開陳される。

「地方教会」にかかわることで、新生面をうかがうことのできるのは、不破唯次郎と杉山重義、茂木平三郎の書簡による上毛教会の動向といえよう。上毛にそつて、大宮に力をそそぐ大久保真二郎のうごき、そして、下野の中山光五郎、越後の時岡恵吉など、「地のさゝめごと」は大事な日本の黎明の苦悩を伝えている。

本巻には収載したすべての発信人名を索引に掲げ、新島襄書簡との連関・呼応する形態を明らかにすることにつとめ、当年代の発信人の「生」の声を明確化することを期することとした。

なお次の人々は第三巻、第四巻では「花畑・健起」、「目賀・田護法」、「竹越・与三郎」としているが、本人の表記に基づき「花嶋・健起」、「目加・田護法」、「竹越・與三郎」とした。

（杉井六郎）

上原権太郎 247・③433(593)

植木枝盛 379

植栗義達 23

植村保雄 727

上野栄三郎 514・④597(69)

上野松治郎 195

鵜飼吉治 522, 528

浮田和民 419, 439, 853

宇野保太郎 546

潮田千勢 575

内海忠勝 25

W

和田彦次郎 396

渡辺洪基 358

Y

矢口信太郎 72

山鹿旗之進 672

山路一三 72, 488, 521, 667, 694

山本覚馬 87

山中 百 341, 442, 476, 483, 501, 540,
646, 736・④725(218)

山岡邦三郎 192

大和 博 498, 612・④654(140)

山崎新太郎 80, 91, 99, 107, 109, 110・

③243(397), 117, 120, 130, 135, 138,
145, 147

柳島 誠 35, 36

柳瀬春二郎 663

矢野文雄 259

矢野万助 663

矢野七三郎 663

安田勘次 72

安永 稔 404, 464

矢崎鎮四郎 771

横田安止 749・④735(226), 774・④752
(245), 779, 840・④788(305)

依光方成 72

吉田清太郎 447, 556, 691・④704(198),
706・④704(198)

吉田恒久 472

芳松勝三郎 72

吉富簡一 355

湯浅一郎 72

湯浅治郎 61, 222・③377(534), 453,
485

湯浅吉郎 248

578(45), 496・④590(60), 532, 590,
634, 643, 686, 794, 823, 858

住友吉左衛門 785

隅谷己三郎 536

鈴木彦馬 392, 413

鈴木 清 535, 595, 605, 611, 631, 635,
682, 747

鈴木左馬二郎 72

鈴木 梅 676

T

橘 仁 188

多賀 平 72

田口卯吉 586

田尻東一郎 548

高田義助 246

高橋 優 254

財部 羌 477

財部 節 630

竹越與三郎 284, 308, 316・③501(672)

田中不二麿 18, 19, 20, 27, 28, 29, 32,
34, 41, 881

田中源太郎 63・③145(245), ③146
(246), 67, 839

田中賢道 322, 637・④668(157), 713・
④711(205), ④712(206), 748・④
718(211)

時岡恵吉 763, 781, 782, 786, 799・④
770(268), 804・④770(268), 810,
826・④816(352)

徳田利彦 884

徳富 久 652

徳富猪一郎 168・③334(486), 169・③
412(567), 217・③341(493), 228・③
388(543), 230, 232・③392(547),
233・③392(547), 242・③412(567),

243・③417(575), 286・③491(661),
291, 318・③506(678), 345・③513
(687), 348・③510(682), 365, 368・
③538(724), 403, 417・④564(27),
500・④596(66), 613・④642(125),
④643(127), ④644(129), 666・④
686(177), 721, 731・④715(208),
773・④746(239), ④747(240), 783・
④755(249), ④757(252), 787・④
763(259), 790, 792, 803, 833, 880,
891

徳富一敬 651

徳富健次郎 172

留岡幸助 254

富永冬樹 349

富田元資 254

富田鉄之助 60・③134(233), 98, 101,
105, 108, 111, 113, 119, 121, 123,
124, 125, 129, 131, 132, 134, 136,
140, 141, 143, 144, 146, 150, 154,
162, 221, 400, 664, 743, 873

外山脩造 62

豊田通憲 72

津田治郎次 72

津田元親 416

津田 仙 37, 38, 42, 46

辻 籌夫 85

辻 孝次郎 738

辻 密太郎 151

綱島(綱嶋)佳吉 541, 557, 622, 746

鶴田三郎 298, 536, 644

堤 門喜 255

U

内村鑑三 95

上田周太郎 719

大久保音羽 163※, 670※
 大久保七熊 409
 大久保真二郎(真次郎) 160, 163・③
 309(462), 165・③ 309(463), 326,
 331, 336, 337, 340, 397, 570, 659,
 662, 670, 689, 711, 714, 717, 724,
 757, 780, 801, 825, 842, 856, 860,
 864
 大隈重信 243※
 大倉組 104※
 大三輪長兵衛 673
 大村 務 681
 大西 祝 55
 小野英二郎 71, 766, 798, 838
 大野侗吉 609
 小野 忍 85
 長田時行 225, 289・③ 493(663), 354,
 568
 大迫真之 290, 303
 大沢善助 186, 398, 427※, 431, 456※,
 465※
 押川方義 415
 大島正健 327・③ 523(700)
 大塚 磨 566, 739

R

靈南坂東京第一基督教会 644※

S

三枝光太郎 544, 672
 齋藤壬生雄 742
 齋藤知行 423
 坂本十三也 741
 阪田忠二郎 254
 坂田丈平 166
 桜田静馬 76

佐々城豊寿 575, 599
 佐藤忠順 72
 佐藤源平 72
 沢 茂吉 198
 瀬川 浅 44, 45
 関 農夫雄 654
 尺 振八 149
 瀬尾武雄 709
 柴原宗介 100, 338, 410, 471, 508, 571,
 675, 821, 870, 894
 渋沢栄一 240, 252, 253, 278, 285, 342,
 455・④ 584(53), 537・④ 584(53), ④
 605(79), 684
 志垣要三 72, 648, 655, 671, 678
 志方之善 768
 島田錫吉 536
 清水泰次郎 718
 清水瀧次郎 879
 下 辰六 255
 下村 房 370, 469, 623, 889
 下村孝太郎 89, 104
 篠田熊次郎 255
 篠田昌武 756, 809, 855
 塩井健太郎 705
 塩見孝次郎 254
 新保虎之助 54
 白石村治 487・④ 578(45), 533・④ 610
 (86), 555・④ 610(86), 814・④ 779
 (284)
 白木正蔵 72
 須田明忠 85, 265, 332・③ 500(671)
 末吉保造 75
 杉田定一 171
 杉田 潮 187, 364, 858
 杉浦義一 90, 196
 杉山重義 333, 384, 385, 389, 481・④

峯 彦郎 600
 三嶋弥太郎 425
 三谷種吉 72
 宮川富二郎 85
 三輪振次郎 629
 宮川経輝 227, 280, 378, 378※, 621,
 735, 770, 800, 847
 宮口二郎 625・④665(153)
 宮嶋正子 313※
 三宅荒穀 737
 三好退蔵 241, 251, 256, 271, 325
 望月興三郎 72, 210, 237, 287
 茂木平三郎 452, 511, 594, 726
 森 有礼 17
 森 信夫 829・④783(297)
 森 為国 467
 森 良雄 255
 森田武左衛門 505, 506, 542, 545
 森田久万人 73, 444, 497, 871
 元良勇次郎 592
 村上 定 587
 村上俊吉 353
 村上能定 72
 村田栄二郎 72
 無名居士 357
 陸奥宗光 65, 168※, 244, 258

N

長浜教会執事 863
 永井 元 277
 長松 幹 49, 50, 51, 52, 53
 永岡喜八 470・④580(50), 480・④587
 (57), ④588(58), 565, 699
 長屋忠明 549
 内藤兼備 175
 中川横太郎 40

中島幸三郎 583
 中島信行 414
 中島末治 178, 296
 中村栄助 127, 382, 495, 507・④597
 (69), 574, 601・④630(112), ④631
 (113), 704, 876
 中村衡平 387
 中村缸造 199, 525, 589
 中村正直 47, 48
 中村録三郎 72
 中尾庄太郎 855※
 中山甚之助 395, 482
 中山光五郎 254, 408・④555(15), 458・
 ④569(33), 512・④599(72), 584・④
 627(110), 632・④670(160), 640・④
 670(160), 789・④756(251), 802
 成瀬仁蔵 177
 奈須義質 273・③488(654), 369, 390,
 437, 461, 778
 縄田清太郎 72
 新野 稔 835
 西 毅一 43, 883
 西村栄治 729
 西邨保吉 197
 野尻岩次郎 181

O

大江頼之助 740
 大儀見元一郎 88・③200(343), 92
 尾越蕃輔 58
 岡部 広 156, 157, 158, 159, 173, 185,
 194, 618
 岡部長職 39
 岡田松生 441, 486
 岡本彦八郎 72
 岡崎高厚 581

川西光三郎 550・④612(89)
 川崎正蔵 564
 木場貞長 133
 木戸孝允 24, 26, 31
 菊池純二郎 572
 菊池侃二 393, 639
 木全正脩 449
 木村熊二 890
 木村鎮太 679・④698(191), 698・④698
 (191), 716, 722
 木村祐吉 313
 木下金太郎 85
 北垣国道 139, 260, 479・④572(39),
 547, 610・④645(130), 620・④655
 (141)
 北里義正 866
 児玉仲児 377, 588・④647(132)
 R・コ- 16
 古賀鶴次郎 328, 474, 753・④740(232)
 高野重三 440
 小板橋信二郎 658
 児島(児嶋)惟謙 515※, 523, 534, 685
 古木寅三郎 577
 小北寅之助 834
 小崎弘道 59, 78, 83・③197(334), 84・
 ③198(338), 93, 102, 114, 115, 118,
 182, 189・③365(517), 281, 315, 360・
 ③540(728), 430, 598, 624・④659
 (147), 626・④663(151), ④666
 (154), 707, 799※, 849, 854
 蔵原惟郭(蘇獄) 86・③202(347), ③
 203(349), 96
 蔵原惟元 116
 黒田 耕 387
 黒木文平 730
 黒木米吉 255

日下義雄 361
 朽木兼三郎 602※
 葛岡龍吉 72

M

牧野仲頤 148, 152
 丸山福治 321
 増野悦興 262
 増田尚平 663, 827
 益田 孝 438
 増田時二郎 72
 松田順平 844, 852
 松平容大 209
 松平容保 451
 松平正直 167
 松原藤兵衛 709
 松倉 恂 119※, 121※, 142
 松本勘十郎 176, 191, 279, 728, 791,
 841・④798(318)
 松本誠直 581
 松本亦太郎 72
 松村介石 627, 703, 733, 754
 松村四朗 223
 松波仁一郎 725
 松尾音治郎(音二郎)(音次郎) 339,
 407・④548(6), 692・④700(193), ④
 702(196), 712・④708(203), 807・④
 785(299), 828・④785(299), 846・④
 802(324), 868
 松浦政泰 72, 257
 松山高吉 79・③183(315), ③184(318),
 ③185(319), 82・③183(315), ③184
 (318), ③185(319), 94, 122, 126,
 128, 677
 目加田護法 524・④602(76), 633, 638
 三木正起 214, 245

765, 769, 772・④759(255), 796・④
767(263), 797・④767(263), 808・④
774(275), ④782(290), 813, 818・④
803(326)

人見一太郎 272, 275, 276, 282, 301,
310

本城安太郎 343・③463(628), ③464
(629), ③468(634), 351, 374, 405,
432, 492, 518, 604, 693

堀 貞一 137, 153・③272(426), 305,
312

星野光多 206, 734

I

伊庭貞剛 462

井深梶之助 302・③503(674), 306・③
503(674), 597

市原盛宏 68, 74, 155, 161, 174, 203,
366, 603, 669

飯田 保(逸之助) 1

井尻亀太郎 211

池袋清風 69, 85, 888

池本吉治 307, 335, 360・③540(728)

今村謙吉 896

井上 馨 267, 270, 578・④617(96)

井上清二郎 72

伊勢時雄 77・③183(315), 81, 170, 184,
207, 362, 399, 412・④551(9), 445,
459・④563(26), 567, 647・④707
(201), 745・④707(201), 795

石黒 務 234, 554

五十田勇治郎 758, 867

磯貝由太郎 645

板垣退助 886

伊藤博文 64

伊東熊夫 231

岩崎弥之助 263, 264, 268, 274, 375

岩田徳義 212

K

加賀山益三郎 72

梶原保人 715

亀山 昇 882

金森通倫 213, 218, 219, 220, 226, 266,
269, 317, 347, 380, 394, 402, 406,
420, 421, 422, 426, 427, 428, 434,
436, 446, 448, 450, 454, 456, 460,
465, 473, 484, 490, 493, 494, 503,
513, 515, 516, 519, 530, 539, 543,
552, 558, 559, 562, 563, 569, 576,
701, 759, 761, 767, 775, 777, 788,
806, 872, 874, 875, 897

金森小壽(留守) 435, 519

金谷 充 371, 491, 504, 582, 887, 892

兼子常五郎 210, 387, 463

兼頭和策 72

片桐鱗太郎 254

片桐清治 457・④586(55)

加藤 壽(寿) 85, 466, 475

加藤勝弥 320・③487(653), 376, 388,
391, 411, 733

加藤勇次郎 381, 429, 619

勝 安芳 261・③463(628)

河辺文次郎 72

川田壺江(剛) 13, 21

河井 淡 869

川上八三郎 201, 607

川本政之助 602・④638(121)

川本泰年 283, 288, 344, 606・④641
(124), 893

河波荒次郎 433・④571(37), 531, 859・
④810(342)

B

馬場種太郎 85, 324・③535(718), 695
伴 直之助 586, 650・④682(172), 755

C

千木良昌庵 22・③53(126)

D

J・D・デイヴィス 448※
同志社生徒某 112
同志社予備学部生徒中 294
同志社予備校生徒委員 628

E

海老名一郎 72
海老名喜三郎(弾正) 57, 334・③512
(684), 538・④600(74), ④608(83),
585・④629(111), 616・④650(136)
江浪亀四郎 254
遠藤能定 836

F

藤田伝三郎 661
藤田国松 254
藤原直信 300, 309, 443
深沢利重 654, 690
福岡文太郎 255
福士成豊 30, 33, 164・③306(459), ③
307(460), 179, 204, 224, 832
船本梅二郎 72
古沢 滋 66
古荘三郎 295・③497(668), 297, 299,
304, 311
伏見 通 877
不破唯次郎 180, 183, 190, 200, 229,

363, 401, 489・④578(45), ④593
(63), 509・④593(63), 529, 551・④
620(102), 561, 573・④620(102),
608, 641, 642, 649・④683(173), 653,
657・④683(173), 660, 665・④683
(173), 674, 696, 708, 710, 720, 723,
732, 751, 764, 811・④778(279), 812,
815, 819, 848, 857, 858
不破 雄 850

G

後藤源久郎 654, 690
後藤象二郎 359

H

浜岡光哲 56, 820, 885
花島健起 373, 553, 614, 615・④649
(135), ④651(137)
半田平次郎 837
半田宇平次 97・③220(372), 103・③
220(372), ③226(378)
半谷高晴 527
原 権四郎 70
原 六郎 216, 238, 239, 249, 314, 455※
原 忠美 596, 822・④806(334), 851・
④814(349), 865・④814(349)
原 胤昭 845
原田正之助 579
原田 助 208, 319
平岩愼保 862
広瀬源三郎 680・④697(190), 697, 744,
793
広瀬宰平 593
広津友吉(友信) 386, 502, 510, 517,
617・④649(135), ④651(137), 668・
④699(192), 750, 752・④730(222),

索引

- (1)この索引は、本全集第九巻来簡編に収めた書簡の発信人別をアルファベット順に配列し、その書簡番号を示し、新島家の人びとを別立てとして掲げた。
- (2)本文中の書簡の見出しは、発信人名を省略した形で示したが、目次に示したように、多数の連名、連記の形態をとった書簡があり、これらの書簡はすべて連記している人名のすべてを発信人として、その書簡番号を掲げた。
- (3)書簡番号の末尾に付されている※印は、当該書簡に同封される関連書簡、別紙（案内状を含む）等の形態で存在するもので、本来の発信人以外の書簡が封入されていることを示すものである。この索引においては、その発信人名を掲げ、独立した書簡に準じた取扱いを示した。
- (4)書簡番号に付随して、イタリック体で示した数字は、本全集第三巻③、第四巻④に収めている新島襄書簡番号ならびに所収ページ（はじめ）数で、呼応し、関連する形の顕著のものをあげた。

新島家

新島民治 3・③17(31), 5・③17(31), 8・
③19(39), ③20(42), ③21(47), ③
22(51), ③23(55), 9, 12・③30(80),
14, 15
新島登美 7
新島八重 580, 776, 816, 861
新島双六 2・③17(31), 10・③24(59),
③25(63), ③26(68)
新島美代 4・③17(31), 6
新島(新嶋)公義(三峯逸人) 193, 205・
③372(529), 215・③372(529), 235・
③396(550), 329, 330, 383・③359
(512), 418・④552(10), 468・④592
(62), 520, 526, 683, 687, 700, 760,
805・④768(264), 817・④786(300),
830, 831・④794(314)

A

安部磯雄 323, 352, 372
阿部政恒(政雄) 254, 289・③493(663),
292・③497(668), 293・③497(668),
346・③504(677), 350
足立 琢 85
青木周蔵 250, 895
青柳新米 843・④808(337)
青山長祐 878
新井 毫 202, 236, 367・③515(689),
424, 591・④619(100), 762, 784・④
765(261)
新井左壽計 636, 702
有吉 渉 356
栗津(安食)銈次郎 11・③28(75)
東 正義 824・④780(287)
安住百太郎 656, 688

新島襄全集編集委員

委員長

同志社前総長・理事長

同志社総長

委員

同志社大学名誉教授

同志社大学文学部名誉教授

同志社大学文学部名誉教授

同志社大学前工学部教授

同志社大学人文科学研究所
名誉教授

同志社本部庶務部長

同志社社史資料室室長

上野直蔵(永眠)

松山義則

高橋虔(永眠)

オーテス・ケリー

北垣宗治

島尾永康

杉井六郎

木村健二

河野仁昭

新島襄全集9 ■ 来簡編下

1994年9月25日

初版第一刷印刷

1994年10月1日

初版第一刷発行

編集者——新島襄全集編集委員会

発行者——今田 達

発行所——株式会社同朋舎出版

〒604京都市中京区新町通四条上ル小結棚町428

電話075—212—5900

東京支社 〒101東京都千代田区神田駿河台2—11—1

電話03—3292—2021

振替京都5—22982

印刷——株式会社図書印刷同朋舎
製本——大日本製本紙工株式会社

ISBN4-8104-1200-8 C0321

*THE COMPLETE WORKS
OF
JOSEPH HARDY NEESIMA*

9
Part 2

Letters Received by Neesima

DOHOSHA
1994
KYOTO•JAPAN

生明子伏一廿一

人 坡 二

(M. C. Leavitt.
Selling 1 x 11 Roman
Temp. univ.)

Sept. 1856.

押所通車甲

市上為元

五丁二至先

永為組

柿木丁

柿本果

大之保三

西、旧院凡

〇、新、唐、

同志社大学学術情報センター



9410058216